基本計画書

	基		本			計		E	EÍ		
事	項		記		入		ħ	闌		備	考
計	画の区分	学部の学科の影	光置								
フ		ガッコウホウジン									
設		学校法人		大 学							
フ大		メイジョウダイス 名 城 大 学	10								
<u> </u>	学本部の位置	愛知県名古屋市	· 丁天白区塩釜	<u> </u>	5 0 1 番地						
大	学の目的	本大学は、教育 育研究を行い、合 するとともに学術	わせて広汎	しな教養を増	らい、創造的	な知性と豊					
新	設学部等の目的	既存の材料機能 で、物質科学(物 度な成果を挙げる グローバルな人材)質工学) 分 ·他、両分野	}野を牽引し 予による相互	ノ、教育・研 L作用により	究を発展さ	せ、個々の研	研究分野の深	紀を進め、高		
ter	新設学部等の名称		編入学 定 員	収容 定員	学位	学位の分	野 開設時 び開設		所在地		
新設学部等	理工学部	年人	年次人	人				手 月 年次			
ずの概要	化学・物質学科	4 150	-	600 学 600	士(工学)	工学関係 理学関係		^{∓4月} ┃ 白区	県名古屋市天 塩釜口一丁目 501番地		
	計	理工学部		000							
変 (一設置者内における 更 状 況 定員の移行, 称の変更等)	材料機能工学科 応用化学科(廃 ※令和8年4月学 情報工学研究科 情報工学研究科 理工学研究科 情報工学専攻(※令和8年4月学	(△ ′(左募集停止(45) (4(廃止) (2	70)	出予定)						
教育	新設学部等の名称			る授業科目				卒業要件員			
課程		講義 123科目	演習	5科目 5科目	験・実習 18科目	計 166	3科目	1 2/2211	124単位		
	11.于:初貝子付	123行日	۷.	347 日	基幹教員	100	747 [7]		基幹教員以外の教		
	学部等の名称	Ŕ	教授	准教授	講師	助教	計	助手	員 (助手を除く)		
新	理工学部 化学・物質等	学科	人 9 (9)	人 9 (9)	人 0 (0)	人 1 (1)	人 19 (19)	人 0 (0)	人 136 (136)		
	a. 基幹教員のうち, 専ら当該 する者であって, 主要授業		9 (9)	9 (9)	0 (0)	1 (1)	19 (19)	\	\	大学設置 表第一イ る基幹教	に定め
	b. 基幹教員のうち, 専ら当該		0	0	0	0	0	 	\	の基幹教 四分の三 人	
	する者であって,年間8単 するもの (aに該当する者		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	\	\		
	小計 (a ~ b)		9	9	0	1	19	\	\		
設	c. 基幹教員のうち, 専ら当談	技大学の教育研究に従事す	(9)	(9)	(0)	(1)	(19)	\	\		
	る者であって, 年間8単位 るもの (a 又は b に該当す	区以上の授業科目を担当す	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	\	\		
	d. 基幹教員のうち, 専ら当該 る者以外の者又は当該大学		0	0	0	0	0	\	\		
	つ専ら当該大学の複数の今 る者であって、年間8単位 するもの(a, b又はcに	語等で教育研究に従事す 区以上の授業科目を担当	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	\			
	∰† (a ~ d)		9	9 (9)	0 (0)	1 (1)	19 (19)	\	/		
分	計		9	9	0	1	19	0			
	П		(9)	(9)	(0)	(1)	(19)	(0)	(-1)		

既	法	学部 法学科	29 (29)	15 (15)	0 (0)	2 (2)	46 (46)	0 (0)	109 (109)	
		a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	7	0	0	0	7	\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	(103)	大学設置基準別 表第一イに定め
		b. 基幹教員のうち, 専ら当該学部等の教育研究に従事	(7) 22	(0) 15	(0)	(0)	(7) 39	\	\	る基幹教員数の 四分の三の数 15人
		する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの (aに該当する者を除く)	(22)	(15)	(0)	(2)	(39)	\	\	
		小計 (a ~ b)	29 (29)	15 (15)	0 (0)	2 (2)	46 (46)		\	
		c. 基幹教員のうち, 専ら当該大学の教育研究に従事す	0	0	0	0	0	1 \	\	
		る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	\	\	
		d. 基幹教員のうち,専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し,か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す	0	0	0	0	0			
		る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(a, b又はcに該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	 \	\	
		計 (a~d)	29 (29)	15 (15)	0 (0)	2 (2)	46 (46)	\	\	
	奴又	営学部 経営学科	9	4	0	1	14	0	109	
	胜	各子司 准备子件 	(9)	(4)	(0)	(1)	(14)	(0)	(109)	大学設置基準別
		a. 基幹教員のうち, 専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって, 主要授業科目を担当するもの	9 (9)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	14 (14)	Λ	\	表第一イに定め る基幹教員数の
		b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当	0	0	0	0	0	\	\	四分の三の数 9 人
		するもの(aに該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	\	\	
		小計 (a ~ b)	9 (9)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	14 (14)		\	
設		c. 基幹教員のうち, 専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって, 年間8単位以上の授業科目を担当す	0	0	0	0	0		\	
		るもの(a 又は b に該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	\	\	
		d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す	0	0	0	0	0			
		る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(a, b又はcに該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	 \	\	
		라 (a ~ d)	9 (9)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	14 (14)	\	\	
	経	営学部 国際経営学科	10 (10)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	98 (98)	
		a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事	10	2	0	0	12	()	(00)	大学設置基準別 表第一イに定め
		する者であって,主要授業科目を担当するもの b. 基幹教員のうち,専ら当該学部等の教育研究に従事	(10)	(2)	(0)	(0)	(12)	\	\	る基幹教員数の 四分の三の数 8
		する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(aに該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	\	\	,
		小計 (a~b)	10 (10)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	12 (12)		\	
		c. 基幹教員のうち, 専ら当該大学の教育研究に従事す	0	0	0	0	0	\	\	
		る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a 又は b に該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	\	\	
		d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す	0	0	0	0	0			
		る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(a, b又はcに該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	\	\	
分		計 (a~d)	10 (10)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	\	\	

既	経	済学部 経済学科	9 (9)	6 (6)	0	0 (0)	15 (15)	0 (0)	129 (129)	
, -		a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	9	6	0	0	15	(0)	(129)	大学設置基準別 表第一イに定め
		りる有じめつく、 土安牧来付日を担当りるもの b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事	(9)	(6)	(0)	(0)	(15)	\	\	る基幹教員数の 四分の三の数 9 人
		する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(aに該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	\	\	^
		小計 (a ~ b)	9	6	0	0	15	\	\	
			(9)	(6)	(0)	(0)	(15)	\	\	
		c. 基幹教員のうち, 専ら当該大学の教育研究に従事する者であって, 年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a 又はbに該当する者を除く)	0	0	0	0	0	\	\	
		○ 500 (a 又は b に成当する d を称く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	\	\	
		d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か	0	0	0	0	0	\	\	
		つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a, b又はcに該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)			
		計 (a~d)	9	6	0	0	15	 \	. \	
	-		(9) 6	(6) 5	(0)	(0)	(15) 12	0	128	
	経	済学部 産業社会学科	(6)	(5)	(0)	(1)	(12)	(0)	(128)	
		a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 (6)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	12 (12)	\setminus	\	大学設置基準別 表第一イに定め る基幹教員数の
		b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当	0	0	0	0	0	\	\	四分の三の数 8 人
		するもの(aに該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	\	\	
⇒ n.		小計 (a ~ b)	6 (6)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	12 (12)		\	
設		c. 基幹教員のうち, 専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって, 年間8単位以上の授業科目を担当す	0	0	0	0	0		\	
		るもの(a又はbに該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	\	\	
		d. 基幹教員のうち, 専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し, かっ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す	0	0	0	0	0			
		る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(a, b又はcに該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	\	\	
		計 (a ~ d)	6 (6)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	12 (12)	\	\	
	理	工学部 数学科	8	9	0	2	19	0	97	
	_		(8)	(9)	(0)	(2)	(19) 19	(0)	(97)	大学設置基準別
		a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	(8)	(9)	(0)	(2)	(19)	 		表第一イに定める基幹教員数の
		b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当	0	0	0	0	0	\	\	四分の三の数 11人
		するもの(aに該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	\	\	
		小計 (a ~ b)	8 (8)	9 (9)	0 (0)	2 (2)	19 (19)		\	
		c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す	0	0	0	0	0	 \	\	
		る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	\	\	
		d. 基幹教員のうち, 専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し, かっ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す	0	0	0	0	0	\		
		る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(a, b又はcに該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	\	\	
分		計 (a ~ d)	8 (8)	9 (9)	0 (0)	2 (2)	19 (19)	\	\	

		W.W	15	4	0	0	19	0	68	1
既	理工学部 電気電	子工学科	(15)	(4)	(0)	(0)	(19)	(0)	(68)	
		専ら当該学部等の教育研究に従事 主要授業科目を担当するもの	15 (15)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	19 (19)	\	\	大学設置基準別 表第一イに定め る基幹教員数の
		専ら当該学部等の教育研究に従事	0	0	0	0	0	1\	\	四分の三の数 9 人
	する者であって、 するもの(aに該	年間8単位以上の授業科目を担当 当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	\	\	
	小計 (a ~ b)		15	4	0	0	19	1 \	\	
	-7 µ1 (α Β)		(15)	(4)	(0)	(0)	(19)	\	\	
		専ら当該大学の教育研究に従事す 間8単位以上の授業科目を担当す	0	0	0	0	0	\	\	
		に該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	\	\	
	る者以外の者又は	専ら当該大学の教育研究に従事す 当該大学の教育研究に従事し,か 複数の学部等で教育研究に従事す	0	0	0	0	0			
	る者であって、年	間8単位以上の授業科目を担当 又はcに該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	\	\	
	計 (a ~ d)		15	4	0	0	19	1 \	\	
	ni (a a)		(15)	(4)	(0)	(0)	(19)	\	\	
	理工学部 機械工	学科	11 (11)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	76 (76)	
	。 其齢数量のさた	専ら当該学部等の教育研究に従事	11	4	0	0	15	(0)	(70)	大学設置基準別
		主要授業科目を担当するもの	(11)	(4)	(0)	(0)	(15)	 \	\	表第一イに定め る基幹教員数の
		専ら当該学部等の教育研究に従事	0	0	0	0	0	1 \		四分の三の数 8 人
	する者であって、 するもの(a に該	年間8単位以上の授業科目を担当 当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	\	\	
	小計 (a∼b)		11	4	0	0	15	1 \	\	
設	71.81 (g - D)		(11)	(4)	(0)	(0)	(15)	\	\	
以		専ら当該大学の教育研究に従事す 間8単位以上の授業科目を担当す	0	0	0	0	0	\	\	
		に該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	l \	\	
	る者以外の者又は	専ら当該大学の教育研究に従事す 当該大学の教育研究に従事し,か 複数の学部等で教育研究に従事し	0	0	0	0	0			
	る者であって、年	間8単位以上の授業科目を担当 又はcに該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	\	\	
	計 (a~d)		11	4	0	0	15	1 \	l \	
	ni (a a)		(11)	(4)	(0)	(0)	(15)	\	\ \	
	理工学部 交通機	械工学科	6 (6)	6 (6)	0 (0)	1 (1)	13 (13)	0 (0)	67 (67)	
	。 其齢数員のうち	専ら当該学部等の教育研究に従事	6	6	0	1	13	(0)	(01)	大学設置基準別
		主要授業科目を担当するもの	(6)	(6)	(0)	(1)	(13)	 \	\	表第一イに定め る基幹教員数の
		専ら当該学部等の教育研究に従事	0	0	0	0	0	1 \	1 \	四分の三の数 7 人
	する者であって、 するもの(a に該	年間8単位以上の授業科目を担当 当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	\	\	
	小計 (a~b)		6	6	0	1	13	1 \	\	
	71.81 (g - D)		(6)	(6)	(0)	(1)	(13)	\	1 \	
		専ら当該大学の教育研究に従事す 間8単位以上の授業科目を担当す	0	0	0	0	0	\	\	
		同 6 単位以上の投業杯日を担当 9 に該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	\	\	
	る者以外の者又は	専ら当該大学の教育研究に従事す 当該大学の教育研究に従事し,か 複数の学部等で教育研究に従事す	0	0	0	0	0			
	る者であって、年	間8単位以上の授業科目を担当 又はcに該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	\	\	
分	計 (a ~ d)		6 (6)	6 (6)	0 (0)	1 (1)	13 (13)	\	\	
			(0)	(0)	(∪)	(1)	(10)		T	

既	理	工学部 メカトロニクス工学科	5	4	0	0	9	0	70	
15/L		# 44. # . D	(5) 5	(4)	(0)	(0)	(9)	(0)	(70)	大学設置基準別
		a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	(5)	(4)	(0)	(0)	(9)	 \	\	表第一イに定め る基幹教員数の
		b. 基幹教員のうち, 専ら当該学部等の教育研究に従事	0	0	0	0	0	 	1 \	四分の三の数 6 人
		する者であって,年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(aに該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	 	l \	
			5	4	0	0	9	 \	\	
		小計 (a ~ b)	(5)	(4)	(0)	(0)	(9)	 \	I \	
		c. 基幹教員のうち, 専ら当該大学の教育研究に従事す	0	0	0	0	0	 \	l \	
		る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a 又は b に該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	\	\	
		d. 基幹教員のうち, 専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し, かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す	0	0	0	0	0			
		る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(a,b又はcに該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	\	\	
		計 (a~d)	5	4	0	0	9	۱ \	l \	
		n (4 4)	(5)	(4)	(0)	(0)	(9)	\	\	
	理	工学部 社会基盤デザイン工学科	11 (11)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	86 (86)	
		a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	11 (11)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	\	\	大学設置基準別 表第一イに定め る基幹教員数の
		b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事	0	0	0	0	0	 	1 \	四分の三の数 7
		する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの (aに該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	\	\	
		小計 (a~b)	11 (11)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	\		
設		c. 基幹教員のうち, 専ら当該大学の教育研究に従事す	0	0	0	0	0	 \	\	
		る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	\	\	
		d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か っ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す	0	0	0	0	0			
		る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(a, b又はcに該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	\	\	
		計 (a~d)	11 (11)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	\	\	
	理	工学部 環境創造工学科	7 (7)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	82 (82)	
	H	a. 基幹教員のうち, 専ら当該学部等の教育研究に従事	7	3	0	0	10		(32)	大学設置基準別
		する者であって、主要授業科目を担当するもの	(7)	(3)	(0)	(0)	(10)	 \	\	表第一イに定める基幹教員数の
		b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当	0	0	0	0	0	\	\	四分の三の数 6 人
		する者であって、 午間8単位以上の授業科目を担当 するもの (aに該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	 \	\	
		小計 (a ~ b)	7	3	0	0	10	I \	\	
		/	(7)	(3)	(0)	(0)	(10)	\	\	
		c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す	0	0	0	0	0	\	\	
		るもの(a 又はbに該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	\	\	
		d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す	0	0	0	0	0			
		る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(a, b又はcに該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	\	\	
分		計 (a~d)	7 (7)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	\	\	

既	理工学部 建築学科	10	7	0	0	17	0	92	
奶	a, 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事	(10) 10	(7) 7	(0)	(0)	(17) 17	(0)	(92)	大学設置基準別
	する者であって、主要授業科目を担当するもの	(10)	(7)	(0)	(0)	(17)	 \	\	表第一イに定める基幹教員数の
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当	0	0	0	0	0	\	\	四分の三の数 8 人
	するもの(a に該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	 	\	
	小計 (a~b)	10	7	0	0	17	\	\	
		(10)	(7)	(0)	(0)	(17)	\	\	
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す	0	0	0	0	0	\	\	
	るもの(a又はbに該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	\	\	
	d. 基幹教員のうち, 専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し, か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す	0	0	0	0	0			
	る者であって,年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(a,b 又はcに該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	\	\	
	計 (a ~ d)	10	7	0	0	17	l \	l \	
		(10)	(7)	(0)	(0)	(17)		cc .	
	農学部 生物資源学科	6 (6)	4 (4)	0 (0)	3 (3)	13 (13)	0 (0)	66 (66)	
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 (6)	4 (4)	0 (0)	3 (3)	13 (13)	\	\	大学設置基準別 表第一イに定め る基幹教員数の
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事	0	0	0	0	0			四分の三の数 7 人
	する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(aに該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	 \	\	
	小計 (a∼b)	6	4	0	3	13	\	\	
設		(6)	(4)	(0)	(3)	(13)	\	\	
HX.	c. 基幹教員のうち, 専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって, 年間8単位以上の授業科目を担当す	0	0	0	0	0	\	\	
	るもの(a 又は b に該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	\	\	
	d. 基幹教員のうち, 専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し, か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す	0	0	0	0	0			
	る者であって,年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(a,b 又はcに該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	\	\	
	計 (a~d)	6	4	0	3	13	\ 	\	
	ii (a a)	(6)	(4)	(0)	(3)	(13)	\	\	
	農学部 応用生物化学科	8 (8)	3 (3)	0 (0)	2 (2)	13 (13)	0 (0)	64 (64)	
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事	8	3	0	2	13	(0)	(01)	大学設置基準別
	する者であって、主要授業科目を担当するもの	(8)	(3)	(0)	(2)	(13)	 \	\	表第一イに定め る基幹教員数の 四分の三の数 7
	b. 基幹教員のうち, 専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって, 年間8単位以上の授業科目を担当	0	0	0	0	0	 	\	人
	するもの(a に該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	 	\	
	小計 (a~b)	8 (8)	3 (3)	0	2 (2)	13	\	\	
		0	0	(-)	. ,	(13)	\	\	
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当する。			0	0		\	\	
	るもの(a 又は b に該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	\	\	
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す	0	0	0	0	0	\		
	る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの (a, b又はcに該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	\	\	
分	ਜੋ∤ (a ~ d)	8 (8)	3 (3)	0 (0)	2 (2)	13 (13)	\	 	

曲兴	·如	8	2	0	3	13	0	71	1
辰子	一部 生物泉境科子科	(8)	(2)	(0)	(3)	(13)	(0)	(71)	1. 32. 30. 00 44 34-00
a	. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	8 (8)	2 (2)	0 (0)	3 (3)	13 (13)	\setminus	\	大学設置基準別 表第一イに定め る基幹教員数の
b		0	0	0	0	0			四分の三の数 7 人
	するもであって、午間の単位以上の校業科目を担当 するもの(aに該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	 \	\	
小	計 (a ~ b)	8	2	0	3	13	 \	\	
l	,		` ′	(0)	` '	` ′	 \	\	
С		0	0	0	0	0	 \	\	
	るもの(a 又は b に該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	 \	\	
d	. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す	0	0	0	0	0			
	る者であって,年間8単位以上の授業科目を担当 するもの (a, b 又はcに該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	\	\	
計	· (a ~ d)	8	2	0	3	13	۱ \	\	
	/			(0)		(13)	\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	00	
薬学	部 薬学科			-	_				
a	. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事	27	21	0	9	57	(2)	(20)	大学設置基準別
	する者であって, 主要授業科目を担当するもの	(27)	(21)	(0)	(9)	(57)	 \	 \	表第一イに定める基幹教員数の
b		0	0	0	0	0	 	\	四分の三の数 29人
	するもであって、午間の単位以上の校業科目を担当 するもの(aに該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	 \	\	
小	計 (a ~ b)	27 (27)	21 (21)	0	9 (9)	57 (57)	\	\	
	其幹数目のうち、 東ら当該大学の数容研究に従事す			` '			 \	\	
	る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	\	\	
d	る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し, か	0	0	0	0	0			
	る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(a, b又はcに該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	\	\	
=1.	: (a a.d.)	27	21	0	9	57	\ \	\	
PI	(a:=u)	(27)	(21)	(0)	(9)	(57)	\	\	
都市	情報学部 都市情報学科				_		_		
Н.	甘穀塾員のらた。東た火茲受如葉の塾会延定に従事			. ,		` ′	(0)	(34)	大学設置基準別
l la	する者であって、主要授業科目を担当するもの	(21)	(5)	(0)	(1)	(27)	 \	1\	表第一イに定め る基幹教員数の
b		0	0	0	0	0	 	\	四分の三の数 15人
	する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(aに該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	 	I \	
	3L (L)	21	5	0	1	27	 \	\	
	a⊤ (a ~ b)	(21)	(5)	(0)	(1)	(27)	 \	\	
С		0	0	0	0	0	 \	\	
	る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	\	\	
d	. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す	0	0	0	0	0			
	る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(a, b又はcに該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	\	\	
計	· (a ~ d)	21 (21)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	27 (27)	\	\	
	a b 小 c d lill in in a b 小 c d lill in in a b lill in	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く) 小計(a~b) c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く) d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a, b又はに該当する者を除く) 計(a~d) 薬学部 薬学子科 a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a, b又はに該当する者を除く) 計(a~d) 薬学部 薬学部 (a~d) 本学部 本学科 a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く) 小計(a~b) c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く) d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a, b又はに該当する者を除く) 計(a~d) 都市情報学部 本市情報学科目を担当するもの(a, b又はに該当する者を除く) かまくなので、主要授業科目を担当するもの(a, b又はに該当する者を除く) 本書をおって、主要授業科目を担当するもの(a, b又はに該当する者を除く) 小計(a~b) c. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く) 小計(a~b) c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者のので、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く) d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者をあって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a 又は b に該当する者を除く) d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a 又は b に該当する者を除く)	展子部 生物環境科字科 a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの b. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く) の計(a~b) c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又は由に該当する者を除く) d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当まする者を除く) の 対 (a~b) 本 (a) 本 (b) 本 (c) 本 (展子部 生物環境科学科 (8) (2) a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要検験科目を担当するもの (8) (2) b. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間も単位以上の検案科目を担当するもの (6) (0) (7) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1	展子部 生物環境科学科	本語・生物 保険性 19	展学部 生物規類科学科	展学部 生物環境科学学科	展子部 生物構成が子科 (8) (2) (0) (3) (13) (0) (71) - 単純素のうち、空ら間が密がするから (8) (2) (0) (3) (13) - 美神養のうち、空ら間が密がするができるの (8) (2) (0) (3) (13) - 美神養のうち、空ら間が高が異ないに違う (0) (0) (0) (0) (0) (0) (0) (0) (0) (0)

既	人間学部 人間学科	16	3	0	3	22	0	74	
15/L	a. 基幹教員のうち, 専ら当該学部等の教育研究に従事	(16) 16	(3)	(0)	(3)	(22) 22	(0)	(74)	大学設置基準別 表第一イに定め
	する者であって、主要授業科目を担当するもの	(16)	(3)	(0)	(3)	(22)	 \	\	る基幹教員数の 四分の三の数
	b. 基幹教員のうち, 専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって, 年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(aに該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	\	\	10人
	小計 (a~b)	16	3	0	3	22	\	\	
		(16)	(3)	(0)	(3)	(22)	\	\	
	c. 基幹教員のうち, 専ら当該大学の教育研究に従事する者であって, 年間8単位以上の授業科目を担当するもの (a 又は b に該当する者を除く)	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	\	\	
	d. 基幹教員のうち, 専ら当該大学の教育研究に従事す		` '	` '		` '	\	\	
		0	0	0	0	0	\	\	
	る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(a, b又はcに該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	\	\	
	計 (a ~ d)	16	3	0	3	22	\	l \	
		(16) 14	(3)	(0)	(3)	(22)	0	19	
	外国語学部 国際英語学科	(14)	(6)	(0)	(0)	(20)	(0)	(19)	
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	14 (14)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	20 (20)	\	\	大学設置基準別 表第一イに定め る基幹教員数の
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事	0	0	0	0	0	 \	\	四分の三の数 8
	する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(aに該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	 \	\	
	小計 (a~b)	14 (14)	6 (6)	0 (0)	0	20 (20)	\	\	
設	c. 基幹教員のうち, 専ら当該大学の教育研究に従事す	0	0	0	0	0	\	\	
	る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	\	\	
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かっ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す	0	0	0	0	0			
	る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(a,b 又はcに該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	\	\	
	ਕੋ† (a ~ d)	14 (14)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	20 (20)	\	\	
	情報工学部 情報工学科	13 (13)	5 (5)	0 (0)	4 (4)	22 (22)	0 (0)	133 (133)	
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事	13	5	0	4	22	(3)	(111)	大学設置基準別 表第一イに定め
	する者であって、主要授業科目を担当するもの b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事	(13)	(5) 0	(0)	(4)	(22)	\	\	る基幹教員数の 四分の三の数 13人
	する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(aに該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	\	\	10/
	小計 (a ~ b)	13	5	0	4	22	\	\	
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す	(13)	(5)	(0)	(4)	(22)	\	\	
	本語 教員のグラウ、等の当該人子の教育が九に促事する者であって、年間 8 単位以上の授業科目を担当するもの(a 又は b に該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	\	\	
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かっ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事し、か	0	0	0	0	0			
	つ時ら当該人子の複数の子部等で教育研究に従事り る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(a, b又はcに該当する者を除く)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	\		
分	計 (a~d)	13 (13)	5 (5)	0 (0)	4 (4)	22 (22)	\	\	
	計	249 (249)	119 (119)	0 (0)	32 (32)	400 (400)	1 (2)	_ (_)	
	<u></u> 수 計	258	128	0	33	419	1	_	
	LI PI	(258)	(128)	(0)	(33)	(419)	(2)	(-)	

		職	種			専 属			その他		計		
	事	務	職	員		,	224人		(1	151人		375人 (375人)	
	++-	44°:	H\$h			((224人) 9人		(1	51人) 2人		11人	
	技	術	職	員			(9人)			(2人)		(11人)	
	図	書 館	職	員			5人 (5人)			4人 (4人)		9人 (9人)	
	そ	の他の	カー耳				人(0.1.)			0人		0人	
	1 15	二、	DI-	±⁄.			(0人)			(0人)		(0人)	
	指	導 ————————————————————————————————————	助	者			(人0)			(0人)		(0人)	
		計				(238人 (288人)		(1	157人 57人)		395人 (395人)	
校		区 分		専	用	共	用		用する他の 校等の専用		計		
地		校舎敷均	也	3	54, 861. 9 m²	_	m²	,	—	m ²	3	354, 861. 9 m ²	
		その 化	<u>h</u>	1	30, 165. 6 m²	_	m²		_	m²	1	.30, 165. 6 m²	
等		合 言	+	4	85, 027. 5 m ²	_	m²			m²	4	85, 027. 5 m²	
				専	用	共	用		に用する他の 学校等の専用		計		
		校 舎	-		224, 446 m²		— m²		_	m²		224, 446 m²	
				(224,	446 m²)	(-	– m²)	(— 1	m²)	(224, 44	16 m²)	
教	室	· 教 員 研 究	室	教	室		701室	教	員 研 究	室		18室	大学全体
				図書			学術執				機械・器具	標本	
図	新部	段学部等の名称	しうち	5外国書〕 冊		·図書 小国書〕	〔うち外	国書」 種	電子ジャ 〔うちタ		点	点	1 3/4 6 //-
書・	// 4 224	blen FFF 24 TV	78, 771	[14, 360]		617 (0)	7, 365 [7,		7, 265 [7		3, 636	11	大学全体 での共用分
設備	化子	・物質学科	(78, 771	1 [14, 360])	(617 (0))	(7, 356 [7	, 290])	(7, 265 [7	7,262])	(3, 432)	(11)	機械・器具 (811)
7/用		計		[14, 360]		617 [0]	7, 356 [7,		7, 265 [7		3, 636	11	
			(78, 771	1 [14, 360])		617 (0))	(7, 356 [7		(7, 265 [7		(3,432)	(11)	
	スポー	ーツ施設等		スホー	ツ施設 296, 333	00 m ²	誦	堂 1	054. 7 m²		厚生補導施設 2	₹ 23, 165. 55 m²	大学全体
		区 分	開設す	前年度	第1年次	第2年次	第3年		第4年次	第5年		第6年次	
経費	経費	教員1人当り研究費等			478千円	478千	_	8千円	478千円	_	千円	一 千円	
の見	の目	共同研究費等			38,681千円	38, 681千	·円 38,68	1千円	38,681千円	_	千円	一 千円	
積がな	傾り			026千円	3,026千円			6千円	3,026千円	_	千円	一 千円	
維持 方法		設備購入費			31,050千円	31,050千			31,050千円		千円	— 千円	
の概 要		学生1人 納付金			第1年次 1,544千円	第2年次1,344千		F-次 4千円	第4年次 1,344千円	第5年	<u> </u>	第6年次 - 千円	
	学生			の概要 補	助金収入、						1 🖂	1 17	
		学等の名					,,,,						
	学音	部等の名	称 修第	業 入学 限 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位 は称		収容定員充 足率	開設 年度	所 7	生 地	
			_	年 人	年次	人	(41/)	7	元 足 早 倍	平 及			
既設大学	法学	部			人				1. 10				
等	法	学科	4	400	-	1,600	学士(注	法学)	1. 10	平成11年度	愛知県名	名古屋市	
の状況	経営:	学部							1.06		天白区	塩釜口 501番地	
	経'	営学科	4	215	-	860	学士(経	営学)	1.06	平成12年度			
	国	際経営学科	4	95	-	380	学士(経	営学)	1. 07	平成12年度			

	経済学部						1.08			
	経済学科	4	210	-	840	学士 (経済学)	1. 09	平成12年度		
	産業社会学科	4	100	-	400	学士 (経済学)	1.06	平成12年度		
	理工学部						1. 07			
	数学科	4	100	-	370	学士 (理学)	1.00	平成12年度		令和7年度入学 定員増(10
	情報工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	_	平成16年度		人) 令和4年度より 学生募集停止
	電気電子工学科	4	160	-	610	学士 (工学)	1.06	平成12年度		令和7年度入学 定員増(10 人)
	材料機能工学科	4	80	-	320	学士(工学)	1. 10	平成12年度		()
	応用化学科	4	70	-	280	学士 (工学)	1.06	平成25年度		
	機械工学科	4	125	-	500	学士 (工学)	1. 10	平成12年度	愛知県名古屋市	
	交通機械工学科	4	105	-	480	学士 (工学)	1.08	平成12年度	天白区塩釜口 一丁目501番地	令和7年度入学 定員減 (△20 人)
	メカトロニクス工学科	4	80	-	320	学士 (工学)	1.08	平成25年度		
	社会基盤デザイン工学科	4	90	-	360	学士 (工学)	1.09	平成12年度		
既設	環境創造学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	平成12年度		令和2年度より 学生募集停止
成大学等	環境創造工学科	4	80	-	320	学士(工学)	1.01	令和2年度		
\mathcal{O}	建築学科	4	145	-	580	学士 (工学)	1. 07	平成12年度		
状況	農学部						1.06			
	生物資源学科	4	110	-	440	学士 (農学)	1.04	平成11年度		
	応用生物化学科	4	110	-	440	学士 (農学)	1.02	平成11年度		
	生物環境科学科	4	110	-	440	学士 (農学)	1. 12	平成17年度		
	薬学部						1.06		愛知県名古屋市 天白区八事山	
	薬学科(6年制)	6	265	-	1, 590	学士(薬学)	1.06	平成18年度	150番地	
	都市情報学部						1.06			
	都市情報学科	4	235	-	940	学士(都市情報学)	1.06	平成7年度		
	人間学部						1.09		愛知県名古屋市 東区矢田南	
	人間学科	4	220	-	880	学士 (人間学)	1.09	平成15年度	四丁目102番9	
	外国語学部						1.09			
	国際英語学科	4	130	-	520	学士 (外国語学)	1.09	平成28年度		
	情報工学部						1.02		愛知県名古屋市 天白区塩釜口	
	情報工学科	4	180	-	720	学士 (工学)	1.02	令和4年度	一丁目501番地	

大学等の名称	名城力	、学大学 🏻						
学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	収容定員 充 足 率	開設 年度	所 在 地
	年	人	年次 人	人		倍		
法学研究科								
法律学専攻								
修士課程	2	6	-	12	修士 (法学)	0. 91	昭和42年度	
博士後期課程	3	2	-	6	博士 (法学)	0. 50	昭和44年度	
経営学研究科								
経営学専攻								
修士課程	2	10	-	20	修士 (経営学)	0.30	平成13年度	
博士後期課程	3	3	-	9	博士 (経営学)	0.00	平成13年度	
経済学研究科			_	_				
経済学専攻								
修士課程	2	3	-	6	修士 (経済学)	0. 16	平成12年度	
博士後期課程	3	2	-	6	博士(経済学)	0.00	平成14年度	
理工学研究科			_	_				
数学専攻								愛知県名古屋市 天白区塩釜口
博士前期課程	2	8	_	16	修士 (理学)	0. 25	平成14年度	T D = 0 + 47 M.
博士後期課程	3	2	_	6	博士 (理学)	0. 16	平成7年度	
情報工学専攻								
修士課程	2	30	-	60	修士(工学)	1. 38	平成14年度	
電気電子工学専攻								
博士前期課程	2	25	-	50	修士 (工学)	1. 50	平成14年度	
材料機能工学専攻								
修士課程	2	35	-	70	修士 (工学)	1. 34	平成14年度	
応用化学専攻								
修士課程	2	24	-	48	修士 (工学)	0.85	平成29年度	
機械工学専攻								
修士課程	2	30	-	60	修士 (工学)	1. 10	平成14年度	
博士後期課程	3	5	-	15	博士 (工学)	0. 53	平成4年度	
交通機械工学専攻								
修士課程	2	25	-	50	修士(工学)	0. 90	平成14年度	

	メカトロニクス工学専攻									
	修士課程	2	24	-	48	修士 (工学)	1.20	平成29年度		
	社会基盤デザイン工学専攻									
	修士課程	2	18	-	36	修士 (工学)	0. 27	平成14年度		
	環境創造学専攻									
	修士課程	2	-	-	-	修士 (工学)	-	平成14年度		令和6年度より 学生募集停止
	環境創造工学専攻									
	修士課程	2	8	-	16	修士 (工学)	0.75	令和6年度		
	建築学専攻								愛知県名古屋市	
	修士課程	2	16	-	32	修士 (工学)	1. 37	平成14年度	天白区塩釜口 一丁目501番地	
	電気・情報・材料・物質工学専攻									
	博士後期課程	3	10	-	30	博士 (工学)	0. 23	平成5年度		
	社会環境デザイン工学専攻									
	博士課程	3	5	-	15	博士 (工学)	0. 20	平成4年度		
既設	農学研究科									
大学等	農学専攻									
0)	修士課程	2	30	-	50	修士 (農学)	2.00	昭和48年度		令和7年度入学 定員増(10 人)
状況	博士後期課程	3	3	-	9	博士 (農学)	0.66	昭和51年度		
	薬学研究科								∞4-82-4	
	薬学専攻								愛知県名古屋市 天白区八事山 150番地	
	博士課程(4年制)	4	4	-	16	博士 (薬学)	1.06	平成24年度	100 110	
	都市情報学研究科									
	都市情報学専攻									
	修士課程	2	6	-	12	修士(都市情報学)	0.66	平成11年度	愛知県名古屋市	
	博士後期課程	3	3	-	9	博士 (都市情報学)	0.33	平成13年度	東区矢田南 四丁目102番9	
	人間学研究科									
	人間学専攻									
	修士課程	2	5	-	10	修士 (人間学)	0.40	平成23年度		
	総合学術研究科									
	総合学術専攻								愛知県名古屋市 天白区塩釜口	
	博士前期課程	2	8	-	16	修士 (学術)	0.37	平成14年度	一丁目501番地	
	博士後期課程	3	4	-	12	博士 (学術)	0.33	平成14年度		

名称:農学部附属農場

目的:農学に関する教育研究のため

所在地:愛知県春日井市鷹来町菱ヶ池4311-2

設置年月:昭和25 (1950) 年4月

規模等: 136,842.9㎡

附属施設の概要

名称:薬学部薬草園

目的:生薬学・薬用植物学実習及び系統維持標本園 所在地:愛知県春日井市鷹来町字菱ヶ池4311-2

設置年月:昭和51(1976)年3月

規模等: 2, 250 m2

- 1 共同学科の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「新設分」及び「既設分」の備考の「大学設置基準別表第一イ」については、専門職大学にあっては「専門職大学設置基準別表第一イ」、短期大学にあっては「短期大学設置基準別表第一イ」、専門職短期大学にあっては「専門職短期大学設置基準別表第一イ」にそれぞれ読み替えて作成すること。 3 「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとすること。
- 4 私立の大学の学部又は短期大学の学科の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室・教員研究室」、「図書・設備」及び「スポーツ施設等」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室・教員研究室」、「図書・設備」、「スポーツ施設等」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 6 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 7 空欄には、「一」又は「該当なし」と記入すること。

(用紙 日本産業規格A4縦型)

	教育	課		程		等		(カ		概		 	要		俗A4桃生)
(理工	学部化学・物質学科) 				単位数		挖	受業形態	態		基	幹教員	員等の	配置		
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	(助手を除く) 基幹教員以外の教	備考
総合基礎部門	英英 英 英 英 ブ プ I I I I I I I I I I I I I I I I I I	1 1 2 2 3 3 1 1 2 2 1 1 1 2 2 1 1 1 2 2 1 1 1 1		1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0		0000	1 1					7 7 7 5 5 5 5 1 1 2 2 2 1 1 4 4 3 3 11 11 9 9 3 3 3 2 2 2 1 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	
専門教育部門	微分II 線形 II 物分 II 線形 II 物 PIII 物 PIII 物 PIIII 物 PIIIIIIIIIII	1111111111111222212121111111111111122		2 2 2 2 2 2 1 1	2 1 2 2 1 1 2 2 1 2 1 2 2 2 2 3 3 3 3	1 1 1 1 1 1 1 1	000000 00 00 00000	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	00 00 00 0	2	1 1 1 1 1				4 4 4 4 1 1 3 3 1 1 1 2 2 1 1 1 1 2 1 1 1 1 1 1	集中 オムニバス オムニバス

			-	I	1			,		ı		-	-		
	固体物性Ⅲ	3前	0		2		0				1				
	固体物性IV	3後	0		2		0				1				
	熱力学	2前	0		2		0				1				
	統計力学	2後	0		2		0				1				
	真空工学	3前	0		2		0			1					
	表面化学	3後	0		2		0			2					
	電磁気学Ⅰおよび演習	1後	0		3			\circ		1					
	電磁気学Ⅱおよび演習	2前	\circ		3			0		1					
	量子力学 I および演習	2前	0		3			0		1					
	量子力学Ⅱおよび演習	2後	0		3			\circ		1					
	量子力学Ⅲ	3前	0		2		0			1					
	電気回路および演習	1後	\circ		3			0		1					
	電子回路設計・製作	2前	○(材)		2(材)		0			1					
	電子回路	2後	\circ		2		0			1					
	電子材料評価	3前	\circ		2		0			1					
	半導体基礎論	3前	\circ		2		0			1					
	半導体工学	3後	\circ		2		0			1					
	半導体デバイス	3後	0		2		0			1					
	光・誘電工学	3後	\circ		2		0			1					
	材料力学Ⅰおよび演習	2前	0		3			0			1				
	材料力学Ⅱおよび演習	2後	0		3			0		1					
	材料強度学	3後	0		2		0			1					
	金属材料	2前	0		2		0				1				
	工業材料化学	3後	0		2		0				1				
	高分子工学	3前	0		2		0							1	
	高分子・複合材料	3後	0		2		0				1				
	機械加工	3前	0		2		0			1					
	塑性加工	4前	0		2		0			1					
	機械要素設計	3前	0		2		0				1				
	機械CAD製図	3前	0		2		0				1				
	応用数学 I	1前	0		2		0			ĺ				1	
	応用数学Ⅱ	1前	0		2		0			1					
	応用数学Ⅲ	1後	0		2		0			1					
	機械製図基礎	2前	0		2		0			ĺ	1				
	結晶材料	3前	0		2		0			1					
	先端技術管理	3後	\circ		2		0							1	
	化学・物質概論	1前	0	2			0			9	9		1		オムニバス
	科学技術リテラシー	2前	○(材)	2(材)			0			6	4				オムニバス
	材料機能工学実験I	2後	○(材)	2(材)					\circ	2	2				
	材料機能工学実験Ⅱ	3前	○(材)	2(材)					0	3	3				
	材料機能工学実験Ⅲ	3後	○(材)	2(材)					0	3	3				
	化学・物質ゼミナール	3後	0	2				0		9	9		1		オムニバス
専	有機化学基礎	1前	0	2(応)	2(材)		0			1					
門	有機化学 I	1後	0		2		0			1					
教	有機化学Ⅱ	2前	0		2		0			1					
育部	有機化学演習	2前	0		1			0		1					
門	高分子化学 I	2後	0		2		0			ĺ	1				
1	高分子化学Ⅱ	3前	0		2		0			ĺ	1				
Ī	生化学	2後	0		2		0			ĺ	1				
Ī	生活支援化学	3前	0		2		0			ĺ	1				
	有機機能化学	3後	0		2		0			ĺ	1				
	物理化学基礎物理化学基礎	1後	0	2(応)	2(材)		0			1					
	物理化学Ⅰ	2前	0		2		0			1					
	物理化学图	2前	0		2		0				1				
	物理化学演習	2後	0		1		_	0		1					
	化学結晶学	2前	0		2		0			1					
	物質構造学 物性化学 I	2後	0		2		0				1				
	物性化学Ⅱ	3前	0		2		0				1				
		3前	0	0 (\	2 (++)		0				1				
Ī	無機化学基礎 無機化学 I	1後	0	2(応)	2(材)		0			ĺ	2		,		
	無機化学Ⅱ	2前	0		2		0			ĺ	,		1		
	無機化学演習	2後	0		2		0	0		ĺ	1				
	無機化字演習 電子材料	2後 3後	0		2		0	\cup		ĺ	1 1				
	電気化学	3俊 3前	0		$\frac{2}{2}$		0			1	1				
	無機材料化学 I	3前	0		2		0			1					
	無機材料化学Ⅱ	3後	0		2		0			1	2		1		オムニバス
	基礎電磁気	1後	0		2		0			1					
	量子化学 I	2前	0		2		0			-	1				
	量子化学Ⅱ	2後	0		2		0			ĺ	1				
	量子化学演習	2後	0		1			0		ĺ	1				
	製図基礎	3前	0		2		0				1				
	分析化学	2前	0		2		0			ĺ			1		
	分光化学	2後	0		2		0			ĺ	1				
	機器分析	3前	0		2		0			1					
	錯体化学	3前	0		2		0			ĺ				1	
	化学工学	3前	0		2		0			ĺ				1	
	分離精製工学	3後	0		2		0			ĺ				1	
	流動現象学	3後	0		2		0			ĺ				1	
	エネルギー工学	3後	0		2		0			1					
	応用化学基礎演習	1前				1		\circ		1	2				オムニバス
	実験基礎論	2前	0		2		0			1					
	安全工学	1後	0	2(応)	2(材)		0				1				
	応用化学実験 I	2前	○(応)	2(応)					0	2	2				
	応用化学実験Ⅱ	2後	○(応)	2(応)					0	1	3				
	応用化学実験Ⅲ	3前	○(応)	3(応)					0	1	3				
	応用化学実験IV	3後	○(応)	2(応)					0	1	2		1		
	卒業研究	4通	0	4				0		9	9		1		
	データサイエンス・AI応用基礎I	1後			2		0							6	オムニバス
	データサイエンス・A I 応用基礎Ⅱ	2前			2		0							7	オムニバス

小計 (123科目)			32 (材) 187 (材) 41 (広) 177 (広)	9	_	Ĝ)	9		1		66	
合計 (166科目)		36 (材) 243 (材) 45 (応) 233 (応)	11	_	ć)	9		1		136	
学位又は称号	学士 (工学)		学位又は	学科の	分野	工学関係	Ŕ,	理学	関係				
卒業・	修 了 要 件	及び履	修方法						授	業期間	引等		
【応用化学専攻】													
(1) 必修科目	総合基礎部門	4単位											
	専門教育部門	41単位				1学年の	⇒ # п	II Z Z				2学	±n
	計	45単位				1子平(/)-	子 列	1 四 刀				Z- J- ;	√ 1
(2) 選択科目	総合基礎部門	16単位以_	L										
	専門教育部門	63単位以_	L										
	計	79単位以_	L										
	合計	124単位以	上										
【材料機能工学専攻】						12441074	20 AR	· ##0 88				4 E.V	FI
(1) 必修科目 (2) 選択科目	才料機能工学専攻】 (1)必修科目 総合基礎部門 専門教育部門 計		Ł.			1学期の打	党 兼	·期间				15说	<u>ii</u>
(34)	専門教育部門 計 合計	72単位以 88単位以 124単位以 両専攻共通: 491	<u></u> ይ አይ		1時	・限の授業	の杭	票準時	寺間			90 <i>5</i>	}

- 1 学部等,研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には,授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等,研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合,大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 6 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 7 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 8 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
- 9 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員(助手を除く)」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員(助手を除く)」と読み替えること。
- 10 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、 前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
 - (2)「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
- (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。 11 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

(用紙 日本産業規格A4縦型)

	教育	課		程		等		(カ		概		17以	要		俗八4桃空)
(理工	学部 応用化学科) 				単位数		挖	受業形	態		基	幹教員	員等の	配置		
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教 基幹教員以外の教	備考
総合基礎部門	英 英 英 英 ブ プ I I I I I I I I I I I I I I I I I I	1 1 2 2 3 3 1 1 1 2 2 1 1 1 2 2 1 1 1 2 2 1 1 1 1		2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0		0000						4 4 3 3 5 5 1 1 1 1 1 1 1 2 2 1 1 6 6 5 5 3 3 3 2 2 2 2 1 1 2 17 14 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	
専門教育部門	微分の 微分の では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	11111111111111111111111111111111111111	0000	2 2 2 2 2 2	2 2 1 1 1 2 2 1 1 2 2 1 1 2 2 2 1 2	1 1 1 1 1 1	000000 00 00 0000 00	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	00 00 00 0	1 1 1	1 1 1 1		1			集中オムニバスオムニバス

	有機化学Ⅱ	2前	0		2		0			1						
	有機化学演習	2前	0		1			0		1						
	錯体化学	2後	0		2		0								1	
	高分子化学 I	2後	0		2		0				1					
	高分子化学Ⅱ	3前	0		2		0				1					
	コロイド化学	3前	0		2		0				1					
	高分子材料	3後			2		0				2					
	生化学	3前			2		0				1					
	生活支援化学	3後			2		0				1					
	物理化学基礎	1後		2	2		0			1	1					
	物理化学Ⅰ	2前		2	2		0			1						
	物理化学Ⅱ				2		0			1	,					
	物理化学演習	2前					0			١,	1					
	量子化学 I	2後	0		1			0		1	,					
		1後	0		2		0				1					
	量子化学 II 量子化学演習	2前	0		2		0			١.	1					
	型	2後	0		1			0		1						
		2後	0		2		0			1						
	物質構造学	2後	0		2		0				1					
	物性化学	3前	0		2		0			1						
	真空工学	3前	0		2		0			1 .					1	
	表面工学	3後	0	_	2		0			1					1	
	無機化学基礎	1前	0	2	_		0			l	1				1	
	無機化学Ⅰ	1後	0		2		0						1			
	無機化学Ⅱ	2前	0		2		0	_		l	1				1	
専	無機化学演習	2前	0		1			0			1					
門	電気化学	2後	0		2		0			1						
教	触媒化学	3前	0		2		0			1						
育部	電子材料	3後	0		2		0				1					
門	固体物性	3前	0		2		0				1					
	エネルギー化学	3後	0		2		0			1						
	金属材料	3後	0		2		0								1	
	環境材料	3後	0		2		0			1	1					
	先端化学	1前	0	2			0			4	5		1			
	応用化学数学	1前	0		2		0			1						
	安全工学	1後	0	2			0				1					
	実験基礎論	2前	0	2			0		0	1						
	分析化学	2前	0		2		0								1	
	機器分析	3前	0		2		0			1						
	分光化学	3前	0		2		0				1					
					_										_	
	化学工学	2後	0		2		0								1	
	化学工学 分離精製工学	2後 3前	0		2 2		0								1	
	化学工学 分離精製工学 流動現象学		0													
	化学工学 分離精製工学 流動現象学 製図基礎	3前 3前 2後	0		2		0								1	
	化学工学 分離精製工学 流動現象学 製図基礎 科学表現論	3前 3前	0		2 2		0				1				1 1	
	化学工学 分離精製工学 流動現象学 製図基礎 科学表現論 先端技術管理	3前 3前 2後	0 0 0		2 2 2		0 0 0				1				1 1	
	化学工学 分離精製工学 流動現象学 製図基礎 科学表現論 先端技術管理 応用化学実験 I	3前 3前 2後 3前 3後 2前	0 0 0 0 0 0	2	2 2 2 2		0000		0	2	2				1 1 1	
	化学工学 分離精製工学 流動現象学 製図基礎 科学表現論 先端技術管理 応用化学実験 I 応用化学実験 I	3前 3前 2後 3前 3後 2前 2後	0 0 0 0 0 0	2 2	2 2 2 2		0000		0 0	2 1					1 1 1	
	化学工学 分離精製工学 流動現象学 製図基礎 科学表現論 先端技術管理 応用化学実験 I 応用化学実験 I 応用化学実験Ⅲ	3前 3前 2後 3前 3後 2前 2後 3前		2 3	2 2 2 2		0000		0	1 1	2 3 3				1 1 1 1 3	
	化学工学 分離精製工学 流動現象学 製図基礎 科学表現論 先端技術管理 応用化学実験 I 応用化学実験 I 応用化学実験 II 応用化学実験 II	3前 3前 2後 3前 3後 2前 2後 3前 3後		2 3 2	2 2 2 2		00000		0	1	2 3 3 1		1		1 1 1	
	化学工学 分離精製工学 流動現象学 製図基礎 科学表現論 先端技術管理 応用化学実験 I 応用化学実験 I 応用化学実験 I 応用化学支験 I 応用化学支験 I 応用化学支験 I 応用化学支験 I 応用化学支	3前 3前 2後 3前 3後 2前 2後 3前		2 3	2 2 2 2		0000		0	1 1	2 3 3		1 1		1 1 1 1 3	オムニバス
	化学工学 分離精製工学 流動現象学 製図基礎 科学表現論 先端技術管理 応用化学実験 I 応用化学実験 I 応用化学実験 I 応用化学支験 I 応用化学支験 I 応用化学支援 I 応用化学支援 I 応用化学 I 応用化学 I 応用化学 I に T に T に T に T に T に T に T に T に T に T	3前 3前 2後 3前 3後 2前 26 3 3後 3 3 6 4 4 4		2 3 2	2 2 2 2		00000	0	0	1 1 2	2 3 3 1				1 1 1 1 3	オムニバス
	化学工学 分離精製工学 流動現象学 製図基礎 科学表現論 先端技術管理 応用化学実験 I 応用化学実験 I 応用化学実験 I 応用化学実験 I 応用化学実験 I で用化学を実験 I で用化学を表別 で用・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3前 3前 26 3前後 36 26 3 36 36 36 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4		2 3 2 2	2 2 2 2 2 2		00000 0 0	0	0	1 1 2 4	2 3 3 1 5		1		1 1 1 3 2	オムニバス
	化学工学 分離精製工学 流動現象学 製図基礎 科学表現論 先端技術管理 応用化学実験 I 応用化学実験 I 応用化学実験 I 応用化学実験 I 応用化学実験 I で用化学主きサール 卒業研究 データサイエンス・AI応用基礎 I データサイエンス・AI応用基礎 I	3前 3前 2後前 3前後前 2前後 3前後後 41 2前 2前	0 0 0 0 0 0 0 0 0	2 3 2 2 4	2 2 2 2 2 2 2		00000		0	1 1 2 4	2 3 3 1 5 5		1		1 1 1 3 2 7 7	
	化学工学 分離精製工学 流動現象学 製図基礎 科学表現論 先端技術管理 応用化学実験 I 応用化学実験 I 応用化学実験 I 応用化学実験 I 応用化学実験 I で用化学を実験 I で用化学を表別 で用・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3前 3前 26 3前後 36 26 3 36 36 36 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4		2 3 2 2	2 2 2 2 2 2	8	00000 0 0	0	0	1 1 2 4	2 3 3 1 5		1		1 1 1 3 2	オムニバス
	化学工学 分離精製工学 流動現象学 製図基礎 科学表現論 先端技術管理 応用化学実験 I 応用化学実験 I 応用化学実験 I 応用化学実験 I 応用化学実験 I で用化学主きサール 卒業研究 データサイエンス・AI応用基礎 I データサイエンス・AI応用基礎 I	3前 3前 2後前 3前後前 2前後 3前後後 41 2前 2前	0 0 0 0 0 0 0 0 0	2 3 2 2 4	2 2 2 2 2 2 2	8 10	00000 0 0		0	1 1 2 4 4	2 3 3 1 5 5		1		1 1 1 3 2 7 7	オムニバス
	化学工学 分離精製工学 流動現象学 製図基礎 科学表現論 先端技術管理 応用化学実験 I 応用化学実験 I 応用化学実験 I 応用化学実験 I 応用化学主きサール 本業研究 データサイエンス・A I 応用基礎 I データサイエンス・A I 応用基礎 I データサイエンス・A I 応用基礎 I が計(86科目)	3前 3前 2 3前後 3 3後前後 3 6 3 6 3 6 4 1 8 1 9 1 9 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	2 3 2 2 4 39	2 2 2 2 2 2 2 2 108 166	10	00000 000		0 0	1 1 2 4 4 4	2 3 3 1 5 5		1 1		1 1 1 1 3 2 7 7 7	オムニバス
	化学工学 分離精製工学 流動現象学 製図基礎 科学表現論 先端技術管理 応用化学実験 I 応用化学実験 I 応用化学実験 I 応用化学実験 I 応用化学実験 I 応用化学を まかり	3前 3前 26 3前後 36 36 36 36 4 4 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	2 3 2 2 4 39 41	2 2 2 2 2 2 2 108 166	10 :学科の	00000 000		0	1 1 2 4 4 4	2 3 3 1 5 5		1 1 1 1	El Arte	1 1 1 1 3 2 7 7 7	オムニバス
	化学工学 分離精製工学 流動現象学 製図基礎 科学表現論 先端技術管理 応用化学実験 I 応用化学実験 I 応用化学実験 I 応用化学実験 I 応用化学主きサール 本業研究 データサイエンス・A I 応用基礎 I データサイエンス・A I 応用基礎 I データサイエンス・A I 応用基礎 I が計(86科目)	3前 3前 26 3前後 36 36 36 36 4 4 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	2 3 2 2 4 39	2 2 2 2 2 2 2 2 108 166	10 :学科の	00000 000		0 0	1 1 2 4 4 4	2 3 3 1 5 5	授	1 1	『 等	1 1 1 1 3 2 7 7 7	オムニバス
	化学工学 分離精製工学 流動現象学 製図基礎 科学表現論 先端技術管理 応用化学実験 II 応用化学実験 II 応用化学実験 IV 応用化学実験 IV 応用化学ま サール 卒業研究 データサイエンス・A I 応用基礎 I データサイエンス・A I 応用基礎 I データサイエンス・A I 応用基礎 I が計(86科目) 合計(129科目) 学位又は称号 卒業・修了要件	3前 3前 2後 3前 3後 3前 後前 2後前 3後 4 1後 前 4 2前 一 及	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	2 3 2 2 4 39 41	2 2 2 2 2 2 2 108 166	10 :学科の	00000 000	<u>-</u>	工学	1 1 2 4 4 4 4 【 数 数 数 数 数 数 数 数 数 数 数 数 数 数 数	2 3 3 1 5 5 5		1 1 1 1	『 等	1 1 1 3 2 7 7 7 81	オムニバスオムニバス
(1	化学工学 分離精製工学 流動現象学 製図基礎 科学表現論 先端技術管理 応用化学実験 I 応用化学実験 I 応用化学実験 I 応用化学実験 I 応用化学さきナール 卒業研究 データサイエンス・A I 応用基礎 I データサイエンス・A I 応用基礎 I データサイエンス・A I 応用基礎 I データサイエンス・ A I 応用基礎 I データサイエンス・ A I 応用基礎 I マータサイエンス・ A I 応用基礎 I オータ・ マータ・ マータ・ マータ・ マータ・ マータ・ マータ・	3前 3前 2後 3前 3後 2前 26前 3後 3後 4通 8 1 2前 一		2 3 2 2 4 39 41	2 2 2 2 2 2 2 108 166	10 :学科の	00000 000	<u>-</u>	工学	1 1 2 4 4 4	2 3 3 1 5 5 5		1 1 1 1	等	1 1 1 1 3 2 7 7 7	オムニバスオムニバス
	 化学工学 分離精製工学 流動現象学 製図基礎 科学表現論 先端技術管理 応用化学実験 I 応用化学実験 II 応用化学実験 IV 応用化学実験 IV 応用化学をする I 応用基礎 I データサイエンス・A I 応用基礎 I データサイエンス・A I 応用基礎 I が計(86科目) 合計(129科目) 学位又は称号 卒業・修了要件)必修科目 総合基礎部門 専門教育部門 	3前 3前 2後 3前 3後 2前 26前 3後 36後 36後 41後 10 一		2 3 2 2 4 39 41	2 2 2 2 2 2 2 108 166	10 :学科の	00000 000	<u>-</u>	工学	1 1 2 4 4 4 4 【 数 数 数 数 数 数 数 数 数 数 数 数 数 数 数	2 3 3 1 5 5 5		1 1 1 1	等	1 1 1 3 2 7 7 7 81	オムニバスオムニバス
	化学工学 分離精製工学 流動現象学 製図基礎 科学表現論 先端技術管理 応用化学実験 I 応用化学実験 I 応用化学実験 I 応用化学実験 I 応用化学さきナール 卒業研究 データサイエンス・A I 応用基礎 I データサイエンス・A I 応用基礎 I データサイエンス・A I 応用基礎 I データサイエンス・ A I 応用基礎 I データサイエンス・ A I 応用基礎 I マータサイエンス・ A I 応用基礎 I オータ・ マータ・ マータ・ マータ・ マータ・ マータ・ マータ・	3前 3前 2後 3前 3後 2前 26前 3後 36後 36後 41後 10 一		2 3 2 2 4 39 41	2 2 2 2 2 2 2 108 166	10 :学科の	00000 000	<u>-</u>	工学	1 1 2 4 4 4 4 【 数 数 数 数 数 数 数 数 数 数 数 数 数 数 数	2 3 3 1 5 5 5		1 1 1 1	等	1 1 1 3 2 7 7 7 81	オムニバスオムニバス
	 化学工学 分離精製工学 流動現象学 製図基礎 科学表現論 先端技術管理 応用化学実験 I 応用化学実験 I 応用化学実験II 応用化学実験IV 応用化学さきナール 卒業研究 データサイエンス・A I 応用基礎 I ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3前 3前 2後 3前 3後 2前 26前 3後 36 4通 8 1 2前		2 3 2 2 4 39 41	2 2 2 2 2 2 2 108 166	10 :学科の	00000 000	-	工学	1 1 2 4 4 4 4 【 数 数 数 数 数 数 数 数 数 数 数 数 数 数 数	2 3 3 1 5 5 5	ì	1 1 1 1	11等	1 1 1 3 2 7 7 7 81	オムニバスオムニバス
	化学工学 分離精製工学 流動現象学 製図基礎 科学表現論 先端技術管理 応用化学実験II 応用化学実験II 応用化学実験W 応用化学を主ナール 卒業研究 データサイエンス・AI応用基礎I データサイエンス・AI応用基礎I が計(86科目) 合計(129科目) 学位又は称号 卒 業・修了要件 ・ 体 ・ が会替事の ・ ないはいます。 ・ はいはいます。 ・ はいます。 ・ はいまするにはいます。 ・ はいます。 ・ はいます。 ・ はいます。 ・ はいます。 ・ はいます。 ・ はいます。 ・ はいまする。 ・ はいます。 ・ はいまする。 ・ はいます。 ・ はいまする。 ・ はいます。 ・ はいまする。 ・ はいま	3前 3前 2後 3前 3後 2前 26前 3後 3前 3後 3後 4 3 6 3 6 5 7 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	2 3 2 2 4 39 41 修	2 2 2 2 2 2 2 108 166	10 :学科の	00000 000	-	工学	1 1 2 4 4 4 関係	2 3 3 1 5 5 5	ì	1 1 1 1	『 等	1 1 1 3 2 7 7 7 81 141	オムニバスオムニバス
	化学工学 分離精製工学 流動現象学 製図基礎 科学表現論 先端技術管理 応用化学実験 II 応用化学実験 II 応用化学実験 II 応用化学実験 IV 応用化学支き IV 応用化学支き IV 応用化学支き IV 応用化学を表現 II 「アータサイエンス・A I 応用基礎 II 「アータサイエンス・A I 応用基礎 II 「小計(86科目) 合計(129科目) 学位又は称号 卒 業 ・ 修 了 要 件) 必修科目 総合基礎部門 専門教育部門 専門教育部門 計 申門教育部門 計 計	3前 3前 2後 3前 3後 2前 2後 3前後 3後 4通 3後 4通 2前 一	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	2 3 2 2 4 39 41 修 上 上	2 2 2 2 2 2 2 108 166	10 :学科の	00000 000	-	工学	1 1 2 4 4 4 関係	2 3 3 1 5 5 5	ì	1 1 1 1	『等	1 1 1 3 2 7 7 7 81 141	オムニバスオムニバス
	化学工学 分離精製工学 流動現象学 製図基礎 科学表現論 先端技術管理 応用化学実験II 応用化学実験II 応用化学実験W 応用化学を主ナール 卒業研究 データサイエンス・AI応用基礎I データサイエンス・AI応用基礎I が計(86科目) 合計(129科目) 学位又は称号 卒 業・修了要件 ・ 体 ・ が会替事の ・ ないはいます。 ・ はいはいます。 ・ はいます。 ・ はいまするにはいます。 ・ はいます。 ・ はいます。 ・ はいます。 ・ はいます。 ・ はいます。 ・ はいます。 ・ はいまする。 ・ はいます。 ・ はいまする。 ・ はいます。 ・ はいまする。 ・ はいます。 ・ はいまする。 ・ はいま	3前 3前 2後 3前 3後 2前 26前 3後 4通 12前 一 上 及 2 18 65 83 12	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	2 3 2 2 4 39 41 修 修 上 上	2 2 2 2 2 2 2 108 166	10 :学科の	00000 000		○ ○ ○ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	1 1 2 4 4 4 関係	2 3 1 5 5 5]	1 1 1 1	事	1 1 1 3 2 7 7 7 81 141	オムニバスオムニバス

- 1 学部等,研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行 おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等,研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等 に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備者又は別表第二備者に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合,大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 6 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 7 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 8 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
- 9 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員(助手を除く)」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員(助手を除く)」と読み替えること。
- 10 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、 前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
 - 同期保住に保る符号数,「単位数」及び「基料教員等が配置」を研記すること。 (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
- (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。 11 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

(用紙 日本産業規格A4縦型)

	教育	課		程		等		(カ		概		 	要		俗八4桃空)
(理工	学部 材料機能工学科) 				単位数		ž	受業形	態		基	幹教員	員等の	配置		
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教 し 助手を除く)	備考
総合基礎部門	英英英ブプドドドフフフフ中中中中体体体人人社社アア欧欧国文日国心基基職日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日	1 1 2 2 3 3 1 1 2 2 1 1 1 2 2 1 1 1 2 2 1 1 1 1		1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0		0000	1 1					5 4 4 4 4 1 1 1 1 1 1 1 2 2 2 6 6 4 4 3 3 3 3 2 2 2 1 1 2 1 6 13 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	
専門教育部門	微分 I 線形 I 線形 I 物物 物物 物	11111111111111111111111111111111111111	000000000000000000000000000000000000000	2 2	2 2 2 2 2 2 1 1 1 2 2 1 1 2 2 1 1 2	1 1 1 1 1 1	000000 00 00 0000 00	0 0000000	00 00 00	1 1 1	1				13 1 1	集中 オムニバス

I																
	応用数学Ⅲ	2前	0		2		0			1						
	電磁気学Ⅰおよび演習	1後	0		3			0		1						
	電磁気学Ⅱおよび演習	2前	\circ		3			0		1						
	工業力学	1後	\circ		2		0				1					
	材料力学Iおよび演習	2前	\circ		3			0		1						
	材料力学Ⅱおよび演習	2後	0		3			0			1					
	量子力学 I および演習	2前	\circ		3			0		1						
	量子力学Ⅱおよび演習	2後	\circ		3			0		1						
	物性論 I および演習	2前	0		3			0			1					
	物性論Ⅱおよび演習	2後	\circ		3			0		1						
	熱力学	2前	0		2		0				1					
	統計力学	2後	\circ		2		0				1					
	製図基礎	1前	\circ		2		0			1						
	真空工学	3前	0		2		0			1						
	表面工学	3後	0		2		0			1						
	電気回路および演習	1後	0		3			0		1						
	電子回路設計・製作	2前	0		2		\circ			1						
	アナログ電子回路	2前	0		2		0			1						
	デジタル電子回路	3前	0		2		0								1	
	半導体デバイス	3後	0		2		0			1						
	量子エレクトロニクス	3前	0		2		0			1						
	半導体基礎論	3前	0		2		0			1						
	半導体工学	3後	0		2		0			1						
専	結晶材料	3前	0		2		0			1						
門	結晶成長	3後	0		2		0			1						
教	磁性材料	3後	0		2		0								1	
育 部	光・誘電工学	3前	0		2		0			1						
門	鉄鋼材料	2後	0		2		0			1						
, ,	合金材料	3前	0		2		0				1					
	焼結材料	3後	0		2		0			1						
	高分子材料	3後	0		2		0			1						
	複合材料	3前	0		2		0				1					
	材料強度学	3前	0		2		0			1						
	結晶塑性学	3前	0		2		0								1	
	機械加工	3前	0		2		0			1						
	溶融加工	3後	0		2		0				1					
	機械要素	3前	0		2		0				1					
	機械設計・製図	3後	0		2		0				1					
	エレクトロニクス材料分析・評価法	3前	0		2		0			1						
	機械材料分析・評価法	3後	0		2		0			1						
	分析化学	3後	0		2		0								1	
	材料機能工学概論	1前	\circ	2												オムニバス
	Language and the second						0			8	4				2	
	科学技術リテラシー	2前	0	2			0			8	4				1	オムニバス
	材料機能工学実験I	2後	0	2 2					0	8	4 2				1 5	オムニバス
	材料機能工学実験 I 材料機能工学実験 Ⅱ	2後 3前	0	2 2 2					0	8 4 3	4 2 2				1 5 3	オムニバスオムニバス
	材料機能工学実験 I 材料機能工学実験 II 材料機能工学実験III	2後 3前 3後	0 0	2 2 2 2				(8 4 3 4	4 2 2 3				1 5 3 2	オムニバス オムニバス オムニバス
	材料機能工学実験 I 材料機能工学実験 II 材料機能工学実験 II 材料機能ゼミナール	2後 3前 3後 3後	0 0 0	2 2 2	0		0	0	0	8 4 3	4 2 2				1 5 3 2 1	オムニバスオムニバス
	材料機能工学実験 I 材料機能工学実験 II 材料機能工学実験 III 材料機能ゼミナール 先端技術管理	2後 3前 3後 3後 4後	0 0 0 0 0 0	2 2 2 2 2	2				0	8 4 3 4 8	4 2 2 3 4				1 5 3 2	オムニバス オムニバス オムニバス
	材料機能工学実験 I 材料機能工学実験 II 材料機能工学実験 III 材料機能ゼミナール 先端技術管理 卒業研究	2後 3前 3後 3後 4後 4通	0 0 0	2 2 2 2			0	0	0	8 4 3 4	4 2 2 3				1 5 3 2 1 1	オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス
	材料機能工学実験 I 材料機能工学実験 II 材料機能工学実験 III 材料機能ゼミナール 先端技術管理 卒業研究 データサイエンス・AI応用基礎 I	2後前後後後 3後後後 4後 1後	0 0 0 0 0 0	2 2 2 2 2	2		0 0 0		0	8 4 3 4 8	4 2 2 3 4				1 5 3 2 1 1	オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス
	材料機能工学実験Ⅰ 材料機能工学実験Ⅲ 材料機能工学実験Ⅲ 材料機能ゼミナール 先端技術管理 卒業研究 データサイエンス・AI応用基礎Ⅰ データサイエンス・AI応用基礎Ⅱ	2後 3前後 3後後 4後 4通 1後 2前	0 0 0 0 0 0	2 2 2 2 2 2	2 2	0	0	0	0	8 4 3 4 8	4 2 2 3 4				1 5 3 2 1 1 7	オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス
	材料機能工学実験 I 材料機能工学実験 II 材料機能工学実験 III 材料機能ゼミナール 先端技術管理 卒業研究 データサイエンス・A I 応用基礎 I データサイエンス・A I 応用基礎 I バ計 (84科目)	2後 3前 3後 3後 4後 4通 1後 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10	0 0 0 0 0	2 2 2 2 2 2 4	2 2 135	8	0 0 0	O _	0	8 4 3 4 8 8	4 2 2 3 4 4				1 5 3 2 1 1 7 7	オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス
	材料機能工学実験 I 材料機能工学実験 II 材料機能工学実験 III 材料機能ゼミナール 先端技術管理 卒業研究 データサイエンス・A I 応用基礎 I データサイエンス・A I 応用基礎 I バ計 (84科目)	2後 3前後 3後後 4後 4通 1後 2前	0 0 0 0 0 0	2 2 2 2 2 2 4	2 2 135 193	8	0 0 0	O 	0 0	8 4 3 4 8 8	4 2 2 3 4				1 5 3 2 1 1 7	オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス
	材料機能工学実験 I 材料機能工学実験 II 材料機能工学実験 III 材料機能ゼミナール 先端技術管理 卒業研究 データサイエンス・A I 応用基礎 I データサイエンス・A I 応用基礎 I バ計 (84科目)	2後 3前 3後 3後 4後 4通 1後 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10	0 0 0 0 0	2 2 2 2 2 2 4	2 2 135	8	0 0 0	O 	0	8 4 3 4 8 8	4 2 2 3 4 4				1 5 3 2 1 1 7 7	オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス
	材料機能工学実験 I 材料機能工学実験 II 材料機能工学実験 III 材料機能ゼミナール 先端技術管理 卒業研究 データサイエンス・A I 応用基礎 I データサイエンス・A I 応用基礎 I バ計 (84科目)	2後 3前 3後 3後 4後 4通 1後 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10	0 0 0 0 0 0	2 2 2 2 2 2 4	2 2 135 193	8 学科 <i>0</i>	0 0 0	O 	0 0	8 4 3 4 8 8	4 2 2 3 4 4	授	業期間	等	1 5 3 2 1 1 7 7	オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス
	材料機能工学実験 I 材料機能工学実験 II 材料機能工学実験 III 材料機能ゼミナール 先端技術管理 卒業研究 データサイエンス・A I 応用基礎 I データサイエンス・A I 応用基礎 I 小計 (84科目) 合計 (127科目) 学位又は称号 学士 (工学) 卒 業 ・ 修 了 要 件	2後 3前後 3後後 4後 1後前 一	0 0 0 0 0 0	2 2 2 2 2 2 4 2 2 2 2 4	2 2 135 193 4位又は	8 学科 <i>0</i>	0 0 0	O 	0 0	8 4 3 4 8 8	4 2 2 3 4 4	授	業期間	1等	1 5 3 2 1 1 7 7	オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス
(1	材料機能工学実験 I 材料機能工学実験Ⅲ 材料機能工学実験Ⅲ 材料機能ゼミナール 先端技術管理 卒業研究 データサイエンス・A I 応用基礎 I データサイエンス・A I 応用基礎 I が計 (84科目) 合計 (127科目) 学位又は称号 学士 (工学)	2後 3前後 3後後 4後 4後 1後前 ——————————————————————————————————	0 0 0 0 0 0	2 2 2 2 2 2 4 2 2 2 2 4	2 2 135 193 4位又は	8 学科 <i>0</i>	0 0 0	<u> </u>	0 0	8 4 3 4 8 8 8 8 8	4 2 2 3 4 4 4		業期間	1等	1 5 3 2 1 1 7 7	オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス
(1	材料機能工学実験 I 材料機能工学実験 II 材料機能工学実験 III 材料機能ゼミナール 先端技術管理 卒業研究 データサイエンス・A I 応用基礎 I データサイエンス・A I 応用基礎 I 小計 (84科目) 合計 (127科目) 学位又は称号 学士 (工学) 卒 業 ・ 修 了 要 件	2後 3前後 3後後 4通 1後前 ———————————————————————————————————	○ ○ ○ ○ ○ ○	2 2 2 2 2 2 4 2 2 2 2 4	2 2 135 193 4位又は	8 学科 <i>0</i>	0 0 0	<u> </u>	工学	8 4 3 4 8 8 8 8 8	4 2 2 3 4 4 4		業期間	事	1 5 3 2 1 1 7 7 87 146	オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス
	材料機能工学実験 I 材料機能工学実験 II 材料機能工学実験 II 材料機能工学実験 III 材料機能ゼミナール 先端技術管理 卒業研究 データサイエンス・A I 応用基礎 I データサイエンス・A I 応用基礎 I バ計 (84科目) 合計 (127科目) 学位又は称号 学士 (工学) 卒業・修了要件	2後 3前後 3後 4後 4通 1後 2前 ———————————————————————————————————		2 2 2 2 2 4 4 20 24	2 2 135 193 4位又は	8 学科 <i>0</i>	0 0 0	<u> </u>	工学	8 4 3 4 8 8 8 8 8	4 2 2 3 4 4 4		業期間	月等	1 5 3 2 1 1 7 7 87 146	オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス
	材料機能工学実験 I 材料機能工学実験 II 材料機能工学実験 III 材料機能工学実験 III 材料機能ゼミナール 先端技術管理 卒業研究 データサイエンス・A I 応用基礎 I データサイエンス・A I 応用基礎 I 小計 (84科目) 合計 (127科目) 学位又は称号 学士 (工学) 卒 業 ・ 修 了 要 件) 必修科目 総合基礎部門 専門教育部門)選択科目 総合基礎部門	2後 3前後 3後 4後 4通 1後 2前 ———————————————————————————————————	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ © © © © © © © © © ©	2 2 2 2 2 4 4 20 24 修	2 2 135 193 4位又は	8 学科 <i>0</i>	0 0 0	<u> </u>	工学	8 4 3 4 8 8 8 8 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9	4 2 2 3 4 4 4	,	業期間	等	1 5 3 2 1 1 7 7 87 146	オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス
	材料機能工学実験 I 材料機能工学実験 II 材料機能工学実験 III 材料機能工学実験 III 材料機能ゼミナール 先端技術管理 卒業研究 データサイエンス・A I 応用基礎 I データサイエンス・A I 応用基礎 I バ計 (84科目) 合計 (127科目) 学位又は称号 学士 (工学) 卒 業 ・ 修 了 要 件) 必修科目 総合基礎部門 専門教育部門)選択科目 総合基礎部門 専門教育部門	2後 3前後 3後 4後 4通 1後 2前 ———————————————————————————————————	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	2 2 2 2 2 4 4 20 24 修	2 2 135 193 4位又は	8 学科 <i>0</i>	0 0 0	<u> </u>	工学	8 4 3 4 8 8 8 8 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9	4 2 2 3 4 4 4	,	業期間	『 等	1 5 3 2 1 1 7 7 87 146	オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス
	材料機能工学実験 I 材料機能工学実験Ⅲ 材料機能工学実験Ⅲ 材料機能ゼミナール 先端技術管理 卒業研究 データサイエンス・A I 応用基礎 I データサイエンス・A I 応用基礎 I 小計 (84科目) 合計 (127科目) 学位又は称号 学士 (工学) 卒 業 ・ 修 了 要 件) 必修科目 総合基礎部門 専門教育部門 専門教育部門 専門教育部門 計	2後 3前後 3後後 46 40 10 16 84 10	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	2 2 2 2 2 4 4 20 24 修	2 2 135 193 4位又は	8 学科 <i>0</i>	0 0 0	<u> </u>	工学	8 4 3 4 8 8 8 8 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9	4 2 2 3 4 4 4	,	業期間	1等	1 5 3 2 1 1 7 7 87 146	オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス
	材料機能工学実験 I 材料機能工学実験 II 材料機能工学実験 II 材料機能工学実験 III 材料機能工学実験 III 材料機能できました 大端技術管理 卒業研究 データサイエンス・A I 応用基礎 I データサイエンス・A I 応用基礎 I データサイエンス・A I 応用基礎 I クトナール クール クール クール クール クール クール クール クール クール ク	2後 3前後 3後後 4後 1後 2前 ———————————————————————————————————	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	2 2 2 2 2 4 4 20 24 修	2 2 135 193 4位又は	8 学科 <i>0</i>	0 0 0		○○ 1学年	8 4 3 4 8 8 8 8 9 の学す	4 2 2 3 4 4 4 4 9 9 9 9 9 1 8 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		業期間	等	1 5 3 2 1 1 7 7 87 146	オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス
	材料機能工学実験 I 材料機能工学実験Ⅲ 材料機能工学実験Ⅲ 材料機能ゼミナール 先端技術管理 卒業研究 データサイエンス・A I 応用基礎 I データサイエンス・A I 応用基礎 I 小計 (84科目) 合計 (127科目) 学位又は称号 学士 (工学) 卒 業 ・ 修 了 要 件) 必修科目 総合基礎部門 専門教育部門 専門教育部門 専門教育部門 計	2後 3前後 3後後 4後 1後 2前 ———————————————————————————————————	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	2 2 2 2 2 4 4 20 24 修	2 2 135 193 4位又は	8 学科 <i>0</i>	0 0 0		工学	8 4 3 4 8 8 8 8 9 の学す	4 2 2 3 4 4 4 4 9 9 9 9 9 1 8 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		業期間	野等	1 5 3 2 1 1 7 7 87 146	オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス

- 1 学部等,研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等,研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合,大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 6 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 7 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 8 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
- 9 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員(助手を除く)」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員(助手を除く)」と読み替えること。
- 10 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、 前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
- (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
- 11 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

(理工:	教 育 学部 数学科)	課		程		等		(カ		概	()11		要		
(理土	<u>ナロ</u> ル				単位数	•	ž	受業形態	態		基	幹教員	員等の	配置		
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教 基幹教員以外の教	備考
総合基礎部門	英 英 英 ププドドアフフフフ中中中中体体体人人社社アア 欧 欧 国文日国心基基日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日	1 1 2 2 3 3 1 1 2 2 1 1 1 2 2 1 1 1 2 2 1 1 1 1		0	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0		0000	0	1 1				5 5 4 4 5 5 1 1 1 1 1 1 2 2 2 5 5 5 2 2 2 3 3 3 2 2 1 1 2 1 6 13 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	
専門教育部門	微微線が開発 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	11111111111111111111111111111111111111	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	2 2 2 1 1 1 1 2 2	2 2 1 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 2	0000 0000 0000	0000 0 000000000000		1 1 1 1 1 1 1 1 1	2 1 2 1 1 9 9 9 9		1 1 1 1 2 2 2 2 2		6 6 6 2 1 1 1 1 1 1 1 1 3 3 3	集集隔隔隔隔隔隔隔隔

	コンピューターサイエンス	1後	0		2		0						1	
	情報科学I	1前	0	2			0		1	1				
	情報科学Ⅲ	1後	0	2		0	0			2				
	情報科学Ⅲ 情報科学Ⅳ	3前 3後				2 2	0		1	1				
	情報社会と情報倫理	2前			2	2	0						1	
	情報技術の応用と職業	2前			2		0						1	
	アルゴリズム・データ構造論	3後			2		0						1	隔年
	経営情報論	3後			2		0			1				
	情報ネットワーク論	3前			2		0						1	隔年
	パターン情報処理論	3前			2		0						1	隔年
	人間情報処理論	3後			2		0						1	隔年
	微分積分Ⅲ 微分積分Ⅳ	2前	0		2		0		1	1				
	線形代数Ⅲ	2前 2前	0		2 2		0		1	1 1				
	線形代数IV	2前	0		2		0		1	1				
	数学通論I	2後	0		2		0		1					
	数学通論Ⅱ	3前	0		2		0		1					
	解析学 I	2前	0	2			0			1				
	解析学Ⅱ	2後	0		2		0			1				
	解析学Ⅲ	3前	0		2		0		1	1				
	解析学IV 解析学V	3前 3後			2 2		0			1 1				
	解析学VI	3後			2		0			1				
	解析学Ⅶ	4前			2		0			1				
	解析学Ⅷ	4後			2		0			1				
	代数学 I	2前	0	2			0			1		1		
	代数学Ⅱ	2後	0		2		0		1	1				
-	代数学Ⅲ 代数学Ⅳ	3前	0		2 2		0		1	1				
専 門	代数字IV 代数学V	3前 3後			2		0		1	1				
教	代数学VI	3後			2		0			1				
育部	代数学VII	4前			2		0			1				
門	代数学Ⅷ	4後			2		0					1		
	幾何学 I	2前	0	2			0		1					
	幾何学Ⅱ	2後	0		2		0			1				
	幾何学Ⅲ	3前	0		2		0		1					
	幾何学IV 幾何学V	3前 3後			2 2		0		1	1				
	幾何学VI	3後 3後			2		0		1					
	幾何学Ⅶ	4前			2		0		1					
	幾何学Ⅷ	4後			2		0						1	
	数理情報 I	2前	0	2			0		1					
	数理情報Ⅱ	2後	0		2		0			1				
	数理情報Ⅲ	3前	0		2		0			1				
	数理情報IV 数理情報V	3前 3後			2 2		0		1			1		
	数理情報 VI	3後 3後			2		0		1	1				
	数理情報Ⅵ	4前			2		0			1		1		
	数理情報Ⅷ	4後			2		0		1					
	計算機科学 I	2前	0		4		0		1	1				
	計算機科学Ⅱ	2後	0		4		0		1				1	
	計算機科学Ⅲ	3前			2		0		1	1				
	計算機科学IV	3前			2		0		1	1				
		214			9		\cap			1				
	計算機科学V 計算機科学VI	3後 3後			2 2		0			1				
	計算機科字VI 計算機科学VI 教職研究 I	3後 3後 3後			2 2	1	0	0	1	1			1	隔年
	計算機科学VI 教職研究 I 教職研究 I	3後 3後 3後				1 1		0	1	1			1 1	隔年
	計算機科学VI 教職研究 I 教職研究 II 数学研究	3後 3後 3後 3後						0	1	2		2		
	計算機科学VI 教職研究 I 教職研究 II 数学研究 数学研究	3後 3後 3後 3後 4通	0	8	2	1	0	0	1 8	2 9		2 2	1	隔年
	計算機科学VI 教職研究 I 教職研究 II 数学研究 数学講究 データサイエンス・AI応用基礎 I	3後 3後 3後 3後 4通 1後	0	8	2	1	0	0	1 8 2	2			1 4	隔年
	計算機科学VI 教職研究 I 教職研究 II 数学研究 数学講究 データサイエンス・AI応用基礎 I データサイエンス・AI応用基礎 I	3後 3後 3後 3後 4通	0		2 2 2	1 2	0	0	1 8 2 1	2 9 1		2	1 4 6	隔年
	計算機科学VI 教職研究 I 教職研究 II 数学研究 数学講究 データサイエンス・AI応用基礎 I データサイエンス・AI応用基礎 I 小計 (98科目)	3後 3後 3後 3後 4通 1後 2前		36	2 2 2 123	1 2 26	0	0 0	1 8 2 1 8	2 9 1		2	1 4 6 38	隔年
	計算機科学VI 教職研究 I 教職研究 II 数学研究 数学講究 データサイエンス・AI応用基礎 I データサイエンス・AI応用基礎 II 小計 (98科目)	3後 3後 3後 3後 4通 1後 1 2前	-	36 36	2 2 2 123 183	1 2 26 26	0	0 0 0	1 8 2 1 8	2 9 1		2	1 4 6	隔年
	計算機科学VI 教職研究 I 教職研究 I 教学研究 数学講究 データサイエンス・A I 応用基礎 I データサイエンス・A I 応用基礎 I 小計 (98科目) 合計 (140科目) 学位又は称号 学士 (理学)	3後 3後 3後 3後 4通 1後 2前 一	-	36 36 第	2 2 2 123 183 4位又は	1 2 26 26 学科(0	0 0 0	1 8 2 1 8	2 9 1	. at	2 2 2	1 4 6 38 97	隔年
	計算機科学VI 教職研究 I 教職研究 II 数学研究 数学講究 データサイエンス・AI応用基礎 I データサイエンス・AI応用基礎 II 小計 (98科目)	3後 3後 3後 3後 4通 1後 1 2前	-	36 36	2 2 2 123 183	1 2 26 26 学科(0	0 0 0	1 8 2 1 8	2 9 1	授	2	1 4 6 38 97	隔年
(1	計算機科学VI 教職研究 I 教職研究 I 教学研究 数学講究 データサイエンス・A I 応用基礎 I データサイエンス・A I 応用基礎 I 小計 (98科目) 合計 (140科目) 学位又は称号 学士 (理学)	3後 3後 3後 4通 1後 2前 一	-	36 36 第	2 2 2 123 183 4位又は	1 2 26 26 学科(0	〇 〇 一 一 理	1 8 2 1 8	2 9 1 9		2 2 2	1 4 6 38 97	隔年 オムニバス オムニバス
	計算機科学VI 教職研究 I 教職研究 II 数学研究 数学講究 データサイエンス・A I 応用基礎 I データサイエンス・A I 応用基礎 II 小計 (98科目) 合計 (140科目) 学位又は称号 学士 (理学) 卒 業 ・ 修 了 要 件	3後 3後 3後 3後 4通 1後 2前 一 一 及 び	-	36 36 第	2 2 2 123 183 4位又は	1 2 26 26 学科(0	〇 〇 一 一 理	1 8 2 1 8 8	2 9 1 9		2 2 2	1 4 6 38 97	隔年 オムニバス オムニバス
	計算機科学VI 教職研究 I 教職研究 I 数学研究 数学講究 データサイエンス・A I 応用基礎 I データサイエンス・A I 応用基礎 II 小計 (98科目) 合計 (140科目) 学位又は称号 学士 (理学) 卒 業 ・ 修 了 要 件) 必修科目 専門教育部門	3後 3後 3後 3後 4通 1後 2前 - - 及 び 36.	- - 屋 単位	36 36 9 修	2 2 2 123 183 4位又は	1 2 26 26 学科(0	〇 〇 〇 一 一 一 14	1 8 2 1 8 8 里学関係	2 9 1 9 9	,	2 2 2	1 4 6 38 97 等	隔年 オムニバス オムニバス
	計算機科学VI 教職研究 I 教職研究 II 数学研究 数学講究 データサイエンス・A I 応用基礎 I データサイエンス・A I 応用基礎 II 小計 (98科目) 合計 (140科目) 学位又は称号 学士 (理学) 卒 業 ・ 修 了 要 件) 必修科目 専門教育部門	3後 3後 3後 4通 1後 2前 一 — 及 ひ 36.	-	36 36 36 修 修	2 2 2 123 183 4位又は	1 2 26 26 学科(0	〇 〇 〇 一 一 一 14	1 8 2 1 8 8	2 9 1 9 9	,	2 2 2	1 4 6 38 97	隔年 オムニバス オムニバス
	計算機科学VI 教職研究 I 教職研究 II 数学研究 数学講究 データサイエンス・A I 応用基礎 I データサイエンス・A I 応用基礎 II 小計 (98科目) 合計 (140科目) 学位又は称号 学士 (理学) 卒 業 ・ 修 了 要 件) 必修科目 専門教育部門)選択科目 総合基礎部門 専門教育部門 計	3後 3後 3後 4通 1後 2前 - - 及 び 36. 20 68 88	- -	36 36 9 修 上 上	2 2 2 123 183 4位又は	1 2 26 26 学科(0	〇 〇 〇 一 一 一 14	1 8 2 1 8 8 里学関係	2 9 1 9 9	,	2 2 2	1 4 6 38 97 等	隔年 オムニバス オムニバス
	計算機科学VI 教職研究 I 教職研究 II 数学研究 数学講究 データサイエンス・A I 応用基礎 I データサイエンス・A I 応用基礎 II 小計 (98科目) 合計 (140科目) 学位又は称号 学士 (理学) 卒 業 ・ 修 了 要 件) 必修科目 専門教育部門	3後 3後 3後 4通 1後 2前 — — 及 び 36. 20. 68 88 12.	- -	36 36 6 修 上 上	2 2 2 123 183 4位又は	1 2 26 26 学科(0	〇 〇 〇 一 一 一 1 ⁴	1 8 2 1 8 8 里学関係	2 9 1 9 9 9 以 5 分		2 2 2	1 4 6 38 97 等	関本 オムニバス オムニバス

- 1 学部等,研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には,授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等,研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合,大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 6 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 7 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 8 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
- 9 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員(助手を除く)」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員(助手を除く)」と読み替えること。
- 10 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、 前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
- (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
- 11 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

C学部化学・		業	科	目	0	概	要	
	受業科目の名称 ミュニケーション I	主要授業科目	英語コミュニケーション1の学 理解することである。広範な文献 を通じて、英語を単文単位で運用	多目標は、基礎的な英語 読解、基本的な表現法、	リスニングの実体験を通し			備考
英語コ	ミュニケーションⅡ		英語コミュニケーションⅡの学 複雑な文章構造にも対応できる理 さらなる発展的な学修を目指す。	解力を養成することでは	らる。英検、TOEIC などの権	食定試験にも対応できる	るよう、英語表現の	
英語コ	ミュニケーションⅢ		英語コミュニケーションⅢは、3 の基本的な構文や構造を意識的に	英語コミュニケーション 学修していく。さらに <i>に</i>	I・Ⅱを受け、理工学部生 は語彙の広範囲化や、複雑な	が専門英語を読み解く よ文構造の分析能力の独	際、役に立つ英語 隻得を目指す。	
英語コ	ミュニケーションIV		英語コミュニケーションIVは、3 グ・スピーキング・リスニングの各 ルで活躍するために求められる英	場面において実際的な! 語を活用できる能力の[場面を想定しつつ、科学に関 可上を目指す。	関する英語表現をマスク	ターして、国際レベ	
プラクテ	ィカル・イングリッシュ I		会話・プレゼンテーション・(フwritten English 双方の能力をのゼンテーションについては、クラ後、発表内容に基づくエッセイを得を目指す。	ばす。授業最初の15% スを3~4人のグルー: 提出し、教員からの指導	↑をプレゼンテーションにあ プに分け、グループごとにつ 算を受ける。本授業を通じて	って、残りの時間に会計 プレゼンテーションに耳 て、国際的場面で運用。	活練習を行う。プレ 取り組む。発表の 可能な英語能力の獲	
プラクテ	ィカル・イングリッシュⅡ		プラクティカル・イングリッショ 指す。授業の形式は、プラクティション・エッセイライティングに 受講生が最も興味のあることを英	カル・イングリッシュ 取り組むこととする。	[と同様である。本授業では プレゼンテーションの題目に	は、特に、会話の練習と	と、プレゼンテー	
ドイツ	語 I		ドイツ語 I は、初めてドイツ語 I 語について)を行い、発音の規則 調領域では人称変化、名詞領域に 過程で基本語彙や表現を修得させ	を概説した後、基礎的は おいては名詞の性・数	☆文法事項を学修する。初報 ・格、冠詞等の格変化、前置	吸文法の2本の柱は動詞 置詞などを重点的に扱う	同と名詞であり、動	
ドイツ	搭Ⅱ		ドイツ語Ⅱは、ドイツ語Ⅰにおい 有の動詞(分離動詞・非分離動詞 を扱うことにより、初級文法を完成を目指す。	 、助動詞、動詞の時間 	制・法について学び、さらに	二関係代名詞、受動態等	等、より高度な内容	
ドイツ	搭Ⅲ		ドイツ語 I・II を踏まえた上で、 ツ語に関する多量の知識を整理・ では扱いきれなかった文法事項な	統合し、応用していくこ	ことになる。平行して初級プ	て法の重点的な復習を行	fない、また I・Ⅱ	
ドイツ	哲IV		ドイツ語Ⅲを引き継いで、中級 向上を図りつつ、中級ドイツ語の 持しており、その理解を深めるこ	テキストを読解する力。 とによって、学修者の	と涵養する。ドイツ語はヨー 言語能力一般の向上をも目指	-ロッパ言語の特性をカ 旨す。	かなり明瞭な形で保	
フラン	ス語 I		初めてフランス語を学ぶ学生の ず、フランス語を母国語とする人 ながら、基本表現の修得を通じて 日常表現を覚えるなど、「使える	々の生き方、考え方、! フランス語に親しむこ	残受性等を理解することにも まを目的とする。単に文法の	繋がる。発音から始める	が、初級文法を学び	
フラン	ス語Ⅱ		フランス語Iに引き続いて初級3 な学力を養う。文法に関しては、 形式にも触れる。新たにⅡで獲得 り、仏語検定の問題にも取り組む	動詞の様々な時制、法、 した知識を、Iで獲得	中性代名詞、関係代名詞の	D他、受動態など、フラ	ランス語固有の表現	
暦 フラン	ス語Ⅲ		フランス語 I・IIで学修した文注法に関してはフランス語の時制を せてできるだけ多くのフランス語 学、文化に関する教養を養う。	中心に復習し、フラン	ス語特有の論理を学ぶ。テキ	Fストの読解を中心に持	受業を進めるが、併	
フラン	ス語IV		フランス語Ⅲで始めたテキストの 中心に学ぶ。まとまったテキスト 知識が不可欠となる。このような	を正確に読むためには、	一般的な文法の知識のみた	ならず、社会、歴史、和	斗学、文化に関する	
中国語	I		本授業では、中国語の特徴や入門 国語について学修していく。さら 識の仕方を学び、異文化を理解す 語話者のものの見方や考え方につ	に外国語を学修することでもある。した	は、当該言語を使用しているがって、本授業では、中国語	いる民族や地域の文化、	ものの考え方、認	
中国語	П		中国語 I に引き続いて初級文法の を実感できるようにする。その過					
中国語	Ш		中級レベルの文章表現を教材と 図ることを、講義の柱の一つとす 自己の文化に対する自尊心の高さ 解を深めることをもう一つの柱と	る。加えて、本文の内容、改革・解放後の急速	字を理解することにより、中	中国という地域の歴史の	の長さ、中華民族の	
中国語	V		中国語Ⅲで始めたテキストの読 識のみならず、社会、歴史、科学 し、深く読み、深く考える訓練を	、文化に関する知識が	下可欠となる。このような約	総合的観点から、テキス		
体育科	学 I		運動・スポーツに積極的に参加! ポーツによって得られるチームワ る。なお、開講実技種目は曜日・ カー、ソフトボール、テニスを予	ークを深め、社会に必 時限によって異なるが、	要な人間性、協調性を涵養す	トる。開講コースから 1	1 コースを選択す	
体育科	学Ⅱ		運動・スポーツを通じて体力を によって得られるチームワークを る。原則として体育科学 I とは異 ル、バレーボール、卓球、フィッ	深めるとともに、社会になる種目を選択する。	こ必要な人間性、協調性を なお、開講実技種目は曜日・	€う。開講コースから〕 ・時限によって異なるか	1コースを選択す	
体育科	学Ⅲ		健康の保持増進を目的として、近 する能力を養う。また、運動・ス を選択する。なお、開講実技種目 バドミントン、フットサルを予定	ポーツを通じて社会性、 は曜日・時限によって』 している。	協調性、そして豊かな人間 異なるが、バレーボール、卓	引性を涵養する。開講: 草球、サッカー、ソフト	コースから1コース トボール、テニス、	
体育科	学IV		前期開講の体育科学Ⅲに引き続き 個人の実状に応じた運動処方を作 涵養する。開講コースから1コー 日・時限によって異なるが、バレ いる。	成する能力を養う。また スを選択する。原則と	E、運動・スポーツを通じて して体育科学Ⅲとは異なる種	て社会性、協調性、そし 重目を選択する。なお、	して豊かな人間性を 開講実技種目は曜	
人文科	学基礎 I		人間の存在の意味を問う授業と れることなく、文学や美学などの 間の持つ精神面の理解を深めるよ	様々な学問体系を援用 うにし、基礎教養の獲得	ン、且つ具体的事例の分析を 身を目指す。	ど通し、できる限り実証	正的方法によって人	
人文科	学基礎Ⅱ		人文科学基礎 I を引継ぎ、無機 実世界」をも深く探求するための 中での人間関係のあり方を具体的	新しい価値観を学ぶ。	Eた、高度に組織化された所	産業社会の人間疎外の起	呈こりやすい環境の	

	社会科学基礎 I		社会科学とは、社会環境と人間との相互関係を科学的に明らかにする学問体系のことである。本授業では先ず、我々が存在する社会が、歴史的にも空間的にも相対的条件の産物であることを、具体的事例を通して学ぶ。これらを総合的に学ぶことにより、社会・歴史・文化的事象に関する基礎教養の獲得を目指す。	
	社会科学基礎Ⅱ		社会科学基礎 I を承け、社会環境を相対化することにより、幅広い社会観を修得し、特に国際的感性を高める。ここでは主 に、従来の学問分野では歴史学、社会学、民族学などの基礎を学ぶとともに、学際的分野の授業として設定されている。本授 業を通じて、人類の歴史・文化の特徴的な在り方を多方面から学ぶことで、国際レベルで活躍するに相応しい判断力・思考 力・教養力の向上を目指す。	
	アジア文化論 I		アジア文化論 I で扱う学問領域は、主に当該地域に関連する文学と歴史学である。ここではアジアという地域を媒体として、それぞれの文化・国民性・歴史的背景などを学ぶことにより、具体的なイメージとして地域文化を理解する。国際理解の出発点として、アジア地域の異文化を歴史・文学など多角的側面から解明することにより、国際的な地域社会理解の基礎と背景を修得し、人文社会理解と国際理解を深めることを主眼とする。	
	アジア文化論Ⅱ		アジア文化論Iで扱う学問領域は、主に当該地域に関連する経済学・社会学・文化人類学など多岐にわたる。ここではアジア文化論Iでの修得を基礎とし、的確に現実社会を理解するため、当該地域の産業・環境といったより具体的、現実的諸問題を社会的な意識へと発展させる。こうした多面的な理解を踏まえたうえで、世界の中でのアジアとしての役割、位置づけなど、幅広い認識のうえに国際的視野を修得する。	
	欧米文化論 I		欧米文化論1で扱う学問領域は、主に当該地域に関連する文学と歴史学である。ここでは欧米という地域を媒体として、それぞれの文化・国民性・歴史的背景などを学ぶことにより、具体的なイメージとして地域文化を理解する。国際理解の出発点として、欧米地域の異文化を歴史・文学など多角的側面から解明することにより、国際的な地域社会理解の基礎と背景を修得し、人文社会理解と国際理解を深めることを主眼とする。	
	欧米文化論Ⅱ		欧米文化論Iで扱う学問領域は、主に当該地域に関連する経済学・社会学・文化人類学など多岐にわたる。ここでは欧米文 化論Iでの修得を基礎とし、的確に現実社会を理解するため、当該地域の産業・環境といったより具体的、現実的諸問題を社 会的な意識ルと発展させる。こうした多面的な理解を踏まえたうえで、世界の中での欧米としての役割、位置づけなど、幅広 い認識のうえに国際的視野を修得する。	
	国際関係論		地球上のどの国も「世界」というネットワーク・システムの各結節点である以上、孤立した存在ではありえない。「国内」 政治と「国際」政治が直接、間接にリンクする実情からして、国家間関係というシステムの構造や特徴を理解することは、世 界市民でもある私たちにとって必要不可欠な課題と言える。本講義を通じて、国際関係に特有のシステムを理解した受講生 が、社会に出た後も自ら思考力と想像力を働かせ、例えば国際社会における秩序形成と関連して、日本の社会政策や安全保障 について内省する契機を得られるよう配慮したい。	
	文学		本授業では、様々な作品の読解を通じて、人間の内部世界に展開される文学的現象を読み解くことで、感情世界の豊かな育成および、人間社会の論理を超えた想像力の不思議に対する視座の獲得に努める。	
総合	日本国憲法		「憲法を学ぶ」ためには、憲法になにが書かれているかを知ることだけでなく、なぜ憲法がそのように書かれているのかを 知る必要がある。憲法は国家としての日本の「かたち」を定めるが、そこにはそれを理念的に支える「憲法の原理」がある。 本授業では現在の日本が抱える憲法問題を題材にしながら、国家と社会のあるべき関わり方、人権を保障する意義、国民主権 の実現方法などを「憲法の原理」から再考する。	
基礎部門	国際経済論		日常的に触れながら、なかなか体系的な理解の進まないのが経済という主題である。ますますグローバル化の進む世界の一 員たる私たちは、グローバリゼーションが今や、ます「経済の」グローバル化として認識される以上、経済のイロへを知らず に済ますことは難しくなっている。本講義では、やがて社会人として自立する学生に必須の知識となりうる、国際経済に関す る基礎的な専門用語や概念を学ぶことを通して、国際経済の基本的構造、ひいては「経済」とは何かを理解する契機を提供す る。	
	心理学		私たちは心の成り立ちと独自の働きに強い関心を抱いているものの、それらを心理学的な観点から正しく理解しているわけでは、必ずしもない。人間の意識内で生起するさまざまな現象に関する学問的知見を体系的に学ぶことは、私たちが生きるうえで必要不可欠な知的営為である。本籍義では、そうした心理学の概要を学ぶ。人間存在を深い次元で決定づける精神性や心理構造に対する分析力、理解力の獲得を目指す。	
	基礎ゼミナール I		基礎ゼミナール1では、学科間の壁を越え、演習形式による授業を行う。担当する教員の専門領域に応じて、様々なテーマを取り上げる中で、①大学における学びのコツと工夫、②レポート等文章課題の作成の仕方、③情報収集・整理の方法、④プレゼンテーション技法などの修得を適宜織り込み、大学における学びへの円滑な接続を図る。	
	基礎ゼミナールⅡ		基礎ゼミナールⅡでは I と同様、担当教員の専門領域に応じて異なるデーマを取り上げつつ、演習形式による授業を行う。 課題に基づく発表やディスカッションを通して、受講者に I で学んだことを実践させつつ深化させ、もって知的世界への探求 に必須の基礎力とモチベーションを養う。	
	職業指導論		本科目は工業科の教員免許状取得に必要な科目であるが、「職業指導」を行うためには、自らのキャリア形成の理解が必要 だと考える。職業指導論では、キャリア・カウンセリングの理論、技法を中心に学び、多様化が進む現代社会(近代産業社 会)における職業人としてのキャリア形成との関連を生涯発達(Life Career Developing)の視点から考える。また、技法で は、学校現場のみならず若年者が抱える課題を中心に実践的な指導のありかたについて学修する。	
	日本語I		特定のテーマ (日常生活・比較文化・時事問題など) についてディスカッションを行い、論点を明らかにしたうえで小論文 を執筆する。次に、執筆した内容を発表し、受講生全員で日本語の適切性を検討する。これを繰り返すことにより、論文 (レ ボート) や発表 (プレゼンテーション) などで用いられる「アカデミック・ジャバニーズ」を修得することができる。また、 最後に「研究発表会」を実施する。	
	日本語Ⅱ		留学生は日常生活や大学生活で、様々な人と日本語でコミュニケーションし、日本語で専門の授業を受けなくてはならない。日本語が聴き取れなければ、意思の疎通をすることや、タスクをこなすことが困難であるため、留学生活に役立の聴解力を高める。相手による話し言葉の違い、聴き取りにくい音調や縮約形、ニュースや講義などにおける談話展開などをさまざまな場面を通して学ぶ。また、聴くことがアウトプットに繋がるように、いくつかのトピックを取り出し、ディスカッションや発表も行う。	
	日本語Ⅲ		日本語が流暢に話せる留学生も「日本語能力試験N1」レベルの高度な表現に対応できないことがある。本科目では、高度な表現が実際に使えるようになるまで演習形式で授業を進めていく。	
	日本語IV		ある程度まとまった内容をもら読み物の内容を正確に把握し、まとめ、発表できる日本語運用力の修得を目的とする。具体 的には次の3つの内容を予定している。①新聞記事を用い、情報を収集し、知識・関心を広げる練習、②デキスト・論文を用 い、論理的な文章を読む練習、③読解により獲得した内容をハンドアウトにまとめ、発表する練習。	
	日本語V		初級レベルで学んだ文法項目の理解を深めるとともに、それに加えて新しい文法を学ぶことによって、自然な日本語運用能 力を身につけることを目的とする。	
	微分積分 I	0	微積分の予備的な事柄として、実数の性質と連続関数の基本的な定理を学ぶ、次に微分法の規則を学ぶ。ここでは合成関数 の微分法と平均値の定理が重要である。指数関数、対数関数、三角関数、逆三角関数について必要とされる事柄を学修する。 多変数の微分法については主に微分の計算を学ぶ、計算技術の修得を重視し、適宜練習問題を用いて講義を行う。①2変数までの微分の計算が出来ること、②関数のグラフの概形がかける知識・能力の修得を目指す。	
	微分積分Ⅱ	0	微分と積分は逆演算である。微分法の計算から積分法の公式が得られることを確認し、それらを使って、初等関数である指数関数、三角関数、有理関数についての不定積分の計算法を修得する。多変数の積分は2変数を主に取り扱う。累次積分、変数変換などの計算を通して計算力の向上を図る。最後に1変数の微分積分学の基本定理に相当する、偏微分と重積分を使ってのグリーンの公式を理解する。計算技術の修得を重視し、適宜演習を交えて講義を行う。①2変数までの積分の計算が自由自在に出来ること、②計算力の向上を図るための知識・能力の修得を目指す。	
専門教	線形代数 I	0	線形代数学は微分積分学とならんで、大学初年の数学の2本の大きな柱である。それは線形数学の理論が自然科学や工学は もちろんのこと、情報科学や社会科学などの分野でも応用されているからである。由 行い別からなる実数を成分とする行列の 計算や様々な仕質を学修する。次いで、n 次の行列式を定義し、行列式の基本的性質や様々な行列式の具体的な計算を取り扱い、①行列の四則計算、行列式の計算ができ、②その応用として、連立1次方程式を解くための知識・能力の修得を目指す。	
育部門	線形代数Ⅱ	0	線形代数 I に続いて、平面と空間のベクトルを考察したのち、平面や空間の直接の一般化である数ベクトル空間および一般 の線形写像の基礎的理論を展開する。その後、行列の固有値・固有ベクトル、行列の対角化などについて詳しく学修する。全 体を通じて、適宜練習問題を用いて講義を行い、①線形写像が行列を使って表せること、②行列の固有値および固有ベクトル が求められること、③行列の対角化等を理解し、具体的な計算ができるようになることを目指す。	
	物理学 I	0	物理学のなかでも力学は最も古くから体系化され、物理学全体の発展の基礎となった分野である。力学で導入される力、運動量、エネルギー等の概念は自然科学全体をつらぬく基本概念であり、これらの概念は自然科学の様々な分野に普遍的に現れる。物理学 I では、力学のうら質点の運動を扱う。まず、運動の法則を学び、次に質点の運動の例として、空気抵抗が働く場合の放動体の運動や振動などを学修する。講義を通じて、等加速度運動、円運動、放物体の運動、単振動、減衰振動などの運動を数理的に取り扱う能力の修得を目指す。	
	物理学Ⅱ	0	物理学 I に引き続き、物理学 II では、力学のうち積分定理と剛体の運動を扱う。まず、積分定理でエネルギーや角運動量などの保存則を学び、次に剛体の静力学と動力学を学修する。講義を通じて、質点における保存力や角運動量などの概念とその保存則、また、重心、力のモーメント、慣性モーメントなどの剛体における概念を理解し、剛体の並進運動や固定軸まわりの回転運動などの運動を数理的に取り扱う能力の修得を目指す。	

		此初以山坡笠小山西山西山山山,大山 松初以沙河山山, ,大户时阳沙河田积土数7~1万上6 上8 上85千种44400000 1 - 1
	物理学演習	物理学は講義だけでは身に付かないため、物理学演習において毎時間演習問題を解くことにより、力学の基礎的問題はすべて解けるようにする。特に計算力の向上を目指す。具体的には、物理学1、Ⅱの範囲のうち、等加速度運動、円運動、放物体の運動、単振動、保存力、エネルギー保存則、角運動量、重心、力のモーメント、惯性モーメント、剛体のつりあい、剛体の固定軸まわりの回転運動などの問題を解く能力の修得を目指す。
	物理学実験 I	各班ごとに提示された実験テーマを、実験指導書を参考にしながら1日に1テーマずつ遂行していく。物理学実験1では、 金属の電気抵抗、荷電粒子の運動、仕事当量、光の屈折・回折・干渉、振動のコンピュータ・シミュレーションの5つの実験 を行う。理工学分野の実験を修得する上で必要な基礎技術、実験装置や各種測定装置の基本的な使い方を実際の測定を通じて 体得する。また、日常生活で見る一般の事象に対する理化学的な考察法、得られた結果をまとめて分析する能力、理工学分野 で必要な実験レポートの作成に関する共通概念を修得することを目指す。
	物理学実験Ⅱ	物理学実験 I に引き続き、物理学実験 I では、熱起電力、分光計、ヤング率、気圧による高度差測定、波形の合成のコン ビュータ・シミュレーションの5つの実験を行う。理工学分野の実験を修得する上で必要な技術の向上、実験装置や各種測定 、 要置のより優れた使い力を実際の測定を通じて体得する。また、得られた結果をまとめて分析する能力、理工学分野で必要な 実験レポートの作成に関する共通概念を修得することを目指す。
	化学 I	化学は100あまりの元素の組み換え方の"好み"を学び取っていく分野であるといえ、その性質上社会とのつながりが密接である。学生が将来どの分野で活躍するにせよ化学に関する正しい認識を身につけることが必須である。化学1では、i) 原子・分子の構造、ii) 化学結合論、iii) 化学反応論、iv) 酸・塩基、v) 酸化還元反応について、原理を理解することを目的とし、①原子軌道と混成軌道の観点から化学結合および分子のかたちを説明できる能力の修得、②化学反応の機構を理解し、自在に記述できる能力の獲得を目指す。
	化学Ⅱ	化学Ⅱでは、化学Ⅰに続いて熱化学や有機化学を学ぶことで、化学反応の原理や物質の構成の理解を深めるとともに、i) 化 石燃料や原子力などのエネルギー、ii) 地球環境問題、iii) 生体物質、iv) 化学物質の材料利用について、日常生活とのか かわりあいを強調して理解することを目的とする。全体を通して、①化学反応に伴うエネルギー収支を理解し、熱化学方程式 を記述できること、②地球に存在するエネルギーや環境問題を化学的に説明できること、③日常利用している物質の構造と反 応機構を説明できる能力の向上を目指す。
専門教育	化学実験 I	種々の化学現象を理解するためには、実際に物質に触れ、現象を観察する実験を体験することが重要である。化学実験 I では、定性分析および容量分析における知識・技術を体験的に学修する。レポート形式の実験ノートに、定性分析によって得られた結果、および容量分析によって得られたデータを計算処理することで求められた値をまとめ、考察することで、実験の目的および手法の理解を深める。技術者・研究者として必要不可欠な実験の計画・実行およびデータ解析の能力を養う。
部門	化学実験 Ⅱ	化学実験IIでは、有機化学実験および生化学実験を通じて有機化合物の合成、化学反応速度論、および酵素反応における知識・技術を体験的に学修し、理解を深める。本実験では、各操作の意味や目的、あるいは原理を十分考えることにより、化学の本質に迫ることが可能である。得られた結果をまとめ、分析・考察を行い、レポート形式の実験ノートを作成する。実験とレポート作成を通じて、正確に実験を遂行し、データを解析する能力、および論理的な思考力を養う。
	地学 I	地学の基礎全般を平易に解説する。地学 I では地球の構造 (内部構造、火成岩、造岩鉱物) から地球の活動 (プレートテクトニクス、火山活動、地震と地殻変動) までの理解を目的とする。
	地学Ⅱ	地学の基礎全般を平易に解説する。地学Ⅱでは日本列島の代表的な地形、地質、地層、化石、火山、岩石、鉱物、地球の歴史、大気・海洋・宇宙について理解することを目的とする。
	地学実験 I	本科目では、主に固体地球の表層部で起こっている、あるいは起こった諸現象を理解し、解明するための、もっとも基礎的な子法の修得を目指す。主に地形図および数値地図を用いた地形解析を行い、地形断面図、水系図、接峰面図の作成を行う。また、名古屋市域の地形野外調査を行うことによって、実際の地形の構成を体感する。さらに、地表をつくる岩石の肉眼・偏光顕微鏡観察も行う。地形図の判読能力の修得、岩石の肉眼および顕微鏡下での特徴の理解、偏光顕微鏡の基礎的な操作方法の修得を目的とする。
	地学実験 Ⅱ	地学実験 I の発展的内容として、地質図の読み方と書き方、地層の野外観察、ボーリングデータにもとづく地質断面図の作 成などを行い、次の5つの能力の修得を目指す。①地層の走向傾斜と地形との関係を理解できる、②ルートマップから地質図 を作成することができる、③地質図から地質断面図を作成することができる、④ボーリングデータから地質構造を読みとり、 地質断面図を作成できる、⑤野外において走向傾斜の測定や鍵層の追跡ができる。
	生物学	本授業の前半では、生物学の基礎的な内容について、高等学校で学んだ内容の復習も兼ねて丁寧に解説する。後半では、教員もしくは生物に関わる職業に就いた際に必要とされる知識や考え方を提供することを念頭において、外来生物や絶滅危惧種といった人間活動と密接に関わる諸問題、ビオトーブ創出や基礎的な生物調査法について取り上げる。
	生物学実験	本実験の前半では、実体顕微鏡や生物顕微鏡等の生物実験に関わる器具の正しい使い方を身に付ける。また後半では、原形質分離の観察とそのメカニズムの理解、体細胞分裂の観察と間期および分裂期の出現割合に関する考察、動植物プランクトンなどの観察による特徴や役割の理解など、生物学に対する理解を深めるとともに、観察力を養う。

専門教育部門	理工学概論		本講義では、工学系の各分野および物理・化学の分野において、現在どのようなことが行われ、どのように社会に役立っているか。また課題は何か、将来の工業的に関わる者としての総合力の養成を目指す。 (オムニバス方式/全15回) (49 松本幸正/1回) (49 松本幸正/1回) (47 松本寺正/1回) (47 公本寺正/1回) (48 松本幸正/1回) (49 松本幸正/1回) (49 松本幸正/1回) (50 大海の大学生) (11 今井大地/1回) (51 大海の大学生) (52 中大学生) (52 中大学生) (53 世界上で) (52 中大学生) (53 世界上で) (54 中大学生) (55 世界上で) (55 世界上で) (56 世界上で) (56 世界上で) (57 中大学と) (57 中大学と) (57 中大学と) (58 中大学	オムニバス方式
	技術者倫理	0	技術的な分野において、問題を技術者の立場とともにユーザーの立場から見ること、また問題の中に解決のために必要ない くつかの条件を見抜くこと、そしてその条件に従って考えることによって、表現能力や議論能力の基礎を身につける。日常を 問題解決の実験の場と考え、安全性と責任に関する倫理問題、特報管理と倫理問題、組織における倫理問題などの日常的な倫理問題にフォーカスし、技術者が出会う倫理問題を考える練習を行う。	
	コンピューターリテラシー	0	コンピュータやインターネットを用いる際に、注意すべき諸問題(情報倫理)について学び、安全にコンピュータを用いる技術を身に付ける。文書作成、表計算、プレゼンテーションなどにおいて、大学の講義や卒業研究において必要とされるフォーマットや決まりを知り、自らインターネット等を利用してその実現方法を調査し、必要に応じて作成する能力を身に付ける。	
	データサイエンス・A I 入門		近年注目を集めているデータサイエンスとAIが、社会においてどのような位置づけにあり、様々な分野でどのように活用されているのかを学習した上で(導入)、データサイエンスの初歩的な手法をマスターするとともに(基礎)、データサイエンスやAIを活用する際の様々な留意事項を身に着けていくことを目的とする。ほぼ毎回の講義で、理解度の確認(練習問題)を行う。こうした学習を通じて、経済・社会における様々な問題を分析し、その本質を理解し、解決できる能力を培うことを目的とする。 (オムニバス方式/全15回)(53 山田宗男/1回) 1 講義ガイダンス (64 新美潤一郎、27 齊藤公明、54 山本修身/1回)(共同) 2 社会で起きている変化 (64 新美潤一郎、27 齊藤公明、54 山本修身/1回)(共同) 3 活用事例(1社会科学分野) (47 前田智彦、42 原田知佳、45 藤原康弘、53 山田宗男/1回)(共同) 4 活用事例(社会科学列野) (55 兒島寿明、53 山田宗男/1回)(共同) 5 活用事例 (理工学分野)(56 田忠男/1回)(共同) 6 活用事例 4 (生命科学、薬学分野)(72 焼田部/1回) 7 データを可視化する(25 勝浦正樹/1回) 8 度数分布、ヒストグラム、分割表 (25 勝浦正樹/1回) 9 代表値、数とばり (53 山田宗男/1回) (共同) (53 山田宗男/1回) (共同) (54 山本修身、74 米澤弘毅/1回)(共同) (55 山本修身、74 米澤弘毅/1回)(共同) (56 山本修身、74 米澤弘毅/1回)(共同) (57 中の様い方 (48 松本校太、30 庄村勇人/1回)(共同) (47 前田智彦、153 野崎佑典/1回)(共同) (47 前田智彦、153 野崎佑典/1回)(共同) (47 前田智彦、153 野崎佑典/1回)(共同) (47 前田智彦、153 野崎佑典/1回)(共同) (55 勝浦正樹、53 山田宗男/1回)(共同) (56 勝浦正樹、53 山田宗男/1回)(共同)	オムニバス方式 共同 (一部)

	数学基礎演習 I		日常、道具として使っているレベルの数学なら、具体例の計算を十分やれば無理なく会得できる、という信念に達するよう 微分を主体として授業を行う。「順序良く、そして充分な量の具体例を計算すれば、理屈は自然に身につく」ということを、 易しい例で実感し、「要は自分のやる気だ」と確信が持てたところで、自発的学習のきっかけとして、毎回練習問題を提示す る。	
	数学基礎演習Ⅱ		高等学校までの学習内容を整理したうえ、次の内容を演習中心に行う。簡単な積分の計算が出来るようになること、線形代数については、線形空間の基礎を確認して、行列の対角化までを学び、線形空間のイメージがつかめること、を到達目標とする。	
	物理学基礎演習 I		大学で学ぶ「物理学 I・II」の授業は高校での物理学履修を前提として進められる。高校で物理を履修しなかった学生や工業高校出身者にとっては、「物理学 I・II」の講義は難解であり、不安を感じる学生も少なくない。物理学基礎演習 I では、物理学 I に対応して、等加速度直線運動、ニュートンの運動の法則、運動方程式のたて方、放物運動、等速円運動、弾力とフックの法則、単振動などを学習する。物体の運動を微分積分を用いて数理的に取り扱う能力の習得を目指す。	
	物理学基礎演習Ⅱ		物理学基礎演習 I に引き続いて、物理学基礎演習 II では物理学 II に対応した授業を行う。具体的には、仕事、位置エネルギー、運動エネルギー、運動量、力積、運動量保存の法則、重心、力のつり合い条件、回転運動、慣性モーメント、角運動量などを学習する。保存則の理解と剛体の運動を微分積分を用いて数理的に取り扱う能力の習得を目指す。	
	化学基礎演習 I		(化学基礎演習」では、化学1の理解を助けることを目的とする。1)原子・分子の構造、ii) 化学結合論、iii) 物質の状態、iv) 化学反応論、v) 酸・塩基、vi) 酸化還元反応について、基本知識を習得する。授業では、演習問題を解いていくことで理解を深め、①モル計算、②原子と分子の構造、③化学結合の種類と原理、④基本的な化学反応式の理解と記述能力を養う。	
	化学基礎演習 Ⅱ		化学基礎演習IIでは、化学基礎演習Iに続いて、高校までの化学の内容にも立ち戻って化学の基礎をしっかり身につけ、化学IIの理解を助けることを目的とする。i) エネルギー、ji) 有機化学、ii) 環境、iv)高分子化合物、v) 色とにおいの化学、vi) 生体物質、vi) 合成化学品などの材料化学について、基本知識を習得する。授業では、演習問題を解いていくことで理解を深め、①へスの法則、②有機化合物や環境汚染物質の構造と反応機構、③生体物質や合成化学品の構造や性質の理解と記述能力を養う。	
	英語基礎演習 I		英語運用能力は、21世紀を生きる技術者にとって決定的に重要である。英語力に不安を感じる学生に対して、ごく基礎からはじめて、大学での授業に必要な基礎学力、国際的に通用するコミュニケーション基礎能力、学士レベルの英語運用能力の修得を目指す。	
	英語基礎演習 II		英語基礎演習Ⅱでは、英語基礎演習Ⅰで学習した語彙・文法に対する知識をさらに発展させる。特に高校卒業までに学習した語彙・文法の再確認と徹底理解に努める。情報伝達手段として、単文構造の理解に加えて、重文・複文構造などの複雑な内容にも対応できる総合的な英語力の養成を目指す。	
	固体物性 I および演習	0	個体の電気的・光学的性質ならびに電気・電子材料に関する講義の入門として、結晶構造とその構造解析の手法および原理、そして結晶を形成する結合力について学ぶ。結晶の基本概念である対称性や空間格子(ブラベ格子)、面指数について結晶構造の具体例と共に学ぶ。次に、定格子の概念や、結晶における波の団折について、精造解析に必要な数学的手法(フーリエ解析)とともに学ぶ。講義で現象や解析方法を学び、演習で実際にそれを扱う能力を養う。	
	固体物性Ⅱおよび演習	0	固体物性Iおよび演習で学んだことをさらに発展させ、格子振動の量子化(フォノン)、格子比熱、そして固体内の電子状態を記述する自由電子モデルやバンド理論について理解する。格子振動の量子化したフォノンの概念、それに基づき導かれる固体の熱的性質を学ぶ。次に固体における電子状態について自由電子モデル、電子状態密度、バンド理論を学び、エネルギーバンド構造と固体の物理的性質の関係について学ぶ。以上の内容を講義および演習を実施して理解する。	
専	固体物性Ⅲ	0	まずは固体における電子状態密度やエネルギーバンドについて復習し、結晶の物理的性質とエネルギーバンド構造との繋が りを理解する。その後、固体物性の応用例として半導体を取り上げ、LEDや半導体レーザーといった発光素子において、固体 物理学がどのように応用されているのか理解する。固体における自由電子モデルから出発し、状態密度、エネルギーバンド、 結晶の導電性について学ぶ。これらの知識に基づき、半導体の発光原理、LEDや半導体レーザーの動作原理を学ぶ。講義およ び演習を実施して内容を理解する。	
門教育部門	固体物性IV	0	固体物性Ⅳは光物性の入門的位置づけとして、固体における光の反射や透過現象の基礎、誘電関数、そしてMaxwell方程式に 従育電磁場の量子化により現れる光子の概念について理解し、光物性を学ぶために必要な基礎知識の習得をを目指す。固体に おける光の反射、透過現象といった光学の基礎を扱い、次に固体における電子と光の相互作用をモデル化した誘電関数につい て、金属、誘電体、半導体で用いられる代表的モデルを解説する。その後、Maxwell方程式に従う電磁場のラグランジアンお よびハミルトニアンの導出過程や、光子の概念について理解する。	
	熱力学	0	材料の技術者として理解が必要な、熱・仕事・内部エネルギー・エンタルビー・エントロビー・自由エネルギー・化学ボテンシャル、さらには熱力学第1法則、熱力学第2法則を理解し用いれるようにする。熱と仕事、内部エネルギー、エンタルビー、熱の移動、カルノーサイクルと熱機関の効率、熱力学第2法則と数式化、エントロビーと気体分子運動論、自由エネルギー、化学ボテンシャル等の内容を講義で説明する。	
	統計力学	0	温度、内部エネルギー、エントロビーなどの巨視的な状態量を分子論的な立場から解釈する。気体分子運動論の基礎や一般的なポルツマン分布の導出方法について学び、力学系や集団などの概念を用いて統計力学の方法論を確立する。さらに、量子統計力学についても学ぶ。 熱力学で学ぶ理想気体の状態方程式と関連付け、気体分子の速度分布について説明する。解析力学の手法を用いてポルツマン分布を導出し、正準集団など統計力学の基礎を確立する。古典力学の破綻から量子力学への発展を概観し、量子統計力学(ボース統計、フェルミ統計)を導出する。	
	真空工学	0	真空技術はあらゆる生産の現場に浸透し、一部の専門家だけではなく、全技術者にその基本知識が求められる。本講義では、真空に関わる原理を知り、超高真空技術に適応できる方法論を修得することを目的とする。 真空技術とは何か、真空技術の歴史について述べた後、圧力単位系を学ぶ。第2章では、奇薄気体の運動論を解説する。マクスウェルーボルツマン分布を導出し、それを応用し、分子の平均速度、入射頻度、平均自由行程などの統計量を導く。宛定章では、気体分子と表面の相互作用について学ぶ、超高真空領域での到達圧力の決定因子は、表面に吸着した分子の再放出であり、その放出頻度をいかに減らすかが圧力低下の設みの難であることを理解する。吸着エネルギー、吸着・脱離速度論を学ぶ。第3章では、各種ポンプと真空計の基本を概観する。動作原理を理解し、不測の事態に対応できる知識を学ぶ。	
			[応用化学専攻] (9 丸山隆浩) 半導体、触媒、電池電極、摩擦・潤滑、濡れ性における、重要な機能を発現する上で、表面の制御は極めて重要である。ま た、近年著しく進歩する、バイオ、医療、ナノ材料の分野では、対象物質の表面の占める割合は大きく、表面の物理・化学に 対する正しい理解が必須である。本講義では、表面構造、吸着、表面第一構造論、表面ダイナミクスといった表面科学の基礎 を学ぶ、各専門で活用できる表面化学の知識を身につけることを目的とする。この授業科目を通じて、①吸着過程、表面構造 造・電子状態を理解し、電子論をもとにした吸着モデルについて、また、②表面固有のダイナミクスについて説明できる力を 身につける。	
	表面化学	0	[材料機能工学専攻] (6 大田英治) 半導体、触媒、電池電糕、摩擦・潤滑、濡れ性における重要な機能を発現する上で表面の制御は重要である。本講義では、吸 着速度論、表面構造、表面電子状態、吸着の電子論、表面ダイナミクスといった表面科学の基礎を修得することを目的とす る。 譲義の導入として、表面を反応場とするすべての物理化学過程の端緒である吸着につき、その現象論と速度論を学ぶ。次章で は、表面エネルギーとはなにか?その理解をもとに表面固有の構造の成り立ちを学ぶ、第章では、表面の電子構造論を学 ぶ。ここでの特徴は、直感的な理解で使いやすい。知識能得各主観し、できるだけ式を排しごックを展開する。この理解を もとに、遷移金属d電子表面状態や吸着分子-表面相互作用を電子論の視点で系統的に理解する。最終章では、吸着に続く、 表面ダイナミクスを概観する。	
	電磁気学Ⅰおよび演習	0	クーロンの法則、ガウスの法則、ビオサバールの法則、アンペールの法則を使いこなして、電荷、電場、電位、さらに電流、磁場に対する理論的な考察ができるようにする。電場や磁場中において物質がどのような応答を示すのかを理解するために、電磁気学と必要不可欠な学問である。本講義では、電磁気学の基礎となるクーロンカ、ローレンソカ、そして、電場、磁場を理解する。特に、電荷と電場の関係、さらに電流と磁場の関係について法則を理解しながら修得する。講義に続いて行われる演習を通じてその定着率を高める。	
	電磁気学Ⅱおよび演習	0	電磁気学 I で学んだことを発展させて、電場や磁場に対する物質の応答と時間変化する電場と磁場の関係を理解できるようにする。電場や磁場中において物質がどのような応答を示すのかを理解するために、電磁気学は必要不可欠な学問である。本講義では、電場や磁場に対する物質の応答現象として分極と磁化を理解する。さらに、時間変化する電場や磁場として変位電流や電磁誘導を理解し、関連法則を統合することでマックスウェル方程式を修得し、電磁波の存在を理解する。講義に続いて行われる演習を通じてその定着率を高める。	
	1	1		

	量子力学 I および演習	0	現代科学技術の構築に多大なる影響を与えてきた、量子力学の基本的な考え方を学ぶ、まず、量子力学の特有の概念・考え 方が、古典力学などとどういった点で違うかをよく理解する。そして、その理解の上に立って、量子力学の最も基本的な式で あるシュレディンガー力程式のもつ意味と使い方を学習する。さらに、確率的解釈、演算子の概念、固有関数と固有値の問 題、期待値、エネルギー、保存則などの考え方を、いくつかの簡単な具体例を使って学ぶ、また、演習では波動の扱い方や シュレディンガー方程式を井戸型ボテンシャルや調和接動子、トンネル効果等の実際の現象にあわせて理解をする。	
	量子力学Ⅱおよび演習	0	量子力学Iで学んだことを、原子の構造に発展させ、原子の周りをまわっている電子の軌道について理解を進める。まずはじめに、水素原子モデルをシュレディンガー方程式を用いて、解析的に解くことによって、主量子数・方位量子数・総気量子数・水ビンの概念を学ぶ。また、ゼーマン効果やスピン起動相互作用等の物理現象について学ぶ。さらに行列力学や近似法を使った解析方法について学び、多電子原子の電子の軌道について学び、最終的に化学反応と電子の軌道の関係について学ぶ。これらを講義および演習することによって、現象の理解および解析手法について学ぶ。	
	量子力学Ⅲ	0	自然放出と誘導放出、反転分布と光増幅、半導体レーザ、光導波、光ファイバー、光検出器、光集積回路などについて講義 を行う。また、それらのデバイヌを用いた光通信技術に関しても講義を行う。まず自然放出と誘導放出の違いに関して学ぶ。 自然放出と誘導放出の違いについて理解し、誘導放出光の特長に関して理解する。次に、光準体レーザに必須の反転分布・光 増幅に関して内容を理解し、半導体レーザの動作原理に関して理解する。そして、現在実現されている半導体レーザの構造等 について説明する。また、量子効果を利用したエレクトロニクスデバイスについても紹介する。	
	電気回路および演習	0	電気回路の解析や設計の洞察力を養う上で必要となる基礎的事項や基本的な解析手法を系統的に学習する。電気回路、特に 正弦波交流回路では、電圧あるいは電流を実関数を使って表す瞬時値と、瞬時値の代わりに複素数による記号法(フェーザ表 示)を用いる特有の計算手法があり、この2つの考え方を講義および演習により理解する。本講義では、直流・交流回路および 過渡現象に関して順次学んでいく。キルヒホッフの法則や重ね合わせの定理、テブナンの定理など基本的な変換、共振現象、 交流回路の周波数依存性等について学ぶ。	
	電子回路設計・製作	〇 (材)	受動素子と能動素子の動作、そしてそれらを用いた基礎的な電子回路設計ができる。その設計に基づいて、自ら電子回路を構築し、正しい動作に向けた評価ができるようにする。挑抗・コンデンサ等の受動素子、LD・トランジスタ等の衝動素子について実験を見ながら、動作原理について理解する。そして、これら素子の動作原理に基づいた電子回路を設計し、実物を用いて回路を作製する。また、正しく回路が設計、作製できたかどうかを評価する方法も理解する。各回ごとにレポートを作成し、作製方法の基本も理解する。	
	電子回路	0	ダイオード・トランジスタの基本的な動作、増幅回路の動作原理、演算増幅器の原理と使用法、発振回路などのアナログ電子回路およびデジタル電子回路の基礎的な内容を勉強する。本譲義では、ダイオード、トランジスタ、FET、MOS-FET、CMOS等の基本的な受動素子について特性について理解し、ダイオード・トランジスタ・FET・MOS-FET等を用いた基本的な回路、発振回路・電力増幅回路・高周波増幅回路・変調・復調回路について学び、その動作原理について理解する。また、基本的な回路解析の手法も学ぶ。	
	電子材料評価	0	電子 (エレクトロニクス) 材料には専体・半導体・絶縁体・誘電体・磁性体・結晶材料など様々な材料が存在し、その分析・評価方法は様々である。本書義では、各種材料の評価技術に関して学び、実際に材料開発を目指すうえで最適な電子材料評価を適用するための能力を養うことを目的とする。電子材料の評価技術に関して述べたあと、電気伝導率・光の屈折率・試料の表面平坦性・材料の組成等の電子材料の性質や表記方法について学んだ後に、それぞれに関しての解析方法に関して説明する。また各種では解析可能な領域が存在することを理解し、最適な評価技術をどのように選定していくのかを実例を交えて説明する。	
	半導体基礎論	0	本講義ではダイオード、トランジスタ、FET、発光ダイオード、レーザダイオード、サイリスタなどを構成する半導体の物性 を、理論的に理解する。半導体結晶、格子振動、電気伝導、状態密度、クローニッヒ・ペニーモデル、半導体のバンド理論に 関して順次説明し、半導体物性の基準に関して学ぶ、特に、半導体も晶、半導体中の電気伝導、半導体結晶中の電子のエネル ギー状態、特にエネルギーバンド構造とバンドギャップ、電子・正孔に関して詳しく説明する。	
専門教育部門	半導体工学	0	本講義では、半導体の物性や添加する不純物、更には半導体同士の接合、半導体と金属との接合の働きなど基本的性質や構造の学習を通じて、ダイオード、トランジスタ、FET等の半導体デバイスの中で何が起きているか、その現象を理解する。半導体中の電子統計、不純物半導体の性質(特にp型、n型)について述べ、pn接合パンダイアグラム、電流・電圧特性)について説明する。その後、トランジスタの動作原理を説明し、トランジスタがな世婦福機構が存在するのか、また特性を向上させるためには何が必要なのかを説明する。さらに、半導体と金属の接合、接合型FET、MOS-FET、CMOS等の動作原理について説明する。	
13	半導体デバイス	0	IT技術を支えるマイクロエレクトロニクスの中枢である半導体デバイスの基本的理解を図る。具体的には、電子デバイス、 光デバイスの基本を理解し、また、量子効果や材料設計などの原理を理解することを目標とする。半導体デバイスの基本原理、超格子、半導体の光吸収(電子と光の相互作用)、光伝導と光起電力、MOSFETの動作原理、MOS関連デバイス、MOSFETの縮小化、光デバイス等を順次学ぶ。	
	光・誘電工学	0	誘電体の主要な特性である誘電特性、さらに光学特性について理解する。誘電体内の振る舞いを記述できる法則・式を理解 し、それらを利用した応用例について理解する。誘電特性として複素誘電率、誘電損を理解し、電磁波における複素屈折率、 吸収係数を理解する。また、電磁波の発生例として足Dなどの原理に関しても理解する。また、電磁波の磁波の記述のた めに、スネルの法則とフレネルの式を理解し、それらを利用した応用として光導波路と多層膜反射鏡を理解する。	
	材料力学Iおよび演習	0	材料に引張り、圧縮、曲げ、ねじりなどがそれぞれ独立に作用したときに材料に生じる応力と変形について理解し、基本的な静定問題に対して数式を用いて解析できる能力を養う。応力とひずみ、丸棒のねじり、はりの曲げ等の基本的な内容を中心に、講義で現象の理解を進め、その数学的な理解をするために演習を実施し、必要な解析能力を養う。	
	材料力学Ⅱおよび演習	0	本講義では、材料力学および演習1の内容を基盤として、ねじり、衝突、座屈荷重下の部材についての軸広力や曲げ広力、 変形量や破壊荷重など機械材料を設計・製造する技術者に必要な知識を養うことを目的とする。ねじり、衝撃、座屈荷重下の 部材について軸応力や曲げ応力、変形量や破壊荷重などを中心に、講義で現象等の概要を説明し、その数学的な解析能力を養 成するために演習を実施する。	
	材料強度学	0	本講義では、最初に欠陥周囲の応力状態(応力集中)から講義を始め、次いで破壊の条件を理解する。さらに、実際の材料の組織構造と破壊の条件を四関係を設明し、応力集中、破壊抵抗、強度の統計処理の3つの内容について理解することを目標とする。本講義では、材料強度の重要性について述べた後、材料強度の重要性について連絡、エネルギー開放率、破壊パラメータ、コンプライアンス法、強度分布の統計的処理等について述べ、最後に各種材料の強度について講義する。	
	金属材料	0	本講義では、固体材料であるメタルに特化し、さらに鉄系金属材料を対象とし、鉄鋼材料における平衡状態図、連続冷却変態線図、恒温変態線図の誘力を学習する。これらの知見を基礎として、鉄鋼材料における熱処理過程とミクロ組織の関連を、総合的に理解する。鉄の結晶構造、格子定数等の基礎地蔵、純鉄における相変態、鉄炭線系平衡状態図、炭素鋼における標準組織等の基礎的な知識を学ぶ。さらに、炭素鋼の焼きもどし過程などについて説明し、その工業的な重要性に関して説明する。	
	工業材料化学	0	本講義では、固体材料であるメタルに特化し、さらに非鉄金属材料を対象とし、塑性加工、熱処理、組織制御などの基本事項について解説し、さらに銅、アルミニウム、マグネシウム、チタン、ニッケルさらには複合材料など工業上重要な非鉄金属および合金について、金属材料学ならびに材料組織学的観点から理解する。 非鉄系金属材料の重要性について述べた後、非鉄金属材料の特性・塑性加工・変形挙動・高温変形・超塑性現象等の基礎的な概念を学んだ後に、銅・アルミニウム・マグネシウム・チタン・ニッケル等の実用上良く用いられる合金に関してその特長・製造プロセスなどを紹介し説明する。	
	高分子工学	0	プラスチックを構成する合成高分子の基本構造と性質、合成高分子の集合体である高分子液体・高分子固体の構造と性質を理解する。また、高分子固体が示す粘弾性の基本を理解する。プラスチックを構成する合成高分子の基本構造と性質について説明した後、高分子磁体(溶融体)や高分子固体の構造と性質について解説する。さらに、高分子固体が示す粘弾性の基本(線形粘弾性)について、物理モデルを用いて解説する。	
	高分子・複合材料	0	身の回りの様々な用途に使われているプラスチック材料とその成形加工法について説明した後、性質の異なる複数の材料を組み合わせた複合材料について、特に繊維強化プラスチックを中心にその構成素材・内部構造・成形加工法・力学的挙動について学び、複合材料の機能性を利用する基礎を習得する。さらに、複合材料がどのように活用されているか、どのような問題点があるかについて、具体例を挙げながら講義する。プラスチックの種類と性質・適用事例について説明した後、具体的な複合材料として繊維強化プラウチックの構成素材、内部構造、力学的性質、界面、力学的な挙動等について順次説明する。	

	機械加工	0	ほとんどの部材は所定の寸法形状が付与され実用に供される。この寸法形状付与には切削加工に代表される除去加工が適用 されるが、構成刃先の形成等、加工に特有な現象が加工抵抗や寸法精度に影響を与える。本講義では、この切削加工時におけ る刃先周囲の減少を理解し、材料に応じた加工条件の適定に関する基礎概念の理解を目標とする。除去加工の位置づけ、必要 性、適用範囲について述べた後、切削加工の幾何学、定式化、切削温度の定式化、加工表面の評価、工具材料と工具損傷、被 削材料、加工液、切削加工等について順次説明していく。研削加工に関しても同様に解説する。
	塑性加工	0	本講義では、転位を中心とした結晶塑性と物質の変形について説明し、その後材料の破壊と長寿命化、さらに長寿命化を実現するための組織制御法について解説・説明する。さらに、塑性変形の応用事例についてが記さる。転位論を中心とした結晶型性の基準について述べた後、各種材料の強度化法、高温変形等について説べた後、各種材料の強度化法、高温変形等について説明する。そして、各種材料の破壊(高温破壊・疲労破壊・破壊力学等)等に説明し、塑性変形を応用した各種塑性加工の事例も解説する。
	機械要素設計	0	本講義では、機械設計に必要となる材料の性質、工作法、設計基準の基礎について解説する。また、基本的な機械要素であるねじ・軸・軸受を取り上げ、それらの具体的知識と設計法について解説することで、それらを習得することを目的とする。 機械設計の基礎と機械要素の重要性に関して述べた後、機械材料の強度と安全率、標準化と設計等の概要に関して説明する。 その後、ネジ、軸、軸受等の具体例をあげ、その基本的な性質や設計指針等を講義する。
	機械CAD製図	0	2次元CADによる基本的な機械要素の部品図及び組立図の製図実習を通して、機械製図に関する規格および規定の基礎を学習し、体得することが目的である。毎回の授業で講義内容に応じた作図課題を与える。機械図面を描くために必要なJIS規格を説明する。その後、2次元CADの操作方法、機械製図の基礎的な手法に関して説明し、実際にネジや軸、軸受け等の作図を行い機械部品の設計・製図技法を学ぶ。また、図面を書くだけではなく、解析できるような能力も同時に養う。
専門	応用数学 I	0	ベクトルに関する基本的事項の理解、運動及び曲線、曲面に関するベクトル表現、微積分、勾配・発散・回転など各種ベクトル計算をできるようにする。ベクトルは、空間の3成分をまとめて表すことができるので、力、質点の運動、曲線や曲面などを取り扱うのに都合がよい。解析にあたっては、ベクトルを時間や曲線の長さなどの関数として表し、微分したり積分したりすることが必要になる。本講義では、これらのことを十分理解し、確実に計算ができるようにする。
教育部門	応用数学Ⅱ	0	複素数及び複素関数に関する基本的事項の理解、複素関数の微分、種々の正則関数の性質の理解、複素関数の積分、複素数を中心としたテイラー展開、ラブラス変換などを理解し、複素関数の考え方を用いることとができるようにする。複素関数とは、複素数を変数とする関数である。この関数を知ることによって、実関数の範囲では見えなかったものが見えてくる。実数の範囲では投いされなかった実定積分ができたりする。本講義では、複素関数の基本的な性質、微分・積分、微分可能な関数(正則関数)の特徴などを学習する。
	応用数学Ⅲ	0	理工学分野で用いられる多種の偏微分方程式の解法を習得する。理工学系の多くの科目では、理論式が用いられるが、それらを取り扱う数学力を身につける。本科目では、偏微分方程式に分類される極めて汎用性の高い方程式の解法を学ぶ。これらの数学的な政機、問題の解告方を理解するとともに、応用力を身につける。理解を深めるため、ほぼ毎回演習問題を解きながら必要な数学力を身につける。
	機械製図基礎	0	技術者として必要とされる、図面を読む・書く能力を養うことを目標とする。概要としては、JISに基づく製図法を十分理解、図面を正しく判読する力を養うとともに、正確・迅速かつ美しく図面を書く技術を身につける。製図の基礎として線や記号の種類と書き方、基本平面図形の書き方から始め、投影により立体を平面に表す方法(正投影、透視投影、軸側投影)、立体幾何として面と立体の交わり(立体の切断)、立体の相貫(立体の合成、切り取り)について。また、サイズ公差(プラス公差、マイナス公差)等実用上何が大切なのかを説明し、その内容について理解する。さらに、簡単な機械部品や電子部品等を図面化することによって、図面を書くための基礎能力を養う。
	結晶材料	0	本講義では、結晶を構成する原子の構造から始め、原子の結合による結晶の形成され方とその種類について学ぶ。さらに結晶方位ならびに結晶面の表記方法や実用上の観点から問題となっている各種の欠陥について学ぶ。原子の電子構造、原子間の結合(イオン結合、共有結合、全風結合、ファンデルワールス結合、水素結合)、結晶格子など原子の構造について最初に学ぶ。その後、結晶構造、結晶方位、結晶構造の決定方法について学び、最後に結晶中の欠陥(面欠陥・線欠陥・息欠陥)について、その種類と特徴に関して学ぶ。
	先端技術管理	0	本講義では、先編技術の分野を学ぶ上で不可欠である知的財産権の重要性、さらには知的財産権の管理方法に関して講義 し、学生が技術者として必要な先端技術の管理方法に関するスキルを養うことを目的とする。発明の特許出願から特許権行使 まで、および特許の活用方法について学び、先端技術の管理について理解を深める。また、特許の歴史や各国の特許制度につ いても概説し、特許制度の意義や基本的な考え方を学ぶ。

DUMILT号以 応用化学分野で研究対象になっている先端技術などを紹介し、現在の化学領域の全体像を学ぶ。また、座学だけではなく実際 に研究室を巡り、早期に研究活動を受講者に意識させる。さらに、受講者自身のキャリア形成を意識させるためキャリア教育 (オムニハスカエ、王10回) (18 田中正剛/1回) ガイダンス カリキュラムにおける本講義の位置づけと成績評価方法について説明する。日本を取り巻く社会情勢と大学生 こ求められるものについて講義し、4年間の学習に対する意識付けを行う。 (18 田中正剛/1回) (18 田平止卿/1回)
2 高分子材料の研究に関する現状とその応用例について説明する。
(8 中村忠司/1回)
3 無機系規則性多孔体の研究に関する現状とその応用例について説明する。
(19 谷口彩乃/1回)
4 ナノ構造複合体の研究に関する現状とその応用例について説明する。
(9 丸山隆浩/1回)
5 オーザンスチャープの研究に関する現状とその応用例について説明する。 1 カノ梅屋検合体の研究に関する現状とその応用例について説明する。
 (9 丸山隆浩/1回)
 5 カーボンナノチューブの研究に関する現状とその応用例について説明する。
 (7 永田央/1回)
 6 人工光合成の研究に関する現状とその応用例について説明する。
 (14 池邉由美子/1回)
 7 機能性セラミックスの研究に関する現状とその応用例について説明する。
 (15 小澤理樹/1回)
 8 生態格像は終わの研究に関する現状とその応用例について説明する。
 8 生態格像は終わの研究に関する現状とその応用例について説明する。 生態模倣材料の研究に関する現状とその応用例について説明する。 (16 才田隆広/1回) ・ 燃料電池などの電極触媒の研究に関する現状とその応用例について説明する。 9 燃料電池などの電極触媒の研究に関する現状とその応用例について説明する。
(17 田浦大輔 /1回)
10 キラル超分子・高分子の研究に関する現状とその応用例について説明する。
(9 丸山隆浩/1回)
11 PR06ティトなどの外部の自己評価テストを利用し、1年次の学修状態を確認・理解する。
(7 永田央/1回)
2 大学で4年間学んで卒業した後の進路について説明する。また、大学1年次として、卒業後の職業観、知識・技能・進路選択に必要な心構え等に関して説明し、適切な進路の選択ができるようにする。
(7 永田央、8 中村忠司、9 丸山隆浩、14 池邉由美子、15 小澤理樹、16 才田隆広、17 田浦大輔、18 田中正剛、19 谷口窓が、3回)。
13-15 応用化学専攻に所属する各研究室を3週に渡って全て見学し、実際に研究が行われている環境を見学する。 【材料機能工学専攻】 本講義では、大学入学時の学生への導入教育として、工学における材料の役割、材料工学の現状、さらには今後どのような分野に発展してくのかを中心に紹介する。また、材料機能工学専攻のカリキュラムに関して説明し、自分が将来どのようなエンジニアになりたいのか、またそのためにはどのような勉強をしていく必要があるのかを理解することを目的とする。 工学における材料の役割・将来性に関して説明した後に、材料機能工学専攻のカリキュラム、特色等を説明する。また、卒業研究としてどのようなことを行うか、実習を含めた体感教育等を行い、自分が将来どのような道に進むのかを考える機会を 専門教育部門 化学・物質概論 オムニバス方式 設ける。 (オムニバス方式・全15回) (3 五十ペンス、エレロン (13 田中学之 / 1回) (13 田中学之 / 1回) ガイゲンス カリキュラムにおける本議義の位置づけと成績評価方法について説明する。日本を取り巻く社会情勢と大学生に求められるものについて講義し、4年間の学習に対する意識付けを行う。 によるうないものか、50、C時後し、4中間の子自に対する意識的いを117。 (1 岩谷素顕/1回) 材料機能工学専攻の概要 (1) 材料機能工学専攻におけるエレクトロニクス材料分野の特長について具体的な研究事例を挙 げながら紹介する。 (11 今井大地/1回) する。 (12 榎本和城/1回) (12 榎本和城/1回) 4 材料機能工学専攻の概要(3) 材料機能工学専攻における機械材料・加工分野の特長について具体的な研究事例を挙げ ながら紹介する。 (11 今井大地/1回) 5材料機能工学専攻のカリキュラム説明 材料機能工学専攻の教育カリキュラム及び卒業要件などについて説明する。各科目 (専門分野) 毎の概要説明と履修系統図を元に、学生が希望の進路に対して系統的な履修が出来るよう、具体的な履修モデル を紹介する。 を紹介する。
(1 岩谷素類、2 宇佐美初彦、3 上山智、4 関口寛人、5 竹内哲也、6 六田英治、10 赤堀俊和、11 今井大地、12 榎本和城、13 田中崇之/6回)
6-11 実感教育(工作教室)
個人もしくは少人数グループ単位で、簡単な工作実習(模型製作とその改良、材料に関わる簡単な実験・実習など)を実施し、テーマ実現に対するコンセプトや成果についての発表を行う。【実施テーマや体制についての詳細は、講義初回のガイダンスの際に説明する。】
(2 上山梨ノ河) 13 企業における研究開発の実際について企業の研究開発現場の実際について説明する。
 (6 大田安治人1回)
 14 准路としての教員について 中学校・高等学校の理科および工業の教員を招聘して、実際の教育現場と教員養成の必要性について紹介してもらい、進路のひとつの選択肢として「教員」というものを考える機会とする。
 (3 上山智/1回)
 15 授業のまとめ これまでの授業で学んだことについて、総括を行う。また、実施教育で学んだ内容について、学生にショートプレゼンテーションをしてもらい、実施していないテーマの内容についても共有を図る。

専門教育部門	科学技術リテラシー	〇 (材)	本講義では、科学技術を実社会で用いるための手生、例えばグランや来の書き方、報告書の技法、論文の書き方、ブレゼンテーションとと)、科学技術を扱うために必要な基礎的なリテラシー教育を行う。 材や技術を伝えるための技法と科学技術の最適の野の重要性、おっ造やご一の違法性について認識させ、正しいグラフ・表・報告書・論文等の記載法、ブレゼンテーション技法、英語の重要性等科学技術を扱うための方法について関次講義、実習を行う。 大学の書き、論文等の記載法、ブレゼンテーション技法、英語の重要性等科学技術を扱うための方法について関次講義。実習を行う。 (10) 赤郷俊和/1回) 1 ガイゲンス、ブレゼンテーション実習のイントロダクション シラバスに基づき、講義内容および決議評価基準を説明する。 1 ガイゲンス、ブレゼンテーション実習のイントロダクション シラバスに基づき、講義内容および決議評価基準を説明する。 1 ガイゲンス、ブレゼンテーション実習のイントロダクション シラバスに基づき、講義内容および決議評価基準を説明する。 1 ガイゲンス、ブレゼンテーション実習のイントロダクション シラバスに基づき、講義内容はして、表もに、ねつ速っに一の造法化と対技術者動理・講義する。本書義内実施のブレゼンテーション来習について、振変、評価法を説明し、パロ・赤巌俊和/1回) 2 レポート・報告書の基本構成、有効数学の考え方・学術論文を例にレポートの基本構成(要旨、イントロ、実験方法、実験結果、考察、まとめ、参考文献の順音で書くこと)を説明する。さらに、具体例を挙げながら有効数字の考え方とその重要性についてを説明する。 12 榎本和域/1回) 3 データの基本的な主とめ方、グラフの作成法、実験から得られたデータをまとめるための方法として、表およびグラフの作話上で、実験から得られたデータかまとめ方のは、クラフについては、散布図の基本的な書き方(キャブション、軸の取り方、凡例など)を説明し、方観グラフ、対数グラフ等の基本的な記載方法に関して議義する。 (12 榎本和域/1回) 5 データのまとめ方(2) 一枚者の回り作成~ 与えられたデータから実際に教のラフを作図する演習を行う。授業後に同じデータのまとめ方(2) 一枚者の関の性ので、与えられたデータから実際に対象グラフを作図する演習を行う。授業後に同じデータを用いてPなき使っな情報を実施する。 (12 榎本和域/1回) 5 データのまとめ方(3) 一を前図を作成する課題を実施する。 (12 榎本和域/1回) 7 ディベート・ディスカッション実習 学生を少人数グループに分けて、グループ内でディスカッションする。前間と教育を得る。授業後に同じ・デタスカッションを対し、加集が自然を開きり、対して、新生的で記述である。の研究主を制度のディンとを求め、のデ生を制度では、大きないとの研究で表も訪問し、実施方法とと参える。 建設が大議館が入り、対したの研究でレビンデーションを受ける、加集的が内容をまとめ報告する。 (4 経本書頭、2 年後表前の、3 上山智・日間のかの関係を表しの研究室を訪問し、教員や研究室配属の上級を解析がより記述がよりましまり、同じ部内の同僚への報告を想定し、別時間のディスカッション体験、材料機能工学専攻の研究室を訪問し、教員や研究室配属の上級を研究室が上が取りませた。近日の研究で記述のディンといまが、対していまが生まりましまり、同じないまが生まりましまり、対していまが生まりましまり、同じないまが生まりましまり、同じないまが生まりましまり、同じないまが生まりませた。 4 日本のよりないまが生まりましまりませた。 5 データのまとめ方(2) 一を持たりではないまが生まりましまりましまりましまりましまりましまりまりましまりましまりましまりましま	オムニバス方式 共同(一部)
門 教 育 部			(6 六田英治/1回) 10 最小二乗法、近似曲線・フィッティング曲線の引き方 最小二乗法の考え方について講義し、具体的な実験データに対して最小二乗法により直線近似線を引く方法について説明する。また、近似線の適用範囲、内挿法、外挿法、傾きと切片が何を表すかについても説明する。さらに、応用編として指数関数近似についても紹介する。(6 六田英治/1回) 11 最小二乗法、近似曲線・フィッティング曲線の引き方(1) 具体的な実験データに対して手計算による最小二乗法の計算を行って直線近似線を引く方法について演習を実施する。 (6 六田英治/1回) 12 最小二乗法、近似曲線・フィッティング曲線の引き方(2) 具体的な実験データに対してPCを用いて最小二乗法の計算を行って直線近似線を引く方法について演習を実施する。 (1 岩谷素類、2 字佐美初彦、3 上山智、4 関口寛人、5 竹内哲也、6 六田英治、10 赤堀俊和、11 今井大地、12 榎本和城、13 田中崇之/1回) 13 プレゼンテーション実習(1) 学生を少人数グループに分けて、一人あたり発表時間5分+質疑応答5分程度のプレゼン	
	材料機能工学実験 I	〇 (材)	本実験では、実験実習を通して実験装置の取扱いなどの実験方法、得られた結果をまとめ分析すること、得られた結果の考察、さらにはレポート作成について学び、技術者・研究者として必要不可欠な実験の計画・実行およびデータ解析の能力、日本部による論理的な記述力、自主的、継続的に学習できる能力、与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力を養う。 物理・化学・コンピューター系、電気系、機械系の12テーマについて少人数グループで実験を実施する。実験実習を通して、各テーマにおける知識・技術を体験的に学習し、理解を深め、また発展させる。	
	材料機能工学実験Ⅱ	〇 (材)	技術者・研究者として必要不可欠な実験の計画・実行およびデータ解析の能力、日本語による論理的な記述力、自主的、維 統的に学習できる能力、与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力を養う。 物理・化学・コンピューター系、電気系、機械系の6テーマについて少人数グループで実験を実施する。実験実習を通し て、各テーマにおける知識・技術を体験的に学習し、理解を深め、また発展させる。	
	材料機能工学実験Ⅲ	〇 (材)	本実験では、物質・材料の持つ様々な物性・機能性を実際に測定・評価し、専門科目の講義と併せて理論と実際を対比しその機構を理解し、深く考算するとともに、更にそれらをシステムに応用できる力を養う。また、コンピュータを含む各種測定・データ理!解析機器の使用法の修得、さらにはプレゼンテーションスキルの修得など、工学士として必要な基礎力を身につけることを目的とする。 6テーマについて少人数グループで実験を実施する。実験実習を通して、各テーマにおける知識・技術を体験的に学習し、理解を深め、また発展させる。	

			[応用化学専攻]	
専門教育部門	化学・物質ゼミナール	0	本ゼミアールでは、4年长に開議される卒業研究において全事の研究が動き行う準備設階として、以用化学料の各研究金の研究内容とう機能は、自分を設施に関するキャリア教育も実施する。 (日本で、人名の連絡に関するキャリア教育も実施する。 (日本で、人名の連絡に関するキャリア教育も実施する。 (日本で、人名の連絡に関するキャリア教育も実施する。 (日本で) (18 日中正明 (18) 日中正明 (19) 日中語 (19) 日語 (19) 日中語 (19) 日中語 (19) 日語 (19) 日中語 (オムニバス方式
	有機化学基礎	0	有機化合物の性質を理解するための基本原理を修得する。到達目標は以下の通りとする。①有機化学で重要な化学結合の性質を説明できる。②巻き矢印を用いた反応機構の表示ができる。③基本的な有機化合物の構造について説明できる。④アルケンに対する求電子付加反応について説明できる。	
	有機化学 I	0	有機化合物の結合、構造、反応についての基本原理を修得する。有機化学 I では、非局在化電子を持つ化合物・ハロゲン化 アルキル・アルコールの化学などを中心に学ぶ、到達目標は、以下の項目について説明できることとする。①アルキンの反 応、②非局在化電子を持つ化合物の特徴と反応、③ハロゲン化アルキルの置換反応・脱離反応、④アルコール・エーテル・ア ミン・チオール・有機金属化合物の反応、⑤ラジカル反応。	
	有機化学Ⅱ	0	有機化合物の結合、構造、反応についての基本原理を修得する。有機化学Ⅱでは、カルボニル化合物と芳香族化合物の化学を中心に学ぶ。到達目標は以下の通りとする。①カルボニル化合物・カルボン酸誘導体の反応について説明できる。②芳香族化合物の性質と反応について説明できる。③分光法を用いた有機化合物の構造決定について説明できる。	
	有機化学演習	0	有機化合物の結合、構造、反応についての基本原理を演習問題を通じて修得する。グループワークで意見を交換しながら、 解答案を作成していく。受講者が互いに課題の解き方を解説することで、有機化学の理解をより深める。到達目標は以下の通 りとする。①炭素を含む共有結合の性質を説明できる。②有機化合物の構造・性質について説明できる。③有機反応機構を説 明できる。④多段階合成を用いた合成経路の提案ができる。⑤分光法を用いた有機化合物の構造決定ができる。	
	高分子化学 I	0	高分子化学の概念の確立と発展の歴史を振り返ったあと、合成法に関する入門的解説を行う。反応様式を大きく逐次重合と 連鎖重合に大別し、逐次重合では、重縮合、重付加、付加縮合を、連鎖重合では、ラジカル・アニオン・カチオン・開環重合 を解説する。近年の展開として、高分子合成の精密制御法について学ぶ。一般的な合成高分子の範疇に入らない、興味深い高 分子群についても具体例とともに概観する。この授業科目を通じて、①高分子化学の歴史と現実を知り、その過程にどのよう な展開があったかを理解し、②高分子合成法を分類して学ぶことで、基本的な重合法やその背景となる理論、応用例を学び、 高分子化学が身の回りの様々な産業と深くかかわっていることを理解する。	
	高分子化学Ⅱ	0	高分子の分子構造、溶液構造、結晶構造、高次構造の基礎とその解析法、次いで固体物性、特に熱物性と分子構造との関連性について論述する。これらにより、高分子の構造と物性について分子論に立即した系統的な理解を図ることを目的とする。この授業科目を通じて、高分子の一次構造・二次構造・高次構造を理解し、高分子鎖の形態・溶液構造・ゴム弾性・結晶化・ガラス転移・粘弾性といった高分子物性の基礎事項の本質について理解し、応用のための力を身につける。	
	生化学	0	生命現象を分子レベルから理解するための、タンパク質、多糖、核酸、生体膜の化学的な構造と機能についての理解を深める。具体的には、生命現象が分子の作用によって営まれていることを概観した上で、生体における化学反応の特徴、さらにはアミノ酸、糖、脂質、核酸およびタンパク質の基本的な構造について理解する。	
	-			

	生活支援化学	0	本講義では、私たちの身の回りで生活を支える機能性の高い有機材料の基礎を学び、それら物質の化学的な構造と機能発現との関係について理解することを目的とする。光機能、有機色素・染料、電気・電子機能、界面活性、分離機能および生体機能を有する材料について具体例を取り上げながら講義を進める。	
	有機機能化学	0	生体機能の発現には、分子内や分子間の弱い相互作用(非共有結合)が重要な役割を担っている。本講義では、有機分子そのものが示す機能に加え、有機分子が、非共有結合を介して、より高度に組織化し、特異な構造体(集合体)を形成することで、新たに発現する機能について、機能発現のメカニズムも含めて、理解することを目的とする。また、この授業を通じて、触媒・液晶・有機L・光学分割能や自己修復能を有する機能性材料などについて、具体例を挙げて説明できる力をも身につける。	
	物理化学基礎	0	物理化学基礎では、化学反応はもちろん、世の中の全ての現象と密接に関連する熱力学の基礎について講述する。物質の三態の関係を学習したのち、気体の状態方程式について学ぶ。気体分子運動論を習得し、速度分布関数など統計力学の基礎を学習する。また、エンタルビーについて学び、化学反応系における標準生成エンタルビー、標準反応エンタルビーについて理解する。さらに、状態量と内部エネルギー、仕事と熱の関係などの基礎概念について学び、これらをもとに熱力学第一法則を理解する。この授業科目を通じて、①気体の状態方程式について説明でき、②気体分子の速度分布関数を扱い、③熱力学第一法則を理解できる力を身につける。	
	物理化学 I	0	物理化学基礎に引き続き、熱力学の基本的概念、特にエントロピーや自由エネルギーに関係する熱力学的物理量を中心に学習する。カルノーサイクルの学習を通じて、熱機関の基本とエントロピーについて学ぶ。エントロピーの温度変化についても学び、熱力学第3法則について理解する。また、ギブズエネルギー、ヘルムホルソエネルギーなど自発的変化に関わる重要な概念である自由エネルギーについて学がたのち、単一系の相平衡・相境界や溶液系における相平衡について学習し、理想溶液の性質や東一的性質について学ぶ。この授業科目を通じて、①エントロピー、熱機関の効率について学び、熱力学第二法則を理解する。また、②自由エネルギーや化学ボアシャルなどの各種熱力学関数の扱い方を身に付ける。そして、これらの概念に基づき、③純物質の相境界と溶液の相平衡について理解する。	
	物理化学Ⅱ	0	化学反応が時間とともに進行していく様子を定量的に取り扱う方法を修得する。反応速度の定義、測定法、解析法、反応機構との関連など、反応速度に関する基礎の修得を目的とする。また、工業的に重要度の高い不均一触媒反応の速度論の修得も目指す。この授業科目を通じて、①化学反応論の基礎的概念について説明できる。②一次反応・二次反応など、異なる速度式に従う反応を分類できる、③化学反応の理論を理解し、実際の反応と関係づけられる、④触媒反応・溶液反応など、さまざまな分子機構による反応を解析できる力を身につける。	
	物理化学演習	0	物理化学基礎、I・IIで学んだ熱力学と反応速度論の知識を、演習を通して身に付ける。特に仕事と熱、状態量、内部エネルギー、熱力学第1法則、第2法則、第3法則、エントロビー、エンタルビー、自由エネルギー、気体分子の速度分布関数など、熱力学・統計力学に関する種々の概念を物理量について実際に課題を解くことで理解する。また、反応速度式や定常状態近似、アレニウス・ブロットなど反応速度論の基本についても学ぶ、この授業科目を通じ、激力学能力に表別、第3法則、第3法則を理解できる、②簡単な系においてエンタルビー、エントロビー、自由エネルギーなど物理量の導出ができる、③基本的な反応速度式の導出と解析ができる知識・技術・能力の獲得を目指す。	
	化学結晶学	0	本講義では、結晶構造・結晶成長を理解する上で必要な基礎知識を学ぶ、分子・結晶構造、および電子構造などの理解において不可欠な群論に関する基礎知識を身につける。さらに結晶成長メカニズムの基礎を理解することを目的とする。この授業科目を通じて、点群の基礎、結晶構造と結晶格子ならびに結晶成長メカニズムの基本を理解できる力を身につける。	
	物質構造学	0	原子軌道の起源から始め、分子や固体が生まれる原動力である化学結合に注目して分子軌道や固体のバンド構造について学び、それらと関連させて電気的、光学的、磁気的性質などの発現について学習する。この授業科目を通じて、原子から分子や固体が形成し、その原理を電子構造と関連付けで理解し、物質固有の特性、さらには応用原理へと発展させることで、それらを一連のものとして統合的に理解できる知識・技術・能力を身につける。	
専門	物性化学I	0	固体物性を扱う固体物理学は、様々な結晶物質でおこる物理現象を理解するために不可欠な学問である。本講義では、結晶の基礎、結晶構造解析の基礎を学ぶ。授業では、結晶系の基本的性質を三次元空間的に理解すること、また、結晶面をミラー指数を使って表現できることを主軸として、結晶相を解析するうえで有力な分析手法となるX線回折に対する知識を深めることを目的とする。	
教育部門	物性化学Ⅱ	0	原子や分子の電子状態を学び、それらが集合体を作るときに、どのように電子状態が変化していくのかを、基礎数学を用いて理解する。原子の電子状態・エネルギー準位について学んだのち、共有結合、混成軌道、配位結合など各種原子間結合の様式について学習する。次に、分子軌道法の概念とヒュッケル法について理解する。とい、多数の原子・分子の集合体である固体物質のエネルギーパンド形成メカニズムを、分子軌道法の概念に基づいて講述する。これにより難しい計算を行うことなく、固体のエネルギーパンドの概略が描けるようになり、電気伝導性、磁性などの固体物性の理解を目指す。	
	無機化学基礎	0	[応用化学専攻] (16 才田隆広) この講義科目では、原子軌道の成り立ちから軌道の形状について概説し、多電子原子の電子配置などを経て周期表と元素の各種特性 (原子半径、イオン半径、イオン化エネルギー、電気陰性度) に関して説明を行う。その後、化学結合に関して原子価結合論。多原子分子における湿成軌道。分子軌道論。 異核工原子分子における分子軌道を削り、多原子分子の分子軌道の紹介までを本講義にて行う。この講義科目を通して、無機化学の基礎である原子軌道、分子軌道および各元素の特性に関する知識の習得を目指す。 [材料機能工学専攻] (10 赤堀俊和) 固体材料は便宜的にメタル、セラミックス、ポリマーの3つに分類される。この分類体系は主として化学的性質と原子構造に基づいており、ほとんどの材料はいずれかに明確に分類される。本講義では、固体材料、特にセラミックスおよびメタルに特化し、その原子構造、原子間結合、結晶性固体の構造、結晶性固体の特性、各種固体材料について学び、固体材料に関する基礎的な化学的・物理的特性さらにはその時である理解を目的としている。投業計画:本講義では、固体材料の分類およびその代表的な特性を説明した後、原子構造の基礎的な考え方、固体における原子間結合、結晶性固体の構造、結晶性固体の不完全性を学んだ後、それぞれに関しての解析・評価法に関して説明する。また、拡散なるいは溶解法による固体材料の製造、固体材料の力学的評価法を学び、固体材料を実際に構造材料、機能材料として応用する場合に必要な特性について理解する。	
	無機化学 I	0	この講義科目では、無機化学基礎の講義内容を受けて、分子の構造と結合特性を概説する。その後、基礎的な無機化学反応である酸塩基反応に関してプレンステッドの定義、共役、解離定数、プロトン観和力を経てオキソ酸や無水酸化物について概説する。さらに、ルイス酸および非水溶媒について概説する。酸塩基反応の概説後に5プロック元素、pプロック元素を12族元素、dプロック元素、およびピブロック元素に分けて各元素の特徴について応用例を交えて概説する。この講義科目を通して、酸塩基反応および大まかな元素の特徴を理解することを目指す。	
	無機化学Ⅱ	0	この講義科目では、固体化学の基礎を概認にする。具体的には、先ず、単位格子や充填密度、合金、金属間化合物を経て、 二元系および三元系のイオン固体について概認する。その後、イオン固体におけるイオン半径や構造マップ、格子エンタル ビー、ボルンハーパーサイクル、ボルンマイヤー式、マーデルング定数、カプティンスキー式から溶解度までを概説し、格子 欠陥から固容体についても触れる。更に、非結合電子効果(エネルギー結晶場分裂、ヤーンテーラー歪み、四面体場、八面体 場)について概説する。この講義科目を通して、無機固体の基礎の習得を目指す。	
	無機化学演習	0	自然界には約90種類の原子が存在する。有機化学では主に0、C、Hなどの限られた元素のみを取り扱うが、無機化学ではこれらを含むすべての元素が対象となる。従って、原子から化合物に至るまで多様な性質を理解することが必要となる。本講義では、演習問題を通して、無機化学基礎、I、Ⅱで学習した内容への理解を深めることを目的とする。この授業科目を通じて、原子や無機化合物の性質を理解できる力を身につける。	
	電子材料	0	電気・電子工学では金属、半導体、絶縁体、磁性体、誘電体などの多様な材料が多岐にわたる応用分野で用いられている。 本講義では、これら電子材料の原理や性質を理解し、基礎的な知識を身につけることを目的とする。この授業科目を通じて、 エレクトロニクスに深く関係する磁性材料、誘電材料、半導体材料等の基本的特性を理解できる能力の獲得を目指す。	
	電気化学	0	電極と電解質からなる電気化学系で起こる様々な電子移動反応の基礎と、それらを利用した各種電池や表面処理技術などの 原理を学ぶ。この授業科目を通して、①標準電極電位、ネルンストの式、バトラー・フォルマーの式など、電気化学の基礎概 念を説明できる、②電子移動を伴う化学反応の平衡と連度について定量的な議論ができる、③電気化学を利用した身の回りの 製品・技術の原理を説明できる力を身につける。	
	無機材料化学 I	0	無機材料を合成、または使用する際に必須となる状態図とその解釈、無機材料の種々の合成法を学ぶ。さらに、無機材料の 機械的・熱的・光学的性質について、その理解に必要な用語や数式を含めて講述する。本授業科目を通して、①状態図から化 合物や固溶体の平衡組成、相転移、溶融・分解条件等を読み取ることができる、②無機材料の固相、液相、気相からの合成法 の特徴をそれぞれ説明できる、③無機材料の機械的・熱的・光学的性質とそれらを示す代表的な材料を説明できる力を身につ ける。	
		-1		

	無機材料化学Ⅱ	0	無機材料化学 I に引き続き、無機材料の化学的性質について、固体表面と分子との相互作用による吸着性や触媒反応性を中心に学ぶ。さらに、環境浄化・保全のための材料、エネルギー関連材料について、最新の研究成果を含めて護途する。本授業科目を通して、①固体触媒における吸着と触媒反応の特徴について説明できる、②世の中で用いられている環境浄化用材料の具体例と原理を説明できる、③各種蓄電・発電用デバイスの原理と、それらに用いられる無機材料の特徴を説明できる力を身につける。 (8 中村忠司/1回) 1 化学的性質(1) 吸着と吸着等温式(Langmuir, BET)について説明する。 (8 中村忠司/1回) 2 化学的性質(3) 固体触媒反応機構(L-H機構, E-R機構, M-vK機構)について説明する。 (9 中村忠司/1回) 4 化学的性質(3) 固体触媒反応機構(L-H機構, E-R機構, M-vK機構)について説明する。 (9 中村忠司/1回) 5 化学的性質(3) 固体触媒の機能制御)について説明する。 (9 中村忠司/1回) 6 中村忠司/1回) 7 環境エネルギー関連材料(1) 環境触媒(脱硫・脱硝、自動車用触媒、光触媒)について説明する。 (19 谷口彩乃/1回) 8 環境エネルギー関連材料(2) エネルギー創生触媒(各種燃料合成、CO.資源化)について説明する。 (16 才田隆広/1回) 9 環境エネルギー関連材料(3) 電気化学キャパシタとその構成材料について説明する。 (16 才田隆広/1回) 1 環境エネルギー関連材料(4) LiBをメインに各種二次電池とその構成材料について説明する。 (14 池邉由美子/1回) 1 環境エネルギー関連材料(5) 固体酸化物形燃料電池における固体電解質について説明する。 (14 池邉由美子/1回) 1 環境エネルギー関連材料(8) 超電導材料について説明する。 (14 池邉由美子/1回) 1 環境エネルギー関連材料(8) 超電導材料について説明する。 (14 池邉由美子/1回) 1 環境エネルギー関連材料(8) 超電導材料について説明する。 (14 池邉由美子/1回) 1 環境エネルギー関連材料(9) シリコン系および化合物太陽電池とその構成材料の模説について説明する。 (19 谷口彩乃/1回) 1 環境エネルギー関連材料(9) シリコン系おまび化合物太陽電池とその構成材料の模説について説明する。 (19 谷口彩乃/1回) 1 環境エネルギー関連材料(7) 多孔質な規則構造体の特徴について説明する。 (19 谷口彩乃/1回) 1 環境エネルギー関連材料(7) 多孔質な規則構造体の特徴について説明する。	オムニバス方式
	基礎電磁気	0	この講義では、クーロンの法則、ガウスの法則、ビオサバールの法則、アンベールの法則を使いこなして、電荷、電場、電 位、さらに電流、磁場に対する理論的な考察が出来ることを目的とする。電磁気学の基礎となるクーロン力、ローレンツ力、 そして、電場、磁場を理解する。特に、電荷と電場の関係、さらに電流と磁場の関係について法則を理解しながら修得する。	
	量子化学 [0	この講義では、量子論の基礎を概説する。また、全15回の内、3回程度のアクティブラーニングを取り入れた演習回を実施し、理解の習熟を目指す。具体的な講義内容は、電磁波および黒体輻射を通じてブランク定数を説明する。その後、古典論における原子モデルの矛盾点をトムソンモデル、長岡モデル、ラザフォードの実験、水素スペクトルを紹介しながら概説する。その後、ボーア理論を説明し、水素型原子におけるエネルギー、ボーア半後、最子化について説明する。前期量子論を概説後に、ドブロイの物質波、不確定性原理を概説し、シュレーディンガー方程式を説明する。その後に1次元の箱の粒子および3次元の箱の粒子について説明を行う。この講義科目を通して、古典力学と量子論の違い、ボテンシャル、存在確率、縮退などを理解することを目指す。	
専門教育部門	量子化学Ⅱ	0	この講義では、量子化学 I の内容を受けて水素型原子までを概認する。また、全15回の内、3回程度のアクティブラーニングを取り入れた演習回を実施し、理解の習熟を目指す。具体的な講義内容は、量子化学 I の内容を概認し、交換関係、円周上の粒子、球面上の粒子、角運動量について概認する。その後、調和振動子を通してトンネル効果までを説明する。最後に水素型原子は打て動を関数、動径分布関数、角波動関数や軌道の外形を概説する。この講義を通して、水素型原子の軌道の成り立ちについて理解することを目指す。	
	量子化学演習	0	量子化学 I および II の講義内容の理解を深めるため、練習問題の解法を具体的に講述しながら、授業を進める。一次元や 2 次元空間に束縛された電子のシュレーディンガー方程式を立て、波動関数やエネルギー準位を境界条件を使って求める。水素型原子のシュレーディンガー方程式を順序だてて解き、重要な式を導出させる。さらに、場出した原子軌道を可視化する手法を講述し、検素数を含まない式を導く。また、軌道角運動量を迅速する波動方程式と水素型原子の角度部分を記述する波動方程式が完全一致することを計算により示し、各種量子数の持つ物理化学的な意味を理解する。	
	製図基礎	0	この講義では、図面を読む・書く能力を養うことを目標とする。具体的には、製図の基礎として線や記号の種類と書き方、 基本平面図形の書き方から始め、投影により立体を平面に表す方法(正投影、透視投影、軸側投影)、立体幾何として面と立 体の交わり(立体の切断)、立体の相貫(立体の合成、切り取り)について。また、サイズ公差(プラス公差、マイナス公差) 等実用上何が大切なのかを説明し、その内容について理解する。さらに、簡単な機械部品や電子部品等を図面化することに よって、図面を書くための基礎能力を養う。	
	分析化学	0	物質の特性を理解するためには、その物質を構成する要素に分けてその性質を調べることから始まり、何がどのくらいの量で、どこにどのような形態で含まれているかを解析していくことが必要である。接業では、基礎的な演習問題を取り入れながら、従来からの湿式分析法を中心に物質の化学的性質を理解するための解説を行う。この講義科目を通じて、化学物質を取り扱う際に、分離・分析の手法をどのように適用するのかを習得し、溶液内の化学反応ならびに化学平衡の考え方を理解できる力を身につける。	
	分光化学	0	原子や分子の化学的な構造と電磁波との相互作用に伴う電子配置への影響、および化学物質の構造解析との関係性を論述する。赤外線、紫外線、ラジオ波などの電磁波が化学物質の構造に与える影響を原子、分子レベルで理解し、分光学の基礎を身につける。	
	機器分析	0	いろいろな分析法や分析装置についてその原理を学び、物質の評価を行う時に、どのような分析法が最適であるのかを判断できる能力を身につけることを目的とする。具体的に講述する分析方法として、電磁波を用いた機器分析法として、紫外可視分光、原子吸光、赤外分光、戸工色分光、磁気共鳴分光などを行う。他に、質量分析、エックス線回折、電子線回折、電子線側折、電子線で回折、電子顕微鏡、熱分析などを行う。これにより、分析するための試料の形状や、どれくらいの量が必要か、感度はどのくらいかという基本的な知識の習得ができる。	
	錯体化学	0	本講義では錯体化学の基礎的な知識の習得を目指す。金属錯体における結合、金属錯体の立体化学、反応、特性など錯体化学全般に関する基礎知識の理解を目的とする。この授業科目を通じて、①金属錯体の化学式や構造を見て命名できる、②錯体の結合状態を理論的に理解し、簡単な分子軌道図を描くことができる、③錯体の分子軌道図から電子スペクトルがどのように起こるか理解できる、④錯体の反応性を配位子場理論に基づいて説明できる力を身につける。	
	化学工学	0	化学プラントのような大規模製造過程において、原料から製品に至るまでの物質の流動、混合、拡散、対流移動や加熱、冷却に関わるエネルギーの流れについて、熱力学をもとに理解する学問である。講義の目的は、化学反応プロセス、物質収支、伝熱を主としたエネルギーの流れを理解するとにある。この授業科目を通じて、①化学プロセスでの物質収支やエネルギー収支を定量的に理解できる、②流体輸送の速度や流束の乱れの定量化、熱移動に関する伝導、対流、輻射伝熱量が定量的に理解できる知識・技術・能力の獲得を目指す。	
	分離精製工学	0	反応により生成物を得る際、副生成物や溶媒から分離精製する必要がある。したがって、研究開発の成否を分ける重要な因子となる場合が多々ある。状況に応じた分離精製技術を用いられる能力を身につけるために、様々な技術とその原理を講述する。また、実験室レベルでの操作と、効率を求めるマスプロダクションの場合の対比を行い、効率化に関わる因子と対処法を解説する。この授業科目を通じて、実験室レベルの技術をスケールアップした時に現れる基本的な問題が理解できるようになり、プラント等の現場で解決しなければならない技術的問題を予測する力を身につけることができる。	

	流動現象学	0	コロイドや高分子材料などの流動体の示す力学は、このような材料を評価して活用するために不可欠である。本議義では、流体力学の基礎から解説し、化学工学分野で重要な「流れの性質」を学ぶとともに、レオロジーへ議論を発展させることにより、材料の特性を講述し、コロイドや高分子材料に対する深い理解へと導いていく。この授業科目を通じて、①流体と流動体の運動を分類、解析し、それらの挙動について力学を用いて説明できる、②材料設計や工業的合成プロセスを設計するための重要な因子と概念を理解できる力を身につける。	
	エネルギー工学	0	化石燃料、核燃料、自然エネルギーなどの各種エネルギー源と、それらからエネルギーを生み出す多様な技術、および、エネルギーの相互変換の関係とその手段について学ぶ。この授業科目を通じて、①代表的なエネルギー創生技術、エネルギー変換技術、省エネルギー技術の特徴と課題をそれぞれ説明できる、②カーボンニュートラルの実現に向けた省エネルギーやエネルギー創生の手段を自ら考える力を身につける。	
	応用化学基礎演習		この講義は、高校にて化学や生物を選択していた学生および推薦入試にて入学した学生に対して、高校物理の範囲およびモル計算や単位検算を再確認してもらうことを目的としている。加えて、最低限の数学および国語力についても身に付けてもらう。このため、この講義は入学直後の新入生オリエンテーションにて簡単な学力テストを行い、一定水準以下となった学生だけが受講する自由科目である。 (16 才田隆広/5回) 1-5 高校物理におけるエネルギー(仕事、運動エネルギー、位置エネルギー)の説明および演習を行う。併せて、最低限の数学の力も養う。 (9 丸山陰浩/5回) 6-10 高校物理における波の説明および演習を行う。併せて、最低限の数学の力も養う。 (17 田浦大輔/5回) 11-15 高校化学におけるモル計算および単位換算の説明および演習を行う。併せて、最低限の国語力も養う。	オムニバス方式
専門	実験基礎論	0	化学実験を適切に効率良く進めるためには、準備の仕方から結果をまとめてレポートとするまでを具体的に設計し、様々な技術を駆使して実施する必要がある。本講義では、実験準備の仕方、基礎的な実験技術、実験後のデータ処理法、結果のまとめ方について、講義と実習を通して学ぶ。この授業科目を通じて、①実験・実習で実際に利用する実験器具類の基本原理を理解し、適切に取り扱うことができる、②実験データの有効数字を理解し、統計的な評価法や分析法を駆使してデータをまとめることができる、③実験計算を関し、でデータをまとめることができる。②実験ポータの有効な字を理解し、統計的な評価法や分析法を駆使してデータをまとめることができるが、②実験結果を、実験レポートおよびプレゼンテーションスライドに的確にまとめることができる力を身につける。	
教育部門	安全工学	0	化学技術者には、化学物質による事故・災害を未然に防止するなど、環境・安全と両立する技術開発が求められている。危 険物や有害物質の取り扱い法、廃棄物の処置法、さらには事故時における適切な処置法も含めて、化学物質や装置の安全や環 境保全に関する基礎的知識について理解を深めることを目的とする。この授業科目を通じて、化学物質を取り扱う時の注意事 項や危険性についての知識が習得でき、危険を回避するための基本的な方法について理解することができる。	
	応用化学実験 I	〇 (応)	主に分析化学、物理化学に関する基礎実験を通して、両分野の基本的な知識・技術を体験的に学習し、理解を深めることを目的する。この授業科目を通じて、①基本的な分析化学、物理化学実験に使う薬品の適切な取り扱いができる、②基本的な分析化学、物理化学実験に用いられる器具の適切な取り扱いができる、③基本的な分析化学、物理化学実験についての文献調査ができる、④実験結果をまとめ、問題点を指摘して、その原因を追求できる力を身につける。	
	応用化学実験Ⅱ	〇 (応)	主に有機合成に関する化学実験を通して、本分野の知識・技術を体験的に学習し、理解を深めることを目的とする。また、 実験結果に対して適切な考察を行い、結果を報告する方法を習得する。有機合成実験に関する安全教育や薬品管理、基本的な 器具の操作を体験学習したのち、置換反応、脱離反応、付加反応、カルボニル基の反応など各種反応に関する基本的な実験を 行い、理解を深める。さらにまとめた実験結果のプレゼンテーションを実施する。この授業科目を通じて、①基本的な有機合 は、現在ウ薬品の適切なり扱いができる、②基本的な有機合成実験に用いられる器具の適切な取り扱いができる、③基本 的な有機合成実験についての文献調査ができる、④実験結果をまとめ、問題点を指摘して、その原因を追求できる力を身につ ける。	
	応用化学実験Ⅲ	〇 (応)	応用化学実験IIでは、応用化学実験IIで習得した実験技術を応用し、多段階合成を含む、さらに進んだ有機合成実験を実施 する。さらに、高分子合成実験も基本的な操作を行う。また、各テーマで得られた結果に対し、プレゼンテーションを行う。 この授業科目を通じて、①有機および高分子合成実験に使う薬品の適切な取り扱いができる、②有機および高分子合成実験に 用いられる器具の適切な取り扱いができる、③有機および高分子合成実験についての文献調査ができる、④実験結果をまと め、問題点を指摘して、その原因を追求できる力を身につける。	
	応用化学実験IV	〇 (応)	応用化学実験IVでは、物質の電気的・電気化学的性質を実験実習を通して確認し、各種物性測定の原理を学ぶ。応用化学実験 I〜Ⅲよりも高度な機器を取り扱い、実験計画を自分で立案・実施し、得られた結果をまとめ分析し、レポート作成およびプレゼンテーションを行う。本授業科目を通して、①各種機器を用いて物性測定を行い、化学物質・材料・素子の特性を明らかにする力、②身えられた課題に対して実験計画を立案・遂行し、得られた結果をまとめ分析し、他者に的確に伝える能力を身につける。	

	T	カ帯印本は左印本ウレナリング マムナス市岸の中野中辺ワッツ岸」でももマートと出より、左印本中の土利にバッグ 独員よう	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,
	卒業研究	○ 卒業研究は各研究室において、これまで座学や実験実習にて学んできたことを生かし、各研究室の方針に沿って、教員からのアドバイスを受けながら、能動的に問題点を明らかにし、その解決方法を考え、実践する科目である。 【各研究室の研究アーマ】 (1 岩谷素類: エネルギー・環境材料研究室) 紫外レーザダイオードなどの発光素子、紫外線受光素子、高移動度トランジスタなど、世界で誰も実現していない半導体デバイスを目指して研究を行い、研究の醍醐味を知り、研究の進め方やまとめ方などについて学ぶ。 (2 字佐美初彦: 表面改質研究室) 主たる内容は特密ショットビーニング/プラスト技術の開発とその応用である。応用についてはトライボロジーを基軸として研究を進める、特にショットビーニング/によりマイクロテクスチャリングと表面に機能性を付与し広範囲なしゅう動条件で低く安定した摩擦特性を有するしゅう動面の開発を行う。 (3 上山響: ナノフォトニクス研究室) 半導体レーザーや発光ダイオード、高移動度トランジスタ等の半導体デバイスの製作技術、またデバイスに用いられる材料、構造に関する研究を行い、世界最高性能の実現を目指す。 (4 関ロ寛人: 光集積マテリアルズ研究室) マイクロLEDを活用し、脂科学と連携して光を使った医療技術の研究・開発に取り組んでいく。 (5 竹内哲也: 半導体光デバイス材料研究室) マイクロLEDを活用し、脂科学と連携して光を使った医療技術の研究・開発に取り組んでいく。 (6 竹内哲也: 半導体光デバイス材料研究室) でイクロLEDを活用し、脂科学と連携して光をでった医療技術の研究・開発に動ける常に意識して研究を遂行してもらう。 (6 大田英治: ナノ電子材料研究室) 固体表面固有の自発的な構造形成現象を利用し、新しいナノ材料を創製する。自己修復するナノ電子ビーム源の作製と評価、ナノチューブエミッター評価、スピン偏極電子線開発に向けた基礎研究。 (7 未田央: エネルギー変換を目はした人工分子の開発と、生体が行う化学反応を代用する機能性分子の開拓に関する研究 (8 中村忠司: 環境材料化学研究室) 光本ルギー変換を目出した人工分子の開発と、生体が行う化学反応を代用する研究 (9 丸山隆浩: 表面化学研究室) 無機系規則性多孔体を適用した環境学化・保全用材料の合成および評価に関する研究 (9 丸山隆浩: 表面化学研究室) 無機系規則性多れ体研究室) 生体用 α + β型および β型チタン合金の回転曲 げ まが発性、ショットビーニング処理した生体用チタン合金の回転曲 げ 接び特性、ショットビーニング処理した生体用チタン合金の回転曲 げ 接 労特性、生体	
専門教育部		カーボンナノチューブとエンジニアリングブラスチックと複合化したナノコンボジットやバイオベースプラスチックをベースとした環境調和複合材料についての特性評価と高機能化に関する研究を行う。 (13 田中崇之: 触媒機能材料研究室) 分子吸着により誘起される異相界面の構造観察により、性能改善に資する知見を得る。ガス導入効果の評価、担体効果の評価、動的観察手法の開拓。 (14 池邉由美子: 機能性セラミックス材料研究室) 優れた特性を持つ機能性セラミックス材料研究室) (15 小澤理楠:ナノ構造組織化研究室) ナノ粒子のバイオミメティックス応用と高機能性物質の作製に関する研究 (16 才間を広:電極地域研究室) 近次元材料を組合せた新規触媒の開発およびモデル材料を用いた触媒反応機構の解明に関する研究 (17 田末村輔:起分子・高分子化学研究室) 新規なキラル分子・高分子化学研究室) 新規なキラル分子・超分子・高分子化学研究室) 新規なキラル分子・超分子・高分子の設計・合成、および、機能性材料の開拓に関する研究 (18 田中正剛:生活化学研究室) 勢かな生活を持続させる環境に配慮した機能性高分子物質や生体に適用可能な高分子材料の開拓に関する研究 (19 谷口彩乃:構造無機化学研究室) 特徴的な形状や構造をもった様々な無機材料を設計・合成し、構造に由来する新しい機能の開拓に関する研究 本講義の主目的は、学生が数理的な素養を含め、データサイエンス、データエンジニアリング、AIに関する知識とスキルを本講義の主目的は、学生が数理的な素養を含め、データサイエンス、データエンジニアリング、AIに関する知識とスキルを本講義の主目的は、学生が数理的な素養を含め、データサイエンス、データエンジニアリング、AIに関する知識とスキルを	
PEG	データサイエンス・A I 応 用基礎 I	適切に習得し、自身の専門分野で数理・データサイエンス・AIを実践するため総合的な視点を身につけることにある。具体的な実例や社会の課題を解析に取り入れた授業を通じて、実社会の問題にアプローチする方法を、数理・データサイエンス・AIの適切な活用法を学ぶ。また、「データ分析」を通して、課題の発見と定式化、データの取り扱い、モデル化、結果の可視化、検証と活用といった、一連のステップを学習する。最終的には、実践的なデータサイエンスおよびAIのスキルを習得し、問題解決においてデータと分析手法を有効に活用する能力を身につけることを目的とする。 (オムニバス方式・全15回) (27 香藤公明・53 山田宗男、31 杉浦伸/1回) (共同) 1 本講義の進め方と注意事項、準備学習、【序論1】データ駆動型社会とデータサイエンス (53 山田宗男/1回) 2 「序論2】AIの歴史と応用分野 (37 富田耕史/2回) 3-4 【データサイエンス基礎1】数学基礎1、【データサイエンス基礎2】数学基礎2 (68 三町括子/2回) 5-6 【データサイエンス基礎3】数学基礎3、【データサイエンス基礎6】 数学基礎4 (27 養藤公明/2回) 7-8 【データサイエンス基礎5】数学基礎5、【データサイエンス基礎6】データの分析設計・観察 (53 山田宗男/4回) 9-12 【データサイエンス基礎7】データ分析手法1、【データサイエンス基礎8】データ分析手法2、【データサイエンス基礎9】データ分析手法3、【データサイエンス基礎11】アルゴリズム・データ構造論2 (54 山本修身/2回) (13-14 【データサイエンス基礎11】アルゴリズム・データ構造論3、まとめ	オムニバス方式 共同 (一部)
	データサイエンス・A I 応 用基礎 I	本講義の主目的は、学生が数理的な素養を含め、データサイエンス、データエンジニアリング、AIに関する知識とスキルを適切に習得し、自身の専門分野で数理・データサイエンス・AIを実践するための総合的な視点を身につけることにある。具体的な裏例や社会の課題を題材に取り入れた授業を通じて、実社会の問題にアプローチする方法や、数理・データサイエンス・AIの適切な活用法を学法。また、倫理的な観点のシデータ活用やアライバン・数での実践を行うための倫理規範についても学習する。最終的には、実践的なデータサイエンスおよびAIのスキルを習得し、問題解決においてデータと分析手法を有効に活用する能力を身につけることを目的とする。 (オムニバス方式・全15回) (27	オムニバス方式 共同 (一部)

- (注)
 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
 2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合人は届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合者しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
 4 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
 5 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

学校法人名城大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和8年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
名城大学				名城大学				
法学部				法学部				
法学科	400	_	1,600	法学科	400	_	1,600	
経営学部				経営学部				
経営学科	215	_	860	経営学科	215	_	860	
国際経営学科	95	_	380	国際経営学科	95	_	380	
経済学部				経済学部				
経済学科	210	_	840	経済学科	210	_	840	
産業社会学科	100	_	400	産業社会学科	100	_	400	
理工学部				理工学部				
数学科	100	_	400	数学科	100	_	400	
電気電子工学科	160	_	640	電気電子工学科	160	_	640	
材料機能工学科	80	_	320		0	_	0	令和8年4月学生募集 停止
応用化学科	70	_	280		0	_	<u>0</u>	△和0年1日学 件首集
機械工学科	125	_	500	機械工学科	125	_	500	
交通機械工学科	105	_	420	交通機械工学科	105	_	420	
メカトロニクス工学科	80	_	320	メカトロニクス工学科	80	_	320	
社会基盤デザイン工学科	90	_	360	社会基盤デザイン工学科	90	_	360	
環境創造工学科	80	_	320	環境創造工学科	80	_	320	
建築学科	145	_	580	建築学科	145	_	580	
				化学・物質学科	<u>150</u>	_	600	学科の設置 (届出)
情報工学部				情報工学部				
情報工学科	180	_	720	情報工学科	180	_	720	
農学部				農学部				
生物資源学科	110	_	440	生物資源学科	110	_	440	
応用生物化学科	110	_	440	応用生物化学科	110	_	440	
生物環境科学科	110	_	440	生物環境科学科	110	_	440	
薬学部				薬学部				
薬学科(6年制)	265	_	1,590	薬学科(6年制)	265	_	1, 590	
都市情報学部				都市情報学部				
都市情報学科	235	_	940	都市情報学科	235	_	940	
人間学部				人間学部				
人間学科	220	_	880	人間学科	220	_	880	
外国語学部				外国語学部				
国際英語学科	130	_	520	国際英語学科	130	_	520	
計	3, 415	_	14, 190	計	3, 415	_	14, 190	

学校法人名城大学 設置認可等に関わる組織の移行表

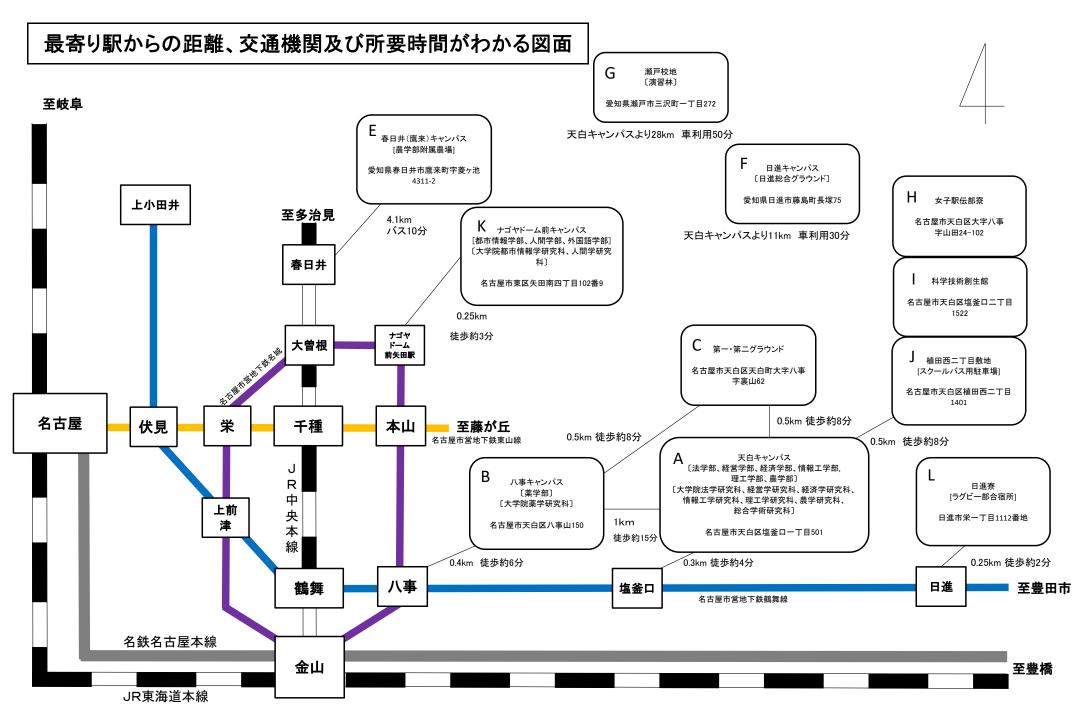
令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和8年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
名城大学大学院				名城大学大学院				
法学研究科				法学研究科				
法律学専攻(M)	6	_	12	法律学専攻(M)	6	_	12	
法律学専攻(D)	2	_	6	法律学専攻(D)	2	_	6	
経営学研究科				経営学研究科				
経営学専攻(M)	10	_	20	経営学専攻(M)	10	_	20	
経営学専攻(D)	3	_	9	経営学専攻(D)	3	_	9	
経済学研究科				経済学研究科				
経済学専攻(M)	3	_	6	経済学専攻(M)	3	_	6	
経済学専攻(D)	2	_	6	経済学専攻(D)	2	_	6	
理工学研究科				理工学研究科				
数学専攻(M)	8	_	16	数学専攻(M)	8	_	16	
数学専攻(D)	2	_	6	数学専攻(D)	2	_	6	
情報工学専攻(M)	30	_	60		0	_	0	令和8年4月学生募集
電気電子工学専攻(M)	25	_	50	電気電子工学専攻(M)	25		50	停止
材料機能工学専攻(M)	35		70	材料機能工学専攻(M)	35		70	
応用化学専攻(M)	24		48	応用化学専攻(M)	24		48	
機械工学専攻(M)	30		60	機械工学専攻(M)	30		60	
交通機械工学専攻(M)	25		50	交通機械工学専攻(M)	25		50	
メカトロニクス工学専攻(M)	24		48	メカトロニクス工学専攻(M)	24		48	
社会基盤デザイン工学専攻(M)	18		36	社会基盤デザイン工学専攻(M)	18		36	
環境創造工学専攻(M)	8		16	環境創造工学専攻(M)	8		16	
建築学専攻(M)	16		32	建築学専攻(M)	16		32	
電気・情報・材料・物質工学専攻(D)	10		30	電気・情報・材料・物質工学専攻(D)	10		30	
機械工学専攻(D)	5		15	機械工学専攻(D)	5		15	
社会環境デザイン工学専攻(D)	5		15	社会環境デザイン工学専攻(D)	5		15	
				情報工学研究科	_			研究科の設置(届 出)
農学研究科				情報工学専攻(M) 農学研究科	<u>45</u>	_	90	定員変更(15)
農学専攻(M)	30	_	60	農学専攻(M)	30	_	60	
農学専攻(D)	3		9	農学専攻(D)	3		9	
薬学研究科	J		3	薬学研究科	Ü		3	
薬学専攻(D)(4年制)	4	_	16	薬学専攻(D)(4年制)	4	. –	16	
都市情報学研究科	1		10	都市情報学研究科	1		10	
都市情報学専攻(M)	6	_	12	都市情報学専攻(M)	6	. —	12	
都市情報学専攻(D)	3		9	都市情報学専攻(D)	3		9	
人間学研究科	Ü		J	人間学研究科	0		J	
人間学専攻(M)	5	_	10	人間学専攻(M)	5	_	10	
総合学術研究科	J		10	総合学術研究科	0		10	
総合学術専攻(M)	8	_	16	総合学術専攻(M)	8	. –	16	
総合学術専攻(D)	4		12	総合学術専攻(D)	4		12	
計	354		755	計	369		785	

都道府県内における位置関係の図面



*出典: Google 社「Google マップ」

本学施設の位置関係を示すため、本学にて地図上に施設名を記入した。

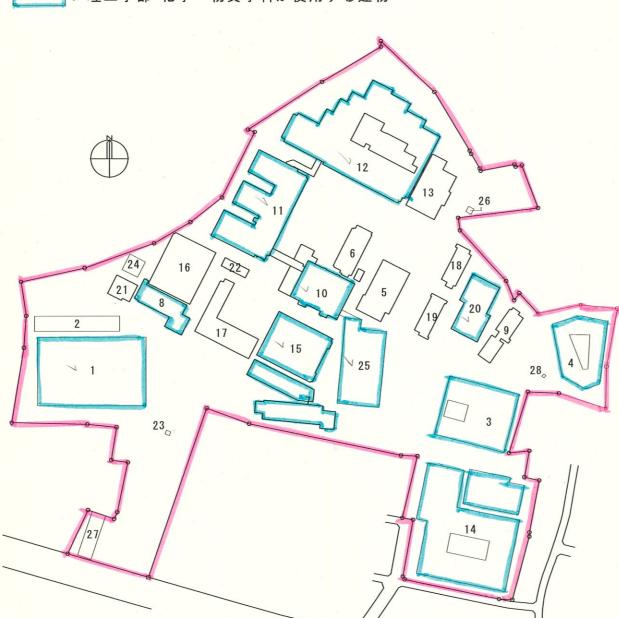


:

: 大学所有の校地

Α

: 理工学部 化学・物質学科が使用する建物



-図面-3-

※2029年4月時点

10	名 称
1	名城大学開学100周年記念アリーナ ※1
2	クラブハウス棟(仮称)※1
3	研究実験棟IV
4	研究実験棟Ⅲ
5	9号館
6	10号館
7	11号館
8	12号館
9	13号館
10	タワー7 5
11	共通講義棟南
12	共通講義棟北
13	研究実験棟I
14	研究実験棟Ⅱ
15	附属図書館
16	体育館
17	本部棟
18	7号館
19	8号館
20	6号館
21	14号館
22	車庫
23	守衛棟
24	本部附属施設
25	共通講義棟東
26	温室倉庫
27	校友会館
28	守衛所

※1 2025年11月完成予定

天白校地 校舎敷地

122, 782m²

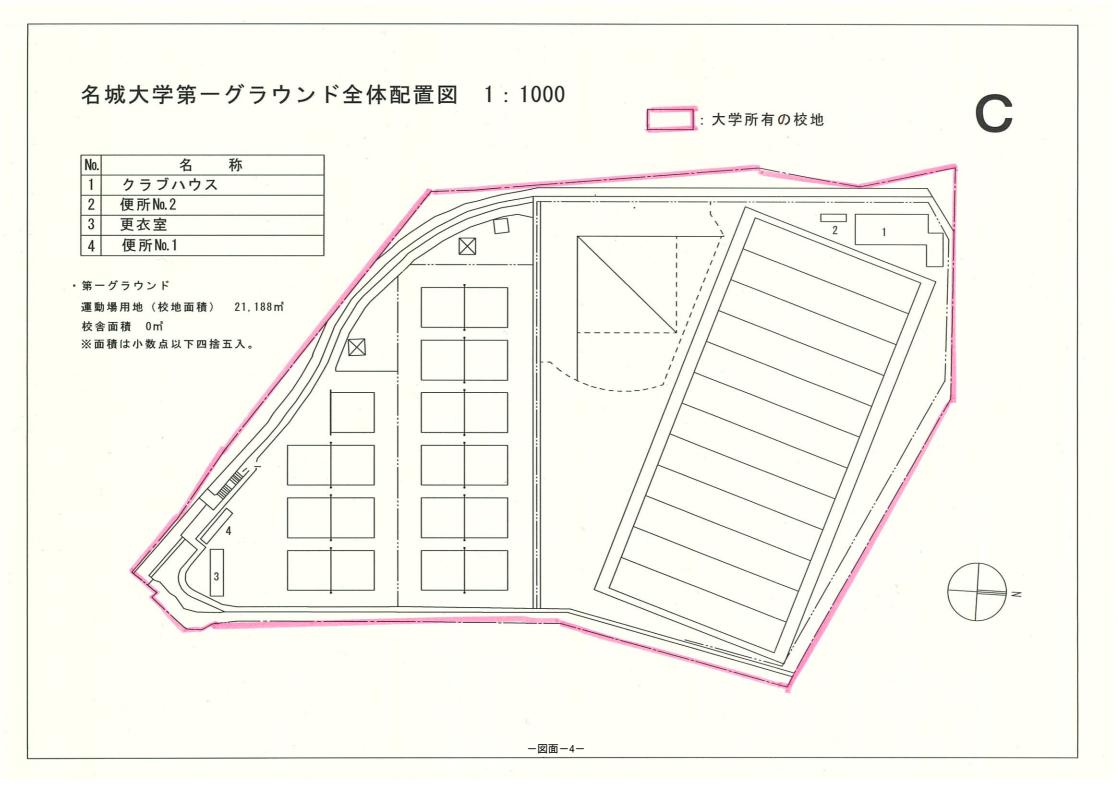
校舎面積

155, 811 m[‡]

その他校地 校地面積 1, 710㎡ 124, 492㎡ **町積** 155, 8

※面積は小数点以下四捨五入

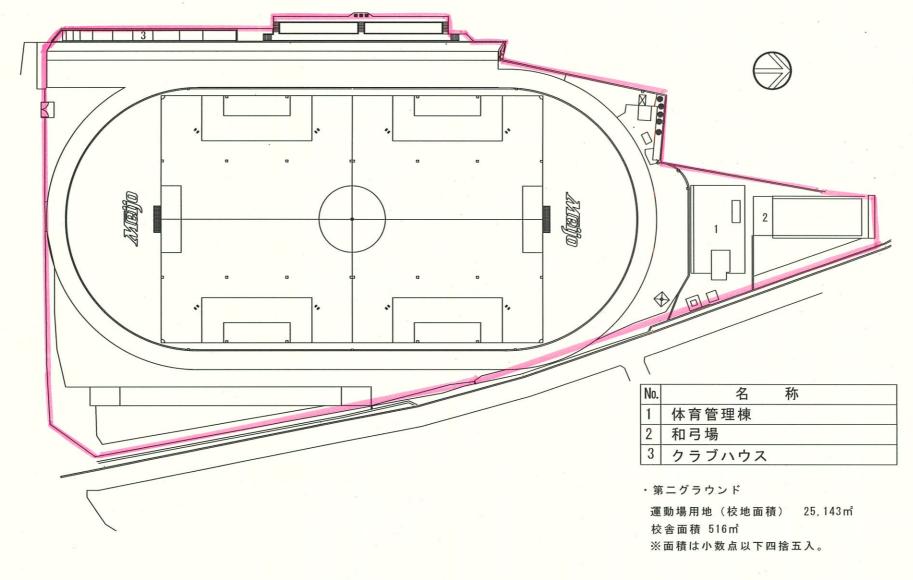
※申請時に着工の承認がない新築工事、解体工事にかかる建築物については 図面に反映していません。

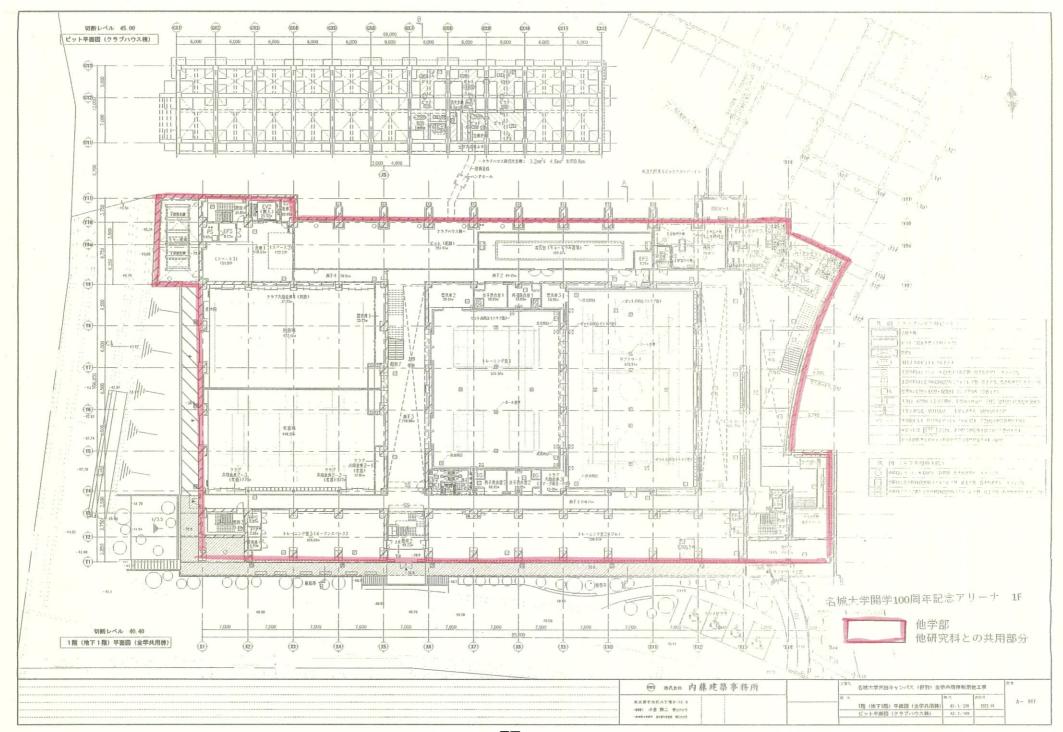


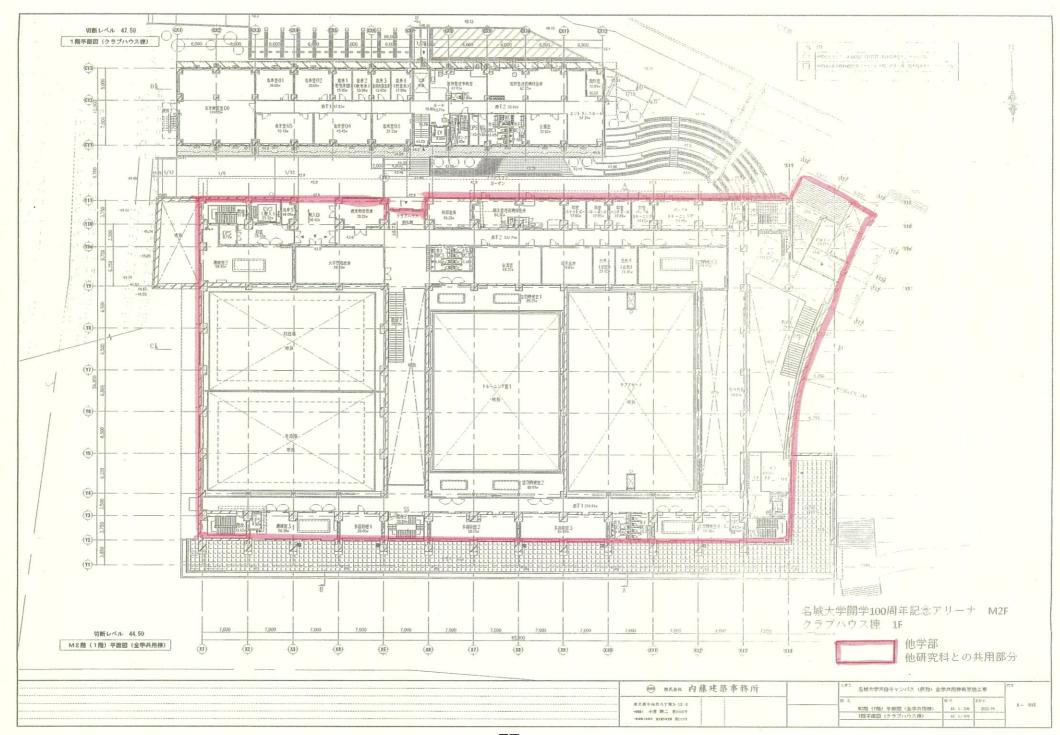


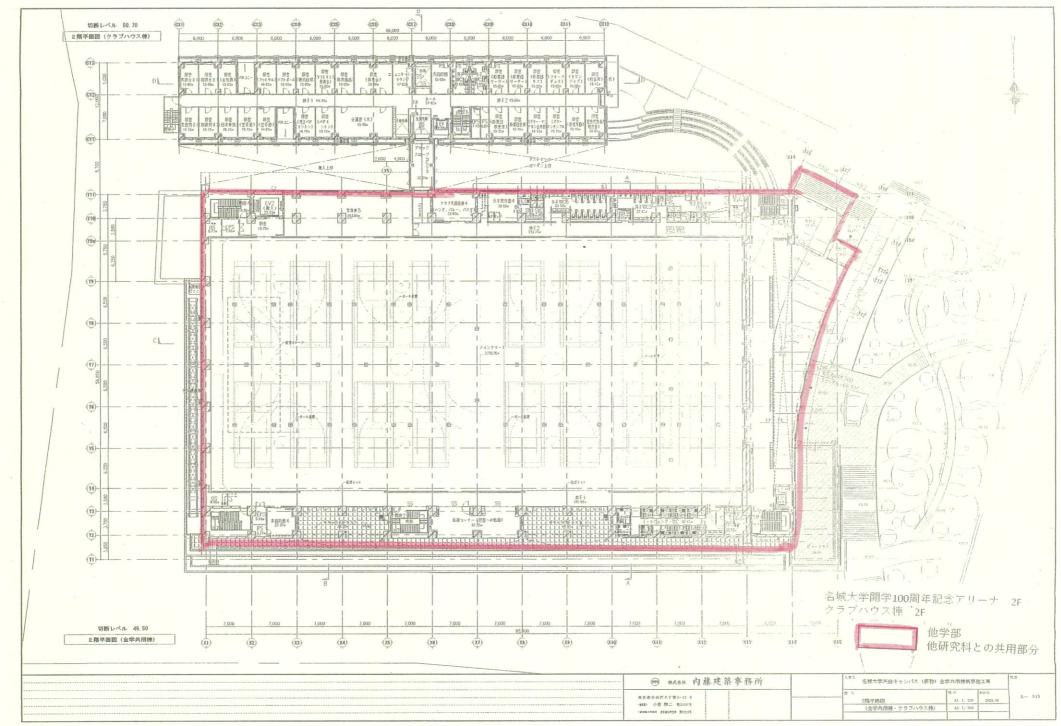
____: 大学所有の校地

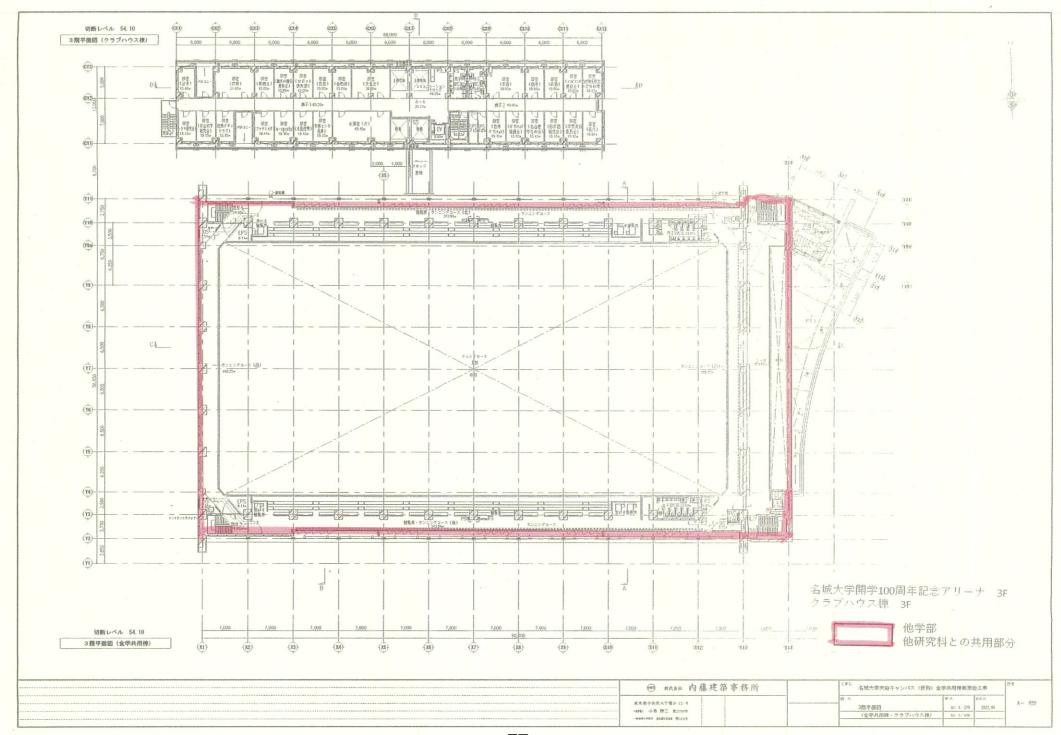
C

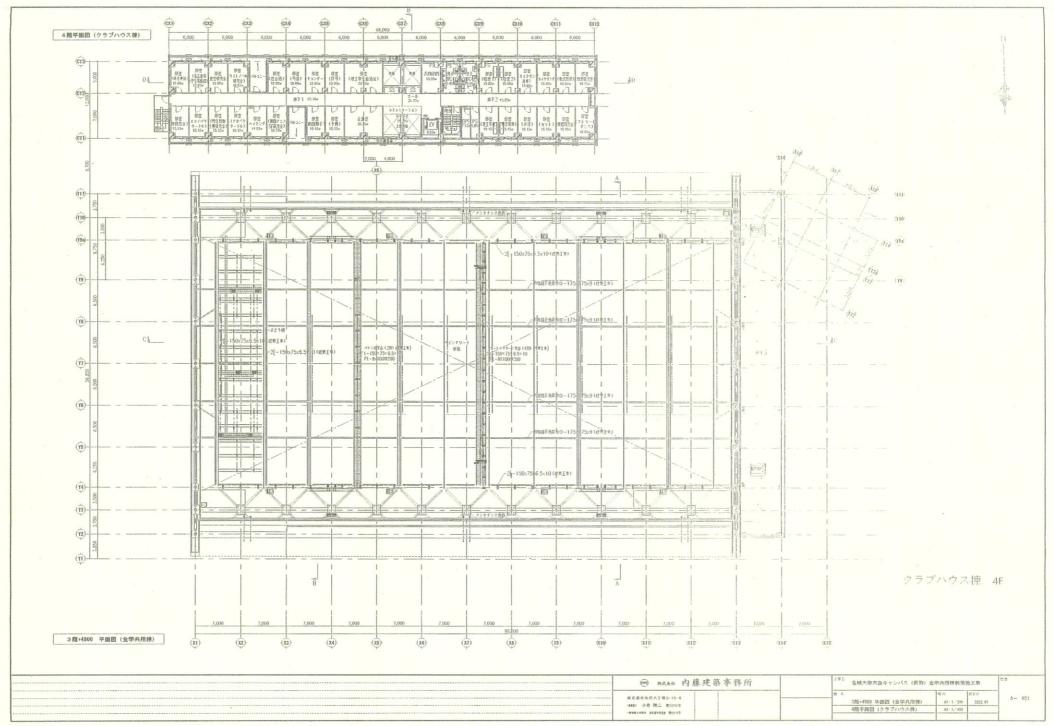


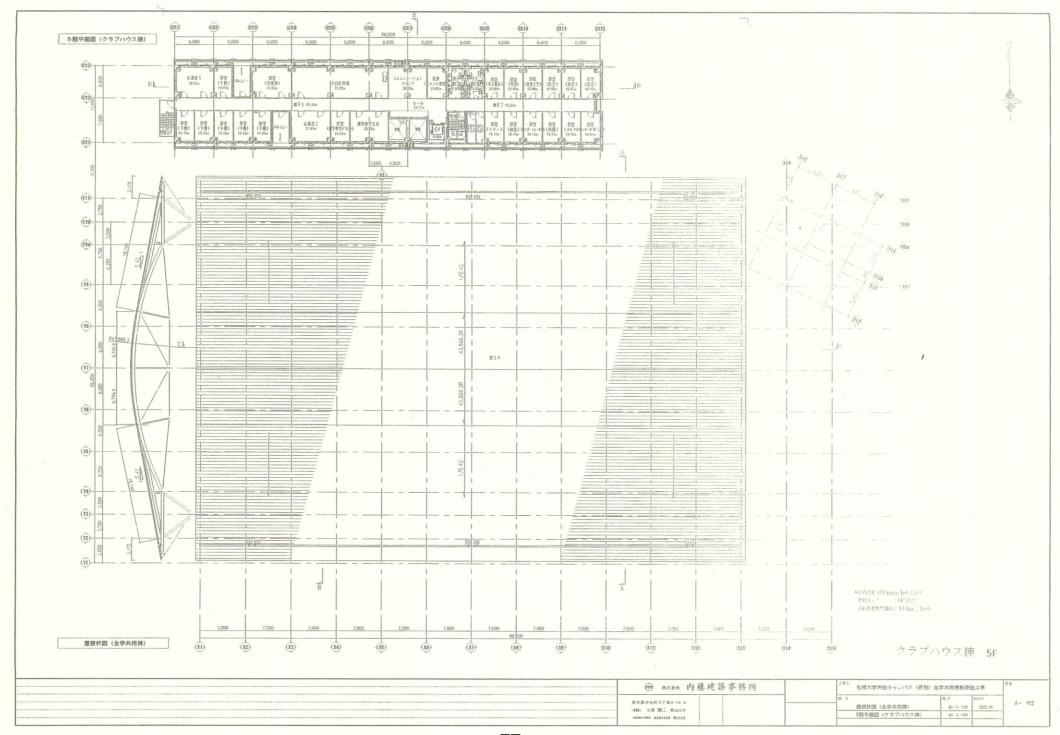












■名城大学天白キャンパス 名城大学開学100周年記念アリーナ他新築工事 工程表

年度						2	2024											2	2025						
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
	2	号)	館・	3	号館	官・	附属	棟化	2解4	工	事														
	名	占坂	大大	学	'開	学	100	周年	E記:	念	ア	リ -	ーナ	⊢(t	也新	í築	Ţ	.事	*	運用	開始	202	16年	度	予定

令和8年4月1日改正

名 城 大 学 学 則

第1章 総則

(目的)

第1条 本大学は、教育基本法及び学校教育法の規定するところに従い、学術の中心として、深く専門の教育研究を行い、合わせて広汎な教養を培い、創造的な知性と豊かな人間性を備えた有能な人材を養成するとともに学術・文化の進展に寄与することを目的とする。

(自己評価等)

- 第2条 本大学は、その教育研究水準の向上を図り、本大学の目的及び社会的使命を達成 するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表す る。
- ② 前項の点検、評価等に関することは、別に定める。
- ③ 第1項の点検及び評価の結果については、本大学の職員以外の者による検証を行う。 (情報の積極的な提供)
- 第2条の2 本大学における教育研究活動等の状況については、刊行物への掲載等によって、積極的に情報の提供を行う。

第2章 組織

(学部)

第3条 本大学に、次の学部及び学科を置く。

法学部 法学科

経営学部 経営学科、国際経営学科 経済学部 経済学科、産業社会学科

理工学部数学科、電気電子工学科、化学・物質学科、機械工学科、交通機械工

学科、メカトロニクス工学科、社会基盤デザイン工学科、環境創造工

学科、建築学科

農学部 生物資源学科、応用生物化学科、生物環境科学科

薬学部 薬学科

都市情報学部 都市情報学科

人間学部 人間学科

外国語学部 国際英語学科 情報工学部 情報工学科

② 前項の各学部及び学科の収容定員は、別表第1のとおりとする。

(学部の人材の養成に関する目的)

- 第3条の2 前条に定める学部ごとの人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目 的に関しては、以下のように定める。
 - (1) 法学部は、法的思考及び法的素養を修得させることにより、社会のみならず自己 に対する客観的な視点を持ち、正義感と倫理観を兼ね備えて、自分で考え判断する ことのできる人材の養成を目的とする。
 - (2) 経営学部は、国際感覚に富み、幅広い教養に支えられた経営諸科学の理論的・実践的能力を社会の多様な領域で発揮する人材の養成を目的とする。
 - (3) 経済学部は、経済という一つの窓を通じて社会を見つめ、多様化・複雑化する社会に柔軟に対応できる自立的人間の養成を目的とする。
 - (4) 理工学部は、幅広い素養を備え、社会に通用する専門知識とその応用力を持ち、 科学技術者として自らの手で新しい分野を創造的に切り拓いてゆく人材の養成を目 的とする。

- (5) 農学部は、生命科学、食料・健康科学、環境科学を基盤とした幅広い専門的学識を有し、洞察力、創造力および実践力を備え、社会に貢献できる人材の養成を目的とする。
- (6) 薬学部は、薬学の確かな知識、技能とともに、生命の尊さを知り、豊かな人間性と倫理観をもち、人々の健康と福祉の向上に貢献できる人材の養成を目的とする。
- (7) 都市情報学部は、サービスサイエンスの観点から、都市に関する総合的知識とバランス感覚を併せ持ち、まちづくりや組織経営に関する様々な課題を分析し、解決する人材の養成を目的とする。
- (8) 人間学部は、人間性への洞察を中核にすえた広い視野と深い教養を持ち、豊かな 人間性に裏打ちされ、国際的な舞台でも活躍できるコミュニケーション能力と行動 力を備えた人材の養成を目的とする。
- (9) 外国語学部は、国際化の推進を理念とし、グローバリゼーションが深化する世界において求められる実践的なコミュニケーション力を有し、国境を越えて活躍できる、以下に掲げる能力を備えた人材の養成を目的とする。
 - ① グローバル化社会の最前線で活躍できる英語の運用能力を有した人材
 - ② アジアをはじめとする海外の事情に通じ、異文化や国際社会に対して深い理解 力を持った人材
 - ③ 日本の歴史、文化、社会を深く理解し、日本の立場や事情を世界に発信する能力を備え、グローバル化社会を切り開いて行くことができる人材
- (10) 情報工学部は、幅広い素養を備え、社会に通用する情報工学の専門知識とその 応用力を持ち、情報技術者として自らの手で新しい分野を創造的に切り拓いてゆく 人材の養成を目的とする。

(大学院)

- 第4条 本大学に、大学院を置く。
- ② 大学院に関することは、別に定める。 (専攻科)
- 第5条 本大学に、専攻科を置く。
- ② 専攻科に関することは、別に定める。 (附属施設等)
- 第6条 本大学に、次の教育研究の施設等を置く。
 - (1) 研究所
 - (2) 農学部附属農場
 - (3) その他附属施設等
- ② 教育研究の施設等に関することは、別に定める。 (附属図書館)
- 第7条 本大学に、附属図書館を置く。
- ② 附属図書館に関することは、別に定める。 (事務組織)
- 第8条 本大学に、総合企画部、総務部、渉外部、財務部、施設部、東京オフィス、開学100周年事業室、社会連携センター、入学センター、学務センター、障がい学生支援センター、大学教育開発センター、学術研究支援センター、キャリアセンター、国際化推進センター、情報センター、附属図書館、学部事務室、ナゴヤドーム前キャンパス事務室及び教職センター事務室を置く。
- ② 事務組織に関することは、別に定める。 (職員)
- 第9条 本大学に、学長、教授、准教授、助教、助手及び事務職員を置く。
- ② 本大学に、副学長、学部長、講師及びその他必要な職員を置くことができる。 (教授会)
- 第10条 各学部に、教授会を置く。
- ② 教授会は、各学部の教授をもって構成する。ただし、必要に応じ、准教授等専任の教育職員を参加させ、その他の職員を出席させることができる。

- ③ 教授会は、次の場合に学部長が招集し、その議長となる。
 - (1) 学部長が必要と認めたとき
 - (2) 教授会構成員の3分の1以上の要請があったとき
 - (3) 学長が教授会の招集を要請したとき
- ④ 教授会は、次の事項を審議する。
 - (1) 教育課程及び成績評価に関する事項
 - (2) 学生の資格認定及びその身分に関する事項
 - (3) 教授、准教授、助教、講師、助手等の専任教育職員の教育研究業績の審査及び専 任教育職員の進退に関する事項
 - (4) 教育研究に係る学則の変更に関する事項
 - (5) その他教育研究に関する重要な事項
- ⑤ 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとす る。
 - (1) 学生の入学及び卒業に関する事項
 - (2) 学位の授与に関する事項
 - (3) その他教育研究に関する事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項
- ⑥ 教授会に関することは、別に定める。 (大学協議会)
- 第11条 本大学に、大学協議会を置く。
- ② 大学協議会に関することは、別に定める。 (学部長会)
- 第11条の2 本大学に、学部長会を置く。
- ② 学部長会に関することは、別に定める。

第3章 学年・学期及び休業日

(学年)

第12条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。 (学期)

第13条 学年を次の2学期に分ける。

前期 4月1日から9月13日まで

後期 9月14日から翌年3月31日まで

(休業日)

- 第14条 休業日は、次のとおりとする。
 - (1) 日曜日
 - (2) 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に定める休日
 - (3) 夏季休業日 8月上旬から9月13日まで
 - (4) 冬季休業日 12月下旬から翌年1月上旬まで
 - (5) 春季休業日 2月上旬から3月31日まで
- ② 必要がある場合、前項に定めるもののほか、休業日を定め、又は変更することができる。

第4章 修業年限及び在学年限

(修業年限)

- 第15条 学部の修業年限は、4年とする。ただし、薬学部においては、6年とする。 (在学年限)
- 第16条 学生は、8年を超えて在学することはできない。ただし、第22条又は第23 条の規定により入学又は転学部等が許可された者の在学年限は、別に定める。

② 前項の規定にかかわらず、薬学部の在学年限は、12年とする。

第5章 入学

(入学の時期)

第17条 本大学の入学の時期は、毎年4月とする。ただし、第10章及び第11章に定めるものについては、学期の始めとすることができる。

(入学資格)

- 第18条 本大学に、入学できる者は、次の各号の1に該当する者とする。
 - (1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者
 - (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者
 - (3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で、文部科学大臣の指定したもの
 - (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外 教育施設の当該課程を修了した者
 - (5) 専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であることその他文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が 定める日以後に修了した者
 - (6) 文部科学大臣の指定した者 (昭和23年文部省告示第47号)
 - (7) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者 (旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。)
 - (8) 高等学校に2年以上在学した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した ものであって、本大学において、数学の分野における特に優れた資質を有し、かつ、 高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者
 - (9) 学校教育法第90条第2項の規定により大学に入学した者であって、当該者をその後に入学させる大学において、大学における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者
 - (10) 本大学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達した者

(入学の出願)

- 第19条 本大学に入学を志願する者は、所定の書類を添えて願い出なければならない。 (入学者の選考)
- 第20条 前条の入学志願者については、別に定めるところにより、選考を行う。

(入学手続及び入学許可)

- 第21条 前条の選考結果に基づき、合格通知を受けた者は、指定する期日までに、所定 の入学手続きをしなければならない。
- ② 学長は、前項の入学手続きを完了した者に入学を許可する。

(編入学・転入学及び再入学)

- 第22条 次の各号の1に該当する者で、編入学、転入学又は再入学(以下「編入学等」 という。)を志願する者については、選考のうえ、相当年次に編入学等を許可する。
 - (1) 大学を卒業した者又は退学した者
 - (2) 短期大学、高等専門学校、旧国立工業教員養成所又は国立養護教諭養成所を卒業した者
 - (3) 専修学校の専門課程(修業年限が2年以上、総授業時数が1,700時間以上であるものに限る。)を修了した者(ただし、学校教育法第90条第1項に規定する大学入学資格を有する者に限る。)
 - (4) 学校教育法施行規則附則第7条に定める従前の規定による高等学校、専門学校若 しくは教員養成諸学校等の課程を修了、又は卒業した者
 - (5) 高等学校の専攻科の課程(修業年限が2年以上であることその他の文部科学大臣 の定める基準を満たすものに限る。)を修了した者(ただし、学校教育法第90条第

1項に規定する大学入学資格を有する者に限る。)

(転学部等)

第23条 転学部・転学科・コース変更(以下「転学部等」という。)を志願する者については、選考のうえ、当該の学部、学科、コースの相当年次に転学部等を許可する。

第 6 章 教育課程·履修方法等

(教育課程)

- 第24条 教育課程は、各授業科目を必修科目、選択科目及び自由科目とし、選択科目に ついては、学修方法により選択必修科目又は選択科目に区分する。
- ② 前項に定める教育課程は、各年次に配当して編成するものとする。
- ③ 授業科目、単位数及び卒業要件は、別表第2及び別表第2の2並びに各学部履修要項のとおりとする。
- ④ 第43条及び第44条で定める外国人留学生及び帰国子女として入学した者については、前項別表第2及び別表第2の2に規定する授業科目のほか、別表第3に定める授業科目を置く。
- ⑤ 第44条の2に定める交換留学生として入学した者については、別表第2及び別表第2の2に規定する授業科目のほか、別表第3の2に定める授業科目を置く。
- ⑥ 履修方法に関することは、別に定める。

(教育内容等の改善)

- 第24条の2 本大学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究 を行う。
- ② 前項の研修及び研究に関することは、別に定める。 (単位)
- 第25条 授業科目の単位は、次の各号の基準によるものとする。
 - (1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの授業時間をもって1単位とする。
 - (2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの授業時間をもって 1単位とする。
- ② 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、 これらの学修の成果を評価して単位を与えることができる。

(単位の授与)

- 第26条 授業科目を履修し、試験に合格した者には、所定の単位を与える。 (入学前の既修得単位等の認定)
- 第27条 教育上有益と認めるときは、本大学の第1年次に入学した者が、入学前に、次の教育施設等(外国の大学を含む。)において行った学修及び修得した単位を、大学設置基準に定めるところにより、本大学が定める授業科目を履修して修得したものとみなし、60単位を超えない範囲で認定することができる。
 - (1) 大学又は短期大学
 - (2) 短期大学又は高等専門学校の専攻科
 - (3) 文部科学大臣の定めるもの

(本大学以外における修得単位等の認定)

- 第28条 学生が、本大学以外の教育施設等で行った学修及び修得した単位の認定は、前 条の規定を準用する。
- ② 前項の修得したものとみなす単位数は、第27条により修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えない範囲で認定することができる。

(編入学等及び転学部等の単位等の認定)

第29条 編入学等及び転学部等をした学生の既に履修した授業科目及び修得した単位 は、各学部において認定する。

(多様なメディアを高度に利用して行う授業)

第29条の2 本大学は、文部科学大臣が別に定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して行う授業を教室等以外の場所で履修させることができる。

(成績)

第30条 履修科目の成績は、秀(S)、優(A)、良(B)、可(C)及び不可(F)の5種の評語をもって表わし、秀(S)、優(A)、良(B)及び可(C)を合格とする。

第7章 休学・転学・留学・退学等

(休学)

- 第31条 疾病その他やむを得ない理由により、3月以上修学することができない者は、 学部教授会の議を経て、学部長の許可を得て休学することができる。
- ② 休学期間は、1年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、1年を限度として、休学期間の延長を認めることができる。
- ③ 休学期間は、通算して4年を超えることができない。
- ④ 休学期間は、在学年限に算入しない。

(復学)

第32条 休学期間中にその理由が消滅したときは、学部教授会の議を経て、学部長の許可を得て復学することができる。

(転学)

第33条 他の大学に入学又は転入学を志願する者は、学部長に願い出て、あらかじめそ の許可を得なければならない。

(留学)

- 第34条 外国の大学又は短期大学で学修することを志願する者は、学部長の許可を得て 留学することができる。
- ② 留学期間は、第38条に定める在学期間に含めることができる。

(退学)

第35条 疾病その他やむを得ない理由により、退学しようとする者は、学部教授会の議 を経て、学長の許可を得て退学することができる。

(除籍)

- 第36条 次の各号の1に該当する者は、学部教授会の議を経て、学長が除籍する。
 - (1) 第16条に定める在学年限を超えた者
 - (2) 第31条に定める休学期間を超えてなお修学できない者
 - (3) 学費を納入しない者
 - (4) その他成業の見込みがないと認められる者

(復籍)

第37条 前条により除籍された者で復籍しようとするものは、学部教授会の議を経て、 学長の許可を得て復籍することができる。ただし、前条第1号により除籍された者は除 く。

第8章 卒業及び学位の授与

(卒業及び学位の授与)

- 第38条 次の各号の1に該当する者には、学部教授会の議を経て、学部長が卒業を認定 し、学長は、学士の学位を授与する。
 - (1) 本大学に4年以上在学し、第24条に定める124以上の単位を修得した者
 - (2) 本大学に3年以上在学し、別に定める要件を満たした者

第9章 教職課程及び学芸員課程

(教育職員免許状の取得)

- 第39条 教育職員免許状を取得しようとする者は、教育職員免許法及び同施行規則に定める単位を修得しなければならない。
- ② 教職課程に関する授業科目、単位数、履修方法等は、別表第4のとおりとする。 (教育職員免許状の種類)
- 第40条 本大学において、所定の単位を修得した者は、別表第5の教育職員免許状を取得することができる。

(学芸員資格の取得)

- 第40条の2 学芸員の資格を取得しようとする者は、博物館法及び同施行規則に定める 単位を修得しなければならない。
- ② 学芸員課程に関する授業科目及び単位数は、別表第6のとおりとする。

第10章 科目等履修生及び研究生

(科目等履修生)

- 第41条 本大学において、授業科目につき履修することを志願する者については、教育研究に支障のない場合に限り、選考のうえ、科目等履修生として入学を許可する。
- ② 授業科目を履修し、試験に合格した者には、所定の単位を与える。 (研究生)
- 第42条 本大学において、専門事項につき研究することを志願する者については、教育研究に支障のない場合に限り、選考のうえ、研究生として入学を許可する。

第11章 外国人留学生、帰国子女及び交換留学生

(外国人留学生)

第43条 外国人で、大学において教育を受ける目的をもって入国し、本大学に入学を志願する者については、選考のうえ、外国人留学生として入学を許可する。

(帰国子女)

第44条 帰国子女で、本大学に入学を志願する者については、選考のうえ、帰国子女と して入学を許可する。

(交換留学生)

第44条の2 本大学との交流協定及び加盟校間の交換留学を推進する団体との協定に 基づき海外の大学から本大学へ派遣された者は、選考のうえ、交換留学生として入学を 許可する。

第12章 賞罰

(表彰)

第45条 学生として表彰に価する行為があった者は、学部教授会及び協議会の議を経て、 学長が表彰する。

(懲戒)

- 第46条 本大学の規則に違反又は学生としての本分に反する行為をした者は、学部教授会及び大学協議会の議を経て、学長が懲戒する。懲戒の手続き等については、別に定める。
- ② 前項の懲戒の種類は、退学、停学及び訓告とする。
- ③ 前項の退学は、次の各号の1に該当する場合に行う。
 - (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
 - (2) 本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

第13章 厚生施設

(学生寮等)

- 第47条 本大学に、学生寮等を置く。
- ② 学生寮等に関することは、別に定める。

第14章 公開講座

(公開講座)

- 第48条 市民及び地域社会の教育文化の発展に貢献するため、本大学に公開講座を開設 することができる。
- ② 公開講座に関することは、別に定める。

第15章 学費等

(学費等)

第49条 学費等の種類及びその額は、学校法人名城大学の設置する学校の学費等に関する規則に定めるところによる。

附 則

この学則は、昭和42年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和46年4月1日から施行する。ただし、第30条、第31条、第32条、第37条、第38条及び第38条の2は、昭和46年度入学者から適用する。

附則

この学則は、昭和47年4月1日から施行する。

附則

この学則は、昭和48年4月1日から施行する。

附則

この学則は、昭和49年4月1日から施行する。ただし、第25条及び第25条の2は、昭和49年度入学者から適用する。

附即

この学則は、昭和50年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和50年9月19日から施行する。

附則

この学則は、昭和51年4月1日から施行する。

附則

この学則は、昭和52年4月1日から施行する。

附則

この学則は、昭和55年4月1日から施行する。

附則

この学則は、昭和55年4月1日から施行する。ただし、第34条第4号は、昭和55年度入学者から適用する。

附 則

この学則は、昭和56年4月1日から施行する。ただし、第28条第4号及び第28条の2第4号は、昭和56年度入学者から適用する。

附 則

この学則は、昭和57年4月1日から施行する。ただし、第25条の3、第30条及び第31条は、昭和57年度入学者から適用する。

附則

この学則は、昭和58年4月1日から施行する。

附則

この学則は、昭和58年4月1日から施行し、昭和58年度入学者から適用する。

附則

この学則は、昭和59年4月1日から施行する。ただし、第30条の2及び第31条の2は、昭和59年度入学者から適用する。

附 則

この学則は、昭和60年4月1日から施行する。

附則

この学則は、昭和60年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和60年5月30日から施行する。ただし、第38条の2は、昭和60年度入学者から適用する。

附則

この学則は、昭和61年4月1日から施行する。

附則

この学則は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和62年4月1日から施行する。ただし、第2条第2項の規定にかかわらず、昭和62年度から平成7年度までの間の学生定員は、次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	総定員
法学部一部	法学科	450名	1,800名
法学部二部	法学科	200名	800名
商学部一部	商学科	250名	1,000名
	経済学科	250名	1,000名
商学部二部	商学科	200名	800名

	数学科	80名	3 2 0 名
	電気電子工学科	120名	480名
┃ ┃ 理 工 学 部 一 部	機械工学科	120名	480名
性工子的一即	交通機械学科	120名	480名
	土木工学科	120名	480名
	建築学科	120名	480名
四十岁如一如	数学科	50名	200名
	電気電子工学科	80名	3 2 0 名
	機械工学科	80名	3 2 0 名
理工学部二部	交通機械学科	50名	200名
	土木工学科	50名	200名
	建築学科	80名	3 2 0 名
農学部	農学科	120名	480名
展	農芸化学科	120名	480名
薬学部	薬学科	160名	640名
米 子 印	製薬学科	80名	320名
	計	2,900名	11,600名

附則

- ① この学則は、昭和62年4月1日から施行する。ただし、第28条及び第28条の 3は、昭和62年4月1日から適用する。
- ② 第25条第1号及び第25条の4第1号に規定する「情報処理概論A・B」は、昭和63年4月1日から適用する。

附 則

この学則は、昭和63年4月1日から施行する。ただし、第28条の2第1号、同条第4号及び第28条の4第1号並びに同条第4号は、昭和63年度入学者から適用する。

附則

この学則は、平成元年4月1日から施行する。ただし、第28条の5は、平成元年度入 学者から適用する。

附則

この学則は、平成2年4月1日から施行し、平成2年度入学者から適用する。

附 則

この学則は、平成2年4月1日から施行する。

附則

- ① この学則は、平成3年4月1日から施行し、平成2年4月1日以後に入学する者から 適用する。
- ② 平成2年3月31日に在学している者は、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

① 第2条第2項及び附則(昭和62年4月1日施行)の学生定員にかかわらず、平成3年度から平成11年度までの間の学生定員は、次のとおりとする。

(1) 平成3年度から平成7年度まで

))\	W 4V	→ W + □	40 H
学部	学 科	人字定員	総定員
4 H-1:	7 11	/ · · / / _ / \	

法学部一部	法学科	450名	1,800名
法学部二部	法学科	200名	800名
商学部一部	商学科	250名	1,000名
四十四 四	経済学科	250名	1,000名
商学部二部	商学科	200名	800名
	数学科	80名	3 2 0 名
	電気電子工学科	140名	560名
细工学如一如	機械工学科	140名	560名
理工学部一部	交通機械学科	140名	560名
	土木工学科	140名	560名
	建築学科	140名	560名
	数学科	50名	200名
	電気電子工学科	80名	320名
┃ ┃ 理 工 学 部 二 部	機械工学科	80名	320名
性工子的一即	交通機械学科	50名	200名
	土木工学科	50名	200名
	建築学科	80名	3 2 0 名
農学部	農学科	120名	480名
辰 子 印	農芸化学科	120名	480名
薬学部	薬学科	160名	640名
来子印	製薬学科	80名	320名
合	計	3,000名	12,000名

(2) 平成8年度から平成11年度まで

学部	学科	入学定員	総定員
法学部一部	法学科	400名	1,600名
法学部二部	法学科	200名	800名
商学部一部	商学科	200名	800名
पा पा के कि	経済学科	200名	800名
商学部二部	商学科	200名	800名
	数学科	80名	320名
	電気電子工学科	140名	560名
理工学部一部	機械工学科	140名	560名
理 工 子 部 一 部	交通機械学科	140名	560名
	土木工学科	140名	560名
	建築学科	140名	560名
	数学科	50名	200名
	電気電子工学科	80名	320名
■ 理工学部二部	機械工学科	80名	320名
在 上 十 即 一 即	交通機械学科	50名	200名
	土木工学科	50名	200名
	建築学科	80名	320名
農学部	農学科	120名	480名
反 丁 叩	農芸化学科	120名	480名
薬学部	薬学科	160名	640名
* 丁 印	製薬学科	80名	320名
合	計	2,850名	11,400名

② この学則は、平成3年4月1日から施行する。

附則

① この学則は、平成3年4月1日から施行し、第30条第4号(1)及び第31条第1項

第4号のうち、数学科に係る規定は、平成3年4月1日以後に入学する者から適用し、 第44条第2項は、平成2年4月1日以後に聴講が許可された者から適用する。

② 平成3年3月31日に在籍している者については、改正後の規定にかかわらず、なお 従前の例による。

附 則

この学則は、平成3年10月1日から施行し、平成3年7月1日から適用する。

附則

- ① この学則は、平成4年4月1日から施行する。
- ② 平成4年3月31日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお 従前の例による。ただし、第24条に定める教育課程の適用に関する経過措置について は、別に定める。

附則

この学則は、平成5年4月1日から施行する。ただし、平成5年3月31日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

この学則は、平成6年4月1日から施行する。ただし、平成6年3月31日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附則

- ① この学則は、平成7年4月1日から施行する。ただし、平成7年3月31日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- ② 別表第1(第3条第2項関係)及び附則(平成3年4月1日施行)の学生定員にかかわらず、平成7年度から平成11年度までの間の学生定員は、次のとおりとする。

(1) 平成7年度

学部	学科	入学定員	総定員
法学部一部	法学科	430名	1,720名
法学部二部	法学科	200名	800名
商学部一部	商学科	235名	940名
间子即 即	経済学科	235名	940名
商学部二部	商学科	200名	800名
	数学科	70名	280名
	電気電子工学科	140名	560名
┃ ┃ 理工学部一部	機械工学科	130名	520名
上土于的 即	交通機械学科	140名	560名
	土木工学科	140名	560名
	建築学科	130名	520名
	数学科	50名	200名
	電気電子工学科	80名	320名
理工学部二部	機械工学科	80名	3 2 0 名
性工于的一即	交通機械学科	50名	200名
	土木工学科	50名	200名
	建築学科	80名	3 2 0 名
農学部	農学科	120名	480名
反 士 叩	農芸化学科	110名	440名
薬学部	薬学科	150名	600名
米 士 印	製薬学科	80名	320名

	都市情報学部	都市情報学科	200名	800名
--	--------	--------	------	------

(2) 平成8年度から11年度まで

学部	学科	入学定員	総定員
法学部一部	法学科	380名	1, 520名
法学部二部	法学科	200名	800名
商学部一部	商学科	185名	740名
尚子司·一司 	経済学科	185名	740名
商学部二部	商学科	200名	800名
	数学科	70名	280名
	電気電子工学科	140名	560名
理工学部一部	機械工学科	130名	520名
上 上 子 即 一 即	交通機械学科	140名	560名
	土木工学科	140名	560名
	建築学科	130名	520名
	数学科	50名	200名
	電気電子工学科	80名	3 2 0 名
 理工学部二部	機械工学科	80名	3 2 0 名
性工子的一即	交通機械学科	50名	200名
	土木工学科	50名	200名
	建築学科	80名	3 2 0 名
農学部	農学科	120名	480名
辰 子 印	農芸化学科	110名	440名
薬学部	薬学科	150名	600名
采 子 印	製薬学科	80名	3 2 0 名
都市情報学部	都市情報学科	200名	800名

附則

- ① この学則は、平成8年4月1日から施行する。
- ② 従前の薬学部薬学科及び製薬学科は、改正後の規定にかかわらず、平成8年3月31日に在学する者が、当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- ③ 別表第1(第3条第2項関係)及び附則(平成7年4月1日施行)の学生定員にかかわらず、平成8年度から平成11年度までの間の学生定員は、次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	収容定員
法学部一部	法学科	430名	1,720名
法学部二部	法学科	200名	800名
┃ ┃ 商学部一部	商学科	235名	940名
四十中 中	経済学科	2 3 5 名	940名
商学部二部	商学科	200名	800名
	数学科	70名	280名
	電気電子工学科	140名	560名
■ 理工学部一部	機械工学科	130名	520名
上 土 于 即	交通機械学科	140名	560名
	土木工学科	140名	560名
	建築学科	130名	520名
	数学科	50名	200名
	電気電子工学科	80名	3 2 0 名
理工学部二部	機械工学科	80名	3 2 0 名
	交通機械学科	50名	200名
	土木工学科	50名	200名
	建築学科	80名	320名
農学部	農学科	120名	480名

	農芸化学科	110名	440名
薬学部	医療薬学科	115名	460名
	薬学科	115名	460名
都市情報学部	都市情報学科	200名	800名

附則

この学則は、平成9年4月1日から施行する。

附 則

- ① この学則は、平成11年4月1日から施行する。
- ② 従前の法学部一部法学科、法学部二部法学科、商学部一部商学科、経済学科、商学部二部商学科、理工学部一部数学科、電気電子工学科、機械工学科、交通機械学科、土木工学科、建築学科、理工学部二部数学科、電気電子工学科、機械工学科、交通機械学科、土木工学科、建築学科、農学部農学科、農芸化学科は、改正後の規定にかかわらず、平成11年3月31日に在学する者が、当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- ③ 別表第1(第3条第2項関係)及び附則(平成8年4月1日施行)の学生定員にかかわらず、平成11年度の学生定員は、次のとおりとする。

	1及471工厂员18、	入学		収容定員		
学部	学科		夜間主コース			
法学部	法学科	380名	50名	1,520名	200名	
公子 司	応用実務法学科	50名	150名	200名	600名	
商学部	商学科	235名	200名	940名	800名	
尚子司	経済学科	235名		940名		
	数学科	70名	50名	280名	200名	
	電気電子工学科	140名	80名	560名	320名	
理工学部	機械工学科	130名	80名	520名	320名	
性 上 子 前 	交通機械学科	140名	50名	560名	200名	
	土木工学科	140名	50名	560名	200名	
	建築学科	130名	80名	520名	320名	
農学部	生物資源学科	115名		460名		
展 子 印 	応用生物化学科	115名		460名		
薬学部	医療薬学科	115名		460名		
架 子 印	薬学科	115名		460名		
都市情報学部	都市情報学科	200名		800名		

備考農学部、薬学部及び都市情報学部の定員は、昼間主コースの定員の欄に記載する。

附則

この学則は、平成11年4月1日から施行する。

附則

- ① この学則は、平成12年4月1日から施行する。
- ② 従前の商学部商学科、経済学科、理工学部機械工学科、交通機械学科、土木工学科は、 改正後の規定にかかわらず、平成12年3月31日に在学する者が、当該学科に在学しな くなるまでの問、存続するものとする。
- ③ 別表第1(第3条第2項関係)の学生定員にかかわらず、平成12年度から平成16年 度までの学生定員は、次のとおりとする。

(1) 平成12年度

学部	学科	入学定員	収容定員

		昼間主コース	夜間主コース	昼間主コース	夜間主コース	合計
注学如	法学科	375 名	50 名	1, 500 名	200 名	1, 700 名
法学部	応用実務法学科	50 名	150 名	200 名	600 名	800 名
経営学部	経営学科	160 名	60 名	640 名	240 名	880 名
在 另 子 司	国際経営学科	70 名	40 名	280 名	160 名	440 名
経済学部	経済学科	120 名	40 名	480 名	160 名	640 名
胜伊子 即	産業社会学科	110 名	60 名	440 名	240 名	680 名
	数学科	50 名	40 名	200 名	160 名	360 名
	情報科学科	60 名	40 名	240 名	160 名	400 名
	電気電子工学科	108 名	45 名	432 名	180 名	612 名
	材料機能工学科	60 名	40 名	240 名	160 名	400 名
理工学部	機械システム工学科	108 名	45 名	432 名	180 名	612 名
	交通科学科	98 名	45 名	392 名	180 名	572 名
	建設システム工学科	98 名	45 名	392 名	180 名	572 名
	環境創造学科	60 名	40 名	240 名	160 名	400 名
	建築学科	98 名	50 名	392 名	200 名	592 名
農学部	生物資源学科	115 名		460 名		460 名
辰 宁 即	応用生物化学科	115 名		460 名		460 名
薬学部	医療薬学科	115 名		460 名		460 名
	薬学科	115 名		460 名		460 名
都市情報学部	都市情報学科	200 名		800 名		800 名
合	計	2, 285名	790 名	9, 140名	3, 160名	12, 300 名

備考 農学部、薬学部及び都市情報学部の定員は、昼間主コースの定員の欄に記載する。

(2) 平成13年度

学部	学科	入学	定員	収容定員			
子前		昼間主コース	夜間主コース	昼間主コース	夜間主コース	合計	
法学部	法学科	370 名	50 名	1, 480 名	200 名	1, 680 名	
伝子 部	応用実務法学科	50 名	150 名	200 名	600 名	800 名	
経営学部	経営学科	155 名	60 名	620 名	240 名	860 名	
准备子即	国際経営学科	70 名	40 名	280 名	160 名	440 名	
経済学部	経済学科	115 名	40 名	460 名	160 名	620 名	
生仍 子印	産業社会学科	110 名	60 名	440 名	240 名	680 名	
	数学科	50 名	40 名	200 名	160 名	360 名	
	情報科学科	60 名	40 名	240 名	160 名	400 名	
	電気電子工学科	106 名	45 名	424 名	180 名	604 名	
	材料機能工学科	60 名	40 名	240 名	160 名	400 名	
理工学部	機械システム工学科	106 名	45 名	424 名	180 名	604 名	
	交通科学科	96 名	45 名	384 名	180 名	564 名	
	建設システム工学科	96 名	45 名	384 名	180 名	564 名	
	環境創造学科	60 名	40 名	240 名	160 名	400 名	
	建築学科	96 名	50 名	384 名	200 名	584 名	
農学部	生物資源学科	115 名		460 名		460 名	
辰 宁 即	応用生物化学科	115 名		460 名		460 名	
薬学部	医療薬学科	115 名		460 名		460 名	
架子部	薬学科	115 名		460 名		460 名	
都市情報学部	都市情報学科	200 名		800 名		800 名	
合	計	2, 260名	790 名	9,040名	3, 160 名		

備考農学部、薬学部及び都市情報学部の定員は、昼間主コースの定員の欄に記載する。

(3) 平成14年度

学部	学科	入学定員	収容定員

		昼間主コース	夜間主コース	昼間主コース	夜間主コース	合計
沙+ /≌>☆r	法学科	365 名	50 名	1, 460 名	200 名	1,660名
法学部	応用実務法学科	50 名	150 名	200 名	600 名	800 名
経営学部	経営学科	150 名	60 名	600 名	240 名	840 名
在 呂 子 司	国際経営学科	70 名	40 名	280 名	160 名	440 名
経済学部	経済学科	110 名	40 名	440 名	160 名	600 名
在	産業社会学科	110 名	60 名	440 名	240 名	680 名
	数学科	50 名	40 名	200 名	160 名	360 名
	情報科学科	60 名	40 名	240 名	160 名	400 名
	電気電子工学科	104 名	45 名	416 名	180 名	596 名
	材料機能工学科	60 名	40 名	240 名	160 名	400 名
理工学部	機械システム工学科	104 名	45 名	416 名	180 名	596 名
	交通科学科	94 名	45 名	376 名	180 名	556 名
	建設システム工学科	94 名	45 名	376 名	180 名	556 名
	環境創造学科	60 名	40 名	240 名	160 名	400 名
	建築学科	94 名	50 名	376 名	200 名	576 名
農学部	生物資源学科	115 名		460 名		460 名
辰子印	応用生物化学科	115 名		460 名		460 名
薬学部	医療薬学科	115 名		460 名		460 名
	薬学科	115 名		460 名		460 名
都市情報学部	都市情報学科	200 名		800 名		800 名
合	計	2, 235名	790 名	8, 940 名	3, 160名	12, 100 名

備考農学部、薬学部及び都市情報学部の定員は、昼間主コースの定員の欄に記載する。

(4) 平成15年度

学部	学科	入学定員		収容定員		
中印		昼間主コース	夜間主コース	昼間主コース	夜間主コース	合計
法学部	法学科	360名	50名	1, 440名	200名	1,640名
	応用実務法学科	50名	150名	200名	600名	800名
経営学部	経営学科	145名	60名	580名	240名	820名
性呂子印	国際経営学科	70名	40名	280名	160名	440名
経済学部	経済学科	105名	40名	420名	160名	580名
生仍 于印	産業社会学科	110名	60名	440名	240名	680名
	数学科	50名	40名	200名	160名	360名
	情報科学科	60名	40名	240名	160名	400名
	電気電子工学科	102名	45名	408名	180名	588名
	材料機能工学科	60名	40名	240名	160名	400名
理工学部	機械システム工学科	102名	45名	408名	180名	588名
	交通科学科	92名	45名	368名	180名	548名
	建設システム工学科	92名	45名	368名	180名	548名
	環境創造学科	60名	40名	240名	160名	400名
	建築学科	92名	50名	368名	200名	568名
農学部	生物資源学科	115 名		460 名		460 名
展 子 司	応用生物化学科	115 名		460 名		460 名
本 学 立 7	医療薬学科	115 名		460 名		460 名
薬学部	薬学科	115 名		460 名		460 名
都市情報学部	都市情報学科	200 名		800 名		800 名
	計 計	2,210名	790名	8,840名	3, 160名	12, 000 名

備考農学部、薬学部及び都市情報学部の定員は、昼間主コースの定員の欄に記載する。

(5) 平成16年度

学部	学科	入学定員		収容定員			
		昼間主コース	夜間主コース	昼間主コース	夜間主コース	合計	
法学部	法学科	355 名	50 名	1, 420 名	200 名	1, 620 名	
	応用実務法学科	50 名	150 名	200 名	600 名	800 名	
経営学部	経営学科	140 名	60 名	560 名	240 名	800 名	
性 呂 子 印	国際経営学科	70 名	40 名	280 名	160 名	440 名	
経済学部	経済学科	100名	40 名	400 名	160 名	560 名	
在有子司	産業社会学科	110 名	60 名	440 名	240 名	680 名	
	数学科	50 名	40 名	200 名	160 名	360 名	
	情報科学科	60 名	40 名	240 名	160 名	400 名	
	電気電子工学科	100 名	45 名	400 名	180 名	580 名	
	材料機能工学科	60 名	40 名	240 名	160 名	400 名	
理工学部	機械システム工学科	100名	45 名	400 名	180 名	580 名	
	交通科学科	90 名	45 名	360 名	180 名	540 名	
	建設システム工学科	90 名	45 名	360 名	180 名	540 名	
	環境創造学科	60 名	40 名	240 名	160 名	400 名	
	建築学科	90 名	50 名	360 名	200 名	560 名	
農学部	生物資源学科	115 名		460 名		460 名	
辰 子 司	応用生物化学科	115 名		460 名		460 名	
薬学部	医療薬学科	115 名		460 名		460 名	
	薬学科	115 名		460 名		460 名	
都市情報学部	都市情報学科	200 名		800 名		800 名	
合	計	2, 185名	790 名	8, 740 名	3, 160名	11, 900名	

備考 農学部、薬学部及び都市情報学部の定員は、昼間主コースの定員の欄に記載する。

附則

この学則は、平成12年4月1日から施行する。

附則

この学則は、平成12年4月1日から施行する。ただし、平成12年3月31日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附即

この学則は、平成12年6月1日から施行する。

附則

この学則は、平成12年12月6日から施行する。

附 則

この学則は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成13年4月1日から施行する。

附則

この学則は、平成14年4月1日から施行する。

附則

この学則は、平成15年4月1日から施行する。

附則

この学則は、平成15年4月1日から施行する。

附則

この学則は、平成15年4月1日から施行する。

附則

この学則は、平成16年4月1日から施行する。

附則

この学則は、平成16年4月1日から施行する。

附則

この学則は、平成16年4月1日から施行する。

附則

この学則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成17年4月1日から施行する。

附則

この学則は、平成18年1月26日から施行する。

附則

この学則は、平成18年4月1日から施行する。ただし、平成18年3月31日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附則

この学則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成18年4月1日から施行する。

附則

- ① この学則は、平成19年4月1日から施行する。
- ② 第9条第2項に規定するその他必要な職員として、当分の間、助教授を置くことができるものとする。

附則

この学則は、平成19年4月1日から施行する。

附則

この学則は、平成20年4月1日から施行する。

附則

この学則は、平成20年8月1日から施行する。

附則

この学則は、平成21年4月1日から施行する。

附則

この学則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成23年4月1日から施行し、平成23年度入学者から適用する。ただし、平成23年3月31日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附則

この学則は、平成23年4月1日から施行する。ただし、平成23年3月31日に在 学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附則

この学則は、平成24年4月1日から施行する。ただし、平成24年3月31日に在 学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附則

この学則は、平成24年4月1日から施行する。ただし、平成24年3月31日に在 学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附則

この学則は、平成24年4月1日から施行する。ただし、平成24年3月31日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附則

この学則は、平成24年4月1日から施行する。

附則

この学則は、平成25年4月1日から施行し、平成25年度入学者から適用する。ただし、 平成25年3月31日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前 の例による。

附則

この学則は、平成25年4月1日から施行し、平成25年度入学者から適用する。ただし、 平成25年3月31日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前 の例による。

附則

この学則は、平成25年4月1日から施行する。ただし、平成25年3月31日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附則

この学則は、平成25年4月1日から施行する。

附則

この学則は、平成25年4月1日から施行する。

附則

この学則は、平成26年4月1日から施行する。

附即

この学則は、平成27年4月1日から施行する。ただし、平成27年3月31日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附則

この学則は、平成27年4月1日から施行し、平成27年度入学者から適用する。ただし、 平成27年3月31日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前 の例による。

附 則

この学則は、平成27年4月1日から施行する。ただし、平成27年3月31日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附則

この学則は、平成27年4月1日から施行する。ただし、平成27年3月31日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附則

- ① この学則は、平成27年4月1日から施行する。ただし、平成27年3月31日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- ② 法学部法学科及び応用実務法学科については、平成28年4月1日から適用する。ただし、平成28年3月31日に在学している者については、なお従前の例による。

附則

この学則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成28年4月1日から施行する。

附則

- ① この学則は、平成28年4月1日から施行する。ただし、平成28年3月31日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- ② 法学部応用実務法学科は、平成28年4月から募集を停止し、当該学科に在学している者がいなくなった時に廃止する。

附則

この学則は、平成28年4月1日から施行する。

附則

この学則は、平成28年4月1日から施行する。ただし、平成28年3月31日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附則

この学則は、平成28年9月14日から施行する。

附則

この学則は、平成29年4月1日から施行する。

附則

この学則は、平成29年4月1日から施行する。ただし、平成29年3月31日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附則

この学則は、平成29年4月1日から施行する。

附則

この学則は、平成31年4月1日から施行し、平成31年度入学者から適用する。ただし、平成31年3月31日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附則

この学則は、平成31年4月1日から施行する。ただし、平成31年3月31日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附則

この学則は、平成31年4月1日から施行する。ただし、平成31年3月31日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附則

この学則は、平成31年4月1日から施行する。

附則

この学則は、平成31年4月1日から施行する。

附則

この学則は、平成32年4月1日から施行し、平成32年度入学者から適用する。ただし、平成32年3月31日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附則

この学則は、平成32年4月1日から施行する。

附則

この学則は、令和2年4月1日から施行する。ただし、令和2年3月31日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附則

この学則は、令和2年4月1日から施行する。

附則

この学則は、令和2年6月1日から施行する。

附則

この学則は、令和3年4月1日から施行する。ただし、令和3年3月31日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附則

この学則は、令和3年4月1日から施行する。

附則

この学則は、令和4年4月1日から施行し、令和4年度入学者から適用する。ただし、令和4年3月31日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附則

この学則は、令和4年4月1日から施行する。ただし、令和4年3月31日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附則

この学則は、令和4年4月1日から施行する。ただし、令和4年3月31日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附則

この学則は、令和5年4月1日から施行する。ただし、令和5年3月31日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附則

この学則は、令和5年7月1日から施行する。

附則

この学則は、令和6年4月1日から施行する。ただし、令和6年3月31日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附則

この学則は、令和6年4月1日から施行する。ただし、令和6年3月31日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附則

この学則は、令和6年4月1日から施行する。ただし、令和6年3月31日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

この学則は、令和6年4月1日から施行する。ただし、令和6年3月31日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附則

この学則は、令和6年4月1日から施行する。ただし、令和6年3月31日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附則

この学則は、令和6年9月1日から施行する。

附則

この学則は、令和7年4月1日から施行する。

附則

この学則は、令和7年4月1日から施行する。ただし、令和7年3月31日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附則

この学則は、令和8年4月1日から施行し、令和8年度入学者から適用する。ただし、令和8年3月31日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附則

この学則は、令和8年4月1日から施行する。ただし、令和8年3月31日に在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

別表第1 (第3条第2項関係)

学部	学科	入学定員	収容定員
法学部	法学科	400名	1,600名
\$74 244 Ard	経営学科	2 1 5 名	860名
経営学部	国際経営学科	9 5 名	3 8 0 名
የ∆ ን ፡ አለ ትΩ	経済学科	210名	8 4 0 名
経済学部	産業社会学科	100名	400名
	数学科	100名	400名
	電気電子工学科	160名	6 4 0 名
	化学・物質学科	150名	600名
	機械工学科	125名	500名
理工学部	交通機械工学科	105名	420名
	メカトロニクス工学科	80名	3 2 0 名
	社会基盤デザイン工学科	90名	3 6 0 名
	環境創造工学科	80名	3 2 0 名
	建築学科	145名	580名
	生物資源学科	110名	4 4 0 名
農学部	応用生物化学科	110名	4 4 0 名
	生物環境科学科	110名	4 4 0 名
薬学部	薬学科	265名	1,590名
都市情報学部	都市情報学科	2 3 5 名	9 4 0 名
人間学部	人間学科	220名	880名
外国語学部	国際英語学科	130名	5 2 0 名
情報工学部	情報工学科	180名	720名
合	計	3,415名	14,190名

別表第2(第24条第3項関係)

1 (法学部法学科)

1) 授	業科目及び単位数		単位数	
	授業科目	必修科目	選択科目	自由科目
	哲学 I		2	
	哲学Ⅱ		2	
	倫理学 I		2	
	倫理学Ⅱ		2	
	国文学 I		2	
	国文学Ⅱ		2	
	外国文学 I		2	
	外国文学Ⅱ		2	
	日本史		2	
	外国史		2	
	地理学		2	
	地誌学		2	
	自然地理学		2	
	社会学 I		2	
	社会学Ⅱ		2	
	心理学 I		2	
	心理学Ⅱ		2	
ابط	経済学 I		2	
教養教育部	経済学Ⅱ		2	
教	会計学 I		2	
育如	会計学Ⅱ		2	
門	論理的思考法		2	
	社会科学のための数学 I		2	
	社会科学のための数学Ⅱ		2	
	情報リテラシー I		2	
	情報リテラシーⅡ		2	
	ボランティア入門		2	
	インターンシップ I		1	
	インターンシップ Ⅱ		1	
	教養特設科目A		4	
	教養特設科目B		2	
	実践英語 I		1	
	実践英語Ⅱ		1	
	実践英語Ⅲ		1	
	実践英語IV		1	
	英語講読 I		1	
	英語講読Ⅱ		1	
	英語講読Ⅲ		1	
	英語講読IV		1	
	英会話 I		1	

英会話 II ドイツ語 II ドイツ語 III ドイツ語 IV ドイツ語 VI 応用 ドイツ語 フランス語 II フランス語 III フランス語 IV フランス語 VI 応用 フランス語 VI 応用 フランス語	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	
ドイツ語Ⅲ ドイツ語Ⅳ ドイツ語Ⅵ ドイツ語Ⅵ 応用ドイツ語 フランス語Ⅱ フランス語Ⅲ フランス語Ⅲ フランス語Ⅳ フランス語Ⅳ フランス語Ⅳ	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	
ドイツ語Ⅲ ドイツ語Ⅳ ドイツ語Ⅵ 応用ドイツ語 フランス語Ⅱ フランス語Ⅲ フランス語Ⅲ フランス語Ⅳ フランス語Ⅳ フランス語Ⅳ	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	
ドイツ語IV ドイツ語VI 応用ドイツ語 フランス語 I フランス語II フランス語II フランス語IV フランス語VI 応用フランス語VI	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	
ドイツ語VI 応用ドイツ語 フランス語 I フランス語 II フランス語II フランス語II フランス語IV フランス語VI 応用フランス語VI	1 1 1 1 1 1 1 1 1	
ドイツ語VI 応用ドイツ語 フランス語 I フランス語 II フランス語II フランス語II フランス語IV フランス語VI 応用フランス語VI	1 1 1 1 1 1 1 1	
ドイツ語VI 応用ドイツ語 フランス語 I フランス語Ⅲ フランス語Ⅲ フランス語Ⅳ フランス語Ⅳ フランス語V フランス語VI 応用フランス語	1 1 1 1 1 1 1 1	
応用ドイツ語 フランス語 I フランス語 II フランス語 II フランス語 II フランス語 IV フランス語 IV フランス語 VI 応用フランス語 VI	1 1 1 1 1 1 1	
フランス語 I フランス語 II フランス語 II フランス語 II フランス語 IV フランス語 IV フランス語 VI 応用フランス語 VI	1 1 1 1 1 1 1	
フランス語 II フランス語 III フランス語 IV フランス語 V フランス語 VI 応用フランス語	1 1 1 1 1 1	
フランス語Ⅲ フランス語Ⅳ フランス語Ⅵ フランス語Ⅵ 応用フランス語	1 1 1 1 1	
フランス語IV フランス語 V フランス語VI 応用フランス語	1 1 1 1	
フランス語 V フランス語 VI 応用フランス語	1 1 1	
フランス語VI 応用フランス語	1	
応用フランス語	1	
Ltt. 字(苯 T	1	
中国語I		
中国語Ⅱ	1	
中国語Ⅲ	1	
中国語IV	1	
中国語V	1	
中国語VI	1	
応用中国語	1	
生涯体育	2	
健康スポーツと実践	2	
生涯スポーツと実践	2	
法学入門	4	
政治学入門	4	
外国語文献講読	2	
特設科目A	4	
特設科目B	2	
基礎演習 I	2	
基礎演習Ⅱ	2	
応用演習 I	2	
応用演習Ⅱ	2	
専門演習 I	4	
専門演習Ⅱ	4	
法哲学	4	
法社会学	4	
日本法制史	4	
日本近代法史	4	
西洋法制史	4	
東洋法史論	4	
比較法	2	
外国法 I	2	
外国法Ⅱ	2	

共通部門

演習部門

基礎法学部門

	/ 	1	<u> </u>	Ι
	憲法 I		4	
	憲法Ⅱ		4	
/.\	行政法 I		4	
公法部門	行政法Ⅱ		4	
部	行政法Ⅲ		2	
L.J	環境法		2	
	地方自治法		4	
	租税法		4	
刑	刑法 I		4	
事法部	刑法Ⅱ		4	
出部	刑事訴訟法		4	
門	刑事政策		4	
	民法 I		4	
	民法Ⅱ		4	
	民法Ⅲ		4	
民事法部門	民法IV		4	
法	民法V		4	
部	民事訴訟法		4	
門	民事執行法		4	
	倒産法		4	
	消費者法		2	
	企業法 I		4	
企業	企業法Ⅱ		4	
*	企業法Ⅲ		4	
社	企業法IV		4	
会	労働法		4	
会法部	経済法		4	
門	社会保障法		4	
	知的財産法		4	
	政治史		4	
砂	政治思想史		4	
治	政治過程論		4	
学如	現代日本政治		4	
政治学部門	国際政治学		4	
	行政学		4	
	国際政治史		4	
玉	国際法		4	
国際法	国際私法		4	
法並	国際組織法		2	
部門	国際人権法		2	
	国際取引法		2	

選択科目

124単位以上

2の1 (経営学部経営学科)

	授業科目	単位数		
	1又未付口	必修科目	選択科目	自由科目
	人間と環境		2	
	歴史と文化		2	
	文学と人間		2	
	欧米文化論		2	
	アジア文化論		2	
	哲学		2	
	心の科学		2	
	日本国憲法		2	
	法と社会		2	
	政治と社会		2	
	社会学		2	
	ジェンダーと社会		2	
	化学		2	
	生物学		2	
	経営と数学		2	
	情報処理実習		1	
	プログラミング実習		1	
	情報社会と倫理		2	
教	健康・スポーツ科学 I		1	
養	健康・スポーツ科学Ⅱ		1	
致 育	英語 (リーディング) I	1		
教養教育部門	英語(リーディング)Ⅱ	1		
門	英語 (コミュニケーション) I	1		
	英語(コミュニケーション)Ⅱ	1		
	英語(リーディング)Ⅲ		1	
	英語(リーディング)IV		1	
	英語 (コミュニケーション) 中級 I		1	
	英語 (コミュニケーション) 中級Ⅱ		1	
	英語実践演習 I		2	
	英語実践演習Ⅱ		2	
	英語特別演習 I		1	
	英語特別演習 II		1	
	フランス語入門 I		1	
	フランス語入門Ⅱ		1	
	フランス語初級 I		1	
	フランス語初級Ⅱ		1	
	フランス語応用 I		1	
	フランス語応用Ⅱ		1	
	フランス語オーラルコミュニケーション I		1	
	フランス語オーラルコミュニケーションⅡ		1	

	ドイツ語入門 I		1	
	ドイツ語入門Ⅱ		1	
	ドイツ語初級 I		1	
	ドイツ語初級Ⅱ		1	
	ドイツ語応用I		1	
	ドイツ語応用Ⅱ		1	
	ドイツ語オーラルコミュニケーションI		1	
	ドイツ語オーラルコミュニケーション Ⅱ		1	
	中国語入門 I		1	
	中国語入門Ⅱ		1	
	中国語初級 I		1	
	中国語初級Ⅱ		1	
	中国語応用 I		1	
	中国語応用Ⅱ		1	
	中国語オーラルコミュニケーション I		1	
	中国語オーラルコミュニケーションⅡ		1	
	ハングル入門 I		1	
	ハングル入門Ⅱ		1	
	ハングル初級I		1	
	ハングル初級Ⅱ		1	
	ハングル応用 I		1	
	ハングル応用Ⅱ		1	
	ハングルオーラルコミュニケーションI		1	
	ハングルオーラルコミュニケーションⅡ		1	
	基本簿記	4		
	現代経済入門		2	
専	会計学入門		2	
専門基礎部	ファイナンス入門		2	
磁	経営学入門		2	
部	流通入門		2	
門	マーケティング入門		2	
	経営分析入門		2	
	キャリア・デザイン論		2	
	経営史		2	
	国際比較経営史		2	
マラ	現代企業論		2	
イジ	現代経営管理論		2	
メ	国際経営論		2	
マネジメント部	人的資源管理論		2	
部	ワーク・ライフ・バランス論		2	
門	経営組織論		2	
	コーポレート・ガバナンス論		2	
	ベンチャービジネス論		2	
	中小企業論		2	

全球の		ACT NA MARKETA		Ī
ネットワーク組織論 環発経質論 2 マーケティング戦略論 消費者で動論 2 マーケティング・コミュニケーション論 国際活通論 2 国際活通論 2 国際アーケティング・論 マーケティング・別サーチ論 サービス・マーケティング論 2 ソーシャル・マーケティング論 フーケティング(論) 2 マーケティング(論) 2 フーケティング(論) 2 マーケティング(論) 2 ファグタト・デザイン実習 2 上級(神記) 1 2 上級(神記) 1 2 中級(事記) 1 2 中級(事記) 2 2 中級(事記) 2 2 中級(事記) 2 2 中級(事記) 2 2		経営戦略論	2	
 環境経営論 マーケディング融 マーケティング戦略論 対費者行動論 マーケティング・コミュニケーション論 国際流通論 国際マーケディング 動 マーケティング・リサーチ論 サービス・マーケティング 論 フーシャル・マーケティング 論 フーシャル・マーケティング 論 マーケティング 論 フーシャル・マーケティング 論 マーケティング 情報システム論 ロジスティクス 論 フログタト・デザイン 事 プログタト・デザイン実習 中級様記 I 上級徳記 I 財務会計論 I 財務会計論 I 財務会計論 I 財務会計論 I 財務会計論 I 立案確認 定域論 企業神野論 全域論 全域論 全域論 全域神論 全域神論 全域神論 全域神論 全域神論 全域を計論 I 全域論 全域神論 全域神論 全域神論 全域形容計論 と対数を計論 と対数を対象を計論 と対数のを対象を対象 と対数のを対象を対象 と対数のを対象を対象 と対数のを対象を対象 と対数のを対象を対象 と対数のを対象を対象 と対数のを対象を対象 と対数のを対象を対象 と対数のを対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を				
マーケティング論 2 マーケティング戦略論 2 で アーケティング・コミュニケーション論 2 で アーケティング・コミュニケーション論 2 で アーケティング で アーケア・アーケア・アーケア・アーケア・アーケア・アーケア・アーケア・アーケア				
マーケティング戦略論 2 2 2 2 2 2 2 2 2				
消費者行動論				
マーケティング・コミュニケーション論 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1		マーケティング戦略論	2	
国際流通論 2 2 2 2 2 2 2 2 2			2	
国際マーケティング論		マーケティング・コミュニケーション論	2	
マーケティング・リサーチ論 2 サービス・マーケティング論 2 グリーン・マーケティング論 2 ソーシャル・マーケティング論 2 マーケティング情報システム論 2 ロジスティクス論 2 加売企業経営論 2 加売企業経営論 2 加売企業経営論 2 ブロダクト・デザイン実習 2 中級簿記 2 上級簿記I 2 財務会計論 I 2 工業簿記 2 原面計算論 2 経営分析論 2 金融論 2 金融商品取引論 2 企業財務論 2 摩理会計論 I 2 管理会計論 I 2 会計監 盃論 2 非営利組織体会計論 2 財務戦略略論 2 国際ファイナンス I 2 国際ファイナンス I 2		国際流通論	2	
マーケティング・リサーチ論 2 サービス・マーケティング論 2 グリーン・マーケティング論 2 ソーシャル・マーケティング論 2 マーケティング情報システム論 2 ロジスティクス論 2 加売企業経営論 2 加売企業経営論 2 加売企業経営論 2 ブロダクト・デザイン実習 2 中級簿記 2 上級簿記I 2 財務会計論 I 2 工業簿記 2 原面計算論 2 経営分析論 2 金融論 2 金融商品取引論 2 企業財務論 2 摩理会計論 I 2 管理会計論 I 2 会計監 盃論 2 非営利組織体会計論 2 財務戦略略論 2 国際ファイナンス I 2 国際ファイナンス I 2	マー	国際マーケティング論	2	
グリーン・マーケティング論 2 ツーシャル・マーケティング論 2 マーケティング情報システム論 2 ロジスティクス論 2 小売企業経営論 2 プロダクト・デザイン無 2 世級簿記 2 上級簿記I 2 上級簿記I 2 財務会計論 I 2 財務会計論 II 2 工業簿記 2 原価計算論 2 経営分析論 2 金融論 2 企業財務論 2 原価管理論 2 管理会計論 I 2 管理会計論 I 2 会計監査論 2 投资会計論 2 財務戦略 2 財務戦略 2 財務戦略 2 財務戦略 2 財務戦略 2 国際ファイナンス I 2		マーケティング・リサーチ論	2	
グリーン・マーケティング論 2 ツーシャル・マーケティング論 2 マーケティング情報システム論 2 ロジスティクス論 2 小売企業経営論 2 プロダクト・デザイン無 2 世級簿記 2 上級簿記I 2 上級簿記I 2 財務会計論 I 2 財務会計論 II 2 工業簿記 2 原価計算論 2 経営分析論 2 金融論 2 企業財務論 2 原価管理論 2 管理会計論 I 2 管理会計論 I 2 会計監査論 2 投资会計論 2 財務戦略 2 財務戦略 2 財務戦略 2 財務戦略 2 財務戦略 2 国際ファイナンス I 2	ティ	サービス・マーケティング論	2	
グランマル・マーケティング論 2 マーケティング情報システム論 2 ロジスティクス論 2 小売企業経営論 2 プロダクト・デザイン論 2 プロダクト・デザイン実習 2 中級簿記 2 上級簿記I 2 上級簿記I 2 財務会計論 II 2 工業簿記 2 原価計算論 2 経営分析論 2 金融論 2 企業財務論 2 ア屈他管理論 2 管理会計論 I 2 全業財務論 2 管理会計論 I 2 全計 B 2 空母音論 2 中級簿記 2 空間計算論 2 全融論 2 空間計算論 2 空間計算論 2 空間計算論 2 空間計算 2 空間計算 2 空間計算 2 空間計算 2 空間計算 2 空間計算 2 空間 2 空間 2	ン	グリーン・マーケティング論	2	
 でーケティング情報システム論 マーケティング情報システム論 ロジスティクス論	グ	ソーシャル・マーケティング論	2	
ロジスティクス論 2 小売企業経営論 2 プロダクト・デザイン論 2 プロダクト・デザイン実習 2 中級簿記 2 上級簿記I 2 上級簿記I 2 財務会計論I 2 工業簿記 2 原価計算論 2 経営分析論 2 金融論 2 金融論 2 企業財務論 2 原価管理論 2 管理会計論 I 2 会計監查論 2 秘務会計論 2 財務戦略論 2 国際ファイナンス I 2 国際ファイナンス II 2	部		2	
小売企業経営論 2 切売企業経営論 2 プロダクト・デザイン実習 2 中級簿記I 2 上級簿記II 2 財務会計論 I 2 工業簿記 2 原価計算論 2 経営分析論 2 金融商品取引論 2 企業財務論 2 原価管理論 2 管理会計論 I 2 管理会計論 I 2 会計監查論 2 税務会計論 2 非営利組織体会計論 2 社会環境会計論 2 財務戦略論 2 国際ファイナンス I 2 国際ファイナンス II 2	1 1		2	
卸売企業経営論 2 プロダクト・デザイン実習 2 中級簿記 2 上級簿記II 2 財務会計論II 2 工業簿記 2 原価計算論 2 経営分析論 2 金融商品取引論 2 企業財務論 2 原価管理会計論 I 2 管理会計論 II 2 会計監查論 2 税務会計論 2 非営利組織体会計論 2 社会環境会計論 2 財務戦略論 2 国際ファイナンス I 2 国際ファイナンス II 2			2	
プロダクト・デザイン実習 2 プロダクト・デザイン実習 2 中級簿記 2 上級簿記 I 2 財務会計論 I 2 工業簿記 2 原価計算論 2 全融論 2 金融論 2 金融高品取引論 2 企業財務論 2 原価管理論 2 管理会計論 I 2 会計監查論 2 稅務会計論 2 非営利組織体会計論 2 社会環境会計論 2 財務戦略論 2 国際ファイナンス I 2 国際ファイナンス II 2			2	
プロダクト・デザイン実習 2 中級簿記 2 上級簿記 I 2 財務会計論 I 2 丁業簿記 2 原価計算論 2 経営分析論 2 金融論 2 企業財務論 2 原価管理論 2 管理会計論 I 2 会計監查論 2 税務会計論 2 非営利組織体会計論 2 社会環境会計論 2 財務戦略論 2 国際ファイナンス I 2 国際ファイナンス II 2				
中級簿記 2 上級簿記 II 2 財務会計論 II 2 工業簿記 2 原価計算論 2 経営分析論 2 金融商品取引論 2 企業財務論 2 原価管理論 2 管理会計論 I 2 会計監查論 2 税務会計論 2 非営利組織体会計論 2 社会環境会計論 2 財務戦略論 2 国際ファイナンス I 2 国際ファイナンス II 2				
上級簿記 I 2 上級簿記 II 2 財務会計論 I 2 工業簿記 2 原価計算論 2 経営分析論 2 金融論 2 企業財務論 2 原価管理論 2 管理会計論 I 2 会計監查論 2 税務会計論 2 生質会計論 II 2 会計監查論 2 投務会計論 2 非営利組織体会計論 2 社会環境会計論 2 財務戦略論 2 国際ファイナンス I 2 国際ファイナンス II 2				
上級簿記Ⅱ 2 財務会計論Ⅱ 2 工業簿記 2 原価計算論 2 経営分析論 2 金融論 2 金融商品取引論 2 企業財務論 2 原価管理論 2 管理会計論Ⅱ 2 会計監查論 2 税務会計論 2 非営利組織体会計論 2 社会環境会計論 2 財務戦略論 2 国際ファイナンス I 2 国際ファイナンス II 2				
財務会計論 I 2 財務会計論 I 2 工業簿記 2 原価計算論 2 経営分析論 2 金融論 2 金融商品取引論 2 企業財務論 2 原価管理論 2 管理会計論 I 2 管理会計論 I 2 会計監查論 2 税務会計論 2 非営利組織体会計論 2 社会環境会計論 2 財務戦略論 2 国際ファイナンス I 2 国際ファイナンス I 2				
財務会計論 II 2 工業簿記 2 原価計算論 2 経営分析論 2 金融論 2 企業財務論 2 原価管理論 2 管理会計論 I 2 会計監查論 2 税務会計論 2 非営利組織体会計論 2 社会環境会計論 2 財務戦略論 2 国際ファイナンス I 2 国際ファイナンス II 2				
工業簿記 2 原価計算論 2 経営分析論 2 金融論 2 金融商品取引論 2 企業財務論 2 原価管理論 2 管理会計論 I 2 会計監查論 2 税務会計論 2 非営利組織体会計論 2 社会環境会計論 2 財務戦略論 2 国際ファイナンス I 2 国際ファイナンス II 2				
京価計算論 2 経営分析論 2 金融論 2 金融商品取引論 2 企業財務論 2 管理会計論 I 2 管理会計論 II 2 会計監查論 2 税務会計論 2 非営利組織体会計論 2 社会環境会計論 2 財務戦略論 2 国際ファイナンス I 2 国際ファイナンス I 2 国際ファイナンス II 2				
会計・ファイナンス部 2 金融商品取引論 2 企業財務論 2 原価管理論 2 管理会計論 I 2 会計監查論 2 税務会計論 2 非営利組織体会計論 2 社会環境会計論 2 財務戦略論 2 国際ファイナンス I 2 国際ファイナンス I 2 国際ファイナンス II 2				
・ファイナンス 金融商品取引論 2 企業財務論 2 原価管理論 2 管理会計論 I 2 会計監査論 2 税務会計論 2 非営利組織体会計論 2 社会環境会計論 2 財務戦略論 2 国際ファイナンス I 2 国際ファイナンス I 2 国際ファイナンス II 2	会			
ファイナンス 金融商品取引論 2 企業財務論 2 原価管理論 2 管理会計論 I 2 会計監查論 2 税務会計論 2 非営利組織体会計論 2 社会環境会計論 2 財務戦略論 2 国際ファイナンス I 2 国際ファイナンス II 2 国際ファイナンス II 2	計 •			
企業財務論 2 原価管理論 2 管理会計論 I 2 会計監查論 2 税務会計論 2 非営利組織体会計論 2 社会環境会計論 2 財務戦略論 2 国際ファイナンス I 2 国際ファイナンス II 2	フ			
ナンス 原価管理論 2 管理会計論 I 2 管理会計論 II 2 会計監查論 2 税務会計論 2 非営利組織体会計論 2 社会環境会計論 2 財務戦略論 2 国際ファイナンス I 2 国際ファイナンス II 2				
ス部門 管理会計論 I 2 管理会計論 II 2 会計監査論 2 税務会計論 2 非営利組織体会計論 2 社会環境会計論 2 財務戦略論 2 国際ファイナンス I 2 国際ファイナンス II 2	ナ			
部門 管理会計論 II 2 会計監査論 2 税務会計論 2 非営利組織体会計論 2 社会環境会計論 2 財務戦略論 2 国際ファイナンス I 2 国際ファイナンス II 2				
会計監査論 2 税務会計論 2 非営利組織体会計論 2 社会環境会計論 2 財務戦略論 2 国際ファイナンス I 2 国際ファイナンス II 2				
税務会計論 2 非営利組織体会計論 2 社会環境会計論 2 財務戦略論 2 国際ファイナンス I 2 国際ファイナンス II 2	門			
非営利組織体会計論 2 社会環境会計論 2 財務戦略論 2 国際ファイナンス I 2 国際ファイナンス II 2				
社会環境会計論 2 財務戦略論 2 国際ファイナンス I 2 国際ファイナンス II 2				
財務戦略論 2 国際ファイナンス I 2 国際ファイナンス II 2				
国際ファイナンス I 2 国際ファイナンス II 2				
国際ファイナンス Ⅱ 2				
統計学 I 2		国際ファイナンフΠ	2	
統計学Ⅱ 2			2	

ī		1	
デ	統計学応用	2	
	情報システム論	2	
タサ	経営科学I	2	
イ	経営科学Ⅱ	2	
エ	システム設計	2	
ンス	経営シミュレーション	2	
•	意思決定の科学	2	
情 報	データサイエンス・AI入門	2	
部門	データサイエンス・AI応用基礎I	2	
[]	データサイエンス・AI応用基礎Ⅱ	2	
経	ミクロ経済学入門	2	
済学	マクロ経済学入門	2	
•	現代産業組織論	2	
法	産業集積論	2	
法学部	会社法入門	2	
門	社会思想史	2	
実務	海外語学実習	2	
	国際フィールドワーク	4	
実習部	インターンシップ	2	
部門	職業指導論	2	
ゼ	基礎ゼミナール	4	
ミナー	専門ゼミナール I	4	
ル	専門ゼミナールⅡ	4	
部門	専門ゼミナールⅢ	4	
	特殊講義	1	
	特殊講義I	2	
	特殊講義Ⅱ	4	

(1) 必修科目

8 単位

(2) 選択科目

116単位以上

合計

124単位以上

2の2 (経営学部国際経営学科)

授業科目		単位数		
	1文耒代日		選択科目	自由科目
教養教育部門	人間と環境		2	
	歴史と文化		2	
	文学と人間		2	
	欧米文化論		2	
	アジア文化論		2	
	哲学		2	

) - 61 W		_	
心の科学		2	
日本国憲法		2	
法と社会		2	
政治と社会		2	
社会学		2	
ジェンダーと社会		2	
化学		2	
生物学		2	
経営と数学		2	
情報処理実習		1	
プログラミング実習		1	
情報社会と倫理		2	
健康・スポーツ科学 I		1	
健康・スポーツ科学Ⅱ		1	
英語(リーディング) I	1	-	
英語(リーディング) II	1		
英語(コミュニケーション) I	1		
英語 (コミュニケーション) Ⅱ	1		
英語(リーディング)Ⅲ	1	1	
英語(リーディング)IV		1	
英語(コミュニケーション)中級 I		1	
英語 (コミュニケーション) 中級 II		1	
英語実践演習I		2	
英語実践演習 II		2	
英語実践演習Ⅲ		2	
英語実践演習IV		2	
英語特別演習 I		1	
英語特別演習 II		1	
フランス語入門 I		1	
フランス語入門Ⅱ		1	
フランス語初級 I		1	
フランス語初級 Ⅱ		1	
フランス語応用 I		1	
フランス語応用Ⅱ		1	
フランス語オーラルコミュニケーションI		1	
フランス語オーラルコミュニケーションⅡ		1	
ドイツ語入門I		1	
ドイツ語入門Ⅱ		1	
ドイツ語初級Ⅰ		1	
ドイツ語初級 II		1	
ドイツ語応用Ⅰ		1	
ドイツ語応用Ⅱ		1	
ドイツ語オーラルコミュニケーションⅠ		1	
ドイツ語オーラルコミュニケーション II			
「	<u> </u>	1	

Ī	中国語入門 I		1	
	中国語为門Ⅱ		1	
	中国語初級Ⅰ		1	
	中国語初級Ⅱ		1	
	中国語応用Ⅰ		1	
	中国語応用Ⅱ		1	
	中国語オーラルコミュニケーションI		1	
	中国語オーラルコミュニケーションⅡ		1	
	ハングル入門I		1	
	ハングル入門Ⅱ		1	
	ハングル初級Ⅰ		1	
	ハングル初級Ⅱ		1	
	ハングル応用I		1	
	ハングル応用Ⅱ		1	
	ハングルオーラルコミュニケーションI		1	
	ハングルオーラルコミュニケーションⅡ		1	
	基本簿記	4		
	現代経済入門		2	
車	会計学入門		2	
専門	ファイナンス入門		2	
基礎	経営学入門		2	
基礎部	流通入門		2	
門	マーケティング入門		2	
	経営分析入門		2	
	キャリア・デザイン論		2	
	国際比較経営史		2	
	国際経営論		2	
	国際流通論		2	
	国際マーケティング論		2	
	国際貿易論		2	
国	国際経済論		2	
]際経営	アメリカ経済論		2	
営	アメリカ企業論		2	
· 終	EU経済論		2	
経済学部門	EU企業論		2	
学	中国経済論		2	
門	中国企業論		2	
	アジア企業論		2	
	アジア経済論		2	
	国際経営戦略論		2	
	国際ファイナンス I		2	
	国際ファイナンスⅡ		2	
	国際関係論		2	
	L			I.

	海外NGO論	2	
国際	国際地域文化研究(英語圏)	2	
地域部門	国際地域文化研究(フランス)	2	
	国際地域文化研究(中国)	2	
	国際コミュニケーション論	2	
	マーケティング論	2	
	経営史	2	
	現代企業論	2	
終	現代経営管理論	2	
営	人的資源管理論	2	
経営学部	ワーク・ライフ・バランス論	2	
門	経営組織論	2	
	経営戦略論	2	
	生産管理論	2	
	環境経営論	2	
	中級簿記	2	
	上級簿記I	2	
	上級簿記Ⅱ	2	
	財務会計論I	2	
会	財務会計論Ⅱ	2	
会 計	工業簿記	2	
・フ	原価計算論	2	
ア	経営分析論	2	
イナン	金融論	2	
	金融商品取引論	2	
ス 部	企業財務論	2	
門	管理会計論 I	2	
	管理会計論Ⅱ	2	
	非営利組織体会計論	2	
	社会環境会計論	2	
	財務戦略論	2	
	統計学I	2	
<u>ب</u>	統計学Ⅱ	2	
デー	統計学応用	2	
タ サ	情報システム論	2	
イ	経営科学I	2	
エン	経営科学Ⅱ	2	
ス	システム設計	2	
• 情	経営シミュレーション	2	
情 報 郊	意思決定の科学	2	
部門	データサイエンス・AI入門	2	
	データサイエンス・AI応用基礎I	2	
	データサイエンス・AI応用基礎Ⅱ	2	

			T
経済学	ミクロ経済学入門	2	
学	マクロ経済学入門	2	
· 法	現代産業組織論	2	
法学部門	会社法入門	2	
	社会思想史	2	
実 務	海外語学実習	2	
•	国際フィールドワーク	4	
実習部門	インターンシップ	2	
部門	職業指導論	2	
ゼミナ	基礎ゼミナール	4	
ナー	専門ゼミナールI	4	
ル	専門ゼミナールⅡ	4	
部 門	専門ゼミナールⅢ	4	
	特殊講義	1	
	特殊講義I	2	
	特殊講義Ⅱ	4	

(1) 必修科目 8 単位

(2) 選択科目 116単位以上

合計 124単位以上

3の1 (経済学部経済学科)

检 柴刘 口		単位数		
	授業科目	必修科目	選択科目	自由科目
目 目 群 彩	現代社会に生きる		2	
	哲学		2	
	倫理学		2	
	文学		2	
人	芸術文化論		2	
文科学	外国史		2	
学	日本史		2	
科目	地理学		2	
群	地誌学		2	
	文化人類学		2	
	宗教の世界		2	
	心の科学		2	
社	社会学		2	
会	政治と社会		2	
会科学科	ジェンダー論		2	
子科	経営学		2	
			2	
群	日本国憲法		2	
日群 自然科	数学		2	
	化学		2	
科学	生物学		2	
子科	宇宙・地球科学		2	
目	自然地理学		2	
群	環境学		2	
	英語 I		1	
	英語Ⅱ		1	
	英語Ⅲ(コミュニケーション)		1	
英語	英語IV (コミュニケーション)		1	
語科	英語V		1	
目	英語VI		1	
群	英語VII		1	
	英語Ⅷ		1	
	英語総合I		1	
	英語総合Ⅱ		1	
	フランス語 I		1	
	フランス語Ⅱ		1	
	フランス語Ⅲ		1	
	フランス語IV		1	
	ドイツ語 I		1	

ĺ	ドイツ語Ⅱ		1	
	ドイツ語Ⅲ			
/*/**			1	
第一	ドイツ語IV		1	
二外	中国語Ⅰ		1	
国	中国語Ⅱ		1	
語科	中国語Ⅲ		1	
目	中国語IV		1	
群	コリア語Ⅰ		1	
	コリア語Ⅱ		1	
	コリア語Ⅲ		1	
	コリア語IV		1	
	コンピュータリテラシー		2	
情 報	情報活用リテラシー		2	
科	情報処理入門		2	
学	情報社会と倫理		2	
科目	データサイエンス・AI入門		2	
群	データサイエンス・AI応用基礎I		2	
	データサイエンス・AI応用基礎Ⅱ		2	
健康	健康・スポーツ科学 I	1		
· .	健康・スポーツ科学Ⅱ	1		
ポート	健康・スポーツ科学Ⅲ		1	
ツ 科	健康・スポーツ科学IV		1	
学科	健康・スポーツ科学V		2	
目群	健康科学論		2	
育キ	キャリア形成論		2	
科目野	파라 개인 TV /주 크V		0	
群教	職業指導論		2	
教養				
目演	教養演習 (日本語表現)		2	
科				
	教養演習(日本語表現) ミクロ経済学入門	2		
	マクロ経済学入門	2		
	社会経済学入門	2		
	現代資本主義論入門	2		
亩	統計学 I		2	
専門教育部門基礎科目群	統計学Ⅱ		2	
教科	経済史Ⅰ		2	
部目	経済史Ⅱ		2	
門群	経済学のための数学 I		2	
	経済学のための数学Ⅱ		2	
	社会思想史		2	
	基本簿記		4	
	等殊科目 I		2	
I	192本代日 1	<u> </u>	۷	

1		Ī		
	特殊科目Ⅱ		4	
	ミクロ経済学I		2	
	ミクロ経済学Ⅱ		2	
	ゲーム理論 I		2	
	ゲーム理論 Ⅱ		2	
	マクロ経済学I		2	
	マクロ経済学Ⅱ		2	
経	社会経済学 I		2	
済理	社会経済学Ⅱ		2	
論	現代資本主義論 I		2	
• 経	現代資本主義論Ⅱ		2	
隆	計量経済学I		2	
史	計量経済学Ⅱ		2	
科目	西洋経済史I		2	
群	西洋経済史Ⅱ		2	
	日本経済史 I		2	
	日本経済史Ⅱ		2	
	経済思想史		2	
	イギリス近代思潮		2	
	特殊科目I		2	
	特殊科目Ⅱ		4	
	公共経済学 I		2	
	公共経済学Ⅱ		2	
	財政学 I		2	
	財政学Ⅱ		2	
	地方財政論 I		2	
	地方財政論Ⅱ		2	
	金融経済学 I		2	
	金融経済学Ⅱ		2	
	金融論 I		2	
経	金融論Ⅱ		2	
済政	国際経済論 I		2	
策	国際経済論Ⅱ		2	
科	国際金融論		2	
目群	国際通貨論		2	
	労働経済論 I		2	
	労働経済論Ⅱ		2	
	開発経済学I		2	
	開発経済学Ⅱ		2	
	経済政策論 I		2	
	経済政策論Ⅱ		2	
	アメリカ経済論		2	
	EU経済論		2	
	中国経済論I		2	
	1 巴性切		Δ	

	中国経済論Ⅱ	2	
	特殊科目 I	2	
	特殊科目Ⅱ	4	
	基礎ゼミナール	4	
	専門ゼミナールI	4	
ミナ	専門ゼミナールⅡ	4	
	専門ゼミナールⅢ (卒業研究)	4	
ルシ	外国書講読ゼミナール I	2	
科目	外国書講読ゼミナールⅡ	2	
群	特殊科目I	2	
	特殊科目Ⅱ	4	
	社会フィールドワーク I	4	
	社会フィールドワーク Ⅱ	4	
フ	経済データ分析 I	2	
イ 1	経済データ分析Ⅱ	2	
ル	経営データ分析 I	2	
ドワ	経営データ分析Ⅱ	2	
	商法I	2	
ク	商法Ⅱ	2	
実	ビジネス英語 I	2	
務	ビジネス英語Ⅱ	2	
科目	インターンシップ	2	
群	海外語学実習	2	
	特殊科目I	2	
	特殊科目Ⅱ	4	

(1) 必修科目

10単位

(2) 選択科目

114単位以上

合計

124単位以上

3の2 (経済学部産業社会学科)

極業到 日		単位数			
	授業科目		必修科目	選択科目	自由科目
	目 群 科	現代社会に生きる		2	
±4.	人文科学科	哲学		2	
教養教育部		倫理学		2	
教		文学		2	
育如		芸術文化論		2	
門門		外国史		2	
	目	日本史		2	
	群	地理学		2	
		地誌学		2	

1		1		
	文化人類学		2	
	宗教の世界		2	
	心の科学		2	
社	社会学		2	
会	政治と社会		2	
科	ジェンダー論		2	
子	政治と社会ジェンダー論経営学		2	
目目	法学		2	
群	日本国憲法		2	
自	数学		2	
然	化学		2	
科	生物学		2	
学	生物学 宇宙・地球科学		2	
科	自然地理学		2	
群	環境学		2	
	英語 I		1	
	英語Ⅱ		1	
	英語Ⅲ(コミュニケーション)		1	
	英語IV (コミュニケーション)		1	
科	英語V		1	
目	英語VI		1	
群	英語Ⅶ		1	
	英語Ⅷ		1	
	英語総合 I		1	
	英語総合Ⅱ		1	
	フランス語 I		1	
	フランス語Ⅱ		1	
	フランス語Ⅲ		1	
	フランス語IV		1	
	ドイツ語 I		1	
第	ドイツ語Ⅱ		1	
	ドイツ語皿		1	
外国	ドイツ語IV		1	
語	中国語I		1	
科	中国語Ⅱ		1	
目				
群	中国語Ⅲ		1	
	中国語IV		1	
	コリア語Ⅰ		1	
	コリア語Ⅱ		1	
	コリア語Ⅲ		1	
	コリア語IV		1	
情恕	コンピュータリテラシー		2	
報科	情報活用リテラシー		2	
学	情報処理入門		2	
科目	情報社会と倫理		2	
群	データサイエンス・AI入門		2	
•				

		データサイエンス・AI応用基礎I		2	
		データサイエンス・AI応用基礎II		2	
	健	健康・スポーツ科学I	1	2	
	康 •	健康・スポーツ科学Ⅱ	1		
	スポー	健康・スポーツ科学Ⅲ	1	1	
	ツ	健康・スポーツ科学IV		1	
	科 学 科	健康・スポーツ科学V		2	
	目	健康科学論		2	
	群・				
	育科	キャリア形成論		2	
	7科目群	職業指導論		2	
	教養演習科	教養演習(日本語表現)		2	
		ミクロ経済学入門	2		
		マクロ経済学入門	2		
		社会経済学入門	2		
		現代資本主義論入門	2		
		統計学 I		2	
	基	統計学Ⅱ		2	
	礎 科	経済史I		2	
	目	経済史Ⅱ		2	
		経済学のための数学I		2	
		経済学のための数学Ⅱ		2	
専門		社会思想史		2	
教		基本簿記		4	
教育部		特殊科目I		2	
削門		特殊科目Ⅱ		4	
		ミクロ経済学I		2	
		ミクロ経済学Ⅱ		2	
		ゲーム理論 I		2	
		ゲーム理論Ⅱ		2	
	経	マクロ経済学I		2	
	済理	マクロ経済学Ⅱ		2	
	論	社会経済学 I		2	
	• ∜∀	社会経済学Ⅱ		2	
	経済	現代資本主義論 I		2	
	史	現代資本主義論Ⅱ		2	
	科目	計量経済学I		2	
	群	計量経済学Ⅱ		2	
		西洋経済史 I		2	
		西洋経済史Ⅱ		2	
		日本経済史 I		2	
, !		日本経済史Ⅱ		2	

i			
	経済思想史	2	
	イギリス近代思潮	2	
	特殊科目I	2	
	特殊科目Ⅱ	4	
	環境経済論I	2	
	環境経済論Ⅱ	2	
	農業経済論	2	
	食料経済論	2	
	工業経済論	2	
	産業技術論	2	
	商業経済論	2	
2 25	サービス経済論	2	
産業	交通論	2	
•	物流論	2	
社会	中小企業論	2	
会科	中小企業政策論	 2	
目	経営戦略論	2	
群	地域経済論	2	
	地域政策論	2	
	経済地理学	2	
	産業集積論	2	
	社会保障論	2	
	公共政策論	2	
	特殊科目I	2	
	特殊科目Ⅱ	4	
	基礎ゼミナール	4	
ゼ	専門ゼミナール I	4	
111	専門ゼミナールⅡ	4	
ナー	専門ゼミナールⅢ (卒業研究)	4	
ル	外国書講読ゼミナールⅠ	2	
科	外国書講読ゼミナールⅡ	2	
目群		2	
/II+	特殊科目Ⅱ	4	
	社会フィールドワーク I	4	
_	社会フィールドワークⅡ	4	
	経済データ分析 I	2	
	経済データ分析Ⅱ	2	
		2	
	経営データ分析Ⅰ		
ĺ	経営データ分析Ⅱ	2	
ク	商法工	2	
宝	商法Ⅱ	2	
務	ビジネス英語 I	2	
科	Cマイハ矢in II	2	
目群	インターンシップ	2	
14干	1两/1 阳 1 八 日	2	
	特殊科目I	2	

	特殊科目Ⅱ	4	

(1) 必修科目

10単位

(2) 選択科目

114単位以上

合計

124単位以上

4の1 (理工学部数学科)

	授業科目		単位数	
	·	必修科目	選択科目	自由科目
	英語コミュニケーション I		1	
	英語コミュニケーションⅡ		1	
	英語コミュニケーションⅢ		1	
	英語コミュニケーションIV		1	
	プラクティカル・イングリッシュ I		1	
	プラクティカル・イングリッシュⅡ		1	
	ドイツ語 I		1	
	ドイツ語Ⅱ		1	
	ドイツ語Ⅲ		1	
	ドイツ語IV		1	
	フランス語 I		1	
	フランス語 Ⅱ		1	
	フランス語Ⅲ		1	
	フランス語IV		1	
	中国語 I		1	
	中国語Ⅱ		1	
絵	中国語Ⅲ		1	
合	中国語IV		1	
基	体育科学 I		1	
総合基礎部	体育科学Ⅱ		1	
門	体育科学Ⅲ		1	
	体育科学IV		1	
	人文科学基礎 I		2	
	人文科学基礎Ⅱ		2	
	社会科学基礎 I		2	
	社会科学基礎Ⅱ		2	
	アジア文化論 I		2	
	アジア文化論Ⅱ		2	
	欧米文化論 I		2	
	欧米文化論Ⅱ		2	
	国際関係論		2	
	文学		2	
	日本国憲法		2	
	国際経済論		2	
	心理学		2	
	<u>心性子</u> 基礎ゼミナール I		1	
	基礎ゼミナールⅡ		1	
		2	1	
	微分積分 I			
	微分積分Ⅱ	2		
	線形代数Ⅰ	2		
	線形代数Ⅱ 微分積分Ⅰ演習	2		

専門教育部門

微分積分Ⅱ演習	1		
線形代数I演習	1		
線形代数Ⅱ演習	1		
数学序論 I	2		
数学序論 II	2		
物理学 I	2	2	
物理学Ⅱ		2	
物理学演習		1	
化学 I		2	
化学Ⅱ		2	
技術者倫理		2	
コンピューターリテラシー		2	
データサイエンス・AI入門		2	
数学基礎演習I		2	1
数学基礎演習Ⅱ			1
物理学基礎演習 [1
物理学基礎演習Ⅱ			1
が生子基礎演習 I			
			1
化学基礎演習 II			1
英語基礎演習I			1
英語基礎演習Ⅱ ※公粉冊其7巻定翌 Ⅰ			1
総合数理基礎演習Ⅰ			1
総合数理基礎演習Ⅱ ※公教理基礎演習Ⅲ			1
総合数理基礎演習Ⅲ			1
総合数理基礎演習IV			1
サイエンス・ボランティア入門Ⅰ			1
サイエンス・ボランティア入門Ⅱ			1
探究活動入門I			2
探究活動入門Ⅱ		0	2
数理物理学I		2	
数理物理学Ⅱ		2	
コンピューターサイエンス	0	2	
情報科学I	2		
情報科学Ⅱ	2		2
情報科学Ⅲ			
情報科学IV		0	2
情報社会と情報倫理		2	
情報技術の応用と職業		2	
アルゴリズム・データ構造論		2 2	
経営情報論 情報ネットワーク論		2	
パターン情報処理論		2	
		2	
人間情報処理論			
微分積分Ⅲ 微八转八W		2	
微分積分IV		2	
線形代数Ⅲ		2	

線形代数IV		2	
数学通論 I		2	
数学通論Ⅱ		2	
解析学 I	2	2	
解析学Ⅱ		2	
解析学Ⅲ		2	
解析学IV		2	
解析学V		2	
解析学VI		2	
解析学Ⅶ		2	
解析学Ⅷ		2	
代数学 I	2	2	
代数学Ⅱ		2	
代数学Ⅲ		2	
代数学IV		2	
代数学V		2	
代数学VI		2	
代数学VII		2	
代数学Ⅷ		2	
幾何学 I	2	1	
幾何学Ⅱ	2	2	
幾何学Ⅲ		2	
幾何学IV		2	
幾何学V		2	
幾何学VI		2	
幾何学VII		2	
幾何学VII		2	
数理情報 I	2		
数理情報Ⅱ		2	
数理情報Ⅲ		2	
数理情報IV		2	
数理情報V		2	
数理情報VI		2	
数理情報Ⅶ		2	
数理情報Ⅷ		2	
計算機科学 I		4	
計算機科学Ⅱ		4	
計算機科学Ⅲ		2	
計算機科学IV		2	
計算機科学V		2	
計算機科学VI		2	
教職研究 I			1
教職研究Ⅱ			1
数学研究			2
数学講究	8		

(1) 必修科目 36単位

(2) 選択科目 総合基礎部門 20単位以上

専門教育部門68単位以上計88単位以上合計124単位以上

4の2 (理工学部電気電子工学科)

	授業科目	単位数		
	汉未行口	必修科目	選択科目	自由科目
	英語コミュニケーション I		1	
	英語コミュニケーションⅡ		1	
	英語コミュニケーションⅢ		1	
	英語コミュニケーションIV		1	
	プラクティカル・イングリッシュ I		1	
	プラクティカル・イングリッシュⅡ		1	
	ドイツ語 I		1	
	ドイツ語Ⅱ		1	
	ドイツ語Ⅲ		1	
	ドイツ語IV		1	
	フランス語 I		1	
	フランス語Ⅱ		1	
	フランス語Ⅲ		1	
	フランス語IV		1	
	中国語 I		1	
4/4	中国語Ⅱ		1	
総合	中国語Ⅲ		1	
基	中国語IV		1	
総合基礎部門	体育科学 I		1	
消 明	体育科学Ⅱ		1	
1 1	体育科学Ⅲ		1	
	体育科学IV		1	
	人文科学基礎 I		2	
	人文科学基礎Ⅱ		2	
	社会科学基礎 I		2	
	社会科学基礎Ⅱ		2	
	アジア文化論I		2	
	アジア文化論Ⅱ		2	
	欧米文化論 I		2	
	欧米文化論Ⅱ		2	
	国際関係論		2	
	文学		2	
	日本国憲法		2	
	国際経済論		2	
	心理学		2	
	基礎ゼミナール I		1	

	基礎ゼミナールⅡ		1	
	職業指導論		2	
	微分積分 I		2	
	微分積分Ⅱ		2	
	線形代数 I		2	
	線形代数Ⅱ		2	
	物理学 I		2	
	物理学Ⅱ		2	
	物理学演習		1	
	物理学実験 I		1	
	物理学実験Ⅱ		1	
	化学 I		2	
	化学Ⅱ		2	
	化学実験 I		1	
	化学実験Ⅱ		1	
	地学 I		2	
	地学Ⅱ		2	
	地学実験 I		1	
	地学実験Ⅱ		1	
	生物学		2	
	生物学実験		1	
	理工学概論		2	
車	技術者倫理		2	
門	コンピューターリテラシー		2	
専門教育部	データサイエンス・AI入門		2	
部	数学基礎演習 I			1
門	数学基礎演習Ⅱ			1
	物理学基礎演習I			1
	物理学基礎演習Ⅱ			1
	化学基礎演習 I			1
	化学基礎演習Ⅱ			1
	英語基礎演習I			1
	英語基礎演習Ⅱ	0		1
	電気磁気学 I および演習 電気磁気学 II および演習	3		
	電気磁気学Ⅲ	ა	2	
	電気回路Ⅰおよび演習	3	2	
	電気回路Ⅱおよび演習	3		
	電気回路Ⅲ	J	2	
	電子回路A	2	۷	
	電子回路B	2		
	電子回路C	2	2	
	デジタル回路I	2		
	デジタル回路 II		2	
	デジタル信号処理 I		2	
	デジタル信号処理Ⅱ		2	
	コンピューターサイエンス	2		
	プログラミング I および演習	3		
	/ / / / / 1 W G U IX 日			

プログラミングⅡおよび演習	3		
組み込みシステム I および演習		3	
組み込みシステムⅡおよび演習		3	
電気計測	2		
電気基礎理論I		2	
電気基礎理論Ⅱ		2	
電気基礎理論Ⅲ		2	
電気基礎理論IV		2	
電気電子工学概論		2	
エネルギー変換・発生工学		2	
エネルギー伝送工学		2	
電気機器工学		2	
高電圧工学		2	
電力系統工学		2	
電気設計・製図		2	
電気法規・施設管理		2	
制御工学 I		2	
制御工学Ⅱ		2	
パワーエレクトロニクス		2	
電気電子物性論 I		2	
電気電子物性論Ⅱ		2	
電気電子物性論Ⅲ		2	
半導体工学 I		2	
半導体工学Ⅱ		2	
電気化学		2	
電子計測		2	
センサ・センシング		2	
基礎通信工学		2	
情報理論		2	
通信システム		2	
電磁波工学		2	
ネットワーク		2	
データベース		2	
電気電子工学基礎実験	1		
電気電子工学実験I	2		
電気電子工学実験Ⅱ	2		
電気電子工学実験Ⅲ	2		
電気電子ゼミナール I		1	
電気電子ゼミナールⅡ	1		
卒業研究	4		

 (1) 必修科目
 40単位

 (2) 選択科目
 総合基礎部門
 20単位以上

専門教育部門 64単位以上

計84単位以上合計124単位以上

4の3 (理工学部化学・物質学科)

	授業科目		単位数		
又木/ 口		必修科目	選択科目	自由科目	
	英語コミュニケーション I	1			
	英語コミュニケーションⅡ	1			
	英語コミュニケーションⅢ	1			
	英語コミュニケーションIV	1			
	プラクティカル・イングリッシュ I		1		
	プラクティカル・イングリッシュ Ⅱ		1		
	ドイツ語 I		1		
	ドイツ語Ⅱ		1		
	ドイツ語Ⅲ		1		
	ドイツ語IV		1		
	フランス語 I		1		
	フランス語Ⅱ		1		
	フランス語Ⅲ		1		
	フランス語IV		1		
	中国語 I		1		
	中国語Ⅱ		1		
	中国語Ⅲ		1		
総へ	中国語IV		1		
百基	体育科学 I		1		
礎	体育科学Ⅱ		1		
総合基礎部門	体育科学Ⅲ		1		
L.1	体育科学IV		1		
	人文科学基礎 I		2		
	人文科学基礎Ⅱ		2		
	社会科学基礎 I		2		
	社会科学基礎Ⅱ		2		
	アジア文化論Ⅰ		2		
	アジア文化論Ⅱ		2		
	欧米文化論 I		2		
	欧米文化論 II		2		
	国際関係論		2		
	文学		2		
	日本国憲法		2		
	国際経済論		2		
	心理学		2		
	基礎ゼミナールI			1	
	基礎ゼミナールⅡ			1	
	職業指導論		2	1	
	微分積分I	2			
	微分積分Ⅱ	2			
	線形代数 I	2			
	線形代数Ⅱ	2			

専門教育部門

物理学 I	2		
物理学Ⅱ		2	
物理学演習		1	
物理学実験 I	1	-	
物理学実験Ⅱ	1		
化学 I	-	2	
化学Ⅱ		2	
化学実験 I		1	
化学実験 II		1	
地学I		2	
地学Ⅱ		2	
地学実験 I		1	
地学実験Ⅱ	1	1	
生物学	1	2	
生物学実験		1	
理工学概論		2	
技術者倫理	2		
コンピューターリテラシー	2		
データサイエンス・AI入門	2	2	
数学基礎演習I			1
数学基礎演習Ⅱ			1
物理学基礎演習I			1
物理学基礎演習Ⅱ			1
化学基礎演習 I			1
化学基礎演習Ⅱ			1
英語基礎演習I			1
英語基礎演習 II			1
固体物性 I および演習		3	1
固体物性Ⅱおよび演習		3	
固体物性Ⅲ		2	
固体物性IV		2	
熱力学		2	
統計力学		2	
真空工学		2	
表面化学		2	
電磁気学Ⅰおよび演習		3	
電磁気学Ⅱおよび演習		3	
量子力学Ⅰおよび演習		3	
量子力学Ⅱおよび演習		3	
量子力学Ⅲ		2	
電気回路および演習		3	
電子回路設計・製作		2 (材)	
電子回路		2	
電子材料評価		2	
半導体基礎論		2	
半導体工学		2	
十等件上十		۷	

半導体デバイス	T	2	
光・誘電工学		2	
材料力学Ⅰおよび演習		3	
材料力学Ⅱおよび演習		3	
材料強度学		2	
金属材料		2	
工業材料化学		2	
高分子工学		2	
高分子・複合材料		2	
		2	
機械加工			
塑性加工		2	
機械要素設計		2	
機械CAD製図		2	
応用数学 I		2	
応用数学Ⅱ		2	
応用数学Ⅲ		2	
機械製図基礎		2	
結晶材料		2	
先端技術管理		2	
化学・物質概論	2		
科学技術リテラシー	2 (材)		
材料機能工学実験I	2 (材)		
材料機能工学実験Ⅱ	2 (材)		
材料機能工学実験Ⅲ	2 (材)		
化学・物質ゼミナール	2		
有機化学基礎	2 (応)	2 (材)	
有機化学 I		2	
有機化学Ⅱ		2	
有機化学演習		1	
高分子化学 I		2	
高分子化学Ⅱ		2	
生化学		2	
生活支援化学		2	
有機機能化学		2	
物理化学基礎	2 (応)	2 (材)	
物理化学 I		2	
物理化学Ⅱ		2	
物理化学演習		1	
化学結晶学		2	
物質構造学		2	
物性化学 I	1	2	
物性化学Ⅱ	1	2	
無機化学基礎	2 (広)	2 (材)	
無機化学Ⅰ	2 (//)	2	
無機化学Ⅱ		2	
	+	+	
無機化学演習		1	

	-		
電子材料		2	
電気化学		2	
無機材料化学 I		2	
無機材料化学Ⅱ		2	
基礎電磁気		2	
量子化学 I		2	
量子化学Ⅱ		2	
量子化学演習		1	
製図基礎		2	
分析化学		2	
分光化学		2	
機器分析		2	
錯体化学		2	
化学工学		2	
分離精製工学		2	
流動現象学		2	
エネルギー工学		2	
応用化学基礎演習			1
実験基礎論		2	
安全工学	2 (応)	2 (材)	
応用化学実験 I	2 (応)		
応用化学実験Ⅱ	2 (応)		
応用化学実験Ⅲ	3 (応)		
応用化学実験IV	2 (応)		
卒業研究	4		

備考 (材)は材料機能工学専攻、(応)は応用化学専攻

(材料機能工学専攻)

(1) 必修科目 総合基礎部門

	専門教育部門	32単位
	計	36単位
(2) 選択科目	総合基礎部門	16単位以上
	専門教育部門	72単位以上
	計	88単位以上
	合計	124単位以上
(応用化学専攻)		
(1) 必修科目	総合基礎部門	4 単位
	専門教育部門	41単位
	計	45単位
(2) 選択科目	総合基礎部門	16単位以上
	専門教育部門	63単位以上
	=	79単位以上
	合計	124単位以上

4 単位

4の4 (理工学部機械工学科)

	拉朱拉口	単位数		
	授業科目	必修科目 選択科目 自		
	英語コミュニケーションI		1	
	英語コミュニケーションⅡ		1	
	英語コミュニケーションⅢ		1	
	英語コミュニケーションIV		1	
	プラクティカル・イングリッシュ I		1	
	プラクティカル・イングリッシュ Ⅱ		1	
	ドイツ語 I		1	
	ドイツ語Ⅱ		1	
	ドイツ語Ⅲ		1	
	ドイツ語IV		1	
	フランス語 I		1	
	フランス語Ⅱ		1	
	フランス語Ⅲ		1	
	フランス語IV		1	
	中国語I		1	
	中国語Ⅱ		1	
	中国語Ⅲ		1	
	中国語IV		1	
総	体育科学I		1	
合基礎	体育科学Ⅱ		1	
礎	体育科学Ⅲ		1	
部 門	体育科学IV		1	
L.1	人文科学基礎 I		2	
	人文科学基礎Ⅱ		2	
	社会科学基礎 I		2	
	社会科学基礎Ⅱ		2	
	アジア文化論 I		2	
	アジア文化論 Ⅱ		2	
	欧米文化論 I		2	
	欧米文化論Ⅱ		2	
	国際関係論		2	
	文学		2	
	日本国憲法		2	
	国際経済論		2	
	心理学		2	
	基礎ゼミナール I		1	
	基礎ゼミナールⅡ		1	
	職業指導論 微分積分 I	2	2	

専門教育部門

微分積分Ⅱ	2		
線形代数I	2		
線形代数Ⅱ	2		
物理学 I	2		
物理学Ⅱ	2		
物理学演習	2	1	
物理学実験 I		1	
物理学実験Ⅱ		1	
化学 I		2	
化学Ⅱ		2	
化学実験 I		1	
化学実験Ⅱ		1	
地学 [2	
地学Ⅱ		2	
地学実験 [
		1	
地学実験Ⅱ	+	1	
生物学		2	
生物学実験		1	
理工学概論		2	
技術者倫理		2	
コンピューターリテラシー		2	
データサイエンス・AI入門		2	
数学基礎演習 I			1
数学基礎演習Ⅱ			1
物理学基礎演習I			1
物理学基礎演習Ⅱ			1
化学基礎演習 I			1
化学基礎演習Ⅱ			1
英語基礎演習I			1
英語基礎演習Ⅱ			1
熱力学 I	2		
熱力学Ⅱ		2	
伝熱工学		2	
熱機関工学		2	
流体力学 I	2		
流体力学Ⅱ		2	
流体機械		2	
応用流体力学		2	
材料力学 I	2		
材料力学Ⅱ		2	
材料強度学 I		2	
材料強度学Ⅱ		2	
機械材料		2	
機械設計基礎	2		
機械設計I	2		
機械設計Ⅱ	2		

	T		1
機械要素	2		
機械加工学		2	
塑性加工学		2	
生産加工学		2	
生産管理		2	
機構学		2	
機械力学 I	2		
機械力学Ⅱ		2	
機械振動学		2	
制御工学I		2	
制御工学Ⅱ		2	
コンピュータープログラミング	2		
コンピューターシミュレーション		2	
機械技術者倫理		2	
基礎電気工学		2	
基礎電子工学		2	
機械設計・製作		4	
機械工学実習	2		
機械工学実験	2		
機械工学概論	2		
応用数学 I	2		
応用数学Ⅱ		2	
応用力学		2	
電磁気学		2	
データ解析工学		2	
CAE		2	
計測工学		2	
新技術概論		2	
技術英語		2	
インターンシップ		1	
ラボラトリー・セミナー		1	
卒業研究	4		

(1) 必修科目 42単位

(2) 選択科目 総合基礎部門 20単位以上

専門教育部門62単位以上計82単位以上合計124単位以上

4の5 (理工学部交通機械工学科)

授業科目	単位数		
1文未行日	必修科目	選択科目	自由科目
英語コミュニケーション I	1		
英語コミュニケーションⅡ	1		
英語コミュニケーションⅢ	1		

英語コミュニケーションⅣ 1 プラクティカル・イングリッシュI 1 プラクティカル・イングリッシュ**Ⅱ** 1 ドイツ語 I 1 ドイツ語Ⅱ 1 ドイツ語Ⅲ 1 ドイツ語IV 1 フランス語 I 1 フランス語Ⅱ 1 フランス語Ⅲ 1 フランス語IV 1 中国語I 1 中国語Ⅱ 1 中国語Ⅲ 1 中国語IV 1 体育科学 I 1 合基 体育科学Ⅱ 1 体育科学Ⅲ 礎 1 部 体育科学IV 1 門 人文科学基礎 I 2 人文科学基礎Ⅱ 2 社会科学基礎 I 2 社会科学基礎Ⅱ 2 アジア文化論I 2 アジア文化論Ⅱ 2 欧米文化論 I 2 欧米文化論Ⅱ 2 国際関係論 2 文学 2 日本国憲法 2 2 国際経済論 心理学 2 基礎ゼミナール I 1 基礎ゼミナールⅡ 1 職業指導論 微分積分 I 2 微分積分Ⅱ 2 線形代数 I 2 線形代数Ⅱ 2 物理学 I 2 物理学Ⅱ 2 物理学演習 1 門 物理学実験 I 1 物理学実験Ⅱ 1 化学 I 2 化学Ⅱ 2

専 菛 教 育 部

化学実験 I		1	
化学実験 II			
地学Ⅰ		2	
		2	
地学Ⅱ			
地学実験Ⅰ		1	
地学実験Ⅱ		1	
生物学		2	
生物学実験		1	
理工学概論		2	
技術者倫理	2		
コンピューターリテラシー	2		
データサイエンス・AI入門		2	
数学基礎演習 I			1
数学基礎演習Ⅱ			1
物理学基礎演習 I			1
物理学基礎演習Ⅱ			1
化学基礎演習 I			1
化学基礎演習 Ⅱ			1
英語基礎演習 I			1
英語基礎演習 Ⅱ			1
交通機械工学概論	2		
数値計算法 I		2	
数値計算法Ⅱ		2	
CAE		1	
応用数学 I	2		
応用数学Ⅱ		2	
工業力学 I	2		
工業力学Ⅱ		2	
工業力学演習		1	
振動学		2	
材料力学 I	2		
材料力学Ⅱ		2	
材料力学演習		1	
構造力学		2	
流体力学 I	2		
流体力学Ⅱ		2	
流体力学演習		1	
流れ学		2	
熱力学 I	2		
熱力学Ⅱ		2	
熱力学演習		1	
伝熱工学		2	
材料科学 I	2	_	
材料科学Ⅱ		2	
機械工作法		2	
機構学		2	
1双1丹丁		۷	

機械要素 I		2	
機械要素Ⅱ		2	
製図I	2		
製図Ⅱ		2	
設計・CAD		1	
交通機設計		1	
制御工学I		2	
制御工学Ⅱ		2	
知的制御システム		2	
エンジン I		2	
エンジンⅡ		2	
自動車工学 I		2	
自動車工学Ⅱ		2	
自動車工学Ⅲ		2	
航空宇宙工学 I		2	
航空宇宙工学Ⅱ		2	
航空宇宙工学Ⅲ		2	
鉄道車両工学I		2	
鉄道車両工学Ⅱ		2	
管理科学		2	
エレクトロニクス [2	
エレクトロニクスⅡ		2	
計測工学		2	
交通機械工学実習 I	1		
交通機械工学実習Ⅱ	1		
交通機械工学実習Ⅲ		1	
交通機械工学実験 I	1		
交通機械工学実験Ⅱ		1	
ゼミナール	2		
卒業研究	4		

(1) 必修科目 46単位

(2) 選択科目 総合基礎部門 16単位以上

専門教育部門62単位以上計78単位以上合計124単位以上

4の6 (理工学部メカトロニクス工学科)

授業科目	単位数		
1文未行日	必修科目	選択科目	自由科目
英語コミュニケーション I		1	
英語コミュニケーションⅡ		1	
英語コミュニケーションⅢ		1	
英語コミュニケーションIV		1	
プラクティカル・イングリッシュ I		1	

	プラクティカル・イングリッシュ Ⅱ	1	
	ドイツ語 I	1	
	ドイツ語Ⅱ	1	
	ドイツ語皿	1	
	ドイツ語IV	1	
	フランス語 I	1	
	フランス語Ⅱ	1	
	フランス語Ⅲ	1	
	フランス語IV	1	
	中国語 I	1	
	中国語Ⅱ	1	
	中国語Ⅲ	1	
	中国語IV	1	
	体育科学 I	1	
総	体育科学Ⅱ	1	
合基礎	体育科学Ⅲ	1	
基磁	体育科学IV	1	
部	人文科学基礎 I	2	
門	人文科学基礎Ⅱ	2	
	社会科学基礎 I	2	
	社会科学基礎Ⅱ	2	
	アジア文化論Ⅰ	2	
	アジア文化論Ⅱ	2	
	欧米文化論 I	2	
	欧米文化論Ⅱ	2	
	国際関係論	2	
	文学	2	
	日本国憲法	2	
	国際経済論	2	
	心理学		
		2	
	基礎ゼミナールI	1	
	基礎ゼミナールⅡ	1	
	職業指導論	2	
	微分積分 I	2	
	微分積分Ⅱ	2	
	線形代数 I	2	
	線形代数Ⅱ	2	
専	物理学 I	2	
専門教育部	物理学Ⅱ	 2	
秋 音	物理学演習	1	
部	物理学実験 I	 1	
門	物理学実験Ⅱ	1	
	化学 I	2	
	化学Ⅱ	2	
	化学実験 I	1	
	化学実験Ⅱ	1	
	(· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		

地学 I	T	2	
地学Ⅱ			
地学実験 I		2	
		1	
地学実験Ⅱ		1	
生物学		2	
生物学実験		1	
理工学概論		2	
技術者倫理		2	
コンピューターリテラシー		2	
データサイエンス・AI入門		2	
数学基礎演習 I			1
数学基礎演習Ⅱ			1
物理学基礎演習 I			1
物理学基礎演習Ⅱ			1
化学基礎演習 I			1
化学基礎演習Ⅱ			1
英語基礎演習I			1
英語基礎演習 I			1
メカトロニクス概論		2	
機械設計基礎I	2		
機械設計基礎礎Ⅱ	2		
電気回路基礎	2		
コンピュータープログラミング I	2		
コンピュータープログラミングⅡ	2		
コンピュータープログラミングⅢ	2		
コンピュータープログラミングIV	2		
機構学	2		
電子回路と部品	2		
技術日本語		2	
応用数学 I	2		
応用数学Ⅱ	2		
制御工学 I	2		
制御工学Ⅱ	2		
機械設計・製図	2		
材料力学 I	2		
機械力学 I	2		
電磁気学I	2		
電気設計・製図	2		
アナログ電子回路	2		
メカトロニクス要素設計	2		
メカトロニクス実験 I	2		
メカトロニクス実験Ⅱ	2		
信号処理工学		2	
技術英語		2	
メカトロニクス統合演習 I	2		
メカトロニクス統合演習Ⅱ	2		
	•	•	

メカトロニクス統合演習Ⅲ	2		
メカトロニクス統合演習Ⅳ	2		
卒業研究	4		
流体力学		2	
熱力学		2	
メカトロニクス基礎演習	2		
メカトロニクス数学演習		2	
電磁気学Ⅱ		2	
バイオメカニクス		2	
材料力学Ⅱ		2	
機械力学Ⅱ		2	
制御工学Ⅲ		2	
医療機械工学		2	
ネットワーク		2	
デジタル電子回路		2	
電気機器工学		2	
機械加工学		2	
自動車工学		2	
伝熱工学		2	
ロボット工学		2	
画像処理工学		2	
パワーエレクトロニクス		2	
センサ・センシング		2	
生産管理		2	
CAE		2	
計測工学		2	
電気法規・施設管理		2	
振動学		2	
機械学習		2	
インターンシップ		1	

(1) 必修科目 56単位

(2) 選択科目 総合基礎部門 20単位以上

専門教育部門48単位以上計68単位以上合計124単位以上

4の7 (理工学部社会基盤デザイン工学科)

授業科目	単位数		
1文未代日	必修科目	選択科目	自由科目
英語コミュニケーションI		1	
英語コミュニケーションⅡ		1	
英語コミュニケーションⅢ		1	
英語コミュニケーションIV		1	
プラクティカル・イングリッシュ I		1	

プラクティカル・イングリッシュ**Ⅱ** 1 ドイツ語 I 1 ドイツ語Ⅱ 1 ドイツ語Ⅲ 1 ドイツ語IV 1 フランス語 I 1 フランス語Ⅱ 1 フランス語Ⅲ 1 フランス語IV 1 中国語I 1 中国語Ⅱ 1 中国語Ⅲ 1 中国語IV 1 体育科学 I 1 体育科学Ⅱ 1 総 合基 体育科学Ⅲ 1 体育科学IV 1 礎 人文科学基礎 I 部 2 門 人文科学基礎Ⅱ 2 社会科学基礎 I 2 社会科学基礎Ⅱ 2 アジア文化論I 2 アジア文化論Ⅱ 2 欧米文化論 I 2 欧米文化論Ⅱ 2 国際関係論 2 文学 2 日本国憲法 2 国際経済論 2 心理学 2 基礎ゼミナール I 1 基礎ゼミナールⅡ 1 職業指導論 2 微分積分 I 2 微分積分Ⅱ 2 線形代数 I 2 2 線形代数Ⅱ 物理学I 2 専 門 2 物理学Ⅱ 教 物理学演習 1 育 物理学実験 I 部 1 門 物理学実験Ⅱ 1 化学 I 2 化学Ⅱ 2 化学実験 I 1 化学実験Ⅱ 1

地学 I		2	
地学Ⅱ		2	
地学実験 [1	
地学実験Ⅱ		1	
生物学		+	
		2	
生物学実験		1	
理工学概論	0	2	
技術者倫理	2		
コンピューターリテラシー		2	
データサイエンス・AI入門		2	
数学基礎演習 I			1
数学基礎演習Ⅱ			1
物理学基礎演習 I			1
物理学基礎演習Ⅱ			1
化学基礎演習 I			1
化学基礎演習Ⅱ			1
英語基礎演習I			1
英語基礎演習Ⅱ			1
応用数学 I	2		
応用数学Ⅱ		2	
数理統計学		2	
力学基礎	2		
材料力学	2		
プログラミング基礎演習		1	
構造力学 I	2		
構造力学Ⅱ	2		
構造力学Ⅲ		2	
水理学 I	2		
水理学Ⅱ	2		
水理学Ⅲ		2	
土質力学 I	2		
土質力学Ⅱ	2		
土質力学Ⅲ		2	
都市デザイン学		2	
都市・国土制度論	2		
社会基盤計画学 I	2		
社会基盤計画学Ⅱ		2	
建設材料学	2	_	
測量学	2		
測量学実習 I	1		
測量学実習Ⅱ	1	1	
GIS·CIM実習		2	
デザイン学入門	2	<u> </u>	
デザイン技法	2	2	
図学・CAD演習		1	
	0	1	
社会基盤デザインセミナー I	2		

T			T T
社会プロジェクト特別講義		2	
科学技術英語		2	
交通デザイン学		2	
都市解析学		2	
まちづくり実習		1	
都市経済学		2	
プロジェクトマネジメント		2	
土質·材料試験法		2	
構造・水理実験演習		2	
鋼構造学		2	
コンクリート構造学		2	
建設施工法		2	
施設維持管理論		2	
都市安全学		2	
水文・水資源工学		2	
河川工学		2	
地盤防災工学		2	
地圏環境工学		2	
海域工学		2	
水域環境工学		2	
耐震工学		2	
社会基盤デザインセミナーⅡ	2		
キャリアデザイン		2	
グローバルインターンシップ		1	
社会基盤デザイン総合演習 I		1	
社会基盤デザイン総合演習Ⅱ		1	
卒業研究	4		

(1) 必修科目 39単位

(2) 選択科目 総合基礎部門 20単位以上

専門教育部門65単位以上計85単位以上合計124単位以上

4の8 (理工学部環境創造工学科)

授業科目		単位数		
	1文未行口	必修科目	選択科目	自由科目
	英語コミュニケーション I		1	
4/1	英語コミュニケーションⅡ		1	
総合基	英語コミュニケーションⅢ		1	
基	英語コミュニケーションIV		1	
礎 部	プラクティカル・イングリッシュI		1	
門	プラクティカル・イングリッシュⅡ		1	
1 3	ドイツ語 I		1	
	ドイツ語Ⅱ		1	

25 2 5 5 7 7 7 7 7		
ドイツ語皿	1	
ドイツ語IV	1	
フランス語 I	1	
フランス語Ⅱ	1	
フランス語皿	1	
フランス語IV	1	
中国語Ⅰ	1	
中国語Ⅱ	1	
中国語Ⅲ	1	
中国語IV	1	
体育科学 I	1	
体育科学Ⅱ	1	
体育科学Ⅲ	1	
体育科学IV	1	
人文科学基礎 I	2	
人文科学基礎Ⅱ	2	
社会科学基礎 I	2	
社会科学基礎Ⅱ	2	
アジア文化論I	2	
アジア文化論Ⅱ	2	
欧米文化論 I	2	
欧米文化論Ⅱ	2	
国際関係論	2	
文学	2	
日本国憲法	2	
国際経済論	2	
心理学	2	
基礎ゼミナール I		
	1	
基礎ゼミナールⅡ	1	
職業指導論	2	
微分積分 I	2	
微分積分Ⅱ	2	
線形代数 I	2	
線形代数Ⅱ	2	
物理学 I	2	
物理学Ⅱ	2	
物理学演習	1	
物理学実験 I	1	
物理学実験Ⅱ	1	
化学 I	2	
化学Ⅱ	2	
化学実験 I	1	
化学実験Ⅱ	1	
地学 I	2	
地学Ⅱ	2	
地学実験 I	1	

専門教育部門

地学実験Ⅱ	1	1	1
生物学		2	
生物学実験		1	
理工学概論	1	2	
	1	2	
技術者倫理			
コンピューターリテラシー		2	
データサイエンス・AI入門		2	
数学基礎演習I			1
数学基礎演習Ⅱ			1
物理学基礎演習I			1
物理学基礎演習Ⅱ			1
化学基礎演習 I			1
化学基礎演習Ⅱ			1
英語基礎演習I			1
英語基礎演習 Ⅱ			1
環境創造工学概論 I	2		
環境創造工学概論Ⅱ	2		
コミュニケーションスキル		2	
応用数学		2	
確率統計学		2	
情報処理 I		2	
情報処理Ⅱ		2	
データ科学 I		2	
データ科学Ⅱ		2	
環境計測学 I		2	
環境計測学Ⅱ		2	
空間情報科学		2	
環境解析学		2	
環境創造工学演習 I	2		
環境創造工学演習Ⅱ	2		
環境創造工学演習Ⅲ	3		
エネルギー環境論		2	
熱化学・光エネルギー工学		2	
エネルギー管理工学		2	
環境エネルギー変換工学		2	
エネルギープロセスシステム設計		2	
生物化学工学	<u> </u>	2	
		2	
有機材料工学			
無機材料工学	1	2	1
分離プロセス工学	1	2	1
環境材料学		2	
材料リサイクル	-	2	
資源循環学		2	
環境配慮創造設計学		3	
環境分析化学		2	
水環境工学		2	

			<u> </u>
水処理工学		2	
基礎生態学		2	
環境生態工学		2	
環境アセスメント		2	
環境生物工学		2	
気象・気候学		2	
環境リモートセンシング		2	
快適性設計基礎		2	
都市システム I		2	
快適性設計学 I		3	
環境システム I		2	
環境システムⅡ		2	
ランドスケープ I		2	
ランドスケープⅡ		2	
地域環境計画演習		3	
快適性設計学Ⅱ		3	
都市システムⅡ		2	
快適性創造工学		2	
空気調和衛生工学		2	
材料力学		2	
構造力学 I		2	
構造力学Ⅱ		2	
環境構造設計法		3	
建設施工学		2	
建設法規		2	
環境倫理		2	
環境法		2	
インターンシップ		1	
ゼミナール	2		
卒業研究・卒業制作	4		

(1) 必修科目 17単位

(2) 選択科目 総合基礎部門 20単位以上

専門教育部門87単位以上計107単位以上合計124単位以上

4の9 (理工学部建築学科)

授業科目	単位数		
1文未行口	必修科目	選択科目	自由科目
英語コミュニケーションI		1	
英語コミュニケーションⅡ		1	
英語コミュニケーションⅢ		1	
英語コミュニケーションIV		1	
プラクティカル・イングリッシュ I		1	

プラクティカル・イングリッシュ**Ⅱ** 1 ドイツ語 I 1 ドイツ語Ⅱ 1 ドイツ語Ⅲ 1 ドイツ語IV 1 フランス語 I 1 フランス語Ⅱ 1 フランス語Ⅲ 1 フランス語IV 1 中国語I 1 中国語Ⅱ 1 中国語Ⅲ 1 中国語IV 1 体育科学 I 1 体育科学Ⅱ 1 総 合基 体育科学Ⅲ 1 体育科学IV 1 礎 人文科学基礎 I 部 2 門 人文科学基礎Ⅱ 2 社会科学基礎 I 2 社会科学基礎Ⅱ 2 アジア文化論I 2 アジア文化論Ⅱ 2 欧米文化論 I 2 欧米文化論Ⅱ 2 国際関係論 2 文学 2 日本国憲法 2 国際経済論 2 心理学 2 基礎ゼミナール I 1 基礎ゼミナールⅡ 1 職業指導論 2 2 微分積分 I 2 微分積分Ⅱ 線形代数 I 2 線形代数Ⅱ 2 物理学I 2 専 2 物理学Ⅱ 門 教 物理学演習 1 育 物理学実験 I 1 部 物理学実験Ⅱ 1 門 化学 I 2 2 化学Ⅱ 化学実験 I 1 化学実験Ⅱ 1 地学 I 2

地学Ⅱ	I	2	
地学実験 I			
地学実験Ⅱ		1	
生物学		1 2	
生物学実験		1	
理工学概論		2	
技術者倫理		2	
コンピューターリテラシー		2	
データサイエンス・AI入門		2	
数学基礎演習 I		2	1
数字基礎演習Ⅱ 数学基礎演習Ⅱ			1
物理学基礎演習I			1
物理学基礎演習Ⅱ			1
化学基礎演習 I			1
化学基礎演習Ⅱ			1
英語基礎演習 I			1
英語基礎演習 II	0		1
建築計画概論	2		
建築計画I		2	
建築計画Ⅱ		2	
建築計画Ⅲ		2	
インテリアデザイン		2	
都市計画		2	
住環境計画		2	
建築法規行政	2		
地域計画		2	
デザイン基礎 I		2	
デザイン基礎Ⅱ		2	
CADデザイン		2	
基本空間デザイン I		2	
基本空間デザインⅡ		2	
建築デザインⅠ		2	
建築デザインⅡ	_	2	
建築史概論	2		
西洋建築史		2	ļ
日本建築史		2	
近代建築史		2	
アジア建築史		2	
建築環境概論	2		
建築環境工学		2	
建築環境物理		2	
建築環境計画		2	
建築環境実験	1	2	
建築設備概論	2		
建築設備工学 I	2	2	
建築設備工学Ⅱ	1	2	<u> </u>
都市環境デザイン		2	

構造力学概論	2		
構造力学 I	2		
構造力学Ⅱ		2	
構造力学Ⅲ		2	
建築構造概論	2		
建築構造計画	2		
建築構造設計		2	
建築各種構造 I		2	
建築各種構造Ⅱ		2	
建築構造デザインI		2	
建築構造デザインⅡ		2	
建築構造実験		2	
耐震工学		2	
都市防災		2	
建築材料概論	2		
建築材料		2	
建築材料実験		2	
建築生産概論	2		
建築生産 I		2	
建築生産Ⅱ		2	
建築維持保全		2	
建築応用数学		2	
ワークショップ		1	
設計総合演習		1	
インターンシップ		1	
ゼミナールI	1		
ゼミナールⅡ	1		
卒業研究・卒業制作	4		

(1) 必修科目 28単位

(2) 選択科目 総合基礎部門 20単位以上

 専門教育部門
 76単位以上

 計
 96単位以上

合計 124単位以上

5の1 (農学部生物資源学科)

(文耒村日及い単位数		単位数		
授業科目	必修科目	選択科目	自由科目	
世界の歴史と文化		2		
日本の歴史と文化		2		
哲学		2		
心理学		2		
日本語学		2		
日本国憲法		2		
暮らしの中の法律		2		
政治学		2		
社会学		2		
経済学		2		
宗教の世界		2		
メディアリテラシー		2		
地球と宇宙		2		
生命・食料・環境		2		
物質の成り立ち		2		
英語 I	1			
英会話 I	1			
英語Ⅱ	1			
教 英会話Ⅱ	1			
 教 英会話Ⅱ 英語Ⅲ 英会話Ⅲ 英会話Ⅲ 英言Ⅳ 門 世令紀刊 	1			
教 育 英会話 Ⅲ	1			
部 英語IV	1			
門 英会話IV	1			
中国語 I		1		
中国語Ⅱ		1		
ドイツ語 I		1		
ドイツ語Ⅱ		1		
フランス語 I		1		
フランス語Ⅱ		1		
海外語学研修 I		1		
海外語学研修Ⅱ		1		
情報機器の操作 I		1		
情報機器の操作Ⅱ		1		
情報機器の操作Ⅲ		1		
データサイエンス・A I 入門		2		
健康・スポーツ科学 I		1		
健康・スポーツ科学Ⅱ		1		
健康・スポーツ科学Ⅲ		1		
健康・スポーツ科学IV		2		
健康・スポーツ科学V		1		
インターンシップ I		1		

	インターンシップ Ⅱ		1	
	職業指導論		2	
	キャリアデザイン学		2	
	生物学 I		2	
	生物学Ⅱ		2	
	生物学実験	1	_	
	化学 I	1	2	
	化学Ⅱ		2	
	化学実験		1	
	物理学		2	
	物理学実験		1	
	地学		2	
	地学実験		1	
	数学		2	
	データサイエンス		2	
	科学英語 I		1	
	科学英語Ⅱ		1	
	生物資源学概説	2	1	
	作物生産科学	2		
	園芸学	2		
	生物化学 I	2		
	生物化学Ⅱ	۷	2	
. .		1	۷	
界 明	農場実習 I 農場実習 II	1		
教		1	1	
専門教育部	農場実習Ⅲ 農場実習Ⅳ		1	
門		0	1	
1 3	食用作物学 I 食用作物学 II	2	2	
		2	۷	
	遺伝学	2		
	植物病理学			
	基礎昆虫学	2	0	
	応用昆虫学	0	2	
	生物生産経営学	2		
	生物資源学実験 I	1		
	生物資源学実験Ⅱ	3		
	作物学実験		1	
	園芸学実験		1	
	遺伝育種学実験		1	
	生物生産経営学演習		1	
	植物病理学実験		1	
	昆虫学実験		1	
	フィールド生産科学実験		1	
	ゼミナール I	1		
	ゼミナールⅡ	2		
	卒業研究	6		
	植物分類・形態学		2	

動物分類・形態学		2	
微生物学		2	
生物資源経済学		2	
有機化学		2	
生物資源統計学	2		
果樹園芸学		2	
野菜園芸学		2	
花き園芸学		2	
植物生理学		2	
細胞生物学		2	
生物資源情報学		2	
育種学		2	
園芸利用学		2	
土壌学		2	
養分動態学		2	
資源作物学		2	
植物細胞工学		2	
分子生物学		2	
農業環境微生物学		2	
植物感染制御学		2	
食品経済学		2	
GAP概論		1	
GAP実践講座		1	
食品科学		2	
動物生産学		2	
生物資源学特別講義 I		2	
生物資源学特別講義Ⅱ		2	
生物資源学特別講義Ⅲ		2	
フィールド生産科学		2	
果樹生産・加工品学		2	
畜産食品原料学		2	
農学特別講義 I		2	
農学特別講義Ⅱ		2	

(1)必修科目 44単位

(2)選択科目教養教育部門18単位以上専門教育部門62単位以上

専門教育部門62単位以上計80単位以上

合 計 124単位以上

) 授業科目及び単位数		単位数		
	授業科目	必修科目	選択科目	自由科目
	世界の歴史と文化		2	
	日本の歴史と文化		2	
	哲学		2	
	心理学		2	
	日本語学		2	
	日本国憲法		2	
	暮らしの中の法律		2	
	政治学		2	
	社会学		2	
	経済学		2	
	宗教の世界		2	
	メディアリテラシー		2	
	地球と宇宙		2	
	生命・食料・環境		2	
	物質の成り立ち		2	
	英語 I	1		
	英会話 I	1		
	英語Ⅱ	1		
教养	英会話Ⅱ	1		
教養教育部門	英語Ⅲ	1		
育	英会話Ⅲ	1		
門	英語IV	1		
, ,	英会話IV	1		
	中国語 I		1	
	中国語Ⅱ		1	
	ドイツ語 I		1	
	ドイツ語Ⅱ		1	
	フランス語 I		1	
	フランス語Ⅱ		1	
	海外語学研修 I		1	
	海外語学研修Ⅱ		1	
	情報機器の操作 I		1	
	情報機器の操作Ⅱ		1	
	情報機器の操作Ⅲ		1	
	データサイエンス・AI入門		2	
	健康・スポーツ科学 I		1	
	健康・スポーツ科学Ⅱ		1	
	健康・スポーツ科学Ⅲ		1	
	健康・スポーツ科学IV		2	
	健康・スポーツ科学V		1	

I	インターンシップ I		1	
	インターンシップ II		1	
	職業指導論		2	
	キャリアデザイン学		2	
	生物学Ⅰ		2	
	生物学Ⅱ		2	
	生物学実験 化学 I		1	
			2	
	化学Ⅱ		2	
	化学実験		1	
	物理学		2	
	物理学実験		1	
	地学		2	
	地学実験		1	
	数学		2	
	データサイエンス		2	
	科学英語 I		1	
	科学英語Ⅱ		1	
	応用生物化学概説	2		
	分析化学	2		
	有機化学 I	2		
	有機化学Ⅱ	2		
由	生物化学 I	2		
専門教育部	生物化学Ⅱ	2		
教	物理化学 I	2		
育如	物理化学Ⅱ	2		
門	微生物学I	2		
	微生物学Ⅱ	2		
	栄養科学 I	2		
	栄養科学Ⅱ	2		
	食品製造科学 I	2		
	食品製造科学Ⅱ	2		
	農薬科学I	2		
	農薬科学Ⅱ	2		
	応用生物化学実験I	1		
	応用生物化学実験Ⅱ	1		
	応用生物化学実験Ⅲ	1		
	応用生物化学実験Ⅳ	1		
	応用生物化学実験V	1		
	応用生物化学実験VI	1		
	応用生物化学実験Ⅶ	1		
	機器分析化学	2		
	食品安全・衛生学	2		
	ゼミナール I	1		
	ゼミナールⅡ	2		
1	卒業研究	6		

植物生命科学		2	
無機化学 I		2	
無機化学Ⅱ		2	
食品化学総論		2	
食物文化論		2	
細胞生物学	2		
農場実習		1	
統計学		2	
代謝生化学		2	
バイオテクノロジー		2	
微生物利用学		2	
食品原料学		2	
食品利用学		2	
生物有機化学		2	
天然物有機化学		2	
生物物理化学		2	
食品加工実習		1	
香粧品化学		2	
食品・環境関連法規		2	
公衆衛生学		2	
動物生命科学		2	
分子生物学		2	
醸造・発酵科学		2	
タンパク質・遺伝子工学		2	
食品機能学I		2	
食品機能学Ⅱ		2	
食品保蔵学		2	
生物制御化学		2	
高分子レオロジー		2	
化学工学		2	
応用生物化学特別講義 I		2	
応用生物化学特別講義Ⅱ		2	
フィールド生産科学		2	
果樹生産・加工品学		2	
畜産食品原料学		2	
農学特別講義I		2	
農学特別講義Ⅱ		2	-

(1)必修科目62単位(2)選択科目教養教育部門18単位以上専門教育部門44単位以上計62単位以上

計62単位以上合計124単位以上

)授	美科目及び単位数 15世 日 1	単位数			
	授業科目	必修科目	選択科目	自由科目	
	世界の歴史と文化		2		
	日本の歴史と文化		2		
	哲学		2		
	心理学		2		
	日本語学		2		
	日本国憲法		2		
	暮らしの中の法律		2		
	政治学		2		
	社会学		2		
	経済学		2		
	宗教の世界		2		
	メディアリテラシー		2		
	地球と宇宙		2		
	生命・食料・環境		2		
	物質の成り立ち		2		
	英語 I	1			
	英会話 I	1			
	英語Ⅱ	1			
教	英会話 Ⅱ	1			
教養教育部門	英語Ⅲ	1			
育	英会話Ⅲ	1			
部	英語IV	1			
1 1	英会話IV	1			
	中国語 I		1		
	中国語Ⅱ		1		
	ドイツ語 I		1		
	ドイツ語Ⅱ		1		
	フランス語 I		1		
	フランス語Ⅱ		1		
	海外語学研修 I		1		
	海外語学研修Ⅱ		1		
	情報機器の操作 I		1		
	情報機器の操作Ⅱ		1		
	情報機器の操作Ⅲ		1		
	データサイエンス・A I 入門		2		
	健康・スポーツ科学 I		1		
	健康・スポーツ科学Ⅱ		1		
	健康・スポーツ科学Ⅲ		1		
	健康・スポーツ科学IV		2		
	健康・スポーツ科学V		1		

	インターンシップ I		1	
	インターンシップ Ⅱ		1	
	職業指導論		2	
	キャリアデザイン学		2	
	生物学 I		2	
	生物学Ⅱ		2	
	生物学実験		1	
	化学 I		2	
	化学Ⅱ		2	
	化学実験		1	
	物理学		2	
	物理学実験		1	
	地学		2	
	地学実験		1	
	数学		2	
	データサイエンス		2	
	科学英語 I		1	
	科学英語Ⅱ		1	
	生物環境科学概説	2	1	
	生態学	2		
	環境化学基礎I	1		
	環境化学基礎Ⅱ	1		
専	環境化学基礎演習 I	1		
門数	環境化学基礎演習Ⅱ	1		
専門教育部門	科学論文作成演習	1		
部	生物環境科学実習 I	1		
[]	生物環境科学実習Ⅱ	1		
	生物化学Ⅰ	1	2	
	生物化学Ⅱ		2	
	有機化学		2	
	分子生物学		2	
	動物生態学	+	2	
	無機化学		2	
	環境情報解析学		2	
	生物保全学実験・実習	1		
	緑地創造学実験・実習	1		
	物質動態学実験	1		
	生物機能科学実験	1		
	生物環境科学実験	1		
	ゼミナールⅠ	1		
	ゼミナールⅡ	2		
	卒業研究	6		
	植物分類学		2	
	農場実習		1	
•				<u>l</u>

保全植物学	2	
環境動物学	2	
森林生態学	2	
ランドスケープ・デザイン学	2	
緑地環境学	2	
植物生命化学	2	
植物栄養学	2	
物質循環論	2	
土壤学	2	
環境分析化学	2	
微生物学	2	
環境微生物学	2	
海洋動物学	2	
野生動物保全学	2	
生物多様性科学	2	
景観解析学	2	
緑地植物学	2	
生態系管理学	2	
環境アセス論	2	
植物生理学	2	
植物機能科学	2	
環境土壤学	2	
養分動態学	2	
機器分析化学	2	
細胞分子生物学	2	
植物生態学	2	
生物環境科学特別講義 I	2	
生物環境科学特別講義Ⅱ	2	
生物環境科学特別講義Ⅲ	2	
フィールド生産科学	 2	
果樹生産・加工品学	 2	
環境バイオテクノロジー	 2	
畜産食品原料学	 2	
農学特別講義I	2	
農学特別講義Ⅱ	 2	

 (1)必修科目
 33単位

 (2)選択科目
 教養教育部門
 18単位

教養教育部門18単位以上専門教育部門73単位以上計91単位以上合計

6 (薬学部薬学科)

授業科目		単位数			
		1文未行口	必修科目	選択科目	自由科目
F E 君	斗 目 样 基 軸	人間と環境		2	
		健康・医療心理学		2	
		経営と社会		2	
	教	法と社会		2	
	養	教育方法・技術論		2	
	教育	ジェンダーと社会		2	
	科	数と論理		2	
	目	情報活用リテラシー		2	
,	群	コンピュータリテラシー		2	
		データサイエンス・AI入門		2	
		教養演習		2	
₹	薬	基礎物理学 基礎化学 基礎生物学 入門実験	2		
和	学	基礎化学	2		
教』	量備	基礎生物学	2		
養	‡教	入門実験	1		
教養教育		英語初級 I - I (リーディング)		1	
部		英語初級I-I(コミュニケーション)		1	
門		英語初級Ⅰ-Ⅱ(リーディング)		1	
		英語初級 I − II (コミュニケーション)		1	
		英語初級Ⅱ-I (リーディング)		1	
		英語初級Ⅱ-Ⅰ (コミュニケーション)		1	
	目	英語初級Ⅱ-Ⅱ(リーディング)		1	
	群	英語初級Ⅱ-Ⅱ(コミュニケーション)		1	
		英語中級 I (リーディング)		1	
		英語中級 I (コミュニケーション)		1	
		英語中級Ⅱ (リーディング)		1	
		英語中級Ⅱ (コミュニケーション)		1	
		健康・スポーツ科学 I	1		
和	斗康	健康・スポーツ科学Ⅱ	1		
1 字	学・	健康・スポーツ科学Ⅲ		1	
E	ョポ	健康・スポーツ科学IV		1	
君	羊 丨	健康・スポーツ科学理論		2	
		物理化学 I	1.5		
		物理化学Ⅱ	1. 5		
専		基礎有機化学	1. 5		
門 薬	基	有機薬化学 I	1. 5		
学	幹 科	有機薬化学Ⅱ・構造解析学	1. 5		
衣 杏	目	有機薬化学Ⅲ	1. 5		
部		機能形態学 I	1.5		
明		機能形態学Ⅱ	1.5		
		生化学 I	1. 5		

生化学Ⅱ	1. 5	
生化学Ⅲ	1.5	
薬学英語 I	1. 5	
薬学英語Ⅱ	1. 5	
薬学英語Ⅲ	1. 5	
分析化学 I	1.5	
分析化学Ⅱ	1.5	
医薬資源化学	1.5	
微生物学	1.5	
分子生物学 I	1.5	
分子生物学Ⅱ	1.5	
地域医療・医療経済	1.5	
薬用植物と生薬	1.5	
免疫学	1.5	
薬物動態学 I	1.5	
薬物動態学Ⅱ	1.5	
薬理・病態基礎	1. 5	
製剤学I	1.5	
製剤学Ⅱ	1. 5	
生物有機化学	1. 5	
感染予防学	1. 5	
公衆衛生学	1. 5	
衛生化学 I	1. 5	
衛生化学Ⅱ	1. 5	
薬理・病態 I	1. 5	
薬理・病態Ⅱ	1. 5	
薬理・病態Ⅲ	1. 5	
薬理・病態IV	1. 5	
薬理・病態V	1. 5	
薬理・病態VI	1. 5	
薬理・病態VII	1. 5	
疾病による身体変化のメカニズム	1. 5	
調剤学	1.5	
環境科学	1. 5	
医薬品情報学	1. 5	
製剤設計学	1.5	
医療法規	1.5	
和漢医薬学	1.5	
薬物投与設計	1.5	
セルフメディケーション・臨床栄養療法	1. 5	
医療データサイエンス・薬剤疫学	1.5	
物理系実習I	0.5	
物理系実習Ⅱ	0.5	
物理系実習Ⅲ	0. 5	
物理系実習IV	0.5	
化学系実習 I	0. 5	

		化学系実習Ⅱ	0. 5		
		化学系実習Ⅲ	0. 5		
		化学系実習IV	0. 5		
		生物・衛生系実習 I	0.5		
		生物·衛生系実習 II	0. 5		
		生物·衛生系実習Ⅲ	0. 5		
		生物·衛生系実習IV	0. 5		
		薬理系実習 I	0. 5		
		薬理系実習Ⅱ	0. 5		
		薬理系実習Ⅲ	0. 5		
		薬理系実習IV	0. 5		
		病院実務実習	10		
		薬局実務実習	10		
		プロフェッショナリズムI	10		
粉	統	プロフェッショナリズムⅡ	5		
育	合	薬物治療マネジメント	10		
教育部門	楽	基礎薬学総論	3		
P'J	学	実務実習事前講義・演習	4		
		薬学特別講義	4		
薬		薬学卒業研究基礎	3		
薬学ア	薬学	薬学卒業研究 I	5		
育ド	研研	薬学卒業研究Ⅱ	5		
部バ	究科目	薬学卒業演習 I		1	
門ン ス		薬学卒業応用演習 I		1	
1	群	薬学卒業演習Ⅱ		1	
教		薬学卒業応用演習Ⅱ		1	

(1) 必修科目教養教育部門9単位専門薬学教育部門基幹科目群75単位実習科目群28単位統合型薬学教育部門36単位

薬学アドバンスト教育部門

薬学研究科目群13単位計161単位

(2) 選択科目 教養教育部門 23単位以上

薬学アドバンスト教育部門

薬学研究科目群2単位以上計25単位以上合計186単位以上

7 (都市情報学部都市情報学科)

授業科目		単位数		
	汉未行口	必修科目	選択科目	自由科目
	歴史と文化		2	
	芸術文化論		2	
	世界遺産とツーリズム		2	
	アジア文化論		2	
	文化人類学の世界		2	
	哲学		2	
	心の科学		2	
	宗教の世界		2	
	日本国憲法		2	
	法と社会		2	
	経営と社会		2	
	国際化時代の人間と社会		2	
	社会学		2	
	都市と人間		2	
	ジェンダーと社会		2	
	人間と社会の演習		2	
	数と論理		2	
	現象と論理		2	
	人間と環境		2	
教養教育	英語基礎 I (リーディング)		1	
食 教	英語基礎 I (コミュニケーション)		1	
育	英語基礎Ⅱ (リーディング)		1	
部 門	英語基礎Ⅱ (コミュニケーション)		1	
1 1	英語初級I-I(リーディング)		1	
	英語初級 I - I (コミュニケーション)		1	
	英語初級 I - II (リーディング)		1	
	英語初級 I — II (コミュニケーション)		1	
	英語初級Ⅱ-I (リーディング)		1	
	英語初級 II - I (コミュニケーション)		1	
	英語初級Ⅱ-Ⅱ(リーディング)		1	
	英語初級Ⅱ-Ⅱ (コミュニケーション)		1	
	フランス語入門 I		1	
	フランス語入門Ⅱ		1	
	フランス語初級 I		1	
	フランス語初級Ⅱ		1	
	ドイツ語入門 I		1	
	ドイツ語入門Ⅱ		1	
	ドイツ語初級 I		1	
	ドイツ語初級Ⅱ		1	
	コンピュータリテラシー		2	
	コンピュータシステム		2	
	プログラミング入門		2	

		情報社会と倫理		2	
		データサイエンス・AI入門		2	
		健康・スポーツ科学I		1	
		健康・スポーツ科学Ⅱ		1	
		健康科学論 I		2	
		健康科学論Ⅱ		2	
		教養演習		2	
		都市情報学概論 I	2		
		都市情報学概論Ⅱ	2		
		都市学英語 I	1		
		都市学英語Ⅱ	1		
		情報管理の基礎	2		
		情報管理の応用	2		
		情報処理の基礎	2		
		情報処理の応用	2		
		コンピュータ演習 I (リテラシー)	2		
		コンピュータ演習Ⅱ (基礎プログラミング)	2		
		コンピュータ演習Ⅲ (オペレーティングシステム)	2		
Ē	事	コンピュータ演習IV(応用プログラミング)	2		
F	于 門	コンピュータ演習V (プレゼンテーション)		2	
基	· 門 表 楚	コンピュータ演習VI(データベース)		2	
中	楚 郛	コンピュータ演習VII(地理情報システム)		2	
F	·j	コンピュータ演習Ⅷ(データ解析)		2	
		情報とビジネス		2	
		ユビキタスと社会		2	
		数学の基礎A-I		2	
		数学の基礎A-Ⅱ		2	
		数学の基礎B-I		2	
		数学の基礎B-Ⅱ		2	
		都市と文化		2	
		都市の構造		2	
		経済と社会		2	
		政治と社会		2	
		まちづくり実習(CBML)		2	
		都市の経済		2	
		企業の経営		2	
		事業のマネジメント		2	
		企業の経済		2	
専	経			2	
門部	済	企業の会計			
門	· 経	経済の政策		2	
	経営	都市と社会		2	
		経済と地理		2	
		貨幣の経済		2	
		都市と金融		2	
		観光のサービス		2	
		都市と行政		2	

	都市と財政	2	
	地方と財政	2	
	都市と自治	2	
財	都市と社会保障	2	
政	都市と福祉	2	
· 行	公共の政策	2	
政	観光の政策	2	
	都市と公企業	2	
	都市と国際関係	2	
	国際社会と政治	2	
	都市の計画	2	
	都市のデザイン	2	
	都市の再生	2	
1.1	防災とまちづくり	2	
地域	交通の計画	2	
計	交通とまちづくり	2	
画	水利用の計画	2	
	水環境とまちづくり	2	
	観光と産業	2	
	観光とまちづくり	2	
	都市の環境	2	
	都市と事業構想	2	
開	国際化と地域開発	2	
発	環境の政策	2	
· 環	プロジェクトの評価	2	
境	都市と生態環境	2	
	地域環境の保全	2	
	観光の資源	2	
	データ分析と確率	2	
	データ分析と統計	2	
	情報と基礎解析	2	
	情報と応用解析	2	
	計画の数理	2	
	意思決定の数理	2	
情 報	評価のOR	2	
報・	経営のOR	2	
数	数理と情報処理		
理		2 2	
	知識と情報処理		
	画像と情報処理	2	
	図形と情報処理	2	
	視環境と情報処理	2	
	認知と情報処理	2	
	知覚情報と脳の働き	2	
	都市生活とストレス	2	
	データサイエンス	2	
	フィールド調査の方法	2	

Ī	キャリアアップ講座 I		2	
総	キャリアアップ講座Ⅱ		2	
合	インターンシップ I		1	
科口	インターンシップⅡ		1	
目	異文化コミュニケーション		1	
	ゼミナール	8		

(1)必修科目 専門基礎部門 22単位

専門部門 8単位

計 30単位

(2)選択科目 教養教育部門 32単位以上

専門基礎部門8単位以上専門部門54単位以上

計 94単位以上

合 計 124単位以上

8 (人間学部人間学科)

授業科目		単位数			
			必修科目	選択科目	自由科目
	科基 目軸	現代に生きる		2	
	口押	歴史と文化		2	
		文学と人間		2	
	人	芸術文化論		2	
	間、	欧米文化論		2	
	間と文	アジア文化論		2	
	化	文化人類学の世界		2	
		哲学		2	
		宗教の世界		2	
		日本国憲法		2	
		法と社会		2	
	人 間	経済と社会		2	
	と社	政治と社会		2	
	社会	自己と社会		2	
	云	都市と人間		2	
		ジェンダーと社会		2	
	自然と環境	地球と宇宙		2	
紐		物質の成り立ち		2	
養		生命の多様性		2	
教養教育		数と論理		2	
F 部		人間とデザイン		2	
明		英語初級 I - 1	1		
		英語初級 I - 2	1		
		英語初級Ⅱ-1	1		
		英語初級Ⅱ-2	1		
		英語中級 I - 1	1		
	言語	英語中級 I - 2	1		
	日コ	英語中級Ⅱ-1	1		
	111	英語中級Ⅱ-2	1		
	그 그	フランス語入門		1	
	ケ	フランス語応用		1	
		ドイツ語入門		1	
	ショ	ドイツ語応用		1	
	ン	中国語入門		1	
		中国語応用		1	
		ハングル入門		1	
		ハングル応用		1	
		スペイン語入門		1	
		スペイン語応用		1	
Ì		コンピュータリテラシー		2	

		情報活用リテラシー		2	
	1	情報処理入門		2	
				2	
		情報社会と倫理			
	78	データサイエンス・AI入門		2	
	ポーツ	健康・スポーツ科学 I		1	
	東とス	健康・スポーツ科学Ⅱ		1	
	演教 習養	教養演習		2	
	デザイン	キャリア形成論	2		
		人間学総論	2		
		心理学概論	2		
	基	社会学概論	2		
	礎	国際コミュニケーション概論	2		
	科	生命倫理入門		2	
	目	環境人間学		2	
		データ解析入門		2	
		文献講読		2	
		発達心理学		2	
		感情・人格心理学		2	
		教育心理学		2	
		生徒・進路指導論		2	
		臨床心理学概論		2	
		社会・集団・家族心理学		2	
由		知覚・認知心理学		2	
専 門		学習・言語心理学		2	
教		学校教育相談		2	
育		教育・学校心理学		2	
部門		心理学研究法		2	
, ,		心理学統計法		2	
	心理			2	
	系	心理学実験演習		2	
	71.	福祉心理学		<u> </u>	
		健康・医療心理学		2	
		障害者・障害児心理学		2	
		心理的アセスメント		2	
		心理学的支援法		2	
		産業・組織心理学		2	
		司法・犯罪心理学		2	
		神経・生理心理学		2	
		人体の構造と機能及び疾病		2	
		精神疾患とその治療		2	
		心理演習			2
		特殊講義A			2

	人間行動論	2	
	公認心理師の職責		2
	関係行政論		2
	心理実習		2
	現代社会論	2	
	家族社会学	2	
	教育学概論	2	
	地域文化論	2	
	環境社会学	2	
	社会福祉論	2	
	政治学	2	
	学習社会論	2	
	学校教育論	2	
	教育行政論	2	
	教育社会学	2	
	道徳教育論	2	
社	日本文化史	2	
会 •	西洋文化史	2	
	社会調査法	2	
教育	日本社会史	2	
系	西洋社会史	2	
	西洋芸術史	2	
	都市文明史	2	
	教育史	2	
	地域教育論	2	
	現代メディア論	2	
	日本史	2	
	外国史	2	
	自然地理学	2	
	地理学	2	
	地誌学	2	
	特殊講義B	2	
	国際関係論	2	
	国際文化論	2	
I	コミュニケーション論	2	
国際		2	
歩・コ ハユ	言語文化論		
	イングリッシュ・コミュニケーション	2	
	英語音声学	2	
=	英語文学史	2	
ケーション系	異文化理解	2	
	国際協力論	2	
	英語圏文化研究	2	
	地域研究	2	
	国際コミュニケーション	2	
	ビジネス・コミュニケーション	2	
	プレゼンテーション	2	

			-
メディア・イングリッシュ		2	
インテンシィブ・イングリッシュ		2	
パラグラフ・ライティング		2	
リスニング・コミュニケーションスキル I		1	
リーディング・ライティングスキル I		1	
英語学		2	
英語史		2	
英語文学概論		2	
英語文学講読		2	
国際環境保全論		2	
異文化コミュニケーション		2	
国際組織論		2	
多文化社会論		2	
比較文化論		2	
比較言語論		2	
社会言語学		2	
エッセイ・ライティング		2	
リスニング・コミュニケーションスキルⅡ		1	
リーディング・ライティングスキルⅡ		1	
英語文化表現		2	
英語文学研究		2	
リスニング・コミュニケーションスキルⅢ		1	
リーディング・ライティングスキルⅢ		1	
特別留学プログラム		2	
特殊講義C		2	
フィールドワーク入門		2	
ボランティア入門		2	
海外体験入門		2	
語学研修		2	
フィールドワーク		2	
ボランティア		2	
インターンシップ I		1	
インターンシップⅡ		1	
海外研修		4	
海外インターンシップ		4	
国際フィールドワーク		2	
基礎ゼミナール	2		
講読ゼミナール	2		
展開ゼミナール	2		
卒業研究ゼミナール I	2		
卒業研究ゼミナールⅡ	2		
			l .

体験科目

ゼミナール

② 卒業に必要な要件

(1)必修科目教養教育部門10単位専門教育部門18単位

計 28単位

(2)選択科目 教養教育部門 20単位以上

専門教育部門76単位以上計96単位以上

合 計 124単位以上

9 (外国語学部国際英語学科)

① 授業科目及び単位数

		运 类到日	単位数		
授業科目 		必修科目	選択科目	自由科目	
	科基 目軸	現代に生きる	2		
Ī		歴史と文化		2	
		芸術と人間		2	
		哲学		2	
		心の科学		2	
		文化人類学		2	
	発	日本国憲法		2	
	展	経済学		2	
	科 目	市民と社会		2	
	Н	ジェンダーと社会		2	
教養教育		科学と技術の歩み		2	
教		人間と自然		2	
育		地球と宇宙		2	
部門		生命の多様性		2	
,		数と論理		2	
	科報 目教育	コンピュータリテラシー		2	
		情報社会と倫理		2	
		データサイエンス・AI入門		2	
	保 科健 目体 育	健康・スポーツ科学 I	1		
		健康・スポーツ科学Ⅱ	1		
	目リ	キャリア形成論	2		
	科演 目習	教養演習	2		
		英語コミュニケーション I (基礎 1)	1(英)	1(キ)	
		英語コミュニケーションⅡ(基礎2)	1(英)	1(キ)	
		英語コミュニケーションⅢ(応用1)	1(英)	1(キ)	
		英語コミュニケーションIV(応用2)	1(英)	1(キ)	
		英語コミュニケーションV (発展)	1(英)	1(キ)	
専	第	英語リーディング I (基礎 1)	1		
守明	<u> </u>	英語リーディングⅡ(基礎2)	1		
数	外 国	英語リーディングⅢ(応用1)	1		
育部	語	英語リーディングIV(応用2)	1		
明	科日	英語リーディング V (発展)	1		
	目	英語ライティング I (基礎 1)	1		
		英語ライティングⅡ(基礎2)	1		
		英語ライティングⅢ(応用1)	1		
		英語ライティングIV(応用2)	1		
		英語ライティング V (発展)	1		
		英語ディスカッション I (基礎 1)	1(英)	1(キ)	

	英語ディスカッションⅡ(基礎 2)	1(英)	1(キ)	
	英語ディスカッションⅢ(応用1)	1(英)	1(キ)	
	英語ディスカッションIV(応用 2)	1(英)	1(キ)	
	英語ディベート	1(英)	1(キ)	
	プロフェッショナル イングリッシュI(基礎1)	1(キ)		
	プロフェッショナル イングリッシュⅡ(基礎2)	1(キ)		
	プロフェッショナル イングリッシュⅢ(応用1)	1(キ)		
	プロフェッショナル イングリッシュ IV (応用2)	1(キ)		
	英語学概論	2		
	英語文学概論	2		
	英語音声学		2	
	英語の構造と仕組み		2	
	コミュニケーションのための英文法		2	
	イギリス文学研究		2	
	アメリカ文学研究		2	
	インタラクティブ・イングリッシュ I		2	
	インタラクティブ・イングリッシュⅡ		2	
	英語の拡がりと多様性		2	
	第二言語習得論		2	
	英語で学ぶファイナンス		2	
	英語で学ぶ情報科学		2	
	英語で学ぶドラマ		2	
	英語で学ぶメディア		2	
	英語で学ぶプレゼンテーション		2	
	中国語入門Ⅰ		1	
	中国語入門Ⅱ		1	
	中国語初級 I		1	
	中国語初級Ⅱ		1	
	中国語中級 I		1	
	中国語中級Ⅱ		1	
	中国語応用 I		1	
	中国語応用Ⅱ		1	
***	韓国語入門Ⅰ		1	
第二外国語	韓国語入門Ⅱ		1	
外	韓国語初級 [1	
玉	韓国語初級Ⅱ		1	
語 科	韓国語中級 I		1	
目	韓国語中級Ⅱ		1	
	韓国語応利 [1	
	韓国語応用Ⅱ		1	
	アランス語入門 I		1	
	フランス語入門Ⅱ フランス語入門Ⅱ		1	
	フランス語初級 I			
			1	+
	フランス語初級 II		1	
	フランス語中級 I		1	+
	フランス語中級Ⅱ		1	1

1	-	1	1	1
	フランス語応用 I		1	
	フランス語応用Ⅱ		1	
	スペイン語入門 I		1	
	スペイン語入門Ⅱ		1	
	スペイン語初級 I		1	
	スペイン語初級Ⅱ		1	
	スペイン語中級 I		1	
	スペイン語中級 Ⅱ		1	
	スペイン語応用 I		1	
	スペイン語応用Ⅱ		1	
쑠	ベトナム語 I		1	
第三	ベトナム語Ⅱ		1	
外	タイ語 I		1	
国	タイ語Ⅱ		1	
語科	インドネシア語 I		1	
目	インドネシア語Ⅱ		1	
	日本近現代史	2	1	
	日本中世近世史	2	2	
	日本文学研究		2	
日本	日本の伝統文化		2	
理				
解	日本の宗教		2	
科目	日本の政治		2	
	日本の先端文化		2	
	現代の日本の産業		2	
	現代の日本社会	0	2	
	異文化理解	2		
	国際関係論	2	0	
	多文化共生論		2	
	仏教文化論		2	
	キリスト教文化論		2	
国	イスラム教文化論		2	
際	アメリカ地域研究		2	
理	イギリス地域研究		2	
解科	ヨーロッパ地域研究		2	
科目	中国地域研究		2	
	韓国地域研究		2	
	東南アジア地域研究		2	
	国際経済論		2	
	国際政治学		2	
	国際協力論		2	
	平和学		2	
キ	海外留学入門		2	
ヤル	日本とグローバル人材		2	
リア	異文化コミュニケーション		2	
科	経営学概論	2(キ)	2(英)	
目	人材育成論		2	
•	•	•	•	- -

	職業能力開発		2	
	金融リテラシー		2	
	ツーリズム論		2	
	アントレプレナーシップ		2	
	NPO・NGO論		2	
	労働法		2	
	プレ・キャリア研修	2(キ)		
	海外キャリア研修		2(キ)	
	国内キャリア研修	2(キ)		
	海外フィールドワーク I (英語圏)		4	
実務	海外フィールドワークⅡ (非英語圏)		4	
務	インターンシップ		2	
実	英語通訳演習		2	
習科	英語科教育法 I		2	
目目	英語科教育法Ⅱ		2	
	英語科指導法 I		2	
	英語科指導法Ⅱ		2	
	海外研修 I		2	
	海外研修Ⅱ		4	
	基礎演習	2		
ゼミ	ゼミナール I	2		
ゼミナ	ゼミナールⅡ	2		
]	ゼミナールⅢ	2		
ル 科	ゼミナールIV	2		
目	特別演習 I		2	
	特別演習 Ⅱ		2	
	特殊講義 I		2	
	特殊講義Ⅱ		2	

備考 (キ)は国際キャリア専攻、(英)は国際英語専攻

② 卒業に必要な要件

(国際キャリア専攻)

(1)必修科目48単位(2)選択科目76単位以上

合計 124単位以上

(国際英語専攻)

(1)必修科目48単位(2)選択科目76単位以上合計124単位以上

10 (情報工学部情報工学科)

① 授業科目及び単位数

極	業科目	単位数		
127	K/17 [7]	必修科目	選択科目	自由科目
英語コミュニ	-ケーション [1	
英語コミュニ	- ケーションⅡ		1	
英語コミュニ	ニケーションⅢ		1	
英語コミュニ	-ケーション I V		1	
プラクティカ	ル・イングリッシュI		1	
プラクティカ	ル・イングリッシュⅡ		1	
ドイツ語 I			1	
ドイツ語Ⅱ			1	
ドイツ語Ⅲ			1	
ドイツ語IV			1	
フランス語]			1	
フランス語I	[1	
フランス語』	Ι		1	
フランス語『	I		1	
中国語I			1	
中国語Ⅱ			1	
中国語Ⅲ			1	
総 中国語IV 基 体育科学 I 雄 体育科学 I			1	
基 体育科学 I			1	
礎 体育科学Ⅱ			1	
部体育科学Ⅲ			1	
体育科学IV			1	
人文科学基础	ŧΙ		2	
人文科学基础	žⅡ		2	
社会科学基础	ŧΙ		2	
社会科学基础	ŧⅡ		2	
アジア文化語	Ιf		2	
アジア文化語	l II		2	
欧米文化論]			2	
欧米文化論I	[2	
国際関係論			2	
文学			2	
日本国憲法			2	
国際経済論			2	
心理学			2	
基礎ゼミナー	ール I		1	
基礎ゼミナー	- ル [[1	
職業指導論			2	
理微分積分I			2	
工機分積分Ⅱ			2	
学 線形代数 I			2	
では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、			2	
科物理学 I			2	
目 目 物理学Ⅱ 物理学Ⅱ		1	2	

Hm	理学演習	1	Ι
	生子(明白 理学実験 I	1	
	里学実験Ⅱ		
		1 2	
	学 I 学 II		
		2	
	学実験 I	1	
	学実験Ⅱ	1	
	学 I	2	
	学用	2	
	学実験 I	1	
-	学実験Ⅱ	1	
<u> </u>	勿学	2	
-	勿学実験	1	
-	工学概論	2	
技行	析者倫理	2	
コ	ンピューターリテラシー	2	
数字	学基礎演習 I		1
数	学基礎演習Ⅱ		1
物理	理学基礎演習 I		1
物理	理学基礎演習Ⅱ		1
化	学基礎演習 I		1
-	字基礎演習Ⅱ		1
-	語基礎演習 I		1
-	語基礎演習Ⅱ		1
1-+-	吸工学の世界	2	1
L ≠4. I	吸工学基礎演習 以工 学基礎演習	1	
基一	クニカルリテラシー	2	
T)			
	ラクティカルICT	1	
	報通信ネットワーク ロップラ	2	
-	取理論	2	
	眼セキュリティ	2	
-	報通信システム 単一	2	
-	号伝送論	2	
<u> </u>	号理論	2	
情 ワイ	イヤレス通信	2	
報コ	ンピュータアーキテクチャI	2	
報工学専門	ンピュータアーキテクチャⅡ	2	
事デ	ィジタル回路 I	2	
門 デ	ィジタル回路Ⅱ	2	
科電	気電子回路 I	2	
	気電子回路Ⅱ	2	
	ィジタル信号処理I	2	
	ィジタル信号処理Ⅱ	2	
	ステム制御	2	
	ィジカルコンピューティング	2	
	ードウェア記述言語	2	
	ンサ工学	2	
て、	ノリエ子	Z	<u> </u>

集積回路設計	1	2	
アルゴリズム・データ構造		2	
オペレーティングシステム		2	
データベース		2	
ソフトウェア工学		2	
言語・オートマトン		2	
人工知能		2	
数值解析		2	
コンパイラ		2	
プログラミング言語論		2	
パターン認識		2	
		2	
応用アルゴリズム 数理計画法			
		2	
		2	
画像処理		2	
コンピュータグラフィックス		2	
コンピュータビジョン		2	
感性情報処理		2	
音声・音響信号処理		2	
バーチャルリアリティ		2	
言語情報処理		2	
離散数学		2	
確率・統計		2	
データサイエンス基礎	2		
応用解析		2	
電磁気学		2	
プログラミング演習 I	1		
プログラミング演習Ⅱ	1		
プログラミング演習Ⅲ		1	
プログラミング演習IV		1	
情報工学実験 I	2		
情報工学実験Ⅱ		2	
インターンシップ		1	
グローバルゼミナール		1	
モバイルアプリ開発A			1
モバイルアプリ開発B			1
キャリアゼミナール		1	
研究ゼミナール		1	
情報工学総合ゼミナール		1(総)	
情報技術の応用と職業		2	
創造的思考法	2(先)	2(総)	
研究開発リテラシー	2(先)	2(総)	
アプリケーション開発	2(先)	2(総)	
PBL概論	2(先)	2(総)	
先進プロジェクト実験 I	2(先)	2(総)	
先進プロジェクト実験Ⅱ	2 ()1)	2(先)	
先進プロジェクトゼミナール	1 (生)	2 (JL)	
ルピノロンエクトセミナール	1(先)		

大类	

備考 (総)は総合コース、(先)は先進プロジェクトコースの単位数

② 卒業に必要な要件

(総合コース)

(1)必修科目専門教育部門10単位(2)選択科目総合基礎部門20単位以上専門教育部門94単位以上計114単位以上

計 114単位以上 合 計 124単位以上

(先進プロジェクトコース)

(1)必修科目 専門教育部門 21単位

(2)選択科目 総合基礎部門 20単位以上

専門教育部門83単位以上計103単位以上

合 計 124単位以上

別表第2の2 (第24条第3項関係)

① データサイエンス・AI応用基礎科目に関する授業科目及び単位数

授業科目	単位数
データサイエンス・AI応用基礎 I	2
データサイエンス・AI応用基礎Ⅱ	2

② 前号に定める授業科目を履修し、単位を修得した場合の単位の取り扱いについては、 各学部履修要項において定めるものとする。

別表第3(第24条第3項関係)

① 日本語に関する授業料目及び単位数

授業科目	単位数
日本事情概説 I	2
日本事情概説Ⅱ	2
日本語 I	2
日本語Ⅱ	2
日本語Ⅲ	2
日本語IV	2
日本語V	2

- ② 外国人留学生及び帰国子女として入学した者が、前号に定める授業科目を履修し、単位を修得した場合は、その単位を別表第2及び別表第2の2に規定する授業科目のうち、全学共通教育部門の選択科目に代えることができる。
- ③ 全学共通教育を導入しない学部においては、従前の規定に従う。

別表第3の2 (第24条第5項関係)

授業科目及び単位数

授業科目	単位数
国際日本学入門	2
国際日本学I	2
国際日本学Ⅱ	2
国際日本学Ⅲ	2
国際日本学IV	2
国際日本学V	2
国際日本学VI	2
国際日本学Ⅶ	2
国際日本学Ⅷ	2
国際日本学IX	2
国際日本学X	2
国際日本学フィールドワーク I	2
国際日本学フィールドワーク Ⅱ	2
初級日本語I	2
初級日本語Ⅱ	2
初級日本語Ⅲ	2
初級日本語IV	2
中級日本語I	2
中級日本語Ⅱ	2
中級日本語Ⅲ	2

中級日本語IV	2
上級日本語 I	2
上級日本語Ⅱ	2
上級日本語Ⅲ	2
上級日本語Ⅳ	2
上級日本語V	2
上級日本語VI	2
上級日本語Ⅶ	2
上級日本語Ⅷ	2
上級日本語IX	2
上級日本語X	2
上級日本語XI	2
上級日本語XII	2

別表第4 (第39条第2項関係)

① 教職に関する授業科目及び単位数

	単位数		
授業科目	必修科目	選択科目	
教職入門		2	
教育原論		2	
学習社会論		2	
教育心理学		2	
発達心理学		2	
特別支援教育論		2	
教育行政論		2	
教育法規		2	
教育課程論		2	
教育情報論		2	
社会・地理歴史科教育法		2	
社会・公民科教育法		2	
社会・地理歴史科指導法		2	
社会・公民科指導法		2	
数学科教育法A		2	
数学科教育法B		2	
数学科指導法A		2	
数学科指導法B		2	
英語科教育法A		2	
英語科教育法B		2	
英語科指導法A		2	
英語科指導法B		2	
理科教育法A		2	
理科教育法B		2	
理科指導法A		2	
理科指導法B		2	
商業科教育法		2	
商業科指導法		2	

工業科教育法	2
工業科指導法	2
農業科教育法	2
農業科指導法	2
情報科教育法	2
情報科指導法	2
道徳教育の理論と指導法	2
特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2
教育方法・技術論(情報通信技術の活用含 む)	2
生徒・進路指導論	2
学校教育相談	2
教職実践演習(中・高)	2
教育実習 I	2
教育実習Ⅱ	2
教育実習指導	1
模擬授業演習	2
学校課題演習	2

② 教育職員免許状を取得しようとする者は、免許教科の種類に応じて、前号の授業科目、別表第2及び別表第2の2に規定する授業科目のうちから、所定の科目を履修のうえ、必要とする単位を取得しなければならない。

別表第5 (第40条関係)

学 部	学 科	種別	教 科
法学部	建筑	中学校教諭一種免許状	社会
伝子前	法学科	高等学校教諭一種免許状	地理歴史・公民
経営学部	経営学科	高等学校教諭一種免許状	商業
在 呂 子 司	国際経営学科	高等学校教論一種免許状	商業
	経済学科	中学校教諭一種免許状	社会
経済学部	准子(月子/千)	高等学校教諭一種免許状	地理歴史・公民・商業
在	産業社会学科	中学校教諭一種免許状	社会
	生未任云子符	高等学校教諭一種免許状	地理歴史・公民・商業
	数学科	中学校教諭一種免許状	数学
	数子们	高等学校教諭一種免許状	数学・情報
	電気電子工学科	中学校教諭一種免許状	理科
	电双电丁工子符	高等学校教諭一種免許状	理科・工業
	化学·物質学科	中学校教諭一種免許状	理科
	11.于 初貝子科	高等学校教諭一種免許状	理科・工業
	機械工学科	中学校教諭一種免許状	理科
	7歲/灰工于行	高等学校教諭一種免許状	理科・工業
理工学部	交通機械工学科	中学校教諭一種免許状	理科
	文	高等学校教諭一種免許状	理科・工業
	メカトロニクス 工学科	高等学校教諭一種免許状	工業
	社会基盤デザイ	中学校教諭一種免許状	理科
	ン工学科	高等学校教諭一種免許状	理科・工業

_			-
	環境創造工学科	高等学校教諭一種免許状	工業
	建築学科	中学校教諭一種免許状	理科
	建架子符	高等学校教諭一種免許状	理科・工業
	生物資源学科	中学校教諭一種免許状	理科
	生物其你子科	高等学校教諭一種免許状	理科・農業
農学部	戊田<u></u> 	中学校教諭一種免許状	理科
辰子印	応用生物化学科	高等学校教諭一種免許状	理科・農業
	生物環境科学科	中学校教諭一種免許状	理科
	生物垛块件子件	高等学校教諭一種免許状	理科・農業
都市情報学部	都市情報学科	高等学校教諭一種免許状	公民・情報
人間学部	人間学科	中学校教諭一種免許状	社会・英語
八间子印	八间子件	高等学校教諭一種免許状	地理歴史・公民・英語
外国語学部	国際英語学科	中学校教諭一種免許状	英語
八四四十四	凹灰犬而于竹	高等学校教諭一種免許状	英語
情報工学部	情報工学科	高等学校教諭一種免許状	情報・工業

別表第6 (第40条の2関係)

① 学芸員に関する授業科目及び単位数

	授 業 科 目	単位数
	生涯学習論	2
	博物館原論	2
	博物館経営論	2
博	博物館資料論I	2
物館に関する科目	博物館資料論Ⅱ	2
	博物館資料保存論	2
	博物館展示論	2
	博物館実習 I	2
	博物館実習Ⅱ	1
	博物館実習Ⅲ	1
	博物館情報論	1
	教育メディア環境論	2
	博物館教育論	2

② 学芸員の資格を取得しようとする者は、前号の授業科目及び別表第2に規定する授業科目のうちから、所定の科目を履修のうえ、必要とする単位を取得しなければならない。

名城大学理工学部教授会要項

(目的)

第1条 この要項は、名城大学学則第10条の規定に基づき、理工学部教授会(以下、「教授会」とする。)に関する事項について定め、学部の円滑な運営を図ることを目的とする。

(構成)

第2条 教授会は、教授、准教授、助教、講師をもって構成する。ただし、第3条第3号については、別に定める。

(審議事項等)

- 第3条 教授会は、次の事項を審議する。
- (1) 教育課程及び成績評価に関する事項
- (2) 学生の資格認定及びその身分に関する事項
- (3) 教授、准教授、助教、講師、助手等の専任教育職員の教育研究業績の審査及び進退に関する事項
- (4) 教育研究に係る学則の変更に関する事項
- (5) その他教育研究に関する重要な事項
- ② 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり、意見を述べるものとする。
- (1) 学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項
- (2) 学位の授与に関する事項
- (3) その他教育研究に関する事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項

(会議)

- 第4条 教授会は、次の場合に学部長が招集し、議長となる。ただし、学部長に支障があるとき は、協議員が代行する。
 - (1) 学部長が必要と認めたとき
 - (2) 教授会構成員の3分の1以上の要請があったとき
 - (3) 学長が教授会の招集を要請したとき

(定足数及び議事)

- 第5条 教授会は、構成員の3分の2以上の出席によって成立する。ただし、休職中、育児・介護休業中、病気・慶事休暇中、在外研究員及び国内研究員は、構成員の数に算入しない。また、 委任状は受け付けない。
- ② 議事の承認は、出席者の過半数の賛成を必要とする。ただし、特に重要な議事と認めた場合は、3分の2以上の賛成を必要とする。また、教員の人事及び資格審査に関する事項については、名城大学理工学部教員資格審査内規による。

(要項の改正)

第6条 この要項の改正には、出席者の3分の2以上の同意を必要とする。

附則

この要項は、平成27年4月1日から施行する。

設置の趣旨等を記載した書類

目次

1	設置の趣旨及び必要性 ・・・・・・・・・・・・・・P. 2
2	学部・学科等の特色・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 4
3	大学、学部・学科等の名称及び学位の名称・・・・・・・・・・P. S
4	教育課程の編成の考え方及び特色 ・・・・・・・・・・・P. 5
5	教育方法、履修指導方法及び卒業要件 ・・・・・・・・・・P. 8
6	実習の具体的計画 ・・・・・・・・・・・・・・・・P. 10
7	企業実習(インターンシップを含む)や海外語学研修等の学外実習を実施する
	場合の具体的計画 ・・・・・・・・・・・・・・・・P. 14
8	取得可能な資格 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 16
9	入学者選抜の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・P. 17
10	教育研究実施組織等の編制の考え方及び特色 ・・・・・・・・・ P. 20
11	研究の実施についての考え方、体制、取組・・・・・・・・・P. 23
12	施設、設備等の整備計画 ・・・・・・・・・・・・・・・ P. 23
13	管理運営 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 24
14	自己点検・評価 ・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 24
15	情報の公表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 20
16	教育内容等の改善を図るための組織的な研修等・・・・・・・・P. 28
17	社会的・職業的自立に関する指導等及び体制 ・・・・・・・・・P. 28

1. 設置の趣旨及び必要性

(1)社会的背景

ロシアによるウクライナ侵略は、世界の安全保障環境を劇的に変化させ、歴史的なインフレ、エネルギー価格の高騰、サプライチェーンの混乱を発生させ、経済安全保障上のリスクは、机上のものではなく、今や目前に迫る危機となった。また、デジタル技術がビジネスや国民生活を支えるのみならず、国家存亡に直結することを示す事例ともなった【資料1】。そして、デジタル技術の加速度的な進展と脱炭素の世界的な潮流は、これまでの産業構造を抜本的に変革するだけではなく、労働需要の在り方にも変化をもたらすことが予想される。そのような状況において、我が国の持続的な成長・発展を実現するためには、成長が見込まれる分野や複雑化する地域課題の解決をリードする高度専門人材が不可欠である。その育成の中核を担うのは大学、専門職大学、高等専門学校等の高等教育機関であり、デジタル・半導体、グリーン等の人類の新たな課題に挑戦していく成長分野への転換や、農業、観光等の地域を支える分野の振興、文理横断・文理融合教育の推進等の機能強化を通じ、産学官が一体となって、未来社会を創出し、けん引する高度専門人材を育成することが求められている【資料2】。

一方で、世界的な半導体市場の拡大を受け、半導体関連産業は人材不足が深刻となっており、国内 主要8社において、今後10年間で少なくとも4万人程度の半導体人材が追加で必要になるとの推計も あることから、今回の設置届出内容は社会のニーズを踏まえたものと言える【資料1】。

(2) 理工学部化学・物質学科の設置の趣旨及び必要性

化学と物理学の学際領域における知識を高度に利用する低環境負荷材料や半導体材料は、低炭素 社会の実現だけでなく、CO2の回収・利用、フィジカル空間とサイバー空間の融合に欠かすことが出来ない。このため、国内の大学において、化学と物理学を横断的に修得し、化学と物理学の学際領域に精通 した世界で通用する物質科学分野の研究者・技術者を育成することが求められている。

名城大学理工学部では、半導体をはじめとする材料の研究開発や人材育成を推進するため、平成 12 年に材料機能工学科を設置し、平成 25 年に化学分野を強化するために応用化学科を設置した。この間、材料機能工学科では、光る半導体である青色 LED の発明により、赤﨑勇 特別栄誉教授と天野浩特別栄誉教授が平成 26 年にノーベル物理学賞を受賞し、応用化学科では、半導体分野だけでなく触媒化学、電池材料などとして活用が期待されるカーボンナノチューブの発見により、飯島澄男 終身教授がノーベル賞候補となっている。また、材料機能工学科、応用化学科には、それぞれに次のような特徴がある。材料機能工学科では、量子力学や物性論、材料力学などの物理学系の専門科目を基盤としつつ、半導体材料や機械材料、生体材料について、材料としてその機能性を高め、新たな材料設計を行うことのできる技術者・研究者を育成している。応用化学科では、物理化学や有機化学、無機化学などの化学系の専門科目を基盤とし、原子・分子のレベルでその性質を理解し、新規物質・材料を設計し合成することのできる技術者・研究者を育成している。

低環境負荷材料や半導体材料などの物質科学分野における新規物質・材料の設計及び合成には、 化学と物理学の両面からのアプローチが基本になっているが、一方で、教育及び研究の両面において化 学と物理学を横断的に修得することができる教育機関は限られている。このような物質科学の現状に対応 して、名城大学理工学部では、材料機能工学科、応用化学科がこれまで行ってきた教育研究を基盤とし ながら、物質科学分野における教育研究を次世代のレベルに昇華し、当該分野における次世代の研究 者・技術者を育成するために、現行の材料機能工学科と応用化学科を統合し、化学・物質学科(応用化学専攻、材料機能工学専攻)を理工学部が所属する天白キャンパスに設置する。

(3)理工学部化学・物質学科の人材養成目的

本学理工学部は、幅広い素養を備え、社会に通用する専門知識とその応用力を持ち、科学技術者として自らの手で新しい分野を創造的に切り拓いてゆく人材の養成を目的としており、具体的には次の3つの能力の修得を目指した教育研究を実践している。

- ① 幅広い教養と語学力・表現力を身につけ、それに裏打ちされた広い視野と高い倫理観をもって、社会の発展に貢献する意志と能力
- ② 専門分野に応じた科学・技術の基礎となる知識を修得し、それを活用して種々の問題を解決する能力
- ③ 生涯にわたり、主体的・自立的に探究する能力を身につけ、さらに、社会において、課題解決に向けて協働して取り組むことのできる能力

その上で、化学・物質学科では、「原子・分子レベルで化学物質を精密に設計・合成する化学的知見 および技術」、「材料の構造・性質・プロセスを理解し、材料開発に必要な科学・技術」を修得し、化学と物 理学の学際領域に位置する物質科学分野における研究者・技術者の育成を目指す。また、化学・物質 学科で養成する人材像及び3つのポリシーとの相関及び整合性を【資料3】に示す。

(4)卒業認定・学位授与の方針

化学・物質学科は、本学立学の精神と本学部人材養成目的に基づき、次の能力・意欲を身につけた学生に学士(工学)の学位を授与する。

- ① 社会の責任ある形成者として必要な教養と、英語を含むコミュニケーション力を有する。
- ② さまざまな材料について、原子・分子のレベルでその性質を解明し、材料としてその機能性を高め、 新たな材料設計を行うための化学や物理学の知識と、それらを活用して、社会での問題を発見し、 解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を有する。
- ③ 主体的に学び続け、学んだことを分かち合い、多様な人々と協力して、化学・物質学科が重視する 理工系の科学・技術を用いて社会貢献する意欲を有する。

(5)教育課程編成・実施の方針

上記の卒業認定・学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)を満たすために、化学・物質学科は、卒業認定・学位授与の方針に示す能力・意欲を身につけさせるため、教養教育(総合基礎部門)と専門教育(専門教育部門)からなる教育課程を体系的に編成し、実施する。

- ① 教養教育課程では、人文・社会科学、語学、体育等からなる教養教育科目の履修を通して、多様な 価値観に触れ、社会の責任ある形成者として必要な教養と、英語を含むコミュニケーション力を身に つける。
- ② 専門教育課程では、数学、物理学、化学、技術者倫理等の理工学基礎科目と、学科配当の開講科目である物理化学、有機化学、無機化学、量子力学、材料力学等からなる専門科目によって編成される専門教育部門の講義科目の履修を通して、化学や物理学の専門知識と、それらを活用して、社会での問題を発見し、解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につける。

- ③ 演習・実験・実習における少人数でのグループワーク、集団討論や卒業研究での担当教員との討論、プレゼンテーション、さらにキャリア教育での多様な活動等を通して、生涯にわたって主体的に学び、学んだことを分かち合い、多様な人々と協力して、化学・物質学科が重視する理工系の科学・技術を用いて社会貢献する意欲を身につける。
- ④ シラバスに示す厳格な成績評価と単位認定を行うとともに、GPA や修得単位数にもとづく個別指導を行うことにより、個々の学生の達成度と将来計画に応じた学修を進めることができるようにする。 ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーと各開講科目との対応表を【資料 4】に示す。また、学修

成果は、シラバスに記載される成績評価方法により厳格に判断する。

(6)入学者受け入れ方針

化学・物質学科の卒業認定・学位授与の方針を理解し、高等学校等での学習を通して、次のような能力・意欲を身につけている人を受け入れる。

- ① 一般選抜では、数学、理科および英語の高い基礎学力を有する。学校推薦型選抜・特別入学試験では、高等学校教育の内容を堅実に修得し、数学、理科および英語の基礎学力を有する。
- ② 数学、理科および英語の基礎学力を活用して、自ら問題を発見しその解決に向けて探究し、成果等を表現するための基本となる思考力・判断力・表現力等を有する。
- ③ 化学・物質学科が重視する理工系の科学・技術に興味を持ち、主体性を持って多様な人々と協力して、理工系の科学・技術を用いて社会貢献する意欲を有する。

また、本学では、一般入試の他、総合型選抜・学校推薦型選抜・特別入学試験が実施されており、これらの入試方式とアドミッション・ポリシーの対応表を【資料 5】に示す。

(7)組織として研究対象となる中心的な学問分野

化学・物質学科は、広義では物質科学分野を中心的な学問分野とする。狭義では、「有機化学領域」、「無機化学領域」、「物理化学領域」、「物性物理領域」、「電子材料領域」、「機械材料・加工領域」の 6 領域が研究対象の学問分野として挙げられる。

2. 学部・学科等の特色

化学・物質学科は、前身となる応用化学科と材料機能工学科の理念、研究、教育課程を発展させた応用化学専攻と材料機能工学専攻の2つの専攻から構成されている。このような「物質科学」という新たな広い視点で設置する化学・物質学科は、化学と物理学の学際領域を強化することで、化学と材料学(物理学)の融合を目指し、その融合された知識を駆使した教育研究を確立し、物質科学研究の拠点となり、次代を担う研究者・技術者の育成を目指している。具体的には、本学科では、化学分野と材料工学分野の両領域を体系的に学ぶことを通じ、「原子・分子レベルで化学物質を精密に設計・合成する化学的知見および技術を修得すること」及び「材料の構造・性質・プロセスを理解し、材料開発に必要な科学・技術を修得すること」という目標を掲げる。ただし、化学及び物理学の両面を学部4年間で網羅することは不可能であり、学生の専門性を高めることも出来ない。したがって、化学・物質学科は、化学を主体とし「原子・分子レベルで化学物質を精密に設計・合成する化学的知見および技術の修得」を目標に掲げる応用化学専攻と、物理学を主体とし「材料の構造・性質・プロセスを理解し、材料開発に必要な科学・技術の修得」を目標に掲げる材料機能工学専攻の2専攻から構成される。このため、学生の幅広い知見の構築

を積極的に促すことを目的として、専攻を問わず各領域にて提供される専門分野を履修することができる 教育プログラムを利用することで、有機化学と半導体、無機化学と機械材料といったように、学生の学修 の幅を広げる幅広い見識を持った研究者・技術者の育成を行う。これにより、化学と材料工学に関連する 社会の諸問題の解決に取り組む問題解決能力に必要な思考力・判断力・表現力等を培うとともに、さまざ まな分野から社会や産業に貢献できる技術者・研究者を育成する。

3. 大学、学部・学科等の名称及び学位の名称

本学科の名称及び学位を以下の表に記す【表1】。

学部	学科	入学定員	学位	専攻	
理工学部	化学・物質学科	150名	学士(工学)	応用化学専攻	
在工于印	11.于一切負于付	130/	于工(工于)	材料機能工学専攻	
開設予定時期	令和8年4月1日				
修業年限	4年				
取得可能な	高等学校教諭一種免許状(理科、工業)				
資格	中学校教諭一種免許状(理科)、学芸員等				

表1 設置する学科の名称及び修得可能な学位、資格など

4. 教育課程の編成の考え方及び特色

(1)教育課程編成・実施の方針

前述の通り、化学・物質学科では、以下に示す教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)を 設定している。また、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーと各科目との対応表を【資料 4】に示 す。

- ① 教養教育課程では、人文・社会科学、語学、体育等からなる教養教育科目の履修を通して、多様な価値観に触れ、社会の責任ある形成者として必要な教養と、英語を含むコミュニケーション力を身につける。
- ② 専門教育課程では、数学、物理学、化学、技術者倫理等の理工学基礎科目と、学科配当の開講科目である物理化学、有機化学、無機化学、量子力学、材料力学等からなる専門科目によって編成される専門教育部門の講義科目の履修を通して、化学や物理学の専門知識と、それらを活用して、社会での問題を発見し、解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につける。
- ③ 演習・実験・実習における少人数でのグループワーク、集団討論や卒業研究での担当教員との討論、プレゼンテーション、さらにキャリア教育での多様な活動等を通して、生涯にわたって主体的に学び、学んだことを分かち合い、多様な人々と協力して、化学・物質学科が重視する理工系の科学・技術を用いて社会貢献する意欲を身につける。
- ④ シラバスに示す厳格な成績評価と単位認定を行うとともに、GPA や修得単位数にもとづく個別指導を行うことにより、個々の学生の達成度と将来計画に応じた学修を進めることができるようにする。

(2)教育課程の編成内容について

カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程を以下の通り編成する。また、履修系統図を【資料 6】に示す。 I 総合基礎部門

Ⅱ専門教育部門:理工学基礎科目、専門科目、その他

I総合基礎部門

英語コミュニケーション $I \sim IV$ 、プラクティカル・イングリッシュ $I \cdot II$ 、ドイツ語 $I \sim IV$ 、フランス語 $I \sim IV$ 、中国語 $I \sim IV$ 、体育科学 $I \sim IV$ 、人文科学基礎 $I \cdot II$ 、社会科学基礎 $I \cdot II$ 、アジア文化論 $I \cdot II$ 、欧米文化論 $I \cdot II$ 、国際関係論、文学、日本国憲法、国際経済論、心理学、基礎ゼミナール $I \cdot II$ 、職業指導論

総合基礎部門は、多様な価値観に触れ社会の責任ある形成者として必要な教養と語学力、コミュニケーション力を見つけるために、学士教育の礎として修得することが必要とされる科目を配置する。また、よりグローバル化する社会を鑑み英語コミュニケーション $I \sim IV$ を必修科目とし、基礎ゼミナール $I \cdot II$ 以外のその他科目を選択科目、より幅広い知識を得ることを目的とする基礎ゼミナール $I \cdot II$ を自由科目とした。

Ⅱ専門教育部門

【理工学基礎科目】

微分積分 I・Ⅲ、線形代数 I・Ⅲ、物理学 I・Ⅲ、物理学演習、物理学実験 I・Ⅲ、化学 I・Ⅲ、化学 I・Ⅲ、地学 I・Ⅲ、地学 I・Ⅲ、生物学、生物学実験、理工学概論、技術者倫理、コンピューターリテラシー、データサイエンス・AI 入門、数学基礎演習 I・Ⅲ、物理学基礎演習 I・Ⅲ、化学基礎演習 I・Ⅲ、英語基礎演習 I・Ⅲ

理工学基礎科目は、専門科目に向かう基礎となる科目及び生物学や地学、技術者倫理、コンピューターリテラシーといった理工系の基礎科目から構成されている。なかでも、物質科学領域にて必須の知識である微分積分 I・II、線形代数 I・II、物理学 I、物理学実験 I・II 及び研究者・技術者としての最低限の資質を養う技術者倫理、コンピューターリテラシーの計 9 科目を必修科目として設定し、その他科目を選択科目とした。理工学基礎科目は、理工系学生の基礎となる科目であるため 1 年次・2 年次に配当した。

【専門科目】

専門科目は、応用化学専攻及び材料機能工学専攻の専門科目にて構成されているが、両専攻にて 開講される科目数が90科目におよぶため、以下では専攻毎に細分化して教育課程を記す。したがって、一部科目については、応用化学専攻と材料機能工学専攻において重複して記載されている。

応用化学専攻

有機化学領域:有機化学基礎、有機化学 I・Ⅱ、有機化学演習、高分子化学 I・Ⅲ、生化学、 生活支援化学、有機機能化学

- 物理化学領域: 物理化学基礎、物理化学 I・Ⅱ、物理化学演習、化学結晶学、物質構造学、 電気化学、物性化学 II、表面化学
- 無機化学領域: 無機化学基礎、無機化学 $I \cdot \Pi$ 、無機化学演習、物性化学 I、無機材料化学 $I \cdot \Pi$ 、電子材料
- 応用化学共通領域:応用数学 I・II、応用化学基礎演習、化学・物質概論、基礎電磁気、安全工学、量子化学 I・II、量子化学演習、分析化学、分光化学、実験基礎論、錯体化学、化学工学、分離精製工学、流動現象学、機器分析、製図基礎、エネルギー工学、先端技術管理、応用化学実験 I ~IV、化学・物質ゼミナール、卒業研究

材料機能工学専攻

- 物性物理領域: 固体物性 I および演習、固体物性 II および演習、熱力学、統計力学、固体物性 III、固体物性 IV、真空工学、表面化学
- 電子材料領域:電子回路および演習、電磁気学 I および演習、電磁気学 II および演習、電子回路設計・製作、量子力学 I および演習、量子力学 II および演習、量子力学 III、電子回路、電子材料評価、半導体基礎論、半導体デバイス、半導体工学、光・誘電工学
- 機械材料・加工領域:金属材料、材料力学 I および演習、材料力学 II および演習、高分子工学、機械加工、機械要素設計、機械 CAD 製図、高分子・複合材料、工業材料化学、材料強度学、塑性加工
- 材料機能工学共通領域:応用数学 I ~Ⅲ、化学・物質概論、無機化学基礎、機械製図基礎、科学技術リテラシー、結晶材料、先端技術管理、材料機能工学実験 I ~Ⅲ、化学・物質ゼミナール、卒業研究

応用化学専攻では、根幹となる有機化学基礎、物理化学基礎、無機化学基礎、化学・物質概論、安全工学、応用化学実験 I ~IV、化学・物質ゼミナール、卒業研究を必修科目として設定している。材料機能工学専攻では、化学・物質概論、科学技術リテラシー、材料機能工学実験 I ~Ⅲ、化学・物質ゼミナール、卒業研究を必修科目として設定している。

【その他】

データサイエンス・AI 応用基礎 I・Ⅱ

その他は、データサイエンス・AI 応用基礎 I・II のみで構成され、データサイエンスにより関心を抱く 学生に対して学びの機会を提供するために選択科目として配置する。

以上の総合基礎部門及び専門教育部門における講義科目は、履修系統図に従い配置される。本学科に入学した学生は、物質科学の根幹となる化学と物理学を中心に、1年次では両専攻ともに基礎となる数学や電磁気学、無機化学を学ぶ。加えて、応用化学専攻では有機化学や物理化学、化学薬品の取り扱いについて学び、材料機能工学専攻では電気回路について学び、2年次からの専門科目に向けた準備を行う。2年次以降では、各専攻にて開講される専門科目を通して、高い専門性を養うことを目的と

している。ただし、どちらの専攻であっても、化学及び物理学の両分野をしっかりと学び、物質科学の諸 分野へと展開していく教育体制とした。

(3)主要授業科目と養成する人材像及び3ポリシーの関連性

化学・物質学科では、ほとんどの専門教育部門の授業科目が主要授業科目として設定されている。主要授業科目と3ポリシーの関連性について纏めた表を【資料7】に示す。主要授業科目に設定した科目は、応用化学専攻または材料機能工学専攻において、中核となる科目であり、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーとの関連性が強い科目である。具体的には、応用化学専攻では「原子・分子レベルで化学物質を精密に設計・合成する化学的知見および技術」を修得する上で必要な科目、材料機能工学専攻では「材料の構造・性質・プロセスを理解し、材料開発に必要な科学・技術」を修得する上で必要な科目を主要授業科目として設定した。

(4)単位時間及び1年間の授業期間などについて

化学・物質学科では、1 時間を 45 分とする単位時間において、基本的には、単位時間が 45 時間に対して 1 単位と設定した。このため、講義 2 時間/週+事前・事後学習 4 時間/週=6 時間/週、6 時間/週×15 週=90 時間を求める科目に対して 2 単位とし、演習科目など、講義 2 時間/週+事後学習 1 時間/週=3 時間/週、3 時間/週×15 週=45 時間を求める科目に対して 1 単位とした。

本学では、1年間を前期(4月~8月)と後期(9月~3月)に2分割し、この半期のうち14週が講義期間、1週以上が遠隔講義期間、概ね2週間程度が定期試験の期間として設定されている。したがって、年間約52週のうち35週以上が講義及び定期試験の期間として占められ、それ以外の週が課外学習等に充てられる。したがって、課外学習等の自己研鑽の時間も十分に確保できている。

5. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

(1)教育方法及び学生数、配当年次について

開講時にシラバスを学生に明示し、開講科目の位置づけや目的、到達目標、授業計画、成績評価の 方法等について説明し、シラバスに従い15回の講義を行う。講義形式としては、基本的には、座学とし て開講される講義科目や演習科目、及びグループ毎に実施される実験科目にて構成される。特に、70~ 80名程度の受講生がいる実験科目では、細やかな教育が必要となるため受講生を2~8名のグループ に分け、4~6名の基幹教員にて教育を行う。ただし、実験科目については、教育効果の向上を目的とし て基幹教員に加えて、基幹教員以外の教員を追加する場合もある。また、卒業研究は、基幹教員1名に 対して7~8名程度の学生を配置し研究室毎に実施する。

講義科目では、化学・物質領域に関わる知識、または語学等からなる教養教育領域に関わる知識を蓄え、根幹となる専門科目については演習により知識を定着させ、実験科目では座学での知識を実学の知見へと昇華させることを目的とする。更に、卒業研究では、それまでに培った知見を有機的に組み合わせ、課題解決へと至る道筋を立案できることを目標とする。これらの目標を達成するために、本学科では専攻毎に下記の卒業要件を設定する。

また、各講義科目については、1年次に理工系科目の基礎、2年次に各専攻の基礎科目、3年次に 各専攻の発展(応用)科目を配置し、4年次に集大成となる卒業研究を配置した。

(2)卒業要件

化学・物質学科では、学位授与方針に沿った人材育成目的の達成につながる履修の系統性を明示するために、卒業に必要な合計単位数(124単位以上)のみならず、下記に示す科目区分ごとの所定単位数を専攻毎に設定している【表 2、表 3、表 4、表 5】。

表2 応用化学専攻

部門	項目	単 位 数
	必 修 科 目	4単位
総合基礎部門	選択必修科目	6単位
総合基礎部門	選 択 科 目	10単位以上
	計	20単位以上
± 111 41. + +11 111	必 修 科 目	41単位
専門教育部門 *留意事項参照	選択必修科目·選択科目	63単位以上
	計	104単位以上
合	計	124単位以上

表3 応用化学専攻 留意事項

分類番号	専門分類番号(分類の概略)	単 位 数		
01	応用化学基礎科目	8単位以上		
O2	有機化学領域に関する科目	3単位以上		
O3	物理化学領域に関する科目	3単位以上	28単位以上	
04	無機化学領域に関する科目	3単位以上	上	
O5	化学や工学全般に関する科	21単位以上		

⁽注)分類番号O2・O3・O4については、各分類において3単位以上かつ、分類番号O2・O3・O4の合計で28単位以上が必要です。

分類番号は、化学・物質学科教育課程と学位授与方針、教育課程編成方針対応表【資料4】を参照。

表4 材料機能工学専攻

部門	項目	単 位 数
	必 修 科 目	4単位
総合基礎部門	選択必修科目	6単位
松白茶焼削門	選択科目	10単位以上
	計	20単位以上
古 田 松 太 如 田	必 修 科 目	32単位
専門教育部門 *留意事項参照	選択必修・選択科目	72単位以上
• 田心中 医多加	計	104単位以上
合	計	124単位以上

表5 材料機能工学専攻 留意事項

分類番号	専門分類番号(分類の概略)	単 位 数	
Z 1	材料の基礎科目	32単位以上	
Z2	材料の構造・性質に関する科目	10単位以上	
Z 3	材料のプロセスに関する科目	10単位以上	40単位以上
$\mathbf{Z}4$	材料の機能、設計・応用に関する科目	10単位以上	

⁽注)分類番号Z2·Z3·Z4については、各分類において10単位以上かつ、分類番号Z2·Z3·Z4の合計で40単位以上が必要です。

分類番号は、化学・物質学科教育課程と学位授与方針、教育課程編成方針対応表【資料4】を参照。

(3)履修指導

新入生オリエンテーション及び在学生ガイダンス時に履修登録ガイドを配布し、教育課程及び科目履修法の指導を行う。また、その後も事務窓口において、履修に関する対応等の支援を行う。更に、上記の卒業要件を満たし、学生の興味に応じた専門性を高めるための履修モデルを提示し、履修指導を行う【資料 8】。

(4)履修科目の年間条件登録単位数

単位の実質化を図るために、履修科目の年間登録上限を 49 単位とする。年間の履修登録単位数を 適切に制限することにより、自学・自習のための準備学習時間を確保するとともに、4 年間を通したバラン スの良い学修を可能とする。

(5)他大学における授業科目の履修

愛知県下の大学コンソーシアムである愛知学長懇話会において締結された「単位互換に関する包括協定」にもとづき、理工学部の学生が加盟する他大学の授業科目を受講することができる。ただし、理工学部においては、履修した科目の単位を進級、卒業研究着手条件及び卒業に必要な単位数などへの算入はしない。

6. 実習の具体的計画

(1)教育実習

ア 実習の目的

本学では、教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画として、以下を策定している。 教員の養成の目標

本大学は、立学の精神「穏健中正で実行力に富み、国家、社会の信頼に値する人材を育成する」に根差し、「謙虚にものごとの本質をつかみ、節度をわきまえ、豊かな包容力と平衡感覚をもち、抜群な実行力で誰からも信頼される教員」を養成することを目標とする。前身の名古屋高等理工科講習所開設当初から重視してきた中等教育教員養成の伝統と大学の設置理念の下、各学部・学科における専門の教育研究を通して創造的な知性と豊かな人間性を培い、教職に関わる深い理解と実践的指導力を備えた教員を輩出して社会に貢献していく。

当該目標を達成するための計画

本大学は、目標を達成するために、次の計画を実施する。

- ①特色ある教職指導の実施
- 1) 教職担任制(教職センター教員が教職担任として4年間一貫で担当学生の指導を行う)の採用
- 2) 教員採用試験に向けた各種対策講座、ガイダンス等の実施
- 3) 教職課程履修カルテを活用した学修成果の把握
- ②教員としての資質・技能の育成

教育の基礎的理解に関する科目等を通して、教員としての資質・技能を育成する。

③独自の科目設置を通した信頼される教員の育成

大学が独自に設定する科目として「模擬授業演習」(3年次・必修)及び「学校課題演習」(3年次・選択)を設置し、教職課程で身につけた知識、実践力を活用した横断的な学修により、学生が課題解決能力、実践的指導力等を一層獲得できるように促す。

④各学部・学科における教育研究上の特色を活かした教職課程の編成 各学部・学科における高度で特色のある教育研究を通して、教員として必要な知識や諸能力を育成する。

⑤全学的教職課程運営の推進

教職センター委員会を核として、教職課程自己点検・評価活動を踏まえた全学的教職課程運営の改善を推進し、教職課程の質の向上を図る。

上述を踏まえ、教育実習は、教科専門性と授業力、生徒指導力等を実際の教育現場で体現することを第一の目的としている。一方、理工学部化学・物質学科では、既述の卒業認定・学位授与方針をもって教育に取り組む。教育実習は、学位授与方針として設定されている「化学・物質学科が重視する理工系の科学・技術を用いて社会貢献する」ことを可能とする意志や、「新たな材料設計を行うための化学や物理学の知識と、それらを活用して、社会での問題を発見し、解決する」能力としてそのまま獲得するものである。併せて「主体的に学び続け、学んだことを分かち合い、多様な人々と協力」することは、近年の教員に求められる「学び続ける教師像」に通じるところである。

イ 実習先の確保の状況

各教育委員会を通じ、教育実習受け入れを依頼する。【資料 9、資料 10】

過去5年間の本学理工学部学生の受け入れ実績【資料11】

愛知県教育委員会: 高等学校 69 校(令和 2~6 年度実績)

名古屋市教育委員会:高等学校 10 校(令和 2~6 年度実績)

ウ 実習先との契約内容

特に契約は交わしていないが、各学校へ教育実習の受け入れを依頼する際に、大学と実習校で必要な協議を行った上で、「学習指導、実習の具体的運営については、実習校の方針を尊重する」こととしている。愛知県教育委員会については、「大学教育実習担当者説明会」における説明を基に、受入基準、期間、実習時の注意を全面的に受け入れ、教育実習を希望する学生個別に、実習先の諸注意として展開している。

エ 実習水準の確保の方策

①教育実習参加資格

教育実習参加資格要件として、3年次に開講される「模擬授業演習」を修得し、かつ参加年度に最終 学年に在籍する者で、次の各項目に該当することを求めている。

- 1)3年次までに開講された「教育の基礎的理解に関する科目等」のすべての必修科目を修得済みであること
- 2)「教科に関する専門的事項」の3年次までに開講されたすべての必修科目と「各教科の指導法」のうち、教育実習予定教科の科目に関するすべての必修科目を修得済みであること
- 3) 授業や介護等体験において、教職センター専任教員から適性を認められていること
- 4) 教員免許状取得に必要な単位を卒業までに修得する見込みがあること
- 5) 教職に就く意志が強固で、教育実習に対する積極性及び熱意があること
- 6)教育実習に耐えうる健康状態を保持すること
- 7) ガイダンス及び指導教員による事前指導を受けていること

以上の条件を提示した上で、3年次の年度末に、教育実習参加希望者を対象に教育実習参加資格 審査を実施する。

②教育実習参加資格審查

教育実習参加前年度(3年次)末に、参加資格の各号の充足について確認した上で、いずれかに該当しない者については、教育実習参加資格面談を実施する。

③模擬授業の実施

「各教科の指導法」において模擬授業を行っているが、3年次後期に「模擬授業演習(大学が独自に設定する科目)」を必修科目として設定し、全員に模擬授業を課している。1時間分の学習指導案を作成のうえ、実際に授業を行わせることによって、教科指導の理念と技術の向上を目指す。模擬授業に著しい問題があった場合は、参加資格審査の対象とする。

オ 実習先との連携体制

実習校への受け入れ依頼から実習終了までの全てに対して、教職センター(全学的に教職課程を実施する組織)所属の教員が構成員の「教職センター会議」が運営組織として関わり、連絡調整にあたる。また、学生が所属する各学部・学科とは全学会議である「教職センター委員会」を組織し、教育実習等教員養成に関わる諸問題の審議、実習の実施に関わる連絡調整、情報の共有を行う。実習内容については、基本的に実習先のプログラムに従う。

カ 実習前の準備状況(感染予防策・保険等の加入状況)

①感染予防対策

入学時に、大学として全入学生に対して「感染症について」と題して、予防接種の有無の確認、抗体検査、予防接種や感染予防対策(感染症:麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、水痘等)の必要性について説明している。加えて、教職課程履修学生に対しては、教職課程便覧において、以下のとおり、周知している。

"麻しん(はしか)は、感染力が非常に強く、医療が進歩した現在でも、重篤な後遺障害が残る、又は、死に至る危険性がある重大な疾患です。特に教育実習や介護等体験では、麻しんに罹患すると重篤化しやすい子どもや高齢者と接する機会があることから、感染対策に細心の注意を払う必要があります。2007年には、10代、20代を中心とした麻しんの大規模な流行を受け、文部科学省から各大学に向けて「麻しんに関する特定感染症予防指針に基づく協力依頼について」という文書が発出されました。この文書では、教育等に係る大学の学生について、予防接種の勧奨及び接種の状況確認を行うことが求められています。これを受けて本学では、教育実習や介護等体験の参加学生に対して、2年次時点で「麻しんに関する報告書」の提出を求めています。教育実習や介護等体験への参加を希望する場合は、報告書を必ず提出してください。「麻しんに関する報告書」の提出にあたっては、母子手帳の写しなどにより、麻しんの予防接種を2回受けていることを証明する必要があります。2回の接種履歴を確認できない場合は、抗体検査を受けて、麻しんに対する抗体を保有していることを証明する必要があります。また、抗体検査の結果、十分な抗体を保有していないと医療機関から判断された場合は、可能な限り麻疹の予防接種を受けることを強く推奨します。アレルギーや持病等で接種が困難な場合は、教職センターまで相談してください。"また、2年次のガイダンスにおいて、「麻疹ワクチン」接種完了若しくは抗体検査結果の確認について説明し、所定の報告書による確認結果報告を義務づけている。

②保険等の加入状況

大学が全学生を対象として加入している「学生教育研究災害傷害保険」に、教育実習実施学生を対象に「付帯賠償責任保険(インターン賠)」を付加している。

③実習中に知り得た情報の取り扱い等に関する指導

実習中に知り得た情報に関する守秘義務や SNS の利用に関する注意点については、教育実習新 4 年次ガイダンス及び 4 年次授業科目「教育実習指導」(事前)において、以下の通り厳格に指導している。

教育実習中及び実習期間外を問わず、教育実習に関して知り得た情報を SNS に掲載したり、日常生活で話題にしたりすることは、守秘義務違反となるため絶対に行ってはならないこと、また、生徒と SNS やメールなどで交流したり、生徒と喫茶店等に行くなどの私的な交流を行うことは厳禁であることを、徹底的に周知している。

キ 事前・事後における指導計画

①時期及び時間数

事前指導

4年次・・・4月・5月に9時間(6コマ)若しくは8月・9月に9時間(6コマ)

事後指導

4年次・・・7月に3時間(2コマ)若しくは11月に3時間(2コマ)

②指導内容

事前指導

1)教育実習の意義と手続等についての指導

- 2)教育実習実施にあたり、教育実習に参加、終了した4年次生の教育実習報告を手がかりに実習の意義についての指導
- 3)教育実習の基礎的事項の内、現代の中・高校生の特性、実態を含め、授業の進め方についての指導
- 4)教育実習における生徒指導(特に教科以外)についての指導
- 5)授業実習に不可欠な学習指導案作成の実習
- 6)教育実習参加にあたり、基本的姿勢について再度の指導

事後指導

- 1) 指導教員別での反省報告会の実施
- 2) 教育実習の経験を基に、授業の内容・方法について討論を実施
- 3) 教育実習の経験を基に、生徒指導の具体例について討論を実施、また、教師になるための今後の課題について討論を実施

ク 教員及び助手の配置並びに巡回指導計画

教職センターの専任教員及び教育実習学生の所属学部のゼミ(若しくは卒業研究)担当の専任教員が、教育実習期間中に実習校の実習計画に基づき、訪問指導を行う。実習学生の授業(研究授業若しくは実習授業)を参観するほか、実習校実習担当教諭とともに実習生への指導、助言を行う。

ケ 実習施設における指導者の配置計画

教育委員会の受け入れ基準により、実習校において学級担任及び教科専門の教諭が配置される。

コ 成績評価体制及び単位認定方法

実習校からの評価表及び実習訪問時の内容を基に、教職センター担当教員が評価を行い、成績評価 を確定している。

サ その他特記事項

特になし。

7. 企業実習(インターンシップを含む)や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画(1)企業実習(インターンシップを含む)

ア 実習先の確保の状況

5~10 日間を基本とするインターンシッププログラムを本学ホームページ等で公募している。なお、過去 5 年間のインターンシップ参加者数は以下のとおりであり、毎年実習先を確保することができている 【表 6、表 7】。

表 6 理工学部インターンシップ参加者数(令和元年度~令和 5 年度)

令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
97	18	53	73	52

表 7 理工学部生の主なインターンシップ受入れ先(令和 5 年度)

施設名等	受入先所在地	受入人数
株式会社アイシン	愛知県刈谷市	1名
住友電装株式会社	三重県四日市市	2名
ヤマザキマザック株式会社	愛知県丹羽郡大口町	1名
国土交通省中部地方整備局	愛知県名古屋市	1名

イ 実習先との連携体制

本学キャリアセンターにおいて、実習希望学生の取りまとめ及び企業との受け入れのための連携を行っている。実習後には、企業等から「実習評価書」(大学所定様式)を作成・提出して頂いている。

ウ 成績評価体制及び単位認定方法

受け入れ企業等が作成する「実習評価書」、参加学生が作成する「実習日誌」及び「実習報告書」等の 内容に基づき、成績評価及び単位認定を行っている。

エ その他特記事項

特になし。

(2)海外語学研修

ア 実習先の確保の状況

海外英語研修は原則として年2回行っており、令和5年度は夏期は3か国、春期は5か国で研修を 実施している【表8、表9】。

表 8 夏期海外英語研修(令和 5 年度)

国名	都市名	渡航日数	参加人数
アメリカ	サンディエゴ	22 日間	12 人
イギリス	オックスフォード	30 日間	13 人
カナダ	トロント	22 日間	6 人
	バンクーバー	29 日間	8人

表 9 春期海外英語研修(令和 5 年度)

国名	都市名	渡航日数	参加人数
アメリカ	サンディエゴ	30 日間	13 人
イギリス	ブライトン	24 日間	14 人
オーストラリア	シドニー	23 日間	13 人
	バース	30 日間	12 人
カナダ	トロント	29 日間	9 人
	バンクーバー	23 日間	8人
ニュージーランド	オークランド	17 日間	13 人

イ 実習先との連携体制

本学国際化推進センターの職員が事前視察を行い、プログラム内容や留学環境の確認と調査を行っている。また、専門業者を通じて、現地サポートデスクを活用し学生の安全体制の強化を図っている。また、海外への渡航や滞在に伴うリスクをできるだけ軽減するため、外務省海外安全ページや現地研修先及び現地サポートデスクからの情報に基づき、渡航前オリエンテーションを実施している。留学期間中は現地サポートデスクが 24 時間、学生のサポートを行っており、更にグループリーダーの学生には緊急用携帯電話を持参させ、常に連絡を取れる体制を整えている。

ウ 成績評価体制及び単位認定方法

国際化推進センターが主催する海外語学研修に参加し、単位認定の要件を満たした学生は、単位認定申請手続きのうえ、英語教員による書類審査で「プラクティカル・イングリッシュ $I \cdot II$ 」(3年次開講科目)の到達目標に達していることを確認した上で、同科目の単位が認定される。単位認定されると評価は「N」での認定となり、成績順位及びGPAの計算には含まれない($1 \cdot 2$ 年次に研修へ参加した場合は、3年次以降に申請する。)。

エ その他特記事項

国際化推進センターにおいて、全学部対応の海外英語研修プログラムを主催する。説明会への参加及び申し込み手続きを経た後、所属学部で面接を行い、参加学生を決定する。参加学生に対しては、研修先の生活環境、ルール等について渡航前オリエンテーションを行う。研修(渡航)期間は、本学の夏期休暇と春期休暇の中で2~6週間であり、授業では「聞く・話す・読む・書く」の4技能を中心に総合的に学び、英語運用能力の向上を目指す。また、文化背景や言語の異なる人々との交流や体験を通じ、異文化理解を深め、積極性やコミュニケーション能力を高める。本学の国際化の中核を担う学生を育成するため、海外英語研修に参加する学生に対して奨学援助を行う給付型の奨学金制度を設けている。海外英語研修への参加意欲に溢れ、帰国後も本学の国際化につながる活動に対し積極的に貢献できる奨学生を募集し、奨学金として20万円又は5万円を研修終了後に所定の手続きを経た上で、支給する。

8. 取得可能な資格

応用化学専攻

資格名称	区分	卒業により得られる事項	その他
高等学校教諭一種免	法律に規定する資格	取得可能	教職課程科目等の必要な
許状(理科、工業)			単位の修得が必要
中学校教諭一種免許	法律に規定する資格	取得可能	教職課程科目等の必要な
状(理科)			単位の修得が必要
学芸員	国家資格	取得可能	学芸員課程科目等の必要
			な単位の修得が必要
毒物劇物取扱責任者	国家資格	取得可能	卒業後、各都道府県窓口へ
			の申請が必要
危険物取扱者(甲種)	国家資格	受験資格取得可能	卒業後もしくは化学系専門
			科目 15 単位以上の修得が
			必要

材料機能工学専攻

資格名称	区分	卒業により得られる事項	その他
高等学校教諭一種免	法律に規定する資格	取得可能	教職課程科目等の必要な
許状(理科、工業)			単位の修得が必要
中学校教諭一種免許	法律に規定する資格	取得可能	教職課程科目等の必要な
状(理科)			単位の修得が必要
学芸員	国家資格	取得可能	学芸員課程科目等の必要
			な単位の修得が必要
消防設備士(甲種)	国家資格	受験資格取得可能	卒業により受験資格取得可
			能
労働安全(衛生)コン	国家資格	受験資格取得可能	卒業後実務経験が必要
サルタント			

9. 入学者選抜の概要

(1)入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)

化学・物質学科の卒業認定・学位授与の方針を理解し、高等学校等での学習を通して、次のような能力・意欲を身につけている人を受け入れる。

- ① 一般選抜では、数学、理科および英語の高い基礎学力を有する。学校推薦型選抜・特別入学試験では、高等学校教育の内容を堅実に修得し、数学、理科および英語の基礎学力を有する。
- ② 数学、理科および英語の基礎学力を活用して、自ら問題を発見しその解決に向けて探究し、成果等を表現するための基本となる思考力・判断力・表現力等を有する。
- ③ 化学・物質学科が重視する理工系の科学・技術に興味を持ち、主体性を持って多様な人々と協力して、理工系の科学・技術を用いて社会貢献する意欲を有する。

また、本学では、一般入試の他、総合型選抜・学校推薦型選抜・特別入学試験が実施されており、これらの入試方式とアドミッション・ポリシーの対応表を【資料 5】に示す。

(2)カリキュラム・ポリシーとアドミッション・ポリシーとの相関

化学・物質学科の人材養成目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの相関性については、上述の通りである。ここでは、カリキュラム・ポリシーとアドミッション・ポリシーの相関について説明する。

アドミッション・ポリシー①では、どの試験方式においても数学、理科、英語の基礎学力を求めている。 これを十分達成できていると認められた者は、カリキュラム・ポリシー①にある教養教育を学ぶ上での基礎 を有している。

アドミッション・ポリシー②では、アドミッション・ポリシー①の基礎学力等を活用した問題発見力と、問題を解決するための論理的思考力を求めている。これを有すると認められたものは、カリキュラム・ポリシー②にある幅広い専門知識を学び、社会での問題を発見し、解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を有している。

アドミッション・ポリシー③では、特に学校推薦型選抜や総合型選抜において、科学・技術への興味及び主体性を求める。これを有すると認められたものは、カリキュラム・ポリシー③にある生涯にわたって社会に貢献するために必要な総合的学習と創造的思考力を養う意欲を有する。

以上のように、2つのポリシーは相関しており、アドミッション・ポリシーは人材養成目的やディプロマ・ポリシーともつながっている。

(3)募集人数·募集区分

化学・物質学科の募集人数は、150名とする。

募集区分については、(1)総合型選抜、(2)学校推薦型選抜、(3)一般選抜、(4)特別入学試験の4種類とする。各試験制度の募集人員は、入学者受け入れ方針に沿った多様な人材の受け入れ、及び化学・物質学科の人材養成目的の達成を目的に、以下のとおりとしている【表 10】。

表 10 化学・物質学科で行う入学試験区分と募集人員(令和8年度)			
試験区分		募集人員	
		化学•物質学科	
総合型選抜	スポーツ	2 人	
	指定校推薦	15 人	
⇔ 按 ₩ 華 刑 湿 廿	附属高等学校特別推薦	12 人	
学校推薦型選抜	公募制推薦	19 人	
	合計	46 人	
一般選抜	A方式	40 人	
	K 方式	18人	
	F方式	15 人	
	B方式	13 人	
	C 方式(前期)	12 人	
	C 方式(後期)	4人	
	合計	102 人	
特別入学試験	社会人	若干名	
	外国人留学生	若干名	

表 10 化学・物質学科で行う入学試験区分と募集人員(令和8年度)

なお、募集定員全体に占める試験区分毎の割合は、一般選抜が68%、それ以外が32%である。

(4)出願資格

出願資格については、多様な人材の受け入れを目的として、後述(7)各入学試験の実施方法の「出願資格」にあるとおり、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜、特別入学試験の試験区分と様々な試験方式によって、それぞれのバックグラウンドに合わせた出願要件を設定し、入学試験を行う。

(5)選抜方法

総合型選抜となるスポーツ入学試験では、その特性から競技実績が重視されるが、クラブ活動と修学上の問題などについて、出願前に学部に相談させるようにしている。

学校推薦型選抜は、出願書類と次の選抜方法で総合的に評価し、合否判定を行う。基礎学力調査は数学、理科、英語に関し、高等学校で履修した範囲の理解度を調査する。面接は、基本的には担当者2人と受験者1人で行い、調査書は全体の学習成績の状況(評定平均値)を点数化して評価、課外活動、社会活動、生徒会活動、資格取得、表彰等は面接の材料とし、簡単な口頭試問も実施し、主体性や社会貢献への意欲等を評価する。

一般選抜は理科(物理基礎・物理又は化学基礎・化学から 1 科目を選択)、外国語(コミュニケーション英語 I、コミュニケーション英語 I、、カミュニケーション英語 I、、カミュニケーション英語 I、、カジ I、カジ I、、カジ I、、カジ I、、カジ I、、カジ I、、カジ I、、カジ I、、カジ I、カジ I 、カジ I 、カジ

特別入学試験は、社会人は小論文による基礎学力調査と面接を行い、外国人留学生はこれらに加えて理科、数学、英語の基礎学力調査を行う。

(6) 受験科目設定の考え方

受験科目は前述のように数学、理科、英語を中心に設定している。アドミッション・ポリシーでは、数学、理科、英語の基礎学力に言及しており、また、ディプロマ・ポリシーにおいても幅広い教養と語学力の修得を条件としているため、数学、理科、英語の学力を有することは化学・物質学科で学び、化学・物質学科を卒業する上で基礎的な条件である。

出題は学習指導要領の範囲から行い、次のように出題の意図を受験生に伝える。

- ① 英語:高等学校で修得すべき英語の基礎学力を確実に身につけているかどうかを判定することを目的とした学力試験であり、語彙力、読解力を中心に、総合的な英語力を測る問題を出題する。
- ② 数学: 高等学校で修得すべき数学の基礎学力を確実に身につけているかどうかを判定することを目的とした学力試験であり、一般的な数学教科書内容の基礎的知識に基づく計算力と論理的思考力を問う問題を出題する。
- ③ 物理: 高等学校で修得すべき物理の基礎学力を確実に身につけているかどうかを判定することを目的とした学力試験であり、物理現象の理解に基づく論理的な思考力を問う問題を出題する。
- ④ 化学:高等学校で修得すべき化学の基礎学力を確実に身につけているかどうかを判定することを目的とした学力試験であり、教科書の内容に基づく基礎的な知識や化学の論理や体系への理解力を問う問題を出題する。

(7)各入学試験の実施方法

各入学試験の実施については、対象や選抜方法等を【資料 12】に示す通りとする。

(8) 留学生の受け入れ

留学生の日本語能力を担保するため、独立行政法人日本学生支援機構が主催する「日本留学試験」を受験していること、また海外在住者で新たに在留資格(留学)を取得して入国を希望する者については、①公益財団法人日本国際教育支援協会及び国際交流基金が実施する日本語能力試験 N2(2級)以上、②独立行政法人日本学生支援機構が実施する日本留学試験の日本語(読解、聴解及び聴読解の合計)200点以上(取得見込み可)、③公益財団法人日本漢字能力検定協会が実施する BJT ビジネス日本語能力テスト・JLRT 聴読解テスト(筆記テスト)400点以上、のいずれかの試験も取得していることを出願条件として、日本留学試験の受験票のコピー又は成績通知書のコピーを出願前の「出願資格確認手続き」で提出させている。

この出願資格確認手続きでは、経費支弁者の年収を記載する「保証人(学費負担者等)届書」の提出 も求めている。保証人(学費負担者等)が親族以外の場合には、貯金証明書など支弁能力を証明する書 類の提出も求め、経費支弁能力を確認している。さらに、入学者が海外在住者で新たに在留資格(留学)の取得を希望する場合には、在留資格申請手続きに必要な書類として、経費支弁者の「貯金証明書」、「収入証明書」、「在職証明書」の提出を求め、経費支弁能力を確認している。

これらの出願資格確認手続きは、本学の国際化推進センターにおいて行っている。同センターでは入 学した留学生に対し、毎月在籍確認の署名を求めており、留学生が署名のためにセンターを訪問する際 には、学習面、生活面の状況を確認している。

(9)社会人の受け入れ

化学・物質学科では、社会人特別入学試験を実施する。社会人として定義するのは、①20歳以上で職歴2年以上の社会人経験を有し、働きながら修学することを勤務先から認められた者、②25歳以上で職歴2年以上の社会人経験を有する者と同等の資格があると認められる自己推薦者、のいずれかであり、これを出願資格とする。なお、既修得単位の認定は行わない。

(10) 非正規生の受け入れ

科目等履修生・研究生ともに、化学・物質学科正規学生の履修に支障がない範囲で受け入れを行う 【表 11、表 12】。

①科目等履修生

大学の社会への開放の一環として、「科目等履修生制度」を設ける。

表 11 科目等履修生の受入れ要件

志願条件	受入人数	受入科目	履修単位数
制限なし(原則)	若干名	講義·演習科目	年間 30 単位以内

②研究生

特定の専門事項について研究を認めるため、「研究生制度」を設ける。

表 12 研究生の受入れ要件

志願条件	研究期間	受入人数
次の1、2のいずれかを満たす者。	1年間または	若干名
1. 修業年限 4 年以上の大学を卒業した者及び卒業見込みの者。	半年	
2. 本大学において、入学資格個別審査により、修業年限4年以上		
の大学を卒業した方と同等の学力があると認められた者。		

10. 教育研究実施組織等の編制の考え方及び特色

(1)教員組織の編成の考え方及び特色

化学・物質学科は、応用化学専攻と材料機能工学専攻により構成されており、更に応用化学専攻は有機化学領域、物理化学領域、無機化学領域の3領域に分類されており、材料機能工学専攻は物性物理領域、電子材料領域、機械材料・加工領域の3領域に分類されている。本学科に所属する基幹教員は19名おり、各領域に凡そ3名の基幹教員が在籍し、自身の専門分野及び周辺領域における教育・研究を学生に提供する。更に6領域に渡る教員が、有機的に連携することで、新たな研究フィールドの

開拓及び各研究テーマの深化を行う。教員間の相互作用により高められた研究レベルを学生の教育活動に反映させることで、学際領域において柔軟な発想を有する質の高い卒業生の輩出を目指す。したがって、本学科にて実施される研究活動の多様性を担保するため、1 学科 2 専攻 6 領域体制にて学科運営を行う。

(2)化学・物質学科において中心となる研究領域及びその研究体制

(1)において述べた6つの研究領域は、19人の基幹教員にて構成され、各基幹教員が主要授業科目の多くを担当し、以下の研究体制で臨むこととする。

① 有機化学領域

本領域においては、高分子も含む広義の意味での有機化学を扱い、特定の機能を有する分子、高分子、超分子の設計・合成を行っている。本領域は、応用化学専攻の永田教授(担当科目:有機化学基礎、有機化学 I、有機化学 II、有機化学演習、化学・物質概論、化学・物質でミナール、応用化学実験 II、応用化学実験 III)、田浦准教授(担当科目:高分子化学 I、高分子化学 II、有機機能化学、化学・物質概論、化学・物質でミナール、安全工学、応用化学実験 II、応用化学実験 III)、田中(正)准教授(担当科目:生化学、分光化学、生活支援化学、化学・物質概論、化学・物質でミナール、応用化学実験 III)の3名により構成される。

② 物理化学領域

本領域においては、炭素カーボンナノチューブやグラフェンに代表されるナノ材料の合成・評価を行っている。また、ナノ材料のバイオミメティック応用についても併せ検討を行っている。本領域は、応用化学専攻の丸山教授(担当科目:物理化学基礎、物理化学 I、物理化学演習、化学結晶学、表面化学、機器分析、化学・物質概論、化学・物質ゼミナール、応用化学実験 I)、小澤准教授(担当科目:物性化学 II、物理化学 II、物質構造学、化学・物質概論、化学・物質でミナール、応用化学実験 I、応用化学実験 I、応用化学実験 I、物理学 II)の 2 名により構成される。

③ 無機化学領域

本領域においては、規則性多孔体や低次元材料など特徴的な形態を有する無機材料や、構成元素及び結晶構造を最適化した機能性無機材料などの合成・評価を行っている。本領域は、応用化学専攻の中村教授(担当科目:電気化学、無機材料化学I、無機材料化学II、エネルギー工学、実験基礎論、化学・物質概論、化学・物質ゼミナール、応用化学実験I、応用化学実験IV)、池邉准教授(担当科目:物性化学I、電子材料、無機材料化学II、化学・物質概論、化学・物質ゼミナール、応用化学実験I、応用化学実験IV、物理学実験I、物理学実験II、無機化学演習)、才田准教授(担当科目:無機化学基礎、無機化学II、無機材料化学II、量子化学I、量子化学II、量子化学ix、量子化学ix、量子化学ix、量子化学ix、量子化学ix、量子化学ix、量子化学ix、量子化学ix、量子化学ix、量子化学ix、無機化学Ix、が質ゼミナール、応用化学実験II、応用化学実験III)、谷口助教(担当科目:無機化学I、分析化学、無機材料化学II、化学・物質概論、化学・物質ゼミナール、応用化学実験IV)の4名により構成される。

④ 物性物理領域

本領域においては、光や電子線を用いた材料評価技術の開発及び新規分析手法の開拓に向けた基礎研究を行っている。本領域は、材料機能工学専攻の六田教授(担当科目:物理学 I、物理学 I、科学技術リテラシー、真空工学、表面化学、化学・物質概論、化学・物質ゼミナール、材料機

能工学実験 I、材料機能工学実験 II)、今井准教授(担当科目:固体物性 I および演習、固体物性 IV、科学技術リテラシー、化学・物質概論、化学・物質ゼミナール、材料機能工学実験 II、材料機能工学実験 III)、田中(崇)准教授(担当科目:熱力学、統計力学、固体物性 II および演習、固体物性 III、科学技術リテラシー、化学・物質概論、化学・物質ゼミナール)の3名により構成される。

⑤ 電子材料領域

本領域においては、LED や半導体レーザーの高効率化、高出力化、集積化などに関する研究開発を行い、多種多様な用途に適応するデバイスの設計・開発・応用を行っている。本領域は、材料機能工学専攻の岩谷教授(担当科目:応用数学II、電子回路、電気回路および演習、電子材料評価、半導体工学、科学技術リテラシー、化学・物質概論、化学・物質ゼミナール、材料機能工学実験III)、上山教授(担当科目:量子力学 I および演習、量子力学III、半導体基礎論、半導体デバイス、科学技術リテラシー、化学・物質概論、化学・物質ゼミナール、材料機能工学実験III)、関口教授(担当科目:応用数学III、結晶材料、量子力学II および演習、科学技術リテラシー、化学・物質概論、化学・物質でミナール、材料機能工学実験II)、竹内教授(担当科目:電磁気学 I および演習、電磁気学 II および演習、電磁気学 II および演習、電子回路設計・製作、光・誘電工学、基礎電磁気、科学技術リテラシー、化学・物質概論、化学・物質でミナール、材料機能工学実験III)の4名により構成される。

⑥ 機械材料・加工領域

本領域においては、機械や構造物を構成する金属・セラミックス・プラスチックとそれらを製品化するための加工に関する研究開発を行っている。本領域は、材料機能工学専攻の宇佐美教授(担当科目:材料力学IIおよび演習、機械加工、塑性加工、材料強度学、科学技術リテラシー、化学・物質概論、化学・物質ゼミナール、材料機能工学実験II、材料機能工学実験III)、赤堀准教授(担当科目:無機化学基礎、機械製図基礎、金属材料、工業材料化学、科学技術リテラシー、化学・物質概論、化学・物質ゼミナール、材料機能工学実験 I、材料機能工学実験 II、材料機能工学実験 III)、榎本准教授(担当科目:製図基礎、材料力学 I および演習、機械要素設計、機械 CAD 製図、高分子・複合材料、科学技術リテラシー、化学・物質概論、化学・物質ゼミナール、材料機能工学実験 III)の3名により構成される。

(3)教員組織の年齢構成

化学・物質学科の教員組織は、30代:1名、40代:5名、50代:8名、60代:5名の基幹教員により構成されており、そのバランスから教育研究の活性化に支障がないと考える(開設時の年齢)。学校法人名城大学職員規則では、平成7年4月1日以前に採用された教育職員の定年は満72歳、平成7年4月2日以降に採用された教育職員の定年は満68歳、平成17年4月2日以降に採用された教育職員の定年は満65歳である【資料13】。

なお、化学・物質学科においては、完成年度までに新規に基幹教員3名を採用する計画であり、学科 運営に並びに教員組織への継続性を確保している。今後これらの新規採用については、2専攻6領域 のバランスを考慮しながら適切な人材を確保していくことを予定している。

(4)教育研究活動等の運営や厚生補導等における組織的な連携体制

教育研究活動等や厚生補導等の学部運営については、教授会の下、教務委員会・学生委員会・施設 整備委員会等の各種委員会に加え、学科長等連絡会を設置しており、各委員会の役割に基づき、迅速 な意思決定を旨とした運営や厚生補導等の体制を整備している。各委員会には理工学部教員が委員と して運営にあたり、一部委員会には事務職員も委員として参加しており、教職協働で意思決定が行われ る組織的な連携体制が構築されている。

11. 研究の実施についての考え方、体制、取組

化学・物質学科では、上述に示す 6 つの研究領域から構成されており、職階を問わず各教員が独立した研究室を運営し、卒業研究を行う学生を 7~8 名程度受けて入れて研究活動を行う。このため、本学科では 19 研究室から構成され、各研究室にて独自の研究を実施する。ただし、これは教員間の共同研究を阻むものではなく、対象となる研究領域の発展が望める場合は、全面的または部分的な共同運営も認める。また、大型の分析機器については、学科教員が共同で利用できる共有機器を既に配備・運営を行っており、化学・物質学科においても共通機器運用に関するシステムを受け継ぐ。

また、研究推進の環境整備及び科研費申請率の向上等のため、学術研究支援センターを管轄部署として URA 制度を 2021 年度から導入しており(2025 年 4 月現在 8 名)、産官学連携に向けたマッチング支援、科研費申請説明会・研究倫理・コンプライアンス教育の推進、研究解析ツール導入による研究広報の拡充、研究発信企画の立案・実施等に取り組んでいる。

12. 施設、設備等の整備計画

ア 校地、運動場の整備計画

本学は、主に天白キャンパス・八事キャンパス・ナゴヤドーム前キャンパスで構成され、理工学部化学・物質学科は、天白キャンパスに設置される。天白キャンパスの校地面積は約 125,415.78 ㎡で、八事キャンパス(約 17,553 ㎡)とナゴヤドーム前キャンパス(約 17,937 ㎡)とを合わせた校地面積は、約 160,905.78 ㎡となり、大学設置基準に定める面積を十分満たしている。学生の休息その他の利用のための空地の整備状況は、天白キャンパスの正門アプローチに、研究や学生活動を表現できる空間や隣接した建物内の食堂と一体利用ができるエリア(約 5,700 ㎡)を整備している。また、キャンパス中央には、芝生広場(約 4,400 ㎡)も整備しており、各所に樹木を植え、テーブル・ベンチなどを設置し、学生の憩いのスペースとなる場を設けている。運動場については、天白キャンパスに隣接する第一グラウンド(約 21,188 ㎡)・第二グラウンド(約 25,143 ㎡)を使用する。第一グラウンドは、一部人工芝を敷き詰めた運動場で、テニスコート(9 面)が敷設される。第二グラウンドでは、トラックを併設した人工芝運動場を整備し、様々な運動が可能で多くの学生の利用ができる環境となっており、令和 7 年度に竣工される名城大学開学 100 周年記念アリーナでは正課体育の実施の他に課外クラブの活動拠点となる。また、収容定員 600 名の名城ホールでは講義だけでなく講演会や演奏会が実施できるよう整備している。

イ 校舎等施設の整備計画

学生募集を停止する理工学部材料機能工学科及び応用化学科の所属教員 19 名をもって化学・物質学科教員組織を構成するため、教員の研究室については既存の研究室での対応が可能である。講義科目を実施する教室は、十分な講義室数(計 99 室)を有しているため、前身の学科と比して入学定員および収容人数等に変更がなく使用教室数にも変更がないため既存施設での対応が可能である。実験等を要する学科専門科目では、学生の実験・実習基盤を充実させるため、物質科学分野における実験・演習のための実験室および演習室(計 47 室)を既に完備している。応用化学専攻においては有機合成実験が行えるようドラフトチャンバー、有機溶媒回収システム等の設置、物性測定・評価用の分析機器等の設置を既に行っている。材料機能専攻においても、物質や材料の理解を深めるための測定室や評価室の整備や電子顕微鏡やオシロスコープ等の設置、この他、溶接や鋳造などの実験が可能なテクニカルセンターや製図室の整備を既に行っており、既存実験・演習室への再配置で対応が可能である。また、各研究室に属する実験室を同フロアに配備することで指導教員とコミュニケーションが取りやすい環境としている。

時間割表は【資料 14】のとおりである。従来の理工学部材料機能工学科及び応用化学科と比して入学定員に変更はないため、教室数並びに収容人数ともに既存施設での対応が可能である。

以上のような施設・設備を備えており、理工学部化学・物質学科としての教育課程及び授業運営に対して問題は無いと言える。

ウ 図書館の資料及び図書館の整備計画

名城大学附属図書館は、1 本館 2 分館にて構成している。理工学部化学・物質学科を設置する天白キャンパスには、地下 1 階地上 5 階建ての本館(及び第 2 書庫)を併設しており、館内には自然科学・社会科学・人文科学閲覧室、参考図書閲覧室、学習室、グループ学習室、グループ研究室、自由閲覧室等を配置している。図書の蔵書数は約 1,310,000 冊、雑誌種数は約 28,000 種、総座席数は約1,500 席、月曜日から土曜日(講義のある祝日を含む)の 9 時から 21 時まで(土曜日のみ 9 時から 18 時まで)開館し、Wi-Fi 環境も整備している。また、電子ジャーナル約 28,000 種を提供、アクセシブルな電子書籍等の充実に努め、アクセシビリティの改善も進めている【資料 15】。

レファレンス専用カウンターには専門のスタッフを常置し、国立情報学研究所が運営する図書館間相互 貸借システム「NACSISーILL」を通じて、他大学や研究機関と図書の貸借や複写等の相互協力を実施 している。利用者本位に即した利便性の高い図書館を実現していることから、本専攻で学ぶ学生に対し て充分な教育研究環境を提供することが可能である。

図書の選定は学生や教員のニーズを踏まえながら行う。特に、化学・物質学科の研究領域である「有機化学領域」、「物理化学領域」、「無機化学領域」、「物性物理領域」、「電子材料領域」、「機械材料・加工領域」の6分野において、整備充実を図っていく。

13. 管理運営

化学・物質学科を含む理工学部全体の管理・運営に係る重要事項を審議するための機関として、理工学部教授会(以下、「教授会」)を設置している。教授会は、本学部専任の教授、准教授、講師、助教を構成員とし、原則1か月に1回開催している。学部長が議長となり、構成員の3分の2以上を成立要件とし、出席者の過半数をもって議事を決する。なお、教授会の事務は理工学部事務室が担当する。

教授会の審議事項は、次のとおりである。

- (1)教育課程及び成績評価に関する事項
- (2)学生の資格認定及びその身分に関する事項
- (3) 学則の変更に関する事項
- (4) 教員の進退に関する事項
- (5) 教員の人事及び資格審査に関する事項
- (6)その他重要な事項

教授会の下には、学部運営を円滑にするために、教務委員会・学生委員会・施設整備委員会等の各種委員会に加え、学科長等連絡会を設置しており、各委員会の役割に基づき、迅速な意思決定を旨とした管理運営体制を整備している。また、全学組織の委員会として、学務センター委員会・入学センター委員会・キャリアセンター委員会・学術研究審議委員会等が設置されているが、これらの委員会には理工学部各種委員会の長らが参画し、学部運営の連携を図りながら、理工学部及び各学科の管理運営を進めている。さらに教員人事、資格審査に関しては、教員資格審査選考委員会、教員資格審査教授会において、厳格な審査を行っている。

14. 自己点検・評価

(1) 実施方法・実施体制

名城大学及び名城大学大学院は、教育研究水準の向上を図り、本大学及び大学院の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検・評価を行い、その結果を公表する旨を名城大学学則及び名城大学大学院学則に定めている。

これに基づき、大学評価に関する規程を制定するとともに、「大学評価委員会」、「大学評価専門委員会」、「学部等評価委員会」及び「質保証外部評価委員会」を設置している。各委員会の目的・役割等は以下のとおりである【表 13】。

表 13 名城大学における自己点検・評価制度

TRA (表 13 石級八子における日 L 点候・計画制度	構成員
委員会名	目的•役割	審議事項	【◎:委員長】
大学評価	全学的な評	(1)組織評価・個人評価の企画・立案・実施に係る方針	◎学長、副学長、
委員会	価活動を掌	の策定に関すること	学部長及び研究
	ること	(2)全学的組織評価の実施に関すること	科長、センター
		(3)質保証外部評価委員会による評価に関すること	長、事務局長、
		(4)認証評価機関による評価に関すること	学長が必要と認
		(5)その他、学長が必要と認める事項に関すること	めた者
大学評価	各部署が	(1)自己点検・評価活動の企画・立案・実施に関するこ	◎学長、副学長、
専門委員	実施する自	と	学部長及び研究
会	己点検•評	(2)教育課程の編成に関する全学的な方針に関するこ	科長、事務局
	価活動へ	ک	長、学長が必要
	の支援・助	※但し、教育課程の編成に関する自己点検・評価活動	と認めた者
	言をするこ	は「ワーキンググループ」で立案	
	ک	(3)その他、学長が必要と認める事項に関すること	
学部等評	学部•研究	(1)学部等の目的及び計画に基づいた組織評価及び	◎学部長又は研
価委員会	科・センタ	個人評価の実施に関すること	究科長、学部等
	一等の教	(2)各学部等に係る認証評価機関による評価に関する	からの選出する
	育目的等	こと	教職員、学外有
	の達成に資	(3)各学部等に係る質保証外部評価委員会による評価	識者、学部長等
	すること	に関すること	が必要と認めた
		(4)その他、学部等評価に関すること	者
質保証外	本学が行う自	己点検・評価活動の客観性・公平性を担保し、教育研	◎副学長、学外
部評価委	究水準の更な	よる向上を図るため、学外有識者等による評価を行い、	有識者、副学長
員会	その意見を自	己点検・評価活動に反映させること	が必要と認めた
			者

また、令和元年度からは、各教員による「教育」、「研究」、「社会貢献」、「管理・運営」の4領域における業績の自己評価結果を用いた教員業績評価を実施している。各学部等の実施結果については、大学評価委員会で報告するとともに、次年度以降の実施に向けた同制度の適切性の検証を行っている。

以上のとおり、自己点検・評価体制を構築し、内部質保証の実質化に向けた取り組みを行っている。

(2)認証評価受審結果の活用・公表

令和3年度に自己点検・評価報告書を取り纏め、令和4年度に、公益財団法人大学基準協会による 第三期機関別認証評価を受審し、同協会が定める「大学基準に適合している」との認定を受けた(認定 期間:令和5年4月~令和12年3月)。 点検・評価報告書並びに受審結果については、本学ホームページにおいて公表している。また、同評価において「長所」の評価を得た、「学校法人名城大学の基本戦略」(通称:MS-15)に基づく教育の質向上及び学生の修学支援に係る取り組みは、MS-15に続く、本学が開学100周年を迎える令和8(2026)年を目標年とする戦略プラン(通称:MS-26)においても全学的に実施され、学生に多様な学びの場を提供している。一方、「努力課題」の評価を受けた事項については、大学評価委員会において課題を共有した後、当該学部等において対応方法を検討し、改善状況等を取り纏めて報告書を同協会に提出する予定である。

15. 情報の公表

(1) 実施方法·情報提供項目

本学では、社会への説明責任を果たすこと等を目的に、情報公開の範囲等を「情報公開・開示規程」 に定めており、ホームページを中心として一元的且つ体系的な情報公表を行っている【資料 16】。

公表内容は、学生数等の基本情報(データ)、教育研究内容に関する情報、財務諸表、戦略プランを 含め、本学の営みが網羅できるよう設計されている。また、本学専任教員の教育研究業績等を蓄積する 教員データベースとの連携も行い、本学の教育研究シーズを広く社会に公表している。

学生数・教員数等の統計情報については、IR業務を所掌する総合企画部学長室を中心にデータベースを構築し、教育活動の改善を目的に関係部署と連携したデータの利活用が進められている。 なお、個別項目の公表状況は以下のとおりである。

ア 大学の教育研究上の目的及び3つのポリシー(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)に関すること

HP アドレス

【大学の教育研究上の目的】https://www.meijo-u.ac.jp/about/public/humanresource.html 【3 つのポリシー】https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/policy.html

イ 教育研究上の基本組織に関すること

HP アドレス https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/organization.html

ウ 教育研究実施組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること HP アドレス

【教育研究実施組織】https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/organization.html

【教員数】https://www.meijo-u.ac.jp/about/public/school_education_law.html#content03

【各教員が保有する学位及び業績】

https://www.meijo-u.ac.jp/about/public/school_education_law.html#content03

エ 入学者の選抜に関すること

HP アドレス https://www.meijo-u.ac.jp/admissions/

オ 入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した 者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況並びに外国人留学生の数に関す ること

HP アドレス

【入学者受入れ方針】https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/policy.html

【入学者数、収容定員、在学生数、卒業·修了者数】https://www.meijo-u.ac.jp/about/data/student/

【進学者数及びその他進学の状況】https://www.meijo-u.ac.jp/career/results/gs.html

【就職者数及びその他就職の状況】https://www.meijo-u.ac.jp/career/results/

【外国人留学生数】https://www.meijo-u.ac.jp/about/data/student/foreign%20student.html

カ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

HP アドレス https://gkmsyllabus.meijo-u.ac.jp/camweb/slbssrch.do

キ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

HPアドレス https://www.meijo-u.ac.jp/academics/

(各学科及び研究科ページに入り、下部「もっと知る」の「カリキュラム」を選択。「取得可能な学位・卒業要件」(PDF)に卒業要件を記載)

ク 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

HP アドレス https://www.meijo-u.ac.jp/about/campus/

ケ 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

HP アドレス https://www.meijo-u.ac.jp/campus/tuition/

コ 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

【修学、進路選択等】HPアドレス https://www.meijo-u.ac.jp/campus/application/utility.html

【心身の健康等】HP アドレス https://www.meijo-u.ac.jp/campus/life/

(「学生相談室」「保健センター」に掲載)

サ その他

(教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報、学則等各種規程、設置認可申請書、設置届出書、設置計画履行状況等報告書、自己点検・評価報告書、認証評価の結果等)

HP アドレス

【教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報】

https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/policy.html

(各学科及び研究科の学位授与方針に記載)

【名城大学学則】https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/regulations.html

【設置認可申請書等】https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/ri report/

【自己点検・評価報告書及び認証評価結果】https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/valuation/

【事業計画書·報告書】https://www.meijo-u.ac.jp/about/ms26/

【財務情報】https://www.meijo-u.ac.jp/about/outline/finance.html

16. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

(1)全学的な FD 活動の推進

本学では、教育内容等の改善のための全学的な委員会組織として「大学教育開発センター委員会」を設けており、全学的視点から授業内容及び方法の改善を図る活動を展開している。同委員会では大学教育開発センター委員会要項に基づき、教育能力向上を目的に、以下の活動を展開している。

① 学生による「科目別学修振り返りアンケート」の実施

各期末に一定期間を設けて、全学的に「科目別学修振り返りアンケート」を実施している。授業内容に対する学生の評価を集計し、各教員には担当授業のアンケート結果に対する分析コメント・授業改善方法等を求め、学生へのメッセージとして報告書にまとめている。

② FD·SD フォーラム、FD·SD 学習会の実施

教職員の教育力向上を目的として、FD・SD フォーラムおよび FD・SD 学習会を毎年開催している。フォーラムでは外部有識者による基調講演と教育実践の事例報告で構成し、多角的な視点からの情報共有を行っている。また、学習会では各分野の専門家を講師として招き、特定のテーマに焦点を当てた講演を実施している。これらの活動を通じて、教育内容・方法の改善や教育課題への対応などについて全学的な議論を深め、FD 活動の活性化を図っている。

③ 名城大学教育年報

FD 活動の成果を教育実績として積み重ね、本学における教育成果を学内外に示し、「教育力」の更なる向上を図る礎となるよう、平成 18 年度から毎年「名城大学教育年報」を刊行している。教育年報は、本学ホームページでの公開を通じて、教育に関わる研究の相互交流の一翼を担っている。

④ 教育功労賞制度

教育活動及び教育改善に大きく貢献した者を表彰することにより、教職員の教育改善に対する 意識を高め、組織の活性化を図り、本学の教育の質の向上に資することを目的とし、平成 25 年度 に「教育功労賞要項」を制定した。教育功労賞受賞者は、同要項に基づき、学部等から推薦され た候補者を大学教育開発センター委員会において選考し、全学的な意思形成機関である定例大 学協議会における議を経て、学長が決定する。

また、表彰の対象となった取り組みの成果等は、FDフォーラムや「名城大学教育年報」を通じて発信し、その教育手法を全学的に普及させることで、組織全体の教育の質向上を促進している。

17. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

(1)教育課程内の取り組み

社会的・職業的自立を図るため、教育課程に「職業指導論」を開講し、キャリア教育を行っている【資料17】。「職業指導論」では、若年者のニートやフリーターの増加が問題化して久しいなか、正規就労を妨げている様々な社会的環境や、若年者の社会的・職業的自立の遅れがこの原因として指摘されているが、これらを改善するための方法及びキャリア教育をどのよう推進していけばよいか等、学校におけるキャリア教育、職業指導の方法について学ぶ。そして生徒の社会的・職業的自立を促し、将来に対する的確なキャリアデザインを構築するための指導をどのように推進すれば良いかを研究する。

(2)教育課程外の取り組み

社会に貢献できる人材の育成を目指し、全学組織である「キャリアセンター」が中心となって、学年や就職活動時期に応じたキャリア支援プログラムを次の通り実施している。また、キャリアセンターには学部担当の職員に加え、キャリア支援専門の国家資格保有者が多数所属し、学年を問わず進路に係る個別相談を受けることができる。キャリア全般に関する相談や応募書類添削、面接練習など学生の要望に応じて、きめ細かい支援を行っている。

① 低学年を対象としたキャリア形成サポート

学生が、入学後の早い段階から自分の特性や適性を理解し、自分の進路について自発的に深く 考える場として、1年次向けキャリアガイダンスや2年次向けプレ就職ガイダンスを行い、卒業後の 進路を見据えて目標を持って有意義な学生生活を過ごすことができるような体制を整えている。

② 3・4 年次及び大学院博士前期(修士)課程の学生を対象とした就職支援

3・4 年次(大学院博士前期(修士)課程は 1・2 年次、以下同様)に対して、就職ガイダンスを通して就職活動における心構え・進め方を理解させ、次のような就職支援を展開している。

1)就職ガイダンス

就職活動において、時期に応じたやるべきことを的確に伝えるために、3年次を対象に、毎回テーマを設定し、様々な就職ガイダンスを開催している。また、地元や地方企業への就職を希望する学生を対象とした UIJ ターンガイダンス、外国人留学生や障がいのある学生を対象としたキャリアガイダンス等を実施し、多様な学生への情報提供も行っている。

2) 就職支援講座等

3年次に、就職活動のスケジュールなどが管理できる就活手帳と就職マニュアルを兼ねた「Meijo キャリアガイド」を配布するとともに、業界研究講座、履歴書・エントリーシートの書き方講座、ビジネスマナー講座、自己 PR 講座、筆記試験対策講座、模擬面接講座、模擬グループディスカッションなど、就職活動に際し必要と思われる様々な支援講座を実施している。

3) 就職アドバイザー制度(OB・OG 紹介制度)

卒業生及び就職内定者で構成され、就職活動中の在学生を全面的にバックアップしている。最も身近な存在である就職活動を経験した先輩から、進路先の選び方や就職活動の効果的な進め方等、ウェブや就職情報サイトからは得られない職場環境など、体験を通じたアドバイスや情報を提供している。これまで10,000人以上が登録しており、随時の応対に加えて、11月にはアドバイザーを招いた相談会も実施している。

4)業界研究セミナー(学内企業研究セミナー)

本学学生の採用に積極的な大手企業や地元優良企業、自治体等多種多様な業界から年間で約 900 社の企業等を学内に招き、業界研究セミナーを実施している。業界・企業理解を深めると共に、インターンシップや採用に係る具体的な情報等の収集も可能な機会を学生に提供し、満足度の高い進路決定にも繋がっている。

③全学年を対象としたキャリア形成支援

1)資格取得支援

各人のキャリア形成を見据えて自分の能力を磨き、可能性を広げようとする学生のために、エクステンションセンターでは、パソコン、英語から公務員講座や高難度の国家資格など多彩な講座を格安な受講料で開講している。令和5年度は延べ1415人の学生がこれらの講座を受講し、キャリアセンター把握分だけでも公務員試験等に328人、行政書士を含む各種資格試験に221人が合格している。

2)就職サポーター制度

学生が「就職サポーター」として、キャリアセンターの就職支援業務を補助することにより、就業観の養成及びボランティア精神の向上を図ることを目的としている。「就サポカフェ(就職活動を終えた4年生とこれから就職活動を控える学生との交流会)」や「学生目線による就職活動準備段階での勉強会」の開催など、キャリアセンターの業務補助だけでなく、就職サポーターの学生が主体となって独自に立案・運営する企画もあり、活動は多岐に渡っている。

(3)適切な体制整備

全学的な組織であるキャリアセンター委員会を設置し、学生の進路・就職支援に関する事項、就職 対策及び各種資格取得等の講座に関する事項、インターンシップに関する事項等について検討を行 う。同委員会は、キャリアセンター長、同センター事務部長、各学部から選出された委員等から構成さ れ、全学的な学生支援体制が整備されている。

設置の趣旨等を記載した書類

資料目次

【資料1】半導体・デジタル産	業戦略	•	• •	P.2
【資料 2】我が国の「知の総和	」向上の未来像~髙等教育システムの	•		P.6
再構築(要旨)				
【資料 3】養成する人材像と 3	つのポリシーとの相関	•		P.13
【資料 4】化学・物質学科教育	課程と学位授与方針、教育課程編成方	•		P.14
針対応表				
【資料 5】入学者受け入れ方針	(AP) と入試方式との対応表	•		P.16
【資料 6】履修系統図		•	• •	P.17
【資料7】主要授業科目と3ポ	リシーの関係	•		P.18
【資料 8】履修モデル		•		P.20
【資料9】教育実習受入承諾書	(愛知県教育委員会)	•		P.26
【資料 10】教育実習受入承諾書	『(名古屋市教育委員会)	•		P.27
【資料 11】教育実習先一覧		•		P.28
【資料 12】入学者選抜の概要		•	• •	P.33
【資料 13】学校法人名城大学職	战員規則(抜粋)	•		P.34
【資料 14】化学・物質学科 既	時間割	•		P.36
【資料 15】雑誌のうち「理工学	≠部化学・物質学科」に関わるもの	•		P.38
【資料 16】情報公開・開示規程	Ē	•		P.39
【資料 17】職業指導論シラバス	ς	•		P.40



半導体・デジタル産業戦略

令和5年 6月 経済産業省 商務情報政策局 1. 改定の考え方・趣旨

世界的な潮流の変化からみる戦略改定の意義

- 2021年6月の半導体・デジタル産業戦略から2年が経過し、**世界情勢は大きく変化**。経済安全保障リスク、デジタル化やグリーン 化への対応は、より大きく・現実的な課題として、重くのしかかっている。
 - ▶ ロシアによるウクライナ侵略は、世界の安全保障環境を劇的に変化させ、歴史的なインフレ、エネルギー価格の高騰、サプライチェーンの混乱などを発生させた。経済安全保障上のリスクは、机上のものではなく、今や目前に迫る危機である。また、デジタル技術がビジネスや国民生活を支えるのみならず、国家存亡に直結することを示す事例ともなった。
 - ▶ <u>コロナ禍で、中国における上海ロックダウンは、グローバルサプライチェーンの脆さを露呈</u>。また、一部の半導体について、需給ひっ迫は未だ収まらず、足元で生産能力を増強するも、いまだ不足。<u>有志国が連携して、グローバルサプライチェーンを強靱化</u>し、必要な物資を調達できる環境を作り上げることの重要性が高まっている。
 - ▶ 更に、気候変動への対応は世界的な競争へ。脱炭素目標を掲げる国は世界のGDPの9割を占め、欧米をはじめ、排出削減と経済成長を両立するGXを標榜して投資競争が激化の様相にある。こうした中、デジタル技術の活用は、エネルギー消費の増大にも繋がり得る中、半導体や蓄電池をはじめとした技術の向上がその両立の鍵を握る時代が到来。
 - ▶ 昨年、中国の人口が減少へ転じたが、世界的に少子高齢化が一層深刻化。我が国においても、少子化は、需給両面からの経済問題。 地方における人材不足の解決には、デジタル技術の活用や地方への投資による雇用拡大が不可欠。
- こうした背景の中、半導体や情報処理技術、情報通信技術の進化は留まることを知らず、今後も情報処理量を拡大させながら、デジタル技術の活用が競争力の源泉となる時代は続いていく。ただし、今後は、生成系AIの登場と量子コンピュータやAIコンピュータ等の情報処理の異次元の飛躍が相まってデータセンターにおける計算処理も更に圧倒的に拡大/用途別化が進み、また、エッジ領域における分散情報処理の拡大が見込まれ、さらに、消費電力の削減も求められる。我が国産業全体として真のDXを実現する最後の機会であり、また、自動車・ロボティクスをはじめとするものづくり産業の競争力にとっても絶好機であるとともに、この流れに取り残されることは死活問題。

新たなデジタル社会におけるユーザー産業の競争力の強化に向けて、その付加価値の源泉となる半導体・デジタル産業基盤を 日本に整備・確保することが不可欠。

- 世界各国・地域も半導体・デジタル産業政策の重要性を認識、経済安全保障等の観点から、異次元の支援等を実施。また、GAFAMをはじめとしたデジタルの巨人による兆円単位の投資など、資本原理によるデジタル分野での競争が先鋭化。
 - 》 米国は、CHIPS法やIRA法を成立させ、半導体や蓄電池等の産業基盤強化を強力に推進。欧州でも欧州半導体法案の成立に向けて動いている他、韓国も自国の競争力強化に向けた半導体戦略を発表。
 - ▶ 米商務省のNISTが公表した半導体戦略では、バイデン政権が掲げる<u>今後10年間で特に重要な技術である、コンピューティング、バイオ、</u> クリーンエネルギーの3つの分野は半導体が支えていると言及。
- 世界の潮流変化を捉え、適切なタイミングで適切な施策を講じるべく、**半導体や蓄電池等の技術基盤から、高度情報通信、量子・** スパコン等を含む高度情報処理基盤の整備を軸に、我が国の旨指す方向性を改定戦略としてまとめる。

1. 改定の考え方・趣旨

戦略改定にあたっての基本的考え方

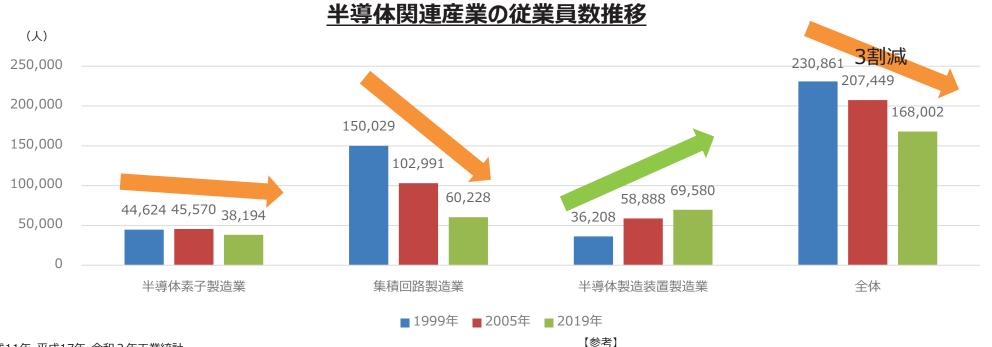
- 2021年6月の半導体・デジタル産業戦略から2年が経過。この間、<u>ロシアによるウクライナ侵攻は、サプライチェーンの混乱を招き、経済安全保障の重要性が一層顕在化</u>。また、世界的に、<u>DXやGXに向けた大規模な投資競争も過熱</u>している。
- 本戦略は、具体的プロジェクトを進めることで、現実を変えることが目的。これまでも戦略に基づき、 スピード感を持って、複数のプロジェクトを進めてきた結果、<u>積極的な投資がイノベーションを生み、</u> それが更なる高付加価値や人々の所得の向上に繋がりつつある。
- 例えば、TSMCを誘致した熊本・九州エリアでは、関連産業の投資拡大、人材育成のための連携、 九州エリアにおける賃金の上昇傾向など、好循環の兆しが現れている。
- また、DXの実現や、人手不足、GX、経済安保等の社会課題の解決には、AIをはじめデジタル技 術を活用することが重要。これらのイノベーションは、大量かつ高速な情報処理を行う、半導体やソ フトウェアをはじめとしたデジタル産業基盤が支えている。
- 半導体・デジタル産業戦略に基づく取組は、デジタル関連産業の成長・発展に加え、デジタル技術を用いた新しい製品・サービスの創出、GXや経済安保の確保等の社会課題の解決、さらには「国内投資の拡大、イノベーションの加速、所得向上」といった好循環を生み出す、リーディングケース。
- ただし、<u>いずれも道半ば。中長期的に取り組むとともに、全国に横展開していくことが重要。戦略を改定し、これまでの取組の幅を更に広げるとともに、戦略の中身をより具体化</u>することで、国内外から投資・人材を集めるなど、スピード感を持っる。承訴になリーディングケースを生み出していく。

3. 半導体・デジタル産業戦略(令和3年6月公表)の実施状況 (1)半導体分野

我が国の半導体関連産業の人材動向

- 半導体関連事業所の減少に伴い、<u>従業員数も基本的に減少傾向</u>。半導体製造装置製造業は増加傾向であるものの、**集積回路製造業は大幅減。全体として20年間で約3割減**。
- 足下では、今後の世界的な半導体市場の拡大見込みを受けて、

 半導体関連産業は人材不足の状態。
- 例えば、主要8社で、**今後10年間で少なくとも4万人程度の半導体人材が追加で必要**になると見込まれている。



【出典】平成11年·平成17年·令和2年工業統計

※令和2年調査においては、便宜上、「半導体素子(光電変換素子を除く)」と「光電変換素子」を合計して「半導体素子」としている

※「全体」は、「半導体素子製造業」「集積回路製造業」「半導体製造装置製造業」の合計

- ✓ 半導体素子:ダイオード、トランジスタ、サーミスタ、など
- ✓ 集積回路: MCU、MPU、DRAM、SRAM、フラッシュメモリ、CMOSイメージセンサ、など
- ✓ 半導体製造装置:レジスト処理装置、電子ビーム露光装置、ダイシング装置、など

電子情報技術産業協会(JEITA)の示した今後10年間の半導体人材の必要数

北海道・東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州	合計
6,000人	12,000人	6,000人	4,000人	3,000人	9,000人	40,000人

設置等の趣旨(資料)ー5ー

我が国の「知の総和」向上の未来像 ~高等教育システムの再構築~(答申)要旨① 中央教育審議会(令和7年2月21日)

1. 今後の高等教育の目指すべき姿

資料2

社会の変化

世界:環境問題、国際情勢の緊張化、AI進展 等

国内:急速な少子化、労働供給不足

高等教育を取り巻く変化 学修者本位の教育への転換等

大学進学者数推計

62.7万人 ▶ 59.0万人 ▶ 46.0万人 (約27%減)

(出生低位・死亡低位)

(2021) (2035)

目指す未来像

一人一人の多様な幸せと社会全体の豊かさ(well-being)の 実現を核とした、**持続可能な活力ある社会**

育成する人材像

持続可能な活力ある社会の担い手や創り手として、**真に人 が果たすべきことを果たせる力**を備え、人々と**協働**しなが ら、課題を**発見し解決**に導く、学び続ける人材

我が国の「知の総和」の向上



- ▶ 目指す未来像の実現のためには、「知の総和」(数×能力)を向上することが必須
- ▶ 「知の総和」の向上のためには、教育研究の質を上げ、意欲ある全ての人が高等教育を享受できるよう社会的に適切な規模の高等教育機会 を供給し、地理的・社会経済的な観点からのアクセス確保によって高等教育の機会均等の実現を図ることが必要

「質」の向上

:教育研究の質の向上を図ることであり、 学生一人一人の能力を最大限高めること

「規模 | の適正化 : 社会的に適切かつ必要な高等教育機会の

量的な確保

「アクセス」確保:地理的・社会経済的な観点からの高等教

育の機会均等の実現

3つの目的(価値)は、常 に調和するわけではなく、 トレードオフの関係になる こともあり得るため、価値 の選択と調整が必要

急速な少子化等を踏まえた高等教育 全体の「規模」の適正化を図りつつ、 それによって失われるおそれのある 「アクセス」確保策を講じるとともに、 「規模」の縮小をカバーし、知の総和 を向上するために教育研究の「質」を 高める

1教育研究の観点

- ア、未来社会を担う人材に必要な 資質・能力の育成 (文理横断・ 融合教育等)
- イ. **成長分野**を創出・けん引する 人材等の育成
- ウ. デジタル化の推進(AI活用等)
- エ. 国際競争の中での**研究力**強化

※※※②学生への支援の観点

- ア. 学生の**多様性・**流動性の 向上(留学生、社会人、障 害のある学生等)
- イ 学生への経済的支援充実 (社会全体で支える学生の 学び)

一設置等の趣旨(資料)-6-



③機関の運営の観点

- ア. 高等教育機関の多様性確保
- イ 高等教育機関の運営基盤の 確立(ガバナンス改革等)
- ウ. 国際化の推進 (留学モビリティ拡大等)



4社会の中における機関の観点

- ア. 社会との接続・連携強化
- イ. 人材育成等を核とした**地方創生**
- ウ. **初等中等教育**との接続の強化
- エ. **情報公表**による信頼獲得

我が国の「知の総和」向上の未来像 ~ 高等教育システムの再構築 ~ (答申)要旨② 中央教育審議会(令和7年2月21日)

2. 今後の高等教育政策の方向性と具体的方策①

(1)教育研究の「質」の更なる高度化

- 1 学修者本位の教育の更なる推進
- ア. 学びの質を高めるための教育内容・方法の改善
- ○学生が主体的・自律的に学修するための環境構築
 - ▶教学マネジメント指針の見直し ▶同時履修科目の絞り込み促進
 - ▶レイトスペシャライゼーションを促進するための定員管理制度の弾力化等
- ○「出口における質保証」の促進
 - ▶厳格な成績評価や卒業認定の実施 ▶成績優秀者への称号授与 等
- ○高大接続を踏まえた大学入学者選抜等の改善
- ○遠隔・オンライン教育の推進
- イ、新たな質保証・向上システムの構築
- ○大学設置基準及び設置認可審査の見直し
 - ▶基幹教員の配置に係る基準や指導補助者の基準等について制度改善
- ○認証評価制度の見直し

- 2 多様な学生の受入れ促進(外国人留学生や社会人等)
- ア、多様な学生の受入れ推進
- ○多面的・総合的な入学者選抜の推進
- ○転編入学等の柔軟化
 - **▶転編入学の増加**を図るための**定員管理の見直し** 等
- ○障害のある学生への支援 等
- イ、留学モビリティ拡大
- ○外国人留学生等の受入れや日本人学生の派遣の推進、国際化のための体制整備 ▶経済的支援の充実 ▶多文化共修環境整備 ▶**留学生の定員管理方策の制度改善**等
- ○適切な在籍管理、技術流出防止対策の徹底・強化 等
- ウ. 社会人の学びの場の拡大
- ○教育環境の整備
 - ▶産業界と連携した教育プログラム開発
- ○産業界・地方公共団体等との組織レベルでの連携推進
- エ、通信教育課程の質の向上
- ○時代の変化を踏まえた通信教育課程の在り方の見直し
 - ▶通信教育課程の更なる質の向上のための制度改善や学生支援に向けた検討 等

- ア、質の高い大学院教育の推進
- ○体系的な大学院教育課程の編成の推進
 - ▶修士・博士5年一貫プログラムの構築(特に自然科学系)等
- ○学士課程から博士課程までの連続性向上・流動性促進
 - ▶学士・修士5年一貫教育の大幅拡充(特に人文・社会科学系)等
- イ、幅広いキャリアパスの開拓推進
- ○多様なフィールドで一層活躍するための環境構築、 多様な進学者の受入れ促進
 - ➤学位の質保証を前提とした社会人の修士・博士の1年 での学位取得推進 等

- 4 研究力の強化
 - ○研究の質向上に向けた研究環境の構築
 - →研究開発マネジメント人材等の量的不足解消 ・質向上
 - ▶大学共同利用機関等の機能強化 等
 - ○研究環境の低下要因を取り除くための業務 負担軽減の推進
 - →研究と教育それぞれに重点を置く教員の活用 促進
 - ▶形式的な会議の見直し 等
 - 一設置等の趣旨(資料)-7-

5 情報公表の推進 …

- ○情報公表の内容・方法の改善
 - ➤高等教育機関の情報を横断的に比較できる新たなデータプラットフォーム (Univ-map(ユニマップ)(仮称))の構築
- ○全国学生調査の活用



我が国の「知の総和」向上の未来像 ~高等教育システムの再構築~(答申)要旨③ 中央教育審議会(令和7年2月21日)

2. 今後の高等教育政策の方向性と具体的方策②

(2) 高等教育全体の「規模」の適正化

- 2 高等教育全体の規模の適正化の推進
- ○意欲的な教育・経営改革を行うための支援
 - ➤一定の規模縮小しつつ、質向上、大学院へのシフトを行う大学等への支援
 - ➤デジタル、グリーン等の成長分野への学部転換支援等の強化
 - ▶職員の高度化の促進 等
- ○高等教育機関間の連携の推進
 - ▶大学等連携をより緊密に行うための仕組みの 導入や支援策の検討 等

- ○厳格な設置認可審査への転換
 - ▶審査時の財産保有要件や経営状況に関する要件厳格化
 - ⇒設置計画の履行が不十分な場合の私学助成減額・不交付 等
- ○再編・統合の推進
 - ➤定員未充足や財務状況が厳しい大学等を統合した 場合のペナルティ措置緩和
 - ▶再編・統合を行う大学等への支援 等

- ○縮小への支援
 - ▶一時的な減定員を戻すことを容易にする仕組みの創設
 - ▶早期の経営判断を促す指導の強化 等
- ○撤退への支援
 - ▶在学生の卒業までの学修環境確保
 - ▶卒業生の学籍情報の管理方策の構築
- ▶残余財産帰属の要件緩和 等

(3) 高等教育への「アクセス」確保

- 1 地理的観点からのアクセス確保
- ア. 地域ごとのアクセス確保を図るための仕組みの構築
- ○地域のアクセス確保・人材育成のための協議体構築
 - ▶地域構想推進プラットフォーム(仮称) (地域の高等教育機関、地方公共団体、産業界など関係者が議論する協議体)の構築
 - ▶地方公共団体における高等教育振興担当部署の整備 (連携窓口の明確化等)促進
 - ▶国における司令塔機能の強化 等
- ○協議体での検討を促す仕組みの整備
 - ▶国による地域ごとの人口予測や分野ごとの産業・雇用 環境の変化等の量的・質的な情報提供
 - ▶コーディネーターの育成・配置 等
- ○地域にとって真に必要な一定の質が担保された高等 教育機関への支援
 - ▶協議体での議論を踏まえ、国が支援する仕組みの構築
 - ▶ 地域研究教育連携推進機構(仮称) (大学等連携をより緊密に行うための仕組み)の導入

- イ. 都市から地方への動きの促進等 を通じた**地方創生**の推進
- ○地方創生を進めるための高等教育 機関への支援
 - ▶国内留学 ▶学生寮整備
 - >サテライトキャンパス
 - ▶キャンパス移転

等の取組推進 等

○遠隔・オンライン教育の推進 ▶大学間連携による授業の共有化等



2 社会経済的観点からのアクセス確保 ……

- ○個人への経済的支援の充実
 - ▶高等教育の修学支援新制度等の着実な実施
 - ▶企業等による代理返還の普及促進 等
- ○高等教育機関入学前における取組促進
 - ➤プッシュ型情報発信
 - ➤アンコンシャス・バイアス (無意識の 思い込み)解消促進
 - ▶キャリア教育促進 等

我が国の「知の総和」向上の未来像 ~高等教育システムの再構築~(答申)要旨④ 中央教育審議会(令和7年2月21日)

3. 機関別・設置者別の役割や連携の在り方

(1)機関別の役割:機関ごとの違い・特色を生かしつつ、 自らの役割を再定義して改善

①大学 (学士課程)	※「2. 今後の高等教育政策の方向性と具体的方策」を参照
②専門職大学・ 専門職短期大学	実践力・創造力を備えた専門職業人 の育成促進
③大学院・ 専門職大学院	※2(1)「③大学院教育の改革」を参照
④短期大学	時代の変化に応じた役割を踏まえた 短大自身の変革、専攻科修了者の進 学ニーズを踏まえた制度改善
⑤高等専門学校	高専教育の高度化・国際化の推進
⑥専門学校	実践的な職業教育の推進、社会人・ 留学生の受入れ拡大

(2)設置者別の役割:役割や機能を踏まえつつ、**自らのミッション**を改めて見つめ直し、 時代の変化に応じて刷新し、自らの将来を定めていく必要

社会を先導する人材を、地方をはじめ全国で育成するための教育機会の確 保、国として継続的に実施すべき多様な研究の実施 ①国立大学 ▶国立大学の学部定員規模の適正化 (修士・博士への資源の重点化を図りつつ、 国際化や地域のアクセス確保にも配慮)や連携、再編・統合の推進に向けた検討 ▶地域の高等教育機関のけん引役としての機能強化 地方公共団体の規模や実態、設置目的に応じた教育研究の実施 ②公立大学 ▶地域の実態を踏まえた教育研究の実施や定員規模の適正化(見直しも含) **めた地域との継続的な対話**、私立大学の安易な公立化の回避) 建学の精神に基づく多様性に富んだ教育研究の実施 ③私立大学 ▶意欲的な教育・経営改革や連携を通じた機能強化

(3)機能や特性等に着目した政策の重視:それぞれの機能に即した高等教育機関の連携も含め、機能別分化の中で、教育研究の質向上につながる取組を 設置者の枠を超えて支援

4. 高等教育改革を支える支援方策の在り方

①高等教育の : 高等教育は国力の源泉であり、**高等教育** 価値 への投資は未来への先行投資

②高等教育への:学生の満足度を高め、成長が得られるよう 信頼 教育研究活動を高度化し、教育研究の成果

や効果を社会に対して**情報公表**

③必要コストの :教育コストを明確にした上で、社会に広く その必要性を訴えかけていくことが必要 算出

: 公財政支援、社会からの投資・支援、個人・保 ④高等教育 **護者負担**のどれか一つだけに依存するので 投資の在り方 はなく、それぞれについて、高等教育の持 続可能な発展に資するような規模・仕組みを構築 ○公財政支援の充実

▶基盤的経費助成の十分な確保 ▶競争的資源配分の不断の見直しと充実

▶規模適正化の推進(設置認可厳格化、再編・統合、縮小、撤退の支援)

○社会からの支援強化

▶代理返還制度の活用推進

▶寄附獲得の促進

○個人・保護者負担の見直し

►個人・保護者負担の在り方について個人支援や機関補助とのバランスも勘案 し検討

中長期的 取組

(5~10年

短期的取組

(2~3年

以内まで)

○教育コストの明確化と負担の仕組みの見直し

▶授業料等の最低ライン設定や公的支援の仕組みの見直しに向けた検討

○高等教育への大胆な投資を進めるための**新たな財源の確保**

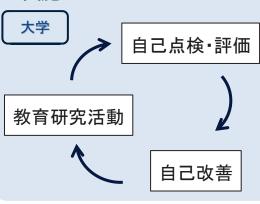
程度

上記1~4までを踏まえた、制度改革や財政支援の取組や今後10年程度の工程を示した政策パッケージを策定し、具体的方策の実行に速やかに着手

<参考1>新たな評価制度への移行・データベース構築(イメージ)

各大学の学内での取組 (内部質保証)

質の改善に向けた組織的な活動 の実施



現在の内部質保証システムの充実 を図りつつ、新たな第三者評価への 連動・活用を通じて内部質保証制 度の更なる実質化を図る

第三者評価

現在の認証評価

対象:大学の教育研究等の総合

的な状況 (機関別評価)

結果:大学評価基準への適合状

況を評価(適合・不適合)

新たな評価制度

対象:学部·研究科等

結果:教育の質を数段階で示す

•定性的評価

・教育情報データベースを活

用した定量的評価

社会へのアカウンタビリティ

- ・大学自らの情報公表
- ・大学ポートレート (※) による各 大学ごとの教育情報の公表 ※各大学間の比較不可
- ・認証評価機関における認証評価結果の公表



・大学自らの情報公表の充実

- ・国民が分かりやすい評価結果の公表
- ・新たな評価におけるデータベースと 連携した<u>新たなデータプラットフォー</u> ム(※)の構築

※各大学間の比較可能

- ⇒学修者や進学希望者が各大学 の教育力を把握できるような情報 を公表
- ・全国学生調査の結果のフィードバック

- 設置等の趣旨(資料) - 10-

<参考2>高等教育機関全体の規模の適正化(イメージ)

1. 厳格な設置認可審査への転換

- 教員の配置基準等の改善
- 財産保有や経営状況等の要件の厳格化
- リスクシナリオ等に関する審査の在り方、審査プロセス等の抜本的見直し等

3. 意欲的な教育・経営改革への支援

- 大学院シフト、留学生、社会人増加大学等への支援
- 改革やチャレンジに取り組む大学への支援強化
- 複数大学等の連携による経営改革の支援強化

設置認可

設置計画 履行期間

完成年度後

新たな評価制度における教育の質の評価と情報公表

撤退

縮小

2. 設置計画不履行に対する措置

○ 設置計画の不履行(設置後、一度も定員 充足率が一定の割合に満たない場合など) に対する私学助成の減額・不交付措置 等

4. 縮小支援、撤退支援

- 一時的な定員減の仕組みの構築
- 経営指導の基準となる指標の見直し
- 規模縮小や撤退に係る指導の強化、経営改善計画の 策定義務付け 等

-設置等の趣旨(資料)-11-

<参考3>地域の高等教育へのアクセス確保を図るための仕組み(イメージ)

地域における協議体の実質化

従来

複数の大学等が地域関係者と恒常的に対話し、 連携を行うための**地域連携プラットフォーム**の取組

※国による「ガイドライン | 策定

今後

地域構想推進プラットフォーム(仮称)

- ✓ 地域の将来ビジョンや大学等の研究・教育の構想・ 推進策を地域全体で情報共有・共通認識
- ✓ 大学等、地方公共団体、産業界等の地域関係者 が一体となって、国と連携しながら地域のアクセス確 保等の取組を支援



産業界

金融機関

地域のアクセス確保・ 人材育成等の 在り方・取組を議論



コーディネーター配置

強化 市町村 担当部署 玉 労·言等 **地域関係者**

※地域連携プラットフォームの発展による構築等既存組織の活用も推奨

地域における大学等間の連携枠組みの強化

従来

連携開設科目を中心とした大学等連携推進法人(※)の取組

発展

※文部科学大臣が認定

今後

地域研究教育連携推進機構(仮称)

- 連携開設科目の開設に加え、地域構想推進プラットフォーム(仮称)等 での議論を踏まえ、地域のアクセス確保・人材育成のための研究・教育の 連携(※)に取り組むことを推奨
 - ※入試、多様な学生受入れ支援、キャリア支援等の業務、大学関係施設の共同管理・運営、 事務システムの共同化、共同調達などが想定。また、そのために必要な支援策についても検討。



A大学

【大学間連携推進パターン】 地域アクセス確保に資する 共同での教育研究・組織運営

例:多様な学生の受入れ支援









B大学

【産官学連携推進パターン】 左記に加え、**地方創生に資する** 産官学連携の取組実施







コーディネータ・ 地方公共団体

金融機関等

※支援対象となる地域研究教育連携推進機構(仮称)の位置付けを検討

文部科学省

- ・地域ごとの高等教育へのアクセス確保を図るための司令塔機能の強化(「**地域大学振興室** Iの新設)
- ・関係省庁や地域の産官学金等関係者と連携した、地域の高等教育へのアクセス確保・人材育成や地方創生の取組の推進
- ※地域により、地域の範囲の設定や、協議体の構築方法、協議体と大学等連携権建憲災との関係・取組の進め方は多様であることに留意。

連携

※地理的観点からのアクセス確保の観点からは、都市から地方への動きの促進等を通じた地方創生の推進も重要。

養成する人材像と3つのポリシーとの相関

【養成する人材像】

化学・物質学科では、「原子・分子レベルで化学を精密に設計・合び化学的知見および情」、「材料の構造・性気が関連を関係では、「材料の構造・性、大力では必要な対解発に必要な科学を関係では、化学の学際領域に位はおり、を対している。 学の質科学分野における研究者・技術者の育成を目指す。

【ディプロマ・ポリシー】

- ① 社会の責任ある形成者として必要な教養と、英語を含むコミュニケーション力を有する。
- ② さまざまな材料について、 原子・分子のレベルでその 性質を解明し、材料として その機能性を高め、新たな 材料設計を行うための化 学や物理学の知識と、そ れらを活用して、社会での 問題を発見し、解決するた めに必要な思考力・判断 力・表現力等を有する。

③ 主体的に学び続け、学んだことを分かち合い、多様な人々と協力して、化学・物質学科が重視する理工系の科学・技術を用いて社会貢献する意欲を有する。

【カリキュラム・ポリシー】

- ① 教養教育課程では、人文・社会科学、語学、 体育等からなる教養教育科目の履修を通 して、多様な価値観に触れ、社会の責任あ る形成者として必要な教養と、英語を含む コミュニケーションカを身につける。
- ② 専門教育課程では、数学、物理学、化学、技術者倫理等の理工学基礎科目と、学科配当の開講科目である物理化学、有機化学、無機化学、量子力学、材料力学等からなる専門科目によって編成される専門教育部門の講義科目の履修を通して、化学や物理学の専門知識と、それらを活用して、社会での問題を発見し、解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身につける。
- ③ 演習・実験・実習における少人数でのグループワーク、集団討論や卒業研究での担当教員との討論、プレゼンテーション、さらにキャリア教育での多様な活動等を通して、生涯にわたって主体的に学び、学んだことを分かち合い、多様な人々と協力して、化学・物質学科が重視する理工系の科学・技術を用いて社会貢献する意欲を身につける。
- ④ シラバスに示す厳格な成績評価と単位認定を行うとともに、GPAや修得単位数にもとづく個別指導を行うことにより、個々の学生の達成度と将来計画に応じた学修を進めることができるようにする。

資料3

【アドミッション・ポリシー】

- ① 一般選抜では、数学、理科および 英語の高い基礎学力を有する。 学校推薦型選抜・特別入学試験 では、高等学校教育の内容を堅 実に修得し、数学、理科および英 語の基礎学力を有する。
- ② 数学、理科および英語の基礎学力を活用して、自ら問題を発見しその解決に向けて探究し、成果等を表現するための基本となる思考力・判断力・表現力等を有する。
- ③ 化学・物質学科が重視する理工系の科学・技術に興味を持ち、主体性を持って多様な人々と協力して、理工系の科学・技術を用いて社会貢献する意欲を有する。

-設置等の趣旨(資料)-13-

化学・物質学科 教育課程と学位授与方針、教育課程編成方針 対応表

	T		単位	- 16	1	Lau	788 +05	業時間			:学位授与方象	、教育課程編成方針		2編成方針	
部系門	授業科目名	必修3	選択道	選択 自由科目 科目	1 の分類目	F	年 2 年		①社会の責任ある形成者として必要な教養と、英語を含むコミュニケーション力を有する。	原子・分子のレベルでその 性質を解明」、材料としてそ	だことを分かち合い、多様な 人々と協力して、化学・物質 学科が重視する理工系の科学・技術を用いて社会貢献 する意欲を有する。	の責任的る形成者として必要な教養と、 英語を含むコミュニケーション力を身につ ける。	②専門委員議程では、数字、物理学化 学、技術名倫理等の理工学基礎利目と、 学科医治の開工学基礎利目と、 学科医治の開工学、財政力学 環境、事務のでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	③演習・実験・実習における少人数での グループワーク、集団討論や卒業研究で の担当教員との討論、プレゼンテーショ ン、さらにキャリア教育での多様な活動等 を通して、生涯にわたって主体的に学び、 学んだことを分から合い、多様な人々と 協力して、化学・物質学科が重視する理 工工系の科学・技術を用いても	認定を行うとともに、GPAや修得単位数 ととづく個別指導を行うことにより、個々 の学生の達成度と明来計画に応じた学修 を進めることができるようにする。
総	英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション II	1	\pm	\pm		2	2		8		0	0			8
	英語コミュニケーションⅢ	1	4	4			2		0		0	0			8
	英語コミュニケーションIV プラクティカル・イングリッシュ I	_	1			Ħ		2	8		0	0			0
	プラクティカル・イングリッシュⅡ ドイツ語 I		1	-	+	2	-	2	0		0	0			⊝
合	ドイツ語Ⅱ ドイツ語Ⅲ		1	1			2	ш	0		0	© ©			8
	ドイツ語IV	_	1			H	2	2	0		0	0			0
	フランス語 I フランス語 II		1	-	+	2	2	+	0		0	0			⊚
	フランス語Ⅲ フランス語Ⅳ	_	1	4		H	2		8		0	0			8
#	中国語Ⅰ		1			2			0		0	0			0
265	中国語Ⅱ 中国語Ⅲ	_	1	-		+	2 2	+	0		0	0			⊗
	中国語IV 体育科学 I		1	4		2			0		0	0			⊚ ⊚
	体育科学Ⅱ		1	士		Ĩ	2		0		⊚	0			0
	体育科学Ⅲ 体育科学Ⅳ			1	-	H	2	-	0		0	0			8
碰	人文科学基礎 I 人文科学基礎 II			2		2	9	Н	0		0	0			© ⊚
	社会科学基礎I			2		2	2	ш	8		0	0			0
	社会科学基礎 II アジア文化論 I	H		2	+	+	2 2	+	0		0	0			⊗
	アジア文化論Ⅱ 欧米文化論Ⅰ	H		2	1	F	2	2	0		0	© ©			8
部	欧米文化論Ⅱ	Ħ		2		Ħ	-		0		0	0			8
-	国際関係論 文学	H		2	\mathbf{t}	╁	∄	2	8	<u> </u>	0	0			8
	日本国憲法 国際経済論	H		2	1	F	П	2 2	0		0	0			⊜
	心理学	Ħ	_	2		Ħ	Ħ	2	⊚	_	0	0			0
	基礎ゼミナール I 基礎ゼミナール II	Ħ	\pm	1		2	2	Ш	0	0	8	© ©			⊗
門	職業指導論			2		Ш		2			⊚	0			⊚
外国人留	学生にかかわる日本語科目 日本語 I		$\overline{}$	2		10.1	9		⊗	T	0	⊚	1		⊗
総合基礎	日本語Ⅱ			2		2	2		⊚		0	0			⊚
R 都 門	日本語III 日本語IV			2		2	2	+	8		0	0			© ⊙
門	日本語V		ユ	2		2	2		0		0	0			⊚
専	微分積分 I	2	I	\Box		2				0	0		0		8
	微分積分Ⅱ 線形代数 I	2	+	+	+	2	2	+		0	0		0		⊗
	線形代数Ⅱ 物理学Ⅰ	2	+	+		2	2			0	0		0		⊚ ⊚
	物理学Ⅱ 物理学演習		2	1	Z1 Z1	T	2			0	0		0	⊚	⊗
	物理学実験I	1	#	-	LI	2				0	0			0	0
	物理学実験Ⅱ 化学Ⅰ	1	+	2	Z1	2	2			0	0		0	⊚	⊗
	化学Ⅱ 化学実験 I			2	Z1 Z1		2	+		0	0		0		⊚
押	化学実験Ⅱ			1 2	Z1		2	ш	8	0	0		0	0	8
門工学	地学Ⅱ 地学Ⅱ		_	2		Ħ	- 2	2	8		0		0		0
基礎科	地学実験 I 地学実験 Ⅱ			1		+	2	2	0		0			⊗	⊚
1	生物学生物学実験		4	2		F	2	Ш	0		0		0	0	⊗
	理工学概論	П	#	2		2	-	,	0		0	0			0
	技術者倫理 コンピューターリテラシー	2	\pm			2				0	0		0		8
	データサイエンス・AI入門 数学基礎演習 I	H	+	2 1		2			8	⊚	0	0		0	⊚
	数学基礎演習Ⅱ		4	1		9	2			0	0			⊚	⊜ ⊝
	物理学基礎演習 I 物理学基礎演習 II	H	#	1		ľ	2	Ш		0	0			0	0
敾	化学基礎演習 I 化学基礎演習 II	Ш	\pm	1		2	2	Ш		0	0			0	⊜ ⊝
	英語基礎演習 I 英語基礎演習 Ⅱ	\vdash	+	1	-	2	2	+	⊗ ⊗		0	© ©			⊝
	固体物性 I および演習 固体物性 II および演習	_	3	4	Z1 Z1		2	2		0	0		0	0	⊗
	固体物性Ⅲ		2	#	Z2			2		0	0		0		0
	固体物性IV 熱力学		2	\pm	Z2 Z3		2			0	0		0		⊚ ⊗
	統計力学 真空工学		2	+	Z3 Z3			2 2		0	0		0		⊚ ⊚
	表面化学 電磁気学 I および演習		2	#	Z2 • O1	3		2		0	0		0	0	8
	電磁気学Ⅱおよび演習		3	\pm	Z1		2			0	0		0	0	0
育	量子力学 I および演習 量子力学 II および演習		3	+	Z1 Z1		2	2	<u> </u>	0	0		0	0	⊗
	量子力学Ⅲ 電気回路および演習		2	\mp	Z2 Z4		2	2		0	0		0	0	⊗
	電子回路設計·製作	2	2(財)	#	24	П	2			0	0		0		8
	電子回路電子材料評価		2	\pm	Z3 Z4			2 2		⊚	0		0		⊚
共	半導体基礎論 半導体工学		2	\pm	Z2 Z3			2 2		0	0		© ©		⊚ ⊝
通 科 目	半導体デバイス 光・誘電工学		2	\mp	Z4 Z3			2		0	0		0		⊚ ⊚
	材料力学Ⅰおよび演習 材料力学Ⅱおよび演習		3	#	Z1 Z1	П	2			8	0		0	0	8
	材料強度学		2	士	Z4			2		0	0		0	<u> </u>	0
部	金属材料 工業材料化学		2	\pm	Z2 Z2		2	2		0	0		0		8
	高分子工学 高分子·複合材料		2	\mp	Z2 Z4		Н	2 2	H -	0	0		0		⊚ ⊗
	機械加工		2	#	Z3		Ħ	2		0	0		0		⊚
	塑性加工 機械要素設計		2	\pm	Z3 Z4			2		0	0		0		⊚ ⊗
	機械CAD製図 応用数学 I		2	+	Z4 Z1 • O5			2		0	0		0		⊚
	応用数学Ⅱ 応用数学Ⅲ		2	#	Z1 • O	5 2				0	0		0		8
		1 1		L_			-		+	0	0		0		0
	機械製図基礎		2	_	24		2								
			2 2	\pm	Z4 Z3 Z4		2			8	0		0		8

		П	単	位 数	T	毎	· 週	授	業出	間 3	t .	学位授与方針			教育課程	程編成方針	
部 系門	授業科目名	必修料目	選択必修科目	選択 自日	指定科目		後日		: 3 : 前		して必要な教養と、英語を含	原子・分子のレベルでその 性質を解明し、材料としてそ の機能性を高め、新たな材	だことを分かち合い、多様な 人々と協力して、化学・物質 学科が重視する理工系の科学・技術を用いて社会貢献	①教養教育課程では、人文・社会科学、 話学、体育等からなる教養教育科目の機 修を通して、多様な価値観い能れ、社会 の責任ある形象を土じて必要な教養と、 英語を含むコミュニケーション力を身につ ける。	学、技術者倫理等の理工学基礎科目と 学科配当の開課科目である地位、 提化学、無機化学、量子力学、材料力学 等からなる専門制度によって報度される 専門教育部門の講義科目の関係を通し て、化学や軸架での専門知識とそれら を活用して、社会での関連を受見し、解決 するために必要な思考か、判断力、表現 力等を身につける。	ン、さらにキャリア教育での多様な活動等 を通して、生涯にわたって主体的に学び、 学んだことを分かち合い、多様な人々と 協力して、化学・物質学科が重視する理 工系の科学・技術を用いて社会貢献する	認定を行うとともに、GPAや修得単位数に たとづる個別指導を行うことにより、個々 の学生の達成度と得来計画に応じた学修 を進めることができるようにする。
専	科学技術リテラシー	2(材)				П	П	2		П		0	0		0		⊚
	材料機能工学実験 I	2(#1)						2				0	0		0	0	0
	材料機能工学実験Ⅱ	2(材)			1	\top		_	2	\top		0	0		0	0	0
	材料機能工学実験Ⅲ	2(#1)			1	\pm	Н	_		2		0	0		0	0	0
	化学・物質ゼミナール	2			1	+		+	-	2		0	0		0		8
	有機化学基礎		2(材)		Z2	-	+	+	+	-		0	0		0		0
		2007	2		01	- 2	0	+	-	+		0			0		0
	有機化学 I	┢	-			+	14	+	-	+			0				· ·
	有機化学Ⅱ	-	2		O2	_		2		+		0	0		0		⊚
	有機化学演習	_	1		O2		Н	2		\perp		0	0		0	0	0
	高分子化学I		2		01	-	ш	2		ш		0	0		0		8
P9	高分子化学Ⅱ	<u> </u>	2	oxdot	O2				2	\perp		0	0		0		⊚
	生化学	上	2	ш	O2	┸		2	L		1	0	0	<u> </u>	⊚	1	⊚
	生活支援化学	L	2	Ш	O2	I		I	2			0	0		0		8
	有機機能化学		2		O2	П	П	Т	П	2		0	0		0		⊚
	物理化学基礎	2(成)	2(材)		Z2		2					0	0		0		0
	物理化学 I		2		01	\top	П	2		\top		0	0		0		0
	物理化学Ⅱ	l	2		03	\top		2		\top		0	0		0		0
	物理化学演習	1	1		03	+		2		+		0	0		0	⊚	8
	化学結晶学	1	2		03	-	+	2 2	+	+		0	0		0		8
		-	2	-	03	+	1	4	1	+		0			0		0
	物質構造学	-				+	Н	_ 2	-	+		_	0				
	物性化学 I	-	2		04	-	Н	4	2	+		0	0		0		0
教	物性化学Ⅱ	_	2		O3			_	2	\perp		0	0		0		0
	無機化学基礎	2(忠)	2(材)		Z2	\perp	2					0	0		0		⊚
	無機化学 I		2		O1		1	2				0	0		0		⊚
共	無機化学Ⅱ		2		04	П	П	2	П	П		0	0		0		⊚
通料	無機化学演習		1		04	П	-	2				0	0		0	0	0
日日	電子材料		2		04	Т				2		0	0		0		0
	電気化学		2		03	\top	П	7	2	\top		0	0		0		0
	無機材料化学I	l	2		04	_			2	_		0	0		0		0
	無機材料化学Ⅱ	H	2		04	+	Н	+	Ħ	9		0	0		0		0
	基礎電磁気	1	2		05	+	2	+	-	-		0	0		0		8
	量子化学I	H	2		05		-	2	+	++	1	0	0		0		0
育		1	2	+	05		Н	-	Н	+	1	0	0		0	1	0
	量子化学Ⅱ	\vdash		++	05		\vdash	12	+	+	-				9		
	量子化学演習		1	\vdash	_	-	H	- 2	H	+	+	0	0	 		0	0
	製図基礎		2	\vdash	05		Н	4	2	+	-	0	0		0	1	0
	分析化学		2	\vdash	05	_	Н	2	Н	+	-	0	0		0	1	0
	分光化学	<u> </u>	2	$\perp \perp$	05	\perp	Ш	2	\perp	\perp		0	0		0		0
	機器分析		2		05	\perp			2			0	0		0		⊚
	錯体化学	┖	2		05				2	ΔĪ		0	0		⊚		⊚
	化学工学	ட	2	$\perp \perp \perp^{-}$	05	┸	Ш	╝	2	_LT		0	0		0		⊚
	分離精製工学		2		05	П	П			2		0	0		0		⊚
	流動現象学	Π	2		05	Т	П	Т	П	2		0	0		0		0
部	エネルギー工学	Π	2		05		П		П	2		0	0		0		0
	応用化学基礎演習	ı		1	1	2	Ħ	7	П	+	1	0	0			⊚	0
	実験基礎論	t	2	т:	01	Ť		2	Н	+	1	0	0		0		0
	安全工学	2 ((21)	2 (8t)		+	+	2	+	+	+		0	0		0	1	8
	広用化学実験 I	2 ((2)	- (9))	+	1	\pm	1	4	H	+	†	0	0			0	0
		2 (Ith	-	+	1	+	H	+	+	+	1	0	0		1	0	0
	応用化学実験Ⅱ	206)	_	\vdash	1	+	Н	4	+	+	1				1		0
	応用化学実験Ⅲ	3(18)	_	\vdash	1	+		-	6	+	1	0	0		1	8	
	応用化学実験Ⅳ	2(忠)		\vdash	1	\perp	Н	4	\vdash	4		0	0		1	0	0
l 🖵	卒業研究	4		$\perp \perp$	1	\perp	Ш	4	H	4		0	0			0	0
その	データサイエンス・AI応用基礎 I	_		2	1	\perp	2				0		0	⊚			⊚
100	データサイエンス・AI応用基礎Ⅱ	1	1	2	1		1	2			⊜		0	0	I	I	⊚

【理工学部 化学・物質学科】 入学者受け入れ方針 (AP) と入試方式との対応表

◎:強く関係、○:関係

				O . J.	は、対策、し、対策
入試区分	入試方式	主な試験内容	AP(I)	AP②	AP3
			一般選抜では、数学、	数学、理科および英語	化学・物質学科が重視
			理科および英語の高い	の基礎学力を活用し	する理工系の科学・技
			基礎学力を有する。学	て、自ら問題を発見し	術に興味を持ち、主体
			校推薦型選抜・特別入	その解決に向けて探究	性を持って多様な人々
			学試験では、高等学校	し、成果等を表現する	と協力して、理工系の
			教育の内容を堅実に修	ための基本となる思考	科学・技術を用いて社
			得し、数学、理科およ	力・判断力・表現力等	会貢献する意欲を有す
			び英語の基礎学力を有	を有する。	る。
			する。		
一般	A・F・K・B・C方	教科別学力試験	0	0	
	式				
推薦·	公募制	小論文		©	
特別		基礎学力調査	0		
		面接・調査書	0	0	0
	指定校	面接	0	0	0
		調査書	0		
	附属高校特別	面接	0	0	0
		調査書	0		
	スポーツ	小論文		0	
		面接	0	0	0
		調査書	0		
	外国人留学生	小論文		0	
		基礎学力調査	0		
		面接	0	0	0
	社会人	小論文		0	
		面接	0	0	0

理工学部 化学·物質学科(1~4年)

授業科目履修系統図

資料6

選択科目 必修科目 選択必修科目 前期 後期 前期 後期 前期 後期 前期 後期 部門 プラクティカルイングリッシュ I プラクティカルイングリッシュ Ⅱ 英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション Ⅱ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ ドイツ語 I ドイツ語 Ⅱ ドイツ語皿 ドイツ語Ⅳ フランス語 I フランス語 Ⅱ フランス語皿 フランス語Ⅳ 総 中国語 I 中国語Ⅱ 中国語皿 中国語Ⅳ 合基礎部門 人文科学基礎 I 人文科学基礎Ⅱ アジア文化論 I アジア文化論Ⅱ 国際関係論 国際経済論 社会科学基礎 I 社会科学基礎Ⅱ 欧米文化論 I 欧米文化論Ⅱ 心理学 文学 日本国憲法 体育科学I 体育科学Ⅱ 体育科学Ⅲ 体育科学Ⅳ 職業指導論 基礎ゼミナール I 基礎ゼミナールⅡ 微分積分 I 微分積分Ⅱ 線形代数 I 線形代数Ⅱ 物理学 I 物理学Ⅱ 地学 I 地学Ⅱ 物理学演習 地学実験 I 地学実験Ⅱ 物理学実験 I 物理学実験Ⅱ 理工学基礎科 化学 I 化学Ⅱ 化学実験 I 化学実験 Ⅱ データサイエンス・AI入門 生物学 生物学実験 理工学概論 技術者倫理 目 コンピューターリテラシ 数学基礎演習 Ⅱ 物理学基礎演習 Ⅱ 数学基礎演習 I 物理学基礎演習 I 化学基礎演習 I 化学基礎演習 Ⅱ 英語基礎演習] 英語基礎演習 Ⅱ 有機化学基礎 有機化学 I 高分子化学 I 高分子化学Ⅱ 有機機能化学 有機化学Ⅱ 化学 生活支援化学 有機化学演習 生化学 物理化学基礎 物理化学 I 物理化学演習 電気化学 理化学 物理化学Ⅱ 化学結晶学 物質構造学 表面化学 物性化学II 無機化学基礎 無機化学 I 無機化学Ⅱ 電子材料 物性化学I 無機化学演習 無機材料化学I 無機材料化学Ⅱ 応用数学 I 基礎電磁気 量子化学 I 量子化学Ⅱ 化学工学 分離精製工学 応用数学Ⅱ 流動現象学 量子化学演習 錯体化学 応用化 分析化学 分光化学 エネルギー工学 機器分析 一学共通 応用化学基礎演習 製図基礎 先端技術管理 化学·物質概論 実験基礎論 化学・物質ゼミナール 安全工学 応用化学実験 I 応用化学実験Ⅱ 応用化学実験Ⅲ 応用化学実験Ⅳ 卒業研究 固体物性 I および演習 固体物性II および演習 固体物性III 固体物性IV 物理 表面化学 雷気回路および瀋習 雷子同路設計:製作 雷子同路 電子材料評価 半導体デバイス 電磁気学Iおよび演習 電磁気学Ⅱおよび演習 半導体基礎論 半導体工学 材料 量子力学 I および演習 量子力学Ⅱおよび演習 量子力学III 光·誘電工学 高分子工学 高分子 複合材料 機械材料・ 工業材料化学 金属材料 機械加工 塑性加工 材料力学Iおよび演習 材料力学Ⅱおよび演習 機械要素設計 材料強度学 加 工 機械CAD製図 応用数学I 応用数学III 機械製図基礎 結晶材料 先端技術管理 応用数学II 無機化学基礎 化学・物質ゼミナール - 設置等の趣旨(資料) 17 化学·物質概論 科学技術リテラシー 材料機能工学実験Ⅲ 卒業研究

化学・物質学科 主要科目と教育課程と学位授与方針、教育課程編成方針、入学者受け入れ方針 対応表

_	_	T	,					10		土安件日 C 年	以月味性と子仏授子)	5針、教育課程編成プ		化力酐 对心衣	1		
			毎美	見授	楽时	- 開	数	①社会の帯红なる形成者と	学位授与方針	②主体的1-学7(結片 学人	①新善新言課程では 1 文, 社会社学	教育課程 ②専門教育課程では、数学、物理学、化	編成方針	(A) スパフリーテオ 数枚 ため 精野 痛 と単位	①	入学者受け入れ方針	②ル学・物質学科が重視す
部門	系	授業科目名	1年前後	2 年前 名	E 3 4	年 4 後 前	年	して必要な教養と、英語を含むコミュニケーション力を有する。	原子・分子のレベルでその 性質を解明し、材料としてそ の機能性を高め、新たな材	だことを分かち合い、多様な 人々と協力して、化学・物質 学科が重視する理工系の 科学・技術を用いて社会官	語学、体育等からなる教養教育科目の履 修を通して、多様な価値観に触れ、社会 の責任ある形成者として必要な教養と、	学、技術者倫理等の理工学基礎科目と、 学科配当の開講科目である物理化学、 有機化学、無機化学、量子力学、材料力 学等からなる専門科目によって編成さる あ専門教育部門の課業科目の関係を通	グループワーク、集団討論や卒業研究で の担当教員との討論、プレゼンテーショ か、さらにキャリア教育での多様な活動等 を通して、生涯にわたって主体的に学 び、学んだことを分かち合い、多様な 人々と協力して、化学・物質学科が重視 する理工系の科学・技術を用いて社会員	認定を行うとともに、GPAや修得単位数 にもとづく個別指導を行うことにより、	利および英語の高い基礎学 力を有する。学校推薦型選 抜・特別人学試験では、高 等学校教育の内容を坚実に 修得し、数学、理科および 英語の基礎学力を有する。	基礎学力を活用して、自ら 問題を発見しその解決に向 けて探究し、成果等を表現 するための基本となる思考 力・判断力・表現力等を有	る理工系の科学・技術に興味を持ち、主体性を持って 多様な人々と協力して、理
MY.		96 / CR / T		Н	Н	-			7742 H 7 W 0			5074291C21700					
-129-		微分積分 I 微分積分II	2 2	Н	+	+	-		0	0		0		© ©	0	0	0
	-	線形代数I	2	Н	+		+		0	0		0		0	0	0	0
	理工	線形代数Ⅱ	2		П				0	0		0		0	0	0	0
	学基	物理学I	2						0	0		0		0	0	0	0
	礁	物理学Ⅱ	2	Ш	Ш				0	0		0		0	0	0	0
	科目	物理学実験 I 物理学実験 Ⅱ	2 2	Н	+		-						0	© Ø	0	0	0
		技術者倫理		2	+	+	H		_	0		0	9	0	0	0	0
		コンピューターリテラシー	2	П	Н	T			0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0			0		0	Ö	Ö	0
		固体物性 [および演習		2								0	0	0	0	0	0
		固体物性Ⅱおよび演習		:	_					0 O O O O O O O O O O O O O O O O O O O		0	0	٥	0	0	0
門		固体物性Ⅲ	₽	Н	2	_	Ш					0		0	0	0	0
		固体物性IV 熱力学	H	2	+	2				Ü		0		© ©	0	0	0
		統計力学		f.	1	+						0		0	0	0	0
		真空工学	Ħ	H	2				_	_		0		0	0	0	0
		表面化学				2			0	0		0		0	0	0	0
		電磁気学Ⅰおよび演習	2	Ш					_	_		0	0	0	0	0	0
		電磁気学Ⅱおよび演習		2	Н		-		_			0	0	© ©	0	0	0
		量子力学 I および演習 量子力学 II および演習	+-	2	,	+	+		_			0	0	0	0	0	0
		量子力学Ⅲ		H.	2		+		0	0		0	- U	0	0	0	0
		電気回路および演習	2		П				0	0		0	0	0	0	0	0
44.		電子回路設計·製作		2					0	0		0		0	0	0	0
蚁		電子回路			2				0	0		0		0	0	0	0
		電子材料評価 半導体基礎論		Н	2				0	0		0		© ©	0	0	0
		半導体工学		Н	2	2			0	0		0		0	0	0	0
		半導体デバイス		П	П	2			0	0		0		0	0	0	0
		光·誘電工学				2			0	0		0		0	0	0	0
		材料力学Ⅰおよび演習	-	2	ш				0	0		0	0	0	0	0	0
		材料力学Ⅱ および演習 材料強度学				2			0	0		0	0	© ©	0	© ©	0
		金属材料		2	Н	-			0	0		0		0	0	0	0
	共	工業材料化学		П	П	2			0	0		0		0	0	0	0
	通科	高分子工学			2				0	0		0		0	0	0	0
育	I	高分子·複合材料		Ш		2	ш		0	0		0		0	0	0	0
		機械加工 塑性加工		Н	2	0			0	0		0		© ©	0	0	0
		機械要素設計		Н	2	-			0	0		0		0	0	0	0
		機械CAD製図	Ш	Ш	2	╚			0	0		0		0	0	0	0
		応用数学I	2	П				-	0	0	-	0		0	0	0	0
		応用数学Ⅱ	2	Н	\perp	4			0	0		0		0	0	0	0
		応用数学Ⅲ 機械製図基礎	2	2	+	-			0	0		0		©	0	0	0
		機恢要凶告經 結晶材料	Н	-	2	+			0	0		0		0	0	0	0
		先端技術管理		П	Ħ	2			0	0		0		0	0	0	0
		化学·物質概論	2	П	П				0	0		0		0	0	0	0
部		科学技術リテラシー	╙	2	Н	4	Щ		0	0		0	_	0	0	0	0
1		材料機能工学実験 I 材料機能工学実験 II	\vdash	H	2 2	-			0	0		0	0	© ©	0	© ©	0
		材料機能工学実験Ⅲ	H	H	2	2			0	0		0	0	0	0	0	0
		化学・物質ゼミナール		П		2			0	0		0		0	0	0	0
		有機化学基礎	2	Ш					0	0		0		0	0	0	0
		有機化学I	2	L	Н	4			0	0		0		0	0	0	0
		有機化学Ⅱ 有機化学演習	H	2	+	-			0	0		0	Ø	© ©	0	0	0
		有機化子演習 高分子化学 I	H	2	1	+			0	0		0	9	0	0	0	0
		高分子化学Ⅱ	П	Π΄	2	+			0	0		0		0	0	0	0
		生化学			2				0	0		0		0	0	0	0
		生活支援化学	H	Н	2	_			0	0		0		0	0	0	0
門		有機機能化学				2			0	0		©			0	0	0

		1	每调报	業 時 間 数	1	学位授与方針		I	数套理纸	編成方針		T	入学者受け入れ方針	
部門	系	授業科目名	1 年 2 年	3年4年	①社会の責任ある形成者と して必要な教養と、英語を 含むコミュニケーション力を 有する。	②さまざまな材料について、 原子・分子のレベルでその 性質を解明し、材料としてそ の機能性を高め、新たな材	だことを分かち合い、多様な 人々と協力して、化学・物質 学科が重視する理工系の 科学・技術を用いて社会貢	語学、体育等からなる教養教育科目の履 修を通して、多様な価値観に触れ、社会 の責任ある形成者として必要な教養と、	②専門教育課程では、数学、物理学、化 学、技術者倫理等の理工学基礎科目と、 学科配当の開議科目である物理化学、 有機化学、無機化学、量子力学、材料分 等からなる専門科目によって編成され る専門教育部門の議義科目の履修を通 して、化学や物理学の専門知識と、それ	③演習・実験・楽習における少人数での グループワーク、集団討論や卒業研究で の担当教員との討論、プレゼンテーショ ン、さらにキャリア教育での多様な活動等 を通して、生涯にわたって主体的に学 び、学んだことを分かち合い、多様な 人々と協力して、化学・物質学科が重視 する理工系の科学・技術を用いて社会質	認定を行うとともに、GPAや修得単位数 にもとづく個別指導を行うことにより、 個々の学生の達成度と将来計画に応じ	①一般選抜では、数学、理 料および英語の高い基礎学 力を有する。学校推薦型選 技・特別人学試験では、高 等学校教育の内容を堅実に 修得し、数学、理科および 英語の基礎学力を有する。	②数学、理科および英語の 基礎学力を活用して、自ら 問題を発見しその解決に向 けて探究し、成果等を表現 するための基本となる思考 カ・判断力・表現力等を有	る理工系の科学・技術に興味を持ち、主体性を持って 多様な人々と協力して、理 工系の科学・技術を用いて
						安なぶ号が、刊画力・表現 力等を有する。			現力等を身につける。	M する息似を対に 200 る。				
		物理化学基礎	2			0	0		0			0	0	0
専		物理化学I	2			0	0		©			0	0	0
		物理化学Ⅱ	2			0	0		0		⊗	0	0	0
		物理化学演習	2			0	0		0	⊚		0	0	0
		化学結晶学	2			0	0		©		⊗	0	0	0
		物質構造学	2			0	0		0		⊗	0	0	0
		物性化学 I		2		0	0		0		⊗	0	0	0
nn		物性化学Ⅱ		2		0	0		0		0	0	0	0
PS		無機化学基礎	2			0	0		©		⊗	0	0	0
		無機化学I	2			0	0		©		⊗	0	0	0
		無機化学Ⅱ	2			0	0		©		⊚	0	0	0
		無機化学演習	2			0	0		0	⊚	©	0	0	0
		電子材料		2		0	0		0		©	0	0	0
	Ī	電気化学		2		0	0		0			0	0	0
266	Ī	無機材料化学 I		2		0	0		0		©	0	0	0
		無機材料化学Ⅱ		2		0	0		0		©	0	0	0
	Ī	基礎電磁気	2			0	0		0		⊗	0	0	0
	共通	量子化学I	2			0	0		0		⊗	0	0	0
	科	量子化学Ⅱ	2			0	0		0			0	0	0
	目	量子化学演習	2			0	0			0		0	0	0
		製図基礎		2		0	0		0			0	0	0
育		分析化学	2			0	0		0			0	0	0
	Ī	分光化学	2			0	0		0		©	0	©	0
	Ī	機器分析		2		0	0		0		©	0	©	0
	j	錯体化学		2		0	0		0		©	0	0	0
	Ī	化学工学		2		0	0		0		©	0	©	0
1	j	分離精製工学		2		0	0		0		©	0	0	0
	Ī	流動現象学		2		0	0		0		⊗	0	0	0
部		エネルギー工学		2		0	0		0		©	0	0	0
	F	実験基礎論	2			0	0		0			0	0	0
	j	安全工学	2			0	0		0		0	0	0	0
	j	応用化学実験 I	4			0	0			©	0	0	0	0
	ŀ	応用化学実験Ⅱ	4			0	0			©	0	0	0	0
	ŀ	応用化学実験Ⅲ		6		0	0			©	0	0	0	0
阳	ŀ	応用化学実験Ⅳ		4		0	0			©	0	0	0	Ö
1.,	-	卒業研究		4		0	0			0	0	0	0	0

履修モデル1 有機化学 領域

			1年	次					2年	手次					3年	三次					4年	次		
	前期			後期			前期			後期			前期			後期			前期			後期		
部門・系	科目名	分類番号	単位	科目名	分類番号	単位	科目名	分類番号	単位	科目名	分類番号	単位	科目名	分類番号	単位	科目名	分類番号	単位	科目名	分類番号	単位	科目名	分類番号	产 単位
	英語コミュニケーションI		1	英語コミュニケーションⅡ		1	英語コミュニケーションⅢ		1	英語コミュニケーションIV		1	プラクティカル・イングリッシュ I		1	プラクティカル・イングリッシュ Ⅱ		1						
	中国語 I		1	中国語Ⅱ		1	アジア文化論I		2	アジア文化論Ⅱ		2	日本国憲法		2									
	体育科学 I		1	体育科学Ⅱ		1																		\bot
総合基礎部門	人文科学基礎 I		2	人文科学基礎Ⅱ		2																		\perp
																								\bot
																								\perp
	Alif all adds at the			Add at adds at the		_				LL Ornale (A arm		_												+
	微分積分 I		2	微分積分Ⅱ		2			-	技術者倫理		2						-			\vdash			+
	線形代数 I 物理学 I		2	線形代数Ⅱ 物理学Ⅱ		2			 															+
専門教育部門	物理子 I 物理学実験 I	-	1	物理学工験Ⅱ		1			-												\vdash			+
理工学基礎科目	コンピューターリテラシー		2	初建于关款Ⅱ	1	1																		+
			-						†															+
																								+
	応用数学 I	05	2	有機化学 I	01	2	有機化学Ⅱ	02	2	高分子化学 I	01	2	高分子化学Ⅱ	02	2	有機機能化学	02	2	卒業研究		*	卒業研究		4
	応用数学Ⅱ	05	2	物理化学基礎		2	有機化学演習	02	1	生化学	02	2	生活支援化学	02	2	表面化学	03	2						
	化学・物質概論		2	無機化学基礎		2	物理化学 I	01	2	物質構造学	03	2	無機材料化学 I	04	2	無機材料化学Ⅱ	04	2						
	有機化学基礎		2	基礎電磁気	05	2	物理化学Ⅱ	03	2	無機化学Ⅱ	04	2	電気化学	03	2	電子材料	04	2						
専門教育部門				安全工学		2	化学結晶学	03	2	量子化学Ⅱ	05	2	化学工学	05	2	エネルギー工学	05	2						
41 14X H III 1							無機化学 I	01	2	分光化学	05	2	錯体化学	05	2	化学・物質ゼミナール		2						
							量子化学I	05	2	応用化学実験Ⅱ		2	機器分析	05	2	応用化学実験IV		2						\perp
							分析化学	05	2				応用化学実験Ⅲ		3									+
							実験基礎論	01	2															+
							応用化学実験 I		2									-						+
単位小計		-	22		 	22			22			19			20		-	15			0		-	4
単位合計	124			網掛:必修科目			選択必修科目		44		1	13			20	1		10	l	l	U		<u> </u>	**

履修モデル2 物理化学 領域

			1年	次					2年	次					3年	三次					4年	次		
	前期			後期			前期			後期			前期			後期			前期			後期		
部門・系	科目名	分類番号	単位	科目名	分類番号	単位	科目名	分類番号	単位	科目名	分類番号	単位	科目名	分類番号	単位	科目名	分類番号	単位	科目名	分類番号	単位	科目名	分類番号	単位
	英語コミュニケーションI		1	英語コミュニケーションⅡ		1	英語コミュニケーションⅢ		1	英語コミュニケーションIV		1	プラクティカル・イングリッシュ I		1	プラクティカル・イングリッシュⅡ		1						
	中国語 I		1	中国語Ⅱ		1	アジア文化論 I		2	アジア文化論Ⅱ		2	日本国憲法		2									
	体育科学 I		1	体育科学Ⅱ		1																		
総合基礎部門	人文科学基礎 I		2	人文科学基礎 Ⅱ		2																		اللت
																								\Box
																								\Box
																								ightarrow
	微分積分 I		2	微分積分Ⅱ		2				技術者倫理		2												\vdash
	線形代数 I		2	線形代数Ⅱ		2																		\vdash
専門教育部門	物理学I		2	物理学Ⅱ		2																		\vdash
理工学基礎科目	物理学実験 I		1	物理学実験Ⅱ		1																		ш
	コンピューターリテラシー	•	2											ļ									igsquare	-
					<u> </u>										<u> </u>								igsquare	-
	-t- m w N -			de late as No.		_	ata life ii Ni aa		_	-t- () - 1 (1))/ -		_	-t- () (1)/(<u> </u>	-t 11 N		<u> </u>	and a self of the self-of-			and a sill of the sales		\vdash
	応用数学I	05	2	有機化学I		2	有機化学Ⅱ	02	2	高分子化学I	01	2	高分子化学Ⅱ	02	2	表面化学	03	2	卒業研究		*	卒業研究		4
	応用数学Ⅱ	05	2	物理化学基礎		2	物理化学I	01	2	生化学	02	2	物性化学I	04	2	電子材料	04	2					↓	\vdash
	化学・物質概論		2	無機化学基礎		2	物理化学Ⅱ	03	2	物質構造学	03	2	物性化学Ⅱ	03	2	無機材料化学Ⅱ	04	2	-				igwdapprox	-
	有機化学基礎		2	基礎電磁気		2	化学結晶学	03	2	物理化学演習	03	1	電気化学	03	2	流動現象学	05	2	-				igwdapprox	-
専門教育部門				安全工学		2	無機化学I	01	2	無機化学Ⅱ	04	2	無機材料化学I	04	2	エネルギー工学 化学・物質ゼミナール	05	2					\vdash	-
						_	量子化学 I 分析化学	05 05	2	量子化学Ⅱ 分光化学	05 05	2	化学工学 機器分析	05 05	2	化学・物質セミナール 応用化学実験IV		2					\vdash	1
							実験基礎論		2	京 用化学実験 Ⅱ	05	2	応用化学実験Ⅲ	05	2	応用化子表映IV		Z					\vdash	-
	-	-			+ +		寒颗基礎論 応用化学実験Ⅰ	01	2 9	心用化子表験Ⅱ		Z	応用化子表類Ⅲ		3		-	-			\vdash		\vdash	\vdash
		 			1		心用化子表映 1					<u> </u>		}	 		}	 			\vdash		\vdash	-
		 			1	-			\vdash			<u> </u>		}	 		}	 			\vdash		\vdash	-
単位小計			22			22			21			20			20			15			0		\vdash	4
単位合計	124	+		網掛: 必修科目			選択必修科目	<u> </u>	Δ1			20		l	20	l	l	10	l	l	J			-1

履修モデル3 無機化学 領域

			1年	次					2年	次					3年	三次					4年	次			単位
	前期			後期			前期			後期			前期			後期			前期			後期			小
部門・系	科目名	分類番号	単位	科目名	分類番号	単位	科目名	分類番号	単位	科目名	分類番号	単位	科目名	分類番号	単位	科目名	分類番号	単位	科目名	分類番号	単位	科目名	分類番号	単位	計
	英語コミュニケーションI		1	英語コミュニケーションⅡ		1	英語コミュニケーションⅢ		1	英語コミュニケーションIV		1	プラクティカル・イングリッシュ I		1	プラクティカル・イングリッシュ Π		1							П
	中国語 I		1	中国語Ⅱ		1	アジア文化論 I		2	アジア文化論Ⅱ		2	日本国憲法		2										ıl
	体育科学 I		1	体育科学Ⅱ		1																			ıl
総合基礎部門	人文科学基礎 I		2	人文科学基礎Ⅱ		2																			20
																									ıl
																									ıl
																									ш
	微分積分 I		2	微分積分Ⅱ		2				技術者倫理		2													ıl
	線形代数 I		2	線形代数Ⅱ		2																			ıl
専門教育部門	物理学I		2	物理学Ⅱ		2																			ıl
理工学基礎科目	物理学実験 I		1	物理学実験Ⅱ		1																		<u> </u>	18
	コンピューターリテラシー	-	2																					₩'	ıl
																								<u> </u>	ıl
																								₩.	ш
	応用数学 I	05	2	有機化学 I	01	2	有機化学Ⅱ	02	2	高分子化学 I	01	2	高分子化学Ⅱ	02	2	表面化学	03	2	卒業研究		*	卒業研究		4	ıl
	応用数学Ⅱ	05	2	物理化学基礎		2	物理化学I	01	2	生化学	02	2	物性化学 I	04	2	電子材料	04	2						<u></u>	ı I
	化学・物質概論		2	無機化学基礎		2	物理化学Ⅱ	03	2	物質構造学	03	2	物性化学Ⅱ	03	2	無機材料化学Ⅱ	04	2						<u></u>	ı I
	有機化学基礎		2	基礎電磁気	05	2	化学結晶学	03	2	無機化学Ⅱ	04	2	電気化学	03	2	分離精製工学	05	2						<u></u>	ı I
専門教育部門				安全工学		2	無機化学 I	01	2	無機化学演習	04	1	無機材料化学I	04	2	エネルギー工学	05	2						<u></u>	ı I
011347134113		ļ					量子化学I	05	2	量子化学Ⅱ	05	2	化学工学	05	2	化学・物質ゼミナール		2						 '	86
		ļ					分析化学	05	2	分光化学	05	2	機器分析	05	2	応用化学実験IV		2						 '	ı I
							実験基礎論	01	2	応用化学実験Ⅱ		2	応用化学実験Ⅲ		3									 '	ıl
		1					応用化学実験 I		2						<u> </u>			_						↓ '	ıl
		1							<u> </u>						<u> </u>			-						├	ıl
20771-1-21	ļ	1							L			L						L						₩.	Н
単位小計 単位合計	124	-	22	網掛:必修科目		22	選択必修科目	<u> </u>	21			20		l	20			15		l	0			4	\Box

履修モデル4 物性物理 領域

	1年次								2年	次			3年次						4年次					
	前期			後期			前期			後期			前期			後期			前期			後期		
部門・系	科目名	分類番号	単位	科目名	分類番号	単位	科目名	分類番号	単位	科目名	分類番号	単位	科目名	分類番号	単位	科目名	分類番号	単位	科目名	分類番号	単位	科目名	分類番号	単位
	英語コミュニケーションI		1	英語コミュニケーションⅡ		1	英語コミュニケーションⅢ		1	英語コミュニケーションIV		1	プラクティカル・イングリッシュ I		1	プラクティカル・イングリッシュ Ⅱ		1						
	中国語I		1	中国語Ⅱ		1	アジア文化論 I		2	アジア文化論Ⅱ		2	日本国憲法		2									
	体育科学 I		1	体育科学Ⅱ		1																		
総合基礎部門	人文科学基礎 I		2	人文科学基礎 Ⅱ		2																		2
i																								
i																							$oxed{oxed}$	
																							$oxed{oxed}$	
	微分積分 I		2	微分積分Ⅱ		2				技術者倫理		2												
	線形代数 I		2	線形代数Ⅱ		2																		
専門教育部門	物理学I		2	物理学Ⅱ	Z1	2																		
理工学基礎科目	物理学実験 I		1	物理学演習	Z1	1																		2
	化学実験 I	Z1	1	物理学実験Ⅱ		1			<u> </u>														igwdown	
	コンピューターリテラシー		2	化学実験Ⅱ	Z1	1																		_
			_	20 at 1 at		_			_	and the fit had not been a second with		_	ETT (I - M. Int		-	CC (Left 1d ex-		_	min till year ada			and a sile arms when		\rightarrow
	応用数学I	Z1	2	電磁気学Ⅰおよび演習	Z1	3	固体物性Iおよび演習	Z1	3	固体物性Ⅱおよび演習	Z1	3	固体物性Ⅲ	Z2	2	固体物性IV	Z2	2	卒業研究		*	卒業研究	4	4
	応用数学Ⅱ	Z1	2	応用数学Ⅲ	Z1	2	熱力学 電子回路設計・製作	Z3	2	統計力学	Z3	2	真空工学	Z3	2	表面化学	Z2	2					++	-
	化学・物質概論		2	無機化学基礎	Z2	2	電子回路設計・製作 電磁気学Ⅱおよび演習	Z4 Z1	2	電子回路 量子力学II および演習	Z3 Z1	2	電子材料評価 半導体基礎論	Z4 Z2	2	半導体工学 光・誘電工学	Z3 Z3	2					++	-
							電磁気学Ⅱおよび演習 量子力学Ⅰおよび演習	Z1 Z1		材料機能工学実験 I	Z1	2	干學体基礎調 量子力学Ⅲ	Z2 Z2	2	先端技術管理	Z3 Z4	2					++	-
専門教育部門					1		材料力学Iおよび演習	Z1 Z1	2	70个1效化工子关款 1			結晶材料	Z2 Z3	2	材料強度学	Z4 Z4	2					+	
							機械製図基礎	Z1 Z4	2				高分子工学	Z2	2	11111111111	Z4	2					++	°
					1		科学技術リテラシー	Z-4	- 2				機械CAD製図	Z4	2	材料機能工学実験Ⅲ		2					+	-
					 	<u> </u>	T1 3-1X M 7 / / / /		-				材料機能工学実験Ⅱ	L4	2	四石板肥工于关款Ⅲ		-			\vdash		+	-
					<u> </u>	 		1	 				771700元工于关款1		-		1	 		1	\vdash		+	-
									-												\vdash		+	-1
単位小計			21			21			23			17			21			17			0		\vdash	4
単位合計	124			網掛・心修科目			選択必修科目	<u> </u>	- 50					1							·			

履修モデル5 電子材料 領域

			1年	三次					2年	三次					3年	三次					4年	淡			単位
	前期			後期			前期			後期			前期			後期			前期			後期			小
部門・系	科目名	分類番号	単位	科目名	分類番号	単位	科目名	分類番号	単位	科目名	分類番号	単位	科目名	分類番号	単位	科目名	分類番号	単位	科目名	分類番号	単位	科目名	分類番号	単位	計
	英語コミュニケーションI		1	英語コミュニケーションⅡ		1	英語コミュニケーションⅢ		1	英語コミュニケーションIV		1	プラクティカル・イングリッシュ I		1	プラクティカル・イングリッシュ Π		1							
	中国語 I		1	中国語Ⅱ		1	アジア文化論 I		2	アジア文化論Ⅱ		2	日本国憲法		2										
	体育科学 I		1	体育科学Ⅱ		1																			
総合基礎部門	人文科学基礎 I		2	人文科学基礎Ⅱ		2																			20
																								Ш	
	微分積分 I		2	微分積分Ⅱ		2				技術者倫理		2												ш	
	線形代数 I		2	線形代数Ⅱ		2																		ш	
専門教育部門	物理学I		2	物理学Ⅱ	Z1	2																		ш	
理工学基礎科目	物理学実験 I		1	物理学演習	Z1	1																		ш	21
	化学実験 I	Z1	1	物理学実験 Ⅱ		1																		ш	
	コンピューターリテラシー	•	2	化学実験 Ⅱ	Z1	1																		ш	
																								ш	_
	応用数学 I	Z1	2	電磁気学Iおよび演習	Z1	3	固体物性Iおよび演習	Z1	3	固体物性Ⅱおよび演習	Z1	3	固体物性Ⅲ	Z2	2	固体物性IV	Z2	2	卒業研究		*	卒業研究		4	
	応用数学Ⅱ	Z1	2	応用数学Ⅲ	Z1	2	熱力学	Z3	2	統計力学	Z3	2	真空工学	Z3	2	表面化学	Z2	2						ш	
	化学・物質概論		2	無機化学基礎	Z2	2		Z4	2	電子回路	Z3	2	電子材料評価	Z4	2	半導体デバイス	Z4	2						ш	
							電磁気学Ⅱおよび演習	Z1	3	量子力学Ⅱおよび演習	Z1	3	半導体基礎論	Z2	2	半導体工学	Z3	2						ш	
専門教育部門							量子力学Iおよび演習	Z1	3	材料機能工学実験I		2	量子力学Ⅲ	Z2	2	光・誘電工学	Z3	2						ш	
01130110011							材料力学Ⅰおよび演習	Z1	3				機械要素設計	Z4	2	先端技術管理	Z4	2						igspace	83
							機械製図基礎	Z4	2				機械CAD製図	Z4	2	化学・物質ゼミナール		2						igspace	
		ļ	<u> </u>				科学技術リテラシー		2			\vdash	結晶材料	Z3	2	材料機能工学実験Ⅲ		2						\vdash	
		ļ	<u> </u>									\vdash	材料機能工学実験Ⅱ		2			-						\vdash	
		ļ	-		ļ				-						1			1						\vdash	
W (L 3)		ļ	0.1		ļ	0.1			-00			1.5			0.1									\vdash	_
単位小計 単位合計	124		21	網掛・必修科目	<u> </u>	21	選択必修科目	<u> </u>	23			17			21			17		l	0			4	_

履修モデル6 機械材料・加工 領域

	1年次						2年次						•	<u>-</u>	3年	F 次				4年次					
	前期			後期			前期			後期			前期			後期			前期			後期			小
部門・系	科目名	分類番号	単位	科目名	分類番号	単位	科目名	分類番号	単位	科目名	分類番号	単位	科目名	分類番号	単位	科目名	分類番号	単位	科目名	分類番号	単位	科目名	分類番号	単位	計
	英語コミュニケーションI		1	英語コミュニケーションⅡ		1	英語コミュニケーションⅢ		1	英語コミュニケーションIV		1	プラクティカル・イングリッシュ I		1	プラクティカル・イングリッシュ Ⅱ		1							Г
	中国語 I		1	中国語Ⅱ		1	アジア文化論 I		2	アジア文化論Ⅱ		2	日本国憲法		2										1
	体育科学 I		1	体育科学Ⅱ		1																			1
総合基礎部門	人文科学基礎 I		2	人文科学基礎Ⅱ		2																			20
																									1
																									1
																								Щ	上
	微分積分 I		2	微分積分Ⅱ		2				技術者倫理		2						<u> </u>						<u>↓</u>	1
	線形代数 I		2	線形代数Ⅱ		2												<u> </u>						<u>↓</u>	1
専門教育部門	物理学 I		2	物理学Ⅱ	Z1	2												<u> </u>						<u>↓</u>	1
理工学基礎科目	物理学実験 I		1	物理学演習	Z1	1																		₩	24
	化学 I	Z1	2	物理学実験 Ⅱ		1																		₩	1
	化学実験 I	Z1	1	化学Ⅱ	Z1	2																		₩	1
	コンピューターリテラシー		2																					₩	╙
	応用数学 I	Z1	2		Z1	3	固体物性 I および演習	Z1	3		Z1	3	真空工学	Z3	2	表面化学	Z2	2			*	卒業研究		4	1
	応用数学Ⅱ	Z1	2	応用数学Ⅲ	Z1	2	熱力学	Z3	2	統計力学	Z3	2	半導体基礎論	Z2	2	高分子・複合材料	Z4	2	塑性加工	Z3	2			₩	1
	化学・物質概論		2	無機化学基礎	Z2	2	電子回路設計・製作	Z4	2	電子回路	Z3	2	高分子工学	Z2	2	工業材料化学	Z2	2						₩	4
							量子力学Iおよび演習	Z1	3	材料力学Ⅱおよび演習	Z1	3	機械加工	Z3	2	材料強度学	Z4	2						₩	1
専門教育部門							金属材料	Z2	2	材料機能工学実験 I		2	機械要素設計	Z4	2	先端技術管理	Z4	2						₩	4
011347134111							材料力学Ⅰおよび演習	Z1	3				機械CAD製図	Z4	2	化学・物質ゼミナール		2						₩	80
		ļ					機械製図基礎	Z4	2				結晶材料	Z3	2	材料機能工学実験Ⅲ		2					ļ	₩	1
		ļ					科学技術リテラシー		2				材料機能工学実験Ⅱ		2			<u> </u>					ļ	₩	4
		ļ							₩			\vdash			<u> </u>			₩			\sqcup		<u> </u>	₩	4
		ļ							1									<u> </u>			\vdash		ļ	₩	1
2771-1-21		1							L			L						L.					 	₩.	⊢
単位小計 単位合計	124	 	23	網掛・必修科目		22	選択必修科目		22			17		1	19			15			2		l	4	Ц

教育実習受入承諾書

令和7年3月4日

名 城 大 学 学長 小原 章裕 様

愛知県教育委員会 門門 教育長 飯田 靖温辰至

下記免許状取得のため、名古屋市を除く愛知県内の公立中学校及び県立学校において教育実習を行うことを承諾します。

記

1 教育実習の受入に係る学部・学科・入学定員及び免許状の種類

学 部	学 科	入学定員	免許状の種類
理工学部	化学・物質学科	150人	中学校教諭一種免許状(理科) 高等学校教諭一種免許状(理科) 高等学校教諭一種免許状(工業)

2 教育実習の受入時期

令和11年5月から

教育実習受入承諾書

令和7年3月18日

名 城 大 学 学長 小原 章裕 様

名古屋市教育委員会 教育長 坪田 知広



名城大学に係る教育実習の受け入れについて、下記の通り承諾します。

記

1. 教育実習の受入れに係る学部・学科・入学定員及び免許状の種類

学部	学 科	入学定員	免許状の種類
			中学校教諭一種 免許状(理科)
理工学部	化学・物質学科	150 人	高等学校教諭一 種免許状(理科)
	8		高等学校教諭一 種免許状(工業)

2. 教育実習の受入れ時期

令和 11 年 5 月から

以上

化学・物質学科で行う各入学試験の実施方法

			化学・物質学科で行う各入学試験の実施方法	1
試験	名	募集人員 /人	出願資格	選抜方法
総合型選抜	スポーツ	2	募集種目: 男子: 硬式野球、ハンドボール、柔道、ラグビー アメリカンフトボール、バレーボール 女子: 女子駅伝、柔道 募集種目に該当する者で、次の1~3を満たしている者。 1. 高等学校又は中等教育学校を卒業見込みの者。 2. 高等学校又は中等教育学校後期課程における3学年1学期又は前期までの「全体の学習成績の 状況(評定平均値)」が3.0以上の者。 3. 競技実績基準のいずれかを満たしている者。	基礎学力調査(小論文)、面接
	指定校推薦	15	次の1、2及び3を満たしている者。 1.高等学校又は中等教育学校を卒業見込みの者。 2.各学科が定める3学年1学期又は前期までの学習成績の状況(評定平均値)以上の者。 3.出身学校長が推薦する者。	面接
学校推薦型選抜	附属高等学校 特別推薦	12	次の1、2及び3を満たしている者。 1.附属高等学校を卒業見込みの者。 2.附属高等学校長が推薦する者。 3.各学科が定める出願基準を満たす者。	普通科特別進学クラス:基礎学 力調査(英・数・理)、上記以外: 面接
	公募制推薦	19	日本の高等学校又は中等教育学校を卒業見込みで、出身学校長が学力、人物とも優良な志願者と して推薦する者、若しくは卒業した者で自己推薦する者。	基礎学力調査(英・数・理)、 面接,調査書
	A方式	40	次の1~9のいずれかを満たす者。 1.高等学校又は中等教育学校を卒業した者及び卒業見込みの者。 2.通常の課程による12年の学校教育を修了した者(通常の課程以外の課程によりこれに相当する	
	K方式	18	学校教育を修了した者を含む)及び修了見込みの者。 3.外国において学校教育における12年の課程を修了した者及び修了見込みの者、又はこれらに準ずる者で文部科学大臣の指定した者。	
AU. 200 HE	F方式	15	4.文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該 課程を修了した者及び修了見込みの者。 5.専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満 4.また思えて、2018年においてよります。	試験
一般選抜	B方式	13	たす者に限る)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び修了見込みの者。 6.文部科学大臣の指定した者。 7. 享等学校本業和集初会計除は周辺による享等学校本業和集初会計除に会校した業界が会校員は	高 以 ·海央
	C方式(前期)	12	7. 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者及び合格見込みの者(旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む)。 8. 学校教育法第90条第2項の規定により大学に入学した者であって、当該者をその後に入学させる大学において、大学における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者。	
	C方式(後期)	4	9.本大学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると 認めた者で、18歳に達した者。	
特別入学試験	社会人	若干名	次の[1]①~⑧のいずれか及び[2]各学部の出願資格のいずれかを満たし、かつ出願資格確認を得た者。 [1] ①高等学校又は中等教育学校を卒業した者及び卒業見込みの者。 ②通常の課程による12年の学校教育を修了した者(通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む)及び修了見込みの者。 ②対国において学校教育における12年の課程を修了した者及び修了見込みの者、又はこれらに準ずる者で文部科学大臣の指定した者。 ④文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者及び修了見込みの者。 ⑤専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び修了見込みの者。 ⑥文部科学大臣の指定した者。 ⑦高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者及び合格見込みの者(旧規程による大学)教育格検定に合格した者を含む)。 ⑧学校教育法第90条第2項の規定により大学に入学した者であって、当該者をその後に入学させる大学において、大学における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者。 [2](情報工学部における出願資格) ①20歳以上で職歴2年以上の社会人の経験を有し、働きながら修学することを勤務先から認められた者(推薦書を提出すること)。 ②25歳以上で職歴2年以上の社会人の経験を有する者と同等の資格があると認められる自己推薦者(退職者、自営業者など)。	基礎学力調査(小論文)、面接
	外国人留学生	若干名	次の1~4を満たし、出願資格の確認を得た者。 1.外国において日本の高等学校に相当する学校を卒業した者及び卒業見込みの者。 2.学校教育における12年の課程を修了した者、又は日本国の文部科学大臣の指定した者で、18歳以上の者。 3.出入国管理及び難民認定法において、本学入学に支障のない在留資格(留学)を有する者、又は得られる者。 4.独立行政法人日本学生支援機構が主催する「日本留学試験」を受験していること。また、海外在住者で新たに在留資格(留学)を取得して入国を希望する者については、次のいずれかの試験も取得して入る者。 ①公益財団法人日本国際教育支援協会及び国際交流基金が実施する日本語能力試験N2(2級)以上 ②独立行政法人日本学生支援機構が実施する日本留学試験の日本語(読解、聴解及び聴読解の合計)200点以上(取得見込み可) ③公益財団法人日本漢字能力検定協会が実施するBJTビジネス日本語能力テスト・JLRT聴読解テスト(筆記テスト)400点以上	基礎学力調査(英·数·理、小論 文)、 面接

学校法人名城大学職員規則

昭和40年6月1日 規則

第1章 総則

(目的)

- 第1条 この規則は、学校法人名城大学の職員について適用すべき各般の根本基準を確立することにより、その業務の円滑な運営を保障し、もって事業の健全な発展に資することを目的とする。 (定義)
- 第2条 この規則において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。
 - (1) 法人 学校法人名城大学をいう。
 - (2) 大学 法人の設置する名城大学をいう。
 - (3) 高等学校 法人の設置する名城大学附属高等学校をいう。
 - (4) 学長 名城大学学長をいう。
 - (5) 学校長 名城大学附属高等学校校長をいう。
 - (6) 学長等 名城大学学長及び名城大学附属高等学校校長をいう。
 - (7) 職員 教育職員(名城大学の教授、准教授、助教、講師、助手、教務技術員及び終身教授並びに名城大学附属高等学校の学校長、教諭、司書教諭、養護教諭、特任教諭及び講師をいう。)、 事務職員及び技術職員をいう。
 - (8) 大学教員 名城大学の教育職員をいう。
 - (9) 高等学校教員 名城大学附属高等学校の教育職員をいう。
 - (10) 事務職員等 事務職員及び技術職員をいう。
 - (11) 専任の職員 専任の教育職員、専任の事務職員及び専任の技術職員をいう。
- ② 職員に準ずる者等 契約教育職員、契約事務職員、契約技術職員、アルバイト、大学非常勤講師、 高等学校非常勤講師および高等学校特任教諭をいう。

(略)

(定年)

- 第20条 職員が、次の各号のいずれかに該当する場合には、これを定年とし、定年に達した日の属する学年度末をもって退職するものとする。
 - (1) 大学教員及び教務技術員は、満65歳。ただし、65歳以降の任用については別に定める。
 - (2) 高等学校教員は、満65歳。ただし、学校長の任期がこれを超える場合については、任期満了の日。
 - (3) 事務職員等は、満65歳
- ② 任命権者は、前項の各号のいずれかに定める定年年齢によらない職員を任用をすることができる。 なお、この任用の場合は、別に定めるものとする。

(略)

附則

- ① この規則は、昭和40年6月1日から施行する。
- ② この規則のうち、第20条の規定は前項の規定にかかわらず、昭和41年4月1日から施行し、これに関する経過規定は別にこれを定める。

(略)

附 則

- ① この規則は、昭和59年4月1日から施行する。
- ② 教務技術員に移行した者(昭和59年3月31日以前の在職者に限る。)の定年は、第20条第1号た だし書の規定にかかわらず、満72歳とする。

③ 昭和59年3月31日以前に技術員の職に発令されている者で、教務技術員に移行しないものの定年 は、なお従前の例による。

(略)

附則

- ① この規則は、平成7年4月2日から施行する。
- ② 平成7年4月1日に在職する大学教員等(教務技術員は除く。)の定年は、第20条第1号イの規定にかかわらず、なお従前の例(満72歳)による。
- ③ 都市情報学部の設置認可時に文部省が認めた教育職員で、平成7年4月2日以降に採用した場合の定年は、第20条第1号イの規定にかかわらず、なお従前の例(満72歳)による。
- ④ 教務技術員に移行した者(昭和59年3月31日以前の在職者に限る。)の定年は、第20条第1号ロの規定にかかわらず、満72歳とする。

(略)

附則

- ① この規則は、平成17年4月2日から施行する。
- ② 平成17年4月1日に在職する大学教員(教務技術員を除く。以下同じ。)の定年は、第20条第1号の規定にかかわらず、なお従前の例(平成7年4月1日に在職する大学教員は満72歳、都市情報学部の設置認可時に文部省が認めた教育職員で、平成7年4月2日以降に採用した大学教員は満72歳、平成7年4月2日から平成17年4月1日までに採用した大学教員は満68歳又は当該学部教授会等で特に必要と認めた者で大学協議会等の議を経て満70歳を定年とした者は当該年齢)による。

(略)

附 則

この規則は、令和3年4月1日から施行する。

資料14	ŀ
------	---

【李森研究】 4年次 選年製器 月~土 1~7時限(曜日時限は指導教員ごとに異なります)

	担当攸員	
岩谷 素類	丸山 隆浩	才田 隆広
宇佐美 初彦	六田 英治	田浦 大輔
上山 智	赤堀 俊和	田中 崇之
関ロ 寛人	今井 大地	田中 正剛
竹内 哲也	池邊 由美子	谷口 彩乃
永田 央	模本 和城	
中村 忠司	小澤 理樹	

※1【理工学概論】 1年次 前期科目

	担当教員	
字佐美 初彦	丸山 隆浩	今井 大地
才田 隆広	西村 尚载	向并 利春
松本 幸正	佐伯 壮一	平松 美根男
渡辺 孝一	大塚 貴弘	池本 有助
武藤 昌也	柳田 原金	本田 直己

※2【データサイエンス・AI入門】 1年次 前期科目

	担当教員	
松本 俊太	前田 智彦	庄村 勇人
新美 潤一郎	勝浦 正樹	焼田 紗
坂野 秀樹	兄島 孝明	原田 知佳
藤原 康弘	山本 修身	杉浦 仲
齊藤 公明	山田 宗男	米澤 弘毅
野崎 佑典	堀田 一弘	

					l de		ال-				金			
学年	專攻	時限	月 科目 物理学実験 I (隔週)	担当者 池邊・(神野)・(中 町)・(赤(香))	火 料日 化学·物質振論	担当者 永田・中村(忠)・丸 山・冷海・小塚	水 料目 人文科学基礎 I	担当者 (星)・(河津)・(石 原)	本 料日 線形代数 I	担当者 伯田・佐藤・鍜治・ (加藤(直))	対日	担当者	± *=	担当者
		1	化学実験 I (隔週)	治遊・(神野)・(中野)・(森(秀)) 田中(義)・神藤・ (木全)		永田・中村(忠)・丸 山・池邉・小澤 (理)・才田・田浦・ 田中(正)・谷口	社会科学基礎 I	森口・(早坂)・(齋 藤(滋))		COLSS (EL)				
			物理学実験 I (隔週)	池邊・(神野)・(中 野)・(森(湧))			応用数学II (OZ合同)	岩谷	体資料学!	加藤(幸)-鈴木 (茂)-遠藤-(安 藤)-(吉里)-(内 山)	御分積分 I	日比野·齊藤·植 松·土田		
		2	化学実験 I (隔週)	田中(義)·神藤· (木全)						ш)				
	A·応用化		化学!	神藤	有機化学基礎	永田	コンピューターリテラシー	(丹羽)	物理学Ⅰ	小澤・六田・(阿 吹)				
	応用化学専攻	3	英語コミュニケーション!	中村(栄)・標本			ドイツ語!	山本(惠)	応用数学I(OZ会同)	(石田)				
		4	英語コミュニケーション【	中村(栄)・模本 (晩)・(服郎 (有))・(久米)・ (萩)・(平野 (尚))・(岩塚)			Fイツ語 I フランス語 I 中国語 I	(河津)・(河脇)	応用数学I(OZ信用)	(石田)				
		5	英語基礎演習I	榎本(噴)	化学基礎演習 I	本田	数学基礎演習Ⅰ	(秋元)・(王)・ (辻)・(吉田) 村瀬・田中(清)・ (片岡(紀)・(周)	物理学基礎演習I	片間(啓)	理工学順論 数学基礎演習 I	※1 村瀬・田中(清)・ (片間(紀))・(間)	データサイエンス・AI入門	 *2
1 年次		6									英語基礎演習!	(片面(紀))*(周) 模本(镜)		
次		1	物理学実験 I (隔週) 化学実験 I (隔週)	池道・(森)・(神 野)・(中野) 田中(義)・神藤・ (木全)	化学·物質概論	岩谷・宇佐美・上 山・関ロ・竹内・六 田・赤堀・今井・稷 本(和)・田中(崇)	人文科学基礎 I 社会科学基礎 I	(星)・(河津)・(石原) 原) 森口・(早坂)・(齋藤(滋))	物理学I	小澤・六田・(阿 吹)				
			物理学実験 I (隔週)	池道・(森)・(神 野)・(中野)			応用数学Ⅱ (OZ合同)	岩谷			化学I	神藤		
		2	化学実験 I (隔週)	田中(義)・神藤・ (木全)										
	B·材料	3	英語コミュニケーション I	中村(栄)・榎本 (晩)・(服郎 (有))・(久栄)・ (萩)・(平野 (尚))・(岩塚)	コンピューターリテラシー	(安田)			体育科学I	(内田(雄))・(門 間)・(永田(恵))・ (高田)・(塩見)・ (内山)	線形代数I	伯田・佐藤・鍜治・ (加藤(直))		
	材料機能工学専攻													
	攻	4	微分積分 I	日比野·齊藤·植 松·土田	コンピューターリテラシー	(安田)	ドイツ語 I フランス語 I	山本(悪) (河津)・(河脇) (発元)・(干)・	応用数学I(OZ合同)	(石田)				
		5	英語基礎演習Ⅰ	模本(院)	化学基礎演習!	本田	中国語 I 数学基礎演習 I	(秋元)・(王)・ (辻)・(吉田) 村瀬・田中(清)・ (片岡(紀))・(周)	物理学基礎演習:	片間(啓)	理工学概論 数学基礎演習 I	※1 村瀬・田中(清)・	データサイエンス・AI入門	*2
		6									双子条统演言: 英語基礎演習!	(片岡(紀))・(岡) 榎本(晩)		
			有機化学Ⅱ	永田			物理化学 I	丸山			英語コミュニケーションⅢ	(ラングリッツ)・ (祖川)・(森 (法))・(加藤		
		1										(法))・(加藤 (性))・(永井)		
			量子化学 I	才田	化学結晶学	丸山	実験基礎論	中村(忠)	アジア文化論 I	(本村)・(菅沼)	体資料学皿	加藤(幸)-鈴木 (茂)-高田-門間- 内田-永田-高橋 (淳)-高山-鈴木 (康)		
	A.	2							欧米文化論 I	山本(恵)・(大橋)		(康)		
	応用化学専攻	2	有機化学演習	永田	ドイツ語車 フランス語車	(中村(実))・(星) (重見)	応用化学実験 I	中村(忠)・丸山・池 邊・小澤(理)			分析化学	谷ㅁ	生物学実験	(寺野)
	攻	9			中国語車	大知・(何)・(マイ ラー) 谷口	応用化学実験 I				物理化学Ⅱ	小澤(理)	生物学実験	(寺野)
		4						中村(忠)・丸山・池 邊・小澤(理)						
		5	地学実験 I	齊藤(穀)・(平野)	地学I	(川瀬)							生物学実験 データサイエンス・AI応用基礎 II	(寺野) 寺本・齊藤・山田 朱澤(弘)・野崎・ 堀田・田崎
2 年次		6	固体物性 I および演習	今井			金属材料	赤斑			量子力学Ⅰおよび演習	上山		総田・田崎
×		1												
			國体物性 I および演習	今井	英語コミュニケーション豆	(ラングリッツ)・ (相川)・(森 (法))・(加藤 (性))・(永井)	務力学	田中(美)	アジア文化論 I	(本村)・(菅沼)	量子力学Ⅰおよび演習	Ŀш		
		2				(12)			欧米文化論 I	山本(恵)・(大橋)				
	B・材料機能工	3	電磁気学Ⅱおよび演習	竹内	材料力学 I および演習	榎本(和)	科学技術リテラシー	赤琉・今井・岩谷・ 宇佐美・榎本(和)・ 上山・関ロ・竹内・ 田中(崇)・六田	労・場合・ 模本(初) ロ・竹内・ ・大田		電子回路設計・製作(隔週)	竹内	生物学実験	(寺野)
	能工学専攻		電磁気学Ⅱおよび演習	竹内	材料力学!および演習	榎本(和)	機械製図基礎	赤琚	ドイツ語皿	(中村(実))・(星)	電子回路設計・製作(隔週)	竹内	生物学実験	(寺野)
	44	4							フランス語車 中国語車	(重見) 大知・(何)・(マイ ラー)				
		5	地学実験 I	齊藤(穀)・(平野)	地学Ⅰ	(川瀬)			体資料学車	加藤(幸)・鈴木 (茂)・高田・門間・ 内田・永田・高橋 (淳)・高山・鈴木 (康)			生物学実験	(寺野)
										(康)			データサイエンス・AI応用基礎 II	今本・齊藤・山田 米澤(弘)・野崎・ 昭田・田崎
		6	無機材料化学 I	中村(忠)			物性化学Ⅱ	小澤(理)						
		1								(C.G.Wood)				
		2	生活支援化学	田中(正)	国際関係論	泰口	機器分析	丸山	プラクティカル・イングリッシュ I	(R.Harris) • (J.Sichi) • (G.Van Horn) • (M.Marshall)	応用化学実験Ⅱ	永田・才田・田浦・ 田中(正)	職業指導論	(職詞)
	Α.				文学 日本国憲法	(段川) (日比)・(川中)								
	応用化学専攻	3	電気化学	中村(忠)	物性化学 I	池邊	錯体化学	(瀬川)	化学工学	(岩瀬)	応用化学実験Ⅲ	永田・才田・田浦・ 田中(正)		
	攻		製図基礎	榎本(和)	プラクティカル・イングリッシュ !	(C.G.Wood)* (R.Harris)* (J.Sichi)*(G.Van			プラクティカル・イングリッシュ I	(C.G.Wood) (R.Harris) (J.Sichi) (G.Van	応用化学実験Ⅲ	永田・才田・田浦・		
		4				Hom)* (M.Marshall)	高分子化学Ⅱ	田浦		Horn)* (M.Marshall)		永田・才田・田浦・ 田中(正)		
3 年次		5												
次		1	機械加工	宇佐美			機械CAD製図(隔週)	榎本(和)			材料機能工学実験 II (隔週)	岩谷·今井·六田· 宇佐美·赤堀·榎 本(和)		
										(C.G.Wood) • (R.Harria) •		本(和)		
	В	2	医体物性III	田中(樂)	国際関係論 文学	森口 (緑川)	機械CAD製図(隔週)	榎本(和)	ブラクティカル・イングリッシュ I	(J.Sichi) • (G.Van Horn) • (M.Marshall)	材料機能工学実験 II (隔週)	岩谷·今井·六田· 宇佐美·赤昭·榎 本(和)	微業指導論	(職部)
	· 材料機能工学専攻		半導体基礎論	上山	ステ 日本国憲法 電子材料評価	(日比)・(川中)			高分子工学	(億川)	材料機能工学実験Ⅱ(隔週)			
	工学専攻	3										岩谷・今井・六田・ 宇佐美・赤堀・榎 本(和)		
	İ	4	量子力学Ⅲ	上山	真空工学	六田	機械要素設計	榎本(和)			材料機能工学実験 I (隔週)	岩谷・今井・六田・ 宇佐美・赤堀・榎 本(和)		
					結晶材料	関ロ						- En/294)		
		5		1										
	Ą	6							I	1	I .	1		1
		6												
	A·応用化学専攻	6 1 2 3 4 5												
4 年次	· 応用化学専攻 B ·	6 1 2 3 4 5 6	歴性加工	宇佐美										
4 年次	応用化学専攻	6 1 2 3 4 5 6	製性加工	宇佐美										

			月火水水			木		金		±				
学年	專攻	時限	科目	担当者	料目	担当者	科目	担当者	科目	担当者	料目	担当者	科目	担当者
		1	物理学実験 I (隔週) 化学実験 I (隔週)	池邊・(神野)・(中 野)・(森(清)) 田中(義)・神藤・ (木全)			人文科学基礎 II 社会科学基礎 II	(星)・(河津)・(石原) (早坂)・(齋藤)・ (森口)	線形代数Ⅱ	鍜治・内村・佐 藤・(加藤(直))				
		L						(##11)		加藤(幸)・鈴木	微分積分Ⅱ	齊藤·三町·植	生物学	(寺野)
			物理学実験 I (隔週)	RA).(RR(SB))	有機化学I	永田	無機化学基礎	才田	体育科学Ⅱ	加藤(幸)・鈴木 (茂)・遠藤・(安 藤)・(吉里)・(内 山)・(高田)・(門		松· 土田		
	A	2	化学実験 I (隔週)	田中(義)・神藤・ (木全)						間)・(内田(雄))・ (塩見)・(永田(惠))				
	応用化学専攻	3	化学Ⅱ	神器	安全工学	田浦			物理学Ⅱ	六田・小澤・(阿吹	物理化学基礎	丸山		
	専攻	H	英語コミュニケーションⅡ	中村(栄)・榎本 (險)・(陽朝	基礎電磁気	竹内	ドイツ語Ⅱ	山本(恵)			物理学演習(OZ含同)	田中(薬)		
		4		(院)・(服部 (有))・(久米)・ (萩)・(平野 (商))・(岩塚)			フランス語 II 中国語 II	(河津)・(河脇) (秋元)・(王)・ (辻)・(吉田)						
1		5	英語基礎演習Ⅱ	榎本(晚)	化学基礎演習 II	本田	数学基礎演習Ⅱ	土田・田中(清)・ (片岡(紀))・(岡)	物理学基礎演習Ⅱ	片間(啓)	数学基礎演習 II 英語基礎演習 II	土田・田中(清)・ (片岡(紀))・(岡) 榎本(晩)	データサイエンス・AI応用基礎 I	三町・山本(修)・ 杉浦・齊藤・山田 (宗)・冨田
年次			物理学実験Ⅱ	池邉・(神野)・(中 野)・(森(湧))	電磁気学Ⅰおよび演習	竹内	人文科学基礎Ⅱ	(星)・(河津)・(石 原)	物理学Ⅱ	六田·小澤· (阿收)				
		1	化学実験 II	田中(義)・神藤・ (木全)			社会科学基礎Ⅱ	(草坂)・(齋藤)・ (森口)						
		2	物理学実験 II 化学実験 II	池邊・(神野)・(中 野)・(森(湧)) 田中(義)・神藤・ (木全)	電磁気学Ⅰおよび演習	竹内	無機化学基礎	赤堀			化学Ⅱ	神藤	生物学	(寺野)
	в	L	英語コミュニケーションⅡ		電気回路および演習	岩谷	応用数学Ⅲ	関ロ	体育科学Ⅱ	加高(表)。位本	線形代数Ⅱ			
	· 材料機能工学専攻	3	突結コとユーゲーション ョ	中村(宋)・榎本 (院)・(服郎 (有))・(久米)・ (萩)・(平野 (尚))・(岩塚)	電気回動わより決官	a e	6.用数子皿	lat Li	外育科子 II	加藤(幸)-鈴木 (茂)-遠藤・(安 藤)-(吉里)-(内 山)-(高田)-(門 間)-(内田(雄))- (塩見)-(永田(恵))	10 XX-71-00. II	鍜治·内村·佐 藤·(加藤(直))・		
	専攻		微分積分Ⅱ	齊藤·三町·植 松·土田	電気回路および演習	岩谷	ドイツ語Ⅱ	山本(恵)			物理学演習(OZ合同)	田中(崇)		
		ľ					フランス語 II 中国語 II	(河津)・(河脇) (秋元)・(王)・ (辻)・(吉田)			<u></u>	L		L
		5	英語基礎演習Ⅱ	榎本(晚)	化学基礎演習 II	本田	数学基礎演習Ⅱ	土田・田中(清)・ (片岡(紀))・(岡)	物理学基礎演習Ⅱ	片岡(啓)	数学基礎演習 II 英語基礎演習 II	土田・田中(清)・ (片岡(紀))・(岡) 榎本(晩)	データサイエンス・AI応用基礎 I	三町・山本(修)・ 杉浦・齊藤・山田 (宗)・冨田
	H	6			無機化学Ⅱ	才田	物質構造学	小澤(理)	技術者倫理	(成瀬)	英語コミュニケーションⅣ	ラングリッツ・相川・森(法)・加藤		
		1										川・森(法)・加藤 (佳)・永井		
	A	2	高分子化学 I	田浦	生化学	田中(正)	無機化学演習	池遊	アジア文化論Ⅱ 欧米文化論Ⅱ	(本村)・(菅沼) 森口・(大橋)	体育科学Ⅳ	加藤(幸)・鈴木 (茂)・高田・門間・ 内田・永田(恵)・		
		L	分光化学	田中(正)	ドイツ情収	(星)・(中村(実))					応用化学実験Ⅱ	高橋・高山・鈴木 永田・才田・田		
	応用化学専攻	3	3		フランス語IV 中国語IV	(重見) 大知・(何)・(マイ						浦・田中(正)		
	**	ŀ.	物理化学演習	丸山	量子化学演習	ラー) 才田	量子化学Ⅱ	才田			応用化学実験Ⅱ	永田・才田・田 浦・田中(正)		
		Ľ	地学実験Ⅱ	齊藤(穀)・(市原)	地学Ⅱ	(III)MD						M MT(M)		
2		5			-07-									
2 年次		1	材料力学Ⅱおよび演習	宇佐美			量子力学Ⅱおよび演習	関ロ			国体物性Ⅱおよび演習	田中(崇)		
		2	材料力学Ⅱおよび演習	宇佐美	英語コミュニケーションⅣ	ラングリッツ・相 川・森(法)・加藤 (性)・永井	量子力学Ⅱおよび演習	関ロ	アジア文化論Ⅱ 欧米文化論Ⅱ	(本村)・(菅沼) 森口・(大橋)	国体物性Ⅱおよび演習	田中(業)		
	B·材料 料	3	統計力学	田中(崇)	材料機能工学実験 I	関ロ・六田・赤 堀・根本(和)	電子回路	岩谷			技術者倫理	(大野)		
	材料機能工学専攻	,			材料機能工学実験 I	関口・六田・赤 堀・榎本(和)			ドイツ語IV フランス語IV	(星)・(中村(実)) (重見)				
	攻	Ė							do testa iv	大知・(何)・(マイ ラー) 加藤(幸)・鈴木				
		5 地子采装 I 齊豪(般)-(市原) 地学 I (川瀬)		(III)#D			体育科学型	7—)						
H	Н	6			電子材料	池邉			先端技術管理(OZ合同)	(書田)	流動現象学	(岩瀬)		
		Ľ										永田·中村(忠)・		
		2	表面化学	丸山	国際経済論	名和	分離精製工学	(池田)	ブラクティカル・イングリッシュ II	(C.G.Wood)* (R.Harris)* (J.Sichi)*(G.Van Horn)* (M.Marshall)	化学・物質ゼミナール	丸山・池礁・小澤 (理)・才田・田浦・ 田中(正)・谷口		
	A				心理学	(濱家)・(三ツ村)								
	応用化学専攻	3	エネルギー工学	中村(忠)	無機材料化学Ⅱ	中村(忠)·池邊· 才田·谷口	応用化学実験Ⅳ	中村(忠)·池邊· 小澤(理)·谷口						
	専攻		有機機能化学	田浦	ブラクティカル・イングリッシュ Ⅱ	(C.G.Wood)* (R.Harris)* (J.Sichi)*(G.Van	応用化学実験型	中村(忠)·池邊· 小澤(理)·谷口	ブラクティカル・イングリッシュ II	(C.G.Wood)* (R.Harris)* (J.Sichi)*(G.Van				
		4				Hom)* (M.Marshall)				Horn)* (M.Marshall)				
3 年次		5												
	Г	1			工業材料化学	赤斑	光·誘電工学	竹内	先端技術管理(OZ含同)	(書田)	材料機能工学実験Ⅱ(隔週)	上山·竹内·宇佐 美·赤堀·今井· 榎本(和)		
		Ė								(C.G.Wood)*		上山·竹内·半佐		
	В	2	表面化学		国際経済論		半導体工学	岩谷	ブラクティカル・イングリッシュⅡ	(R.Harris) • (J.Sichi) • (G.Van Horn) • (M.Marshall)	材料機能工学実験目(隔週)	美·赤坂·今井· 榎本(和)		
	村料鄉				心理学	(濱家)・(三ツ村)				SEL NO WAS NO		Ediction -		
	· 材料機能工学専攻	3	國体物性IV	今井	半導体デバイス	ĿШ	高分子·複合材料	榎本(和)	化学・物質ゼミナール	岩谷・宇佐美・上 山・関口・竹内・ 六田・赤堀・今 井・榎本(和)・田 中(崇)	材料機能工学実験Ⅲ(隔週)	上山·竹内·宇佐 美·赤堀·今井· 榎本(和)		
	×	4	材料強度学	宇佐美							材料機能工学実験目(隔週)	上山·竹内·宇佐 美·赤堀·今井· 榎本(和)		
		5												
H	А	6												
	応用	3												
	A·応用化学専攻	5												
4 年次	_	6												
~	B · 材料機能	2												
	龍能	1	 	-					l			-	l	

[卒業研究] 4年次 通年料目

岩谷 素類	丸山 隆浩	才田 隆広
宇佐美 初彦	六田 英治	田浦 大輔
上山 智	赤斑 俊和	田中 崇之
関ロ 寛人	今井 大地	田中 正剛
竹内 哲也	池邉 由美子	谷口 彩乃
永田 央	榎本 和城	
中村 忠司	小澤 理樹	

学術雑誌等一覧

現在取り扱う学術雑誌のうち「理工学部化学・物質学科」に関わるもの

NO	区分	品名	出版社	備考
1	電子ジャーナル	Nature+ Nature Digest	シュプリンガー・ネイチャー	
2	電子ジャーナル	Science Online	AAAS	
3	電子ジャーナル	Journal of Applied Physics with extended backfiles	AIP Publishing	
4	電子ジャーナル	IOP Consortium for JUSTICE Science Extra Package	IOP Publishing(英国物理学会出版局)	69タイトル
5	電子ジャーナル	Physical Review Letters	American Physical Society	
6	電子ジャーナル	Wiley Blackwell	Wiley	904タイトル
7	電子ジャーナル	医中誌Web	ユサコ	
8	電子ジャーナル			
9	電子ジャーナル			
10	電子ジャーナル			

平成23年4月1日 規程

(目的)

第1条 この規程は、学校法人名城大学又は名城大学若しくは名城大学附属高等学校(以下「本法人」という。)の社会的 説明責任を果たすため、保有する情報の公開と開示に関する必要な事項を定めることを目的とする。

なお、保有する情報のうち個人情報の取り扱いに関する事項については、別に定める「個人情報の適正な取り扱いに関する規程」に基づくものとする。

(定義)

第2条 この規程において、「情報」とは、本法人の役員又は職員(以下「職員等」という。)が職務上作成した文書、図画及び電磁的記録であって、本法人の職員等が組織的に用いるものとして、本法人が保有しているものをいう。

(情報公開の範囲)

- 第3条 本法人は、次の各号に掲げる情報を閲覧に供する方法及びホームページ等を通じて、公開するものとする。
 - (1) 理念・目的等に関する情報
 - (2) 本法人に関する基本情報
 - (3) 経営及び財務に関する情報
 - (4) 教育研究活動に関する情報
 - (5) 学生・生徒支援に関する情報
 - (6) 授業料等及び奨学金に関する情報
 - (7) 教育・研究環境に関する情報
 - (8) 社会貢献に関する情報
 - (9) 評価に関する情報

(開示情報の請求)

第4条 前条により公開する情報以外のものについて、開示を請求しようとする者(以下、「開示請求者」という。)は、本法人所定の様式による「情報開示請求書」を渉外部に提出しなければならない。

なお、財務資料等の閲覧に関する詳細は、別に定める「財務資料等の閲覧に関する要項」に基づくものとする。 (委員会)

- 第5条 本法人は、情報公開の範囲及び情報開示の請求並びに関連する事項を審議するため、情報公開・開示委員会(以下、「委員会」という。)を設置する。
- ② 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。
 - (1) 寄附行為第7条の3に基づき選任された理事 1名
 - (2) 事務局長
 - (3) 理事長が指名する者 若干名
 - (4) 学長が指名する者 若干名
- ③ 委員会には委員長を置き、委員の互選により決定する。
- ④ 委員長は、委員会の議長となる。
- ⑤ 委員会は、3分の2以上の委員の出席により成立し、議事は出席委員の過半数をもって決する。可否同数の場合は、委員長の決するところによる。

(事務)

第6条 委員会の事務は、渉外部が分掌する。

(補則)

第7条 この規程に定めるもののほか、情報公開・開示に関し、必要な事項は、理事長が定める。

附則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附則

この規程は、平成24年8月1日から施行する。

附則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

附則

この規程は、令和2年6月1日から施行する。

科目名	職業指導論											
担当者氏名	鵜飼 愛一郎											
全開講対象学科	理工学部化学・物質学科											
年次	3年次											
クラス	±5.40											
講義学期 単位数	前期 2											
必選区分	選択科目											
学期・曜日・時限												
部門	総合基礎部門·総合基礎科目											
備考												
準備学習・事後学習	・我が国の産業や経済の情勢と若年者の職業観・勤労観等について情報を明確にし、自らの考えとしてコメントできるようにしておく。 ・講義前には授業計画の【内容欄】に記された課題(1時間程度)を、請めたりして提出する。 ・復習小テストを行うこともあるので、配付プリント等により復習(1時配付課題に取り組む(1時間程度)。	義後には講義の趣旨や本時のポイント(1時間程度)をまと										
課題・定期試験に対する フィードバック	提出されたレポートを評価し、講義時に返却するので振り返りを行うこと。											
履修上の留意	この講義は、工業教育に携わる学生に必要な職業指導の基礎的な内容を修得するとともに、自らのキャリア形成を図るための科目である。教員採用試験・就職に向け、科目履修に前向きに取り組むことが大切である。・「授業に出席する」、「予習・復習する」を守ること。・20分以上の遅刻は3回で1回の欠席とする。・居眠りやスマートフォン等の操作など、受講にふさわしくない行為は厳禁とする。											
授業の概要と目的	・将来、工業科教員として生徒を対象に行う職業指導やキャリア教育の基礎的内容について学修する。また、働くことの意義や職業について理解させ、職業を選択し、就職するといった一連のプロセスを中心に、生活することを念頭に置いて、それぞれの場面での課題や職業人としての在り方について学修する。 ・本講義は工業科の指導者として必要となる職業指導とキャリア教育の幅広い知識と指導力とともに、倫理観及び豊かな人間性を身に付けることを目的とする。											
アクティブ・ラーニング	本講義では、適宜少人数のグループに分かれ、職業指導やキャリア教育における課題等について、グループワークやディスカッション を行い理解を深める。											
該当するCP(カリキュラム・ポリシー)およびDP (ディプロマ・ポリシー)	本授業は、DP3 CP1.4に該当する。											
実務経験と授業内容の関係	教員経験を活かし、高校等の指導者を目指す学生に、職業指導やキャリア	教育の基礎教育を行う。										
サブタイトル	職業指導と職業的自己実現											
到達目標	1職業の意義を知り、職業と社会の関係を理解できる。2自らの望ましい聯 として必要な職業指導やキャリア教育の幅広い専門的知識と実践的な指導											
	【項目欄】	【内容欄】										
	【遠隔授業】1職業の意義 ・本授業回は遠隔授業です。WebClassに授業動画、課題等を提示しま	本授業(対面授業)に際し、背景的知識として知っておくべき最近の終済状況。屋田状況、若年者の就職状況等について学修しま										
	1. す。	す。										
	職業の今日的課題①	働く意味、転職、ミスマッチ、派遣労働者の増加、ホワイト・ブ										
		ラック企業等職業に関する今日的課題について学修する。 事前に「転職、ミスマッチ、派遣労働者の問題」についてレポー										
	2.	事前に「転職、ミスマッチ、派遣労働者の向越」についてレホートにまとめ提出する。講義後に、講義で学んだことを踏まえて、										
		講義の趣旨や本時のポイント等をレポートにまとめ提出する。										
	職業の今日的課題(2)	 産業構造の変化と職業、経済社会の推移について、今日的課題も										
	3.	含めて、少人数のグループに分かれ、ディスカッションを行い理解を深める学修をする。 事前に「産業構造の変化と職業」についてレポートにまとめ提出する。講義後に、講義で学んだことを踏まえて、講義の趣旨や本時のポイント等をレポートにまとめ提出する。										
	職業適性											
	概案適性	適性と適応、職業適性の指定要素、自己理解とその方法について 学修する。 事前に「自らが希望する職業にどのような適性が必要であるか」 レポートにまとめ提出する。講義後に、講義で学んだことを踏ま えて、講義の趣旨や本時のポイント等をレポートにまとめ提出す										
		ప .										

	職業適性検査・職業適性を規定する	而 D	##						
	概果週往快登・職業週往を規定する5	作業検 性等に 事前に まとめ	性検査の種類、職業適性を規定する要因、性格検査・精神 査について学修する。少人数のグループに分かれ、職業適 おける問題点についてディスカッションを行う。 「一般職業適性検査とYG性格検査」についてレポートに 提出する。講義後に、講義で学んだことを踏まえて、講義 や本時のポイント等をレポートにまとめ提出する。						
	教育訓練・能力開発	修につ 事前に め提出 旨や本	意義と方法、OJTとOffJT、キャリア開発、教員研いて学修する。 「教育訓練・能力開発の実践例」を調べてレポートにまとする。講義後に、講義で学んだことを踏まえて、講義の趣時のポイント等をレポートにまとめ提出する。						
	学校教育と職業教育	ついて 事前に ポート	革の流れ、職業指導、進路指導、キャリア教育の必要性に 学修する。 「職業指導、進路指導、キャリア教育の進展」についてレ にまとめ提出する。講義後に、講義で学んだことを踏まえ 義の趣旨や本時のポイント等をレポートにまとめ提出す						
	進路指導の学校教育における位置づ	保護と 修する につい 事前に	導要領での位置づけ、進路指導の組織と計画、個人情報の情報開示、ガイダンスとカウンセリングの関係について学。少人数のグループに分かれ、進路指導等における問題点でディスカッションを行う。、「個人情報の保護と情報開示」についてレポートにまとする。講義後に、講義で学んだことを踏まえて、講義の趣						
授業計画	進路選択と進路相談	進路相 事前に にまと	時のポイント等をレポートにまとめ提出する。 談の計画、進路相談の進め方について学修する。 、「自らの高校時代の進路相談の状況」についてレポート め提出する。講義後に、講義で学んだことを踏まえて、講 旨や本時のポイント等をレポートにまとめ提出する。						
	進路の決定	ターに 事前に ポート	決定、関係法令、就職希望者への対応、ニートとフリー ついて学修する。 「フリーターとニートの現状とその原因」について調ベレ にまとめ提出する。講義後に、講義で学んだことを踏まえ 義の趣旨や本時のポイント等をレポートにまとめ提出す						
	工業教育におけるキャリア教育の意識	する。 等にお 事前に とめ提	ア教育の背景、定義、目標、意義、自己実現について学修 少人数のグループに分かれ、個人と組織・人とのつながり ける問題点についてディスカッションを行う。 「キャリア教育が提唱された背景」についてレポートにま 出する。講義後に、講義で学んだことを踏まえて、講義の 本時のポイント等をレポートにまとめ提出する。						
	工業教育におけるキャリア教育と職業	教育の 事前に 出する	専門学科と普通科における職業教育、職業教育を通したキャリア教育の重要性について学修する。 事前に「キャリア教育と職業教育の相違」をレポートにまとめも 出する。講義後に、講義で学んだことを踏まえて、講義の趣旨や 本時のポイント等をレポートにまとめ提出する。						
	工業教育におけるキャリア教育の展 13.	インタ る。少等 方法前に できる 学んだ	ーンシップの位置付け、インターンシップの目的と効果、 ーンシップ充実のための方策と留意事項について学修す 人数のグループに分かれインターンシップの効果的な実施 についてディスカッションを行う。 「インターンシップの実践例とどのような教育効果が期待 か」を調べレポートにまとめ提出する。講義後に、講義で ことを踏まえて、講義の趣旨や本時のポイント等をレポー とめ提出する。						
	職業選択と就職活動	イダン に分か 行う。 事前に 提出す	択の意義と心構え、就職活動の実践、学校における就職ガス、採用試験と面接について学修する。少人数のグループれ就職活動における問題点等についてディスカッションを「企業が求める人材像」について調べてレポートにまとめる。講義後に、講義で学んだことを踏まえて、講義の趣旨のポイント等をレポートにまとめ提出する。						
	職業問題の現状	人数の スカッ 事前に か」自 する。	抱える現代社会における職業の問題について学修する。少グループに分かれ就職活動における問題点等についてディションを行う。 「働きがいのある職場とは、どのような職場環境であるのらの考えをまとめ、発表できるようレポートにまとめ提出講義後に、講義で学んだことを踏まえて、講義の趣旨や本イント等をレポートにまとめ提出する。						
	【書籍名】 1. プリントを配付する	【著者】	【出版社】						
テキスト	2.								
	4. 5.								
		·							
	【書籍名】	【著者】	【出版社】						
	1. 進路指導・キャリア教育の理論と実施 新時代のキャリア教育と職業指導 2.	佐藤史人・伊藤一雄・佐々木	日本文化科学社 英一・堀内達 法律文化社						
参考文献	3. 高等学校 キャリア教育の手引き	夫 文部科学省	教育出版						
	4. 高等学校学習指導要領 5.	文部科学省							

授業方法の形式	講義												
授業の実施方法	遠隔授業と対面授業												
成績評価方法	・定期試験60%: 講義内容の基礎的事項40%、応用事項20% ・課題レポート20%: 予習レポート10%、復習レポート10% ・講義への参加意欲20%: 態度と姿勢10%、発言と質問頻度(ディスカッション時の発言内容等含む)10% を基準とし総合評価する。講義回数の3分の2以上の出席に満たない場合は欠格とする。												
成績評価基準	C (合格) となるためには、到達目標を最低限達成することが必要である。												
受講生へのメッセージ	人は職に就いて職業人となり、初めて社会人となります。しかしその過程の、若者の社会的・職業的自立や学校から社会・職業への円 滑な移行に課題があると言われています。本講座では将来の工学関係の指導者として、職業についての知識と理解を深め、適切な職業 選択や職業的自己実現を図るために必要な職業指導力を高めることができます。また、職業に関する基礎的な事項を学習し、受講者自 身のキャリア形成と職業的自己実現を図ることも可能です。												
参考URL	表示名 URL 說明 厚生労働省 https://www.mhlw.go.jp/ 文部科学省 https://www.mext.go.jp/ 3.												

学生の確保の見通し等を記載した書類

目次

1	新設組織の概要	•	•	• •	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	P.2
2	人材需要の社会的	な!	動[句等		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	•	•	P.2
3	学生確保の見通し	•	•		•	•	-	•	•	•	•	•	•	•	-	•	•	•	-	•	•	-	•	-	-	•	P.4
4	新設組織の定員設	定	のヨ	里由	ı																						P.9

1. 新設組織の概要

(1)新設組織の概要

新設組織	入学定員	編入学定員	収容定員	所在地
名城大学理工学部	150		000	天白キャンパス
化学・物質学科	150	_	600	名古屋市天白区塩釜 口一丁目 501 番地

(2)新設組織の特色

本学では、立学の精神「穏健中正で実行力に富み、国家、社会の信頼に値する人材を育成する」のもと、各学部・研究科において人材養成目的を策定し、掲げる人材を養成するための教育・研究活動を実施している。

その中で、本学理工学部化学・物質学科の人材養成目的は、「『原子・分子レベルで化学物質を精密に設計・合成する化学的知見および技術』もしくは、『材料の構造・性質・プロセスを理解し、材料開発に必要な科学・技術』を修得し、化学と物理学の学際領域に位置する物質科学分野における研究者・技術者の育成を目指す。」としている。そのような人材を養成するために、化学と物理学の学際領域を強化することで、化学と材料学(物理学)の融合を目指し、その融合された知識を駆使した教育研究を確立し、物質科学研究の拠点となり、次代を担う研究者・技術者の育成を目指している。

学科を新設するにあたり、これまで行ってきた教育研究を基盤としながら、物質科学分野における教育研究を次世代のレベルに昇華し、当該分野における次世代の研究者・技術者を育成するために、以下の材料機能工学科及び応用化学科の学生募集を令和8年4月に停止する。

既設組織	入学定員	編入学定員	収容定員	所在地	
名城大学理工学部 材料機能工学科	80	1	320	天白キャンパス名古屋市天白区塩釜ロー丁目 501 番地	
名城大学理工学部 応用化学科	70	1	280	天白キャンパス 名古屋市天白区塩釜 ロ一丁目 501 番地	

2. 人材需要の社会的な動向等

(1) 新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

令和4年5月に教育未来創造会議から提言された「我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について(第一次提言)」において、①高等教育の発展と少子化の進行、②デジタル人材の不足、③グリーン人材の不足、④高等学校段階の理系離れ、⑤諸外国に比べて低い理工系への入学者等の理工系に関する課題が多く指摘されており、対策を講じる必要性に迫られている【資料1】。さらに、世界的な半導体市場の拡大を受け、半導体関連産業は人材不足が深刻となっており、国内主要8社において、今後10年間で少なくとも4万人程度の半導体人材が追加で必要になるとの推計もあり、これらに対応する人材育成は、高等教育機関に求められている喫緊の課題である【資料2】。

また本学が拠点を置く愛知県においても、令和2年11月に策定された「あいちビジョン2030」において、モノづくりを始めとした産業集積や、充実した国際交流基盤などの強みを活かしながら、あらゆる産業で新技術の活用を進め、「産業首都あいち」として、国際的なイノベーションの創出拠点を形成していくとともに、未来を拓くイノベーションを生み出す人材を育成・確保していく等のあるべき愛知の姿を掲げている【資料3】。

(2) 中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

リクルート進学総研によると、全国の 18 歳人口は令和 5 年に 109.7 万人、令和 17 年に 97.0 万人(令和 5 年度比 88.4%)となり、12.7 万人減少することを見込んでいる。一方本学が所在している愛知県では、令和 5 年に 7.0 万人、令和 17 年に 6.4 万人(令和 5 年度比 91.4%)で 0.6 万人の減少を見込んでおり、全国と比較して 18 歳人口の減少幅は緩やかになっている【資料 4】。

また愛知県は東京都、神奈川県、大阪府に続く全国第4位の18歳人口を抱えていることに加え、 リクルート進学総研の大学進学者における18歳人口の地元残留率は全国1位(令和5年72.1%) であることから、地域的にも学生を確保しやすい環境にあるといえる【資料5】。

(3) 新設組織の主な学生募集地域

前述のリクルート進学総研のリポートにもある通り、愛知県の18歳人口の地元残留率は全国1位(令和5年72.1%)と地元進学者が多いのが特徴である。学校基本調査のデータ(出身高校の所在地県別入学者数)でも愛知県に所在する大学は、愛知県に所在する高校からの進学者が64.4%、岐阜県からが10.4%、三重県からが6.5%と近隣3県だけで81.3%を占めていることを示している。これらは本学入学者についても該当しており、今回収容定員の変更を行う本学理工学部では、出身高校の所在地県別入学者数では過去3年平均で、愛知県からが73.3%、岐阜県からが12.4%、三重県からが8.2%と近隣3県だけで93.9%を占めており、本学理工学部の主な学生募集地域は愛知県・岐阜県・三重県であるといえる。

(4) 既設組織の定員充足の状況

表 1 材料機能工学科及び応用化学科における過去 5年の定員充足の状況

学科	区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
材料機能工	出願者数	858	1,299	1,032	1,279	1,057
学科	入学定員	80	80	80	80	80
	入学者数	81	88	81	83	84
応用化学科	出願者数	1,867	2,362	1,954	2,520	2,445
	入学定員	70	70	70	70	70
	入学者数	69	85	60	77	75

上記のとおり、既設組織において多くの出願者数を確保しており、本学へのニーズから今後も 定員を充足できると考えられる。

3. 学生確保の見通し

(1) 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

①既設組織における取組とその目標

詳細は②新設組織における取組とその目標と併せて記載する。

②新設組織における取組とその目標

化学・物質学科の基礎となる、理工学部材料機能工学科及び理工学部応用化学科に限らず、学 生募集のための取組は年間を通して実施している。主な取組は以下のとおりである。

- ・オープンキャンパス (7月)
- ・ 高校説明会(高校に出向いての大学概要・入試説明会)、進学相談会、資料請求(通年)

各取組の参加者数(受験対象者)と受験率及び入学率、並びに化学・物質学科設置後の目標参加者数は以下のとおりである(表 2)。学科設置後も各取組を継続し、学科の認知拡大及び志願者確保、並びに適切な収容定員管理に努めたい。

表 2 理工学部既設学科及び新設学科における取組と目標

		令和	15・6年	度入試(D平均		
学科	取組	参加者数	うち	うち			目標参加者数
 /17	4又形丘	(受験対象者)	受験	入学	受験率	入学率	(受験対象者)
		(文級別家有)	者数	者数			
材料機能工	オーフ。ンキャンハ。ス	120	40	17	33.3%	14.2%	1
学科	高校説明会						
	進学相談会	1,345	528	118	39.3%	8.8%	_
	資料請求						
応用化学科	オープ。ンキャンハ。ス	218	81	21	37.2%	9.6%	1
	高校説明会						
	進学相談会	2,325	895	97	38.5%	4.2%	_
	資料請求						
化学・物質	オーフ。ンキャンハ。ス	_	-	1	_	_	338
学科	高校説明会						
	進学相談会	_	_	_	_	_	3,670
	資料請求						

[※]参加者数(受験対象者)、うち受験者数、うち入学者数は小数第1位を四捨五入。 受験率、入学率は小数第2位を四捨五入。

③ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数

令和 5・6 年度受験生を対象に実施した、令和 4・5 年度の各取組のうち、令和 4 年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、規模縮小、人数制限の条件下で行った。条件解除後の令和 5 年度以降は復調傾向にあり、今後も各取組の参加者数を維持できる見込みである。

各取組の参加者数を維持することで、基礎となる両学科と同程度の入学定員充足率を維持する

ことができると仮定し、過去 5 年間の入学定員充足率の平均値から、化学・物質学科設置後の入学者の見込み数を算出した(表 3)。

表 3 理工学部化学・物質学科の入学者見込み数

		現行	化学・物質学科		
学科	入学定員	入学定員充足率 平均値	入学定員	入学者 見込み数	
理工学部材料機能工学科	80	1.03	150	150	
理工学部応用化学科	70	1.02	150	153	

[※]各年度の入学定員充足率、平均値ともに小数第3位を四捨五入。

入学者見込み数の算出には、基礎となる両学科の入学定員充足率平均値のうち、値の小さい応用化学科の 1.02 倍を採用。

【参考1】オープンキャンパスの来場者数実績(理工学部のある天白キャンパスの人数)

令和 2	令和 3	令和 4	令和 5	令和 6
中止	6,333	7,089	15,131	19,805

[※]新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度は開催中止。令和3・4年度は来場者数を制限。

【参考2】基礎となる両学科の入試実績

理工学部材料機能工学科 (現行の入学定員:80名)

	出願者数					合格者数				入学者数				
令和 2	令和3	令和4	令和 5	令和6	令和 2	令和2 令和3 令和4 令和5 令和6			令和 2	令和3	令和4	令和 5	令和6	
1,034	858	1,299	1,032	1,279	433	472	507	490	521	78	81	88	81	83

【参考3】理工学部応用化学科(現行の入学定員:70名)

	出願者数					合格者数				入学者数				
令和 2	令和3	令和4	令和 5	令和 6	令和 2 令和 3 令和 4 令和 5 令和 6			令和 2	令和3	令和4	令和 5	令和 6		
2,101	1,867	2,362	1,954	2,520	758	956	903	930	881	66	69	85	60	77

(2) 競合校の状況分析(立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況)

①競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性

競合校の選定理由として、本学が所在する愛知県下の大学は、前述のとおり愛知県・岐阜県・ 三重県からの進学者が多いため、愛知県に所在する大学、及び河合塾の「2025 年度入試難易予想 ランキング表(私立大)」から偏差値の近接した大学とした。その上で以下の理由と併せて立命館 大学生命科学部応用化学科、近畿大学理工学部応用化学科、中部大学工学部応用化学科、愛知工 業大学工学部応用化学科を競合校として選定した(表 4)。

立命館大学生命科学部応用化学科は入学定員が 111 名で、河合塾の「2025 年度入試難易予想ランキング表(私立大)」によると、本学理工学部化学・物質学科と同じ「工学系」に分類されてお

り、偏差値も近接し、併願されることもある。また当該学部の学位の名称は「学士(工学)」であることから競合校に選定した。

近畿大学理工学部応用化学科は入学定員が130名で、河合塾の「2025年度入試難易予想ランキング表(私立大)」によると、本学理工学部化学・物質学科と同じ「工学系」に分類されており、偏差値も近接し、併願されることもある。また当該学部の学位の名称は「学士(工学)」であることから競合校に選定した。

中部大学工学部応用化学科は入学定員が 90 名で、河合塾の「2025 年度入試難易予想ランキング表 (私立大)」によると、本学理工学部化学・物質学科と同じ「工学系」に分類されており、所在地も本学と同じ愛知県であることから併願されることもある。また当該学部の学位の名称は「学士(工学)」であることから競合校に選定した。

愛知工業大学工学部応用化学科は入学定員が130名で、河合塾の「2025年度入試難易予想ランキング表(私立大)」によると、本学理工学部化学・物質学科と同じ「工学系」に分類されており、所在地も本学と同じ愛知県であることから併願されることもある。また当該学部の学位の名称は「学士(工学)」であることから競合校に選定した。

競合校との比較、本学の優位性については次のとおり分析する。低環境負荷材料や半導体材料などの物質科学分野における新規物質・材料の設計及び合成には、化学と物理学の両面からのアプローチが基本になっているが、教育及び研究の両面において化学と物理学を横断的に修得することが出来る教育機関は限られている。本学理工学部化学・物質学科ではこのような物質科学の現状に対応して、物質科学分野における教育研究を次世代のレベルに昇華し、当該分野における次世代の研究者・技術者を育成する体制が整えられていることがあげられる。

②競合校の入学志願動向等

表 4 理工学部化学・物質学科との競合校

大学名	学部名	学科名		令和4年度	令和5年度	令和6年度
			志願者数	2,279	2,750	2,656
			受験者数			
立命館大学	生命科学部	応用化学科	合格者数	1,149	1,201	1,170
			入学者数	110	112	112
			定員充足率	0.99	1.01	1.01
	理工学部		志願者数	3,266	3,784	3,603
		応用化学科	受験者数			
近畿大学			合格者数	1,268	1,316	1,147
			入学者数			128
			定員充足率			0.98
			志願者数	747	530	817
			受験者数	729	513	796
中部大学	工学部	応用化学科	合格者数	375	372	479
			入学者数	88	74	80
			定員充足率	0.98	0.82	0.89

			志願者数		1,625
必知工業 上			受験者数		1,601
愛知工業大 工 工 学	工学部	応用化学科	合格者数		851
			入学者数	145	151
			定員充足率		1.16

※斜線箇所は公表なし

③ 学生納付金等の金額設定の理由

理工学部化学・物質学科の学生納付金は以下の通り、4 年間総額で 5,576,000 円に設定している (表 5)。

この学生納付金の設定を東海地区の競合大学と概ね同水準に設定されており、これまでの学生 募集状況等に鑑みれば、本学が提供する教育内容並びに学修環境等に対して妥当な金額として社 会から理解を得られていると考える(表 6)。

表 5 理工学部化学・物質学科の学生納付金

(単位:円)

大学・学部 学科名	年次	入学金	授業料	実験実習費 施設費等	年間総額	4年間総額
夕·比·十兴	1	200,000	1,010,000	334,000	1,544,000	
名城大学 理工学部	2	-	1,010,000	334,000	1,344,000	£ £70 000
化学・物質学科	3	-	1,010,000	334,000	1,344,000	5,576,000
11.子 初貝子科	4	-	1,010,000	334,000	1,344,000	

表 6 競合校における学生納付金(令和7年度入学生)

(単位:円)

大学・学部 学科名	年次	入学金	授業料	実験実習費 施設費等	年間総額	4年間総額
立命館大学	1	200,000	1,754,400	-	1,954,400	
生命科学部	2	-	1,754,400	-	1,754,400	7 917 600
応用化学科	3	-	1,754,400	-	1,754,400	7,217,600
加州亿子符	4	-	1,754,400	-	1,754,400	
大学・学部 学科名	年次	入学金	授業料	学生健保 共済会費	年間総額	4年間総額
近畿大学	1	250,000	1,462,000	6,500	1,718,500	
理工学部	2	-	1,492,000	6,500	1,498,500	C 204 000
応用化学科	3	-	1,522,000	6,500	1,528,500	6,304,000
/心/11/16子/14	4	-	1,552,000	6,500	1,558,500	
大学・学部 学科名	年次	入学金	授業料	教育充実費 施設設備費等	年間総額	4年間総額
中部大学	1	280,000	930,000	463,300	1,673,300	
工学部	2	-	940,000	420,000	1,360,000	5,813,300
応用化学科	3	-	950,000	430,000	1,380,000	

	4	-	960,000	440,000	1,400,000	
大学・学部 学科名	年次	入学金	授業料	教育研究 充実費等	年間総額	4年間総額
愛知工業大学 工学部 応用化学科	1	250,000	880,000	509,010	1,639,010	
	2	-	900,000	474,000	1,374,000	£ 001 010
	3	-	920,000	484,000	1,404,000	5,901,010
	4	-	940,000	544,000	1,484,000	

(3) 先行事例分析

今回の設置届出の内容は本学理工学部内における既設学科を基礎とした新学科設置であり、修 業年限や学生納付金に変更はないため本項は該当しない。

(4) 学生確保に関するアンケート調査

理工学部化学・物質学科設置にあたり、学生が確保できるかの見通しを予測するために、本学 理工学部に出願実績のある高校の在籍者(高校2年生)及びオープンキャンパス参加者(高校2 年生)を対象とした、名城大学「理工学部化学・物質学科」(仮称)設置に関するニーズ調査を実 施した。ニーズ調査の概要(表7)と結果は以下のとおり【資料6】。

①ニーズ調査の概要

表 7 ニーズ調査の概要

		高校生対象調査		
		調査①	調査②	
調査対象		理工学部に出願実績のある高校	オープンキャンパス参加者	
		の在籍者(高校2年生)	(高校 2 年生)	
調査エリア		主たる学生募集地域である岐阜	- (オープンキャンパスにて参加	
		県、静岡県、愛知県、三重県	者に直接配布)	
調査方法		高校留め置き調査	オープンキャンパスでの配布・回	
			収	
	依頼数	21,430名(189校)	_	
調査対象	有効回収	8,460名(114校)	63名	
	数	有効回収率:39.5%		
調査時期		2024年6月21日(金)~2024年7月29日(月)		
調査実施機関		株式会社 進研アド		

②ニーズ調査の結果

ニーズ調査の結果、進路を私立の4年制大学で工学系を希望する高校生の中で、本学理工学部化学・物質学科を第一志望として受験し、入学を希望すると回答した人数は103名となった。これは化学・物質学科の入学定員150名を下回っている。一方で本学入学生に対して毎年実施している学生アンケートにおいて、「名城大学の志望順位をお答えください」との設問を設定しており、化学・物質学科の基礎となっている本学理工学部材料機能工学科及び応用化学科は、令和6年度

入学生においてそれぞれ第一志望で入学した学生が 47.0% と 36.4%、第二志望は 32.5% と 33.8%、第三志望以下は 20.5% と 29.9% となっており、第一志望で入学する学生が必ずしも多くないことが特徴としてあげられる。

このことから今回のニーズ調査では、第一志望として受験し、入学を希望すると回答した人数は入学定員を下回っているが、第二志望として入学すると回答した人数が42名、第三志望として入学すると回答した人数が38名、また志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学すると回答した人数も多数いることから、本学独自の学生アンケート調査の結果を踏まえ、入学定員を充足することは十分に可能であると考えられる。

(5) 人材需要に関するアンケート調査等

社会的な人材需要については、理工学部化学・物質学科の基礎となっている学科である材料機能工学科及び応用化学科に対する企業からの求人数をみると、令和6年度には材料機能工学科に16,965件の求人があり、応用化学科には16,875件の求人があった(表8)。また、本学と企業の採用担当者との「就職情報交換会」では、情報交換を行った会社は、令和6年度には参加総数329社のうち材料機能工学科が41社、応用化学科が45社であった(表9)。以上から、新設される理工学部化学・物質学科への人材需要があり、今後も安定的な需要が見込まれると考えられる。

表 8 理工学部材料機能工学科及び応用化学科に対する企業からの求人数

名城大学	令和4年度	令和5年度	令和6年度
材料機能工学科	14,286 件	15,665 件	16,965 件
応用化学科	14,187 件	15,567 件	16,875 件

表 9 理工学部材料機能工学科及び応用化学科と就職情報交換会で情報交換を行った企業数

名城大学	令和4年度	令和5年度	令和6年度
材料機能工学科	36 社/322 社	28 社/332 社	41 社/329 社
応用化学科	32 社/322 社	30 社/332 社	45 社/329 社

4. 新設組織の定員設定の理由

1~3で述べたとおり、18歳人口は全国的に減少しており、学生確保には厳しい状況が続いていくものの、半導体をはじめとする物質科学分野の人材への需要は益々増えていくことは確実とされている。そのような社会からのニーズに応える今回の新学科設置には社会的意義があり、本学としても十分可能な社会貢献でもあると考えられる。

今回の学科の設置で理工学部の改組は終わりではなく、今後も社会のニーズに応えられる大学 を目指し、日々新たな形を目指して模索していく。

学生の確保の見通し等を記載した書類

資料目次

【資料1】我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について		P.2
(第一次提言)		
【資料 2】半導体・デジタル産業戦略		P.5
【資料 3】あいちビジョン 2030		P.6
【資料 4】リクルート進学総研(マーケットリポート 2023		P.9
18 歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率		
地元残留率の動向 全国版		
【資料 5】リクルート進学総研(マーケットリポート 2023		P.36
18 歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率		
地元残留率の動向 東海版		
【資料 6】名城大学「理工学部化学・物質学科」(仮称) 設置に関する		P.51
ニーズ調査結果報告書【高校生対象調査】		
別紙		
【別紙1】新設組織が置かれる都道府県への入学状況		P.71
【刈水は 】 利氏が比較が、同か-4でる中心で、大きな人子がん		F. / 1
【別紙 2】既設学科等の入学定員の充足状況(直近 5 年間)	• • •	P.72
【別紙 3】 既設学科等の学生墓隼のための PR 活動の過去の事績		P74

基本理念

我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について

教育未来創造会議 第一次提言

資料 1

- ・高等教育の発展と少子化の進行(18歳人口は2022年からの10年間で9%減少)
- ・デジタル人材の不足(2030年には先端IT人材が54.5万人不足)
- ・グリーン人材の不足

(2050カーボンニュートラル表明自治体のうち、約9割が外部人材の知見を必要とする)

- ・高等学校段階の理系離れ(高校において理系を選択する生徒は約2割)
- ・諸外国に比べて低い理工系の入学者

(学部段階: OECD平均27%、日本17%、うち女性: OECD平均15%、日本7%)

- ・諸外国に比べ少ない修士・博士号の取得者
- (100万人当たり修士号取得者:英4,216人、独2,610人、米2,550人、日588人 博士号取得者:英375人、独336人、韓296人、日120人)
- ・世帯収入が少ないほど低い大学進学希望者
- ・諸外国に比べて低調な人材投資・自己啓発

(社外学習・自己啓発を行っていない個人の割合は、諸外国が2割を下回るのに対し、

我が国は半数近く)

・進まないリカレント教育

- ・日本の社会と個人の未来は教育にある。教育の在り方を創造することは、教育による未来の個人の幸せ、社会の未来の豊かさの創造につながる。
- ・人への投資を通じた「成長と分配の好循環」を教育・人材育成においても実現し、「新しい資本主義」の実現に資する。
- ○一人一人の多様な幸せと社会全体の豊かさの実現(ウェルビーイングを実現)
- ◎ジェンダーギャップや貧困など社会的分断の改善
- ◎ 社会課題への対応、SDGsへの貢献(国民全体のデジタルリテラシーの向上や地球規模の課題への対応)
- ◎生産性の向上と産業経済の活性化
- ◎全世代学習社会の構築

◎未来を支える人材像

好きなことを追究して高い専門性や技術力を身に付け、**自分自身で課題を設定**して、考えを深く掘り下げ、**多様な人とコミュニケーション**をとりながら、**新たな価値やビジョンを創造**し、 社会課題の解決を図っていく人材

く高等教育で培う資質・能力>

リテラシー/論理的思考力・規範的判断力/課題発見・解決能力/未来社会を構想・設計する力/高度専門職に必要な知識・能力

◎今後特に重視する人材育成の視点 ⇒ 産学官が目指すべき人材育成の大きな絵姿の提示

- · 予測不可能な時代に必要な**文理の壁を超えた普遍的知識・能力を備えた人材育成**
- ・ デジタル、人工知能、グリーン (脱炭素化など)、農業、観光など科学技術や地域振興の成長分野をけん引する**高度専門人材の育成**
- ・ 現在女子学生の割合が特に少ない理工系等を専攻する女性の増加(現在の理工系学生割合:女性7%、男性28%)
- ・ 高い付加価値を生み出す修士・博士人材の増加
- ・ 全ての子供が努力する意思があれば学ぶことができる環境整備
- ・ 一生涯、何度でも学び続ける意識、学びのモチベーションの涵養
- ・ 年齢、性別、地域等にかかわらず**誰もが学び活躍できる**環境整備
- ・ 幼児期・義務教育段階から企業内までを通じた人材育成・教育への投資の強化

現在35%にとどまっている自然科学(理系)分野の学問を専攻する学生の割合についてOECD諸国で最も高い水準である5割程度を目指す など具体的な目標を設定

→ 今後5~10年程度の期間に集中的に意欲ある大学の主体性を生かした取組を推進

1. 未来を支える人材を育む大学等の機能強化



(1) 進学者のニーズ等も踏まえた成長分野への大学等再編促進・産学官連携強化

①デジタル・グリーン等の成長分野への再編・統合・拡充を促進する仕組み構築

- ・大学設置に係る規制の大胆な緩和(専任教員数や校地・校舎の面積基準、標準設置経費等)
- ・再編に向けた初期投資(設備等整備、教育プログラム開発等)や開設年度からの継続的な支援 (複数年度にわたり予見可能性を持って再編に取り組めるよう継続的な支援の方策等を検討)
- ・教育の質や学生確保の見通しが十分でない大学等の定員増に関する設置認可審査の厳格化
- ・私学助成に関する全体の構造的な見直し(定員未充足大学の減額率の引き上げ、不交付の厳格化等)
- 計画的な規模縮小・撤退等も含む経営指導の徹底
- ・修学支援新制度の機関要件の厳格化(定員充足率8割以上の大学とする等) 等

②高専、専門学校、大学校、専門高校の機能強化

- ・産業界や地域のニーズも踏まえた高専や専攻科の機能強化(デジタルなどの成長分野における定員増等)
- ・専門学校や高専への改編等も視野に入れた専門高校の充実等
- ③大学の教育プログラム策定等における企業・地方公共団体の参画促進
- ④企業における人材投資に係る開示の充実
- ⑤地方公共団体と高等教育機関の連携強化促進
- ⑥地域における大学の充実や高等教育進学機会の拡充
- ⑦地域のニーズに合う人材育成のための産学官の連携強化(半導体、蓄電池)



(2) 学部・大学院を通じた文理横断教育の推進と卒業後の人材受入れ強化

①STEAM教育の強化·文理横断による総合知創出

- ・文理横断の観点からの入試出題科目見直し
- ・ダブルメジャー、レイトスペシャライゼーションを推進するためのインセンティブ付与
- (教学マネジメント指針の見直し、設置認可審査や修学支援新制度の機関要件の審査での反映、 基盤的経費配分におけるメリハリ付け等) 等
- ②「出口での質保証」の強化
- ・設置基準の見直しなど、ST比(教員一人当たりの学生数)の改善による教育体制の充実
- ③大学院教育の強化
- ・トップレベルの研究型大学における学部から大学院への学内資源(定員等)の重点化 等
- ④博士課程学生向けジョブ型研究インターンシップの検証等
- ⑤大学等の技術シーズを活かした産学での博士課程学生の育成
- ⑥企業や官公庁における博士人材の採用・任用強化



(3) 理工系や農学系の分野をはじめとした女性の活躍推進

- ①女性活躍プログラムの強化
- ・女子学生の確保等に積極的に取り組む大学への基盤的経費による支援強化
- ・大学ガバナンスコードの見直し、女性の在籍・登用状況等の情報開示の促進
- ②官民共同修学支援プログラムの創設
- ③女子高校生の理系選択者の増加に向けた取組の推進



(4)グローバル人材の育成・活躍推進

- ①コロナ禍で停滞した国際的な学生交流の再構築
- ②産学官を挙げてのグローバル人材育成
- ・民間企業の寄附を通じて意欲ある学生の留学促進を行う「トビタテ!留学JAPAN」の 発展的推進 等
- ③高度外国人材の育成・活躍推進
- ④高度外国人材の子供への教育の推進
 - ・インターナショナルスクールの誘致等推進 等



(5)デジタル技術を駆使したハイブリッド型教育への転換

- ①知識と知恵を得るハイブリッド型教育への転換促進
- ・オンライン教育の規制緩和特例の創設 等
- ②オンラインを活用した大学間連携の促進
- ③大学のDX促進
- ・デジタル技術やマイナンバーカードの活用促進 等



(6) 大学法人のガバナンス強化

- ①社会のニーズを踏まえた大学法人運営の規律強化
 - ・理事と評議員の兼職禁止、外部理事数の増、会計監査人による会計監査の制度化 等
- ②世界と伍する研究大学の形成に向けた専門人材の経営参画の推進
- ・「国際卓越研究大学」における自律と責任あるガバナンス体制確立等
- ③大学の運営基盤の強化



(7) 知識と知恵を得る初等中等教育の充実

- ①文理横断教育の推進
- ・高校段階の早期の文・理の学習コース分けからの転換 等
- ②個別最適な学びと協働的な学びの一体的な取組の推進
- ③課題発見・解決能力等を育む学習の充実
- ④女子高校生の理系選択者の増加に向けた取組の推進【再掲】
- 5子供の貧困対策の推進
- ⑥学校・家庭・地域の連携・協働による教育の推進
- ⑦分権型教育の推進
- ⑧在外教育施設の教育環境整備の推進

2. 新たな時代に対応する学びの支援の充実



(1) 学部段階の給付型奨学金と授業料減免の中間層への拡大

・修学支援新制度の機関要件の厳格化を図りつつ、現在対象外の中間所得層について、 多子世帯や理工系・農学系の学部で学ぶ学生等への支援に関レ必要な改善の実施



(2) ライフイベントに応じた柔軟な返還(出世払い)の仕組みの創設

- ・現行の貸与型奨学金について、無利子・有利子に関わらず、現在返還中の者も含めて利用できるよう、 ライフイベント等も踏まえ、返還者の判断で柔軟に返還できる仕組みを創設
- ・在学中は授業料を徴収せず、卒業(修了)後の所得に応じた返還・納付を可能とする新たな制度を、 大学院段階において導入
- → これらにより大学・大学院・高専等で学ぶ者がいずれも卒業後の所得に応じて柔軟に返還できる 出世払いの仕組みを創設



(3) 官民共同修学支援プログラムの創設【再掲】



(4)博士課程学生に対する支援の充実

・トップ層の若手研究者の個人支援や所属大学を通じた機関支援等の充実



(5)地方公共団体や企業による奨学金の返還支援

- ・若者が抱える奨学金の返還を地方公共団体が支援する取組の推進
- ・企業による代理返還制度の活用を推進するための仕組みの検討 (日本学生支援機構以外の奨学金や、海外の奨学金も含む)



(6) 入学料等の入学前の負担軽減

・入学料の納付が困難な学生等について、納入時期を入学後に猶予する等の弾力的な 取扱いの徹底



(7)早期からの幅広い情報提供

・奨学金に関する初等中等教育段階からの情報提供の促進

3. 学び直し(リカレント教育)を促進するための環境整備



(1) 学び直し成果の適切な評価

- ①学修歴や必要とされる能力・学びの可視化等
- ・個人の学修歴・職歴等に係るデジタル基盤整備
- ・マイナポータルと連携したジョブ・カードの電子化等
- ②企業における学び直しの評価
- ・企業内での計画的な人材育成、スキル・学習成果重視の評価体系の導入
- ・通年・中途採用等の推進、社内起業・出向起業の支援等の取組の実践の促進
- ・従業員が大学講座等で学び直し、好成績を修めた場合における報酬や昇進等で処遇する企業への新たな支援策の創設 等
- ③学び直し成果を活用したキャリアアップの促進
- ・キャリアコンサルティング・コーチングの実施、キャリアアップに向けた学び直しプランの策定と プログラムの実施、その後の伴走支援を一気通貫で行う仕組みの創設 等



(2) 学ぶ意欲がある人への支援の充実や環境整備

- ①費用、時間等の問題を解決するための支援
- ・教育訓練給付制度の対象外である者(自営業者等)に対する支援の実施
- ・人材開発支援助成金制度におけるIT技術の知識・技能を習得させる訓練を高率助成に 位置付けることなどによるデジタル人材育成の推進 等
- ②高卒程度認定資格取得のための学び直しの支援
- ③高齢世代の学び直しの促進



(3)女性の学び直しの支援

- ①女性の学び直しを促進するための環境整備
- ・地方公共団体におけるデジタルスキルの取得とスキルを生かした就労を支援するための地域の 実情に応じた取組に対する地域女性活躍推進交付金による支援 等
- ②女性の学び直しのためのプログラムの充実
- ・地域の大学・高専等における女性向けを含むデジタルリテラシー向上や管理職へのキャリアアップ等のために実施する実践的なプログラム等への支援等



(4) 企業・教育機関・地方公共団体等の連携による体制整備

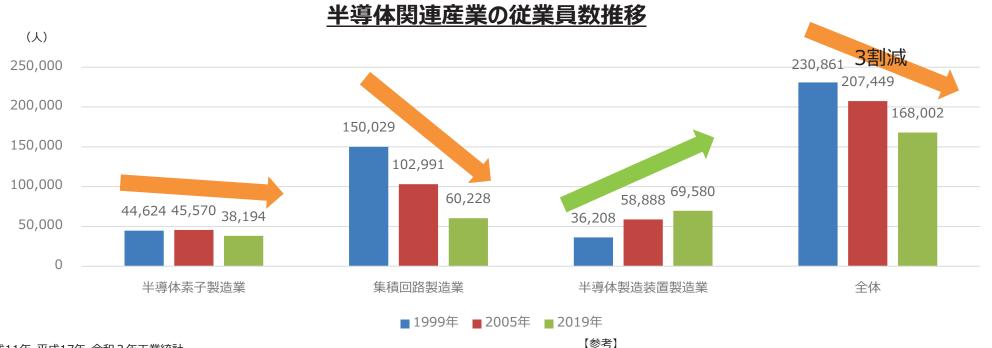
- ①リカレント教育について産学官で対話、連携を促進するための場の設置
- ・都道府県単位で産学官関係者が協議する場の整備
- ・地域の人材ニーズに対応した教育訓練コースの設定、教育訓練の効果検証等の推進
- ・地域の産学官が連携して人材マッチング・育成等を総合的に行う「地域の人事部」の構築
- ②企業におけるリカレント教育による人材育成の強化
- ・企業と大学等の共同講座設置支援
- ・企業におけるリカレント教育推進に向けたガイドラインの策定
- ③大学等におけるリカレント教育の強化
- ・大学における継続的なリカレント教育の実施強化を行うためのガイドラインの策定
- ・リカレント教育推進に向けた組織の整備等、産業界を巻き込んだ仕組みづくりの支援
- ④地域におけるデジタル・グリーン分野等の人材育成
- ・DX等成長分野のリテラシーレベルの能力取得・リスキリングを実施するプログラムへの支援
- ・脱炭素化に向けた高等教育機関が地域と課題解決に取り組む中での人材育成の支援
- ・農業大学校等におけるスマート農林水産業のカリキュラム充実、デジタル人材育成
- ・IT、マーケティング、地域振興の知見・スキルを有する観光人材の育成推進 等

3. 半導体・デジタル産業戦略(令和3年6月公表)の実施状況 (1) 半導体分野

が国の半導体関連産業の人材動向

資料2

- 半導体関連事業所の減少に伴い、**従業員数も基本的に減少傾向**。半導体製造装置製造業は増加傾向であるも のの、集積回路製造業は大幅減。全体として20年間で約3割減。
- 足下では、今後の世界的な半導体市場の拡大見込みを受けて、**半導体関連産業は人材不足の状態**。
- 例えば、主要8社で、**今後10年間で少なくとも4万人程度の半導体人材が追加で必要**になると見込まれている。



【出典】平成11年·平成17年·令和2年工業統計

※令和2年調査においては、便宜上、「半導体素子(光電変換素子を除く)」と「光電変換素子」を合計して 「半導体素子」としている

※「全体」は、「半導体素子製造業」「集積回路製造業」「半導体製造装置製造業」の合計

- 半導体素子:ダイオード、トランジスタ、サーミスタ、など
- ✓ 集積回路: MCU、MPU、DRAM、SRAM、フラッシュメモリ、CMOSイメージセンサ、など
- ✓ 半導体製造装置:レジスト処理装置、電子ビーム露光装置、ダイシング装置、など

電子情報技術産業協会(JEITA)の示した今後10年間の半導体人材の必要数

北海道・東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州	合計
6,000人	12,000人	6,000人	4,000人	3,000人	9,000人	40,000人



あいちビジョン 2030

暮らし・経済・環境が調和した輝くあいち

~危機を乗り越え、愛知の元気を日本の活力に~

一学生確保(資料)-6-

\prod

めざすべき愛知の姿

- 1 危機に強い愛知
 - 2 すべての人が生涯輝き、活躍できる愛知
 - 3 イノベーションを創出する愛知
 - 4 世界から選ばれる魅力的な愛知

2 すべての人が生涯輝き、活躍できる愛知

~多様性を尊重し、豊かな時間を楽しみながら、全員が活躍する社会へ~

今後、AI、IoT、ロボットなどの技術革新の急速な進展により、社会経済の大きな変化が見込まれる。

ICT化の加速により、働き方や学び方も時間と場所の制約から解放され、より豊かでゆとりある環境での暮らしを選択することが可能となっていく。

そうした新技術を活用した多様なライフスタイルの広がりや、外国人県民の更なる増加、性の多様性への認識 の広がりなどを背景に、社会で多様性を受け入れていく必要性が益々高まっていく。

人口減少や高齢化が進行する中でも、地域社会を支えていくためには、一人が複数の役割を担っていくことが 期待される「一人複役社会」が到来すると想定される。

そのため、多様な価値観を認め合う寛容さを持ち、自分の可能性を高めて、次の時代を切り拓いていく人材を育成するとともに、すべての人が、豊かな時間を楽しみながら、望む形で役割を担うことができる社会をつくっていく。そして、「人生100年時代」において、お互いが支え合いながら、地域で安心して暮らし、生涯にわたって輝き、活躍できる社会を実現していく。



【全国版】

18歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向

【将来予測 2023~2035年】

■18歳人口予測 P4~P9

- ・2023年109.7万人→2035年97.0万人(12.7万人減少)
- ・東北の減少率が高く、6県中4県で減少率20%以上
- ・2023年比減少率が高いのは東北(79.7%)、減少数が大きいのは近畿(23,357人減)

【経過推移 2014年~2023年】

■進学率(現役・過年度含)の推移 P10~P16

大学進学率(現役)

- ・2014年48.1%→2023年56.9% (8.8ポイント上昇)
- ・上昇が大きいのは、1位 北海道(135.5)、2位 四国(122.8)、3位 甲信越(121.4)※注
- ・進学率が高いのは、南関東、近畿、東海の三大都市圏

短期大学進学率(現役)

- ・2014年5.3%→2023年3.4% (1.9ポイント低下)
- ・低下が大きいのは、1位 南関東(56.4)、2位 近畿(58.3)、3位 北海道(59.3)※注
- ・進学率が高いのは、甲信越、東北、北陸

専門学校進学率 (現役)

- ・2014年17.0%→2023年16.1%(0.9ポイント低下)
- ・低下が大きいのは、1位 四国(84.7)、2位 中国(91.2)、3位 南関東(92.4)※注
- ・進学率が高いのは、北海道、北陸、九州沖縄

都道府県別進学率(現役・2023年)

・大学進学率1位は東京、短期大学進学率1位は大分、専門学校進学率1位は新潟

大学・短期大学・専門学校進学率(現役・過年度含 比較・ 2021~2023年)

- ・2023年現役と過年度含の進学率の差は、大学は0.8ポイント(過年度含が高い)
- ・短期大学は差なし。専門学校は5.8ポイント(過年度含が高い) 注)※の()内の数値は、2014年を100としたときの2023年の指数

■地元残留率の推移 P17~P25

- ・大学入学者の地元残留率は、2014年43.2%→2023年44.8%(1.6ポイント上昇)
- ・短期大学入学者の地元残留率は、2014年68.7%→2023年71.3%(2.6ポイント上昇)
- ・大学入学者の地元残留率1位は愛知(72.1%)
- ・短期大学入学者の地元残留率1位は福岡(93.3%)

■18歳人口減少率×地元残留率 P26・27

- ・大学入学者:都道府県別:2023→2035年
- ・短期大学入学者:都道府県別:2023→2035年

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社リクルート リクルート進学総研 https://souken.shingakunet.com/ ※データ等を引用される場合は出典(「リクルート進学総研」)を明記いただきますようお願いいたします。

分析・データついて

■分析・データについて

データ元:文部科学省「学校基本調査」

- ① 18歳人口概算は、文部科学省「学校基本調査」より、以下の通り定義して算出した。
 - ・ 18歳人口=3年前の中学校卒業者及び中等教育学校前期課程修了者数+「義務教育学校卒業者数(H29年度より)」
 - ・ 中学校卒業者数=高校生+フリーター+就職者 全て含む
- ② 表内の「年」に属する18歳とは、その年の3月に卒業を迎える高校3年生を指す。
- ③ 表内の「指数」とは、グラフ開始年の値を100とおいた際の値を示す。
- ④ 進学率(現役)とは、進学者数(大学・短期大学・専修学校専門課程(専門学校))÷高等学校卒業者数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)で算出した。
- ⑤ 残留率とは、自県内(地元)の大学・短期大学入学者数のうち自県内(地元)の高校出身の大学・短期大学入学者数の割合。 (浪人含)
- ⑥ 図表で利用している百分率(%)は、小数点第2位を四捨五入しているため、四捨五入の結果で数値の和が100.0にならない場合がある。
- ② エリア別分析における各エリアに含まれる都道府県については以下の通り。

北海道 : 北海道

東北: 青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島

北関東 : 茨城、栃木、群馬

南関東 : 埼玉、千葉、東京、神奈川

甲信越 : 新潟、山梨、長野 北陸 : 富山、石川、福井

東海 : 岐阜、静岡、愛知、三重

近畿 : 滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

中国:鳥取、島根、岡山、広島、山口

四国: 徳島、香川、愛媛、高知

九州沖縄:福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

【年早見表】

177027						
学校基本調査		18歳人口		3年前の中学・中等教育卒業者数		
		図表 (年)	人数	3年間の下手・下寺教育千米日数		
確報	学校基本調査公表	2023	1,097,416	(令和2年)2020年 の中学校卒業者+中等教育学校前期課程修了者+義務教育学校卒業者数		
確報	進学総研集計(予測)	2024	1,063,451	(令和3年)2021年 の中学校卒業者+中等教育学校前期課程修了者+義務教育学校卒業者数		
確報	進学総研集計(予測)	2025	1,090,562	(令和4年)2022年 の中学校卒業者+中等教育学校前期課程修了者+義務教育学校卒業者数		
確報	進学総研集計(予測)	2026	1,092,664	(令和5年)2023年 の中学校卒業者+中等教育学校前期課程修了者+義務教育学校卒業者数		
確報	進学総研集計(予測)	2027	1,085,148	(令和5年)2023年 の中学校3年生+中等教育学校前期課程3年生+義務教育学校9年生の生徒数		
確報	進学総研集計(予測)	2028	1,069,005	(令和5年)2023年 の中学校2年生+中等教育学校前期課程2年生+義務教育学校8年生の生徒数		
確報	進学総研集計(予測)	2029	1,066,810	(令和5年)2023年 の中学校1年生+中等教育学校前期課程1年生+義務教育学校7年生の生徒数		
確報	進学総研集計(予測)	2030	1,050,986	(令和5年)2023年 の小学校6年生+義務教育学校6年生の生徒数		
確報	進学総研集計(予測)	2031	1,035,215	(令和5年)2023年 の小学校5年生+義務教育学校5年生の生徒数		
確報	進学総研集計(予測)	2032	1,024,042	(令和5年)2023年 の小学校4年生+義務教育学校4年生の生徒数		
確報	進学総研集計(予測)	2033	1,013,894	(令和5年)2023年 の小学校3年生+義務教育学校3年生の生徒数		
確報	進学総研集計(予測)	2034	1,005,714	(令和5年)2023年 の小学校2年生+義務教育学校2年生の生徒数		
確報	進学総研集計(予測)	2035	970,429	(令和5年)2023年 の小学校1年生+義務教育学校1年生の生徒数		

リポート解説 進学総研所長 小林 浩

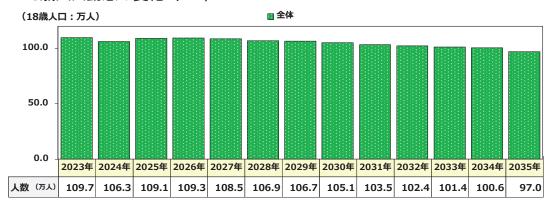
■ POINT 1 < 今後の18歳人口>

2035年には18歳人口は100万人割れの97万人に。再び人口減少フェーズに入る前、今後5年間が大学 (高等教育)の改革集中期間に

2023年の18歳人口は109.7万人でした。24年は106.3万人と22年の112.1万人から2年連続減少となりますが、今後は、24年を底に29年106.7万人とほぼ横ばいで推移します。しかし、2035年には、18歳人口が100万人を切り、再び人口減少フェーズに入ります。

大学、短大、専門学校にとってはこの5年程度が、学生募集に向けて改革を進める重要なポイントとなってくるでしょう。文部科学省の令和6年度予算編成においても「今後5年間が改革集中期間」と位置付けていることから、大学を含む高等教育機関の積極的な改革が求められます。

■18歳人口動態の変化(P.4)



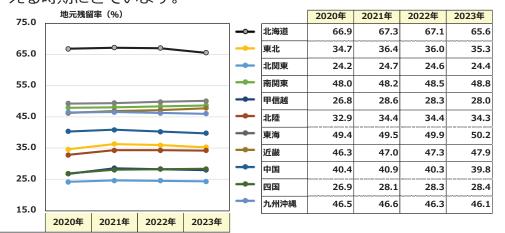
■ POINT 2 <地元残留率>

地元残留率は、過去最高(前年度横ばい)だが、23年は3大都市圏(南関東、東海、近畿)と四国のみ上昇。コロナ禍の落ち着きにより、大都市圏への流出の可能性。

地元残留率(P17)は概ね2020年より全ての地域で上昇しています。これは新型コロナウイルス感染拡大の影響により、自宅から通える地元進学を選んだ高校生が多かったことが背景にあります。今回まとめた2023年の4月においては、まだ新型コロナウイルス感染症が第5類指定されておらず、大きな変化ではありませんが既に南関東・近畿・東海・四国が前年と比べ増加し、それ以外の地域では減少という結果に。

24年には、地方から都市への地域間移動がさらに増加する可能性があり、都市と地方の格差が拡大していくことも想定しなければいけません。格差の拡大は、大学を含む高等教育機関だけの問題ではありません。

既に自治体や産業界も含めてコンソーシアムを組む地域も出てきており、課題解決に向けて地域の魅力を 高めていこうという動きも見られます。若者に地域の魅力・価値をどのように発信していくのか真剣に考 える時期にきています。



リクルート 進学総研所長 カレッジマネジメント編集長 小林 浩

18歳人口予測(全体:全国:2023~2035年)

■2023年109.7万人→2035年97.0万人(12.7万人減少)

・全体の18歳人口は、以下の3段階を経て経年的に減少する。

① 2023年~2024年:2年連続減少(109.7万人から106.3万人、3.4万人減少)。

2023~2024年の1年で3.4万人と大きく減少する。

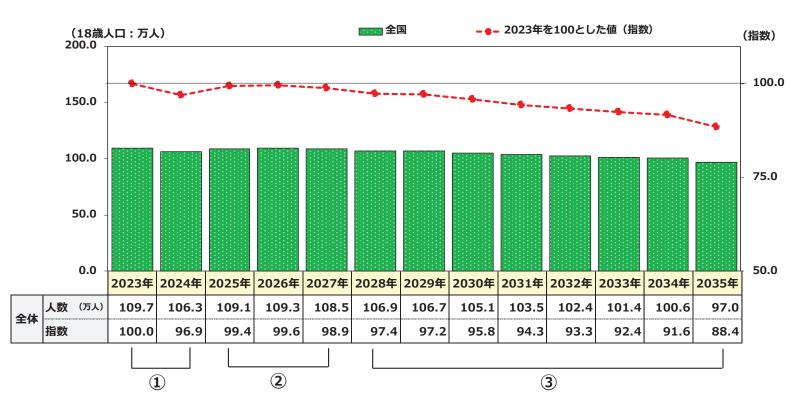
② 2025年~2027年:2025年に109.1万人と2024年106.3万人に対し2.8万人増加に転じ、

2026年は109.3万人で横ばい、2027年は108.5万人と微減が続く。

③ 2028年~2035年:2028年は106.9万人と2027年108.5万人に対し1.6万人と再び減少し、

以降、減少傾向が続く。2035年は97.0万人と2034年100.6万人から

3.6万人大きく減少して100万人を割り込む。



18歳人口予測(男女別:全国:2023~2035年)

■男女共に12年間で約12%の減少

減少のスピード・時期は男女差がほとんどない。

男子

- ・2023年56.1万人から2035年49.7万人、12年間で6.4万人減少。
- ・2025年、2026年で増加に転じるが、2027年から再び減少傾向となり2035年までに5.7万人減少している。

女子

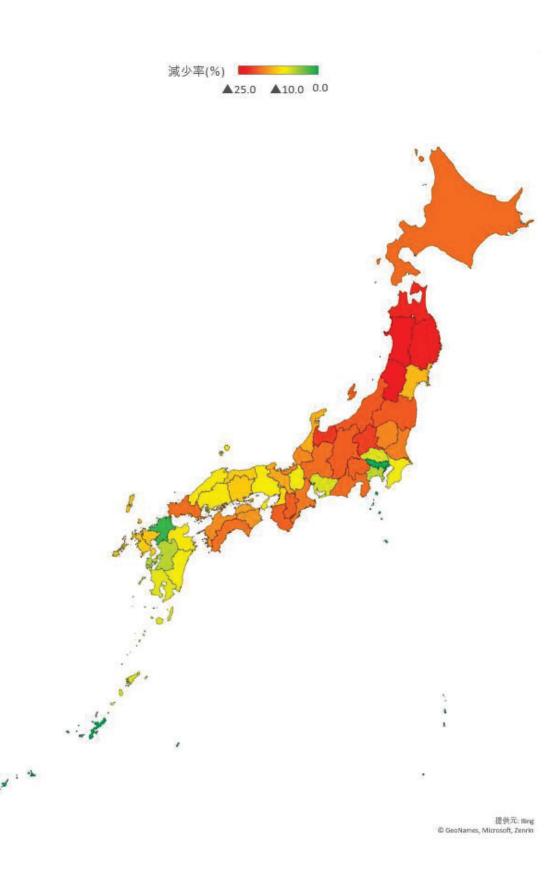
- ・2023年53.7万人から2035年47.4万人、12年間で6.3万人減少。
- ・男子と同様2025年増加に転じ、2027年までほぼ横ばいが続くが、2028年から2035年にかけて4.9万人減少している。



18歳人口予測 (全体:都道府県別:2023→2035年)

■東北の減少率が高く、6県中4県で減少率20%以上 東京・沖縄の2都県のみ増加する見込み

		単位(%)
	全国	▲ 11.6
-20.0以下	秋田	▲28.1
	山形	▲23.8
	岩手	▲22.6
	青森	▲22.2
	富山	▲21.2
	群馬	▲ 20.8
-15.0以下	新潟	▲19.4
	福島	▲19.3
	長野	▲19.1
	和歌山	▲ 19.0
	奈良	▲ 19.0
	山梨	▲18.9
	北海道	▲18.4
	静岡	▲18.4
	岐阜	▲18.2
	山口	▲18.2
	高知	▲18.0
	三重	▲ 17.7
	茨城	▲ 17.3
	栃木	▲ 16.9
	福井	▲16.8
	愛媛	▲16.5
	徳島	▲15.9
	香川	▲15.3
-10.0以下	京都	▲14.9
	石川	▲14.5
	宮城	▲ 14.0
	佐賀	▲13.3
	岡山	▲ 13.0
	鳥取	▲ 13.0
	長崎	▲ 12.9
	大阪	▲ 12.2
	広島	▲ 11.3
	大分	▲ 11.3
	島根	▲ 11.3
	兵庫	▲ 11.0
	宮崎	▲ 10.5
	滋賀	▲ 10.3
FONT	千葉	▲ 10.2
- 5.0以下	鹿児島	▲ 9.4
	埼玉 悉知	▲ 9.0
	愛知 神奈川	▲ 8.9 ▲ 7.5
	神奈川	
0.0以下	熊本 	▲ 7.5
0.0以下 0.0超	福岡 沖縄	▲ 2.1
0.0炟	沖縄 東京	1.5
	米ポ	1.6



※データ元:文部科学省「学校基本調査」

18歳人口予測(全体:エリア別:2023~2035年)

■減少率が高いのは東北(2023年比79.7%) 、減少数が大きいのは近畿(23,357人減)

- ・減少率が高いのは、1位 東北(2023年比79.7%)、2位 甲信越(80.8%)、3位 北海道(81.6%)。
- ・減少数が大きいのは、1位 近畿(23,357人減)、2位 東海(18,619人減)、3位 東北(15,267人減)。
- ・減少率が低いのは、1位 南関東(94.8%)、2位 九州沖縄(93.9%)、3位 近畿(87.1%)。
- ・エリア別の18歳人口は、以下の3段階を経て減少する。
 - ① 2023~2024年:全国では約3.4万人減少、エリアも含め減少傾向になる時期
 - ② 2024~2026年:全国で約3万人増加、人口が回復し、横ばいが続く時期
 - ③ 2026~2035年:回復後さらに減少する時期
- 注)減少率=2035年人数÷2023年人数で算出。



※データ元:文部科学省「学校基本調査」

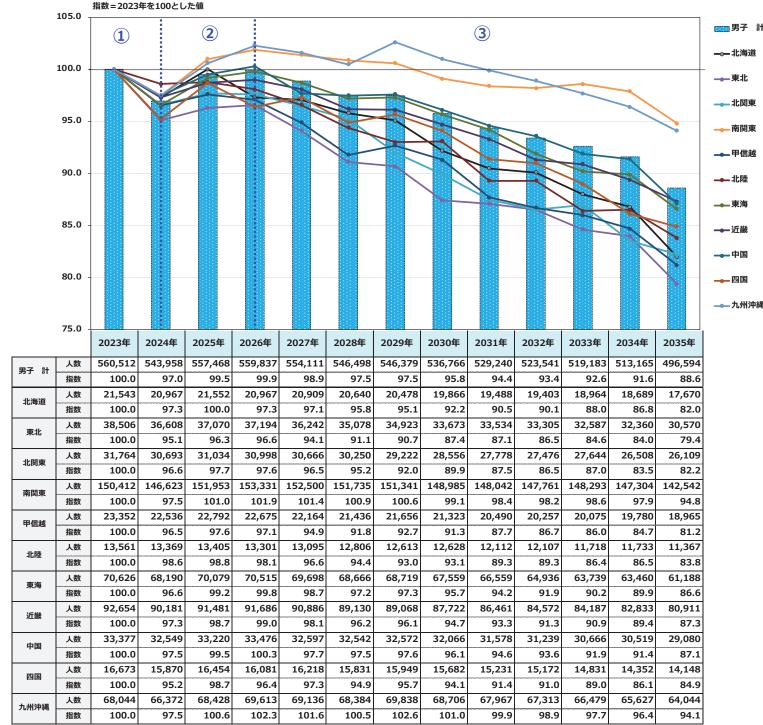
18歳人口予測 (男子:エリア別:2023~2035年)

■減少率が高いのは東北(2023年比79.4%)、減少数が大きいのは近畿(11,743人減)

- ・減少率が高いのは、1位 東北(2023年比79.4%)、2位 甲信越(81.2%)、3位 北海道(82.0%)。
- ・減少数が大きいのは、1位 近畿(11,743人減)、2位 東海(9,438人減)、3位 東北(7,936人減)。
- ・減少率が低いのは、1位 南関東 (94.8%) 、2位 九州沖縄 (94.1%)、3位 近畿 (87.3%) 。
- ・③期において2026~2035年の男子人口は、北海道(3,297人減)、東北(6,624人減)、

北関東(4,889人減)、南関東 (10,789人減)、甲信越(3,710人減) 、北陸(1,934人減) 、東海(9,327人減)、 近畿(10,775人減)、中国(4,396人減)、四国(1,933人減)、九州沖縄(5,569人減)。

注)減少率=2035年人数÷2023年人数で算出。



※データ元:文部科学省「学校基本調査」

18歳人口予測(女子:エリア別:2023~2035年)

■減少率が高いのは東北 (2023年比80.1%) 、減少数が大きいのは近畿 (11,614人減)

- ・減少率が高いのは、1位 東北(2023年比80.1%)、2位 甲信越(80.3%)、3位 北海道 (81.2%)。
- ・減少数が大きいのは、1位 近畿(11,614人減)、2位 東海(9,181人減) 、3位 東北 (7,331人減)。
- ・減少率が低いのは、1位 南関東(94.9%)、2位 九州沖縄(93.6%)、3位 近畿(86.9%)。
- ・③期において2026年~2035年の女子人口は、北海道(3,202人減)、東北(5,252人減)、 北関東(4,727人減)、南関東(9,347人減)、甲信越(3,585人減)、北陸(2,289人減)、東海(8,594人減)、 近畿(10,235人減)、中国(3,910人減)、四国(2,217人減)、九州沖縄(5,634人減)。
- 注)減少率=2035年人数÷2023年人数で算出。

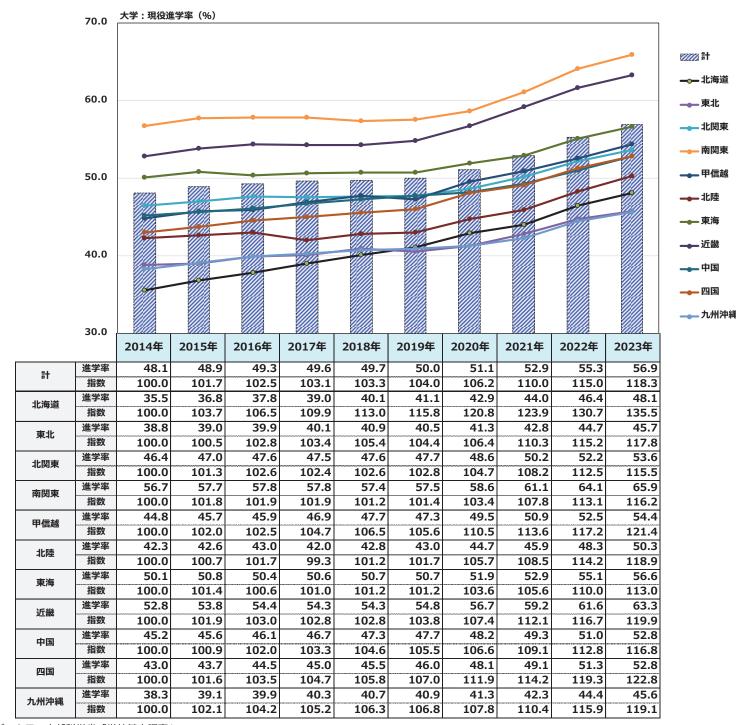


※データ元:文部科学省「学校基本調査」

大学進学率の推移(現役:エリア別:2014~2023年)

■2014年48.1%→2023年56.9%(8.8ポイント上昇)

- ・全体の大学進学率は2014年48.1%→2023年56.9%と、10年間で8.8ポイント上昇。 2019年から50%台の進学率となり、2022年には55%を超えた。 2016~2018年の3年間は横ばいのトレンド(49.3%→49.7%)。
- ・上昇が大きいのは、1位 北海道(135.5)、2位 四国(122.8)、3位 甲信越(121.4)。※注
- ・上昇が小さいのは、1位 東海(113.0)、2位 北関東(115.5)、3位 南関東(116.2)。※注
- ・2023年進学率が高いのは、1位 南関東(65.9%)、2位 近畿(63.3%)、3位 東海(56.6%)。 ※注()内は指数=2014年を100として算出

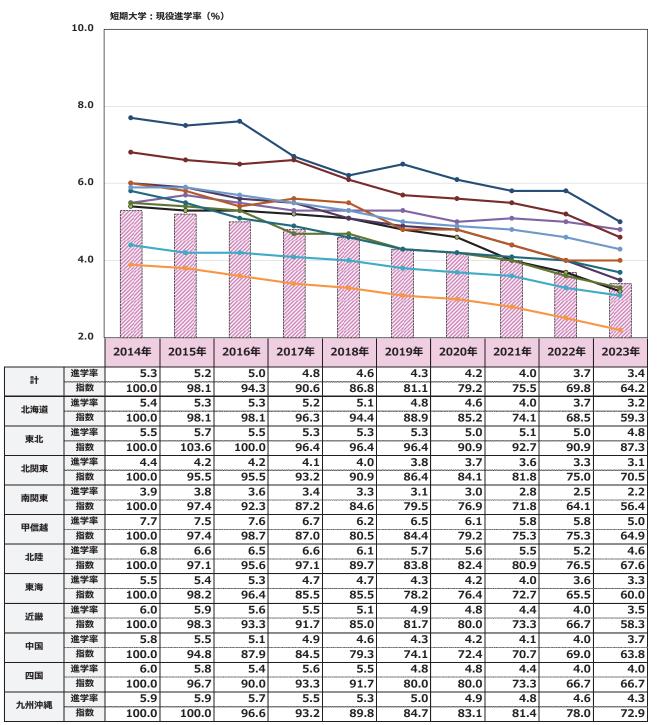


※データ元:文部科学省「学校基本調査」

短期大学進学率の推移(現役:エリア別:2014~2023年)

■2014年5.3%→2023年3.4%(1.9ポイント低下)

- ・全体の短期大学進学率は2014年5.3%→2023年3.4%と、10年間で1.9ポイント低下。
- ・低下が大きいのは、1位 南関東(56.4)、2位 近畿(58.3)、3位 北海道(59.3)。※注
- ・低下が小さいのは、1位 東北(87.3)、2位 九州沖縄(72.9)、3位 北関東(70.5)。※注
- ・2023年進学率が高いのは、1位 甲信越(5.0%)、2位 東北(4.8%)、3位 北陸(4.6%)。 ※注()内は指数=2014年を100として算出



※データ元:文部科学省「学校基本調査」

--- 北関東

—— 北陸 —— 東海

━ 近畿

中国

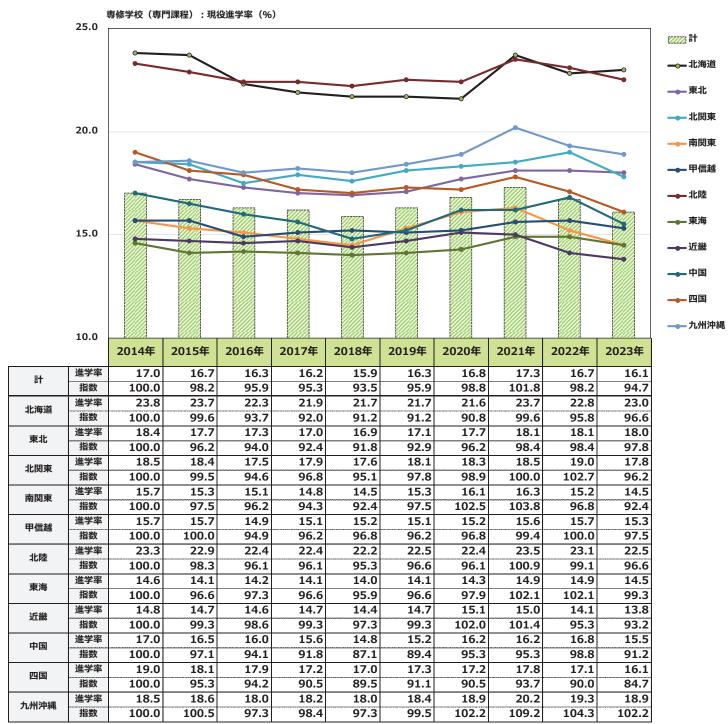
— 九州沖縄

_ 南関東 _ 田信越

専門学校進学率の推移(現役:エリア別:2014~2023年)

■2014年17.0%→2023年16.1%(0.9ポイント低下)

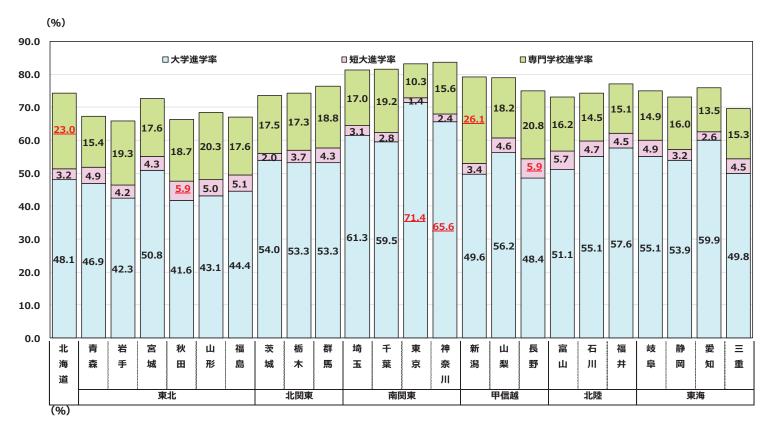
- ・全国の専門学校進学率は2014年17.0%→2023年16.1%と、10年間で0.9ポイント低下。 上昇、低下を繰り返し、ほぼ横ばい。
- ・上昇が大きいのは、1位 九州沖縄 (102.2)、2位 東海 (99.3)、3位 東北 (97.8)。※注
- ・低下が大きいのは、1位 四国(84.7)、2位 中国(91.2)、3位 南関東(92.4)。※注
- ・2023年進学率が高いのは、1位 北海道(23.0%)、2位 北陸(22.5%)、3位 九州沖縄(18.9%)。 ※注() 内は指数=2014年を100として算出

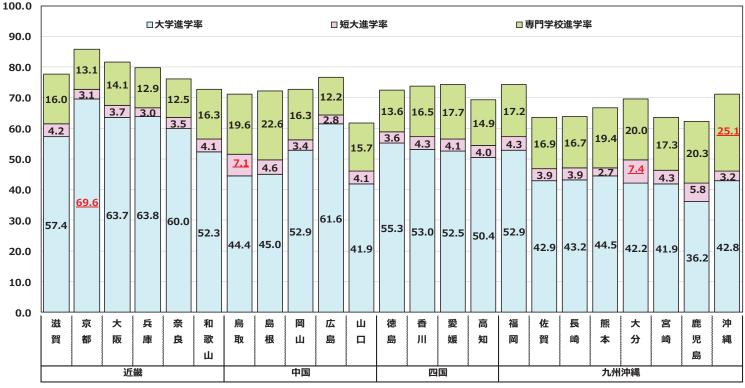


大学・短期大学・専門学校進学率(現役:都道府県別:2023年)

■大学進学率1位は東京、短期大学進学率1位は大分、専門学校進学率1位は新潟

<u>大学進学率</u> 1位:東京(71.4%) 2位:京都(69.6%) 3位:神奈川(65.6%) **短期大学進学率** 1位:大分(7.4%) 2位:鳥取(7.1%) 3位:秋田・長野(5.9%) **専門学校進学率** 1位:新潟(26.1%) 2位:沖縄(25.1%) 3位:北海道(23.0%)





大学・短期大学・専門学校進学率 (現役・過年度含 比較:全国:2014~2023年)

■2023年現役と過年度含の進学率の差は、大学は0.8ポイント(過年度含が高い)。 短期大学は現役、過年度含に差がない(4年連続)。

大学進学者

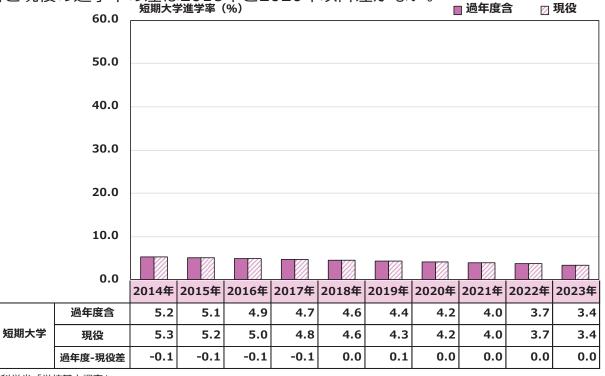
- ・現役の進学率は2014年48.1%→2023年56.9%(8.8ポイント上昇)。 過年度含の進学率は2014年51.5%→2023年57.7%(6.2ポイント上昇)。
- ・過年度含と現役の進学率の差は2014年3.4ポイント→2023年0.8ポイントと縮小。



短期大学進学者

・現役の進学率は2014年5.3%→2023年3.4%(1.9ポイント低下)。 過年度含の進学率は2014年5.2%→2023年3.4%(1.8ポイント低下)。

・過年度含と現役の進学率の差は2018年と2020年以降差がない。

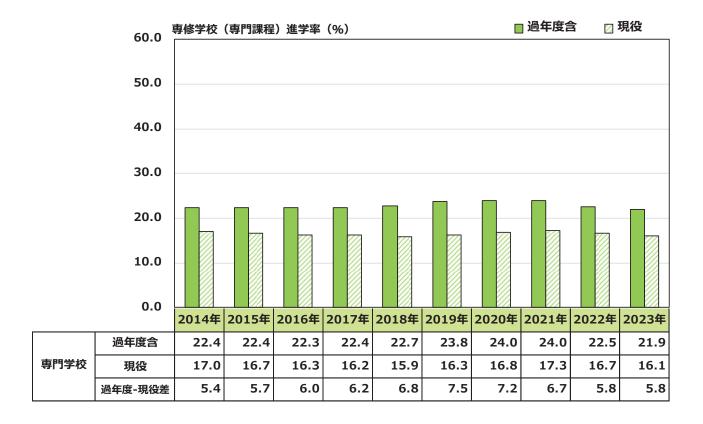


大学・短期大学・専門学校進学率 (現役・過年度含比較:全国:2014~2023年)

■専門学校で2023年現役と過年度含の進学率の差は、5.8ポイント(過年度含が高い)

専門学校進学者

- ・現役の進学率は2014年17.0%→2023年16.1%(0.9ポイント低下)。 過年度含の進学率は2014年22.4%→2023年21.9%(0.5ポイント低下)。
- ・過年度含と現役の進学率の差は2021年5.4ポイント→2023年5.8ポイントと拡大。



大学・短期大学・専門学校進学率(現役:都道府県別:2023年)

(参考) 大学・短期大学・専門学校進学率ランキング

単位(%)

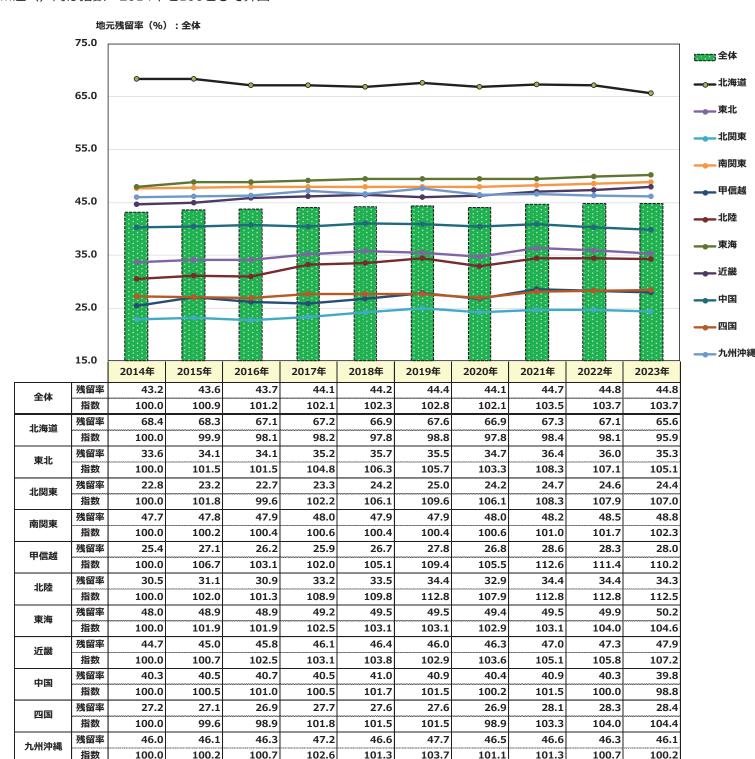
	大学				短期大学				専門学校					
1	東		京	71.4	1	大		分	7.4	1	新		澙	26.1
2	京		都	69.6	2	鳥		取	7.1	2	沖		縄	25.1
3	神	奈	Ш	65.6	3	秋		田	5.9	3	北	海	道	23.0
4	兵		庫	63.8	3	長		野	5.9	4	島		根	22.6
5	大		阪	63.7	5	鹿	児	島	5.8	5	長		野	20.8
6	広		島	61.6	6	富		山	5.7	6	山		形	20.3
7	埼		玉	61.3	7	福		島	5.1	6	鹿	児	島	20.3
8	奈		良	60.0	8	山		形	5.0	8	大		分	20.0
9	愛		知	59.9	9	青		森	4.9	9	鳥		取	19.6
10	千		葉	59.5	9	岐		阜	4.9	10	熊		本	19.4
11	福		井	57.6	11	石		Ш	4.7	11	岩		手	19.3
12	滋		賀	57.4	12	山		梨	4.6	12	千		葉	19.2
13	山		梨	56.2	12	島		根	4.6	13	群		馬	18.8
14	徳		島	55.3	14	福		井	4.5	14	秋		田	18.7
15	石		Ш	55.1	14	三		重	4.5	15	山		梨	18.2
15	岐		阜	55.1	16	宮		城	4.3	16	愛		媛	17.7
17	茨		城	54.0	16	群		馬	4.3	17	宮		城	17.6
18	静		岡	53.9	16	香		Ш	4.3	17	福		島	17.6
19	栃		木	53.3	16	福		岡	4.3	19	茨		城	17.5
19	群		馬	53.3	16	宮		崎	4.3	20	栃		木	17.3
										20	宮		崎	17.3

地元残留率の推移(全体:大学入学者数:エリア別:2014~2023年)

■2014年43.2%→2023年44.8%(1.6ポイント上昇)

- ・全体で2014年43.2%→2023年44.8%と1.6ポイント上昇。
- ・2023年上昇が高いのは、1位 北陸(112.5)、2位 甲信越(110.2)、3位 近畿(107.2)。※注
- ・2023年残留率が高いのは、1位 北海道(65.6%)、2位 東海(50.2%)、3位 南関東(48.8%)。
- ・2023年残留率が低いのは、1位 北関東(24.4%)、2位 甲信越(28.0%)、3位 四国(28.4%)。

※注()内は指数=2014年を100として算出



地元残留率の推移(男子:大学入学者数:エリア別:2014~2023年)

■2014年41.0%→2023年42.8%(1.8ポイント上昇)

- ・男子は2014年41.0%→2023年42.8%と1.8ポイント上昇。
- ・2023年上昇が高いのは、1位 北関東(110.2)、2位 北陸(109.5)、3位 近畿(107.5)。※注
- ・2023年残留率が高いのは、1位 北海道(64.8%)、2位 南関東(47.8%)、3位 東海(46.5%)。
- ・2023年残留率が低いのは、1位 北関東(21.7%)、2位 四国(24.4%)、3位 甲信越(25.0%)。

※注()内は指数=2014年を100として算出

地元残留率(%):男子 75.0 男子 計 ____ 北海道 65.0 ----東北 ___ 北関東 55.0 — 南関東 ----- 甲信越 45.0 ___ 北陸 --- 東海 35.0 ____近畿 —— 中国 25.0 ___ 四国 ____ 九州沖縄 15.0 2014年 2015年 2016年 2017年 2018年 2019年 2020年 2021年 2022年 2023年 残留率 41.0 41.5 41.6 42.0 41.9 41.9 41.7 42.4 42.6 42.8 男子 計 100.0 指数 101.2 101.5 102.4 102.2 102.2 101.7 103.4 103.9 104.4 残留率 64.8 67.1 67.5 66.1 66.8 66.6 67.1 66.5 66.8 67.1 北海道 指数 100.0 100.6 98.5 99.6 99.3 100.0 99.1 99.6 100.0 96.6 残留率 32.7 33.3 33.6 34.2 34.6 34.1 33.6 34.9 35.0 34.1 指数 105.8 100.0 101.8 102.8 104.6 104.3 102.8 106.7 107.0 104.3 残留率 19.7 20.6 19.3 20.6 21.3 22.2 20.9 22.1 21.4 21.7 北関東 指数 100.0 104.6 98.0 104.6 108.1 112.7 106.1 112.2 108.6 110.2 残留率 46.8 46.8 46.9 47.0 46.6 46.5 46.4 46.7 47.5 47.8 南関東 100.0 99.6 指数 100.0 100.2 100.4 99.4 99.1 99.8 101.5 102.1 残留率 23.7 25.4 24.3 24 5 23.3 24.7 24.1 25.4 25.2 25.0 甲信越

※データ元:文部科学省「学校基本調査」

指数

残留率

指数

残留率

指数

残留率

指数

残留率

指数

残留率

指数

残留家

北陸

東海

近畿

中国

四国

力.州沖縄

100.0

29.6

100.0

43.9

100.0

42.8

100.0

35.2

100.0

23.4

100.0

42.4

100.0

107.2

28.8

97.3

44.6

101.6

43.5

101.6

35.3

100.3

23.4

100.0

42.7

100.7

102.5

28.6

96.6

44.8

102.1

44.0

102.8

35.7

101.4

23.4

100.0

43.4

102.4

103.4

31.5

106.4

45.0

102.5

44.2

103.3

35.7

101.4

101.3

44 5

105.0

98.3

31.0

104.7

45.2

103.0

44.2

103.3

35.8

23.9

102.1

44.0

103.8

101.7

104.2

31.7

107.1

45.4

103.4

43.5

101.6

35.7

101.4

23.7

101.3

44.6

105.2

101.7

30.3

102.4

45.7

104.1

44.1

103.0

35.7

101.4

22.7

97.0

43.2

101.9

107.2

31.7

107.1

45.6

103.9

45.3

105.8

36.4

103.4

24.3

103.8

43.3

102.1

106.3

32.3

109.1

46.1

105.0

45.4

106.1

36.1

102.6

24.6

105.1

43.5

102.6

105.5

32.4

109.5

46.5

105.9

46.0

107.5

35.8

101.7

24.4

104.3

43.7

103.1

地元残留率の推移(女子:大学入学者数:エリア別:2014~2023年)

■2014年45.9%→2023年47.2%(1.3ポイント上昇)

- ・女子は2014年45.9%→2023年47.2%と1.3ポイント上昇。
- ・2023年上昇が高いのは、1位 北陸(114.5)、2位 甲信越(114.1)、3位 近畿(106.4)。※注
- ・2023年残留率が高いのは、1位 北海道(66.6%)、2位 東海(54.4%)、3位 南関東・近畿(50.0%)。
- ・2023年残留率が低いのは、1位 北関東(27.6%)、2位 甲信越(31.6%)、3位 四国(32.8%)。

※注()内は指数=2014年を100として算出

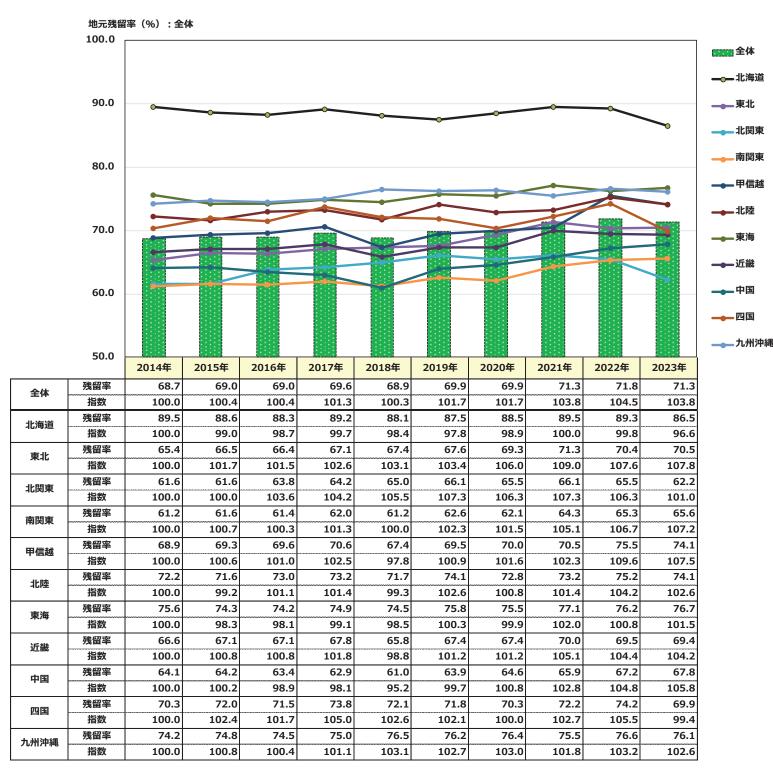


地元残留率の推移(全体:短期大学入学者数:エリア別:2014~2023年)

■2014年68.7%→2023年71.3%(2.6ポイント上昇)

- ・全体で2014年68.7%→2023年71.3%と2.6ポイント上昇。
- ・2023年上昇が高いのは、1位 東北(107.8)、2位甲信越(107.5)、3位 南関東(107.2)。※注
- ・2023年残留率が高いのは、1位 北海道(86.5%)、2位 東海(76.7%)、3位 九州沖縄(76.1%)。
- ・2023年残留率が低いのは、1位 北関東(62.2%)、2位 南関東(65.6%)、3位 中国(67.8%)。

※注()内は指数=2014年を100として算出

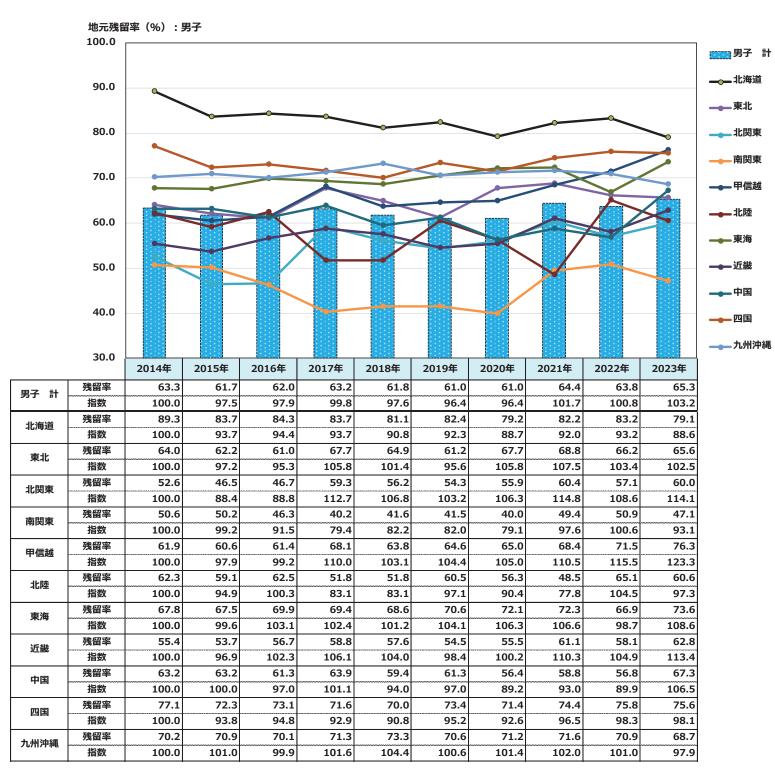


地元残留率の推移(男子:短期大学入学者数:エリア別:2014~2023年)

■2014年63.3%→2023年65.3%(2.0ポイント上昇)

- ・男子は2014年63.3%→2023年65.3%と2.0ポイント上昇。
- ・2023年上昇が高いのは、1位 甲信越(123.3)、2位 北関東(114.1) 、3位 近畿(113.4)。※注
- ・2023年残留率が高いのは、1位 北海道(79.1%)、2位 甲信越(76.3%)、3位 四国(75.6%)。
- ・2023年残留率が低いのは、1位 南関東(47.1%)、2位 北関東(60.0%)、3位 北陸(60.6%)。

※注()内は指数=2014年を100として算出

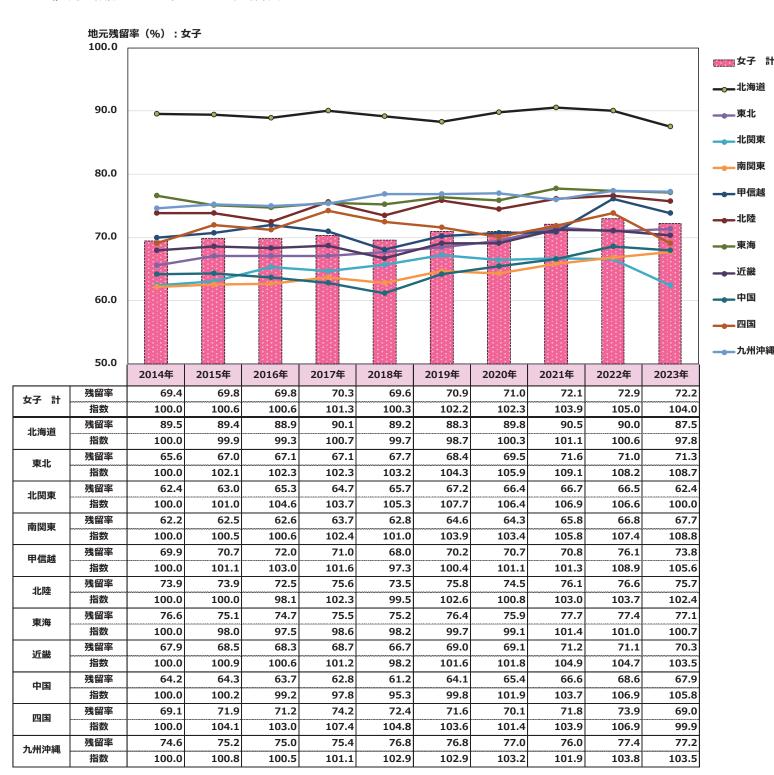


地元残留率の推移(女子: 短期大学入学者数: エリア別: 2014~2023年)

■2014年69.4%→2023年72.2%(2.8ポイント上昇)

- ・女子は2014年69.4%→2023年72.2%と2.8ポイント上昇。
- ・2023年上昇が高いのは、1位 南関東(108.8)、2位 東北(108.7)、3位 中国(105.8)。※注
- ・2023年残留率が高いのは、1位 北海道(87.5%)、2位 九州沖縄(77.2%)、3位 東海(77.1%)。
- ・2023年残留率が低いのは、1位 北関東(62.4%)、2位 南関東(67.7%)、3位 中国(67.9%)。

※注()内は指数=2014年を100として算出



地元残留率(全体:大学・短期大学入学者数:都道府県別:2023年)

■大学入学者の地元残留率1位は愛知、短期大学入学者の地元残留率1位は福岡

大学入学者地元残留率

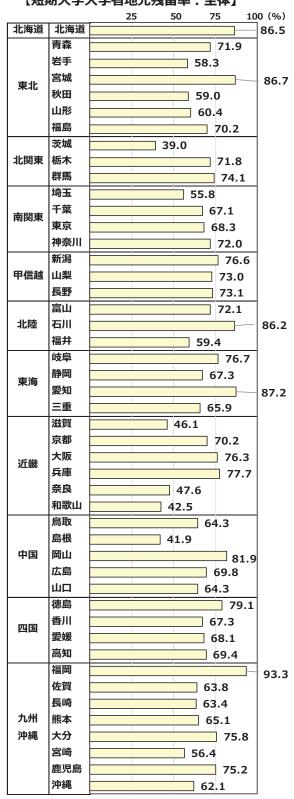
残留率が高いのは、1位 愛知(72.1%)、2位 東京(68.3%)、3位 北海道(65.6%) 残留率が低いのは、1位 奈良(15.0%)、2位 鳥取(15.1%)、3位 佐賀 (15.4%)

短期大学入学者地元残留率

残留率が高いのは、1位 福岡(93.3%)、2位 愛知(87.2%)、3位 宮城 (86.7%) 残留率が低いのは、1位 茨城(39.0%)、2位 島根(41.9%)、3位 和歌山(42.5%)



【短期大学入学者地元残留率:全体】



地元残留率(男子:大学・短期大学入学者数:都道府県別:2023年)

■大学入学者の地元残留率1位は愛知、短期大学入学者の残留率1位は福岡

大学入学者地元残留率

残留率が高いのは、1位 愛知(68.4%)、2位 東京(65.4%)、3位 北海道(64.8%) 残留率が低いのは、1位 奈良(12.1%)、2位 鳥取(12.6%)、3位 佐賀 (13.5%)

短期大学入学者地元残留率

残留率が高いのは、1位 福岡(90.6%)、2位 鳥取(88.7%)、3位 徳島(88.2%) 残留率が低いのは、1位 茨城(17.2%)、2位 島根(38.5%)、3位 宮崎(38.6%)

【大学入学者地元残留率:男子】

25 100 (%) 北海道 北海道 64.8 青森 35.5 岩手 24.6 宮城 54.1 東北 秋田 24.2 山形 18.1 福島 23.5 茨城 17.2 北関東 栃木 24.5

群馬 26.6 埼玉 30.1 千葉 35 8 南関東 東京 65.4 神奈川 41.3 新潟 37.9 甲信越 山梨 20.2

長野 15.1 富山 18.1 北.陸 石川 45.5 福井 30.2 岐阜 18.5 静岡 26.1 東海 愛知 68.4

三重 20.5 滋賀 23.3 京都 48.1 大阪 62.7 近畿 兵庫 36.6 奈良 12.1 和歌山 16.8

> 鳥取 12.6 島根 15.5 中国 岡山 35.4 広島 ШΠ 20.3 徳島 31.1

> > 香川

愛媛 29.7 高知 20.1 福岡 63.5 佐賀 13.5 長崎 31.4 九州 能太

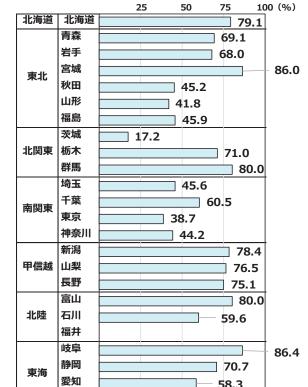
16.3

41.9 沖縄 大分 27.7 宮崎 22.0 鹿児島 33.3 沖縄 38.9

※データ元:文部科学省「学校基本調査」

四国

【短期大学入学者地元残留率:男子】





三重

鳥取 88.7 島根 38.5 中国 岡山 60.3 広島 52.3 ШΠ 69.4 徳島 88.2

77.8

香川 61.7 四国 愛媛 81.6 高知 52.6 佐賀 48.6

長崎 41.5 九州 能太 45.0 沖縄 大分 79.2 宮崎 38.6 鹿児鳥 54.8 沖縄

41.5

90.6

地元残留率(女子:大学・短期大学入学者数:都道府県別:2023年)

■大学入学者の地元残留率1位は愛知、短期大学入学者の地元残留率1位は福岡

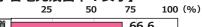
大学入学者地元残留率

残留率が高いのは、1位 愛知(76.2%)、2位 東京(71.3%)、3位 福岡(67.0%) 残留率が低いのは、1位 佐賀(17.7%)、2位 鳥取(17.9%)、3位 奈良(18.3%)

短期大学入学者地元残留率

残留率が高いのは、1位 福岡(93.8%)、2位 愛知(89.5%)、3位 石川(89.2%) 残留率が低いのは、1位 茨城(41.3%)、2位 島根(42.5%)、3位 滋賀(43.2%)

【大学入学者地元残留率:女子】



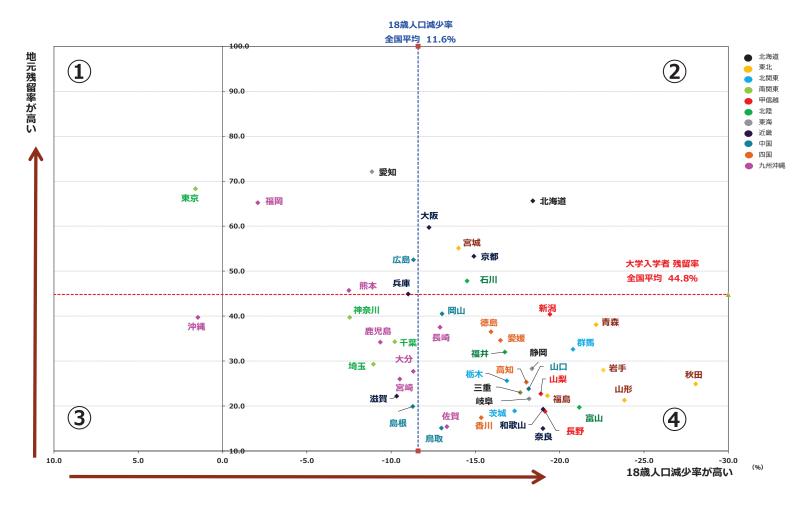




18歳人口減少率×地元残留率 (大学入学者:都道府県別:2023→2035年)

■「象限④」(18歳人口減少率が高く地元残留率が低い)に多くの県が集まる

- ・全国平均でラインを引き4象限に分けると、以下の通りになる。
 - 象限① 18歳人口減少率が低く、地元残留率が高い
 - :東京、愛知、福岡、広島、熊本、兵庫
 - →人口が減少せず、地元にも残るため、県内募集は比較的しやすいセグメント。
 - 象限② 18歳人口減少率が高く、地元残留率が高い
 - : 北海道、大阪、宮城、京都、石川
 - →18歳は比較的地元に残るが、マーケット自体が縮小するセグメント。
 - 象限③ 18歳人口減少率が低く、地元残留率が低い
 - :神奈川、沖縄、鹿児島、千葉、埼玉、大分、宮崎、滋賀、島根
 - →人口は大きくは減少しないものの、周辺県への流出が多いセグメント。
 - 象限④ 18歳人口減少率が高く、地元残留率が低い
 - : その他の県
 - →人口減少に加え地元にも残留しないため、地元募集だけでは厳しいセグメント。



18歳人口減少率×地元残留率 (短期大学入学者:都道府県別:2023→2035年)

■大学進学者と比較すると、地元に残留する傾向が強い

- ・短期大学の特性として比較的地元密着の傾向が強く、大学進学者と比較すると地元残留率の平均が26.5ポイント高い。
- ・全国平均でラインを引き4象限に分けると、以下の通りになる。

象限① 18歳人口減少率が低く、地元残留率が高い

- :福岡、愛知、兵庫、大分、鹿児島、神奈川
- →人口が減少せず、地元にも残るため、県内募集は比較的しやすいセグメント。

象限② 18歳人口減少率が高く、地元残留率が高い

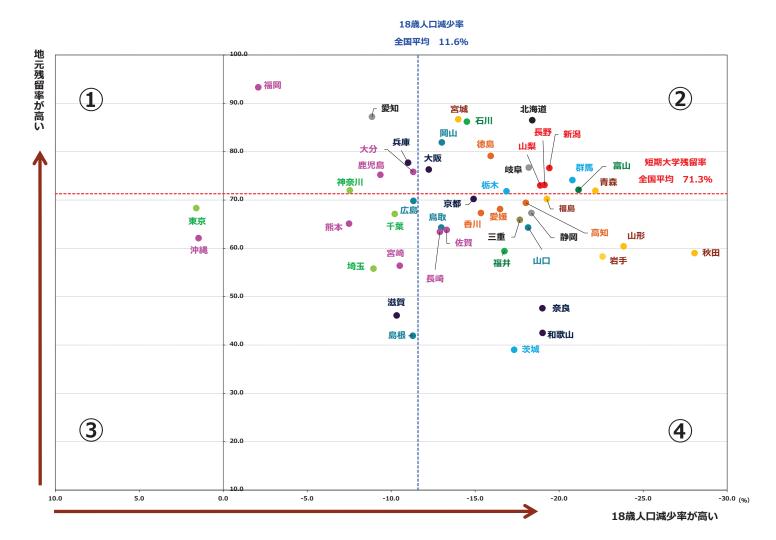
- : 北海道、石川、宮城、岡山、徳島、大阪、新潟、長野、山梨、岐阜、群馬、青森、 富山、栃木
- →18歳は比較的地元に残るが、マーケット自体が縮小するセグメント。

象限③ 18歳人口減少率が低く、地元残留率が低い

- :東京、沖縄、熊本、広島、千葉、宮崎、埼玉、滋賀、島根
- →人口は大きくは減少しないものの、周辺県への流出が多いセグメント。

象限(4) 18歳人口減少率が高く、地元残留率が低い

- :その他の府県
- →人口減少に加え地元にも残留しないため、地元募集だけでは厳しいセグメント。



リクルート進学総研 マーケットリポート2023

資料5 Vol.125 2024年2月号

18歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向



東海版 - 岐阜県・静岡県・愛知県・三重県 -

【将来予測 2023~2035年】

- ▶18歳人口予測 P2~P4
- ・2023年138,309人→2035年119,690人(18,619人減少)
- ・減少率が高いのは、静岡県(2023年比較18.4%減少)
- ・減少数が多いのは、愛知県(2023年69,766人→2035年63,583人、6,183人減少)

【経過推移 2014~2023年】

▶進学者数・進学率(現役)の推移 P5~P10

進学者数

- ・大学は、2014年63,790人→2023年67,740人(3,950人増加)と、6.2%増加
- ・短期大学は、2014年7,034人→2023年3,970人(3,064人減少)と、43.6%減少
- ・専門学校は、2014年18,612人→2023年17,365人(1,247人減少)と、6.7%減少

進学率(現役)

- ・大学は、2014年50.1%→2023年56.6%(6.5ポイント上昇)
- ・短期大学は、2014年5.5%→2023年3.3%(2.2ポイント低下)
- ・専門学校は、2014年14.6%→2023年14.5% (0.1ポイント低下)

▶地元残留率の推移 P11~P13

- ・大学は、2014年48.0%→2023年50.2%(2.2ポイント上昇)
- ・短期大学は、2014年75.6%→2023年76.7%(1.1ポイント上昇)

▶東海エリア概要(全体:県別) P14~P15

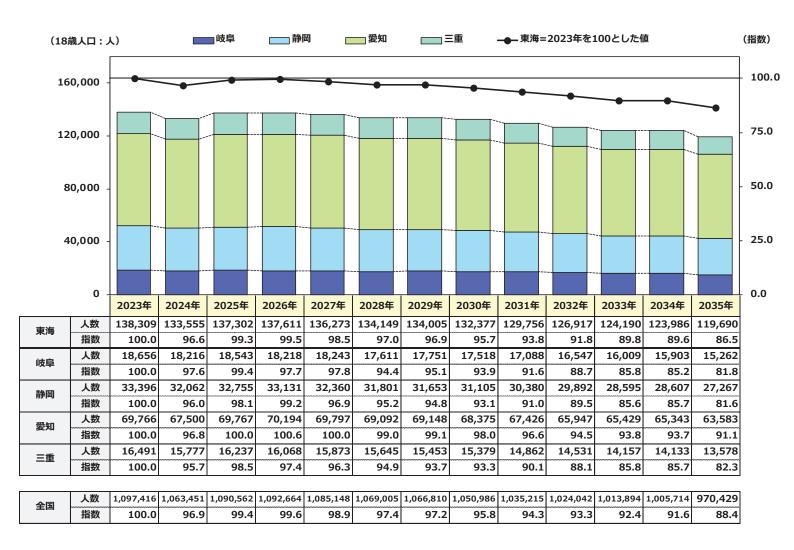
- ■分析・データについて
- ① 18歳人口予測は、文部科学省「学校基本調査」より、以下の通り定義して算出した。
 - ・ 18歳人口=3年前の中学校卒業者及び中等教育学校前期課程修了者数と義務教育学校卒業者数
 - ・ 中学校卒業者数=高校生+フリーター+就職者 全て含む
- ② 表内の「年」に属する18歳とは、その年の3月に卒業を迎える高校3年生を指す。
- ③ 表内の「指数」とは、グラフ開始年の値を100とおいた際の値を示す。
- ④ 卒業者数とは、高等学校を卒業した人数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)。
- ⑤ 進学者数とは、高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校(※)に進学した人数。
- ⑥ 進学率(現役)とは、進学者数(大学・短期大学・専門学校(※))÷高等学校卒業者数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)で 算出した。
- ⑦ 残留率とは、自県内(地元)の大学・短期大学入学者数のうち自県内(地元)の高校出身の大学・短期大学入学者数の割合(浪人含)。
- ⑧ 図表で利用している百分率(%)は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、数値の和が100.0にならない場合がある。 ※専門学校=専修学校専門課程

【本件に関するお問い合わせ先】 株式会社リクルート リクルート進学総研 https://souken.shingakunet.com/

18歳人口予測(全体:東海:2023~2035年)

■2023年138,309人→2035年119,690人(18,619人減少)

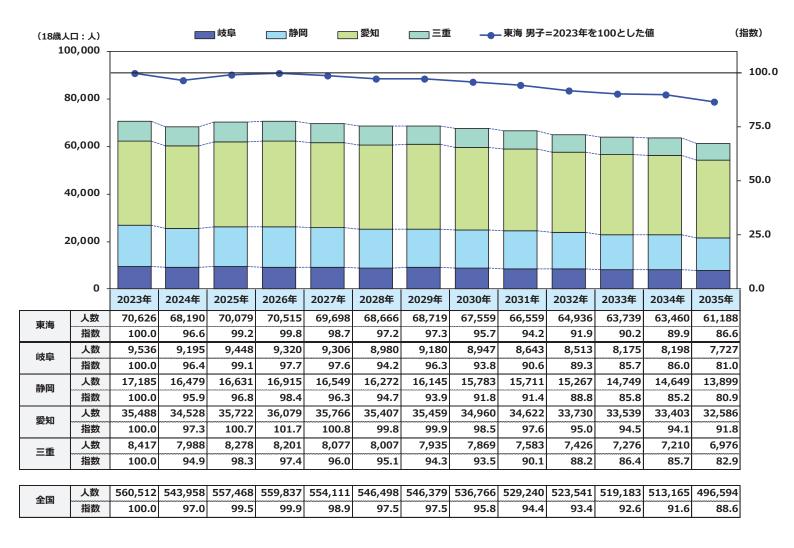
- ・東海エリアは18,619人・13.5%減少し、全国の減少率11.6%を1.9ポイント上回る。
- ・2024年に133,555人まで減少するが、2026年に4,056人増加した後、2027年以降は は減少が続く。
- ・減少率が高いのは、静岡県(2023年比較18.4%減少)。
- ・減少数が多いのは、愛知県(2023年69,766人→2035年63,583人、6,183人減少)。



18歳人口予測(男子:東海:2023~2035年)

■2023年70,626人→2035年61,188人(9,438人減少)

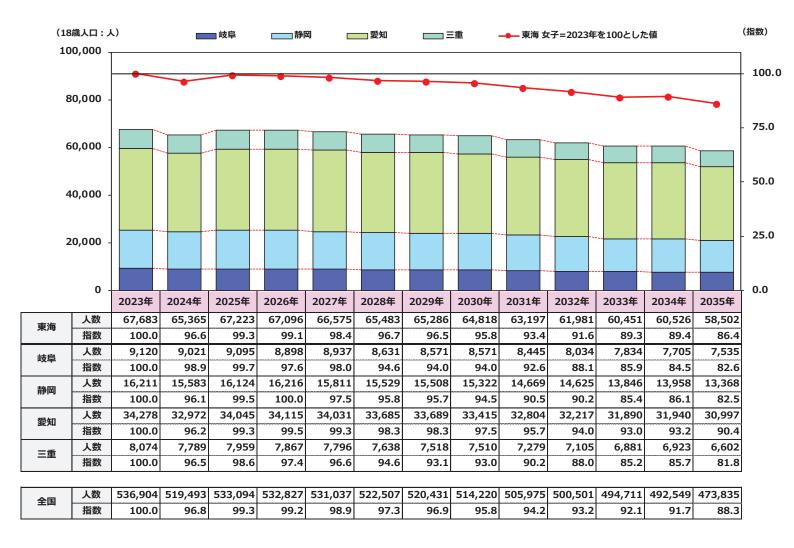
- ・男子は9,438人・13.4%減少し、全国の減少率11.4%を2.0ポイント上回る。
- ・2024年に68,190人まで減少、その後2026年にかけ2,325人増加した後、再び減少に転じ、 2029年に微増するが、2030年以降は減少が続く。
- ・減少率が高いのは、静岡県(2023年比較19.1%減少)。
- ・減少数が多いのも、静岡県(2023年17,185人→2035年13,899人、3,286人減少)。



18歳人口予測(女子:東海:2023~2035年)

■2023年67,683人→2035年58,502人(9,181人減少)

- ・女子は9,181人・13.6%減少し、全国の減少率11.7%を1.9ポイント上回る。
- ・2024年に65,365人まで減少、翌2025年に1,858人増加した後再び減少し、2034年に微増するが、2035年は減少する。
- ・減少率が高いのは、静岡県(2023年比較17.5%減少)。
- ・減少数が多いのは、愛知県(2023年34,278人→2035年30,997人、3,281人減少)。



進学者数・進学率(現役)の推移(全体:東海:2014~2023年)

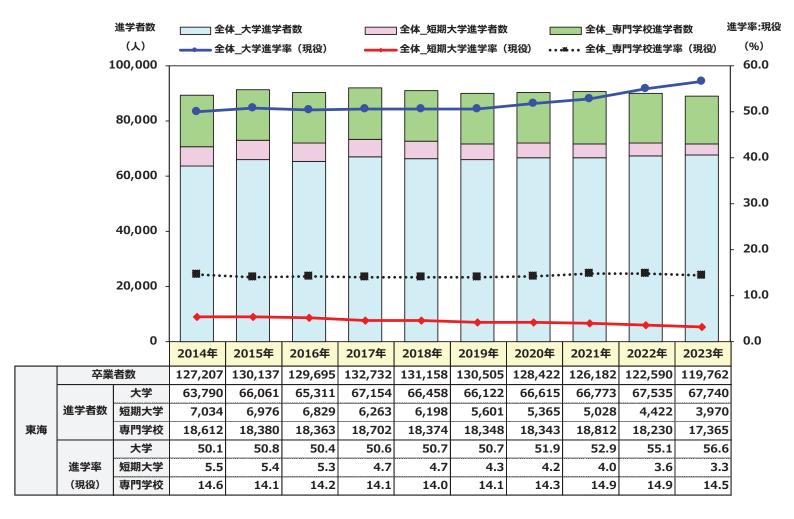
■10年で大学進学率は6.5ポイント上昇、大学進学者数は3,950人増加 一方、短期大学進学率は2.2ポイント、専門学校進学率は0.1ポイント低下し、 進学者数もそれぞれ3,064人、1,247人減少

進学者数

- ・大学は、2014年63,790人→2023年67,740人(3,950人増加)と、6.2%増加。
- ・短期大学は、2014年7,034人→2023年3,970人(3,064人減少)と、43,6%減少。
- ・専門学校は、2014年18,612人→2023年17,365人(1,247人減少)と、6.7%減少。

進学率(現役)

- ・大学は、2014年50.1%→2023年56.6%(6.5ポイント上昇)。
- ・短期大学は、2014年5.5%→2023年3.3%(2.2ポイント低下)。
- ・専門学校は、2014年14.6%→2023年14.5%(0.1ポイント低下)。



※データ元:文部科学省「学校基本調査」

・卒業者数: 高等学校卒業した人数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)

・進学者数 : 高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校(※)に進学した人数

・進学率(現役):進学者数(大学・短期大学・専門学校(※))÷高等学校卒業者数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)

進学者数・進学率(現役)の推移(全体:県別:2014~2023年)

			2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
	卒業者数	汝 (人)	18,263	18,477	18,029	18,379	18,240	18,146	17,778	17,565	16,916	16,124
		大学	8,656	8,899	8,534	8,959	8,868	8,980	8,900	9,081	9,021	8,879
	進学者数	短期大学	1,471	1,453	1,405	1,316	1,248	1,045	1,076	972	971	795
岐阜	(人)	専門学校	2,641	2,556	2,406	2,419	2,466	2,396	2,417	2,489	2,481	2,402
		大学	47.4	48.2	47.3	48.7	48.6	49.5	50.1	51.7	53.3	55.1
	進学率	短期大学	8.1	7.9	7.8	7.2	6.8	5.8	6.1	5.5	5.7	4.9
	(%)	専門学校	14.5	13.8	13.3	13.2	13.5	13.2	13.6	14.2	14.7	14.9
	卒業者数	汝(人)	31,726	32,404	32,058	32,825	32,434	32,163	31,854	31,272	30,164	29,624
		大学	15,314	15,922	15,521	15,941	15,744	15,481	15,759	15,687	15,786	15,982
	進学者数	短期大学	1,499	1,499	1,462	1,401	1,382	1,224	1,211	1,137	994	962
静岡	(人)	専門学校	5,450	5,296	5,388	5,640	5,584	5,539	5,260	5,435	5,081	4,740
		大学	48.3	49.1	48.4	48.6	48.5	48.1	49.5	50.2	52.3	53.9
	進学率	短期大学	4.7	4.6	4.6	4.3	4.3	3.8	3.8	3.6	3.3	3.2
	(%)	専門学校	17.2	16.3	16.8	17.2	17.2	17.2	16.5	17.4	16.8	16.0
	卒業者数	汝 (人)	61,420	63,268	63,656	65,316	64,789	64,458	63,406	62,229	60,903	59,798
		大学	32,662	34,005	34,161	34,870	34,791	34,687	34,901	34,927	35,631	35,801
	進学者数	短期大学	3,144	3,085	3,064	2,733	2,746	2,569	2,349	2,130	1,798	1,569
愛知	(人)	専門学校	8,171	8,273	8,195	8,212	8,045	8,119	8,410	8,645	8,428	8,048
		大学	53.2	53.7	53.7	53.4	53.7	53.8	55.0	56.1	58.5	59.9
	進学率	短期大学	5.1	4.9	4.8	4.2	4.2	4.0	3.7	3.4	3.0	2.6
	(%)	専門学校	13.3	13.1	12.9	12.6	12.4	12.6	13.3	13.9	13.8	13.5
	卒業者数	汝 (人)	15,798	15,988	15,952	16,212	15,695	15,738	15,384	15,116	14,607	14,216
		大学	7,158	7,235	7,095	7,384	7,055	6,974	7,055	7,078	7,097	7,078
	進学者数	短期大学	920	939	898	813	822	763	729	789	659	644
三重	(人)	専門学校	2,350	2,255	2,374	2,431	2,279	2,294	2,256	2,243	2,240	2,175
		大学	45.3	45.3	44.5	45.5	45.0	44.3	45.9	46.8	48.6	49.8
	進学率	短期大学	5.8	5.9	5.6	5.0	5.2	4.8	4.7	5.2	4.5	4.5
	(%)	専門学校	14.9	14.1	14.9	15.0	14.5	14.6	14.7	14.8	15.3	15.3

※データ元:文部科学省「学校基本調査」

[・]卒業者数 : 高等学校卒業した人数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程) ・進学者数 : 高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校(※)に進学した人数 ・進学率(現役): 進学者数 (大学・短期大学・専門学校(※)) ÷高等学校卒業者数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)

進学者数・進学率(現役)の推移(男子:東海:2014~2023年)

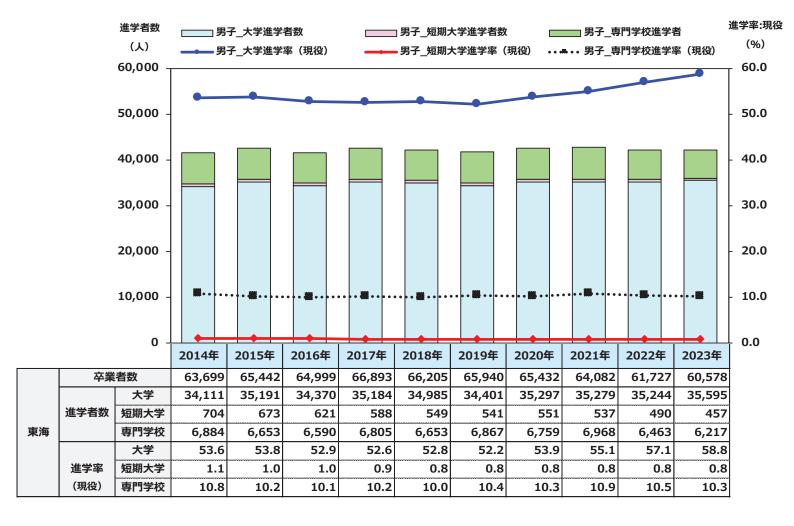
■男子では、大学進学率が5.2ポイント上昇し、進学者数は1,484人増加 一方、短期大学進学率は0.3ポイント、専門学校進学率は0.5ポイント低下、 進学者数はそれぞれ247人、667人減少

進学者数

- ・大学は、2014年34,111人→2023年35,595人(1,484人増加)と、4.4%増加。
- ・短期大学は、2014年704人→2023年457人(247人減少)と、35.1%減少。
- ・専門学校は、2014年6,884人→2023年6,217人(667人減少)と、9.7%減少。

進学率(現役)

- ・大学は、2014年53.6%→2023年58.8%(5.2ポイント上昇)。
- ・短期大学は、2014年1.1%→2023年0.8%(0.3ポイント低下)。
- ・専門学校は、2014年10.8%→2023年10.3%(0.5ポイント低下)。



※データ元:文部科学省「学校基本調査」

・卒業者数: 高等学校卒業した人数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)

・進学者数 : 高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校(※)に進学した人数

・進学率(現役):進学者数(大学・短期大学・専門学校(※))÷高等学校卒業者数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)

進学者数・進学率(現役)の推移(男子:県別:2014~2023年)

			2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
	卒業者数	汝 (人)	9,093	9,283	9,013	9,257	9,224	9,218	8,980	8,802	8,565	8,177
		大学	4,664	4,798	4,560	4,778	4,796	4,654	4,730	4,747	4,796	4,778
	進学者数	短期大学	219	225	192	172	151	170	164	128	143	106
岐阜	(人)	専門学校	968	937	834	879	900	900	870	905	935	889
		大学	51.3	51.7	50.6	51.6	52.0	50.5	52.7	53.9	56.0	58.4
	進学率	短期大学	2.4	2.4	2.1	1.9	1.6	1.8	1.8	1.5	1.7	1.3
	(%)	専門学校	10.6	10.1	9.3	9.5	9.8	9.8	9.7	10.3	10.9	10.9
	卒業者数	汝 (人)	16,034	16,575	16,132	16,886	16,501	16,603	16,293	16,256	15,458	15,307
		大学	8,316	8,783	8,352	8,719	8,492	8,426	8,536	8,605	8,455	8,741
	進学者数	短期大学	93	94	103	92	92	117	125	166	130	127
静岡	(人)	専門学校	2,168	2,020	2,028	2,304	2,255	2,278	2,083	2,234	1,985	1,862
		大学	51.9	53.0	51.8	51.6	51.5	50.7	52.4	52.9	54.7	57.1
	進学率	短期大学	0.6	0.6	0.6	0.5	0.6	0.7	0.8	1.0	0.8	0.8
	(%)	専門学校	13.5	12.2	12.6	13.6	13.7	13.7	12.8	13.7	12.8	12.2
	卒業者数	汝 (人)	30,565	31,510	31,796	32,563	32,569	32,192	32,308	31,434	30,339	29,938
		大学	17,286	17,730	17,705	17,815	17,976	17,689	18,303	18,207	18,322	18,326
	進学者数	短期大学	278	271	247	235	216	187	188	147	133	120
愛知	(人)	専門学校	2,886	2,868	2,893	2,765	2,717	2,886	3,019	3,076	2,789	2,778
		大学	56.6	56.3	55.7	54.7	55.2	54.9	56.7	57.9	60.4	61.2
	進学率	短期大学	0.9	0.9	0.8	0.7	0.7	0.6	0.6	0.5	0.4	0.4
	(%)	専門学校	9.4	9.1	9.1	8.5	8.3	9.0	9.3	9.8	9.2	9.3
	卒業者数	汝 (人)	8,007	8,074	8,058	8,187	7,911	7,927	7,851	7,590	7,365	7,156
		大学	3,845	3,880	3,753	3,872	3,721	3,632	3,728	3,720	3,671	3,750
	進学者数	短期大学	114	83	79	89	90	67	74	96	84	104
三重	(人)	専門学校	862	828	835	857	781	803	787	753	754	688
		大学	48.0	48.1	46.6	47.3	47.0	45.8	47.5	49.0	49.8	52.4
	進学率	短期大学	1.4	1.0	1.0	1.1	1.1	0.8	0.9	1.3	1.1	1.5
	(%)	専門学校	10.8	10.3	10.4	10.5	9.9	10.1	10.0	9.9	10.2	9.6

※データ元:文部科学省「学校基本調査」

[・]卒業者数 : 高等学校卒業した人数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程) ・進学者数 : 高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校(※)に進学した人数 ・進学率(現役): 進学者数 (大学・短期大学・専門学校(※)) ÷高等学校卒業者数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)

進学者数・進学率(現役)の推移(女子:東海:2014~2023年)

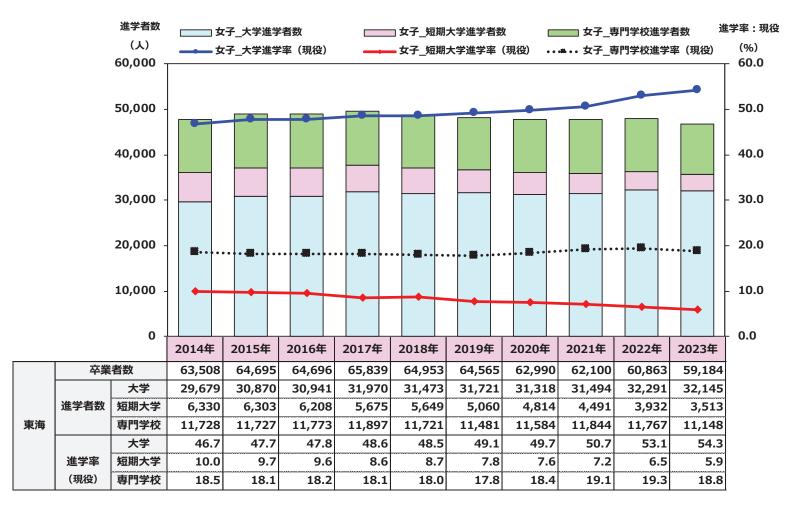
■女子では、大学進学率は7.6ポイント上昇し、進学者数も2,466人増加 短期大学進学率は4.1ポイント低下し、専門学校進学率は0.3ポイント上昇 短期大学進学者数は2,817人、専門学校進学者数は580人減少

進学者数

- ・大学は、2014年29,679人→2023年32,145人(2,466人増加)と、8.3%増加。
- ・短期大学は、2014年6,330人→2023年3,513人(2,817人減少)と、44.5%減少。
- ・専門学校は、2014年11,728人→2023年11,148人(580人減少)と、4.9%減少。

進学率(現役)

- ・大学は、2014年46.7%→2023年54.3%(7.6ポイント上昇)。
- ・短期大学は、2014年10.0%→2023年5.9%(4.1ポイント低下)。
- ・専門学校は、2014年18.5%→2023年18.8%(0.3ポイント上昇)。



※データ元:文部科学省「学校基本調査」

・卒業者数: 高等学校卒業した人数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)

・進学者数 : 高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校(※)に進学した人数

・進学率(現役):進学者数(大学・短期大学・専門学校(※))÷高等学校卒業者数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)

進学者数・進学率(現役)の推移(女子:県別:2014~2023年)

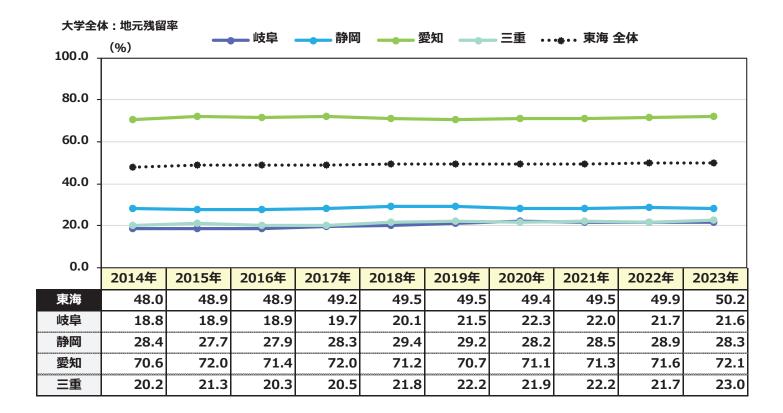
			2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
	卒業者数	汝 (人)	9,170	9,194	9,016	9,122	9,016	8,928	8,798	8,763	8,351	7,947
		大学	3,992	4,101	3,974	4,181	4,072	4,326	4,170	4,334	4,225	4,101
	進学者数	短期大学	1,252	1,228	1,213	1,144	1,097	875	912	844	828	689
岐阜	(人)	専門学校	1,673	1,619	1,572	1,540	1,566	1,496	1,547	1,584	1,546	1,513
		大学	43.5	44.6	44.1	45.8	45.2	48.5	47.4	49.5	50.6	51.6
	進学率	短期大学	13.7	13.4	13.5	12.5	12.2	9.8	10.4	9.6	9.9	8.7
	(%)	専門学校	18.2	17.6	17.4	16.9	17.4	16.8	17.6	18.1	18.5	19.0
	卒業者数	汝 (人)	15,692	15,829	15,926	15,939	15,933	15,560	15,561	15,016	14,706	14,317
		大学	6,998	7,139	7,169	7,222	7,252	7,055	7,223	7,082	7,331	7,241
	進学者数	短期大学	1,406	1,405	1,359	1,309	1,290	1,107	1,086	971	864	835
静岡	(人)	専門学校	3,282	3,276	3,360	3,336	3,329	3,261	3,177	3,201	3,096	2,878
		大学	44.6	45.1	45.0	45.3	45.5	45.3	46.4	47.2	49.9	50.6
	進学率	短期大学	9.0	8.9	8.5	8.2	8.1	7.1	7.0	6.5	5.9	5.8
	(%)	専門学校	20.9	20.7	21.1	20.9	20.9	21.0	20.4	21.3	21.1	20.1
	卒業者数	汝 (人)	30,855	31,758	31,860	32,753	32,220	32,266	31,098	30,795	30,564	29,860
		大学	15,376	16,275	16,456	17,055	16,815	16,998	16,598	16,720	17,309	17,475
	進学者数	短期大学	2,866	2,814	2,817	2,498	2,530	2,382	2,161	1,983	1,665	1,449
愛知	(人)	専門学校	5,285	5,405	5,302	5,447	5,328	5,233	5,391	5,569	5,639	5,270
		大学	49.8	51.2	51.7	52.1	52.2	52.7	53.4	54.3	56.6	58.5
	進学率	短期大学	9.3	8.9	8.8	7.6	7.9	7.4	6.9	6.4	5.4	4.9
	(%)	専門学校	17.1	17.0	16.6	16.6	16.5	16.2	17.3	18.1	18.4	17.6
	卒業者数	汝(人)	7,791	7,914	7,894	8,025	7,784	7,811	7,533	7,526	7,242	7,060
		大学	3,313	3,355	3,342	3,512	3,334	3,342	3,327	3,358	3,426	3,328
	進学者数	短期大学	806	856	819	724	732	696	655	693	575	540
三重	(人)	専門学校	1,488	1,427	1,539	1,574	1,498	1,491	1,469	1,490	1,486	1,487
		大学	42.5	42.4	42.3	43.8	42.8	42.8	44.2	44.6	47.3	47.1
	進学率	短期大学	10.3	10.8	10.4	9.0	9.4	8.9	8.7	9.2	7.9	7.6
	(%)	専門学校	19.1	18.0	19.5	19.6	19.2	19.1	19.5	19.8	20.5	21.1

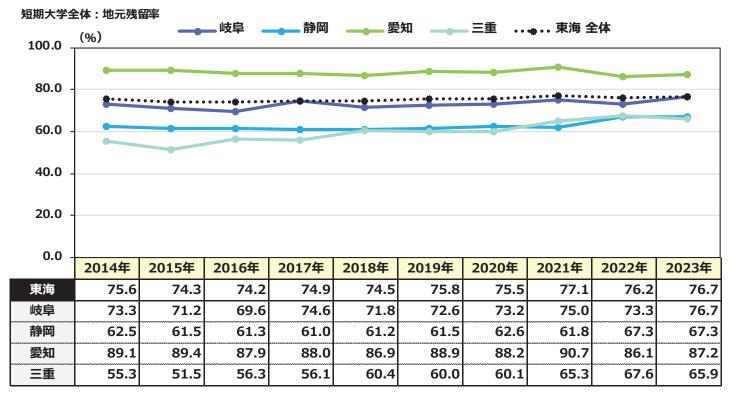
※データ元:文部科学省「学校基本調査」

[・]卒業者数 : 高等学校卒業した人数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程) ・進学者数 : 高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校(※)に進学した人数 ・進学率(現役): 進学者数 (大学・短期大学・専門学校(※)) ÷高等学校卒業者数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)

地元残留率の推移(全体:東海:2014~2023年)

- ■大学は、2014年48.0%→2023年50.2%(2.2ポイント上昇) 短期大学は、2014年75.6%→2023年76.7%(1.1ポイント上昇)
- ・大学で上昇率が高いのは、岐阜県(2014年18.8%→2023年21.6%)と三重県(同20.2%→同23.0%)で2.8ポイント上昇。
- ・短期大学で上昇率が高いのは、三重県(2014年55.3%→2023年65.9%、10.6ポイント上昇)。



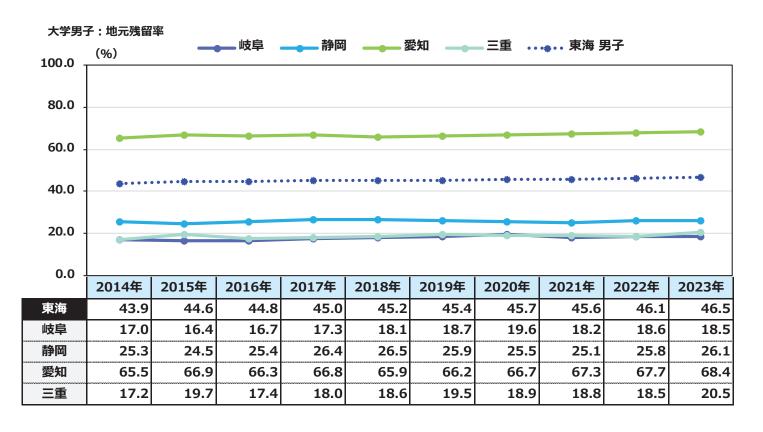


※データ元:文部科学省「学校基本調査」

・残留率 : 自県内(地元)の大学・短期大学入学者数のうち自県内(地元)の高校出身の大学・短期大学入学者数の割合(浪人含)

地元残留率の推移(男子:東海:2014~2023年)

- ■大学は、2014年43.9%→2023年46.5%(2.6ポイント上昇) 短期大学は、2014年67.8%→2023年73.6%(5.8ポイント上昇)
- ・大学で上昇率が高いのは、三重県(2014年17.2%→2023年20.5%、3.3ポイント上昇)。
- ・短期大学で上昇率が高いのは、静岡県(2014年37.3%→2023年70.7%、33.4ポイント上昇)。



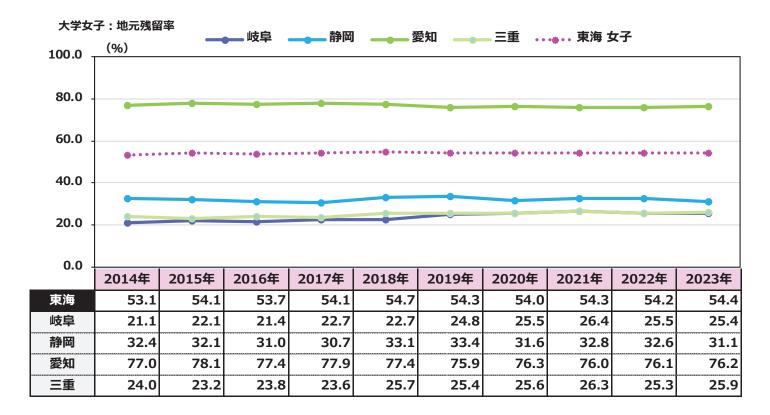


※データ元:文部科学省「学校基本調査」

・残留率 : 自県内(地元)の大学・短期大学入学者数のうち自県内(地元)の高校出身の大学・短期大学入学者数の割合(浪人含)

地元残留率の推移(女子:東海:2014~2023年)

- ■大学は、2014年53.1%→2023年54.4%(1.3ポイント上昇) 短期大学は、2014年76.6%→2023年77.1%(0.5ポイント上昇)
- ・大学で上昇率が高いのは、岐阜県(2014年21.1%→2023年25.4%、4.3ポイント上昇)。
- ・短期大学で上昇率が高いのは、三重県(2014年54.8%→2023年63.3%、8.5ポイント上昇)。



短期大学女子:地元残留率 静岡 __ 愛知 ——三重 岐阜 (%)100.0 80.0 60.0 40.0 20.0 0.0 2015年 2017年 2014年 2016年 2018年 2019年 2020年 2021年 2022年 2023年 東海 76.6 75.1 74.7 75.5 75.2 76.4 75.9 77.7 77.4 77.1 岐阜 70.6 68.0 66.6 72.2 70.2 70.7 71.4 74.4 71.6 74.9 静岡 64.3 63.3 62.6 62.0 62.4 62.3 62.2 60.7 67.3 66.8 愛知 91.5 91.5 89.7 89.9 88.6 90.4 89.8 92.0 89.1 89.5 三重 54.8 52.4 55.6 56.9 59.5 58.8 59.7 65.4 68.3 63.3

※データ元:文部科学省「学校基本調査」

・残留率 : 自県内(地元)の大学・短期大学入学者数のうち自県内(地元)の高校出身の大学・短期大学入学者数の割合(浪人含)

東海エリア概要(全体:県別)

学校数

大学 : 13 (国立 1・公立 3・私立 9)

短期大学 : 11 (公立 1・私立 10) 専門学校 : 31 (公立 7・私立 24)

卒業者数

2014年18,263人→2023年16,124人(2,139人減少)

き 申 単学者数

大学 : 2014年8,656人→2023年8,879人(223人増加) 短期大学: 2014年1,471人→2023年 795人(676人減少) 専門学校: 2014年2,641人→2023年2,402人(239人減少)

進学率(現役)

大学 : 2014年47.4%→2023年55.1%(7.7ポイント上昇) 短期大学: 2014年 8.1%→2023年 4.9%(3.2ポイント低下) 専門学校: 2014年14.5%→2023年14.9%(0.4ポイント上昇)

<u>残留率</u>

大学: 2014年18.8%→2023年21.6% (2.8ポイント上昇) 短期大学: 2014年73.3%→2023年76.7% (3.4ポイント上昇)

入学者流入元 ※地元は除く

大学: 1位愛知(1,221人)、2位長野・静岡(118人)

短期大学:1位愛知(110人)、2位石川(23人)、3位長野(21人)

入学者流出先 ※地元は除く

大学 : 1位愛知(4,549人)、2位東京(529人)、3位京都(306人) 短期大学:1位愛知(167人)、2位東京(9人)、3位大阪(7人)

学校数

大学 : 14 (国立 2・公立 4・私立 8)

短期大学:5 (公立 2・私立 3) 専門学校:78 (公立 9・私立 69)

<u>卒業者数</u>

2014年31,726人→2023年29,624人(2,102人減少)

進学者数

大学 : 2014年15,314人→2023年15,982人(668人増加) 短期大学: 2014年 1,499人→2023年 962人(537人減少) 専門学校: 2014年 5,450人→2023年 4,740人(710人減少)

進学率 (現役)

大学: 2014年48.3%→2023年53.9%(5.6ポイント上昇) 短期大学: 2014年 4.7%→2023年 3.2%(1.5ポイント低下) 専門学校: 2014年17.2%→2023年16.0%(1.2ポイント低下)

残留率

大学: 2014年28.4%→2023年28.3%(0.1ポイント低下) 短期大学: 2014年62.5%→2023年67.3%(4.8ポイント上昇)

入学者流入元 ※地元は除く

大学: 1位愛知 (658人)、2位神奈川(189人)、3位東京(174人) 短期大学: 1位神奈川(13人)、2位東京 (10人)、3位栃木・山梨(5人)

入学者流出先 ※地元は除く

大学 : 1位東京 (3,305人)、2位愛知(2,098人)、3位神奈川(2,065人) 短期大学:1位神奈川(101人)、2位愛知(83人)、3位東京 (74人)

- ・学校数: 大学・短期大学は本部の所在地 (2023年学校基本調査より)
- ・卒業者数: 高等学校卒業した人数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)
- ・進学者数: 高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校(※)に進学した人数
- ・進学率(現役): 進学者数(大学・短期大学・専門学校(※))÷高等学校卒業者数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)
 - : 自県内(地元)の大学・短期大学入学者数のうち自県内(地元)の高校出身の大学・短期大学入学者数の割合(浪人含)
- ・流入 : 自県内(地元)の大学・短期大学に入学したうち、自県以外(地元以外)の高校出身者が大学・短期大学に入学したこと(浪人含) ・流出 : 自県内(地元)の高校出身者が大学・短期大学に入学したうち、自県以外(地元以外)の大学・短期大学に入学したこと(浪人含)

※専門学校=専修学校専門課程

・残留率

静岡県

東海エリア概要(全体:県別)

学校数

大学 : 52 (国立 4・公立 3・私立 45)

短期大学:18 (私立18)

専門学校 : 156 (公立 13・私立 143)

<u>卒業者数</u>

2014年61,420人→2023年59,798人(1,622人減少)

進学者数

愛知県

大学 : 2014年32,662人→2023年35,801人(3,139人増加) 短期大学: 2014年 3,144人→2023年 1,569人(1,575人減少) 専門学校: 2014年 8,171人→2023年 8,048人(123人減少)

進学率(現役)

大学: 2014年53.2%→2023年59.9%(6.7ポイント上昇) 短期大学: 2014年 5.1%→2023年 2.6%(2.5ポイント低下) 専門学校: 2014年13.3%→2023年13.5%(0.2ポイント上昇)

残留率

大学: 2014年70.6%→2023年72.1% (1.5ポイント上昇) 短期大学: 2014年89.1%→2023年87.2% (1.9ポイント低下)

入学者流入元 ※地元は除く

大学 : 1位岐阜(4,549人)、2位三重(2,754人)、3位静岡(2,098人) 短期大学:1位岐阜(167人)、2位三重(124人)、3位静岡(83人)

入学者流出先 ※地元は除く

大学 : 1位東京(2,019人)、2位京都(1,255人)、3位岐阜(1,221人) 短期大学:1位岐阜(110人)、2位東京(30人)、3位三重(27人)

学校数

大学 : 7 (国立 1・公立 1・私立 5)

短期大学: 4 (公立 1・私立 3) 専門学校: 36 (公立 3・私立 33)

<u>卒業者数</u>

2014年15,798人→2023年14,216人(1,582人減少)

進学者数

大学: 2014年7,158人→2023年7,078人(80人減少) 短期大学: 2014年 920人→2023年 644人(276人減少) 専門学校: 2014年2,350人→2023年2,175人(175人減少)

進学率 (現役)

大学: 2014年45.3%→2023年49.8%(4.5ポイント上昇) 短期大学: 2014年 5.8%→2023年 4.5%(1.3ポイント低下) 専門学校: 2014年14.9%→2023年15.3%(0.4ポイント上昇)

<u>残留率</u>

大学: 2014年20.2%→2023年23.0%(2.8ポイント上昇) 短期大学: 2014年55.3%→2023年65.9%(10.6ポイント上昇)

入学者流入元 ※地元は除く

大学 : 1位愛知(602人)、2位岐阜(99人)、3位静岡 (96人) 短期大学:1位愛知(27人)、2位京都(13人)、3位和歌山(11人)

入学者流出先 ※地元は除く

大学 : 1位愛知(2,754人)、2位大阪(667人)、3位京都(509人) 短期大学:1位愛知(124人)、2位大阪(49人)、3位奈良(27人)

・学校数 : 大学・短期大学は本部の所在地 (2023年学校基本調査より)

・卒業者数: 高等学校卒業した人数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)

・進学者数: 高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校(※)に進学した人数

・進学率 (現役) : 進学者数 (大学・短期大学・専門学校 (※)) ÷高等学校卒業者数 (全日制・定時制+中等教育学校後期課程) ・残留率 : 自県内 (地元)の大学・短期大学入学者数のうち自県内 (地元)の高校出身の大学・短期大学入学者数の割合 (浪人舎)

・残留率 : 自県内(地元)の大学・短期大学入学者数のうち自県内(地元)の高校出身の大学・短期大学入学者数の割合(浪人含) ・流入 : 自県内(地元)の大学・短期大学に入学したうち、自県以外(地元以外)の高校出身者が大学・短期大学に入学したこと(浪人含) ・流出 : 自県内(地元)の高校出身者が大学・短期大学に入学したうち、自県以外(地元以外)の大学・短期大学に入学したこと(浪人含)

※専門学校=専修学校専門課程

=車県

名城大学「理工学部 化学・物質学科」(仮称) 設置に関するニーズ調査 結果報告書 【高校生対象調査】

令和6年12月 株式会社 進研アド

-学生確保(資料)-51-

© Shinken-Ad. Co., Ltd. All Rights Reserved.

1. 調査目的

2026年4月開設予定の名城大学「理工学部 化学・物質学科」(仮称)の設置構想に関して、高校生からの進学ニーズを把握する。

2. 調査概要

		高校生文	対象調査			
		調査①	調査②			
調査	対象	理工学部に出願実績のある高校の 在籍者(高校2年生)	オープンキャンパス参加者 (高校2年生)			
調査	エリア	主たる学生募集地域である 岐阜県、静岡県、愛知県、三重県	ー (オープンキャンパスにて 参加者に直接配布)			
調査	方法	高校留め置き調査	オープンキャンパスでの 配布・回収			
調査	依頼数	21,430名 (189校)	_			
対象数	有効 回収数	8,460名 (114校) 有効回収率:39.5%	63名			
調査	時期	2024年6月21日(金)~2024年7月29日(月)				
調査実	施機関	株式会社	進研アド			

[※]重複してアンケートに回答していないかを聞く質問を設け、「同じアンケートに回答したことがある」と回答した 人は集計から除外している。各調査回答者の重複はない。

3. 調査項目

高校生対象調査

- ・性別
- ・学年
- · 高校種別
- · 高校所在地
- ・所属クラス
- ・ 高校卒業後の希望進路
- ・志望する設置者
- ・興味のある学問分野
- ・名城大学「理工学部 化学・物質学科」の特色に対する魅力度
- ・ 名城大学「理工学部 化学・物質学科」への受験意向
- ・名城大学「理工学部 化学・物質学科」への入学意向 学生確保(資料) 52 -

入学意向調査 調査結果

※報告書内の表中の%の母数は、 特に断りがない場合、回答者全体(8,523名)

回答者の属性

回答者の属性

- ※本調査は、名城大学「理工学部 化学・物質学科」(仮称)に対する需要を確認するための調査として設計。以下2種類の調査を実施して、合計8,523名から有効な回答を 得た。
 - ①高校留め置き調査
 - ②オープンキャンパス参加者調査
- ※各調査とも、重複してアンケートに回答していないかを聞く質問を設け、「同じアンケートに回答したことがある」と回答した人は集計から除外している。そのため、①高校留め置き調査、②オープンキャンパス参加者調査で回答した高校生の間に回答者の重複はない。
- ・調査対象者別の回答者数は、①高校留め置き調査が8,460名、②オープンキャンパス参加者調査が63名である。回答者全体に占める割合は、①高校留め置き調査が99.3%、②オープンキャンパス参加者調査が0.7%である。
- 回答者の性別は「男性」が63.7%、「女性」が34.4%である。
- 回答者の学年は「2年生」が100.0%である。
- 回答者の高校種別は「国立」が0.0%(1名)、「公立」が68.1%、「私立」が31.8%である。
- 回答者の在籍高校所在地は、名城大学の所在地である「愛知県」が67.1%を占め、最も多い。次に「岐阜県」が23.7%、「静岡県」が5.7%と続く。
- 回答者の所属クラスは「理系クラス(理系コース)」が89.5%で最も多い。次に「コース選択はない」が3.9%と続く。

回答者の属性

■調査対象

上段: % 下段: 件数(名)	標本数	調か置き	調査 プンス
全体	8,523	99.3	0.7
		8,460	63

■性別

上段:% 下段:件数(名)	標本数	男 性	女性	回答しない	無回答
全体	8,523	63.7	34.4	1.5	0.4
		5,425	2,933	130	35

■学年

上段:% 下段:件数(名)	標本数	1 年 生	2 年 生	3 年 生	無回答
全体	8,523	0.0	100.0	0.0	0.0
		0	8,523	0	0

■高校種別

上段:% 下段:件数(名)	標本数	玉立	公立	私立	無回答
全体	8,523	0.0	68.1	31.8	0.0
		1	5,807	2,712	3

回答者の属性

■高校所在地

上段:% 下段:件数(名)	標本数	福井県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県	岡山県	無回答
全体	8,523	0.0	23.7	5.7	67.1	3.4	0.0	0.0
		1	2,018	484	5,722	294	1	3

■所属クラス

上段:% 下段:件数(名)	標本数	(理系 コー ス) 理系クラス	(文系コース)	コース選択はない	その他	無回答
全体	8,523	89.5	1.2	3.9	3.0	2.4
		7,626	100	335	259	203

高校卒業後の希望進路

高校卒業後の希望進路

- ・回答者のうち、今後「大学」に進学することを検討・希望している人は93.8%。次いで「専門学校」に進学が6.9%、「就職」が4.1%と続く。「短期大学」に進学は2.5%、「専門職大学」に進学は2.7%、「専門職短期大学」に進学は0.5%である。
- 高校卒業後の希望進路として「大学」「短期大学」「専門職大学」「専門職短期大学」 のいずれかを選択した人に、設置者ごとの進学希望を複数回答で聴取した。その 結果、名城大学の該当する「私立」への進学を希望する人は49.7%、「国立」が 69.2%、「公立」が51.3%であった。

■高校卒業後の進路

Q1. あなたは、卒業後の進路をどのように考えていますか。 現在検討している進路<u>すべてに〇</u>をつけてください。(複数選択可)

上段:% 下段:件数(名)	標 本 数	一 大 学		専門職大学	- 専門職短期大学	専門学校	就職	その他	無回答
全体	8,523	93.8	2.5	2.7	0.5	6.9	4.1	0.7	0.2
		7,998	211	234	45	587	346	61	14



※「大学」「短期大学」「専門職大学」「専門職短期大学」 のいずれかを選択した8,069名を抽出

■希望する大学等の区分(設置者)

Q2. Q1で①~④を選択した方に質問です。(※Q1で①~④を選択しなかった方は、Q3に進んでください。) 志望する大学等の設置者の希望を選択してください。 現在検討している(希望している)設置者すべてに〇をつけてください。(複数選択可)

上段:% 下段:件数(名)	標 本 数	国 立	公 立	私 立	無回答
全体	8,069	69.2	51.3	49.7	0.2
		5,586	4,140	4,012	19

興味のある学問分野

興味のある学問分野

- 回答者の興味のある学問分野を複数回答で聴取したところ、「理工学部 化学・物質学科」の学びと関連する「工学(物質応用工学、応用化学など)」が48.8%で最も高い。次いで、「理学(数学、物理学など)」が36.0%、「保健(医学、薬学、看護学など)」が31.0%と続く。
- 回答者のうち、私立大学進学希望者に限定すると、興味のある学問分野は「理工学部 化学・物質学科」の学びと関連する「工学(物質応用工学、応用化学など)」が47.0%で最も高い。次いで、「理学(数学、物理学など)」が36.1%、「保健(医学、薬学、看護学など)」が32.9%と続く。

<私立大学進学希望者>

- ① Q1で卒業後の進路として「大学」を希望。
- ② Q2で「私立」への進学を希望。

興味のある学問分野

■興味のある学問分野

Q3. ここからは<u>全員</u>にお聞きします。

高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。 以下の項目から、興味のある学問分野<u>すべてに〇</u>をつけてください。(複数選択可) ※現時点で進学を希望されていない方も、進学する場合を想像してお答えください。

上段:% 下段:件数(名)	標本数	(文学、史学など)	経済学など)	など)理学(数学、物理学	応用化学など)工学(物質応用工学、	など)
全体	8,523	3.0	7.6	36.0	48.8	12.1
		256	648	3,070	4,157	1,035
上段: % 下段: 件数(名)	標本数	看護学など)保健(医学、薬学、	など)家政(食物学、児童学	など)教育学、体育学教育(教育学	その他	無回答
全体	8,523	31.0	4.8	12.4	14.1	0.4

<私立大学進学希望者ベース>

上段:% 下段:件数(名)	標本数	(文学、史学など)	経済学など)社会科学(法学、	など)理学(数学、物理学	応用化学など)工学(物質応用工学、	など)
私立大学	3,966	3.8	9.1	36.1	47.0	11.1
進学希望者		149	360	1,433	1,863	441
上段:%	標本数	看護学など)保健(医学、薬学、	など)家政(食物学、児童学	など)教育(教育学、体育学	その他	無回答
下段:件数(名)						
	3,966	32.9 1,306	6.1 242	13.1 518	15.4 610	0.1

※%の母数は、私立大学進学季望積(資料666名)

名城大学「理工学部 化学・物質学科」 への受験・入学意向

- ※ここからは、下記の①~③の条件すべてに合致する回答者を、 名城大学「理工学部 化学・物質学科」のターゲット層と定義し、分析を行う。
 - ① Q1で卒業後の進路として「大学」を希望。
 - ② Q2で「私立」への進学を希望。
 - ③ Q3で、「理工学部 化学・物質学科」の学びと関連する学問分野への 興味あり

(工学(物質応用工学、応用化学など)に興味あり)

名城大学「理工学部 化学・物質学科」への受験・入学意向

- ・上記の①~③の条件すべてに合致する回答者(理工学部 化学・物質学科のター ゲット層該当者)は、1,863名である。
- ターゲット層該当者の、「理工学部 化学・物質学科」への受験意向、入学意向を みると、
 - ◇「第一志望として受験する」かつ「入学する」と回答した人は103名
 - ◇「第二志望として受験する」かつ「入学する」と回答した人は42名
 - ◇「第三志望以降として受験する」かつ「入学する」と回答した人は38名

上記を合計すると、いずれかの志望順位で「入学する」と回答した人は、183名

■名城大学「理工学部 化学・物質学科」への受験・入学意向

- Q5. あなたは、名城大学「理工学部 化学・物質学科」(仮称、設置構想中)が開設された場合、受験を希望しますか。 あなたの考えに近い選択肢を、次より一つ選択してください。
- Q6. **Q5で①~③(受験する)を選択した方**に質問です。

名城大学「理工学部 化学・物質学科」(仮称、設置構想中)を受験して合格した場合、入学を希望しますか。 あなたの考えに近い選択肢を、次より一つ選択してください。

		入学意向					
上段下段	: % : 件数(名)	入学する	志望順位が上位の 他の志望校が 不合格の場合に 入学する	入学しない			
	第一志望	1.2	0.2	0.0			
		103	13	2			
受	第二志望	0.5	1.9	0.0			
験		42	165	2			
験意	第三志望以降	0.4	5.8	0.2			
向		38	492	20			
	受験意向あり・合計	2.1	7.9	0.2			
		183	670	24			
受験	にない	11.1					
			944				

※%の母数は、回答者全体(8,523/学生確保(資料)-60-

名城大学「理工学部 化学・物質学科」 の特色に対する魅力度

名城大学「理工学部 化学・物質学科」の特色に対する魅力度

【理工学部 化学・物質学科 ターゲット層】

下記の①~③の条件すべてに合致する回答者: 1,863名(回答者全体の21.9%)

- ① Q1で卒業後の進路として「大学」を希望。
- ② Q2で「私立」への進学を希望。
- ③ Q3で、「理工学部 化学・物質学科」の学びと関連する学問分野への興味あり

(工学(物質応用工学、応用化学など)に興味あり)



- ・ターゲット層における「理工学部 化学・物質学科」の特色「・本学のツインブランドである青色LED・カーボンナノチューブなど物質化学(物質工学)分野における世界クラスの教育・研究を推進・「材料機能工学」と「応用化学」の2側面から広い視野をもち専門性・研究力を身につける」に対する魅力度(※)は81.5%である。
- 同様に、ターゲット層該当者のうち、「第一志望として受験する」かつ「入学する」と回答した人(第一志望者)における「理工学部 化学・物質学科」の特色に対する魅力度は96.1%である。

※魅力度=「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

■名城大学「理工学部 化学・物質学科」の特色に対する魅力度

Q4. 名城大学「理工学部 化学・物質学科」(仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。 新学科の特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。(あてはまる番号<u>1つに〇</u>)

【新学科の特色】

- ・本学のツインブランドである青色LED・カーボンナノチューブなど物質化学(物質工学)分野における 世界クラスの教育・研究を推進
- ・「材料機能工学」と「応用化学」の2側面から広い視野をもち専門性・研究力を身につける

上段:% 下段:件数(名)	標本数	新学科の 特色
ターゲット層	1,863	81.5
		1,518
第一志望者	103	96.1
		99

※第一志望者:

ターゲット層(大学進学希望×私立×関連学問分野興味あり)該当者のうち、名城大学「理工学部 化学・物質学科」を学算確保護型ともた受験する」かつ「入学する」と回答した人

巻末資料 調査票、提示リーフレット、調査対象高校

名城大学 理工学部 化学·物質学科(仮称、設置構想中) に関するアンケート

名城大学では2026年(令和8年)4月より、「理工学部 化学・物質学科」(仮称)を新設することを構想しています。 このアンケートは、高校生のみなさんの進路選択に対する考え方や、大学で学びたいことなどの意見をお伺いし、名城大学の教育をより 充実したものにするための参考資料とさせていただくものです。

このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することは一切ありません。 また、回答いただいた内容が、高校生のみなさんの本学への入学に影響を及ぼすことは一切ありません。 つきましては、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

※ このアンケートや同封した資料に記載されている「理工学部 化学・物質学科」(仮称、設置構想中)に関する事項は すべて予定であり内容が変更になる可能性があります。

記 要

頟

- 1. 回答は、あてはまる番号 に「O」印をつけてください。
- 2. この用紙は、電算処理しますので汚さないようにしてください。
- 3. 記入は、必ず鉛筆又はシャープペンシルで濃く書いてください。
- 4. 下記の【良い記入例】にしたがって記入してください。 特に、「〇」印は、番号丸枠からはみ出さないようにつけてください。

● 人文科学 記入例 ② 社会科学



② 社会科学

ここに<u>〇印</u>をつけてください

② 社会科学



ID 12

◆最初にあなた自身についてお聞きします。

性別 (1つに <u>(</u>)	① 男性	② 女性	③ 回答しない	
学年 (<u>1 つに〇</u>)	① 1年生	② 2年生	③ 3年生	
在籍している 高校名	高校所在地 [① 国立 ② 公立	③ 私立]都・道・府・県 (← <u>1 つに〇</u>) []高等学校
所属クラス	① 理系クラス(理	系コース)	③ コース選択はない	
(1つに()	② 文系クラス(文	系コース)	④ その他	

◆高校卒業後の進路や、興味のある学びについてお聞きします。

あなたは、卒業後の進路をどのように考えていますか。 現在検討している進路<u>すべてに</u>をつけてください。(複数選択可)

③ 専門職大学 ⑤ 専門学校 1 大学 ② 短期大学 4 専門職短期大学 6 就職 7 その他

Q1で①~④を選択した方に質問です。(※Q1で①~④を選択しなかった方は、Q3に進んでください。) 志望する大学等の設置者の希望を選択してください。 現在検討している(希望している)設置者<u>すべてに</u>をつけてください。(複数選択可)

1 玉立

② 公立

③ 私立

ここからは全員にお聞きします。

高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。 以下の項目から、興味のある学問分野<u>すべてに○</u>をつけてください。(複数選択可) ※現時点で進学を希望されていない方も、進学する場合を想像してお答えください。

① 人文科学(文学、史学など)

⑤ 農学(林学、水産学など)

9 その他

② 社会科学(法学、経済学など)

⑥ 保健(医学、薬学、看護学など)

③ 理学(数学、物理学など)

⑦ 家政(食物学、児童学など)

④ 工学(物質応用工学、応用化学など)

⑧ 教育(教育学、体育学など)

◆名城大学 「理工学部 化学・物質学科」 (仮称、 設置構想中)についてお聞きします。

名城大学では、現在高校2年生のみなさんが大学生となる2026年(令和8年)4月に、 新しく「理工学部 化学・物質学科」(仮称)を設置することを構想しています。

※ ここからは、アンケートに同封している資料を見てからお答えください ※

名城大学「理工学部 化学・物質学科」(仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。 新学科の特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。(あてはまる番号1つに○)

【新学科の特色】

- ・本学のツインブランドである青色LED・カーボンナノチューブなど物質化学(物質工学)分野における 世界クラスの教育・研究を推進
- ・「材料機能工学」と「応用化学」の2側面から広い視野をもち専門性・研究力を身につける
- ① とても魅力を感じる ② ある程度魅力を感じる ③ あまり魅力を感じない ④ まったく魅力を感じない

- あなたは、名城大学「理工学部 化学・物質学科」(仮称、設置構想中)が開設された場合、受験を希望しますか。 Q 5 あなたの考えに近い選択肢を、次より一つ選択してください。
 - ① 第一志望として受験する
- ② 第二志望として受験する
- ③ 第三志望以降として受験する
- ④ 受験しない (→Q7にお進みください。)
- Q5で①~③(受験する)を選択した方に質問です。
 - 名城大学「理工学部 化学・物質学科」(仮称、設置構想中)を受験して合格した場合、入学を希望しますか。 あなたの考えに近い選択肢を、次より一つ選択してください。
 - 入学する
- ② 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する ③ 入学しない

最後に<u>全員</u>にお聞きします。

あなたは過去に名城大学の本アンケートと同じ内容のアンケートに回答したことがありますか。

- ① 同じアンケートに回答したことはない
- ② 同じアンケートに回答したことがある

*** 質問は以上です。ご協力ありがとうございました。 ***





入学定員:150名 開設場所:天白キャンパス 屬貿時期:2026年4月

稟: 1,544,000 円 (初年度の金額/入学金含む)

豊橋技術科学大学 静岡大学 核果大学

裁字物質科学科 報中日年料 化学·生命工学科 生命·応用化学科

応用化学·生命工学課程

名古屋工業大学

化学生命工学科、物理工学科、マテリアル工学科 物理学科、化学科

鄉鸞年限:4年



高度な教育研究環境となっています。 6学部に対する最新の教育・研究施設を設置。 •外国际学院 •人間学院 •病市情報学院 | 名古屋市東区矢田南4-102-9 [ナゴヤドーム前キャンパス] K 40% MEIOO \$ 4 \$ \$ \$ \$ \$ \$ S.E. 法学部 絕質学部 经资学部,外国原学部、人国学部、人国学部、总市协会学部、 省级工学部、国工学部、健学部、 董孝亚·大学院(0米克料) 出土間の単価は、2024年2月の早日ダイヤをもにに重比し、 第三項人員等の間からキキャン・Cスへの独分も含んだささよその形質量等です。 ■ 民自・八巻キャンパスまた ■ ナゴヤドーム器キャンパスまた #064 #064 #1∃1 #902 #85 | お問い合わせ| |名城大学 入学 センター TEL:052-838-2018 | 〒468-8502 4古屋市天台区協設ローブ目501号地 | https://www.meijo-u.ac.jp/admissions/ 럁 ##.# #609 m669 春日井 #±2/2#**■**

8

機

[八事キャンパス]

理工学部 化学・物質学科 リーフレット



高校の選定根拠:

理工学部に過去3年間の出願実績が多く、かつ、主たる学生募集地域(岐阜県、 静岡県、愛知県、三重県)に所在する高校を選定。

1	福井県立美方高等学校
2	岐阜県立岐阜北高等学校
3	岐阜県立岐山高等学校
4	岐阜県立加納高等学校
5	岐阜県立羽島高等学校
6	岐阜県立大垣北高等学校
7	岐阜県立大垣東高等学校
8	岐阜県立大垣工業高等学校
9	岐阜県立海津明誠高等学校
10	岐阜県立武義高等学校
11	岐阜県立関高等学校
12	岐阜県立加茂高等学校
13	岐阜県立可児工業高等学校
14	岐阜県立多治見高等学校
15	岐阜県立多治見北高等学校
16	岐阜県立瑞浪高等学校
17	岐阜県立恵那高等学校
18	岐阜県立中津高等学校
19	岐阜県立大垣西高等学校
20	岐阜県立可児高等学校
21	岐阜県立各務原西高等学校
22	岐阜県立岐阜総合学園高等学校
23	岐阜県立本巣松陽高等学校
24	鶯谷高等学校
25	富田高等学校

26	済美高等学校
27	美濃加茂高等学校
28	多治見西高等学校
29	中京高等学校
30	帝京大学可児高等学校
31	静岡県立浜松西高等学校
32	静岡県立浜松南高等学校
33	静岡県立浜松湖東高等学校
34	静岡県立浜名高等学校
35	浜松市立高等学校
36	静岡県立浜松湖南高等学校
37	静岡県立浜松大平台高等学校
38	城南静岡高等学校
39	浜松学芸高等学校
40	浜松日体高等学校
41	名古屋大学教育学部附属高等学校
42	愛知教育大学附属高等学校
43	愛知県立千種高等学校
44	愛知県立瑞陵高等学校
45	愛知県立惟信高等学校
46	愛知県立昭和高等学校
47	愛知県立名古屋西高等学校
48	愛知県立熱田高等学校
49	愛知県立中村高等学校
50	愛知県立南陽高等学校

51	愛知県立鳴海高等学校
52	愛知県立守山高等学校
53	愛知県立名古屋工科高等学校
54	愛知県立緑丘高等学校
55	愛知県立春日井高等学校
56	愛知県立春日井西高等学校
57	愛知県立旭野高等学校
58	愛知県立東郷高等学校
59	愛知県立豊明高等学校
60	愛知県立犬山高等学校
61	愛知県立尾北高等学校
62	愛知県立小牧高等学校
63	愛知県立岩倉総合高等学校
64	愛知県立丹羽高等学校
65	愛知県立一宮西高等学校
66	愛知県立一宮北高等学校
67	愛知県立木曽川高等学校
68	愛知県立津島高等学校
69	愛知県立津島北高等学校
70	愛知県立五条高等学校
71	愛知県立大府高等学校
72	愛知県立横須賀高等学校
73	愛知県立半田高等学校
74	愛知県立半田工科高等学校
75	愛知県立東浦高等学校
76	愛知県立碧南高等学校
77	愛知県立刈谷北高等学校
78	愛知県立知立高等学校
79	愛知県立安城高等学校
80	愛知県立安城東高等学校

81	愛知県立西尾高等学校
82	愛知県立西尾東高等学校
83	愛知県立岡崎北高等学校
84	愛知県立岡崎東高等学校
85	愛知県立豊田西高等学校
86	愛知県立松平高等学校
87	愛知県立足助高等学校
88	愛知県立三好高等学校
89	愛知県立国府高等学校
90	愛知県立時習館高等学校
91	愛知県立豊橋東高等学校
92	愛知県立豊丘高等学校
93	愛知県立豊橋南高等学校
94	愛知県立豊橋工科高等学校
95	愛知県立蒲郡高等学校
96	愛知県立蒲郡東高等学校
97	愛知県立成章高等学校
98	愛知県立小坂井高等学校
99	愛知県立天白高等学校
100	愛知県立東海南高等学校
101	名古屋市立菊里高等学校
102	名古屋市立向陽高等学校
103	名古屋市立桜台高等学校
104	名古屋市立富田高等学校
105	名古屋市立山田高等学校
106	愛知県立瀬戸西高等学校
107	愛知県立春日井東高等学校
108	愛知県立津島東高等学校
109	愛知県立西春高等学校
110	愛知県立一宮南高等学校

111 愛知	印県立阿久比高等学校
112 愛知	印県立豊田北高等学校
113 愛知	印県立江南高等学校
114 愛知	印県立小牧南高等学校
115 愛知	印県立豊田南高等学校
116 愛知	印県立日進西高等学校
117 愛知	印県立一宮興道高等学校
118 愛知	印県立大府東高等学校
119 愛知	印県立豊田高等学校
120 愛知	印県立安城南高等学校
121 愛知	印県立豊橋西高等学校
122 愛知	印県立名古屋南高等学校
123 愛知	印県立岡崎西高等学校
124 名言	古屋市立名東高等学校
125 愛知	印県立豊野高等学校
126 愛知	印県立知立東高等学校
127 愛知	印県立新川高等学校
128 愛知	印県立御津あおば高等学校
129 愛知	印県立知多翔洋高等学校
130 愛知	印県立常滑高等学校
131 愛知	印県立愛知総合工科高等学校
132 愛知	印県立新城有教館高等学校
133 愛知	印高等学校
134 愛知	印淑徳高等学校
135 名言	古屋経済大学市邨高等学校
136 名言	古屋経済大学高蔵高等学校
137 享急	
138 金坊	成学院高等学校
139 椙口	山女学園高等学校

141	日本福祉大学付属高等学校
142	中京大学附属中京高等学校
143	至学館高等学校
144	東海学園高等学校
145	東邦高等学校
146	同朋高等学校
147	名古屋高等学校
148	名古屋女子大学高等学校
149	愛知工業大学名電高等学校
150	南山高等学校•男子部
151	愛知みずほ大学瑞穂高等学校
152	名城大学附属高等学校
153	菊華高等学校
154	愛知啓成高等学校
155	星城高等学校
156	中部大学春日丘高等学校
157	清林館高等学校
158	愛知黎明高等学校
159	誠信高等学校
160	岡崎城西高等学校
161	人間環境大学附属岡崎高等学校
162	桜丘高等学校
163	豊川高等学校
164	光ヶ丘女子高等学校
165	愛知産業大学三河高等学校
166	誉高等学校
167	栄徳高等学校
168	豊田大谷高等学校
169	大成高等学校
170	三重県立桑名高等学校

三重県立桑名西高等学校
三重県立四日市西高等学校
三重県立四日市工業高等学校
三重県立神戸高等学校
三重県立津高等学校
三重県立津西高等学校
三重県立津東高等学校
三重県立津工業高等学校
三重県立松阪高等学校
三重県立宇治山田高等学校
三重県立伊勢高等学校
三重県立川越高等学校
暁高等学校
海星高等学校
鈴鹿高等学校
高田高等学校
セントヨゼフ女子学園高等学校
三重高等学校
津田学園高等学校

新設組織が置かれる都道府県への入学状況

〇出身高校の所在地県別の入学者数の構成比(上位5都道府県)※直近年度

	都道府県名	人 数	構成比
1	愛知県	27, 299人	64. 4%
2	岐阜県	4, 404人	10. 4%
3	三重県	2, 767人	6. 5%
4	静岡県	1, 981人	4. 7%
5	長野県	678人	1. 6%
	全 体	42, 394人	100. 0%

^{※「}学校基本調査」の「出身高校の所在地県別入学者数」から作成すること。

○新設組織が置かれる都道府県の定員充足状況

	新組織所在地		充足率	
	(都道府県)	令和4年度	令和5年度	令和6年度
1	愛知県	102. 06%	101. 74%	98. 89%
2				

^{※2}校地で教育課程を実施する場合はそれぞれの状況を記載すること。

〇新設組織の学問分野(系統区分)の定員充足状況

	系統区分		充足率	
	不视区 力	令和4年度	令和5年度	令和6年度
1	理・工学系学部(大学)	104. 35%	101. 88%	99. 39%
2				

^{※「}系統区分」は日本私立学校振興・共済事業団の「今日の私学財政」の系統区分に従うこと。

[※]大学、学部、学部の学科、短期大学、短期大学の学科を設置する場合や収容定員の増加に係る学則変更認可申請の場合に 作成(専門職大学、専門職短期大学、高等専門学校を含む)。大学院は作成不要。

大学学部学科等名:名城大学理工学部材料機能工学科 (大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。)

1. 各選抜方法の状況

	口匹1次/] //	407 1/1/10	I= : += w +	I - 1 - W -			I = 1 - 11 - 11 - 11	
			R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
総	募集人数		1人	1人	1人	1人	1人	1人
	延べ人数	士陌老粉	0人	0人	0人	1人	1人	0人
合	延 へ 人 剱							
型		受験者数	0人	0人	0人	1人	1人	0人
選			0人	0.1		1 1	1人	0.1
进		合格者数		0人	0人	1人		0人
抜		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
			0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数						
	実 人 数	志願者数	0人	0人	0人	1人	1人	0人
	~ · · ~							
		受験者数	0人	0人	0人	1人	1人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	1人	1人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	7 27 +7 14 L	肝心口外						
	入学者数		0人	0人	0人	1人	1人	0人
学	募集人数		27人	27人	27人	27人	27人	27人
		t == -t star						
校	延べ人数	志願者数	45人	45人	45人	42人	61人	48人
推		受験者数	45人	45人	45人	42人	61人	48人
薦		合格者数	34人	32人	39人	37人	45人	37人
型		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
- - =								
選		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
抜	中 1 粉	志願者数	45人	45人	45人	42人	61人	48人
加	実 人数							
1	1	受験者数	45人	45人	45人	42人	61人	48人
1	1			32人		37人		37人
1	1	合格者数	34人		39人		45人	
1	1	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
1	1	辞退者数	0人					
1		矸迟百 级		0人	0人	0人	0人	0人
1	入学者数		30人	28人	37人	32人	38人	33人
—								
1 —	募集人数		44人	44人	44人	44人	44人	44人
般	延べ人数	志願者数	872人	671人	1050人	851人	1096人	908人
	~ ^ %				10007			
選		受験者数	823人	656人	1035人	823人	1043人	876人
抜		合格者数	332人	344人	418人	397人	404人	379人
1//								
		うち追加合格者数	0人	25人	53人	0人	0人	16人
		辞退者数	5人	1人	1人	2人	4人	3人
	- 1 1/1							
	実 人 数	志願者数	872人	671人	1050人	851人	1096人	908人
		受験者数	823人	656人	1035人	823人	1043人	876人
		合格者数	332人	344人	418人	397人	404人	379人
		うち追加合格者数	0人	25人	53人	0人	0人	16人
		辞退者数	5人	1人	1人	2人	4人	3人
	入学者数		43人	43人	48人	48人	39人	44人
						,		
共	募集人数		8人	8人	8人	8人	8人	8人
通	延べ人数	士昭李粉	114人	142人	204人	138人	121人	144人
	と へ 人 奴							
テ		受験者数	114人	142人	168人	138人	121人	137人
ス		合格者数	67人	96人	50人	55人	71人	68人
		うち追加合格者数	0人	14人	0人	0人	0人	3人
利		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
用	実 人 数	志願者数	114人	142人	204人	138人	121人	144人
	^ ^ ~							
入		受験者数	114人	142人	168人	138人	121人	137人
試		合格者数	67人	96人	50人	55人	71人	68人
пъс								
		うち追加合格者数	0人	14人	0人	0人	0人	3人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
1	入学者数			10人		0人		
<u> </u>			5人	,	3人	- 7 7	5人	5人
そ	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
l o	延べ人数	士陌李粉	3人	0人	0人	0人	0人	1人
	一							
他	1	受験者数	3人	0人	0人	0人	0人	1人
の	1	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	1							
特	1	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
別	1	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	ф 1 ж	十四十十						
選	実 人 数	志願者数	3人	0人	0人	0人	0人	1人
抜	1	受験者数	3人	0人	0人	0人	0人	1人
1//	1							
1	1	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
1	1	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
1	1		0人	0人	0人	0人		0人
1		辞退者数					0人	
1	入学者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
\triangle	募集人数		80人	80人	80人	80人	80人	80人
合								
計	延べ人数	志願者数	1034人	858人	1299人	1032人	1279人	1100人
							1226人	
		受験者数	985人	843人	1248人	1004人		1061人
		合格者数	433人	472人	507人	490人	521人	485人
		うち追加合格者数	0人	39人	53人	0人	0人	18人
		辞退者数	5人	1人	1人	2人	4人	3人
	中 1 兆							
	実 人数	志願者数	1034人	858人	1299人	1032人	1279人	1100人
		受験者数	985人	843人	1248人	1004人	1226人	1061人
		△妆 字粉		472人				
		合格者数	433人		507人	490人	521人	485人
		うち追加合格者数	0人	39人	53人	0人	0人	18人
			5人			2人	4人	
		辞退者数		1人	1人			3人
	入学者数		78人	81人	88人	81人	83人	82人
	人字石級							

3. 入学定員充足率

							R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平	均
入		学		定		員	人08	80人	80人	80人	人08		80
入	学	定	員	充	足	率	0. 98	1. 01	1. 10	1. 01	1.04		1.03
步			留			率	0. 18	0. 17	0. 17	0. 17	0. 16		0. 17

(備考) 特記事項がある場合は記載すること。

(大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。)

1. 各選抜方法の状況

<u>1.</u>	各選抜方法	女の状況						
			R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
総	募集人数		1人	1人	1人	1人	1人	1人
合	延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	1人	0人	0人
型		受験者数	0人	0人	0人	1人	0人	0人
選		合格者数	0人	0人	0人	1人	0人	0人
抜		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0分	0人	0人
双								
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実 人 数	志願者数	0人	0人	0人	1人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	1人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	1人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	叶色有效	0人	0人	0人	1人	00	0人
334				- 7 7			- 7 7	- 7 7
学	募集人数		19人	19人	19人	19人	19人	19人
校	延べ人数	志願者数	71人	54人	59人	65人	85人	67人
推		受験者数	71人	54人	57人	65人	85人	66人
薦		合格者数	28人	28人	33人	31人	41人	32人
型		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
選		辞退者数	1人	1人	2人	1人	1人	1人
抜	実 人 数	志願者数	71人	54人	59人	65人	85人	67人
双	実 人 数							
		受験者数	71人	54人	57人	65人	85人	66人
		合格者数	28人	28人	33人	31人	41人	32人
l		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	1人	2人	1人	1人	1人
	入学者数		19人	17人	20人	20人	23人	20人
_	募集人数		43人	43人	44人	44人	44人	44人
般	延べ人数	志顧 孝粉	1734人	1584人	1952人	1563人	2206人	1808人
	二、 八 奴			1549人	1920人	1538人	2130人	1764人
選		受験者数	1683人					
抜		合格者数	600人	796人	776人	757人	693人	724人
		うち追加合格者数	117人	136人	0人	123人	0人	75人
		辞退者数	5人	3人	8人	9人	5人	6人
	実 人 数	志願者数	1734人	1584人	1952人	1563人	2206人	1808人
		受験者数	1683人	1549人	1920人	1538人	2130人	1764人
		合格者数	600人	796人	776人	757人	693人	724人
			117人	136人	7,70人	123人	0.30人	75人
		うち追加合格者数						
	7 2V + W	辞退者数	5人	3人	8人	9人	5人	6人
L	入学者数		44人	49人	59人	37人	48人	47人
共	募集人数		7人	7人	6人	6人	6人	6人
通	延べ人数	志願者数	296人	229人	351人	325人	229人	286人
ーテ		受験者数	296人	229人	269人	324人	228人	269人
ス		合格者数	130人	132人	94人	141人	147人	129人
-		うち追加合格者数	0人	27人	0人	0人	0人	5人
· 利		辞退者数	0人	0人	0人	2人	0人	0人
用用	実 人 数	志願者数	296人	229人	351人	325人	229人	286人
	実 人 数		296人	229人	269人	324人	228人	269人
入		受験者数						
試		合格者数	130人	132人	94人	141人	147人	129人
		うち追加合格者数	0人	27人	0人	0人	0人	5人
		辞退者数	0人	0人	0人	2人	0人	0人
	入学者数		3人	3人	6人	2人	6人	4人
そ	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
Ó	延べ人数	志陌者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
他	_ ^ _	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
の		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
特		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
別	H 1 40	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
選	実 人 数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
抜		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
合	募集人数		70人	70人	70人	70人	70人	70人
計	延べ人数	志願者数	2101人	1867人	2362人	1954人	2520人	2161人
H 1	_ ^ ~	受験者数	2050人	1832人	2246人	1928人	2443人	2100人
						930人	,	
		合格者数	758人	956人	903人		881人	886人
		うち追加合格者数	117人	163人	0人	123人	0人	81人
		辞退者数	6人	4人	10人	12人	6人	8人
	実 人 数	志願者数	2101人	1867人	2362人	1954人	2520人	2161人
		受験者数	2050人	1832人	2246人	1928人	2443人	2100人
		合格者数	758人	956人	903人	930人	881人	886人
		うち追加合格者数	117人	163人	0人	123人	0人	81人
		辞退者数	6人	4人	10人	12人	6人	8人
	入学者数	HICHM	66人	69人	85人	60人	77人	71人
			001	037	00/	00/	117	

3. 入学定員充足率

							R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平	均
入		学		定		削	70人	70人	70人	70人	70人		70
入	学	定	員	充	足	率	0. 94	0. 99	1. 21	0.86	1. 10		1.02
歩			留			率	0.09	0. 07	0.09	0.06	0. 09		0.08

(備考) 特記事項がある場合は記載すること。

①募集を行った学科等名称及び取組の名称:オープンキャンパス(理工学部材料機能工学科志望)

	R5年度入試	R6年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	193人	395人	①取組概要 キャンパスを会場とし、各学科の特色紹介、模擬講義、教員・在学生との 個別相談、施設案内等を実施。なお、新型コロナウイルス感染症の影響に より、R5年度入試(R4開催)は参加者数を制限の上、実施した。近年、受
うち受験対象者数(b)	93人		験生の各イベント参加時期の早期化が進んでいることもあり低年次生の参加者も多い。 R5年度入試対象(R4開催):計2回開催(7/30、7/31) R6開催入試対象(R5開催):計2回開催(7/29、7/30)
うち受験者数(c)	35人		②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析本取組は各学科の教育研究や施設に直接触れることができる重要な取組であり、参加者の受験率・入学率ともに高い。集計対象となる両年度ともに
うち入学者数(d)	14人	20人	入学定員充足率は1.00倍を超えたため、化学・物質学科開設後も同等の参加者数を集め、入学者確保につなげたい。 ③受験対象者の定義
(受験率 c/b)	37. 6%	29. 9%	高校3年生、高卒生、高卒認定 ※集計データに関する留意事項 「参加者等総数」は事前予約時のアンケートで志望学科(複数回答可)
(入学率 d/b)	15. 1%	13. 6%	で当該学科を選択した者の数

②募集を行った学科等名称及び取組の名称:高校説明会・進学相談会・資料請求(理工学部材料機能工学科志望)

	R5年度入試	R6年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	1373人	1543人	①取組概要 【高校説明会】 高校を会場とし、高校生とその保護者を対象として、本学や各学科の特色 や養成する人材目標、教育プログラム、卒業後の進路、入試情報等につい
うち受験対象者数(b)	1260人	1429人	て説明する。
うち受験者数(c)	476人	579人	【資料請求】 本学HPや受験関連業者の媒体を通じて、希望者へ各種資料(大学案内、入 試ガイド、過去問題集等)を郵送する。
うち入学者数(d)	114人	121人	②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 これらの取組は、通年で実施しており高校や学外施設に出向くことから受験生が参加し易い。また、学部学科の特色を高校生に直接伝えるのであること
(受験率 c/b)	37. 8%	40. 5%	もあり、参加者の受験率は高い。集計対象となる両年度ともに入学定員充足率は1.00倍を超えたため、化学・物質学科開設後も同等の参加者数を集め、入学者確保につなげたい。
(入学率 d/b)	9.0%	8. 5%	③受験対象者の定義 高校3年生、高卒生、高卒認定

①募集を行った学科等名称及び取組の名称:オープンキャンパス (理工学部応用化学科志望)

	R5年度入試	R6年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	438人	735人	①取組概要 キャンパスを会場とし、各学科の特色紹介、模擬講義、教員・在学生との 個別相談、施設案内等を実施。なお、新型コロナウイルス感染症の影響に より、R5年度入試(R4開催)は参加者数を制限の上、実施した。近年、受
うち受験対象者数(b)	187人	248人	験生の各イベント参加時期の早期化が進んでいることもあり低年次生の参加者も多い。 R5年度入試対象(R4開催):計2回開催(7/30、7/31)
うち受験者数(c)	64人		R6開催入試対象 (R5開催) :計2回開催 (7/29、7/30) ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 本取組は各学科の教育研究や施設に直接触れることができる重要な取組であり、参加者の受験率・入学率ともに高い。集計対象となるR5年度入試
うち入学者数 (d)	16人	26人	(R4年度開催) は参加者数が低調となり、結果として入学定員充足率も 1.00倍を下回った。一方、R6年度入試(R5年度開催) は参加者数が増加 し、入学定員充足率も1.00倍を上回ったため、化学・物質学科開設後も同 等の参加者数を集め、入学者確保につなげたい。
(受験率 c/b)	34. 2%	39. 5%	③受験対象者の定義 高校3年生、高卒生、高卒認定
(入学率 d/b)	8. 6%	10. 5%	※集計データに関する留意事項 「参加者等総数」は事前予約時のアンケートで志望学科(複数回答可) で当該学科を選択した者の数

②募集を行った学科等名称及び取組の名称:高校説明会・進学相談会・資料請求(理工学部応用化学科志望)

	R5年度入試	R6年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	2609人	2682人	①取組概要 【高校説明会】 高校を会場とし、高校生とその保護者を対象として、本学や各学科の特色 や養成する人材目標、教育プログラム、卒業後の進路、入試情報等につい
うち受験対象者数(b)	2275人	2374人	て説明する。
うち受験者数(c)	861人		【資料請求】 本学HPや受験関連業者の媒体を通じて、希望者へ各種資料(大学案内、入 試ガイド、過去問題集等)を郵送する。
うち入学者数(d)	85人		②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析これらの取組は、通年で実施しており高校や学外施設に出向くことから受験生が参加し易い。また、学部学科の特色を高校生に直接伝えられること
(受験率 c/b)	37. 8%	39. 1%	もあり、参加者の受験率は高い。集計対象となる両年度において入学定員 充足率に差は出たものの、本取組の参加者数に大きな差はなかったため、 化学・物質学科開設後も同等の参加者数を集め、入学者確保につなげた い。
(入学率 d/b)	3. 7%	4. 6%	③受験対象者の定義 高校3年生、高卒生、高卒認定

(用紙 日本産業規格A4縦型)

教 員 名 簿

		学	長	C	カ	氏	名	等
調書番号	役職名		^{フリガナ} 氏名 (予定)年月>		年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
-	学長		f ミッノリ コ 光宣 和7年4月>			米国Duke Universit y Graduate School Doctor of Philosoph y in Mathemati		名城大学学長 (令和7.4~令和11.3)

(理	工学部化	<u>と学・</u> 物	質学科)		教		員			の			氏		名	(用紙 <u></u> 等	日本産業規格A4横型)
調書番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任 (予定) 年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	主要授 配業科目 年	当次	担当年単位数開	講数	現 職 (就任年 月)	教 育 課 程 教授会	の編成等の意思を教務委員会 その他	☆定に係る会議等への参画状況 「その他」の場合、会議等の名称	申請に係る大学等の職務に従 事 す る 週 当 た り 平 均 日 数	申請に係る学部等以 外の組織(他の大学 等に置かれる学部教 を含む)での基幹教 員としての勤務状況
1	基 (主 専)	教授	177 計7 年 岩谷 素顕 <令和8年4月>		博士 (工学)		化学・物質概論※ 応用数学Ⅱ 電子回路 科学技術リテラシー※ 電気回路および演習 化学・物質でミナール※ 電子材料評価 半導体工学 材料機能工学実験Ⅱ 卒業研究	〇 1 〇 2 〇 (材) 2 〇 1 〇 3 〇 3 〇 (材) 3	前前後前後後前後前通	0.9 2 2 0.5 3 0.8 2 2 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	名城大学 理工学部 教授 (平15.4)	0	状物を具芸しい。	「このに」の勿日、五賊守の石が	5日	
2	基 (主事)	教授	ウサミ ハッヒコ 宇佐美 初彦 <令和8年4月>		工学博士		理工学概論※ 化学・物質概論※ 科学技術リテラシー※ 化学・物質ゼミナール※ 材料力学Ⅱおよび演習 機械加工 塑性加工 材料強度学 材料機能工学実験Ⅲ 卒業研究 基礎ゼミナールⅡ 基礎ゼミナールⅡ	〇(材) 〇(材) 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇	前前前後後前前後前後通前後 11前前後後前前後前後通前後 11位	0. 1 0. 8 0. 5 0. 8 3 2 2 2 2 2 2 4 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	名城大学 理工学部 教授 (平7.4)	0			5日	
3	基 (主 専)	教授	かきヤマ サトシ 上山 智 <令和8年4月>		博士 (工学)		化学・物質概論※ 科学技術リテラシー※ 量子力学Ⅱ 量子力学Ⅲ 半導体基礎論 半導体デバイス 材料機能工学実験Ⅲ 化学・物質ゼミナール※ 卒業研究	○(材) 2 ○ 2 ○ 3 ○ 3 ○(材) 3 ○ (材) 3	1前前前後後後後33844	1. 2 0. 5 3 2 2 2 2 2 0. 8 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1	名城大学 理工学部 教授 (平13.4)	0			5 日	
4	基(主 専)	教授	セキグチ ヒロト 関口 寛人 <令和8年4月>		博士 (工学)		材料機能工学実験I 応用数学Ⅲ 結晶材料 量子力学Ⅱおよび演習 卒業研究 化学・物質概論※ 科学技術リテラシー※ 化学・物質ゼミナール※	〇 1 〇 2 〇 4 〇 1 〇(材) 2	2後後前後 3位 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10	2 2 2 3 4 0.8 0.5 0.8	1 1 1 1 1 1 1 1	名城大学 理工学部 教授 (令7.4)	0			5 日	
5	基 (主 専)	教授	タ ウチ デッヤ 竹内 哲也 <令和8年4月>		博士 (工学)		化学・物質概論※ 科学技術リテラシー※ 電磁気学Iおよび演習 電子回路設計・制作 電磁気学IIおよび演習 光・誘電工学 材料機能工学実験Ⅲ 化学・物質ゼミナール※ 基礎電磁気 卒業研究	○(材) 2 ○(材) 2 ○(材) 2 ○ 3 ○(材) 3 ○ 1	1前前後前前後後後後通	0.8 0.5 3 2 3 2 2 0.8 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	名城大学 理工学部 教授 (平22.4)	0			5 日	
6	基 (主 専)	教授	ロクタ エイジ 六田 英治 <令和8年4月>		博士 (理学)		化学・物質概論※ 物理学I 物理学II 科学技術リテラシー※ 材料機能工学実験I 真空工学 材料機能工学実験 II 表面化学 化学・物質ゼミナール※ 卒業研究	〇 1 〇 (材) 2 〇 (材) 2 〇 (材) 3 〇 (材) 3 〇 3	1前前後前後23前前後後通	0.9 2 2 1.1 2 2 2 2 0.8 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	名城大学 理工学部 教授 (平19.4)	0			5 日	
7	基 (主 専)	教授	ナガタ トオシ 永田 央 <令和8年4月>		博士 (理学)		有機化学基礎 有機化学 I 有機化学 I 有機化学演習 化学・物質概論※ 化学・物質でミナール※ 応用化学実験 II 応用化学実験 II 卒業研究	〇 1 〇 2 〇 2 〇 1 〇 3 〇(応) 2 〇(応) 3	1前後前前後後前通 201 110 110 110 110 110 110 110 110 110	2 2 2 1 0.7 0.7 2 3 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1	名城大学理 工学部 教授 (平25.4)	0			5日	
8	基 (主 専)	教授 (学科長)	ナカムラ タダシ 中村 忠司 <令和8年4月>		博士 (工学)		電気化学 無機材料化学 I 無機材料化学 I ※ エネルギー工学 化学・物質概論※ 実験基礎論 化学・物質ゼミナール※ 応用化学実験 I 応用化学実験 I 卒業研究	〇 3 3 0 3 1 0 2 0 (応) 2 0 (応) 3	前前後後前前後前後通 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11	2 2 0.8 2 0.5 2 0.5 2 0.5 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	名城大学 理工学部 教授 (令4.4)	0			5日	
9	基 (主 専)	教授	マルヤマ タ北口 丸山 隆浩 <令和8年4月>		博士 (理学)		物理化学基礎 物理化学 I 物理化学演習 化学結晶学 表面化学 機器分析 化学・物質概論※ 化学・物質でミナール※ 応用化学実験 I 卒業研究 応用化学基礎演習※ 理工学概論※	〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇	1後前後前後前後前通前前後前後前後前後前後前後前後前後前後前後前後前通前前	2 2 1 2 2 2 2 0.7 0.7 2 4 0.3 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	名城大学 理工学部 教授 (平14.4)	0			5 日	
10	基 (主 専)	准教授	アカホリ トシカズ 赤堀 俊和 <令和8年4月>		博士 (工学)		化学・物質概論※ 無機化学基礎 科学技術リテラシー※ 材料機能工学実験I 金属材料 材料機能工学実験Ⅲ 工業材料化学 材料機能工学実験Ⅲ 化学・物質ゼミナール※ 卒業研究	〇 (材) 2 〇(材) 2 〇(材) 3 〇(材) 3 〇(材) 3 〇(材) 3	1前後前後20 20 20 30 30 30 30 30 30 30 30 30 30 30 30 30	0.8 2 1.1 2 2 2 2 2 2 2 0.8 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	名城大学 理工学部 准教授 (平22.4)	0			5日	
11	基 (主 専)	准教授	174 ダイチ 今井 大地 <令和8年4月>		博士 (工学)		理工学概論※ 化学・物質概論※ 科学技術リテラシー※ 固体物性Iおよび演習 材料機能工学実験Ⅲ 材料機能工学実験Ⅲ 固体物性IV 化学・物質ゼミナール※ 卒業研究	○ (材) 2 ○ (材) 3 ○ (材) 3 ○ (材) 3 ○ (材) 3	1前前前前後後後 2011年 1前前前後後後 1011年	0. 1 1. 1 0. 5 3 2 2 2 2 0. 8 4	1 1 1 1 1 1 1 1	名城大学 理工学部 准教授 (平28.4)	0	0		5 日	
12	基 (主専)	准教授	エノモト カズキ 榎本 和城 <令和8年4月>		博士 (工学)		化学・物質概論※ 科学技術リテラシー※ 製図基礎 機械製図基礎 材料力学Iおよび演習 材料機能工学実験I 機械GAD製図 高分子・複合材料 材料機能工学実験Ⅲ 材料機能工学実験Ⅲ 化学・物質ゼミナール※ 卒業研究	〇(材) 2 〇(材) 2 〇(材) 2 〇(材) 3 〇(材) 3 〇(材) 3 〇(材) 3	1前前前前前後前後前後後通 223前前後前後後 33333333334通	0.9 1.2 2 2 3 2 2 2 2 2 2 2 2 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	名城大学 理工学部 准教授 (平21.4)	0			5 日	

13	基(主専)	准教授	タナカ タユキ 田中 崇之 <令和8年4月>	博士 (工学)	化学・物質概論※ 科学技術リテラシー※ 熱力学 統計力学 固体物性Ⅱ はで物性Ⅲ 化学・物質ゼミナール※ 卒業研究 物理学演習	〇 〇(材) 〇 〇 〇	1前 2前 2前 2後 3前後 4 4後 1後	0. 9 0. 5 2 2 3 2 0. 8 4 1	1 1 1 1 1 1 1 1	名城大学 理工学部 准教授 (平26.4)	0			5日	
14	基 (主 専)	准教授	17ペ ユミコ 池邉 由美子 <令和8年4月>	博士 (工学)	物性化学 I 電子材料 無機材料化学 II ※ 無機化学演習 化学・物質概論※ 化学・物質ゼミナール※ 応用化学実験 I 応用化学実験 I 物理学実験 I 物理学実験 I	○○○○○○応応○○○	3 3 3 3 3 4 3 3 4 4 1 1 1 4	2 2 0. 4 1 0. 5 0. 5 2 2 4 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	名城大学 理工学部 准教授 (平21.4)	0			5日	
15	基 (主専)	准教授	オザワ マサキ 小澤 理樹 <令和8年4月>	博士 (工学)	物性化学 II 物理化学 II 物質構造学 化学・物質概論※ 化学・物質ゼミナール※ 応用化学実験 I 応用化学実験IV 卒業研究 物理学 I 物理学 II	〇〇〇〇 (応)	3前 2 2 2 1 3 3 2 前 3 6 4 4 1 1 6 1 1 4 1 1 4 1 1 4 1 1 4 1 1 1 1	2 2 2 0.5 0.5 2 2 4 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	名城大学 理工学部 准教授 (平21.4)	0			5日	
16	基 (主 専)	准教授	サイダ タカヒロ 才田 隆広 <令和8年4月>	博士 (工学)	無機化学基礎 無機化学Ⅱ 無機材料化学Ⅱ※ 量子化学Ⅱ 量子化学頃習 化学・物質概論※ 化学・物質でミナール※ 応用化学実験Ⅲ 応用化学実験Ⅲ 卒業研究 応用化学基礎演習※ 理工学概論※	00000000000000000000000000000000000000	1 2 2 3 2 2 2 2 1 3 3 4 4 1 1 1	2 2 0. 4 2 2 1 0. 5 0. 5 2 3 4 0. 3 0. 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	名城大学 理工学部 准教授 (平25.4)	0			5日	
17	基 (主専)	准教授	タウラ ダイスケ 田浦 大輔 <令和8年4月>	博士 (理学)	高分子化学 I 高分子化学 II 有機機能化学 化学・物質概論※ 化学・物質ゼミナール※ 安全工学 応用化学実験 II 応用化学実験 II 卒業研究 応用化学基礎演習※	〇〇〇〇〇応応	2 3 3 3 6 1 3 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6	2 2 2 0.5 0.5 2 2 3 4 0.3	1 1 1 1 1 1 1 1 1	名城大学 理工学部 准教授 (令3.4)	0			5日	
18	基 (主 専)	准教授	タナカ マサヨシ 田中 正剛 <令和8年4月>	博士 (工学)	生化学 分光化学 生活支援化学 化学・物質概論※ 化学・物質ゼミナール※ 応用化学実験Ⅲ 応用化学実験Ⅲ 卒業研究	〇〇〇〇(応)	2後 2後 3前 1前 3後 2前 4 4	2 2 2 0.7 0.7 2 3 4	1 1 1 1 1 1 1	名城大学 理工学部 准教授 (平26.4)	0	0		5 日	
19	基 (主 専)	助教	タニグチ アヤノ 谷口 彩乃 〈令和8年4月〉	博士 (工学)	化学・物質概論※ 化学・物質ゼミナール※ 無機化学 I 分析化学 無機材料化学 II ※ 卒業研究 応用化学実験IV	000000億	1前 3後 2前 2前 3後 4通 3後	0. 5 0. 5 2 2 0. 4 4 2	1 1 1 1 1 1	名城大学 理工学部 助教 (令6.4)	0			5日	
20	その他	教授	イケモト ユウスケ 池本 有助 <令和8年4月>	博士 (工学)	理工学概論※		1前	0. 1	1	名城大学 理工学部 教授 (平27.4)					
21	その他	教授	エノモト アキラ 榎本 暁 <令和8年4月>	文学修士	英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション II 基礎ゼミナール I 基礎ゼミナール II 英語基礎演習 I 英語基礎演習 II		1前 1後 1前 1後 1前 1後 1後	1 1 1 1	1 1 1 1 1	名城大学 理工学部 教授 (平24.4)					
22	その他	教授	オオクラ ノブユキ 大藏 信之 <令和8年4月>	博士 (工学)	基礎ゼミナール I 基礎ゼミナール II		1前 1後	1 1	1 1	名城大学 理工学部 教授 (平15.4)					
23	その他	教授	カゲヤマ ハクト 景山 伯春 <令和8年4月>	博士 (理学)	基礎ゼミナール I 基礎ゼミナール II		1前 1後	1 1	1 1	名城大学 理工学部 教授 (平22.4)					
24	その他	教授	カタギリノブユキ 片桐 誠之 <令和8年4月>	博士 (農学)	基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ		1前 1後	1	1 1	名城大学 理工学部 教授 (令2.4)					
25	その他	教授	がツウラ マサキ 勝浦 正樹 <令和8年4月>	経済学修士	データサイエンス・AI入門※		1前	0.4	1	名城大学 経済学部 教授 (平4.4)					
26	その他	教授	かウ ユキヒサ 加藤 幸久 <令和8年4月>	体育学修士	体育科学 I 体育科学 II 体育科学III 体育科学IV		1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	名城大学 理工学部 教授 (平3.4)					
27	その他	教授	サイトウ キミアキ 齊藤 公明 <令和8年4月>	理学博士	微分積分 I 微分積分 II データサイエンス・AI入門※ データサイエンス・AI応用基礎 I ※ データサイエンス・AI応用基礎 I ※	00	1前 1後 1前 1後 2前	2 2 0. 1 0. 4 0. 1	1 1 1 1	名城大学 理工学部 教授 (昭62.4)					
28	その他	教授	サイトウ タケシ 齊藤 毅 <令和9年4月>	博士 (理学)	地学実験 I 地学実験 II		2前 2後	1 1	1 1	名城大学 理工学部 教授 (平5.4)					
29	その他	教授	サエキ ソウイチ 佐伯 壮一 <令和8年4月>	博士 (工学)	理工学概論※		1前	0.1	1	名城大学 理工学部 教授 (平31.4)					
30	その他	教授	ショウムラ ハヤト 庄村 勇人 <令和8年4月>	修士 (法学)	データサイエンス・AI入門※		1前	0.1	1	名城大学 法学部 教授 (平23.4)					
31	その他	教授	スギウラ シン 杉浦 伸 <令和8年4月>	博士 (都市情 報学)	データサイエンス・AI入門※ データサイエンス・AI応用基礎 I ※		1前 1後	0. 1 0. 1	1	名城大学都 市情報学部 教授 (平21.4)					
32	その他	教授	スズキ シゲヒロ 鈴木 茂廣 <令和8年4月>	体育学修士	体育科学 I 体育科学 II 体育科学 III 体育科学 IV		1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	名城大学 理工学部 教授 (平5.4)					
33	その他	教授	セキヤマ コウスケ 関山 浩介 <令和8年4月>	博士 (工学)	基礎ゼミナール I		1前	1	1	名城大学 理工学部 教授 (平31.4)					

34	その他	教授	タナカ ヨシト 田中 義人	博士 (理学)	化学実験 I 化学実験 II		1前 1後	1 1	1 1	名城大学 理工学部 教授 (平4.4)	
35	その他	教授	< 令和8年4月> ッチダ デツオ 土田 哲生 < 令和8年4月>	博士 (理学)	微分積分 I 微分積分 II 数学基礎演習 II	0	1前 1後 1後	2 2 1	1 1 1	名城大学 理工学部 教授 (平13.4)	
36	その他	教授	テラモト アツシ 寺本 篤司 <令和8年4月>	博士 (工学)	基礎ゼミナールⅡ データサイエンス・AI応用基礎Ⅱ※		1後 2前	1 0. 4	1 1	名城大学 青報工学部 教授 (令5.4)	
37	その他	教授	トミタ コウシ 冨田 耕史 <令和8年4月>	博士 (学術)	データサイエンス・AI応用基礎 I ※		1後	0.3	1	名城大学 理工学部 教授 (平14.4)	
38	その他	教授	ナカジマ コウヘイ 中島 公平 <令和8年4月>	博士 (工学)	基礎ゼミナール I		1前	1	1	名城大学 理工学部 教授 (平15.4)	
39	その他	教授	ナカムラ エイゾウ 中村 栄造 <令和8年4月>	文学修士	英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション II 基礎ゼミナール I 基礎ゼミナール II		1前 1後 1前 1後	1 1 1 1	1 1 1 1	名城大学 理工学部 教授 (平6.4)	
40	その他	教授	プロト 名和 洋人 <令和10年4月>	博士 (経済学)	国際経済論		3後	2	1	名城大学 経済学部 教授 (平21.4)	
41	その他	教授	ニシムラ ナオヤ 西村 尚哉 <令和8年4月>	博士 (工学)	基礎ゼミナール I 理工学概論※		1前 1前	1 0. 1	1 1	名城大学 理工学部 教授 (平20.4)	
42	その他	教授	ハラダ チカ 原田 知佳 <令和8年4月>	博士 (心理学)	データサイエンス・AI入門※		1前	0. 1	1	名城大学 人間学部 教授 (平24. 4)	
43	その他	教授	バンノ ヒデキ 坂野 秀樹 <令和8年4月>	博士 (工学)	データサイエンス・AI入門※		1前	0. 1	1	名城大学 青報工学部 教授 (平17.4)	
44	その他	教授	ヒラマツ ミネオ 平松 美根男 <令和8年4月>	工学博士	理工学概論※		1前	0.1	1	名城大学 理工学部 教授 (昭62. 4)	
45	その他	教授	プジワラ ヤスヒロ 藤原 康弘 <令和8年4月>	言語文化 学博士	データサイエンス・AI入門※		1前	0. 1	1	名城大学 大国語学部 教授 (平28.4)	
46	その他	教授	ホッタ カズヒロ 堀田 一弘 <令和8年4月>	博士 (工学)	データサイエンス・AI入門※ データサイエンス・AI応用基礎Ⅱ※		1前 2前	0. 1 0. 4	1 1	名城大学 理工学部 教授 (平22. 4)	
47	その他	教授	マエダ トモヒコ 前田 智彦 <令和8年4月>	法学修士	データサイエンス・AI入門※		1前	0.3	1	名城大学 法学部 教授 (平20.4)	
48	その他	教授	マツモト シュンタ 松本 俊太 <令和8年4月>	修士 (法学)	データサイエンス・AI入門※		1前	0.1	1	名城大学 法学部 教授 (平17. 10)	
49	その他	教授	マツモト ユキマサ 松本 幸正 <令和8年4月>	博士 (工学)	理工学概論※		1前	0. 1	1	名城大学 理工学部 教授 (平3. 4)	
50	その他	教授	4カイトシハル 向井 利春 <令和8年4月>	博士 (工学)	基礎ゼミナール I 基礎ゼミナール Ⅲ 理工学概論※		1前 1後 1前	1 1 0. 1	1 1 1	名城大学 青報工学部 教授 (平27.4)	
51	その他	教授	ムラセ ユウスケ 村瀬 勇介 <令和8年4月>	博士 (理学)	数学基礎演習 I		1前	1	1	名城大学 理工学部 教授 (平23. 4)	
52	その他	教授	ヤナギダ ヤスユキ 柳田 康幸 <令和8年4月>	博士 (工学)	理工学概論※		1前	0. 1	1	名城大学 青報工学部 教授 (平17.4)	
53	その他	教授	ヤマダ ムネオ 山田 宗男 <令和8年4月>	博士 (情報科 学)	データサイエンス・AI入門※ データサイエンス・AI応用基礎 I ※ データサイエンス・AI応用基礎 II ※		1前 1後 2前	0. 8 0. 9 0. 3	1 1 1	名城大学 青報工学部 教授 (平20.4)	
54	その他	教授	ヤマモト オサミ 山本 修身 <令和8年4月>	博士 (工学)	データサイエンス・AI入門※ データサイエンス・AI応用基礎 I ※		1前 1後	0. 3 0. 4	1 1	名城大学 青報工学部 教授 (平16.4)	
55	その他	教授	79ナベ コウイチ 渡辺 孝一 <令和8年4月>	博士 (工学)	理工学概論※		1前	0. 1	1	名城大学 理工学部 教授 (平16.4)	
56	その他	准教授	オオチ セイコ 大知 聖子 <令和8年4月>	博士 (文学)	基礎ゼミナール I 基礎ゼミナール II 中国語Ⅲ 中国語Ⅳ		1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	名城大学 理工学部 准教授 (平30.4)	
57	その他	准教授	オオツカ タカヒロ 大塚 貴弘 <令和8年4月>	博士 (工学)	理工学概論※		1前	0. 1	1	名城大学 理工学部 准教授 (平17. 4)	
58	その他	准教授	カジ シュンスケ 鍜治 俊輔 <令和8年4月>	博士 (理学)	線形代数 I 線形代数 Ⅱ	0	1前 1後	2 2	1 1	名城大学 理工学部 准教授 (平29. 4)	
59	その他	准教授	コジマ タカアキ 兒島 孝明 <令和8年4月>	博士 (農学)	データサイエンス・AI入門※		1前	0. 1	1	名城大学 農学部 准教授 (令4.4)	
60	その他	准教授	サトウ コウキ 佐藤 光樹 <令和8年4月>	博士 (理学)	線形代数 I 線形代数 Ⅱ	0	1前 1後	2 2	1 1	名城大学 理工学部 准教授 (令3.4)	

		1 1		1	T	1					
61	その他	准教授	ジンドウ サダナリ 神藤 定生 <令和8年4月>	博士 (学術)	化学実験 I 化学実験 II 化学 I 化学 I		1前 1後 1前 1後	1 1 2 2	1 1 1 1	名城大学 理工学部 准教授 (平22. 4)	
62	その他	准教授	タサキ ツヨシ 田崎 豪 <令和9年4月>	博士 (情報学)	データサイエンス・AI応用基礎Ⅱ※		2前	0.4	1	名城大学 理工学部 准教授 (平30.4)	
63	その他	准教授	タナカ キョキ 田中 清喜 <令和8年4月>	博士 (理学)	数学基礎演習 I 数学基礎演習 Ⅱ		1前 1後	1 1	1 1	名城大学 理工学部 准教授 (令5.4)	
64	その他	准教授	ニイミ ジュンイチロウ 新美 潤一郎 <令和8年4月>	博士 (経済学)	データサイエンス・AI入門※		1前	0.3	1	名城大学 経営学部 准教授 (平31. 4)	
65	その他	准教授	ハクタ ケイスケ 伯田 恵輔 <令和8年4月>	博士 (機能数 理学)	線形代数 I	0	1前	2	1	名城大学 理工学部 准教授 (令4.4)	
66	その他	准教授	ヒビノ マサキ 日比野 正樹 <令和8年4月>	博士 (数理学)	微分積分 I	0	1前	2	1	名城大学 理工学部 准教授 (平23. 4)	
67	その他	准教授	ホンダ マサキ 本田 真己 <令和8年4月>	博士 (工学)	化学基礎演習 I 化学基礎演習 II 理工学概論※		1前 1後 1前	1 1 0. 1	1 1 1	名城大学 理工学部 准教授 (平30.4)	
68	その他	准教授	ミマチ ユウコ 三町 祐子 <令和8年4月>	博士 (情報科 学)	微分積分Ⅱ データサイエンス・AI応用基礎Ⅰ※	0	1後 1後	2 0. 3	1	名城大学 理工学部 准教授 (平2.4)	
69	その他	准教授	ミヤタ キクコ 宮田 喜久子 <令和8年4月>	博士 (工学)	基礎ゼミナール I 基礎ゼミナール II		1前 1後	1 1	1 1	名城大学 理工学部 准教授 (令2.4)	
70	その他	准教授	ムトウ マサヤ 武藤 昌也 <令和8年4月>	博士 (工学)	理工学概論※		1前	0.1	1	名城大学 理工学部 准教授 (平30.4)	
71	その他	准教授	モリヴチ マイ 森口 舞 <令和8年4月>	博士 (政治学)	欧米文化論Ⅱ 国際関係論 社会科学基礎Ⅱ 社会科学基礎Ⅲ		2後 3前 1前 1後	2 2 2 2	1 1 1	名城大学 理工学部 准教授 (令2.4)	
72	その他	准教授	ヤキタ サヤカ 焼田 <i>紗</i> <令和8年4月>	博士 (経済学)	データサイエンス・AI入門※		1前	0.3	1	名城大学 経済学部 准教授 (令2.4)	
73	その他	准教授	ヤマザキ アキト 山崎 彬人 <令和8年4月>	博士 (情報科 学)	基礎ゼミナール I		1前	1	1	名城大学 理工学部 准教授 (平31.4)	
74	その他	准教授	ヨネザワ コウキ 米澤 弘毅 <令和8年4月>	博士 (情報学)	データサイエンス・AI入門※ データサイエンス・AI応用基礎Ⅱ※		1前 2前	0. 3 0. 4	1 1	名城大学 青報工学部 准教授 (令2.4)	
75	その他	講師	アイカワ ユミ 相川 由美 <令和9年4月>	修士 (文学)	英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ		2前 2後	1 1	2 2	名城大学 #常勤講師 (平26. 4)	
76	その他	講師	アキモト エツコ 秋元 悦子 <令和8年4月>	文学修士	中国語 I 中国語 II		1前 1後	1 1	1 1	名城大学 =常勤講師 (平12.4)	
77	その他	講師	アブキ ヒロアキ 阿武木 啓朗 <令和8年4月>	博士 (理学)	物理学 I 物理学 II	00	1前 1後	2 2	1 1	登知教育大 学 教育学部 教授 (平28.4)	
78	その他	講師	アブリミティ マイラー ABULIMITI MAYILA <令和9年4月>	博士 (経営情 報科学)	中国語Ⅲ 中国語Ⅳ		2前 2後	1 1	1 1	名城大学 #常勤講師 (令5.4)	
79	その他	講師	アンドウ ケンタロウ 安藤 健太郎 <令和8年4月>	修士 (健康科 学)	体育科学 I 体育科学 II		1前 1後	1 1	1 1	を知学院大 学 学生部ス ペーツ振興 室バレー ボール部 ローチ・寮 監 (平28.4)	
80	その他	講師	イケダ カズト 池田 和人 <令和10年4月>	修士 (工学)	分離精製工学	0	3後	2	1	也田和人技 行士事務所 代表 (令4.3)	
81	その他	講師	インダ アキラ 石田 明 <令和8年4月>	博士 (理学)	応用数学I	0	1前	2	1	名城大学 丰常勤講師 (平25. 4)	
82	その他	講師	イシハラ リョウへイ 石原 選平 <令和8年4月>	修士 (文学)	人文科学基礎 I 人文科学基礎 II		1前 1後	2 2	1 1	名城大学 丰常勤講師 (令3.4)	
83	その他	講師	イチハラ タカシ 市原 俊 <令和9年4月>	修士 (学術)	地学実験 Ⅱ		2後	1	1	后古屋文理 (学短期大 学部 准教授 (平26.4)	
84	その他	講師	イワセ カツノリ 岩瀬 勝則 <令和10年4月>	博士 (理学)	化学工学 流動現象学	0	3前 3後	2 2	1 1	株式会社デ ンソー マテリアル 研究部 担当課長 (令3.4)	
85	その他	講師	イワツカ サオリ 岩塚 さおり <令和8年4月>	修士 (英文 学)	英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション II		1前 1後	1 1	1 1	名城大学 	

			ウカイ アイイチロウ								
86	その他	講師	鵜飼 愛一郎 <令和10年4月>	博士 (農学)	職業指導論		3前	2	1	城大学 新勤講師 令4.4)	
87	その他	講師	ウチダ ユウスケ 内田 雄介 <令和8年4月>	博士 (医学)	体育科学 I 体育科学 II 体育科学III 体育科学IV		1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1	★福祉法 光陽会 等執行理 事 令4. 4)	
88	その他	講師	ウチヤマ アキラ 内山 明 <令和8年4月>	修士 (体育 学)	体育科学 I 体育科学 II		1前 1後	1 1	1 1	城大学 玄勤講師 ² 26. 4)	
89	その他	講師	ウッド クリストファー WOOD CHRISTOPHER <令和10年4月>	修士 (EFL)	プラクティカル・イングリッシュ I プラクティカル・イングリッシュ Ⅱ		3前 3後	1 1	2 2	ンリッツ パン(株) 語講師 ^Z 11. 4)	
90	その他	講師	オウ キウン 王 喜云 <令和8年4月>	修士(学術)	中国語 I 中国語 II		1前 1後	1 1	1 1	城大学 宮勤講師 Z17.4)	
91	その他	講師	オオバ カオリ 大羽 かおり <令和8年4月>	修士 (学術)	日本語Ⅱ 日本語V		1通 1通	2 2	1	城大学 計 12. 10)	
92	その他	講師	オオノ ハヤト 大野 波矢登 <令和9年4月>	修士 (文学)	技術者倫理	0	2後	2	1	城大学 宮勤講師 ^Z 15. 4)	
93	その他	講師	オオハシ マサコ 大橋 真砂子 <令和9年4月>	博士 (文学)	欧米文化論 I 欧米文化論 Ⅱ		2前 2後	2 2	1	城大学 宮勤講師 ^Z 12. 4)	
94	その他	講師	オカ サトミ 岡 智美 <令和8年4月>	博士 (理学)	数学基礎演習 I 数学基礎演習 Ⅱ		1前 1後	1 1	1	城大学 宮勤講師 ^Z 19. 4)	
95	その他	講師	カェイ 何 映 <令和9年4月>	修士 (学術)	中国語Ⅲ 中国語Ⅳ		2前 2後	1 1	1	城大学 育勤講師 令3.4)	
96	その他	講師	カタオカ ノリサト 片岡 紀智 <令和8年4月>	博士 (数理学)	数学基礎演習 I 数学基礎演習 Ⅱ		1前 1後	1 1	1	城大学 育勤講師 ² 20. 4)	
97	その他	講師	カトウ カツコ 加藤 佳子 <令和9年4月>	英語教育 学修士	英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ		2前 2後	1 1	1 1	城大学 育勤講師 ² 23. 4)	
98	その他	講師	かウ ナオキ 加藤 直樹 <令和8年4月>	博士 (数理科 学)	線形代数 I 線形代数 II	0	1前 1後	2 2	1 1	京大学 養教育研 究院 養教授 ⁷ -29. 4)	
99	その他	講師	がマピロシ 門間 博 <令和8年4月>	修士 (体育学)	体育科学 I 体育科学 II 体育科学III 体育科学IV		1前 1後 2前 2後	1 1 1	1 1 1 1	ロ淑徳大 学 職・司 学芸員 育セン ター É教授 ^Z 24.4)	
100	その他	講師	カワセ モトヒロ 川瀬 基弘 <令和9年4月>	博士 (工学)	地学 I 地学Ⅲ		2前 2後	2 2	1 1	ロみずほ 大学	
101	その他	講師	カワツ 2=キ 河津 邦喜 <令和8年4月>	文学修士	人文科学基礎 I 人文科学基礎 II フランス語 I フランス語 II		1前 1後 1前 1後	2 2 1 1	1 1 1	7工業大 学 常勤講師 ² 12. 4)	
102	その他	講師	カワナカ タッジ 川中 達治 <令和10年4月>	修士 (法学)	日本国憲法		3前	2	1	城大学 許勤講師 ^Z 11. 4)	
103	その他	講師	カワワキ サトミ 河脇 都美 <令和8年4月>	修士 (文学)	フランス語 I フランス語 II		1前 1後	1 1	1 1	城大学 宮勤講師 ^Z 19. 9)	
104	その他	講師	キマタ リカ 木全 梨加 <令和8年4月>	教育学士	化学実験 I 化学実験 II		1前 1後	1 1	1 1	城大学 玄勤講師 ² 26. 4)	
105	その他	講師	クメ カズョ 久米 和代 <令和8年4月>	文学修士	英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション II		1前 1後	1 1	1 1	城大学 常勤講師 ^Z 15. 4)	
106	その他	講師	サイトウ シゲル 齋藤 滋 <令和8年4月>	博士 (文学)	社会科学基礎 I 社会科学基礎 II		1前 1後	2 2	2 2	城大学 宮勤講師 Z16. 4)	
107	その他	講師	ジオミ デツヒロ 塩見 哲大 <令和8年4月>	修士 (体育学)	体育科学 I 体育科学 II		1前 1後	1 1	1 1	城大学 宮勤講師 Z17. 9)	
108	その他	講師	シゲミ シンヤ 重見 晋也 <令和9年4月>	文学修士	フランス語Ⅲ フランス語Ⅳ		2前 2後	1 1	2 2	7屋大学 阵院人文 研究科 <u>{</u> { ((((((((((((((((((
109	その他	講師	ジョセフ シキ Joseph Sichi <令和10年4月>	LANGUAGE ACQUISIT ION修士 (ENGLIS H)	プラクティカル・イングリッシュ I プラクティカル・イングリッシュ Ⅱ		3前 3後	1	2 2	城大学 官勤講師 ²²⁷ . 4)	
110	その他	講師	ジンノ マコト 神野 誠 <令和8年4月>	博士 (工学)	物理学実験 I 物理学実験 Ⅱ	0	1前 1後	1 1	1 1	城大学 計勤講師 ^Z 25. 4)	

111	その他	講師	スガヌマ アヤノ 菅沼 文乃 <令和9年4月>	博士 (人類学)	アジア文化論 I アジア文化論 I		2前 2後	2 2	1 1	南山大学 非常勤研究 員 (平29.4)	
112	その他	講師	スズキ ヤスヒロ 鈴木 康博 <令和9年4月>	修士 (体育学)	体育科学Ⅲ 体育科学Ⅳ		2前 2後	1 1	1	Life is motion 代表 (平17.4)	
113	その他	講師	セガワ ヤストモ 瀬川 泰知 <令和10年4月>	博士 (工学)	錯体化学	0	3前	2	1	自然科学研 究機構分子 科学研究所 准教授 (令2.4)	
114	その他	講師	タカダ マサヨシ 高田 正義 <令和8年4月>	体育学修士	体育科学 I 体育科学 II 体育科学Ⅲ 体育科学Ⅳ		1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	愛知学院大 学 教養部 教授 (平5.4)	
115	その他	講師	タカハシ ジュンイチロウ 髙橋 淳一郎 <令和9年4月>	博士 (スポー ツ健康科 学)	体育科学Ⅲ 体育科学Ⅳ		2前 2後	1 1	1 1	至学館大学 体育科学科 教授 (平18.4)	
116	その他	講師	タカヤマ シンヤ 高山 伸也 <令和9年4月>	修士 (体育学)	体育科学Ⅲ 体育科学Ⅳ		2前 2後	1 1	1 1	名城大学 非常勤講師 (平15. 4)	
117	その他	講師	ッジ チハル 辻 千春 <令和8年4月>	博士 (学術)	中国語 I 中国語 II		1前 1後	1 1	1 1	愛知文教大 学 教授 (平29.4)	
118	その他	講師	テラノ ヒロミ 寺野 ひろ実 <令和8年4月>	博士 (工学)	生物学 生物学実験		1後 2前	2 1	1	名城大学 非常勤講師 (平27. 4)	
119	その他	講師	ナガイ マサシ 永井 正司 <令和9年4月>	文学修士	英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ		2前 2後	1 1	1 1	名古屋工業 大学 大学院工学 研究科 教授 (平16.4)	
120	その他	講師	ナガタ エリ 永田 恵理 <令和8年4月>	修士 (体育学)	体育科学 I 体育科学 II 体育科学III 体育科学IV		1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	名城大学 非常勤講師 (平15.4)	
121	その他	講師	ナカノ タクヤ 中野 拓哉 <令和8年4月>	博士 (工学)	物理学実験 I 物理学実験 Ⅱ	0	1前 1後	1 1	1 1	名城大学 非常勤講師 (平30.4)	
122	その他	講師	ナカムラ ミツオ 中村 実生 <令和9年4月>	文学修士	ドイツ語Ⅲ ドイツ語Ⅳ		2前 2後	1 1	1 1	名城大学 非常勤講師 (平26. 4)	
123	その他	講師	ナルセ ショウ 成瀬 翔 <令和9年4月>	博士 (文学)	技術者倫理	0	2後	2	1	名古屋大学 文学部哲学 科 博士研究員 (平28.9)	
124	その他	講師	ニワ ジュンイチ 丹羽 淳一 <令和8年4月>	法学士	コンピューターリテラシー	0	1前	2	1	名城大学 非常勤講師 (平25. 4)	
125	その他	講師	ノブカワ ショウゴ 信川 省吾 <令和10年4月>	博士 (理学)	高分子工学	0	3前	2	1	名古屋工業 大学 准教授 (令2.4)	
126	その他	講師	ハギ ミエ 萩 三重 <令和8年4月>	修士 (文学)	英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション II		1前 1後	1 1	1 1	名城大学 非常勤講師 (平16. 4)	
127	その他	講師	ハットリ アッシ 服部 淳 <令和8年4月>	修士 (工学)	日本語Ⅱ 日本語Ⅲ 日本語Ⅳ		1通 1通 1通	2 2 2	1 1 1	名城大学 非常勤講師 (平8. 10)	
128	その他	講師	ハットリュキ 服部 有紀 <令和8年4月>	修士 (学術)	英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション II		1前 1後	1 1	2 2	名城大学 非常勤講師 (平29. 9)	
129	その他	講師	ハマイエ /リコ 濱家 徳子 <令和10年4月>	心理学修士	心理学		3後	2	1	小牧市立応 時中学校 スクールカ ウンセラー (平21.4)	
130	その他	講師	ハヤサカ ヒロユキ 早坂 泰行 <令和8年4月>	修士 (歴史学)	社会科学基礎 I 社会科学基礎 II		1前 1後	2 2	1 1	名城大学 非常勤講師 (平24. 4)	
131	その他	講師	ハリス リチャード HARRIS Richard <令和10年4月>	bachelor of Liberal Studies	プラクティカル・イングリッシュ I プラクティカル・イングリッシュ Ⅱ		3前 3後	1	2 2	名城大学 非常勤講師 (平4.9)	
132	その他	講師	バン ホーン ジョージ Van Horn George <令和10年4月>	修士 (Politic al Science)	プラクティカル・イングリッシュ I プラクティカル・イングリッシュ Ⅱ		3前 3後	1 1	2 2	名城大学 非常勤講師 (令2.4)	
133	その他	講師	Eビ タクヤ 日比 拓也 <令和10年4月>	修士 (法学)	日本国憲法		3前	2	2	名城大学 非常勤講師 (平19.4)	
134	その他	講師	Eラノ ウイナ 平野 初菜 <令和9年4月>	修士 (工学)	地学実験 I		2前	1	1	名城大学 非常勤講師 (令7.4)	
135	その他	講師	ヒラノ ナオミ 平野 尚美 <令和8年4月 >	修士 (英文学)	英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション II		1前 1後	1 1	1 1	名城大学 非常勤講師 (令5.4)	

			赤シ コウイフウ		人文科学基礎 I		1前	2	1	<i>₹</i> 7 1.4.1.304			
136	その他	講師	本ショウイチロウ 星 揚一郎 <令和8年4月>	文学修士	人文科学基礎Ⅱ ドイツ語Ⅲ ドイツ語Ⅳ		1後 2前 2後	2 1 1	1 1 1	名城大学 非常勤講師 (平9.4)			
137	その他	講師	マーシャル マイケル MARSHALL Michael <令和10年4月>	歴史 (MA)	プラクティカル・イングリッシュ I プラクティカル・イングリッシュ Ⅱ		3前 3後	1 1	2 2	名城大学 非常勤講師 (平9.4)			
138	その他	講師	ミツムラ ミサコ 三ツ村 美沙子 <令和10年4月>	修士 (心理学)	心理学		3後	2	1	愛知学院大 学大学院心 身科学研究 科心理学等 攻 研究員 (令5.4)			
139	その他	講師	ミドリカワ コウセイ 緑川 幸成 <令和10年4月>	文学修士	文学		3前	2	1	名城大学 非常勤講師 (平23.4)			
140	その他	講師	モトムラ タイキ 本村 耐樹 <令和9年4月>	博士 (文学)	アジア文化論 I アジア文化論 I		2前 2後	2 2	1 1	名城大学 非常勤講師 (平29.9)			
141	その他	講師	モリ /リコ 森 法子 <令和9年4月>	修士 (文学)	英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ		2前 2後	1 1	1	名城大学 非常勤講師 (平23.4)			
142	その他	講師	モリ ユウト 森 湧翔 <令和8年4月>	修士 (工学)	物理学実験 I 物理学実験 II	0	1前 1後	1 1	1	名城大学 非常勤講師 (令7.4)			
143	その他	講師	ヤスダ ミチョ 安田 倫代 <令和8年4月>	準学士 (経営)	コンピューターリテラシー	0	1前	2	2	名城大学 非常勤講師 (平25.4)			
144	その他	講師	3シザト ヒデオ 吉里 秀雄 <令和8年4月>	博士 (医学)	体育科学 I 体育科学 II		1前 1後	1 1	1 1	名 古屋工業 生命・応・科 フトルクラー エフトルクラー エファルクラー スファルクラー インター インター インター インター インター インター インター インタ			
145	その他	講師	32.6 ヒトシ 吉田 仁 <令和8年4月>	文学博士	中国語 I 中国語 II		1前 1後	1 1	1 1	名城大学 非常勤講師 (平15.4)			
146	その他	講師	ョシダ マサヒロ 吉田 雅宏 <令和10年4月>	博士 (農学)	先端技術管理	0	3後	2	1	株式会社三 和化学研究 所 知的財産部 部長 (平14.4)			
147	その他	講師	ラングリッツ久佳 <令和9年4月>	博士 (政策・ メディ ア)	英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ		2前 2後	1 1	1 1	名城大学 非常勤講師 (平14.4)			
148	その他	助教	ウエマツ テツヤ 植松 哲也 <令和8年4月>	博士 (数理科 学)	微分積分 I 微分積分 Ⅱ	00	1前 1後	2 2	1 1	名城大学 理工学部 助教 (平29.4)			
149	その他	助教	ウチムラ ヨシノリ 内村 佳典 <令和8年4月>	博士 (理学)	線形代数Ⅱ	0	1後	2	1	名城大学 理工学部 助教 (平29.4)			
150	その他	助教	エンドウ タスキ 遠藤 祐輝 <令和8年4月>	博士(医学)	体育科学 I 体育科学 II		1前 1後	1 1	1 1	名城大学 理工学部 助教 (令4.4)			
151	その他	助教	カタオカ ケイスケ 片岡 啓介 <令和8年4月>	博士 (工学)	物理学基礎演習 I 物理学基礎演習 Ⅱ		1前 1後	1 1	1	名城大学 理工学部 助教 (令7.4)			
152	その他	助教	タカヒラ ソウイチ 髙比良 宗一 <令和8年4月>	博士 (情報科 学)	基礎ゼミナール I		1前	1	1	名城大学 情報工学部 助教 (令5.4)			
153	その他	助教	/ザキ ユウスケ 野崎 佑典 <令和8年4月>	博士 (工学)	データサイエンス・AI入門※ データサイエンス・AI応用基礎Ⅱ※		1前 2前	0. 1 0. 4	1 1	名城大学 情報工学部 助教 (平31.4)			
154	その他	助教	マツモト ミキ 松本 望希 <令和8年4月>	博士 (言語コ ミュニ ケーショ ン文化)	基礎ゼミナール I 基礎ゼミナール II		1前 1後	1 1	1 1	名城大学 理工学部 助教 (令6.4)			
155	その他	助教	ヤマモト メグミ 山本 恵 <令和8年4月>	博士 (文学)	基礎ゼミナール I 基礎ゼミナール II 欧米文化論 I ドイツ語 I ドイツ語 II		1前 1後 2前 1前 1後	1 1 2 1 1	1 1 1 2 2	名城大学 理工学部 助教 (令4.4)			

1 教員の数に応じ、適宜枠を増やして記入すること。

² 私立の大学の学部又は短期大学の学科の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合又は大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合は,この書類を作成する必要はない。

² 私立の大手の子前の状況が大手の子科の状存に質に応る子別の変叉の語中を叉りようとする場合者とくは周田を刊おうとする場合又は大手寺の設置者の変叉の語中を叉りようとする場合は、この音類を下成する記奏はない。
3 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。
4 「教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況」の欄は、教育課程の編成等についての意思決定を行う会議体で所属予定の会議体がある場合、欄に「○」を記入すること。
5 「申請に係る大学等の職務に従事する週当たりの平均日数」及び「申請に係る学部等以外の組織(他の大学等に置かれる学部等を含む)での基幹教員としての勤務状況」の欄は、基幹教員のみ記載すること。
6 「申請に係る学部等以外の組織(他の大学等に置かれる学部等を含む)での基幹教員としての勤務状況」の欄は、申請に係る学部等以外の組織(他の大学等に置かれる学部等を含む)で基幹教員として勤務している場合、その大学及び学部等の名称及びそれらの 学部等での教員区分を記載すること。

					其於	数員の年齢	構成・学位	7保有坐沪		(用紙 日	本産業規格	14版主)
		ı		П	45年	7人只ップ 中間	, ITHUS TO	- N. H 1/1/1/	T	T	Г	
職	位	学	位	29 歳 以下	30~39歳	40~49歳	50 ~ 59 歳	60~64歳	65 ~ 69 歳	70歳以上	合 計	備考
		博	士	人	人	1人	1人	4人	3人	人	9人	
		修	士	人	人	人	人	人	人	人	人	
教	授	学	\pm	人	人	人	人	人	人	人	人	
		短 期 学	大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
		その	他	人	人	人	人	人	人	人	人	
		博	士	人	人	4人	4人	1人	人	人	9人	
		修	士	人	人	人	人	人	人	人	人	
准	教 授	学	士	人	人	人	人	人	人	人	人	
		短 期 学	大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
		その	他	人	人	人	人	人	人	人	人	
		博	士	人	人	人	人	人	人	人	人	
		修	士	人	人	人	人	人	人	人	人	
講	師	学	士	人	人	人	人	人	人	人	人	
		短 期 学	大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
		その	他	人	人	人	人	人	人	人	人	
		博	士	人	1人	人	人	人	人	人	1人	
		修	±	人	人	人	人	人	人	人	人	
助	教	学	士	人	人	人	人	人	人	人	人	
		短期学	大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
		その	他	人	人	人	人	人	人	人	人	
		博	士	人	1人	5人	5人	5人	3人	人	19人	
		修	士	人	人	人	人	人	人	人	人	
合	計	学	±	人	人	人	人	人	人	人	人	
		短 期 学	大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
(注)		その	他	人	人	人	人	人	人	人	人	

- (注)
 1 この書類は、申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
 2 この書類は、基幹教員についてのみ作成すること。
 3 この書類は、基幹教員についてのみ作成すること。
 4 「基幹教員の年齢権成・学位保有状況」欄の「基幹教員」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合、「専任教員」と読み替えること。
 5 専門職大学院若しくは専門職大学の前期課程を修了した者又は専門職大学又は専門職短期大学を卒業した者に対し授与された学位については、「その他」の欄にその数を記載し、「備考」の欄に、具体的な学位名称を付記すること。